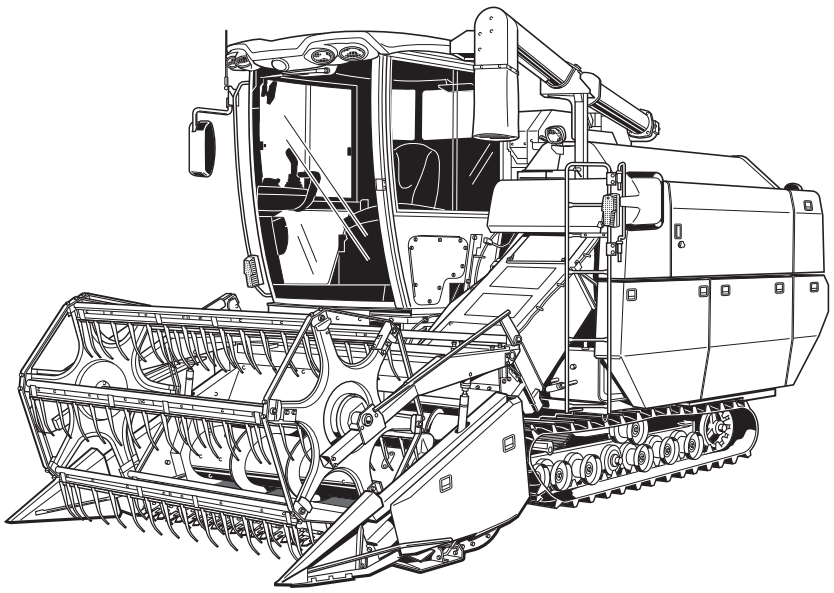
クボタ 普通形 コンバイン

取扱説明書

エアロスター ワールド

WRH1000C



1ASAEAAAP3550

OPERATOR'S MANUAL

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ホーン

エンジン回転数**［低回転］**

エンジン回転数**［高回転］**

ウインカランプ

 ヘッドランプ

ヘッドランプと作業灯

再生禁止

駐車再生

再生状態

駐車ブレーキ

燃料

エンジン油圧

バッテリ充電

専門用語の説明

• **パワーステアリングレバー**	機体の操向操作と刈取部の昇降を行なうレバー
• **ブレーキターン**	左右どちらかのクローラを停止させて方向を変える旋回
• **ソフトターン**	左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
• **ソリセンサ**	異なるうねの高さに対して平行状態に修正・保持するためのセンサ
• **ドレーン（プラグ）**	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
• **刈取オートクラッチ**	刈取部を一定の高さまで上昇・下降させたとき，自動的に刈取搬送部を停止・作動させる装置
• HST	油圧式の無段変速装置
• **主変速レバー**	**［前進］［後進］**の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
• **リール**	回転して作物を引起こす刈取部の六角形状の部分
• **タイン**	リールに取付けられている黒い樹脂の爪
• **オーガドラム**	回転すると作物をフィーダ入口へ寄せる**ラセン**の付いている円筒の部分
• **フィンガ**	オーガのフィーダ入口にあるかき込み棒
• **デバイダ**	刈取部の左右の最前部にある作物を条分けする部分
• **フィーダ**	作物をオーガから脱こく部へ搬送する部分
• **ヘッドロス**	刈取部で損失するこく粒
• **1 番バケットコンベア**	グレンタンクまで縦搬送するバケットカップ付コンベア
• **2 番スクリュ**	1 番スクリュ部へ選別されなかった作物・こく粒を再度選別部へ搬送する横搬送の部分
• **チャフシーブ**	コンケーブから搬送されたこく粒と排かんくずを選別する桟状の板
• **グレンシーブ**	こく粒を精選するあみ
• **トウミ**	選別風を発生させるファン
• **ササリロス**	こく粒損失で，排かんの中にささっている単粒
• **こぎ残し**	こく粒損失で莢（さや）の中に残っているこく粒
• **こぎ室送じん弁調節レバー**	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
• **こぎ胴**	脱こくするところ
• **シーブケース**	揺動運動してこく粒を選別する装置
• **アンローダ**	グレンタンクからこく粒を排出する筒
• VR（ボリューム）	ダイヤルなどを操作したときの大きさ，強さなどを示す

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦及び大豆・そばの刈取り･収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は**［WRH1000C 2.1 仕様］**を基本とし，**［WRH1000C 2.1 仕様］**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

【例】　WRH1000C 2.1
①　②　③

①エンジン出力（PS）.....［101］

②C..... COMFORT

③刈幅によって
・約 2.1m.....［2.1 仕様］
・約 2.6m.....［2.6W 仕様］

※諸装置の仕様
（別表参照）

諸装置	
自動化装置	自動アクセル制御
	自動刈高さ制御
	刈取対地平行自動刈高さ制御
	自動リール回転制御
	刈取りオートクラッチ［刈取部上昇時搬送駆動停止機能］
	自動車体水平制御
	自動脱こく制御（チャフ制御）
	アンローダ自動旋回制御
	エンジン正逆流ファン制御
刈取りバックリフト［後進時刈取部上昇機能］	
ポジピタ［刈取部ワンタッチ昇降機能］	
リール上下・前後スイッチ	
パワークラッチ［脱こく・刈取・こく粒排出］	
排じん弁開度調節	
アンローダリモコン	
キャビン	
バックモニタ	
ディーゼル微粒子除去装置（DPF）	

目　次

⚠安全に作業するために

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください **1**
安全作業するための表示ラベル **25**
表示ラベルの内容・貼付位置 25
表示ラベルの手入れ **37**
表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る 37

サービスと保証について

装置の名称と取扱い

機体方向説明 **3**
装置の名称と各部のはたらき **4**
メインスイッチ 8
アクセルダイヤル 8
主変速レバー・副変速レバー 8
ブレーキペダル（駐車ブレーキ） 9
パワーステアリングレバー 9
旋回切換えレバー 10
運転席（シート） 11
ドリンクホルダ 11
刈取下降ロック金具 12
刈取・リール下降ロックスイッチ 12
脱こく・刈取クラッチレバー 13
ポジピタスイッチ 13
刈刃クラッチレバー 14
刈取逆転クラッチレバー 14
リール上下調整スイッチ・リール前後調整スイッチ・リール回転速度調整スイッチ . 14
トウミ調節レバー 15
後チャフ調節レバー 16
こぎ室送じん弁調節レバー 17
もみ排出スイッチ 17
ファインビューメータ 18
無線ユニット 22
コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ 22
DC 電源ソケット 24
自動化装置の名称とはたらき **24**
自動アクセル制御装置 25
自動車体水平制御装置（モンロー） 26
水平操作手動スイッチ 27
自動リール回転制御装置 28
対地平行自動刈高さ制御装置（ロイヤルモンロー）・自動刈高さ制御装置 29
刈取オートクラッチ 31
自動脱こく制御（チャフ制御）装置 31
アンローダ自動旋回制御装置 33
アンローダ手動スイッチ 34
DPF 装置（ディーゼル微粒子除去装置）のはたらきと取扱い **35**
DPF スイッチパネル 36
DPF 再生処理について 37
キャビン装置の名称とはたらき **39**
各装置の取扱い **40**
ドアの開閉，ロックのしかた 40
各ウインドの開閉のしかた 41
ワイパの使いかた 42
作業灯スイッチ 43
ルームランプの使いかた 43
エアコンの取扱い **44**
コントロールパネル 44
内外気切換えスイッチ 45
エアコン操作のしかた 46
バックモニタの取扱い **46**
バックモニタについて 47
液晶パネルについて 48
CCD カメラの取扱いについて 49
バックモニタの操作 **50**
バックモニタの各部の名称とはたらき 50
バックモニタの機能説明 51
バックモニタが故障かな？と思ったら 53
バックモニタの取扱い上の注意 54
バックモニタのお問合わせ 54
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い **55**
電源の入／切 55
音量調整 55
リリースボタン 55
音質調整 56
重低音の増強 56
時計表示への切換え 57
時刻合わせ 57
左右スピーカの音量バランス調整 58
スクリーンセーバーの設定 58
ラジオの選択 59
受信バンドの選択 59
クイック選局（ISR 機能） 59
プリセット選局 60
メモリ登録（自動選局） 60
メモリ登録（手動選局） 60
メモリ登録の確認 60
自動選局 60
手動選局 60
CD の挿入と再生 61
CD の取出し 61
演奏の一時停止 61
次の曲／前の曲の選択 62
早送り／早戻し 62
トップ機能 62
曲を探す（スキャン演奏） 62
曲を繰り返し聴く（リピート演奏） 62
ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏） 62
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤが故障かな？と思われたら 63

目　次

AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのエラー表示について 63
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い上の注意 64
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのお問合わせ 64

運転のしかた

運転前の点検 65
日常点検項目 66
新車時の扱いかた 68
ならし運転について 68
エンジンの始動と停止のしかた 68
始動のしかた 69
暖機運転について 71
燃料切れ後の再始動のしかた 71
バッテリが上がったときの始動のしかた .. 72
停止のしかた 72
移動走行について 73
移動走行前の準備 74
発進のしかた 76
旋回のしかた 79
停車・駐車のしかた 80
移動走行について 80
輸送について 81
トラックとあゆみ板の準備 81
トラックへ積込み時のコンバインの準備 .. 81
コンバインの積込み・積降しのしかた 81
トラック上での処置 83

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件 84
作物の条件 84
ほ場の条件 86
ほ場の準備 87
ほ場の準備 87
コンバインの準備 87
コンバインの準備のしかた 87
刈取作業のしかた 93
ほ場の出入りのしかた 93
刈取作業の手順 94
ほ場の刈りかたと旋回のしかた 98
デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた .. 99
刈高さの合わせかた 101
リール高さの合わせかた 102
リール前後の合わせかた 103
こく粒の排出のしかた 105
手刈り（枕刈り）作物の投げ込み脱こくのしかた 109
作業や作物に合わせた各部の調節・調整・交換のしかた 111
デバイダの上下調整 111
リールタインの角度調整 112
自動リール回転制御の調整・調節 113
フィーダドラムの上下調節..... 114
こぎ室送じん弁調節レバーの調節..... 116
トウミ調節レバー・トウミ調整プレートの調節・調整..... 117
自動脱こく制御（チャフ制御）の調節... 119
後チャフ調節レバーの調節..... 119
シーブケース補助プレートの前後調整，グレンシーブ後の交換..... 120
排出調整板の調整..... 122
排じん調整板の調整..... 124
マルチナビによる異常と処置..... 125
マルチナビによる故障と処置..... 128

メンテナンス

各部の開閉と脱着のしかた 131
防じんカバーの開閉と脱着..... 131
運転席下カバー及びステップゴムカバーの脱着..... 132
リールサイドカバー・刈取左，右サイドカバーの脱着..... 133
刈取右サイド後部カバーの脱着..... 133
フィーダ右サイドカバーの脱着..... 134
フィーダ上部掃除口カバー 1，2 の脱着.. 135
ソリセンサ固定金具の脱着..... 135
刈取部の脱着..... 136
脱こく左サイドカバー 1，2，3・排じんサイドカバー上，下の脱着..... 139
脱こく前カバーの脱着..... 140
こぎ胴サイドカバーの開閉..... 141
グレンタンク後カバーの開閉..... 141
こぎ胴上部カバーの開閉..... 142
受けあみの脱着..... 144
グレンタンク下カバーの脱着..... 145
グレンタンクの開閉..... 145
チョッパ部の開閉..... 147
シーブケースの脱着..... 149
各部の掃除と注油のしかた 154
各部の掃除..... 155
各部の注油..... 166
定期点検 168
オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整..... 168
廃棄物の処理について..... 169
洗車時の注意..... 169
使用者が行なってはいけない修理..... 169
定期点検一覧表..... 170
給･注油（水）点検一覧表..... 174
燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換. 176
燃料の補給..... 176
エンジンオイルの点検・補給・交換..... 177
トランスミッションケースオイルの点検・補給・交換..... 179
刈刃駆動ケースオイルの補給・交換..... 180
油圧オイルタンクオイルの点検・補給・交換 181

目　次

HST 入力フランジオイルの補給・交換.... 182
脱こくギヤケースオイルの点検・補給・交換 182
各部のグリースの塗布・補給 183
ラジエータ冷却水の点検･補給･交換 188
ウオッシャ液の補給 190
プレクリーナの点検・掃除 191
エアクリーナの点検･掃除･交換 191
パイプ･ホース類の点検 193
防じんあみ，各フィンの掃除 195
油水分離器（セパレータ）の点検・排水・掃除 196
燃料フィルタカートリッジの交換 197
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 198
HST オイルフィルタカートリッジの交換，油圧オイルタンクフィルタの洗浄・交換 199
各部ワイヤ・ロッドの点検・調整 200
駐車ブレーキロッドの点検・調整 201
刈取クラッチワイヤの点検・調整 201
脱こくクラッチワイヤの点検・調整 201
各部ベルトの点検･調整 202
ファン駆動ベルトの点検・調整 206
ミッション駆動ベルトの点検・調整 206
脱こく駆動ベルトの点検・調整 207
脱こく入力駆動ベルトの点検・調整 208
コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整 ... 208
フィーダ逆転駆動ベルトの点検 209
刈刃駆動ベルトの点検・調整 210
リール変速ベルトの点検・調整 210
刈取駆動ベルトの点検・調整 211
こぎ胴駆動ベルトの点検・調整 212
1 番・2 番・カウンタ駆動ベルトの点検・調整 212
トウミ駆動ベルトの点検・調整 213
揺動駆動ベルトの点検・調整 213
1 番バケット上部スクリュ駆動ベルトの点検・調整 214
チョッパ駆動ベルトの点検・調整 215
タンクスクリュ駆動ベルトの点検・調整 . 215
各部チェーンの点検･調整 217
オーガドラム駆動チェーンの点検・調整 . 218
リール入力チェーンの点検・調整 219
リールカウンタチェーンの点検・調整 ... 219
リール駆動チェーンの点検 219
刈取駆動チェーンの点検・調整 220
フィーダ搬送チェーンの点検・調整 220
１番バケットコンベア搬送チェーンの点検・調整 222
アンローダ縦スクリュ駆動チェーンの点検・調整 223
刈刃の点検 224
オーガドラム・かき込みフィンガ軸・かき込みフィンガガイドの点検・調整・交換 225
受けあみの組換え・交換 227
こぎ歯の点検，こぎ歯バーの点検・組換え・交換..... 228
チョッパ受刃・切断刃の点検・組換え・交換 230
キャビン内気，外気フィルタの掃除・交換232
冷媒（ガス）量の点検..... 234
吐出口ブーツの点検・交換..... 234
バッテリの点検･交換..... 235
電気の各配線コード，各ヒューズの点検･交換 239
ランプ（電球）の点検･交換，ホーンスイッチの点検..... 242
反射器の点検･交換..... 242
クローラの点検･調整..... 243
トラッククローラ（転輪）の点検..... 244
ドライブローラの点検・左右入換え・交換245
刈取作業後の手入れ 246
毎日の作業後..... 246
長期格納時..... 246

コンバインの不調と処置

コンバインの不調と処置 249
刈取部に作物が詰まる 253
刈取逆転クラッチレバーの使いかた..... 253
こく粒が詰まる・大豆の割れやキズが発生する..... 254
アンローダからこく粒が排出されないとき254
大豆の割れやキズの発生や詰まりが多い. 254
その他 256
けん引フックについて..... 256

付表

主要諸元 257
付属部品 259
オプション（別売品）（純正品を使いましょう）..... 259
大豆・そば用キット..... 259
小豆用キット..... 259
金時キット..... 259
アームレスト（ひじ置き)..... 259
2.1m リール用ツインカッタ 259
2.6m リール用ツインカッタ 260
リール回転数高速キット..... 260
クリーンファン..... 260
無線アンローダリモコン..... 260
延長アンローダ..... 260
排じんカバー..... 260
消耗部品（純正品を使いましょう）.... 260
クボタ純オイル 271
オイルはクボタ純オイルをお使いください。 271
クボタ純グリース..... 271

目　次

索引

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

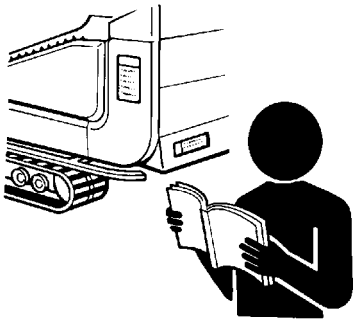
安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

◆ 一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠ 表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。

[守らないと]
死亡又は傷害を負うおそれがあります


1BBAAAAAP0280

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

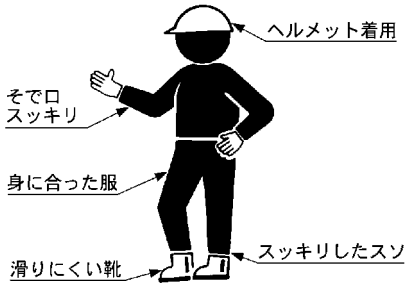
- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行なわないでください。
  - **・お酒を飲んんでいる方**　**・睡眠不足の方**
  - **・妊娠中のご婦人**　**・過労，病気の方**
  - **・16 歳未満の方**

[守らないと]
思わぬ事故の原因になります。

1ARAEABAP0420

⚠作業時には運転者，補助者とも作業に適した服ならびにヘルメット，滑りにくい靴を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。
- 必要に応じて安全靴，保護メガネや手袋などを着用する。
- 点検整備には帽子と安全な服装を着用する。
  作業内容によってはヘルメット，安全靴，保護メガネ，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用する。
  各保護具は使用前に機能を確認する。

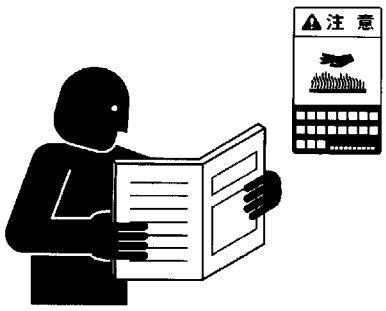


1ARAEABAP0450

[守らないと]
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。

⚠取扱説明書及び⚠ 表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

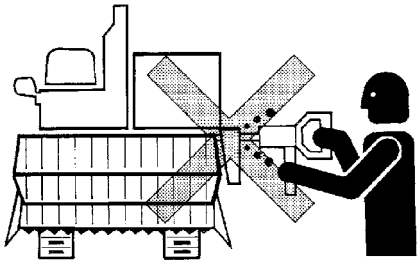
- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。



1ARAEABAP0100

[守らないと]
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

⚠機械を改造しない。


1ASAAAAAP1550

[守らないと]
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。

⚠運転席に乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしない。

1ASADAGAP3720

- 平坦な場所でハンドルをしっかり握り，すべらないようにステップに足をしっかり掛けて乗り降りする。

[守らないと]
転倒・転落し，傷害を負うおそれがあります。

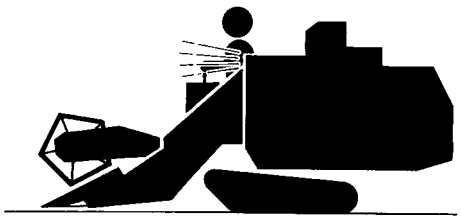
⚠運転者以外は機械に乗らない。

1ASADACAP1090

- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

[守らないと]
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

⚠夜間の作業や移動走行は避ける。


1ASAAAAAP1080

- やむをえず夜間作業を行なうときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは，必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯させる。

[守らないと]
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

◆ 作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

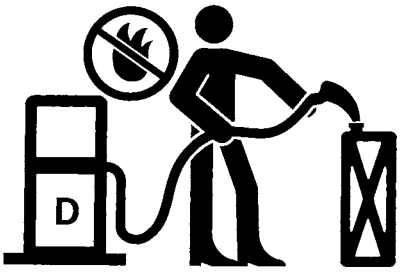
[守らないと]
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。

1ARAEAAAP0560

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

[守らないと]
火災の原因になります。



1ARAEABAP0020

⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

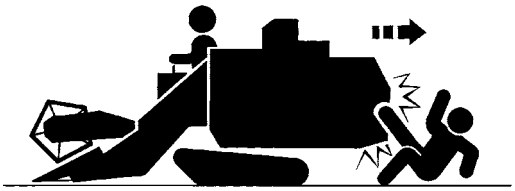
- **エンジンを始動するときは，運転席に座って， 主変速レバーを［停止］位置，副変速レバーを［N］（中立）以外の位置，旋回切換えレバーを［ブレーキ］／［ソフト］のいずれかの位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にして，ホーンを鳴らすなどの合図をする。**
- **機械を発進するときや脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。**

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ASAAAAAP4460

■ 初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。

[守らないと]
思わぬ事故の原因となります。


1ASAAAAAP4470

⚠作業前点検（日常点検）を実施する。

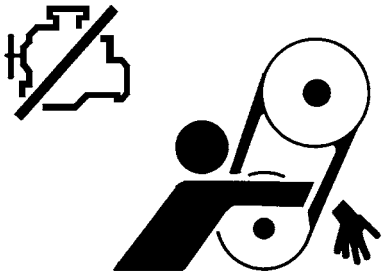
■ 運転の前には点検項目（66 ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP0810

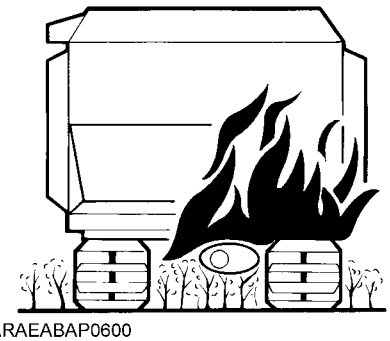
■ 点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
■ 取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

[守らないと]
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。


1ASADACAP4900

■ マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっている排かんくずはきれいに取除く。

[守らないと]
火災の原因になります。


1ARAEABAP0600

■ 点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

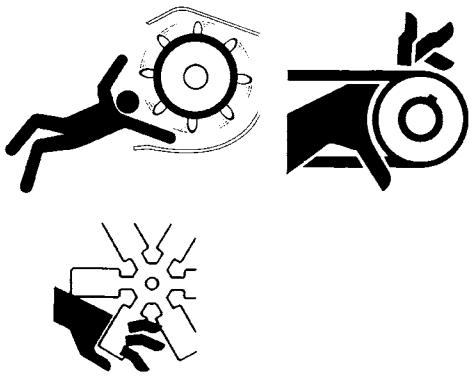
[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ASAAAAAP4460

⚠防じんカバー，こぎ胴サイドカバー，脱こく上部カバー，チョッパ，グレンタンクを開閉するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- 各部の開閉を行なうときは平坦な場所で行なう。
- こぎ胴サイドカバー，グレンタンク後部カバー，チョッパ，グレンタンクを開いたときは，ストッパを掛ける。
- 各部を開いたままエンジンを始動しない。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

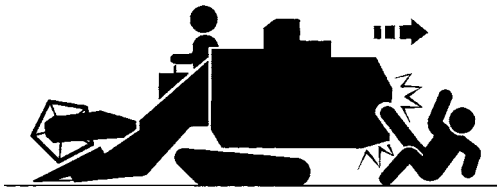


1ASADACAP7180

⚠後進するときは，バックモニタの液晶パネル画像だけを見ながらの運転操作はしない。

- 後進するときは，機械の周りに人や障害物などがないか，バックミラーや目視でも必ず後方の確認しながらゆっくりと運転操作を行なう。
- 夜間は視界が悪いため運転操作を行なうときは，特に機械の周りに人や障害物などがないか確認しながらゆっくりと運転操作を行なう。
- CCD カメラからバックモニタに写しだされる画像（広角映像）に慣れるまではゆっくりと慎重に運転操作を行なう。

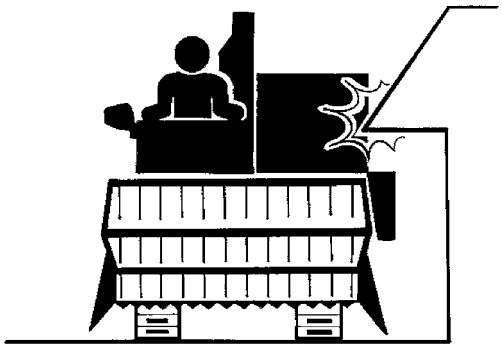
[守らないと]
接触したり，ひかれたりして死亡又は，重大な傷害を負うおそれがあります。



1ASAAAAAP4470

◆ 移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

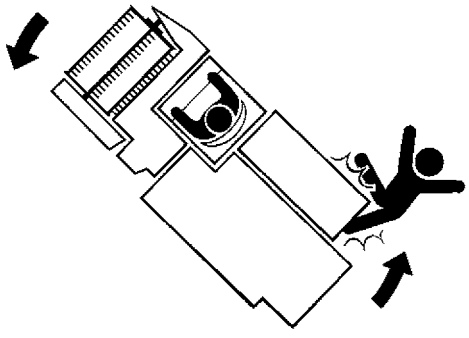
⚠移動走行するときは，次の事項を守る。


1ASAAAAAP4500

- 法令により公道は走行できないため，公道を移動するときはトラック輸送する。
- 各作業クラッチ（脱こく・刈取，もみ排出）を**［切］**位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- こく粒はすべて排出する。
- 副変速レバーを切換えるときは，平坦な場所で主変速レバーを**［停止］**位置にし，走行をいったん止めてから行なう。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダカバーを取付ける。
- 左分草かんを収納して，機体幅を狭くする。
- 刈取部を視界の妨げにならない程度まで上げる。
- アンローダはアンローダ受けに収納する。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 車体旋回切換えレバーを，**［ソフトターン］**位置に入れる。

［守らないと］
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠高速走行時は急旋回をしない。

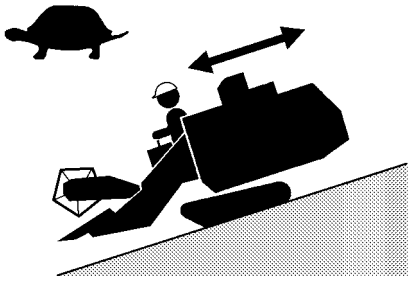

1ASAAAAAP4510

- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），パワーステアリングレバーをゆっくり倒して旋回する。

［守らないと］
機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

⚠右又は，左方向の傾きがある傾斜地は走行しない。

- 坂道（傾斜地）やほ場の進入路では，上り又は，下り方向に低速でゆっくりと走行する。
- 坂道（傾斜地）では，右又は，左に傾いた方向に走行しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回をしない。

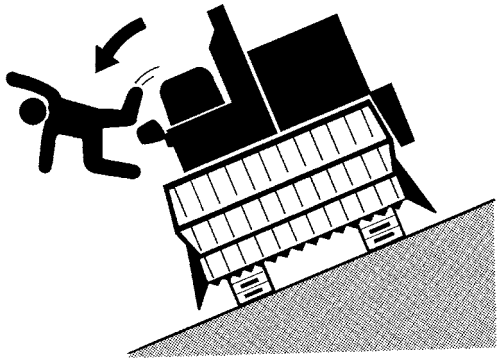

1ASAAAHAP365B

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

1ASAAAHAP366B

⚠坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

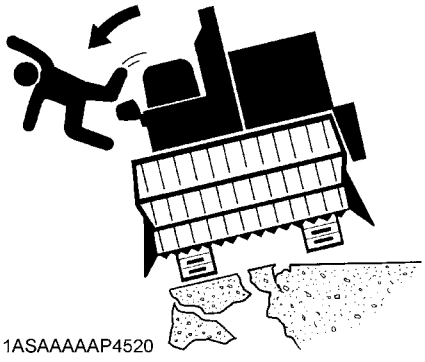
- こく粒はすべて排出する。
- 坂道（傾斜地）では，急なパワーステアリングレバーの操作や副変速レバー，ポジピタスイッチ，ブレーキペダル，水平操作手動スイッチ ，傾斜角手動調節スイッチ，旋回切換えレバー，アンローダリモコンの操作はしない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。


1ASAAAAAP4530

[守らないと]
暴走したり，転倒するおそれがあります。

⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。


1ASAAAAAP4520

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。

⚠ほ場の出入りで，あぜなど段差のあるところではあゆみ板を使う。

- 10cm 以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- グレンタンク内のこく粒はすべて排出する。

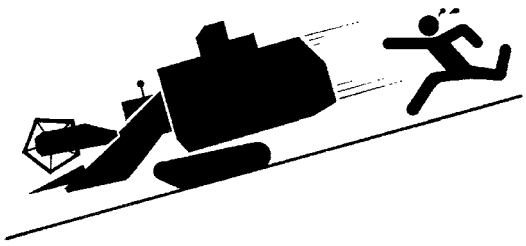
［守らないと］
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

1ASADACAP1070

⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平坦な場所に止め，副変速レバーを［標準］又は［低速］位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。

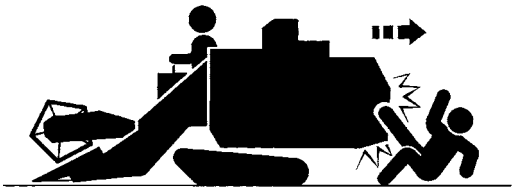
［守らないと］
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。


1ASAAAAAP1560

◆ 作業時の注意事項

⚠共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。

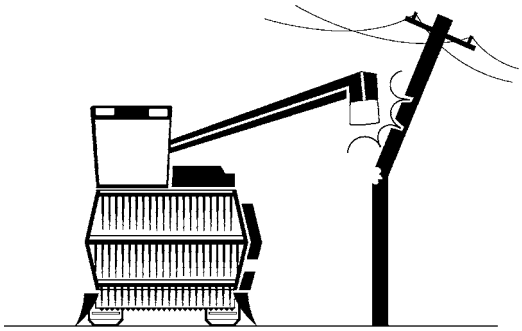
- エンジン始動時，及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは，ホーンなどで合図し，必ず補助者の OK をもらう。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させる。


1ASAAAAAP4470

[守らないと]
補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠アンローダを動かすときは，旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。

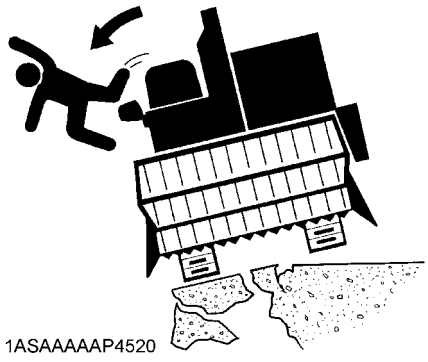
- 旋回範囲に人がいたり，障害物があるときは，アンローダを動かさない。
- アンローダは，アンローダ支えに収納した状態で作業を行なう。


1ASADACAP1060

[守らないと]
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。

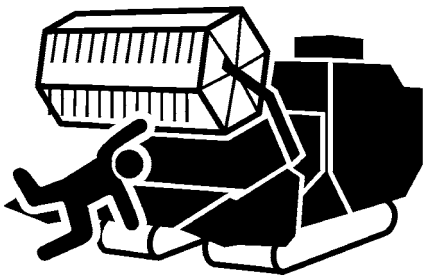
[守らないと]
後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。


1ASAAAAAP4520

⚠投げ込み脱こくするときは，必ずコンバインの刈取部から少し離れて，作物を少量ずつ供給する。

- 機械は平坦な場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の真正面には立たない。
- 運転席に共同作業者が座り，エンジンをすぐ切れる準備をしておく。
- 刈取部及びリールを最上昇位置にし，刈取下降ロックスイッチを**［ロック］**位置にして，リールクラッチレバー，刈刃クラッチレバーを必ず**［切］**位置にし，作物を少しずつ投げ入れる。
- 刈取オートクラッチを**［切］**にする。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。

1ASADACAP046A



1ASAEAAAP353A

［守らないと］
リールに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- かんの巻付きや詰まりを取除くときや，こく粒の点検・掃除をするときは，各作業クラッチ（脱こく・刈取・もみ排出）を**［切］**位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- こぎ胴やチョッパに詰まったかんなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。

1AEABAAAP0110

［守らないと］
チョッパの刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー，及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。

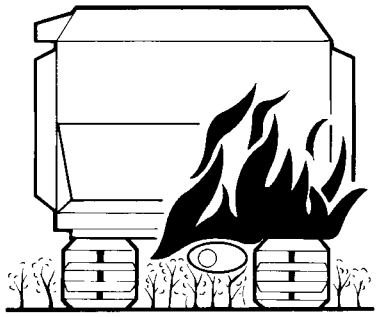
1AEABAAAP0110

［守らないと］
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

◆ 作業後・格納時の注意事項

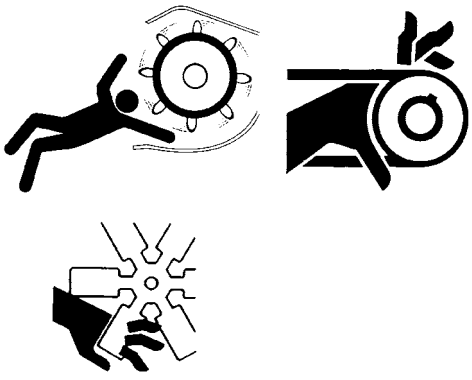
⚠排かんくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

[守らないと]
排かんくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

⚠点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

[守らないと]
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ASADACAP7180

⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

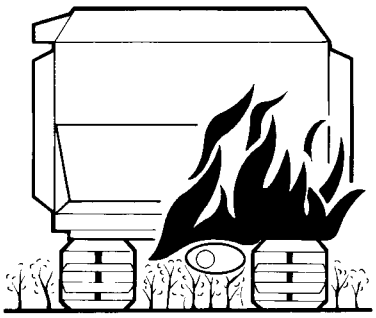
- エンジン本体，マフラ，排気管は，エンジン停止直後は触れない。

[守らないと]
やけどを負うおそれがあります。

1BJABAAAP0100

⚠エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内配線部，バッテリ周辺の排かんくずを点検し，きれいに取除く。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。

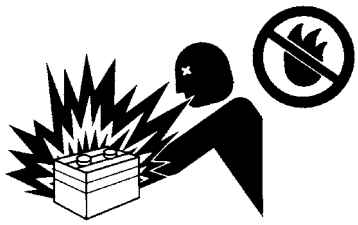

1ARAEABAP0600

⚠掃除するときは，刈刃の刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルをショートさせない。

[守らないと]
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。


1ARAEABAP0110

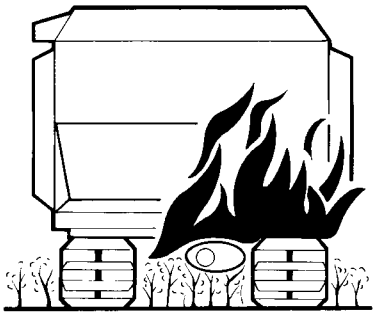
⚠ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

[守らないと]
ショートによる火災発生のおそれがあります。

1BJABAAAP0070

⚠機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

◆ 点検整備時の注意事項

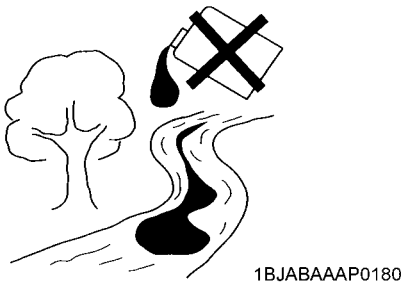
⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP0810

⚠廃棄物をみだりに捨てたり，焼却しない。

- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受ける。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしない。
- 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理する。


1BJABAAAP0180

[守らないと]
環境汚染につながります。

⚠DPF 再生処理中は，マフラ・排気ガスが高温になるため，DPF 再生処理を行なうときは，次の事項を守る。(DPF：ディーゼル微粒子除去装置，Diesel Particulate Filter)

- DPF 再生処理中はコンバインから離れない。
- 納屋や倉庫など換気の悪い場所では再生処理を行なわない。
- DPF 再生処理中はマフラに人，物などを近付けない。
- マフラの周囲は可燃物を取除く。

1ARAEAAAP0560

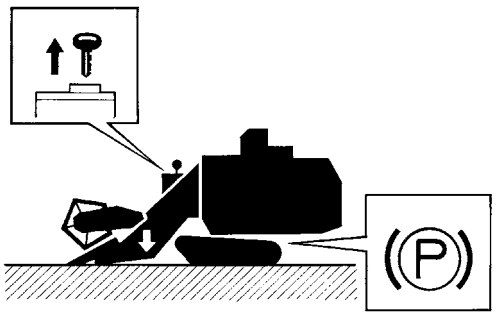
[守らないと]
- **中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。**
- **やけどを負うおそれがあります。**
- **火災が発生するおそれがあります。**

1AKADACAP1390

1ARAEAAAP0410

⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平坦な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜き，各クラッチレバーを［切］位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

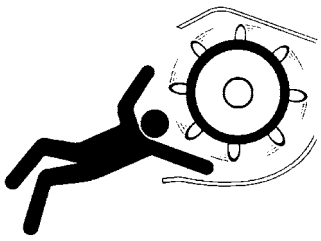
[守らないと]
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

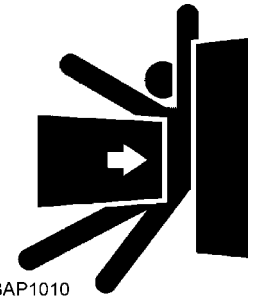


1ASAAAAAP1580

⚠こぎ胴サイドカバー，グレンタンク後部カバー，チョッパ，グレンタンクを開いたときは，ストッパで固定する。

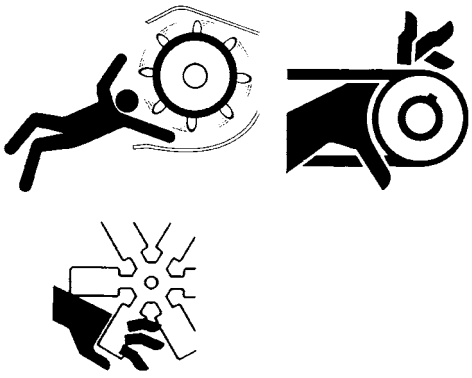
[守らないと]
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。


1AVAAAAAP0240


1ARAEABAP1010

⚠防じんカバー，こぎ胴サイドカバー，脱こく上部カバー，チョッパ，グレンタンクを開いたままエンジンを回さない。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ASADACAP7180

⚠シーブケースなど重量物の脱着作業は３人以上で行なう。

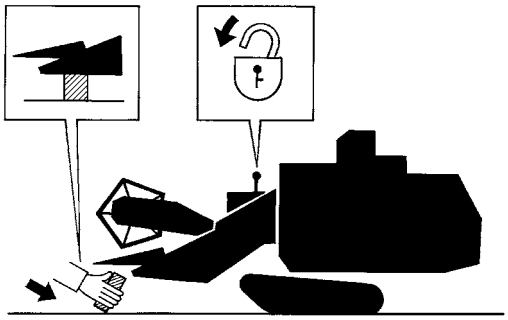
[守らないと]
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。

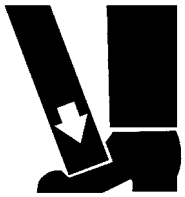
1ARAEABAP0910

⚠刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。

[守らないと]
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。


1ASAAAAAP4560


1ARAEABAP0910

⚠刈刃やチョッパの切断刃・受刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。

⚠取外したカバー類は，必ず取付ける。

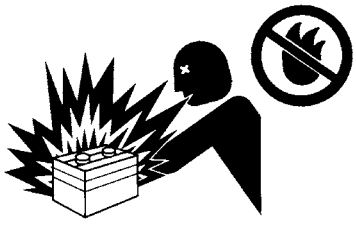
[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1AEABAAAP0110

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス（−）側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付ける。

[守らないと]
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。


1ARAEABAP0110

⚠バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。[補水タイプ]

- バッテリ液が不足していれば，すぐに **UPPER LEVEL（上限）**と **LOWER LEVEL（下限）**の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

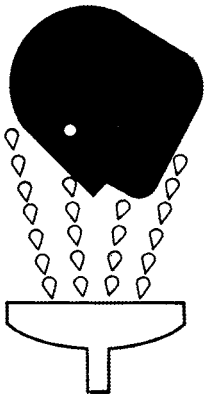
[守らないと]
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，爆発の原因となることがあります。

1ARAEABAP0130

⚠バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗う。

[守らないと]
失明やヤケドのおそれがあります。

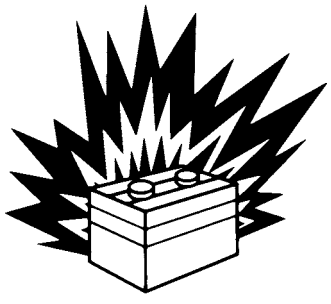


1ARAEABAP0140

⚠指定外のバッテリは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。

[守らないと]
思わぬ事故が発生するおそれがあります。



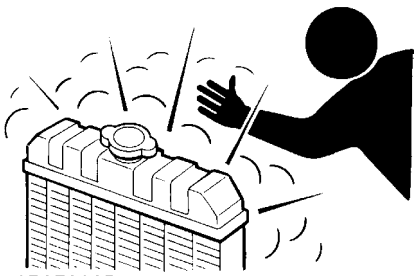
1ARAEABAP0120

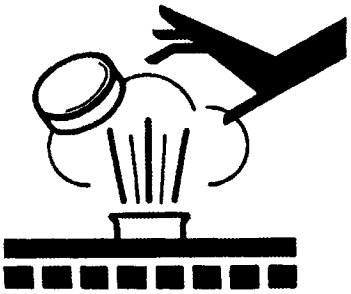
1ARAEABAP0620

⚠ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

- エンジン停止後，３０分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。

[守らないと]
熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。

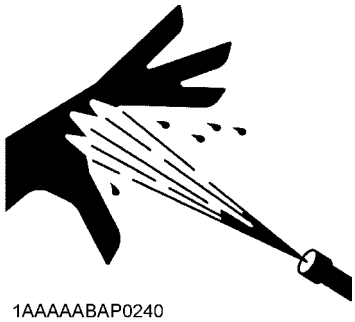

1ARAEAAAP0430

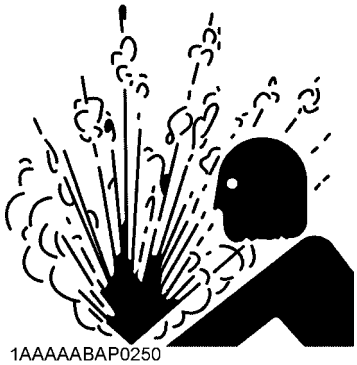

1ARAEABAP0160

⚠燃料ホース，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

[守らないと]
燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。


1AAAAABAP0240

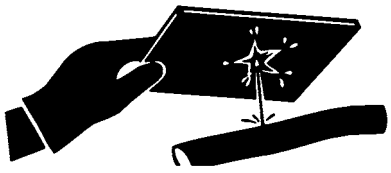

1AAAAABAP0250

⚠燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。

[守らないと]
油が皮ふに侵入して，強度のアレルギーや感染症を引起す可能性があります。

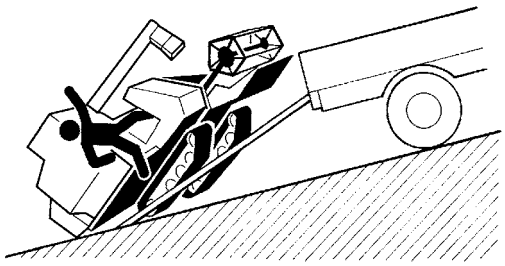
1BAACAAAP010A


1ARAEABAP0060

◆ 運搬時の注意事項

⚠トラックへの積込み・積降ろしは平坦地で行なう。

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの変速レバーを **R（後進）**又は，**1 速**に入れてさらにタイヤに車止めを行ない，車が動かないようにしっかりと固定する。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。

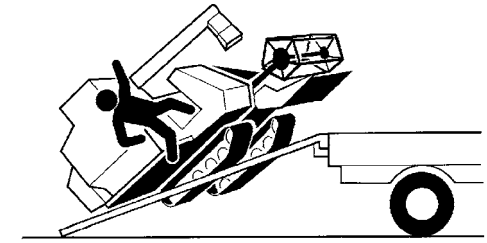

1ASAAAIAP238B

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降ろしには基準に合ったあゆみ板を使う。

- あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の重さの４倍以上
幅	65cm 以上
数　量	２枚
強　度	１枚が 4000kg 以上に耐えうる


1ASAAAIAP237C

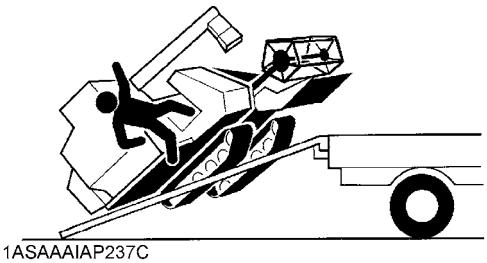
- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降ろし前に，こく粒はすべて排出する。

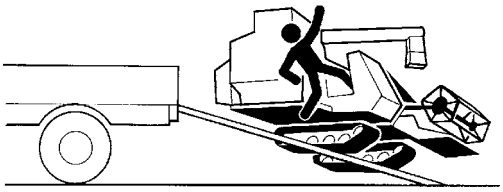
- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納する。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。


1ASAAAIAP237C

⚠ トラックへの積込み・積降ろしは最低速で行なう。

- 各作業クラッチ（脱こく・刈取，もみ排出）を**［切］**位置にする。
- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。ただし，刈取部を取外している場合は後進で積込み，前進で積降しを行なう。

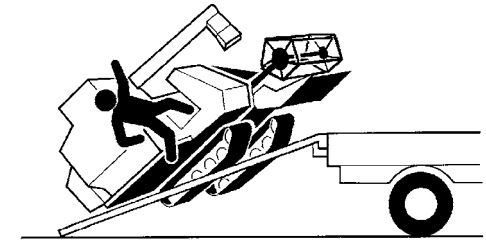


1ASAAAIAP239B

［守らないと］
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠ あゆみ板の上では方向修正しない。

- あゆみ板の上では，急なパワーステアリングレバーの操作や副変速レバー，ポジピタスイッチ，ブレーキペダル，水平操作手動スイッチ，傾斜角手動調節スイッチ，旋回切換えレバー，アンローダリモコンの操作はしない。
- 方向を変えるときは，いったん地上，又は荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。

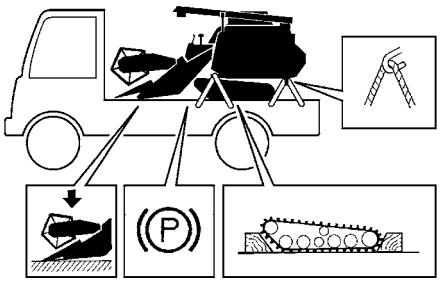


1ASAAAIAP237C

［守らないと］
急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

⚠ トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。

- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 副変速レバーを**［標準］**位置又は**［低速］**位置にする。
- 所定の**［ロープ掛けフック（４箇所）］**にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

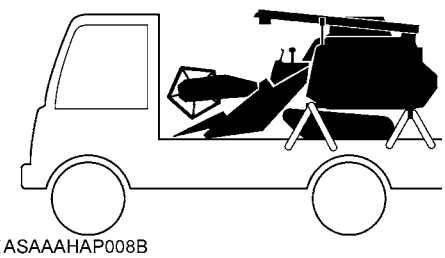


1ASAAAHAP007C

［守らないと］
機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

[守らないと]
輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。


1ASAAAHAP008B

◆ その他の注意事項

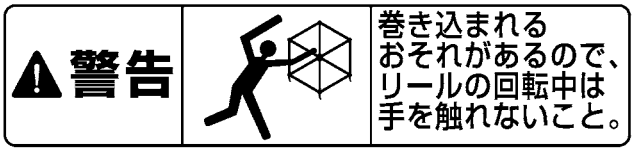
⚠無線ユニットから心臓ペースメーカの装着部位まで22cm 以上離して使用してください。

[守らないと]
電波によりペースメーカの動作に影響を与えるおそれがあります。

安全作業するための表示ラベル

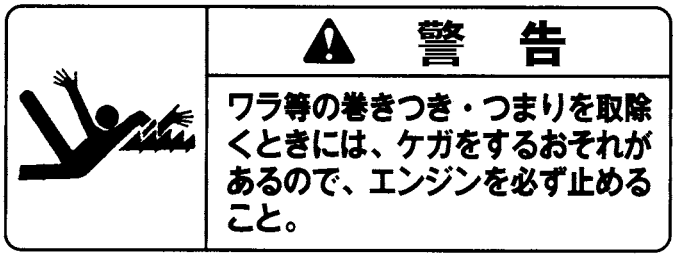
■表示ラベルの内容・貼付位置

①品番　5T130-4414-1



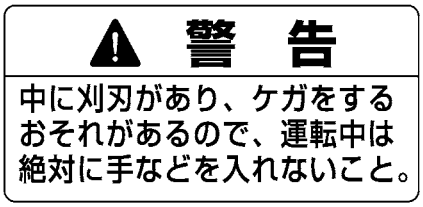
1ASAEAAAP385J

②品番　5T030-4416-1



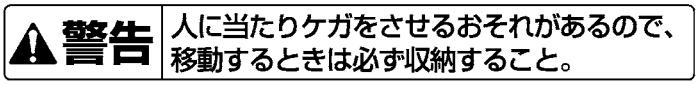
1ASADAGAP016J

③品番　5T130-4415-1



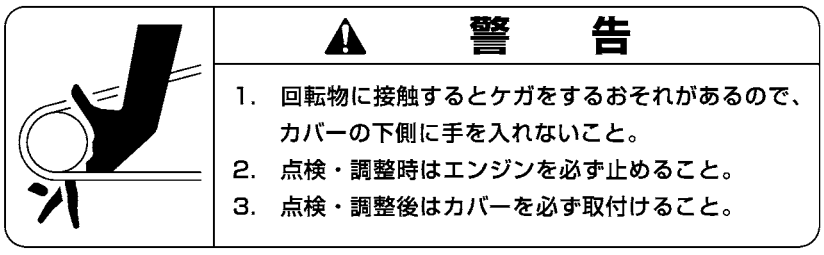
1ASAEAAAP386J

④品番　5T130-2136-1



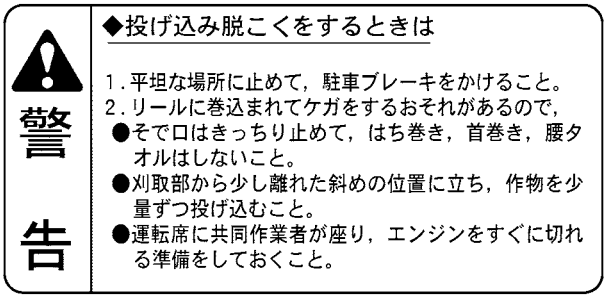
1ASAEAAAP387J

⑤品番　5T130-6436-1

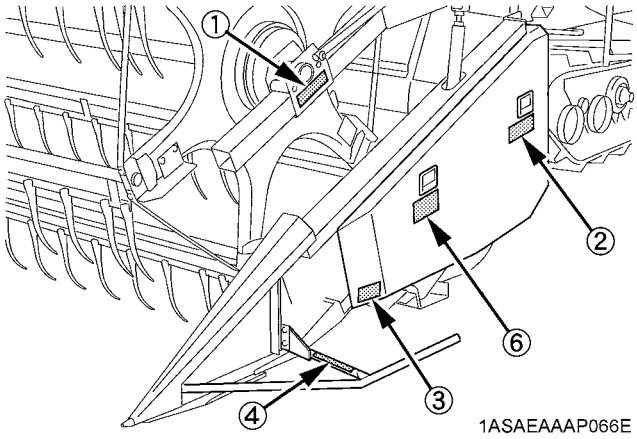


1ASAEAAAP388J

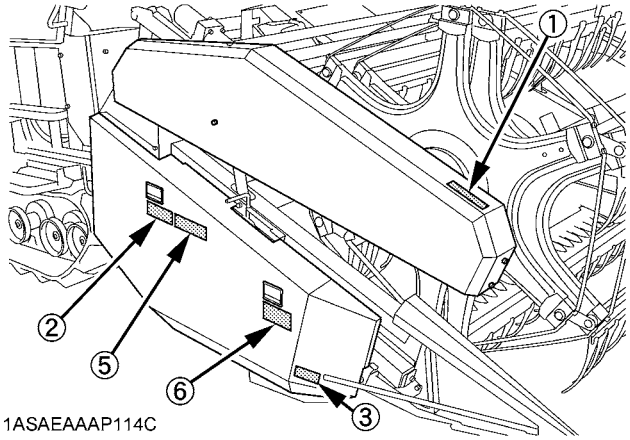
⑥品番　5T030-4412-1



1ASADAGAP019J



1ASAEAAAP066E

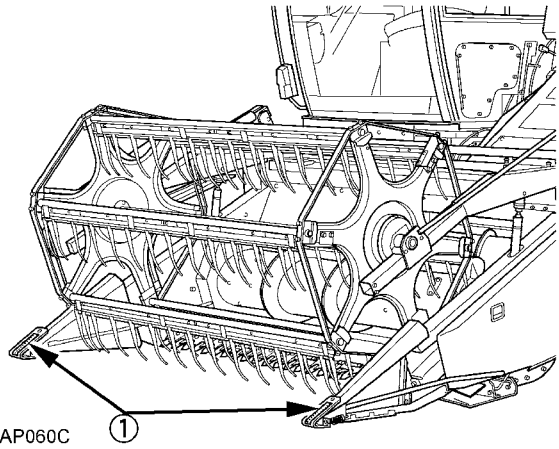


1ASAEAAAP114C

①品番　5T130-4332-1

⚠ 警告	デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

1ASAEAAAP389J

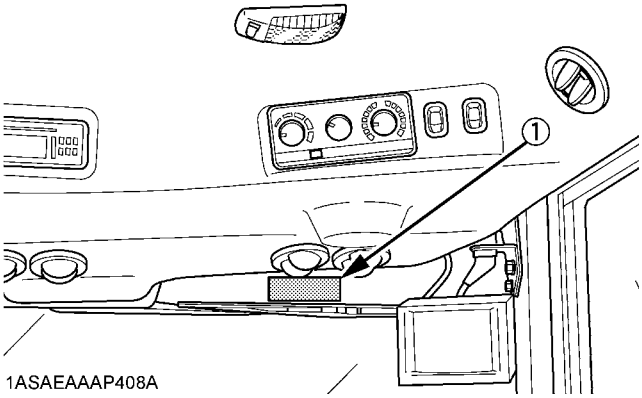


1ASAEAAAP060C

①品番　5H911-4323-3

⚠ 警　告
本製品にはＤＰＦ（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）が搭載されています。 ＤＰＦの再生処理中はマフラ、排気ガスが高温になります。 ＤＰＦの再生処理を行うときは以下のことを守ってください。 １．納屋や倉庫など囲まれた場所で再生処理を行わないでください。 ２．再生処理中は排気管周辺から人や動植物が離れていることを確認してください。 ３．再生処理中は排気管周辺に燃えやすいものがないことを確認してください。 詳しくは取扱説明書をご覧ください。

1ARAEBFAP047J

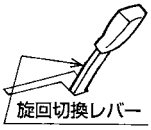


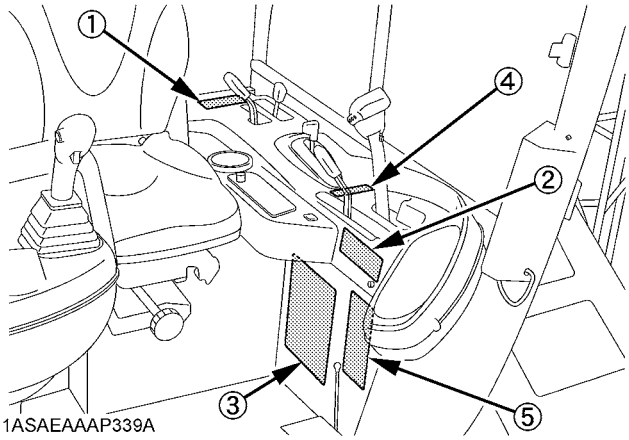
1ASAEAAAP408A

①品番　5T090-4333-1

⚠ 注　意

1．運転開始時は､旋回切換レバーを｢ソフトターン」｢ブレーキターン」のどちらかに確実に入れること。
※旋回切換レバーが確実に入っていないときは､ステアリングが効きません。また、発進すると自動的にエンジンが止まります。



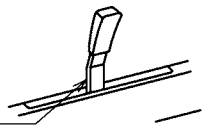


1ASAEAAAP339A

②品番　5T130-4354-1

⚠ 警　告

坂道で副変速レバーを操作すると，機械が暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと。



1ASAEAAAP390J

③品番　5T130-4348-1

⚠ 警　告

作業前
1．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2．エンジンを始動するときは、主変速レバーを「停止」にし、駐車ブレーキペダルを踏み込み、各作業クラッチを「切」にすること。
3．屋内は排気ガスが溜まり易く、ガス中毒の危険があるので換気すること。
4．ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。

移動・作業中
1．発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは、周囲の安全を確かめ合図して、機械に人を近付けないこと。
2．転落・転倒事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。
3．走行を停止するときは、主変速レバーを操作して「停止」の位置にすること。
4．道路交通法規定により、トラック運搬時は地上高３.８ｍ以下で運行すること。
5．刈取作業時以外（あぜ乗越時、移動走行時、運搬時、格納時）は、「もみ」をすべて排出または降ろして、各作業クラッチを“切”にし、一番下げた状態にすること。

積込・積降ろし
1．転倒・転落事故の危険があるので、車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。
①積み込むときは前進で、降ろすときは後進にすること。
②副変速を作業にし、エンジンの回転を落として（２０００rpm以上）、低速にすること。
③あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。
方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。
④あゆみ板は段差の４倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準に合ったものを使用すること。

駐・停車
1．火災の危険があるので、機械を停止するときは、切りワラや雑草の上に止めないこと。
2．急発進・暴走の危険があるので、副変速レバーを切り換えるときは、平坦な場所で主変速レバーを「停止」の位置にし、駐車ブレーキペダルをいっぱいに踏むこと。
3．機械から離れるときは、エンジンを止めて始動キーを抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。
また、坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

1ASAEAAAP391J

④品番　5T090-4323-2

⚠注意

移動時の操作について

1．移動時は、エンジン回転を２０００rpm以上で使用して下さい。
2．副変速「高速」での刈取作業は機械のトラブルの原因になりますので使用しないで下さい。

1ASAEAAAP341J

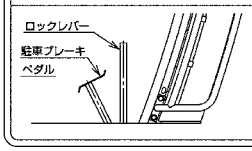
⑤品番　5T130-4358-1

⚠ 警　告

1．トラックへの積み降ろし中および走行中に駐車ブレーキペダルを踏むと急に機体の向きが変わり、転倒・衝突のおそれがあるので踏まないこと。
2．駐車ブレーキをかけるときは、副変速レバーを必ず「N」以外の位置に入れること。
※副変速レバーが「N」では、油圧ロックが作動しないため、坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。
3．坂道で駐車するときは、暴走を防ぐため、必ず車止めをすること。

駐車ブレーキの取り扱い

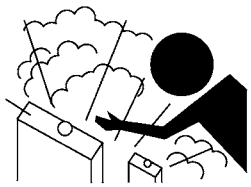
主変速レバーを完全に停止位置に戻してから、駐車ブレーキペダルを強くいっぱいに踏み込むと、ロックがかかります。
駐車ブレーキペダルを踏みながらロックレバーを後ろに倒すと、ロックが解除されます。



1ASAEAAAP392J

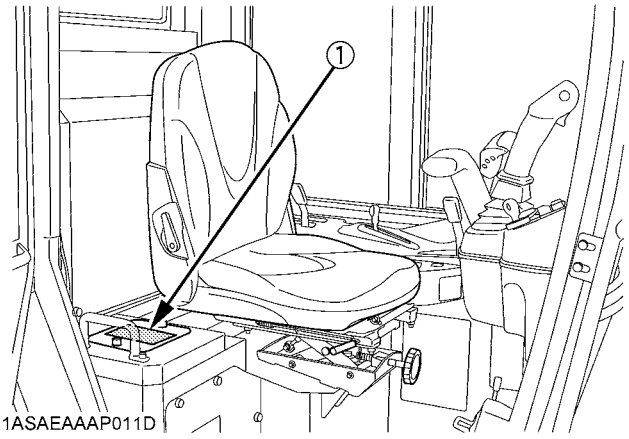
①品番　5T130-4343-1

⚠ 警　告



オーバーヒートで点検口を開いたり運転席をオープンして、エンジンを点検・整備するときは、次の手順を守ること。
1 .エンジンを止める。
2 .必ず停止後３０分以上経過してからエンジンルームを開けること。
エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。

1ASAEAAAP393J

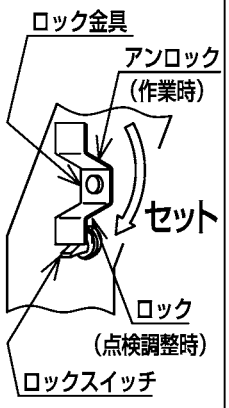


1ASAEAAAP011D

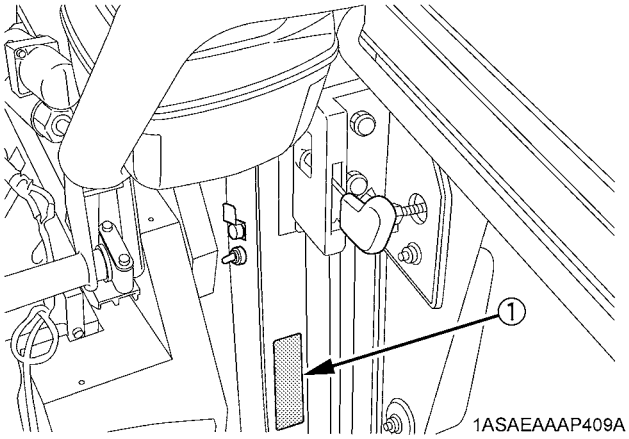
①品番　5T130-4322-1

⚠警 告

刈取部を上昇して点検調整を行う時には、必ずロックスイッチを下げてロック金具をセットすること。



1ASAEAAAP394J

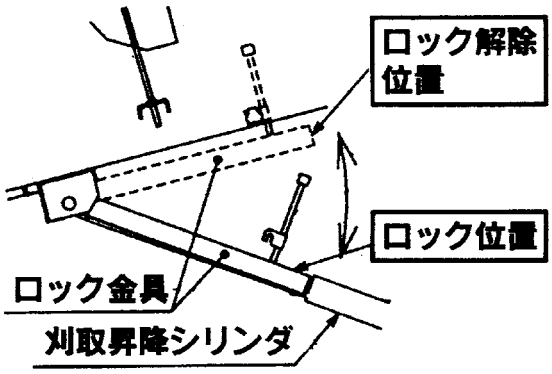


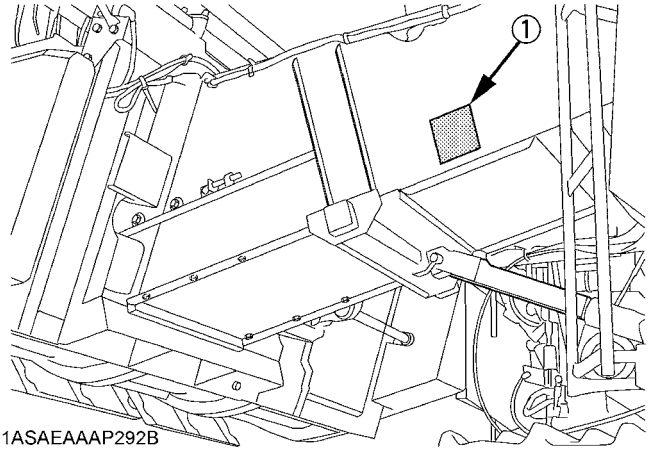
1ASAEAAAP409A

①品番　51962-3941-2

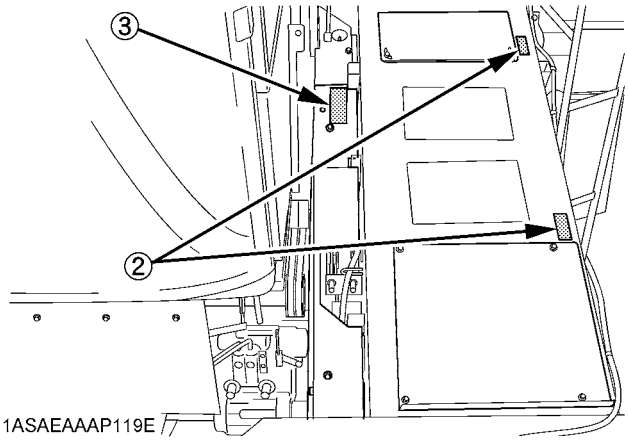
⚠ 警　告

刈取部を上げて点検・調整を行うときには、刈取部が不意に下降してはさまれることがあるので、ロック金具を必ず刈取昇降シリンダにセットすること。





1ASAEAAAP292B



1ASAEAAAP119E

②品番　5T130-6461-1

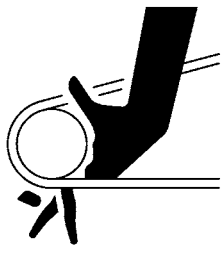
⚠ 警告

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

1ASAEAAAP395J

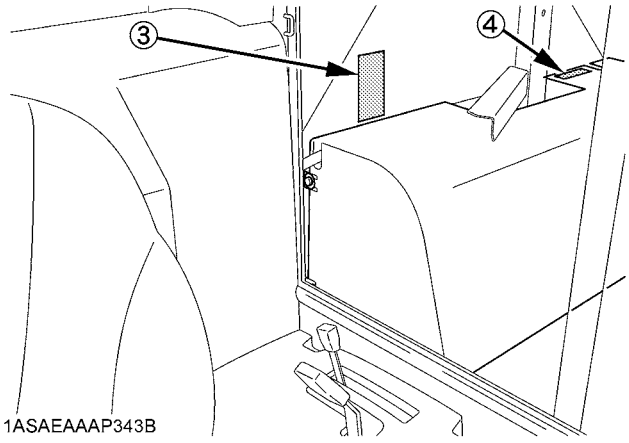
③品番　5T130-6436-1



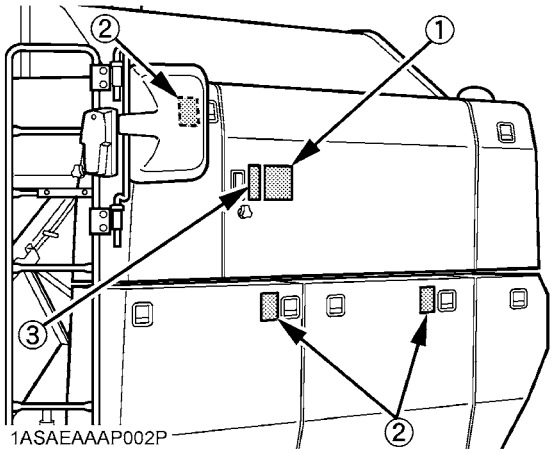
⚠ 警　告

1. 回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3. 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ASAEAAAP388J



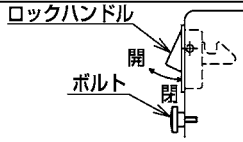
1ASAEAAAP343B



1ASAEAAAP002P

①品番　5T130-4398-1

⚠ 警　告



1．扱胴カバーを閉じるときは、ロックハンドルを必ず「閉」の位置にして、ボルトで固定すること。
2．確実に固定されていないと、扱胴カバーが開いて危険です。

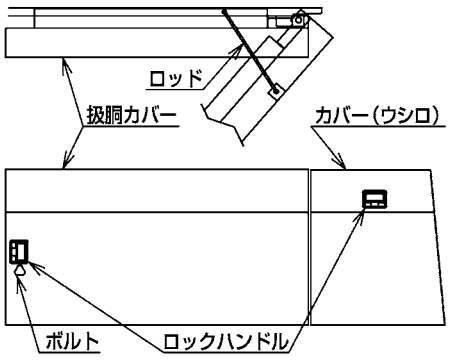
■扱胴カバー開閉の仕方

◎カバーを開く場合

① エンジンを停止して、カバー（ウシロ）を外す。
② ボルト（1箇所）を外し、扱胴カバーを開く。
③ 必ずロッドで固定する。

◎カバーを閉じる場合

① カバーを閉じる場合は逆の手順で行う。
② ロックハンドルを「閉」の位置にする。
③ 扱胴カバーは、必ずボルトで固定する。



1ASAEAAAP396J

③品番　53981-6431-3

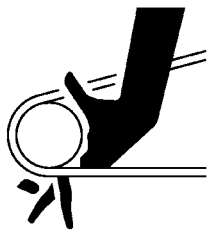
⚠ 警　告

中で扱歯が高速で回転しているので，接触するとケガをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。

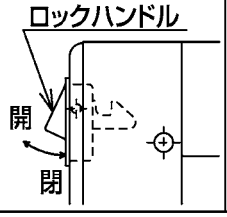
1ASADAGAP025J

②品番　5T130-6434-1

⚠ 警 告



1．回転物に接触するとケガをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。



1．カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。
2．ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

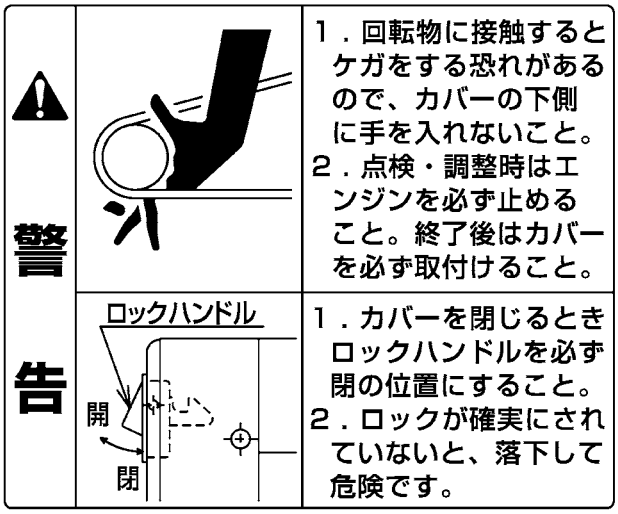
1ASAEAAAP397J

④品番　5T130-4385-1

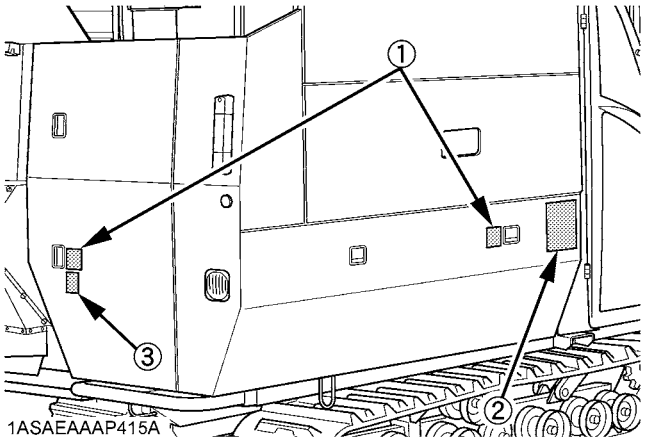
⚠警告　このカバーの上には乗らないこと。

1ASAEAAAP398J

①品番　5T130-6434-1

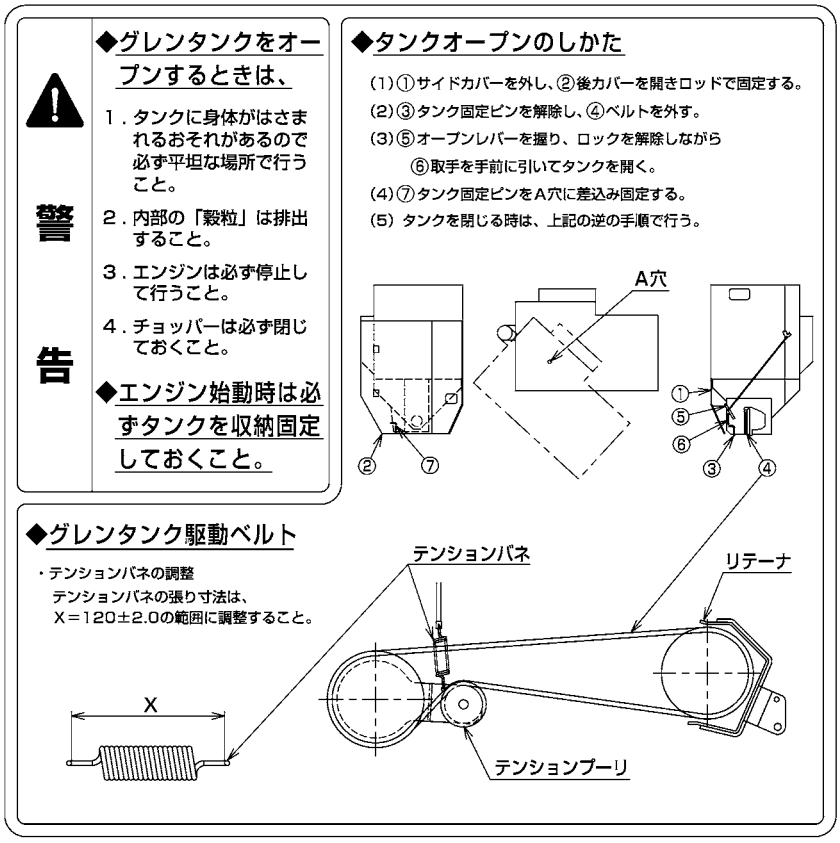


1ASAEAAAP397J



1ASAEAAAP415A

②品番　5T130-4393-1



1ASAEAAAP399J

③品番　5T130-2575-1

1ASAEAAAP400J

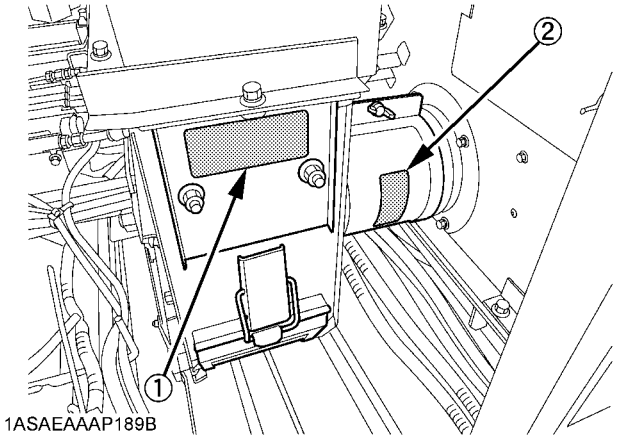
①品番　5T130-6462-1
②品番　5T130-6461-1

⚠ 警告

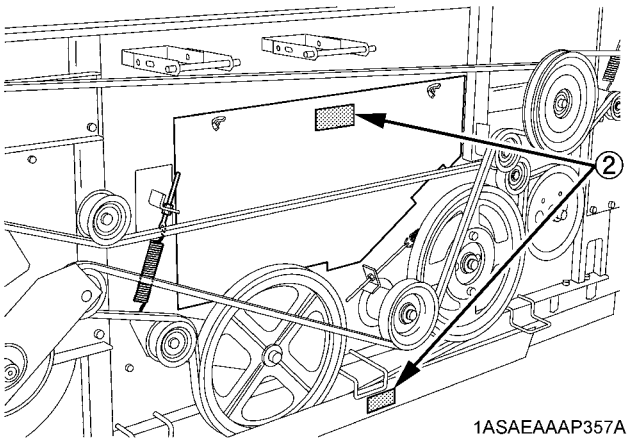
掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

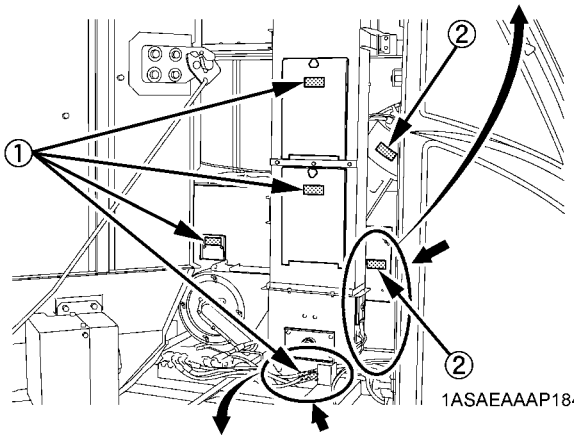
1ASAEAAAP401J



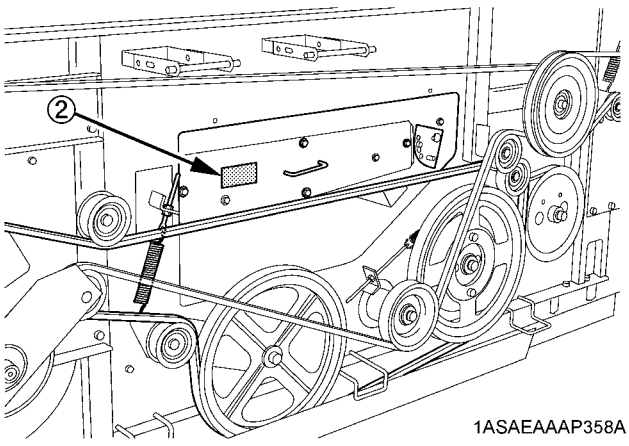
1ASAEAAAP189B



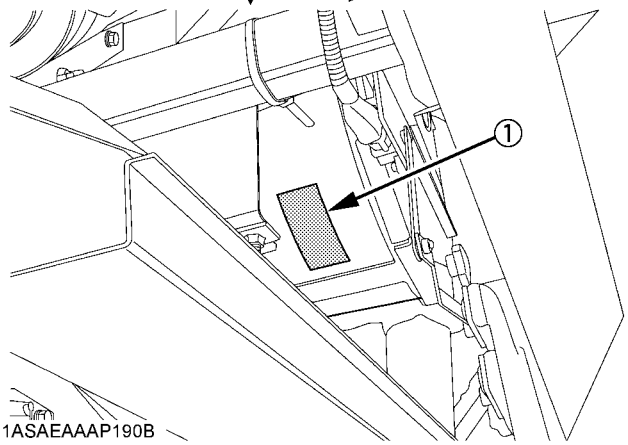
1ASAEAAAP357A



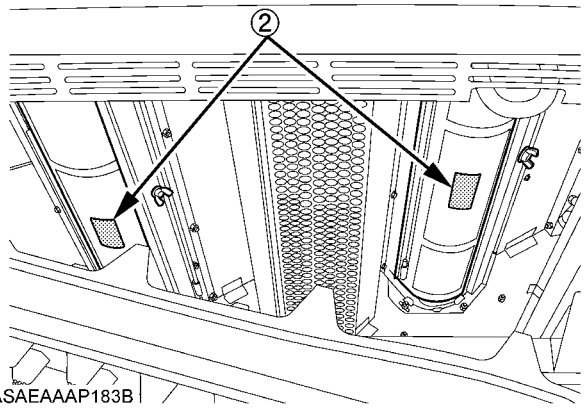
1ASAEAAAP184H



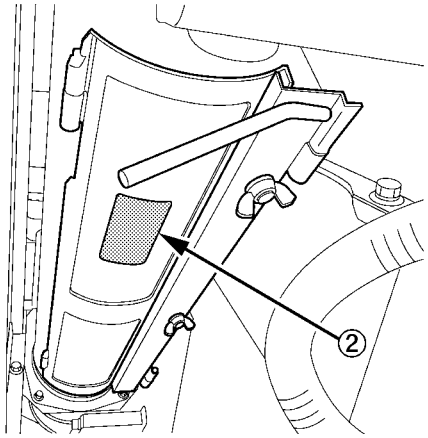
1ASAEAAAP358A



1ASAEAAAP190B



1ASAEAAAP183B



1ASAEAAAP191B

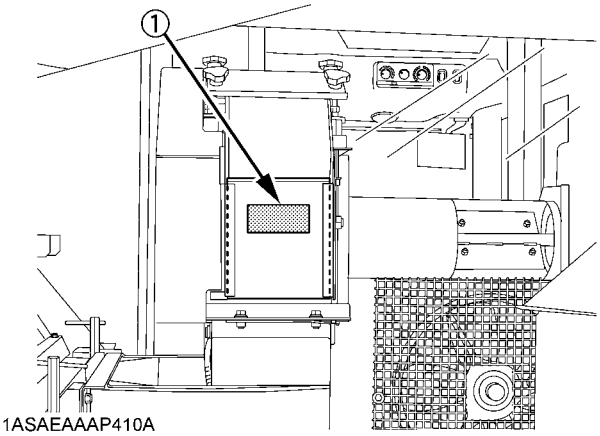
①品番　5T130-6462-1
②品番　5T130-6461-1

警告

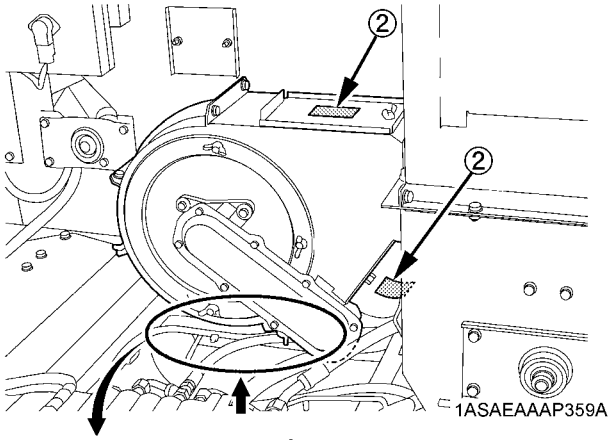
掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

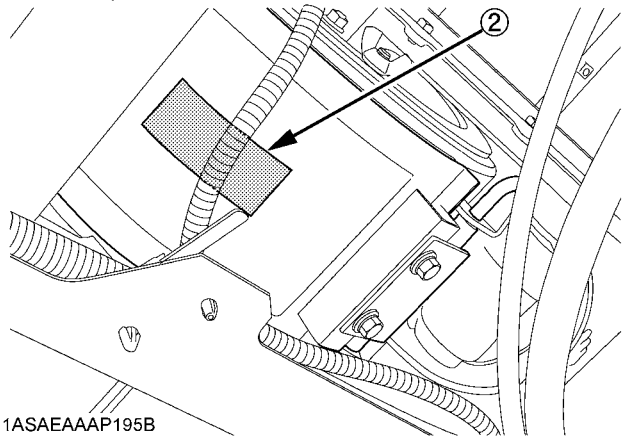
1ASAEAAAP401J



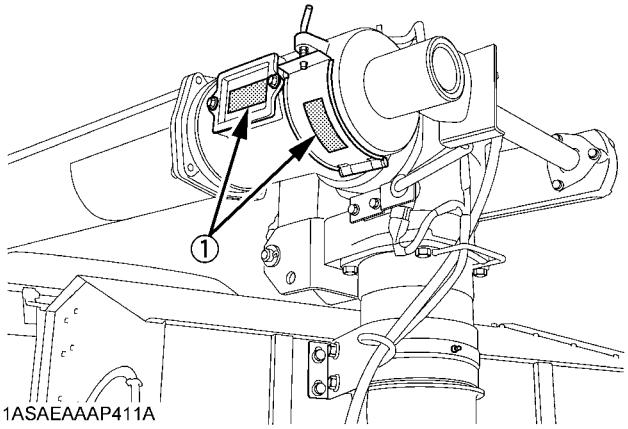
1ASAEAAAP410A



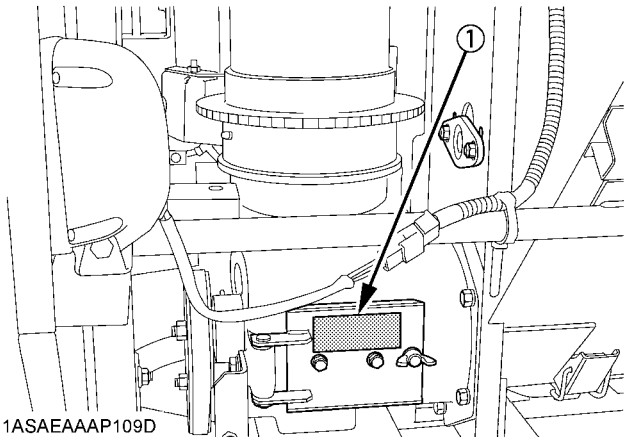
1ASAEAAAP359A



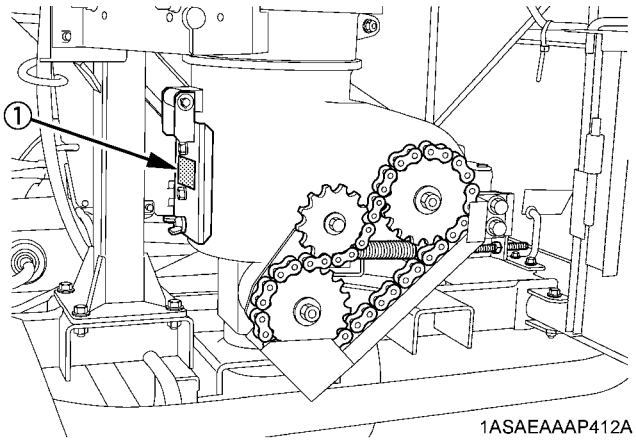
1ASAEAAAP195B



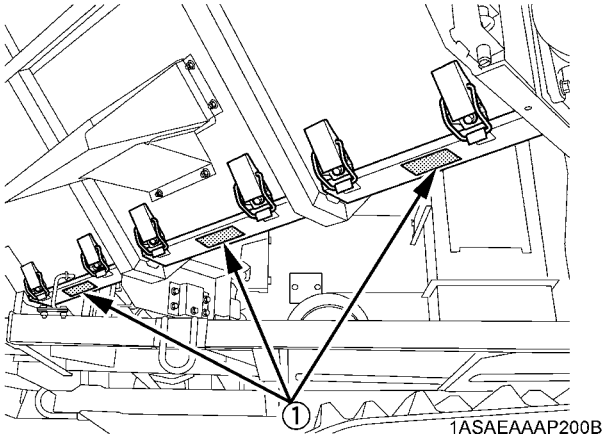
1ASAEAAAP411A



1ASAEAAAP109D



1ASAEAAAP412A



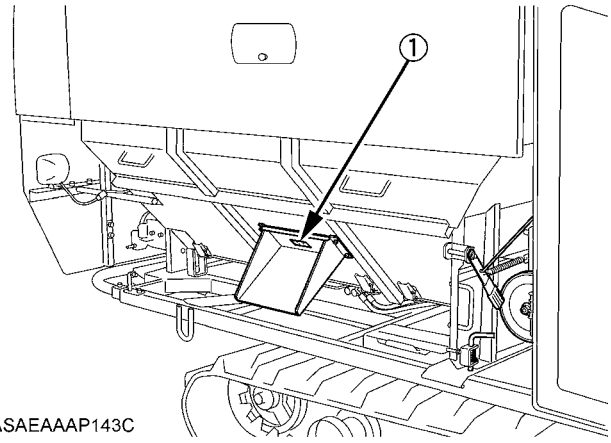
1ASAEAAAP200B

①品番　5T130-3129-1

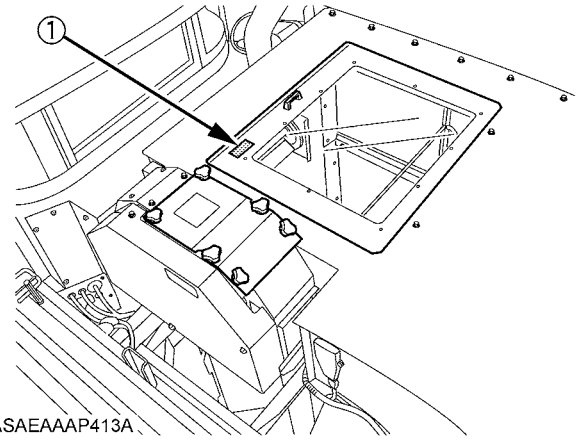
⚠ 警　告

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

1ASAEAAAP402J



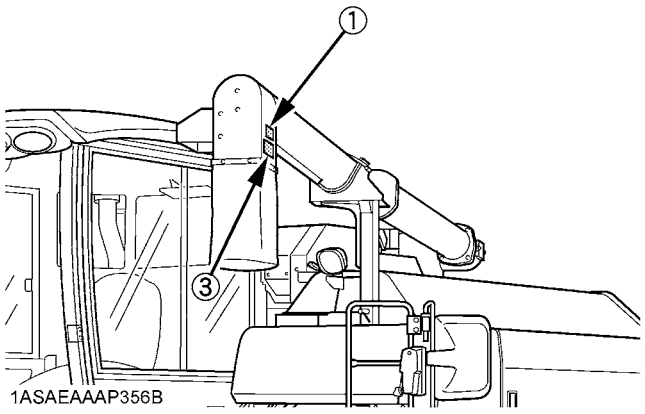
1ASAEAAAP143C



1ASAEAAAP413A

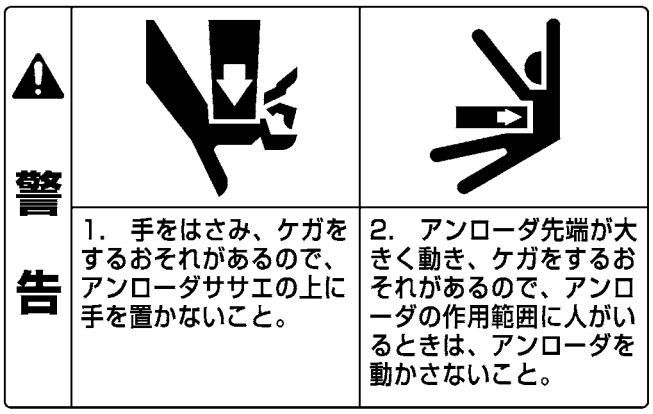
①品番　5T130-3994-1

1ASAEAAAP403J

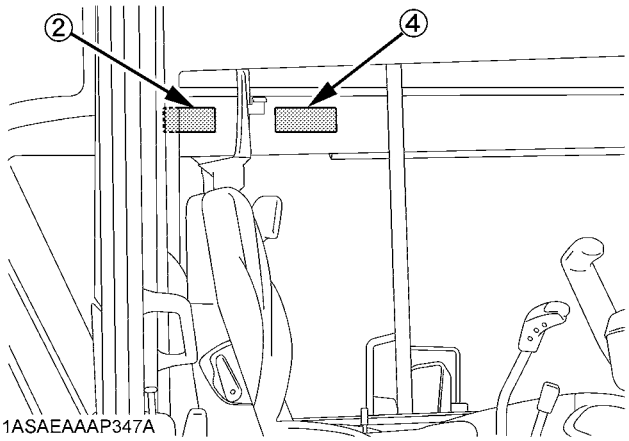


1ASAEAAAP356B

②品番　5T130-8173-1

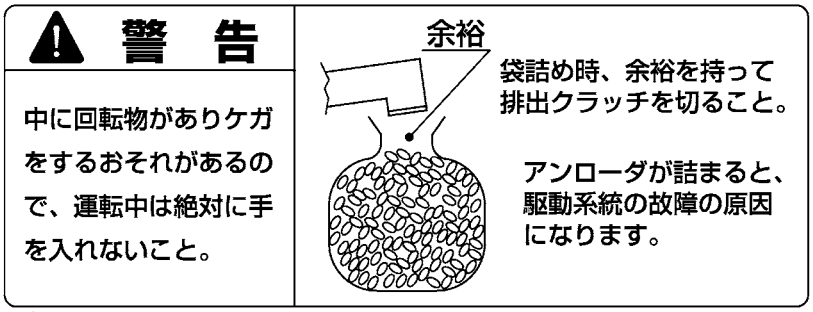


1ASAEAAAP404J



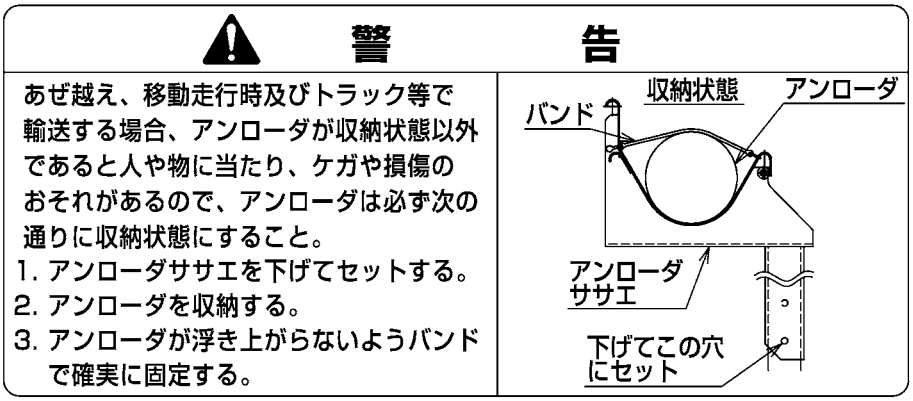
1ASAEAAAP347A

③品番　5T130-6425-1



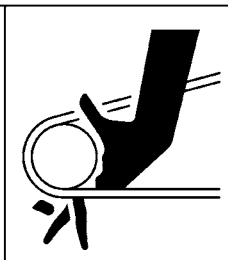
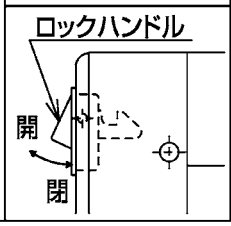
1ASAEAAAP405J

④品番　5T130-4335-1

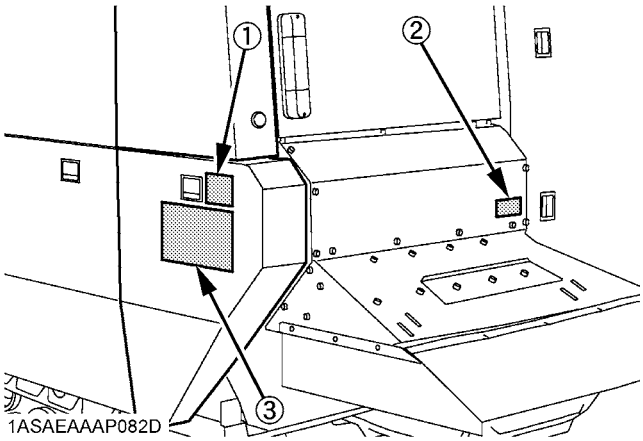


1ASAEAAAP406J

①品番　5T130-6434-1

⚠ 警告		1．回転物に接触するとケガをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。 2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。
⚠ 警告		1．カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。 2．ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

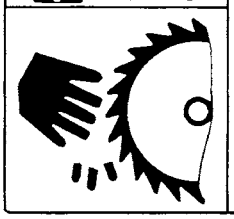
1ASAEAAAP397J



1ASAEAAAP082D

②品番　57691-5315-1

⚠ 警告	1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。 2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。


1ARADBEAP373J

③品番　5T090-8488-3

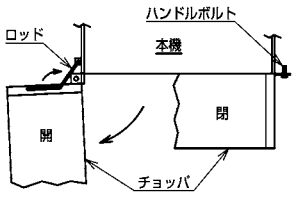
⚠ 警　　告

1．チョッパの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2．運転中は危険であるので、チョッパには、近づかないこと。
3．詰りを取り除くときや、点検・調整・切断刃の交換をするときは、エンジンを必ず止めること。
4．チョッパをオープンするときの注意事項
　エンジンを必ず止めること。
　オープンしたまま運転しないこと。
　傾斜地ではオープンしないこと。
　オープンしたら不用意な動きを防止するため、ロッドで確実に固定すること。
5．点検・調整などが終わったら、ベルトカバーを必ず取り付けること。

■チョッパ開閉の仕方

◎チョッパを開く場合

① ベルトカバーを外し、グレンタンクウシロ開閉カバーを開く。
② テンションアーム（チョッパ）を外し、Vベルト（SC71）を外す。
③ ハンドルボルト（2箇所）を外す。
④ チョッパを手前に開き、必ずロッドで固定する。

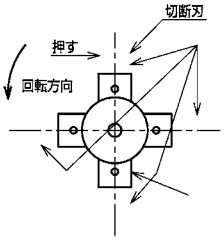


◎チョッパを閉じる場合

① チョッパを閉じる場合は逆の手順で行う。

■切断刃の交換方法

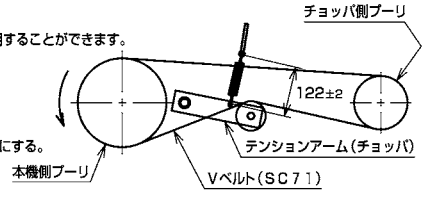
① チョッパを開き必ずロッドで固定する。
② 切断刃を交換する。
　1）切断刃は右図の様に矢印の方向に押して取り付けて下さい。
　2）M12×25ボルト（7T）を使用し、750～1050kgf-cmのトルクで締付けて下さい。



【注意】・切断刃が破損した時は、振動が大きくなり故障の原因となります。すぐに新しい刃と交換して下さい。
・応急的には、受刃を切断刃として使用することができます。

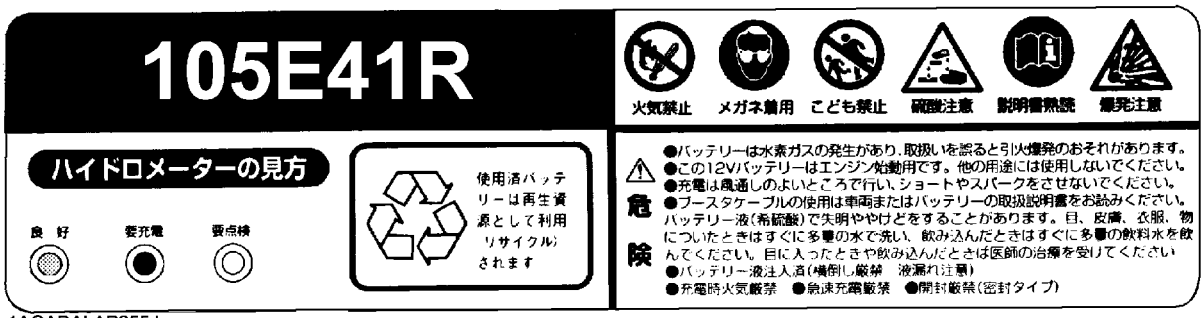
■Vベルトの掛け方

① テンションバネの張りは122±2mmにする。
（フック内側寸法）

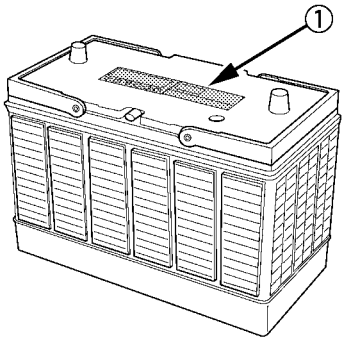


1ASAEAAAP407J

①品番　3P200-9892-2



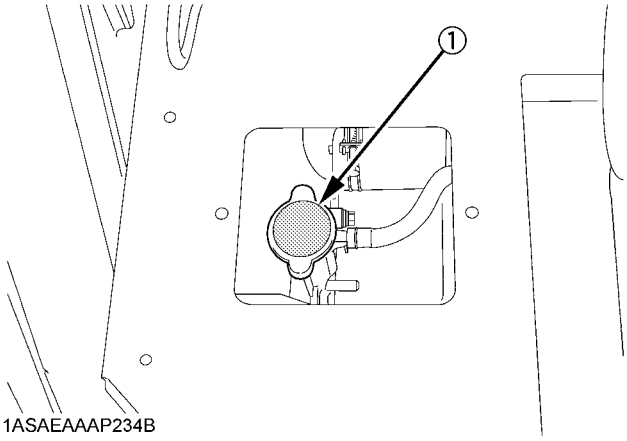
1AGADALAP255J



1ARAEASAP038C

①品番　16667-8724-1

1ARADBEAP376J



1ASAEAAAP234B

表示ラベルの手入れ

■表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ⚠ 表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふく。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

◆ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**【ご相談窓口】**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際

1. 商品名・区分と車台番号
2. とう載機関（エンジン）の型式名と機関番号をあわせてご連絡ください。

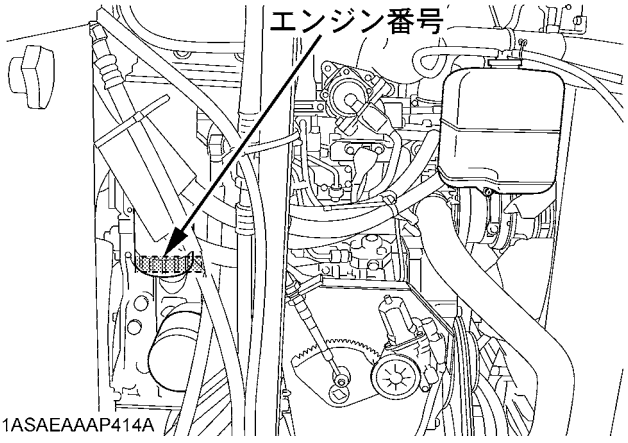
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

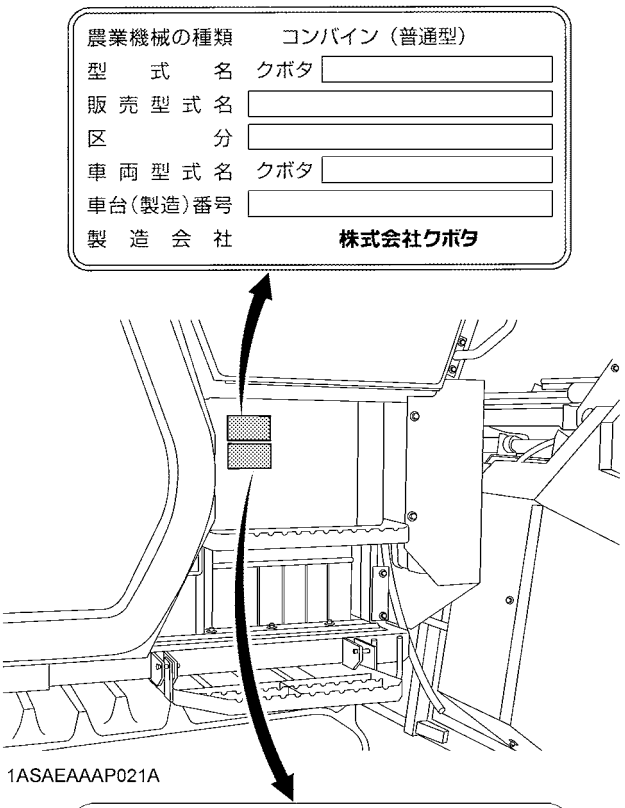
＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。

重　要

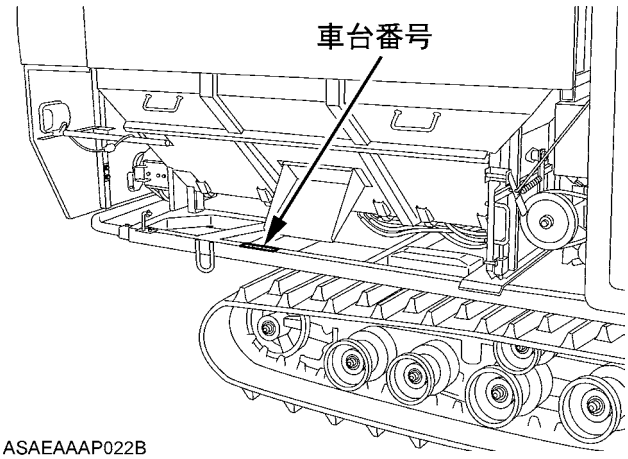
＊ 機械を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



1ASAEAAAP414A



1ASAEAAAP021A



1ASAEAAAP022B

サービスと保証について

◆ 認定番号

安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び認定番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

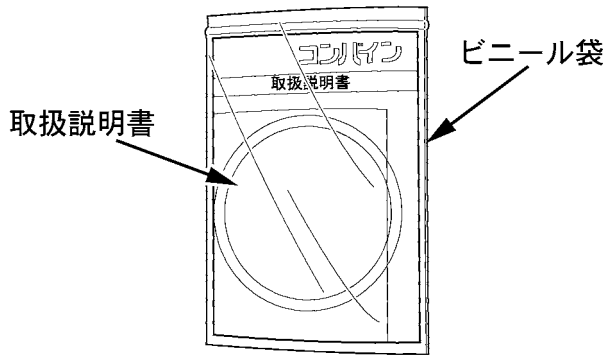
商品名	農機型式名	安全鑑定番号	対象型式区分
WRH1000C	クボタ WRH1000	37031	WRH1000C 2.1，2.6W

◆ 補修用部品の供給年限について

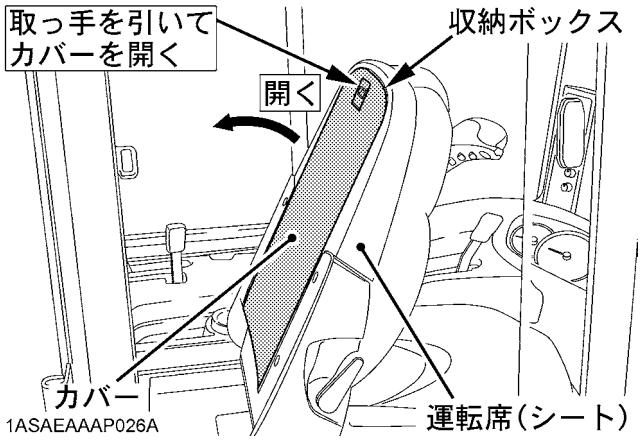
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

◆ 取扱説明書の収納場所について

本冊子を付属部品のビニール袋にいれたあと，運転席（シート）裏側にある収納袋に本冊子を収納して，常時携帯してください。（出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。）



1ASADACAP103A



1ASAEAAAP026A

◆ 電波法に基づく認証について

本製品で使用している無線ユニットは，電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています。

補　足

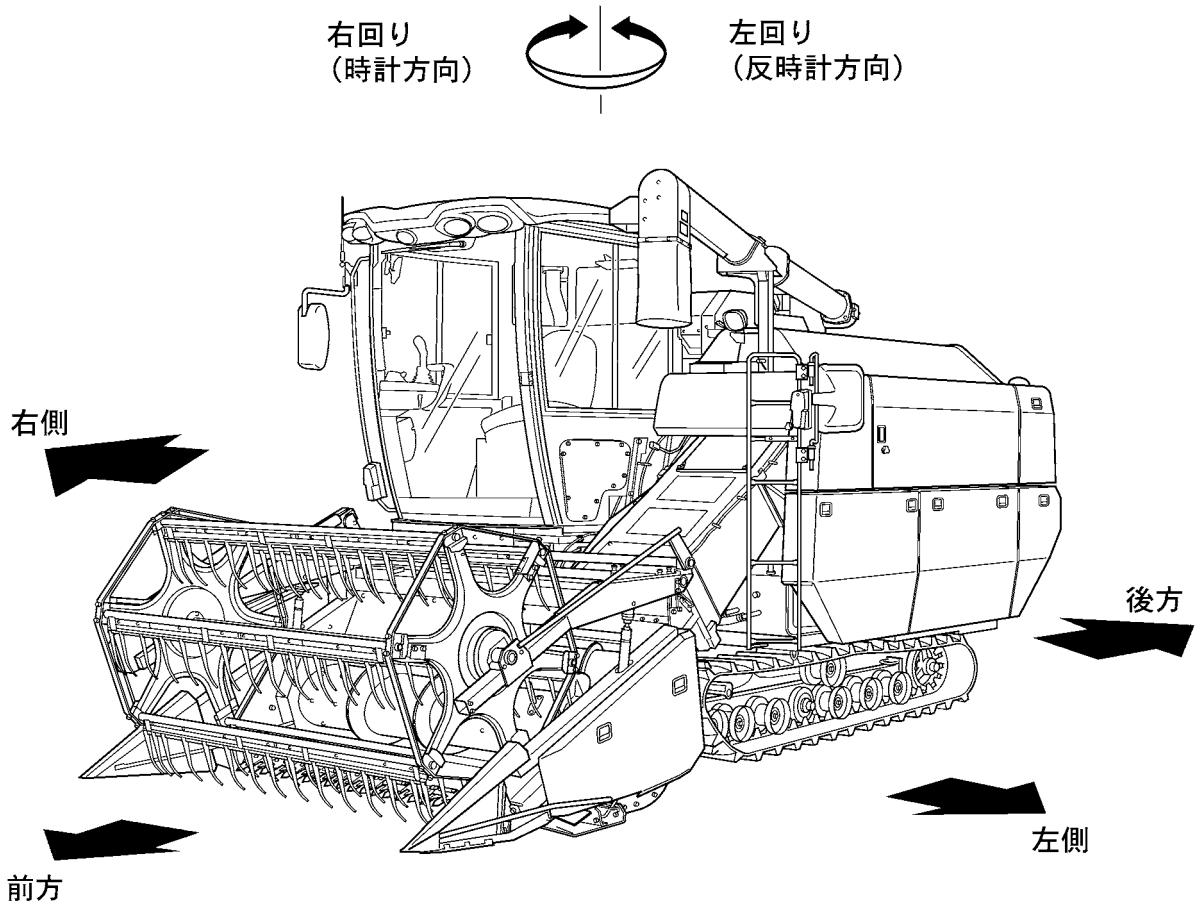
＊ 本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありませんが，以下の事項を行なうと法律により罰せられることがあります。
- 本無線ユニットを分解・改造すること。
- 本無線ユニットに貼られている認証ラベルをはがすこと。

＊ 本製品で使用している無線ユニットは IEEE802.11 に準拠した通信を行なっています。
そのため環境により通信できない場合や周囲の無線機器に影響を与える場合があります。

装置の名称と取扱い

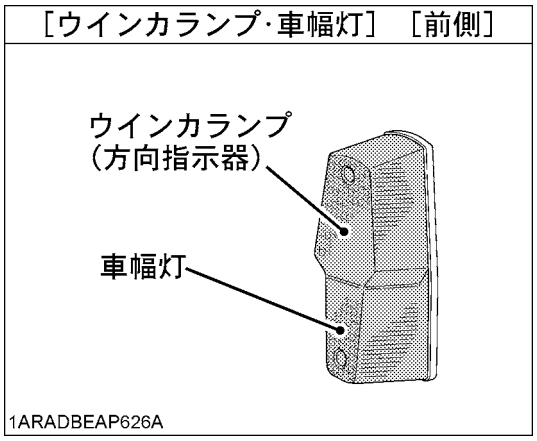
機体方向説明

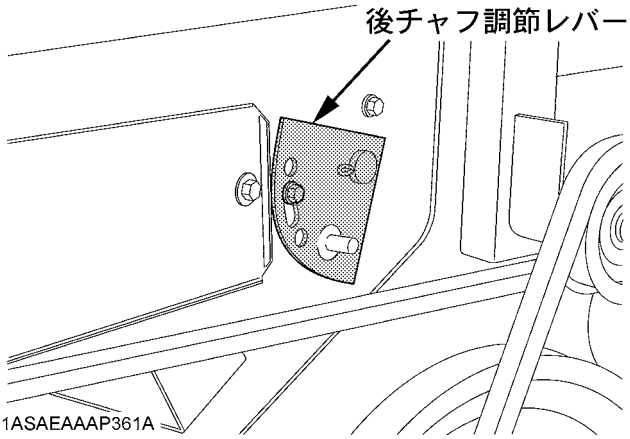
この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

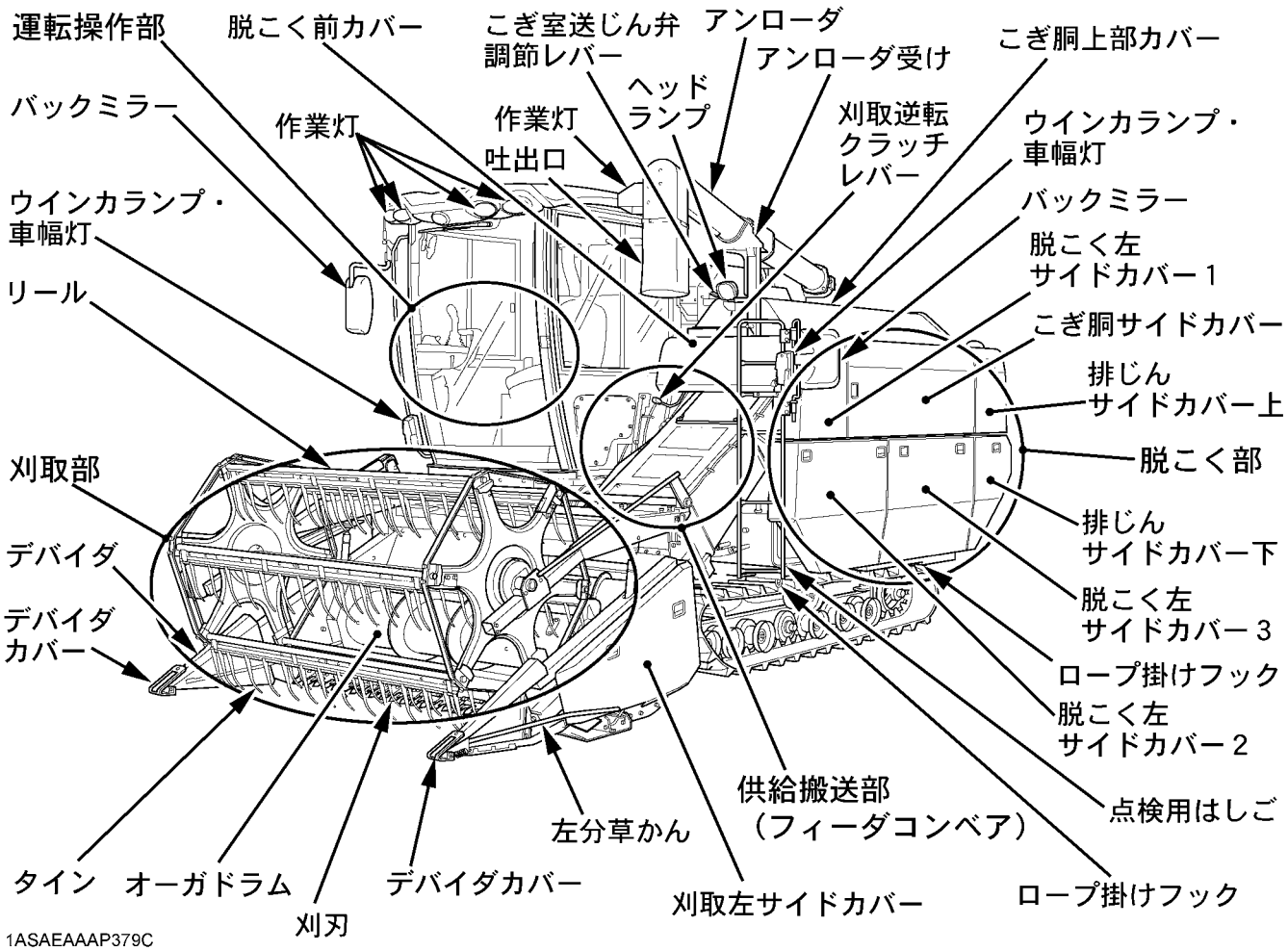


1ASAEAAAP356C

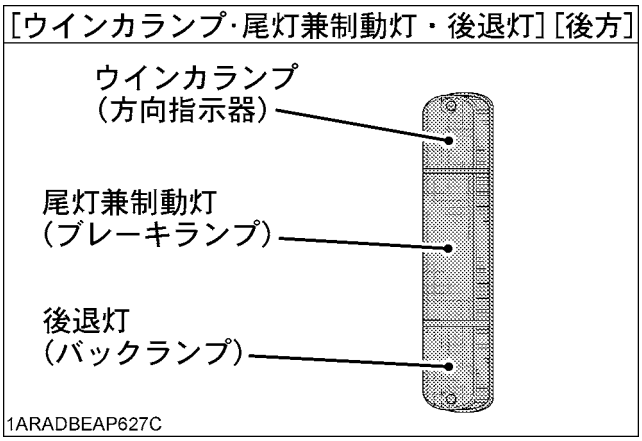
装置の名称と各部のはたらき

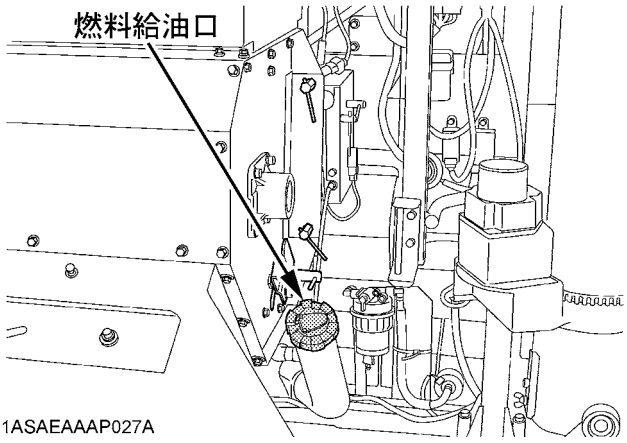


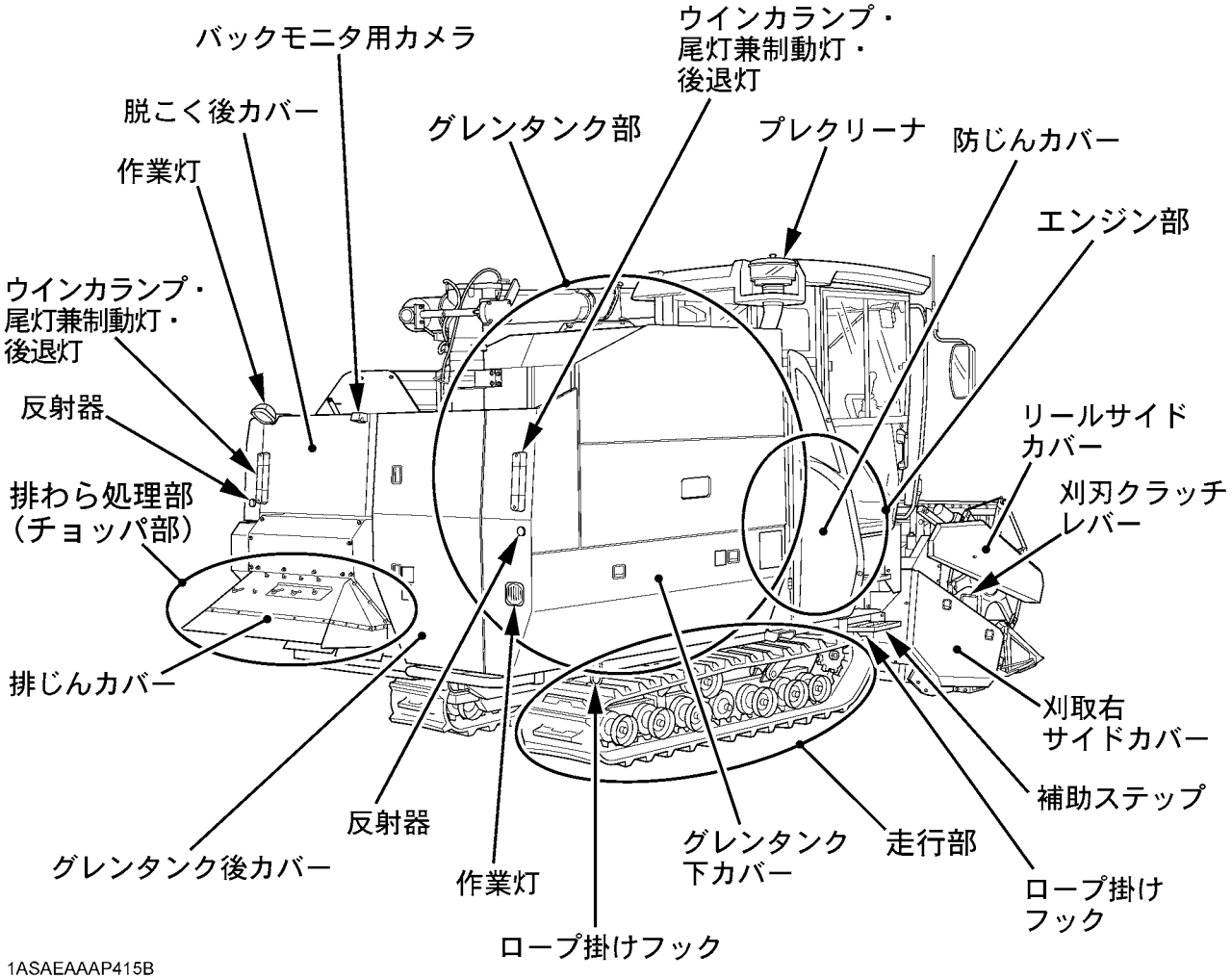




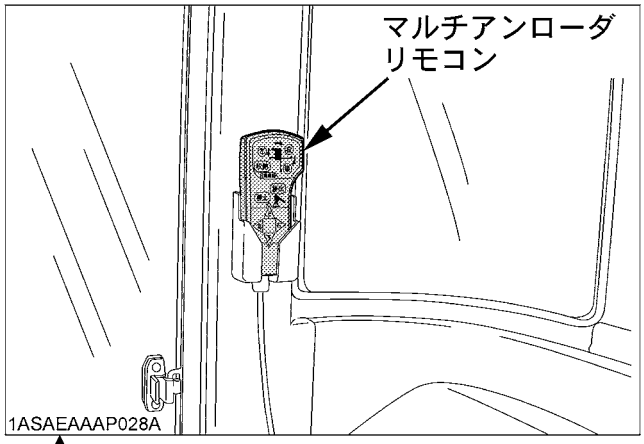
- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……作物の刈取りとかき込みを行なうところ
- **供給搬送部**……作物を脱こく部へ搬送するところ
  （フィーダコンベア）
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ**……グレンタンクからこく粒を排出する筒

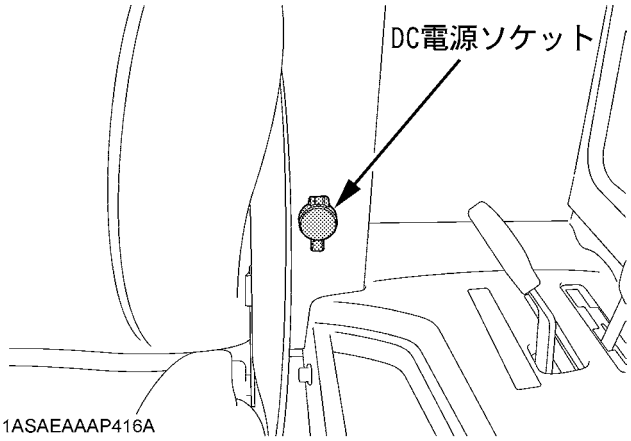


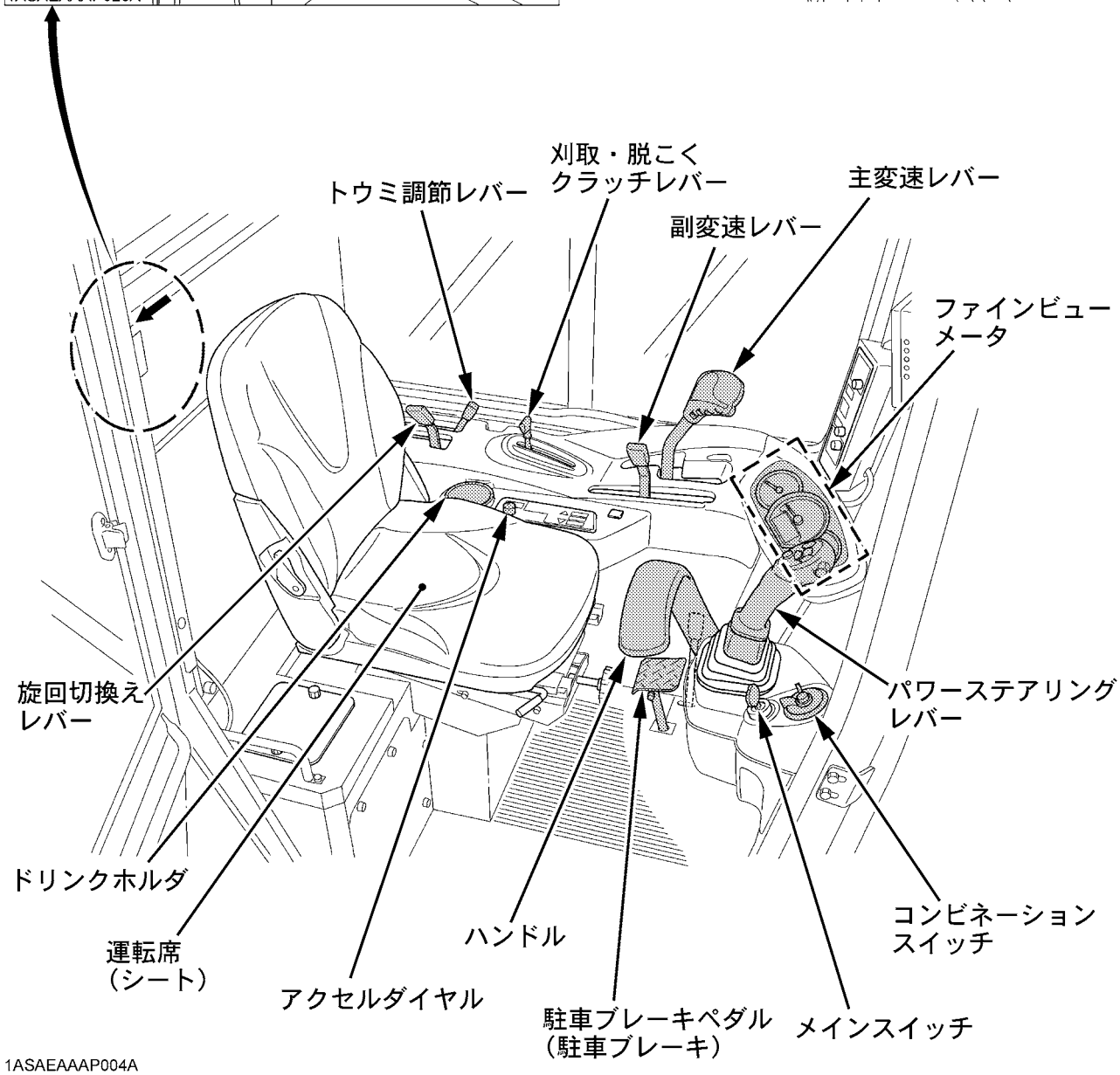


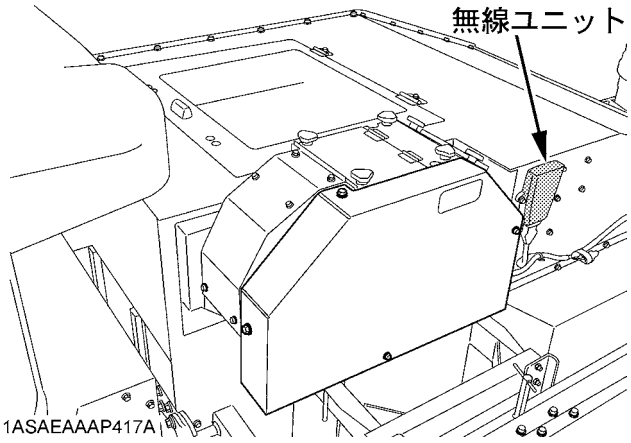


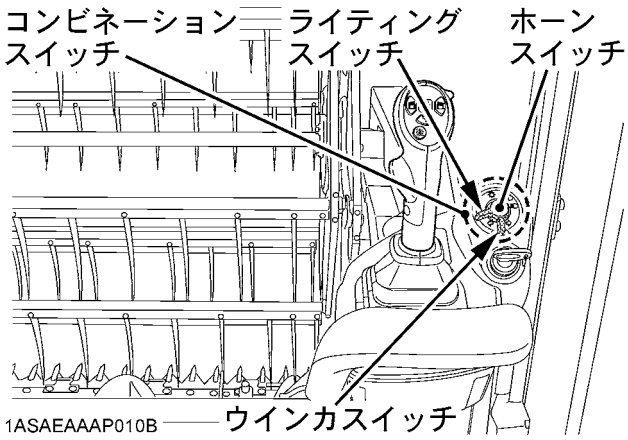
- **エンジン部**…… 運転席下部にある動力装置
- **走行部**…… クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**…… 脱こくで精選されたこく粒を一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ
- **わら処理部**…… 排かんの切断など排かんの処理を行なうところ

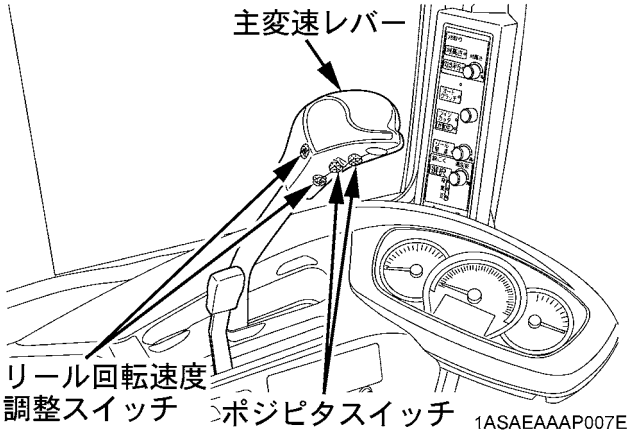

マルチアンローダ
リモコン
1ASAEAAAP028A

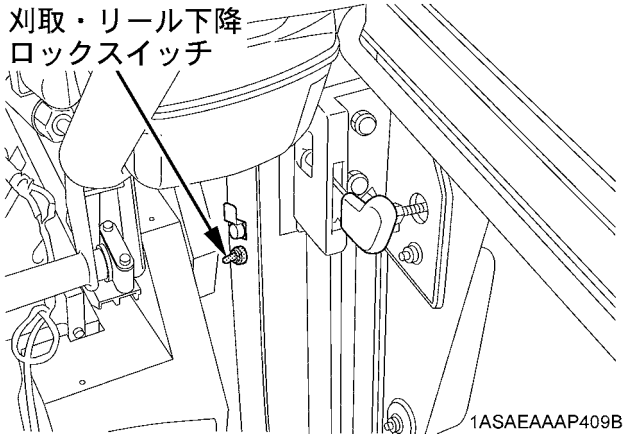

DC電源ソケット
1ASAEAAAP416A

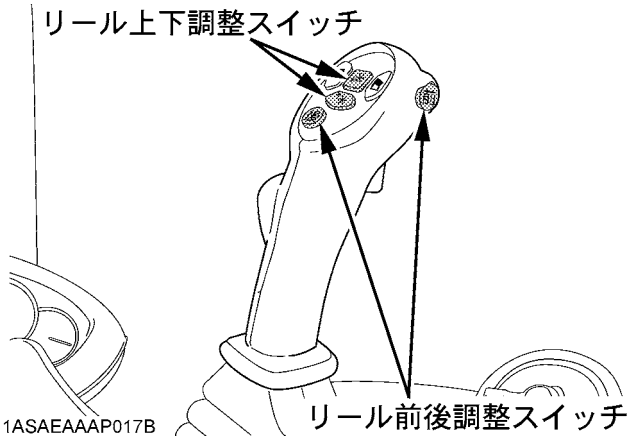

刈取・脱こく
クラッチレバー
トウミ調節レバー
主変速レバー
副変速レバー
ファインビュー
メータ
旋回切換え
レバー
パワーステアリング
レバー
ドリンクホルダ
コンビネーション
スイッチ
ハンドル
運転席
（シート）
アクセルダイヤル
駐車ブレーキペダル
（駐車ブレーキ）
メインスイッチ
1ASAEAAAP004A

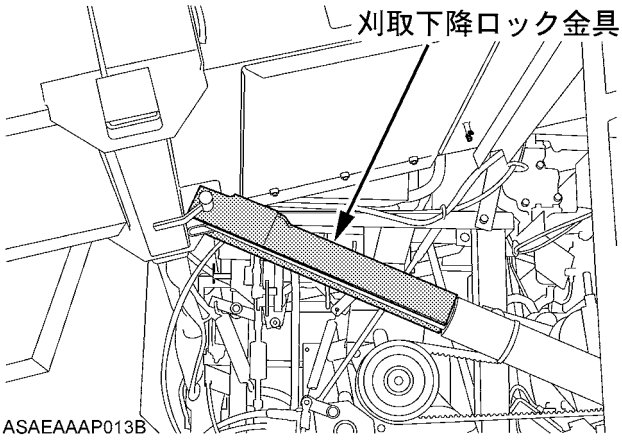

無線ユニット
1ASAEAAAP417A


コンビネーション
スイッチ
ライティング
スイッチ
ホーン
スイッチ
1ASAEAAAP010B
ウインカスイッチ


主変速レバー
リール回転速度
調整スイッチ
ポジピタスイッチ
1ASAEAAAP007E


刈取・リール下降
ロックスイッチ
1ASAEAAAP409B

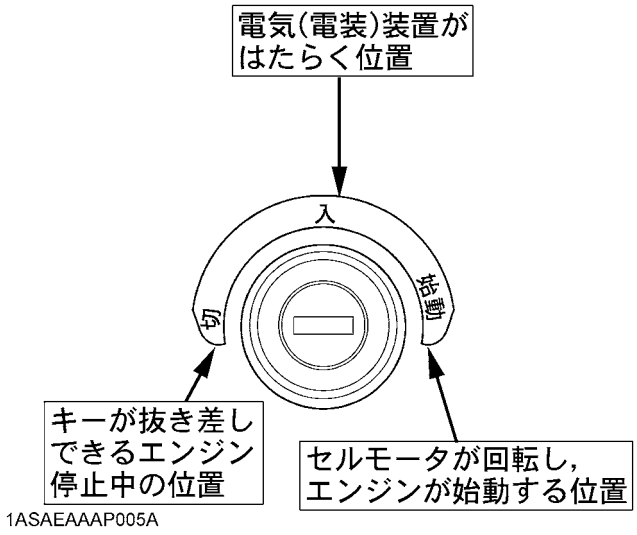

リール上下調整スイッチ
1ASAEAAAP017B
リール前後調整スイッチ


刈取下降ロック金具
1ASAEAAAP013B

◆ エンジン操作関係

■メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。



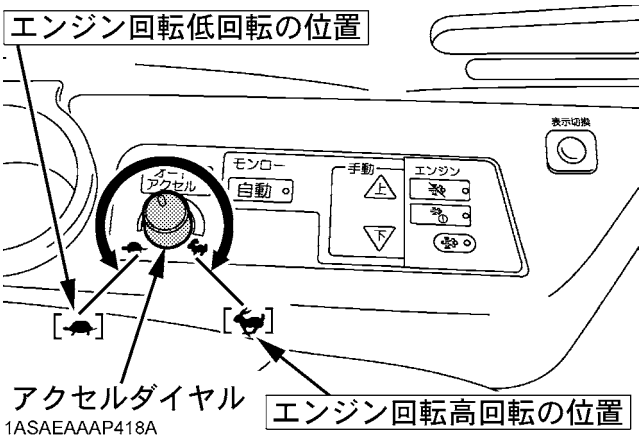
1ASAEAAAP005A

補　足

＊ エンジン始動後，メインスイッチのキーから手を離すとキーは，**［入］**の位置に戻ります。

■アクセルダイヤル

エンジン回転をコントロールするダイヤルです。ダイヤルを右に回すと回転数が上がります。



1ASAEAAAP418A

補　足

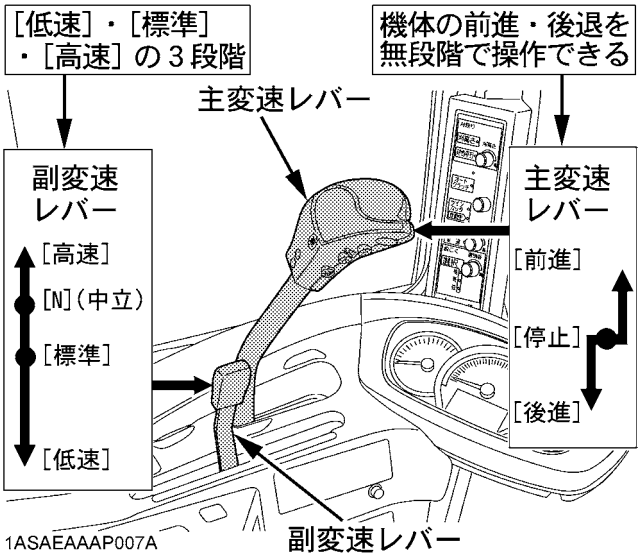
＊ エンジン回転計は，18 ページを参照してください。

＊ 自動アクセル制御が**［入］**のとき，主変速レバーが**［中立］**位置，脱こく・刈取クラッチレバーが**脱こく［切］**位置，もみ排出スイッチが**［停止］**位置のときは，アクセルダイヤルを操作してもエンジンの回転数は変わりません。

◆ 走行操作関係

■主変速レバー・副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。



1ASAEAAAP007A

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

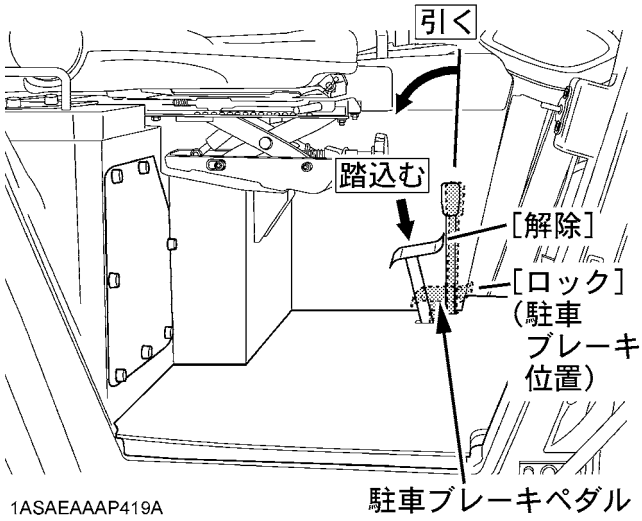
補　足

＊ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**［停止］**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。

＊ **［後進］**位置にするとバックブザーが鳴ります。

■ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

ブレーキペダルを踏込むとブレーキが掛かります。駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを少し踏込みながら駐車ブレーキロックレバーを後方に引いてください。



1ASAEAAAP419A

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

補　足

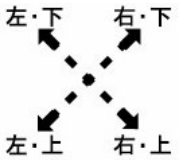
＊ コンバインから離れるときは，駐車ブレーキを掛けてください。
＊ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**［停止］**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。
＊ 移動（路上を含む）走行時は，駐車ブレーキペダルを**［解除］**位置にしてください。
＊ 駐車ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは始動しません。また，駐車ブレーキペダルを踏込まずにエンジンを始動しようとすると，液晶ディスプレイに**［駐車ブレーキを踏む］**と表示します。

■パワーステアリングレバー

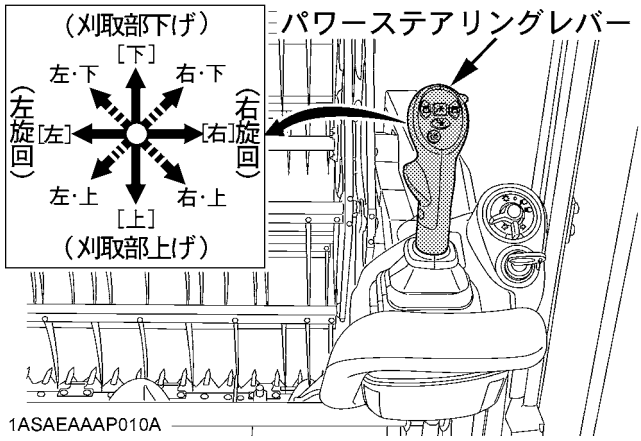
パワーステアリングレバーは，機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

［左］⟷［右］ …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。

［下げ］
↕
［上げ］ …… レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。



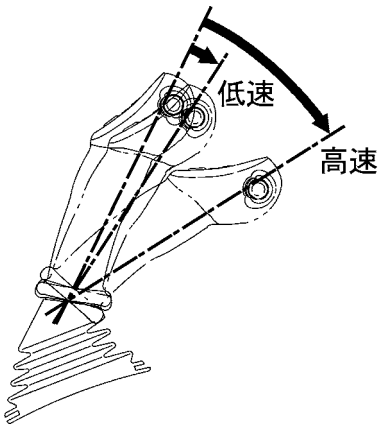
…… レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に，刈取部が上下に動きます。



1ASAEAAAP010A

補　足

＊ 刈取部の**上昇⟷下降**操作を行なうとき，レバーを倒す量に応じて昇降速度が変化します。



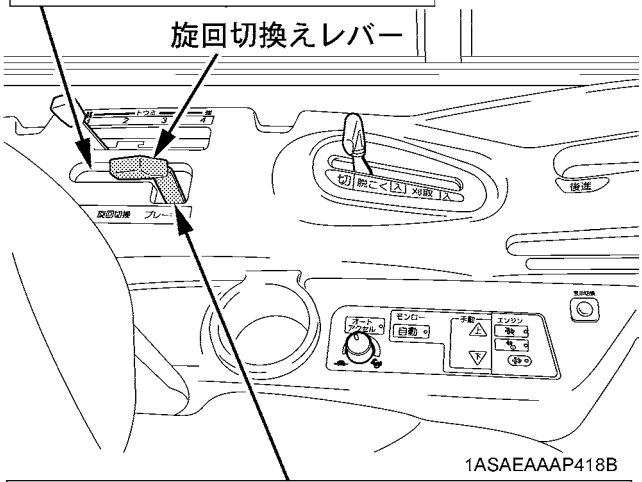
1ARADBNAP315A

＊ エンジンが停止中で，刈取部が上がっているときにパワーステアリングレバーを前方（**[下]** 方向）に倒しても刈取部は下がりません。

■旋回切換えレバー

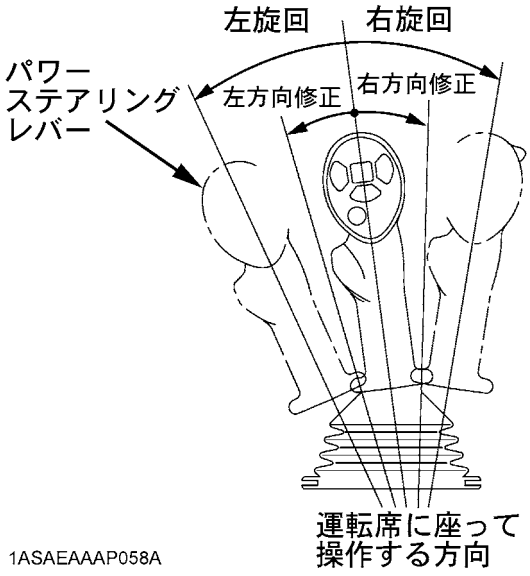
旋回方式を選択するレバーです。作業条件に応じて切換えてください。

ソフトターン
左右のクローラに回転差をつけ両輪で前進駆動しながら旋回。旋回半径はやや大きくなるが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合，また移動時に使用。



1ASAEAAAP418B

ブレーキターン
パワーステアリングレバーを右又は，左に倒すと，倒した方向のクローラの駆動が停止した状態で旋回。小回りが必要なときに使用。



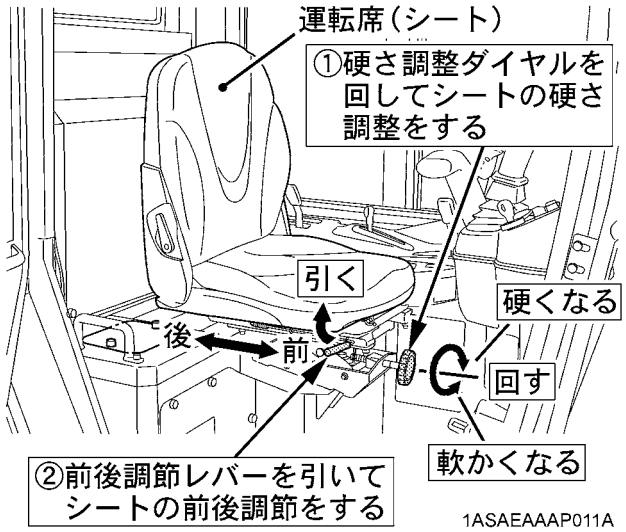
1ASAEAAAP058A

補　足

＊ 旋回切換えレバーが **[ソフトターン]** のとき，湿田ではパワーステアリングレバーを左右にいっぱい，倒した状態で使用してください。倒す量が小さいと，**[ソフトターン]** の効果が発揮できない場合があります。

■運転席（シート）

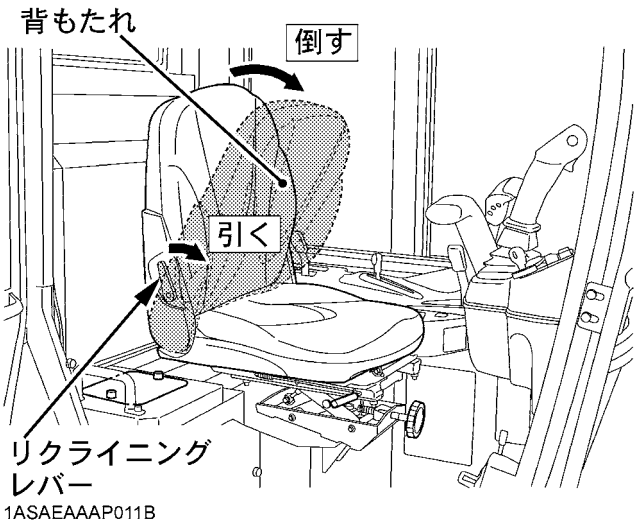
運転席は，**前，後**方向に調節が行なえます。調節は，前後調節レバーを引いて行なってください。また，運転席に座ったときの硬さ調整が行なえます。調整は，硬さ調整ダイヤルを回して行なってください。



1ASAEAAAP011A

補　足

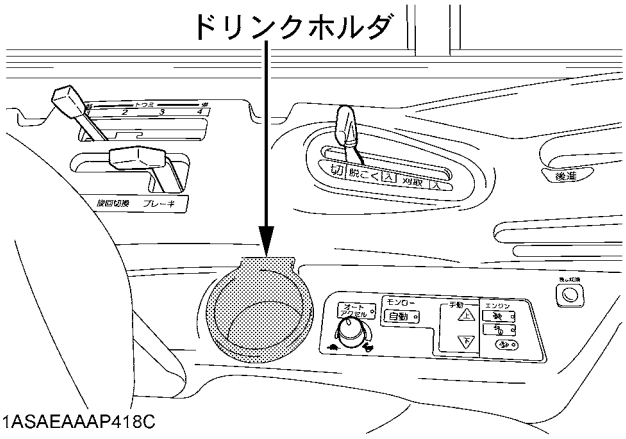
＊ 運転席の背もたれは，リクライニングレバーを引いて前方へ倒すことができます。元に戻すときは，背もたれをロックするまで後方に引いてください。



1ASAEAAAP011B

■ドリンクホルダ

飲料水の置き場として使用してください。



1ASAEAAAP418C

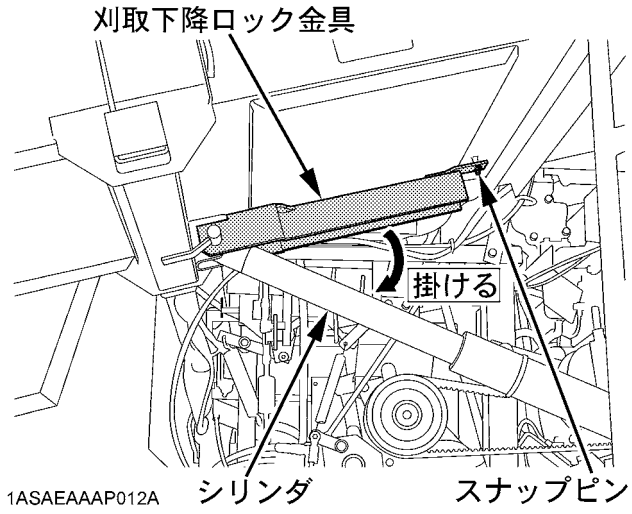
補　足

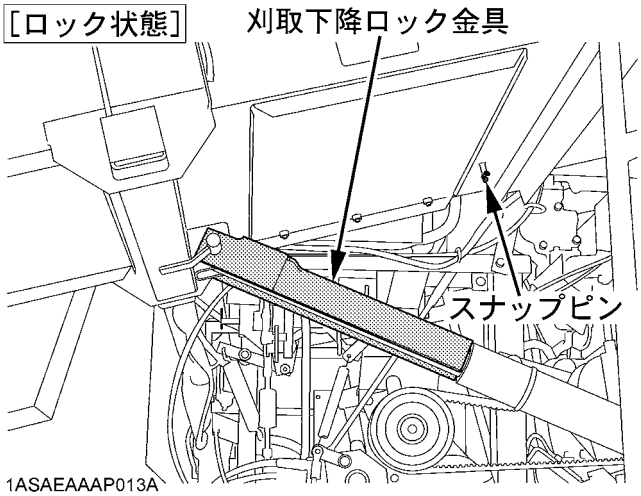
＊ 飲料水がこぼれないように注意してください。

◆ 刈取・脱こく関係

■刈取下降ロック金具

刈取部の下降防止を行なうロック金具です。ロック金具をシリンダに掛けるとパワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。刈取部のロックを行なうときは，スナップピンを外したあと，シリンダにロック金具を掛けます。





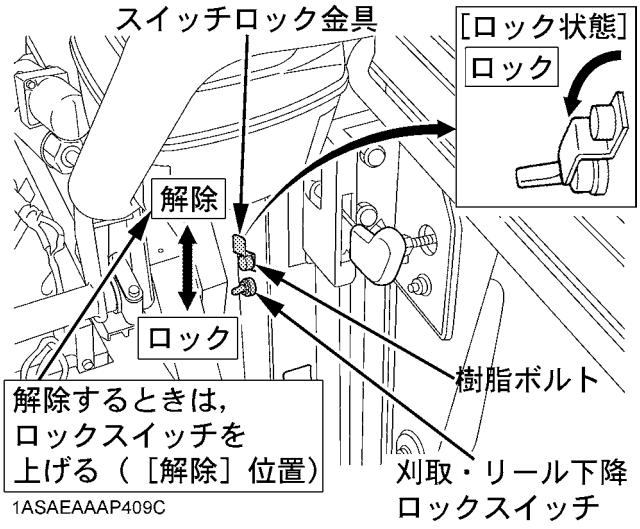
補　足

＊ スナップピンを取外したあと，元の位置にスナップピンを取付けてください。

＊ エンジンを始動しないと，刈取部は上昇・下降しません。

■刈取・リール下降ロックスイッチ

刈取部及びリールの下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを下げる（**[ロック]** 位置）とパワーステアリングレバーを操作しても刈取部及びリールは下降しません。

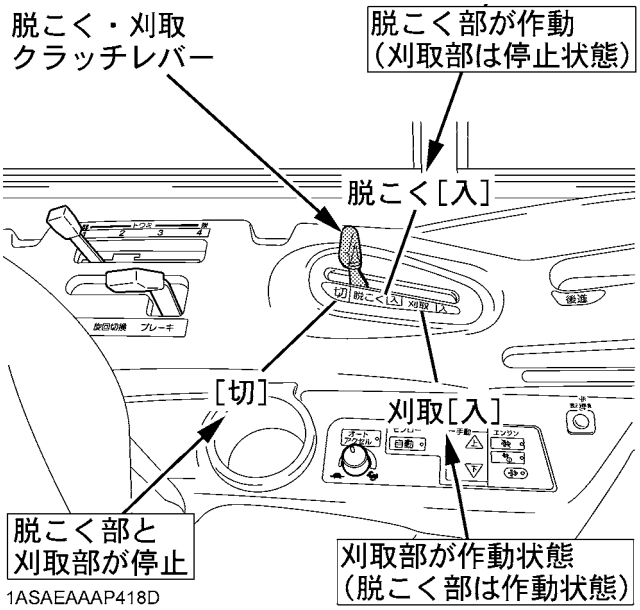


補　足

＊ エンジンを始動しないと刈取部及びリールは上昇，下降しません。

■脱こく・刈取クラッチレバー

脱こく部と刈取部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。



1ASAEAAAP418D

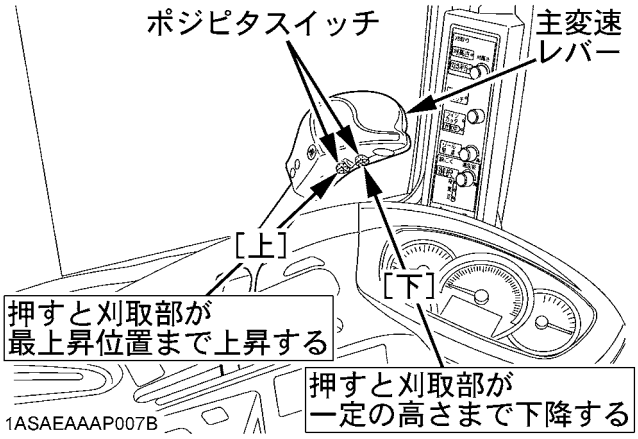
補　足

＊ 脱こく・刈取クラッチレバーが**脱こく［入］**又は，**刈取［入］**位置でエンジンを始動しようとすると，液晶ディスプレイに**［脱こくクラッチを切る］**と表示します。

＊ 脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置から**脱こく［入］**位置に切換えるときは，レバーを少し手前に引いてから操作してください。

■ポジピタスイッチ

刈取作業中に，ポジピタスイッチを押すと刈取部が**上昇⟷下降**します。



1ASAEAAAP007B

補　足

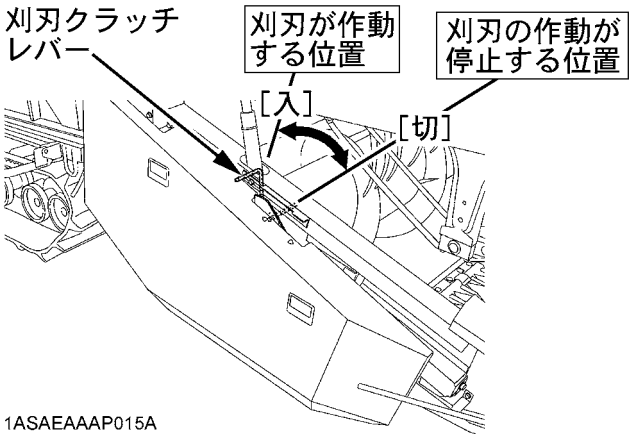
＊ ポジピタスイッチは脱こく・刈取クラッチレバーを**［脱こく］**位置及び**［刈取］**位置にするとはたらきます。

＊ リールが上がっている状態でポジピタスイッチの**［上］**を押すと，刈取部が**最上昇**位置まで上昇し，リールが**最下降**位置まで下降します。

＊ ポジピタスイッチの**［下］**を押すと，刈取部が一定の高さまで下降し，リールはポジピタスイッチの**［上］**を押す前の高さに戻ります。

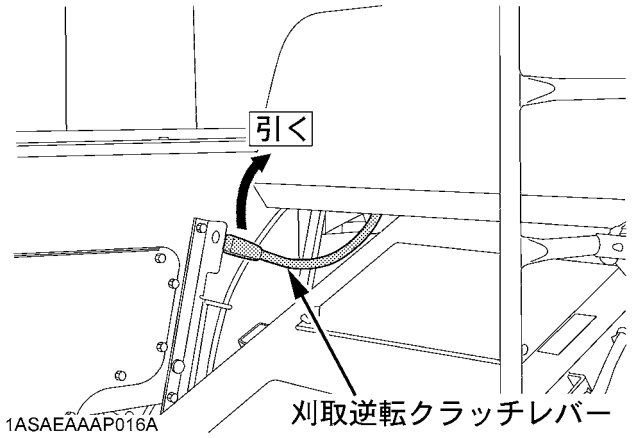
■刈刃クラッチレバー

刈刃の動力を**入・切**するクラッチレバーです。



■刈取逆転クラッチレバー

刈取作業中に刈取部やフィーダ内にかんが詰まり，刈取部やフィーダ搬送部から大きな音が発生したり，刈取部が停止するなど異常が発生したとき，刈取部の駆動を逆転させて，異物を取除くためのレバーです。



補　足

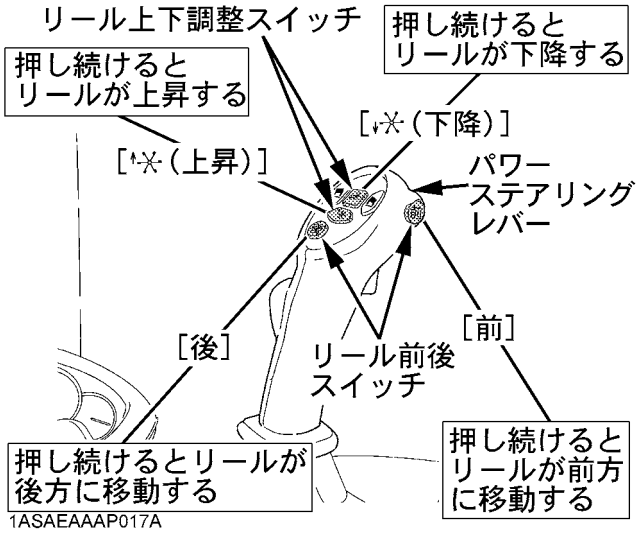
＊ 刈取逆転クラッチレバーの使いかたは，253 ページを参照してください。

■リール上下調整スイッチ・リール前後調整スイッチ・リール回転速度調整スイッチ

リールの各調整操作を行なうスイッチです。

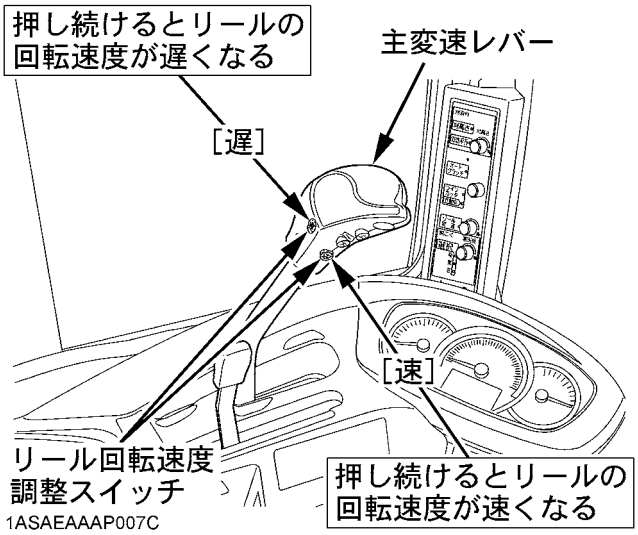
- **リール上下調整スイッチ**
- **リール前後調整スイッチ**

リール上下調整スイッチ，リール前後調整スイッチはパワーステアリングレバーにあるリールの上昇・下降及び，前後方向の移動操作を行なうスイッチです。操作を行なうときは，スイッチを押し続けてください。また，スイッチから指を離すと，リールはその位置で停止します。



● リール回転速度調整スイッチ

リール回転速度調整スイッチは，主変速レバーにあるリールの回転速度の調整を行なうスイッチです。操作を行なうときは，スイッチを押し続けてください。また，スイッチから指を離すと，リールの回転速度はスイッチを押す前の回転速度になります。



1ASAEAAAP007C

補　足

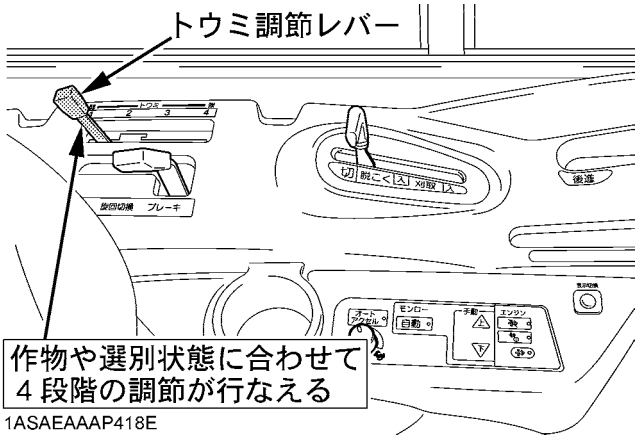
＊ リール回転速度調整スイッチは，刈取作業中の作物状態（倒伏作物の刈取りやヘッドロスが増加したときなど）に合わせて，一時的にリールの回転速度を速くしたい又は，遅くしたいときに使用してください。(113 ページ参照)

＊ リール回転速度調整スイッチを押し続けると，一定時間でリールの回転速度が最も速くなる又は，遅くなります。

＊ リール回転速度調整スイッチを操作（28 ページ参照）すると，自動リール回転制御が **[入]**，**[切]** に関係なく手動スイッチによる操作が優先されます。

■トウミ調節レバー

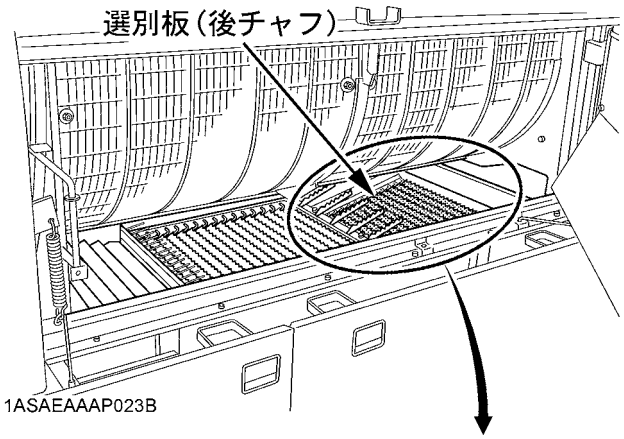
トウミの風力調節を行なうレバーです。



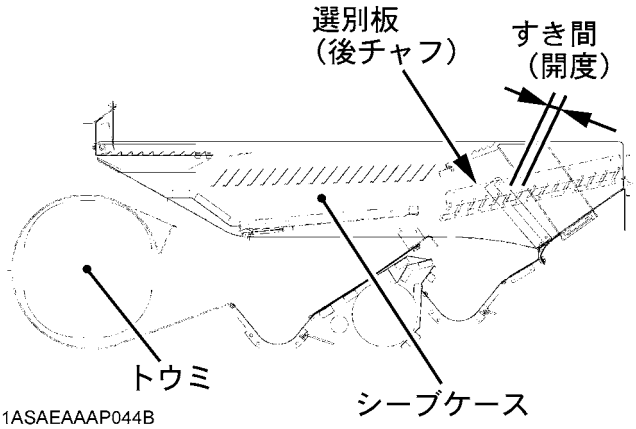
1ASAEAAAP418E

■後チャフ調節レバー

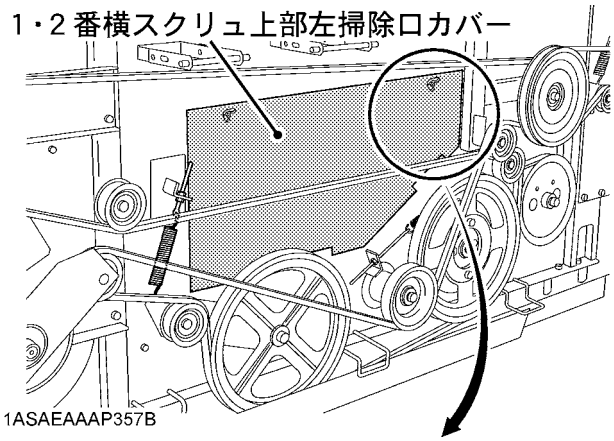
シーブケース左後部にある選別板のすき間（開度）の調節を行なうレバーです。



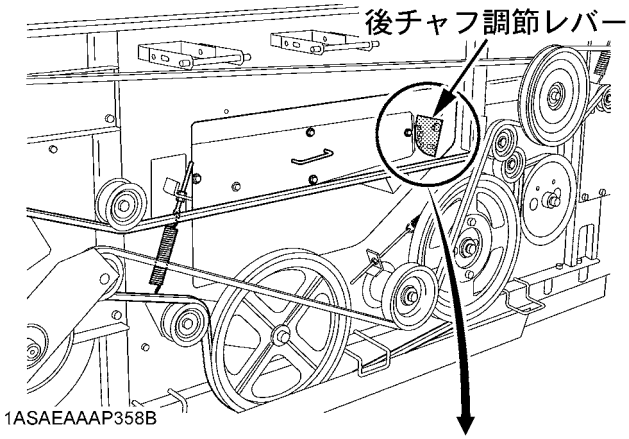
1ASAEAAAP023B



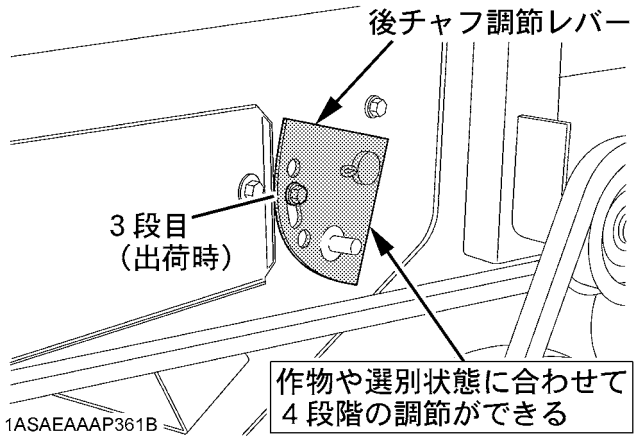
1ASAEAAAP044B



1ASAEAAAP357B



1ASAEAAAP358B



1ASAEAAAP361B

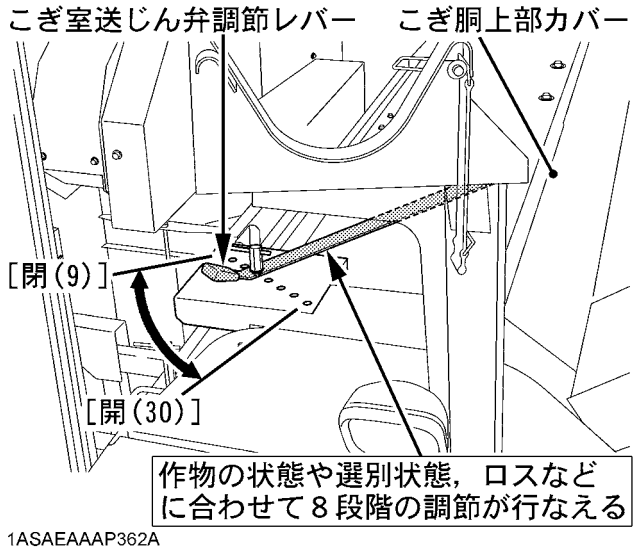
補　足

＊ チャフ調節レバーは，脱こく左サイドカバー２を取外し，１・２番横スクリュ上部左掃除口カバーを取外すとあります。

＊ 出荷時は，下から**3段目**位置です。

■こぎ室送じん弁調節レバー

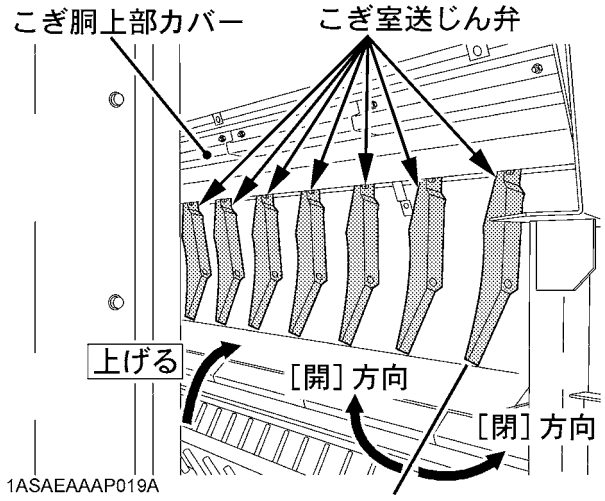
脱こく部の負荷を調節するレバーです。調節レバーを操作すると，こぎ室送じん弁の開閉を８段階で調節することができます。



1ASAEAAAP362A

補　足

＊ こぎ室送じん弁はこぎ胴上部カバーを上げると裏側にあります。

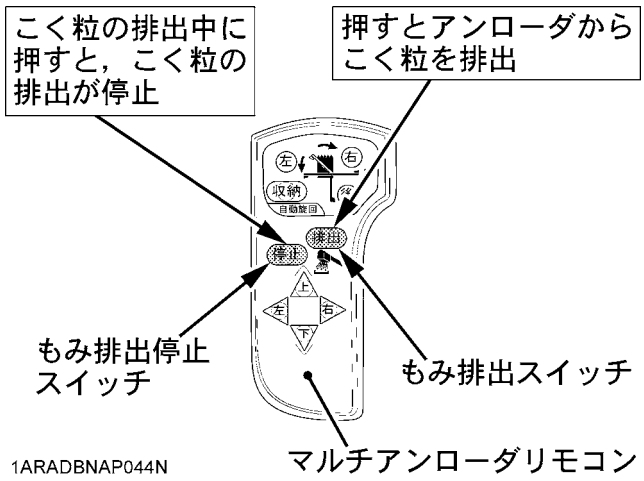


1ASAEAAAP019A

◆ グレンタンク関係

■もみ排出スイッチ

グレンタンク内のこく粒の排出操作を行なうスイッチです。



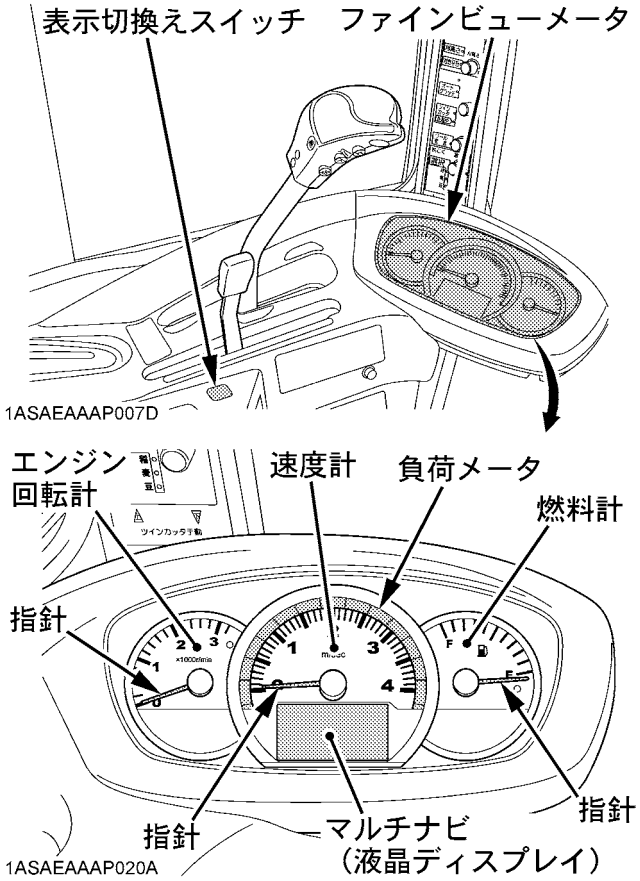
1ARADBNAP044N

補　足

＊ エンジン始動中，アンローダが収納状態では，もみ排出スイッチを操作しても，こく粒は排出されません。

◆ 電装関係

■ファインビューメータ



補　足

＊ メインスイッチのキーを**【切】**位置から**【入】**位置にすると，各ランプが一定時間全て点灯（ランプ点灯確認）すると同時に，各メータの指針が動きます。（作動確認）

◆各メータ

● エンジン回転計（単位：r/min(rpm)）

１分間のエンジン回転数を指針で表示します。

● 燃料計

燃料の残量を指針で表示（**【E】**〔空〕⟷**【F】**〔満タン〕）します。

● 速度計（単位：m/s）

１秒間に進む距離を指針で表示します。

補　足

＊ ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。

● 負荷メータ

刈取作業中にエンジンにかかる負荷の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

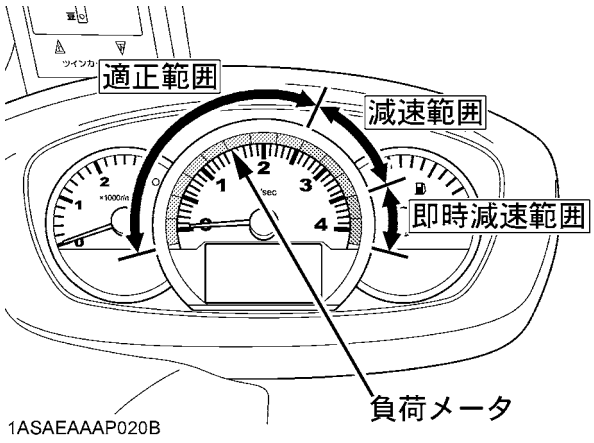
補　足

＊ エンジン回転数は，負荷が大きくなるほど下がります。負荷メータのランプ点灯表示で以下のようになります。

適正状態…　適正範囲：負荷メータ８目盛
⬇　（ランプ：緑色）

減速……　減速範囲：負荷メータ３目盛
⬇　（ランプ：オレンジ色）

即時減速…　即時減速範囲：負荷メータ２目盛
（ランプ：赤色）



◆ マルチナビ

マルチナビは機械の状態や状況（通常作業時，異常発生時，誤操作時など）に応じて，液晶ディスプレイに必要な情報を表示します。

補　足

＊ 表示切換えスイッチは，液晶ディスプレイに異常や警報を表示したときに通常表示に戻す場合やメンテナンス作業で使用します。

1. 移動走行・通常作業時

(1)［アワメータ・オイル・充電］表示

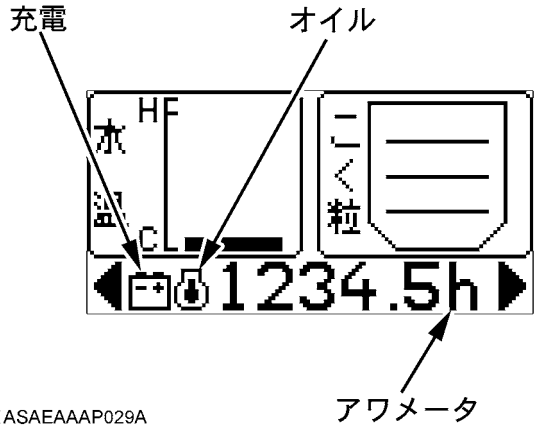
駐車ブレーキが掛かっていない状態でメインスイッチのキーを**［切］**位置から**［入］**位置にすると表示します。（エンジンは停止状態）

● **アワメータ**表示**（単位：h［時間］）**

エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。

● **オイル・充電**表示

オイルの圧力と充電状態に異常が発生したとき，警報を出す準備状態にあることを表示します。



1ASAEAAAP029A

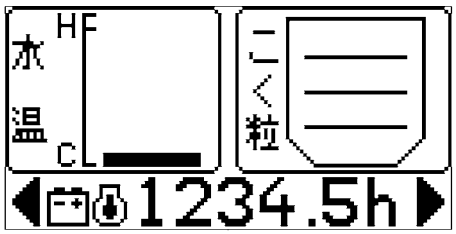
重　要

＊ 異常が発生したときは，直ちに購入先に連絡してください。

＊ メインスイッチのキーが**［入］**で，エンジンが停止状態では，表示していますが，表示が消えているときは，警報機能に異常があります。その場合は，直ちに購入先に連絡してください。

(2)［水温 / こく粒］表示

エンジン始動後，作業時の基本表示**［水温 / こく粒］**を表示します。



1ASAEAAAP029B

補　足

＊ エンジン始動中，異常発生時以外のときは，オイル・充電表示はされません。

2. 異常発生時

補　足

＊ 処置については 125 ページを参照してください。

● **表示**

燃料を給油	燃料を給油 して下さい	燃料の残量が少なくなると表示します。
充電系異常	充電系統が 異常です	充電系統に異常が発生すると表示します。
エンジン油圧異常	ｴﾝｼﾞﾝ油圧 異常です	エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると表示します。
オーバーヒート	オーバー ヒート	エンジンの冷却水温が高温になると表示します。
負荷	負荷	刈取作業中にエンジンに大きな負荷がかかると表示します。
こく粒満杯	こく粒が 満杯です	グレンタンク内のこく粒が満杯になると表示します。
１番	１番詰まり 点検する	１番バケットコンベアが詰まると表示します。
２番	２番詰まり 点検する	２番処理胴，２番縦スクリュが詰まると表示します。
こぎ胴	こぎ胴 点検する	こぎ室内に穀や排かんくずが詰まると表示します。
DPF	DPF異常	DPF が自動再生できなくなると表示します。
チョッパ	チョッパ 点検する	わら処理（チョッパ）部に排かんが詰まると表示します。

3. 誤操作時

● **表示**

旋回切換えを確認する	旋回切換 確認する	旋回切換えレバーが**［ブレーキ］／［ソフト］**各位置のどこにも入っていない状態で走行し，エンジンが自動停止すると表示します。
アンローダを上昇する	ｱﾝﾛｰﾀﾞ を 上昇する	アンローダ**下降不可範囲**内で，誤まったアンローダリモコンの操作をすると表示します。
アンローダを確認する	ｱﾝﾛｰﾀﾞ を 確認する	アンローダが収納位置以外の位置のとき，走行を開始すると表示します。

補　足

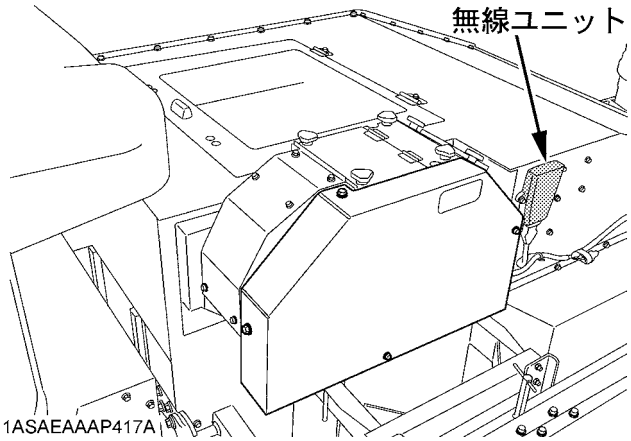
＊ **下降不可範囲**については，105 ページを参照してください。

エンジン始動時にメインスイッチのキーを**［始動］**位置にしたとき，始動条件を満たしていない場合，その内容を表示します。

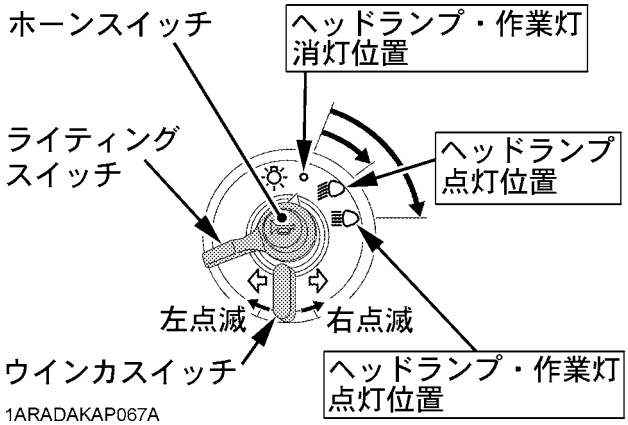
脱こくクラッチを切る	脱こくｸﾗｯﾁ を切る	脱こく・刈取クラッチレバーが**脱こく［入］**又は，**刈取［入］**位置のときに表示します。
主変速を中立にする	主変速を 中立にする	主変速レバーが**［停止］**（中立）位置以外のときに表示します。
駐車ブレーキを踏む	駐車 ﾌﾞﾚｰｷ を踏む	駐車ブレーキペダルを踏んでいないときに表示します。
もみクラッチを切る	もみ ｸﾗｯﾁ を 切る	もみ排出クラッチが**［入］**のときに表示します。

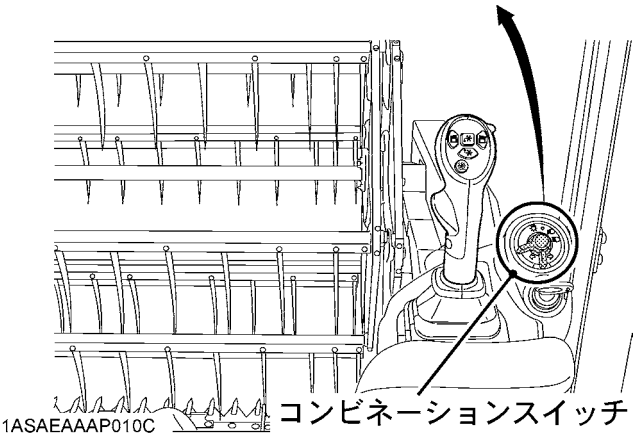
■無線ユニット

別途システムを利用し，無線通信を行なうためのユニットです。
詳細については購入先にご相談ください。



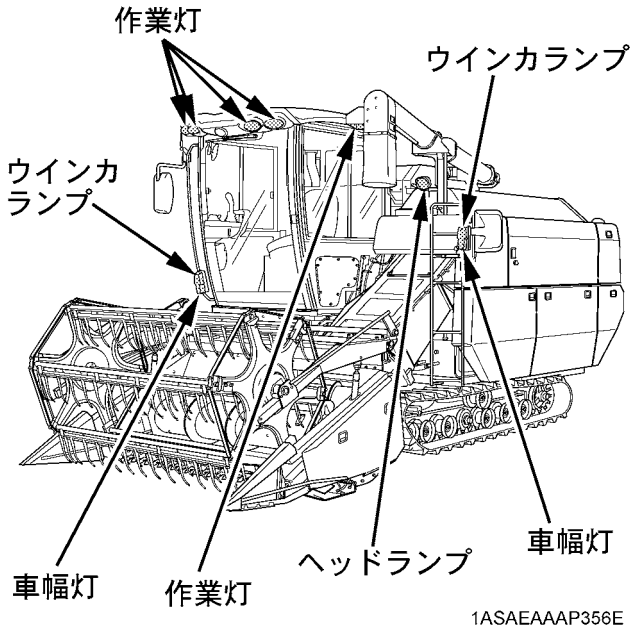
■コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ

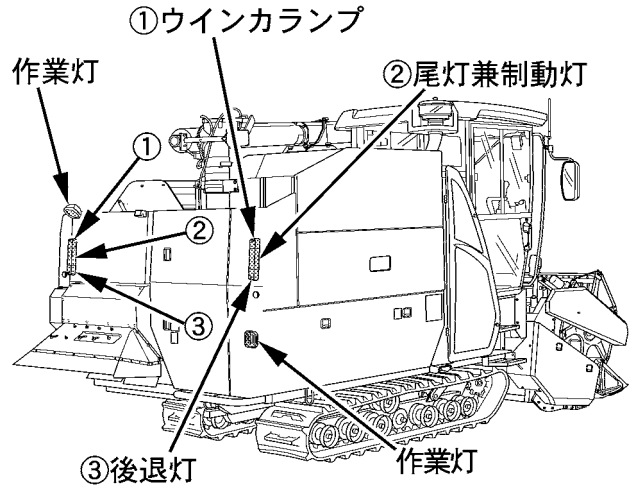




● ライティングスイッチ

スイッチを操作するとランプが点灯します。

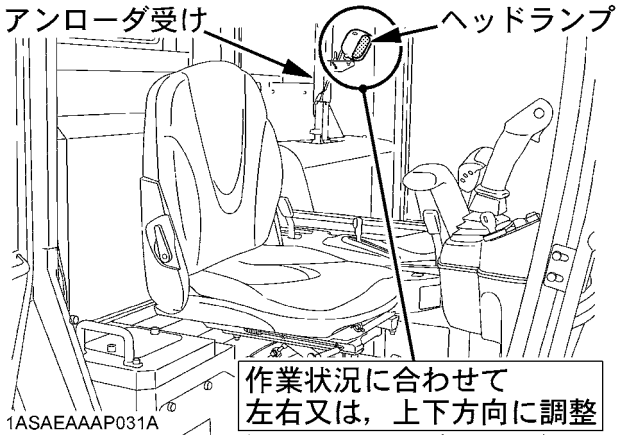




1ASAEAAAP415C

補　足

＊ アンローダ受けに取付けているヘッドランプは，作業状況に合わせて左右又は，上下方向に動かして調整してください。特に周囲が暗くなり運転操作部や刈取部付近が見えにくいときに使用してください。



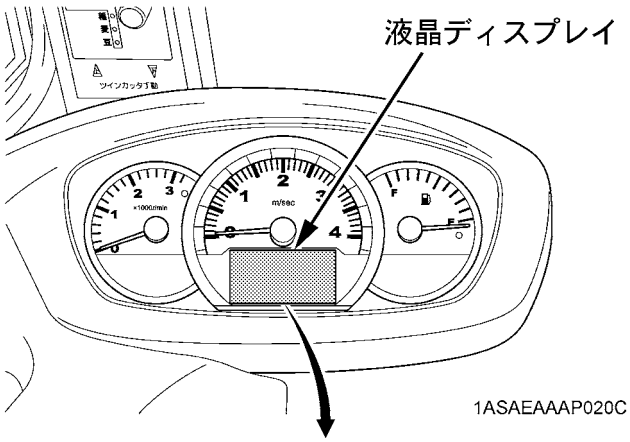
1ASAEAAAP031A

● **ホーンスイッチ**

ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

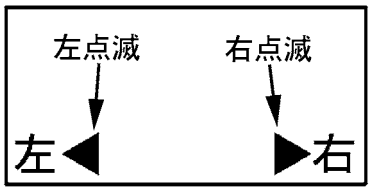
● **ウインカスイッチ**

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅すると同時にマルチナビの液晶ディスプレイにウインカ表示が点滅します。



1ASAEAAAP020C

［ウインカ表示ランプ］



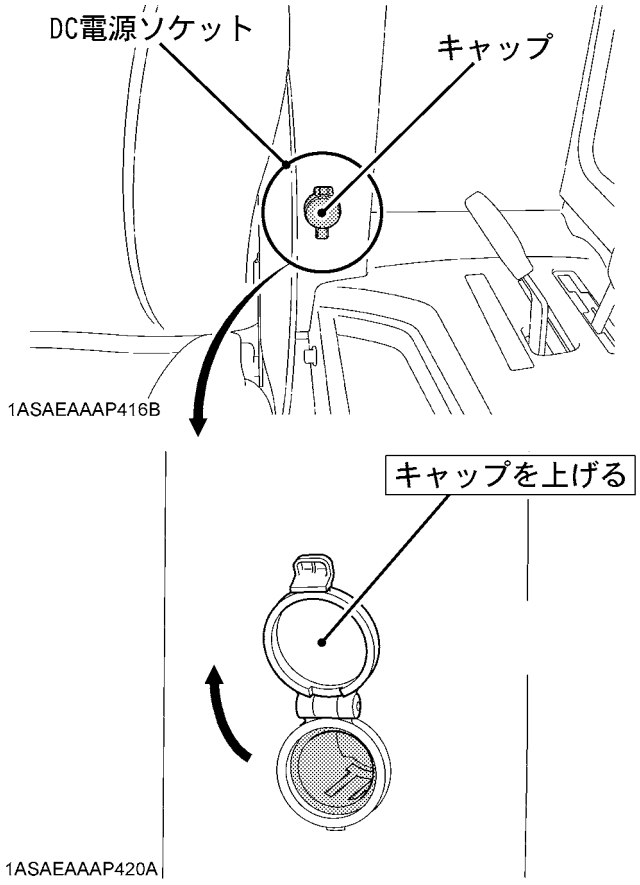
1ARAEASAP189C

重　要

＊ ウインカスイッチを操作したとき，ウインカ表示（**[左◀]** 又は，**[▶右]**）が高速点滅（いつもより点滅速度が速い）したときは，ウインカランプの故障又は，ハーネスのカプラの接続不良が発生しています。（処置については，239，242 ページを参照してください）

■ DC 電源ソケット

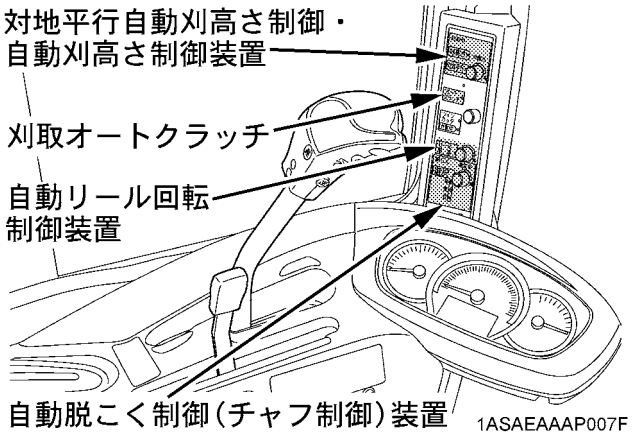
12V 用電源として使用してください。使用するときは，キャップを上げてソケットを差込んでください。また，使用後はキャップを閉じてください。

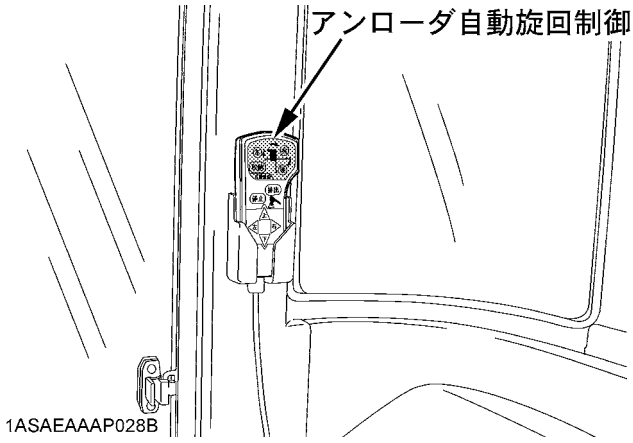


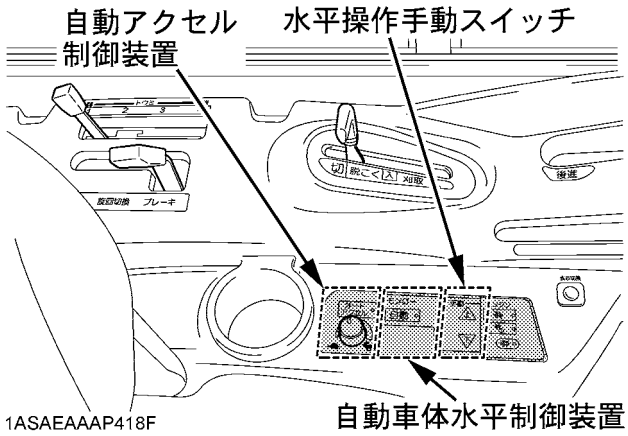
補　足

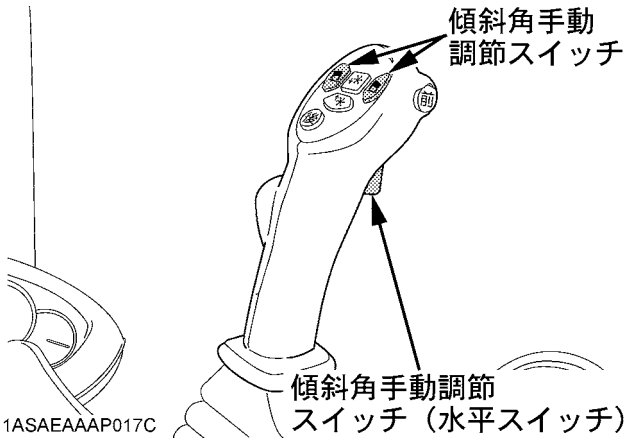
＊ DC 電源の最大容量は 120W です。
＊ 電源ソケットはメインスイッチが **【切】** 位置のときには使用できません。

自動化装置の名称とはたらき



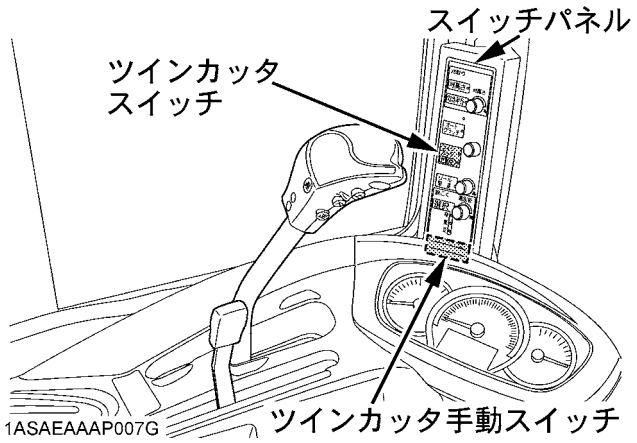






補　足

＊ スイッチパネルのツインカッタスイッチ及びツインカッタ手動スイッチは，オプション部品のツインカッタを装着した場合に使用するスイッチです。



◆ エンジン操作関係

■自動アクセル制御装置

自動アクセル制御は，刈取作業やこく粒排出作業又は，移動走行時のエンジン回転数を制御する装置です。

自動アクセル制御が**［入］**のとき，下記エンジン回転数自動上昇条件のいずれかの操作が行なわれると，エンジン回転数がアクセルダイヤルで設定した回転数まで自動上昇します。また，下記条件の全ての操作が解除されるとエンジンの回転数がアイドリング回転数となります。

〈エンジン回転数自動上昇条件〉

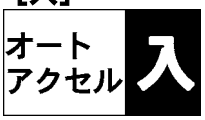
- 脱こく・刈取クラッチレバー……**脱こく［入］**
- もみ排出スイッチ……**［排出］**
- 主変速レバー……前進・後進操作（中立レバー**［N］（中立）**位置以外）

自動アクセル制御**［切］**のときは，エンジン回転数はアクセルダイヤルで設定した回転数となります。

● オートアクセルスイッチ

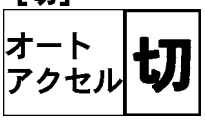
自動アクセル制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**オートアクセル［入］／［切］**を一定時間表示します。

自動アクセル制御
［入］……

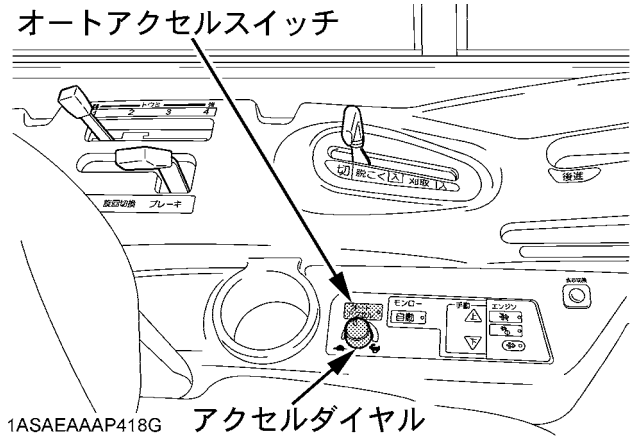


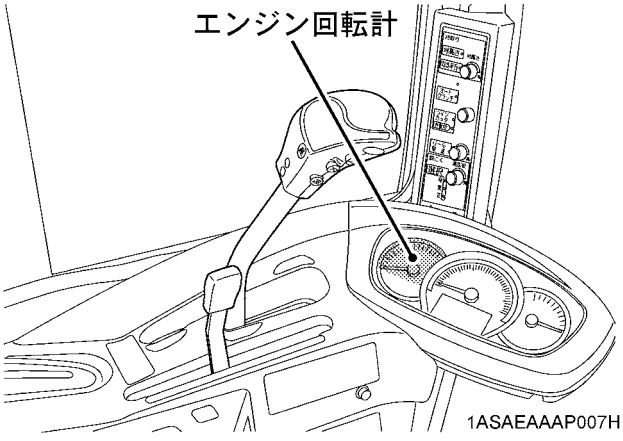
ランプが点灯し，自動アクセル制御が作動します。

自動アクセル制御
［切］……



ランプが消灯し，自動アクセル制御が解除されます。





補　足

＊ 自動アクセル制御がはたらいているとき，アクセルダイヤルを回すと，アクセルダイヤルで設定したエンジン回転数となります。

◆ 走行操作関係

■自動車体水平制御装置（モンロー）

自動車体水平制御装置は，脱こく部が作動しているときに機体が左・右に傾くと，自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

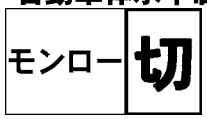
● 水平自動スイッチ

自動車体水平制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**モンロー［入］／［切］**を一定時間表示します。

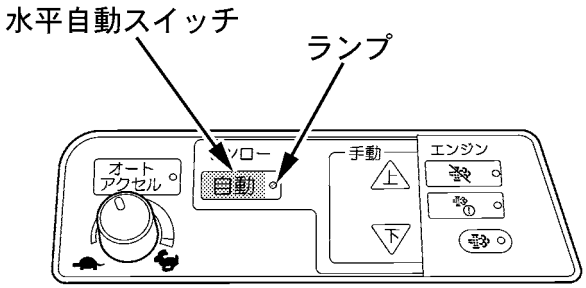
自動車体水平制御［入］……

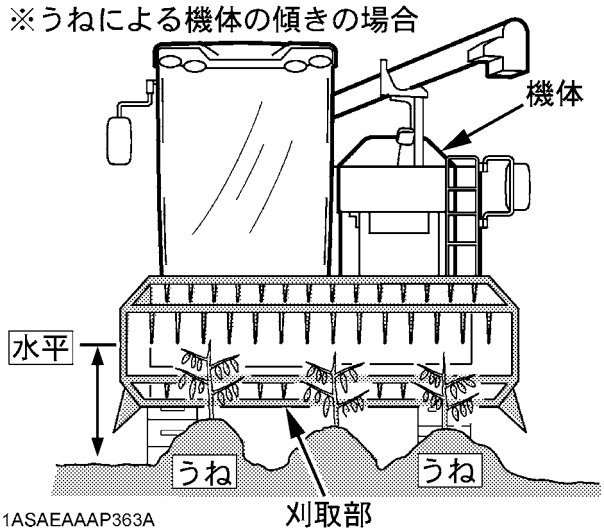
ランプが点灯し，自動制御が作動します。

自動車体水平制御［切］……



ランプが消灯し，自動車体水平制御が解除されます。



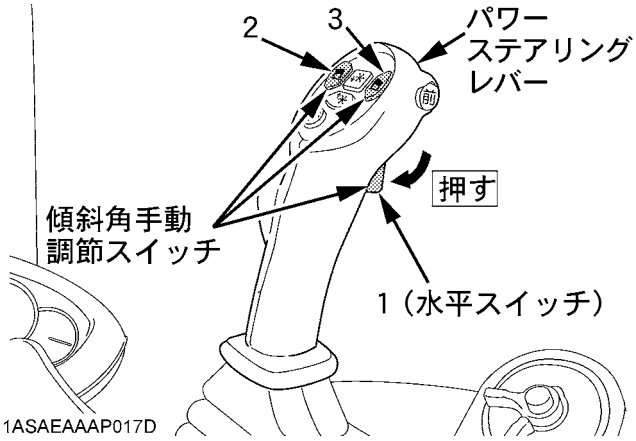


補　足

＊ 自動で作業した後，脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にする又は，水平自動スイッチを**【切】**にすると，機体は左右共に**最下降位置**まで下がります。（下限復帰）また，下降中に，水平操作手動スイッチを操作すると下降が停止します。

● 傾斜角手動調節スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき，機体を左又は，右に傾けた状態で制御をはたらかせるスイッチです。スイッチはパワーステアリングレバーにあります。



1ASAEAAAP017D

1（水平スイッチ）… スイッチパネルはスイッチを押す又は，パワーステアリングレバーはスイッチを押すと，左右水平となる状態で制御します。

2 （右上）… スイッチを押している間，機体が**右上り**になります。また，スイッチから手を離すと，そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

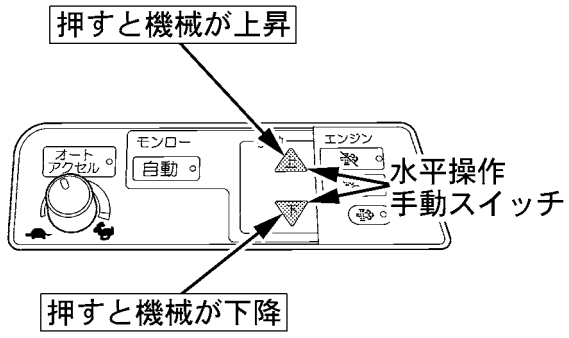
3 （左上）… スイッチを押している間，機体が**左上り**になります。また，スイッチから手を離すと，そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

補　足

＊ 傾斜角手動調節スイッチの**【】**又は，**【】**を押している間機体が傾きます。
＊ 水平自動スイッチが**【切】**で自動車体水平制御が解除されているとき，**【】**又は，**【】**スイッチを押すと機体がその方向に傾きます。また，水平スイッチを押すと機体は**最下降位置**まで下降します。
＊ スイッチは他のスイッチと同時に操作しないでください。

■水平操作手動スイッチ

機体の**上昇⟷下降**を行なう手動の操作スイッチです。



1ASAEAAAP421B

補　足

＊ 水平操作手動スイッチを押している間機体が上昇又は，下降します。
＊ 傾斜地では操作しないでください。
＊ モンロー操作時（特に全上昇，全下降）は，エンジン回転数を上げてください。

◆ 刈取・脱こく関係

■自動リール回転制御装置

自動リール回転制御装置は，刈取作業中のリールの回転速度を制御する装置です。刈取速度に応じて自動的に最適なリールの回転速度を保ちます。

● リール変速自動スイッチ

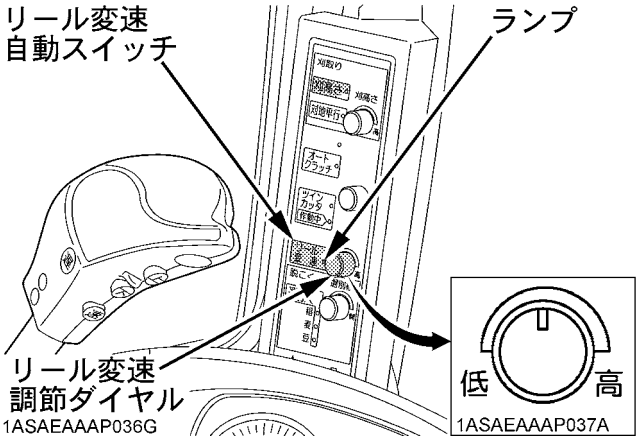
自動リール回転制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイにリール**［入］／［切］**を一定時間表示します。

自動リール回転制御［入］……　ランプが点灯し，自動リール回転制御が作動します。

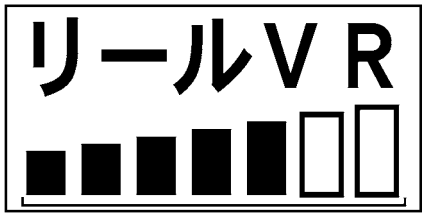
自動リール回転制御［切］……　ランプが消灯し，自動リール回転制御が解除されます。

● リール変速調節ダイヤル

作物の刈取方向や倒伏状態に応じてリール回転速度の調整を行なうダイヤルです。リールの回転数はダイヤルを**時計方向**に回すと**速く**なり，**反時計方向**に回すと**遅く**なります。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに７段階の目盛りを表示します。



［液晶表示］



遅い ⟵ リール回転速度 ⟶ 速い

1ASAEAAAP038A

補　足

＊ 自動リール回転制御がはたらいているとき，リール変速調節ダイヤルを操作すると，刈取速度に応じてリール回転速度が増減します。

＊ 自動リール回転制御が解除されているとき，リール変速調節ダイヤルを操作すると，リール回転速度は固定し，ダイヤル調整位置に応じた一定の回転速度となります。

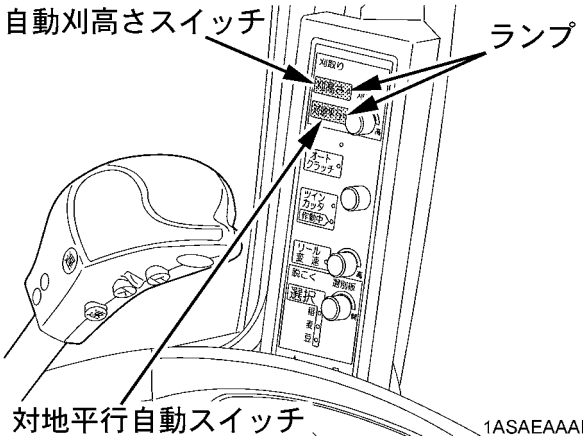
＊ リール回転速度調整スイッチ（手動スイッチ）を操作（14 ページ参照）すると，自動リール回転制御が**［入］**，**［切］**に関係なく手動スイッチによる操作が優先されます。

■対地平行自動刈高さ制御装置（ロイヤルモンロー）・自動刈高さ制御装置

対地平行自動刈高さ制御装置は，うねの高さが異なるところで刈取作業を行なったとき，刈取部を自動的に異なるうねの高さに対して一定の高さ及び平行状態に修正・保持する装置です。また，自動刈高さ制御装置は，刈取作業中に刈取部の高さを地面に対して，一定の高さに修正・保持する装置です。

● 対地平行自動スイッチ／刈高さ自動スイッチ

対地平行自動刈高さ制御又は，自動刈高さ制御の切換え及び制御の**入／切**をするスイッチです。
刈取作物やほ場状態に合わせて対地平行自動刈高さ制御又は，自動刈高さ制御を選択してください。また，スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに対地平行又は，刈高**［入］／［切］**を一定時間表示します。

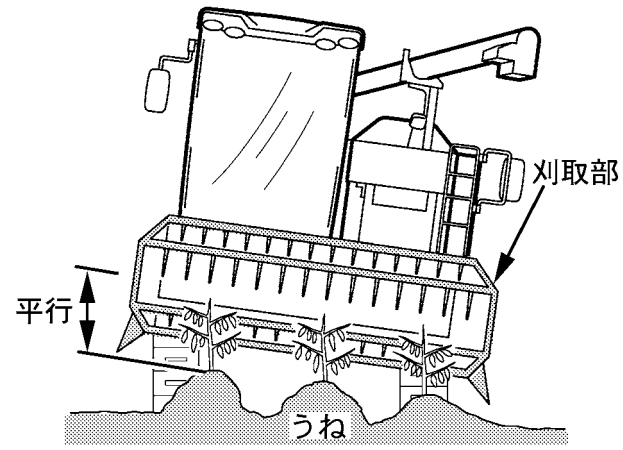


自動刈高さ制御［入］…… ランプが点灯し，自動刈高さ制御が作動します。

自動刈高さ制御［切］…… ランプが消灯し，自動刈高さ制御が解除されます。

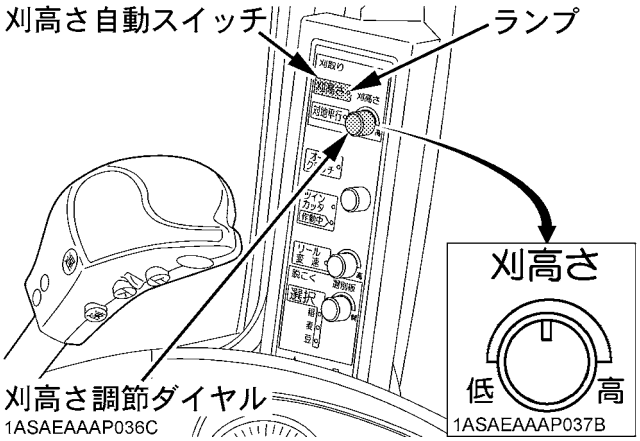
対地平行自動刈高さ制御［入］… ランプが点灯し，対地平行自動刈高さ制御が作動します。

対地平行自動刈高さ制御［切］… ランプが消灯し，対地平行自動刈高さ制御が解除されます。



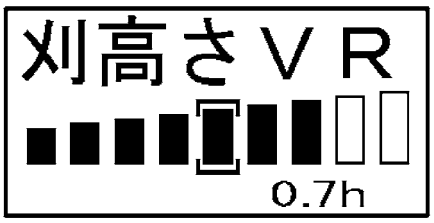
● **刈高さ調節ダイヤル**

ほ場条件に応じて刈取部の高さ調節を行なうダイヤルです。刈高さはダイヤルを**時計方向**に回すと**高く**なり，**反時計方向**に回すと**低く**なります。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに９段階の目盛で刈取部の高さを表示します。



1ASAEAAAP036C　1ASAEAAAP037B

［液晶表示］



低い ⟵ 刈高さ ⟶ 高い

1ARAEASAP313A

補　足

＊ 対地平行制御がはたらいているときでも，パワーステアリングレバーによる操作が優先されます。

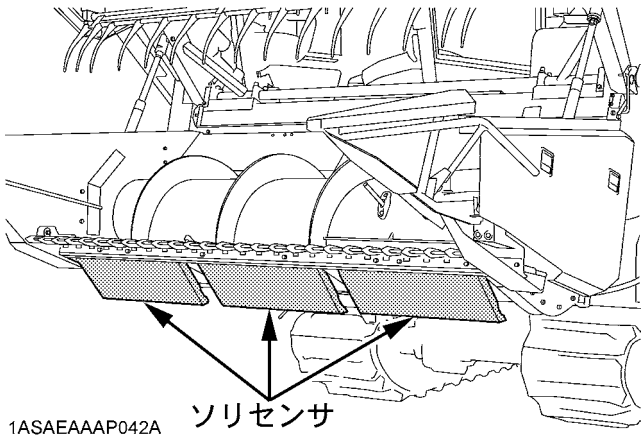
＊ 自動スイッチを押して対地平行刈高さ又は，自動刈高さ制御の切換えを行ないますが，さらにもう一度自動スイッチを押すと自動制御が解除され，ランプが消灯します。

＊ 通常は自動制御を対地平行自動刈高さ制御にして刈取作業を行ないますが，下記のような場合は自動刈高さ制御に切換えてください。
- 枕地のあるほ場での回り刈り作業時
- 刈取る進行方向の凹凸の差が大きいほ場での刈取作業時（麦刈作業時など）

＊ 下記のようなほ場での刈取りを行なう場合，自動刈取高さ制御がはたらいていても刈取部ソリセンサの間に泥が入り込んだり，ソリセンサがはたらかずに自動制御がはたらかないときは，自動制御を**【切】**にしてパワーステアリングレバーを操作して刈取作業を行なってください。
- 起伏の多いほ場（大豆の横刈りなど）
- 湿地で人の足が５ cm 以上沈むほ場
- 枕地での刈取作業

＊ 刈高さ調節ダイヤルを**最低位置**で刈取作業を行なうと，刈取部から土が混入しやすくなるので特に注意しながら作業を行なってください。

＊ 刈取部下面の左，右のソリセンサがうねや地面に接触すると対地平行自動刈高さ制御又は，自動刈高さ制御がはたらき，離れると（非接触）自動車体水平制御がはたらきます。



1ASAEAAAP042A

■刈取オートクラッチ

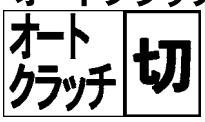
刈取オートクラッチは，刈取部及び脱こく部が作動中にパワーステアリングレバーやポジピタスイッチを操作したとき，刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部が停止し，一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

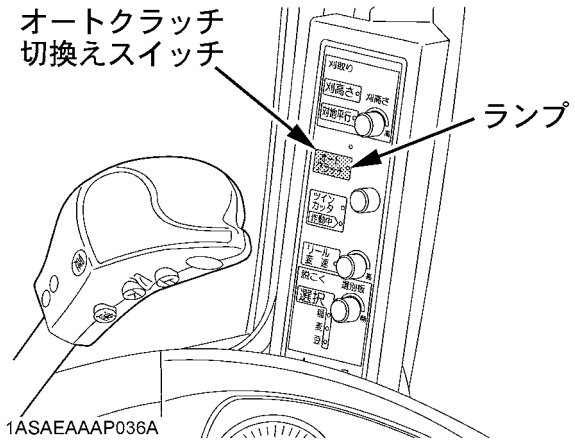
● オートクラッチ切換えスイッチ

刈取オートクラッチの**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**オートクラッチ［入］／［切］**を一定時間表示します。

オートクラッチ［入］… ランプが点灯し，刈取オートクラッチが作動します。

オートクラッチ［切］… ランプが消灯し，刈取オートクラッチが解除されます。





■自動脱こく制御（チャフ制御）装置

自動脱こく制御（チャフ制御）装置は，刈取速度の変化に対応してシーブケース選別板（チャフ）の開度を自動的に調節し（**作物選択［手動］**除く），安定した選別作業を行なう装置です。

● 作物（稲／麦／豆／手動）選択スイッチ

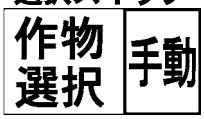
作物の種類や濡れ状態に合わせて選択を行なうスイッチです。選択スイッチを押すと**［稲］➡［麦］➡［豆］➡［手動］**の順に切換わります。また，ランプが点灯（**［手動］**はランプ消灯）し，液晶ディスプレイに**稲／麦／豆／手動／通常表示**の表示をします。

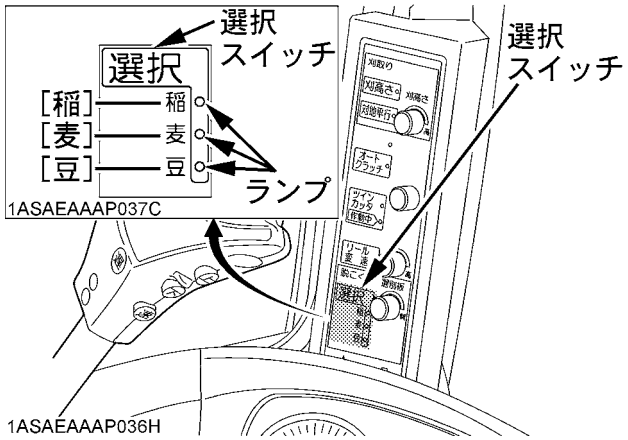
選択スイッチ［稲］…… 作物が稲のときに選択します。

選択スイッチ［麦］…… 作物が麦のときに選択します。

選択スイッチ［豆］…… 作物が豆・そばのときに選択します。

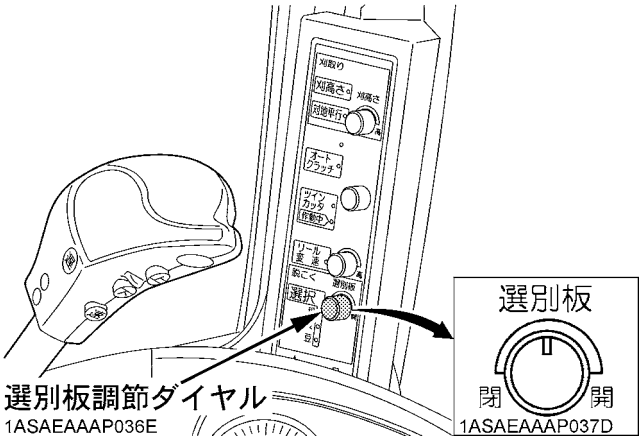
選択スイッチ［手動］… 濡れた作物を刈取るときや選別板の開度を固定するときに選択します。





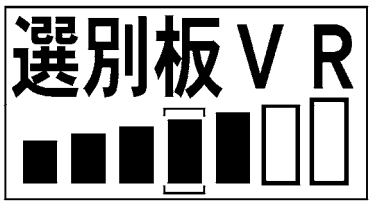
● **選別板調節ダイヤル**

シーブケース選別板（チャフ）の開度の調節を行なうダイヤルです。ダイヤルを**時計方向**に回すと**開き**，**反時計方向**に回すと**閉じ**ます。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに７段階の目盛で選別板の開度を表示します。



1ASAEAAAP036E　1ASAEAAAP037D

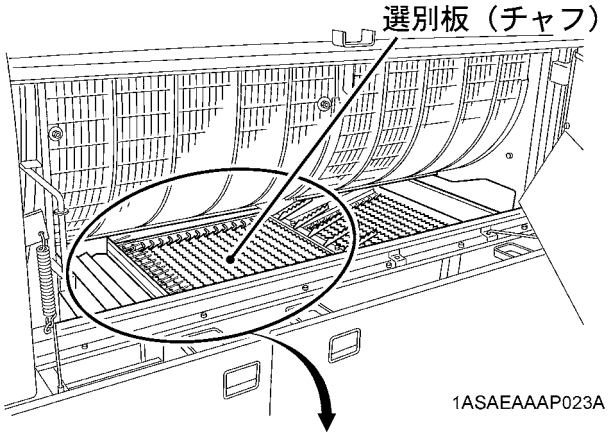
［液晶表示］



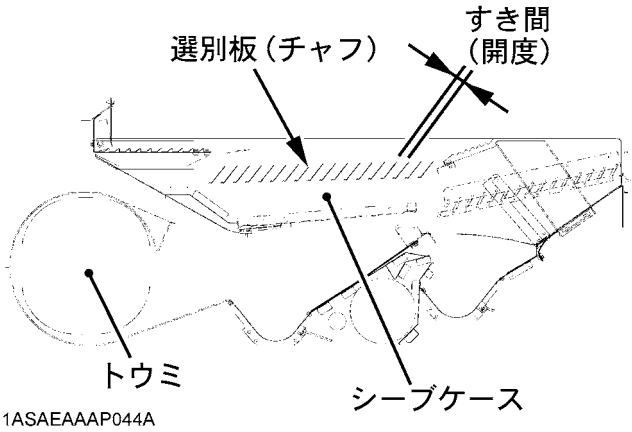
1ARAEASAP234A

補　足

＊ 作物選択スイッチで**［手動］**を選選択したときは，ダイヤルで選別板の開度及びトウミ調節レバー，トウミ調整プレートでトウミ風力を調節（117 ページ参照）してください。また，強湿材作物を刈取る場合は，選別板調節ダイヤルを**全開**（時計方向いっぱいまで回す）位置にしてください。



1ASAEAAAP023A



1ASAEAAAP044A

◆ グレンタンク関係

■アンローダ自動旋回制御装置

アンローダ自動旋回制御装置は，**[左]**・**[右]**・**[後]**の自動旋回スイッチの操作により，アンローダが**排出位置**に自動旋回し，収納スイッチの操作により，アンローダが**収納位置**に自動旋回する装置です。

● アンローダ自動旋回（左・右・後）スイッチ

アンローダ自動（左・右・後）旋回スイッチを押すと，アンローダが選択した排出位置まで自動旋回します。

補　足

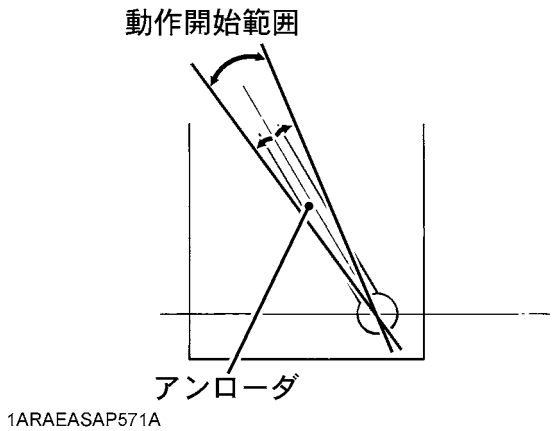
＊ アンローダが動作開始範囲外にあるときは，アンローダ自動旋回（左・右・後）スイッチを押してもアンローダは自動旋回しません。旋回するときは，アンローダ手動スイッチで手動で操作する又は，アンローダをいったんアンローダ受けに収納したあと，アンローダ自動旋回スイッチを操作してください。

● 収納スイッチ

収納スイッチを押すと，アンローダが収納位置まで自動旋回します。

補　足

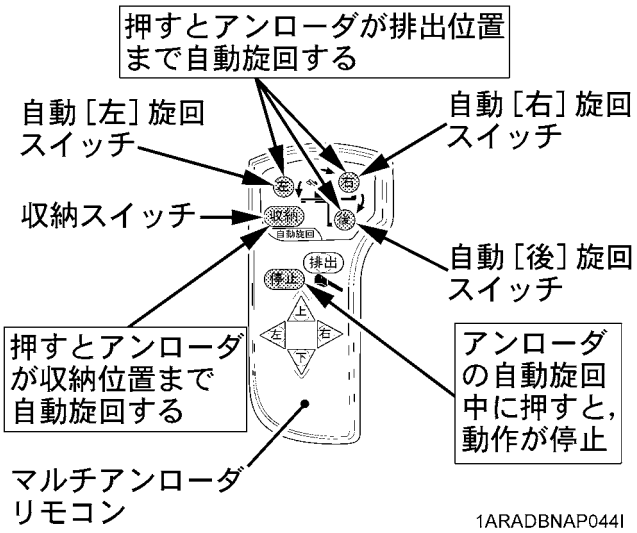
＊ アンローダが動作開始範囲内にあるときは，収納スイッチを押してもアンローダは収納しません。収納するときは，アンローダ手動スイッチで手動で操作してください。



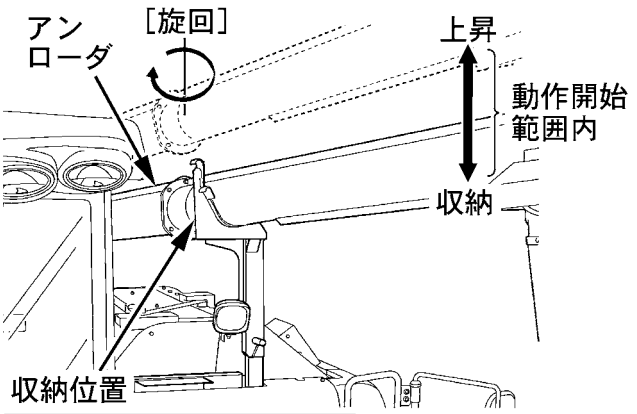
1ARAEASAP571A

● 停止スイッチ

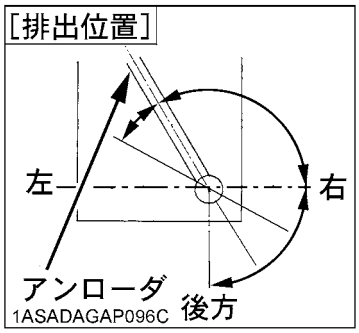
自動上昇・旋回・下降途中で停止スイッチを押すと，その位置でアンローダが停止します。



1ARADBNAP044I



1ASAEAAAP365A



1ASADAGAP096C

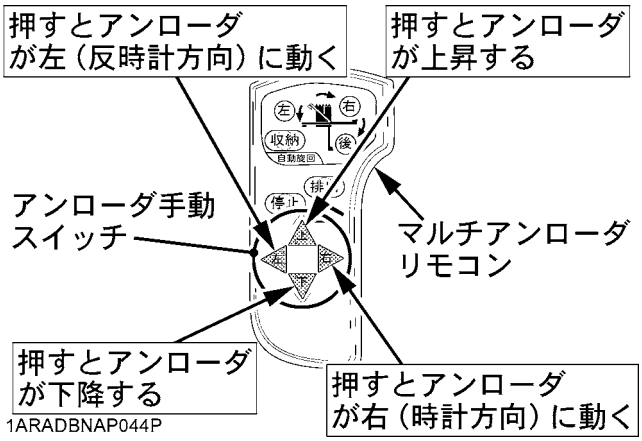
補　足

＊ 自動旋回制御装置作動中でもアンローダ手動スイッチの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

＊ 自動旋回制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，アンローダ自動旋回スイッチを押しても自動旋回は作動しません。10 秒程度待ってから自動スイッチを押す又は，停止スイッチを１度押してから自動スイッチを押してください。

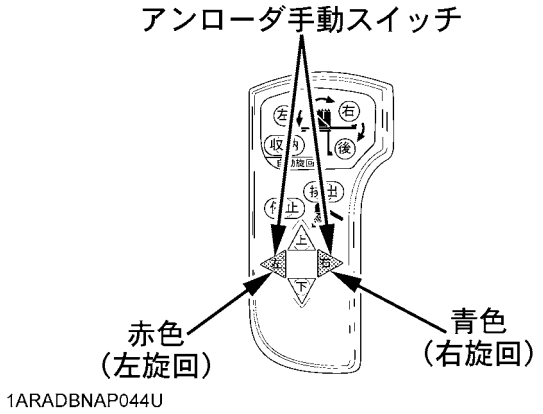
■アンローダ手動スイッチ

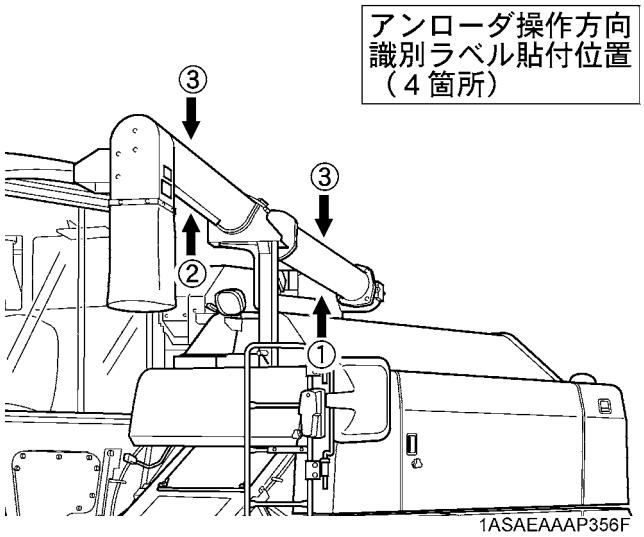
アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動の操作スイッチです。

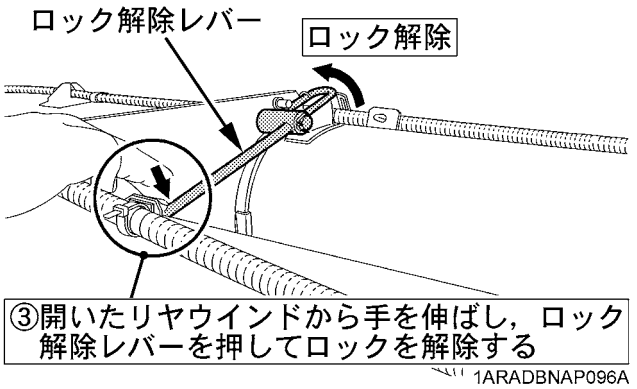


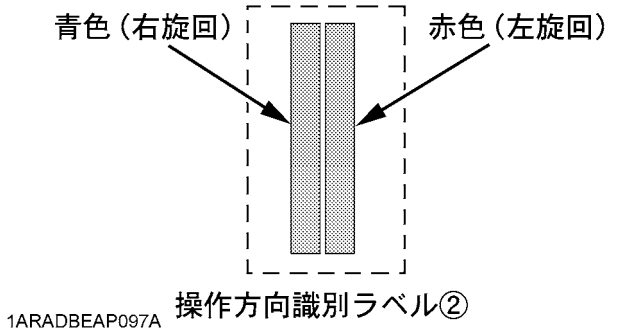
補　足

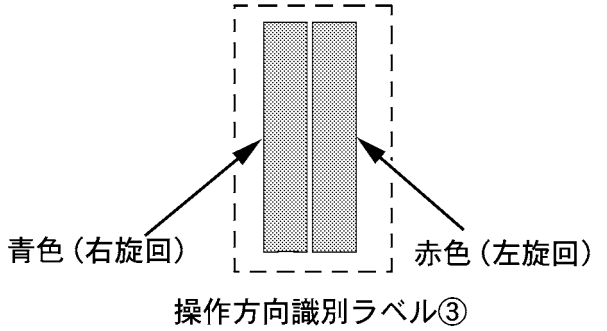
＊ アンローダ手動スイッチの **[左]**，**[右]** とアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダ手動スイッチを操作してください。アンローダ手動スイッチの **[左]（赤色）** を押すとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダ手動スイッチの **[右]（青色）** を押すとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。











DPF 装置（ディーゼル微粒子除去装置）のはたらきと取扱い

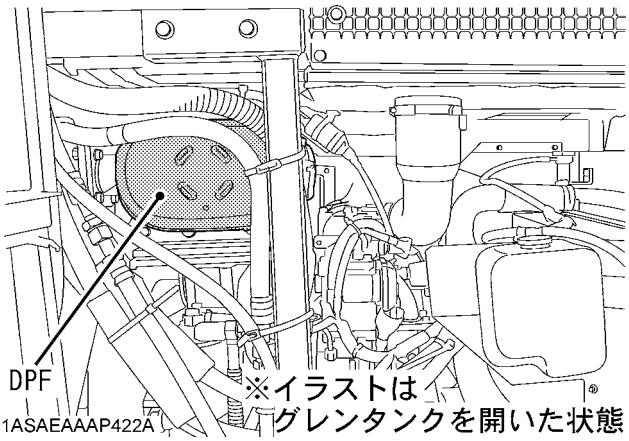
警　告

＊ 排気ガス中毒になるおそれや，DPF 再生中の高温状態の排気管やマフラに接触してヤケドや火災が発生する原因となるため，下記事項を遵守してください。
- **納屋や倉庫など換気の悪い場所では，再生処理を行なわないでください。**
- **再生処理を行なう前には，排気管やマフラ及び周辺部に，発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取除いてください。**
- **DPF 再生中は，排気管やマフラ及び周辺部に人を近付けないでください。また，コンバインからは離れないでください。**
- **自動再生モードでは刈取作業中でも再生処理が始まりますので，わらなどの燃えやすいものが多い場所の上ではコンバインを停止しないでください。また，コンバインを停止する場合は，排気管の後方にわらなどの燃えやすいものが少ない場所に停止してください。**
- **DPF再生中とその直後5分程度は，手こぎ作業をしないでください。**
  再生処理の直後 5 分程度は，まだ排気管やマフラが高温です。
- **一日の作業終了後は，排気管やマフラ及びその周辺にわらなどの燃えやすいものが溜まっていないか点検し，溜まっていたら掃除して取除いてください。**

DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）は，ディーゼルエンジンから排出される排気ガス中の PM（ススなど粒子状物質）をフィルタで捕集し，大気中に放出される PM の量を削減させます。捕集した PM を DPF 内で燃焼させて PM 除去フィルタ内を浄化及び再生します。また，DPF の再生処理方法には**自動再生**と**駐車再生**の2通りがあります。
通常は，刈取作業時を含むコンバインの運転中は自動再生モードになっています。
自動再生モード中は，DPF 内に PM が堆積されると自動再生機能がはたらき，PM を自動的に除去します（自動再生処理）。また，PM が DPF 内に堆積し，駐車再生の警報が発生したときは，駐車再生処理を行なって堆積した PM を除去してください。

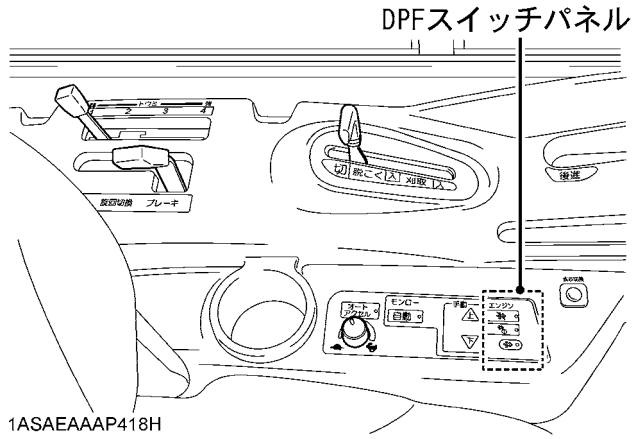
補　足

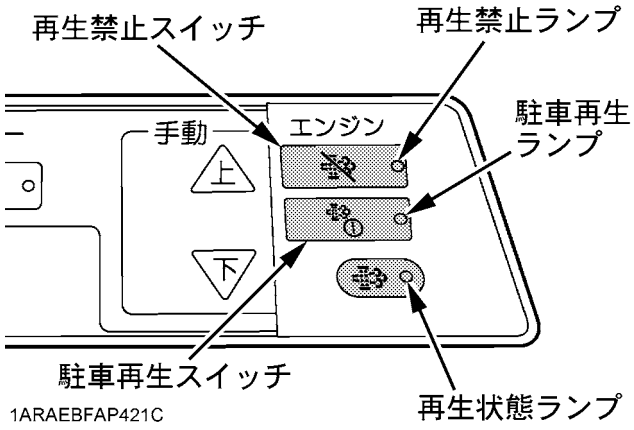
＊ 自動再生モードはエンジン回転数が **2000rpm 以上**ではたらきます。
＊ 通常，再生処理には 10 ～ 30 分程度かかります。再生処理にかかる時間は，外気温度・排気温度・エンジン回転数によって変わります。
＊ 再生処理終了直後は，DPF（及び排気管・マフラ）はまだ高温です。排気装置（DPF・排気管・マフラ）を冷却するために，5 分間程度エンジンの運転を継続することをお勧めします。



■ DPF スイッチパネル

DPF スイッチパネルには，DPF 内の PM 除去処理を行なうスイッチや，DPF 内の PM 除去の状態を知らせるランプがあります。DPF 内に堆積した PM の除去については，各スイッチの操作やランプ表示の確認を行なってください。





● 再生状態ランプ

DPF 内に一定量の PM が堆積したとき，自動再生及び駐車再生の処理を開始すると**点灯**（再生処理中）し，再生の処理が終了すると**消灯**（再生処理終了）する再生処理状態を知らせるランプです。ランプが**点滅**している場合は，DPF 内の異常を表わします。自動再生及び駐車再生はできません。直ちに購入先に連絡してください。

補　足

＊ 自動再生処理を開始しても警報ブザーは鳴りません。

● 駐車再生スイッチ

PM が DPF 内に一定量堆積すると，駐車再生ランプが**点滅**すると同時に，警報ブザーが鳴ります。その際に PM を除去するため，駐車再生処理を行なうスイッチです。

駐車再生処理を行なうとき，駐車再生スイッチを押すと同時に，駐車再生ランプが**点滅**から**点灯**に切換わります。また，再生状態ランプも点灯します。駐車再生処理が終わると，駐車再生ランプ及び再生状態ランプは**消灯**します。

駐車再生方法については**[■ DPF 再生処理方法について]**（37 ページ）を参照してください。

補　足

＊ 警報ブザーは初回は数回鳴ったあと停止しますが，その後，堆積量が増加すると駐車再生処理を開始するまで鳴り続けます。

● 再生禁止スイッチ

再生処理を禁止（停止）するスイッチです。納屋や倉庫など換気の悪い場所や，DPF やマフラ及び周辺部に発火する原因となる燃えやすいゴミがあった場合など，一時的に再生処理を禁止（停止）するときにスイッチを押してください。

自動再生又は駐車再生の処理中に再生禁止スイッチを押すと，同時に再生禁止ランプが**点灯**し，再生処理を停止します。また，再度再生禁止スイッチを押すと，再生禁止ランプが**消灯**すると同時に，自動再生又は駐車再生の処理が可能な状態となります。

補　足

＊ 再生禁止スイッチ **[入]** の状態は，エンジンを停止すると解除されます。
メインスイッチのキーを **[切]** 位置から **[入]** 位置にすると，再生禁止スイッチは常に **[切]**（ランプ**消灯**）の状態です。

■ DPF 再生処理について

DPF の再生処理方法には，**自動再生**と**駐車再生**があります。

重　要

＊ 駐車再生ランプが点滅し，警報ブザーが鳴ったときは，刈取作業を中止し，駐車再生処理を行なってください。継続して作業を行ない，さらに警報ブザーが断続的に鳴り，同時に液晶ディスプレイに**【DPF 異常】**と表示した場合は，直ちに作業を中止して，駐車再生を行なってください。
このとき再生状態ランプが点滅し，駐車再生ができない場合は，直ちに購入先に連絡してください。DPF の故障の原因となります。

補　足

＊ 駐車再生の警報を無視し続けると，エンジンの出力が低下します。また，エンジン出力が低下した状態が継続し，作業能率が低下しますので注意してください。
＊ 再生処理を行なうとき，自動再生処理と駐車再生処理でエンジン回転数が異なりますので注意してください。
＊ 指定の純正エンジンオイル**【D10W-30　DH-2】**以外のエンジンオイルを使用すると，再生処理（自動再生及び駐車再生）を行なう頻度が増加し，作業能率の低下や燃料消費量の増加の原因となりますので，必ず指定のエンジンオイルを使用してください。

◆ 自動再生処理について

メインスイッチのキーを**【切】**位置から**【入】**位置にすると，自動再生モード（再生禁止スイッチ**【切】**）になり，刈取作業時などエンジン回転数が 2000rpm 以上のとき，自動的に再生処理を行ないます。

1. PM が堆積すると，再生状態ランプが**点灯**し自動再生を開始します。

補　足

＊ 自動再生を開始すると，マルチナビの液晶ディスプレイに**【自動再生／開始しました】**と一定時間表示します。

2. 自動再生が終了すると，再生状態ランプが**消灯**します。

◆ 駐車再生処理について

PM が DPF 内に一定量堆積したときには，駐車再生処理を行なってください。

1. PM が一定量堆積すると，駐車再生ランプが点滅すると同時に，警報ブザーが鳴ります。

補　足

＊ 警報ブザーは初回は数回鳴ったあと停止しますが，その後は駐車再生処理を開始するまで鳴り続けます。

2. 作業をいったん中止したあと，平坦な場所に移動します。

補　足

＊ 換気の悪い納屋や倉庫などへは移動しないでください。

3. 各レバー，ペダル，スイッチを下記の**駐車再生処理条件**の状態にセットします。
   (1) 作業レバーを**【切】**位置にします。
   (2) 主変速レバーを**【停止】**位置にします。
   (3) 駐車ブレーキペダルを**【ロック】**位置にします。
   (4) アクセルダイヤルを**【** **】**位置にします。
   (5) 再生禁止スイッチを確認し，再生禁止ランプが**【入】**（ランプ**点灯**）の状態のときは，再生禁止スイッチを押して**【切】**（ランプ**消灯**）の状態にします。
4. 駐車再生スイッチを押すと，エンジン回転数が上がると同時に，駐車再生ランプと再生状態ランプが**【入】**（ランプ**点灯**）状態となり，駐車再生処理が開始します。

補　足

＊ 駐車再生処理を開始すると，マルチナビの液晶ディスプレイに**【駐車再生／開始しました】**と一定時間表示します。

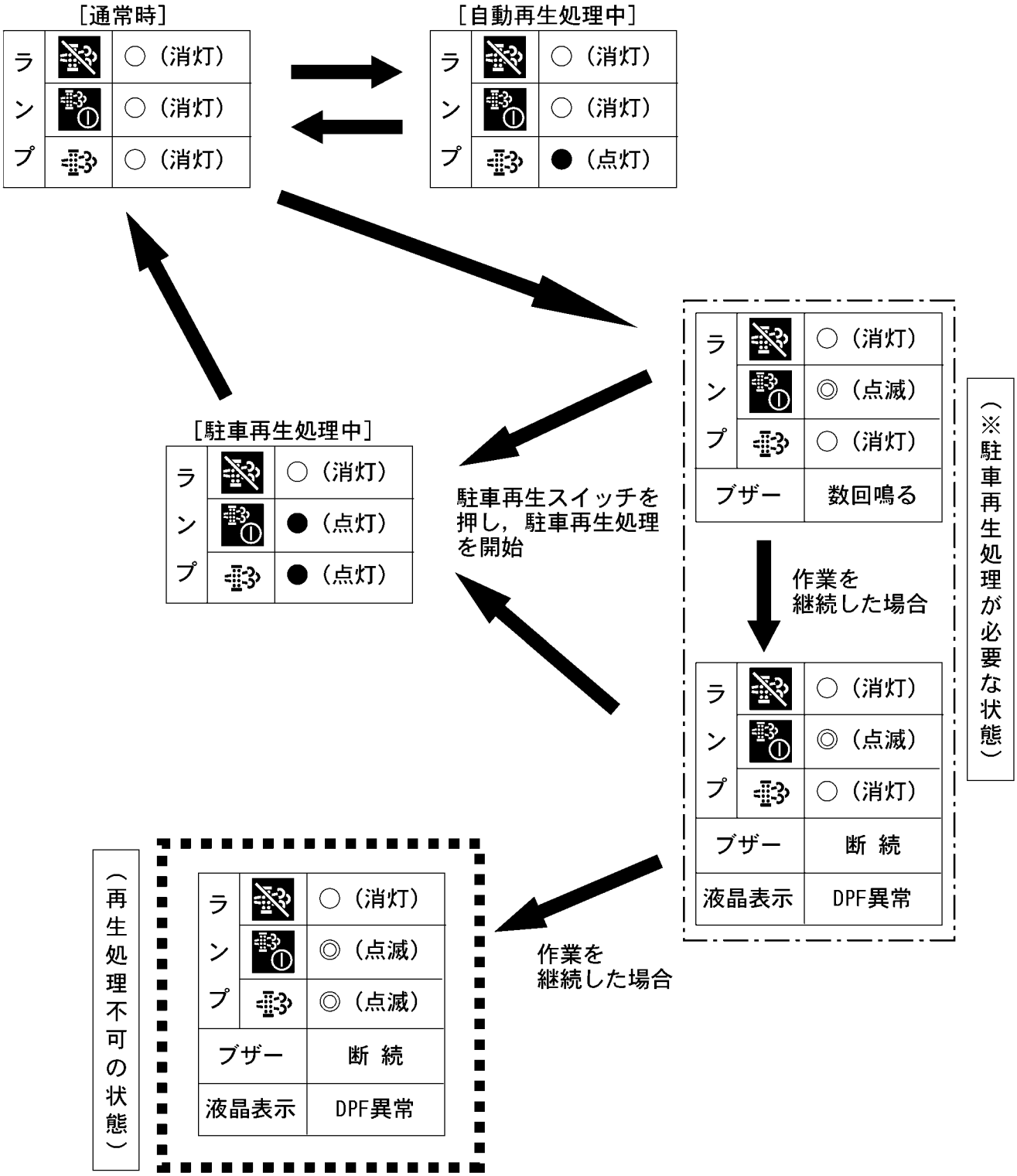
5. 駐車再生処理が終了すると，エンジン回転数がアイドリング回転数まで下がると同時に，駐車再生ランプと再生状態ランプが**【切】**（ランプ**消灯**）状態に切換わります。

補　足

＊ 駐車再生処理中に，各レバー，ペダル，スイッチは触らないでください。**駐車再生処理条件**の状態が解除されると，駐車再生処理が途中で停止するため，再度駐車再生処理を行なう必要があります。緊急で駐車再生処理を停止したい場合は，再生禁止スイッチを押してください。

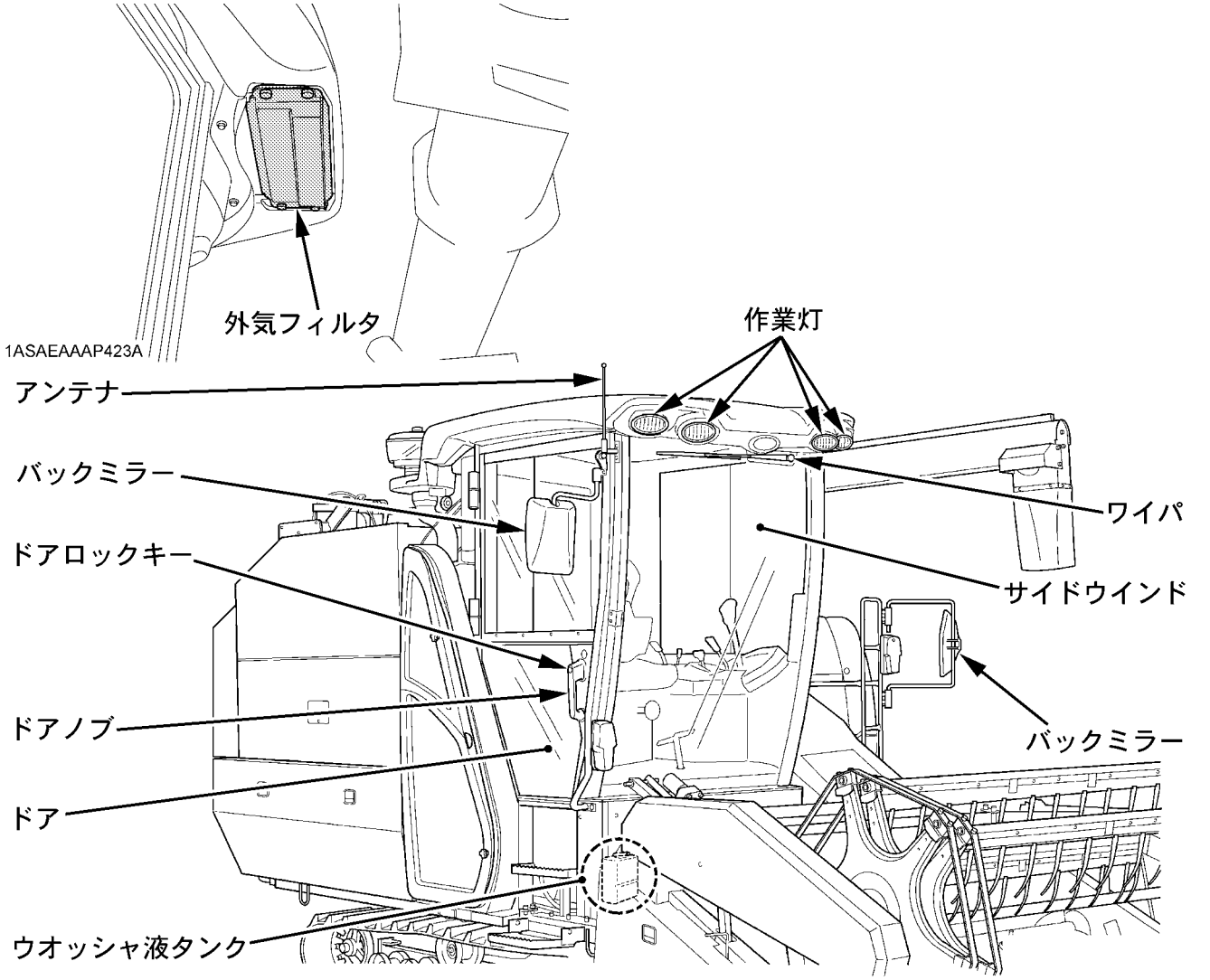
補　足

＊ 再生禁止スイッチを利用しないときの DPF スイッチパネルのランプ，ブザー及びマルチナビの液晶表示の主な関係は下記の通りです。

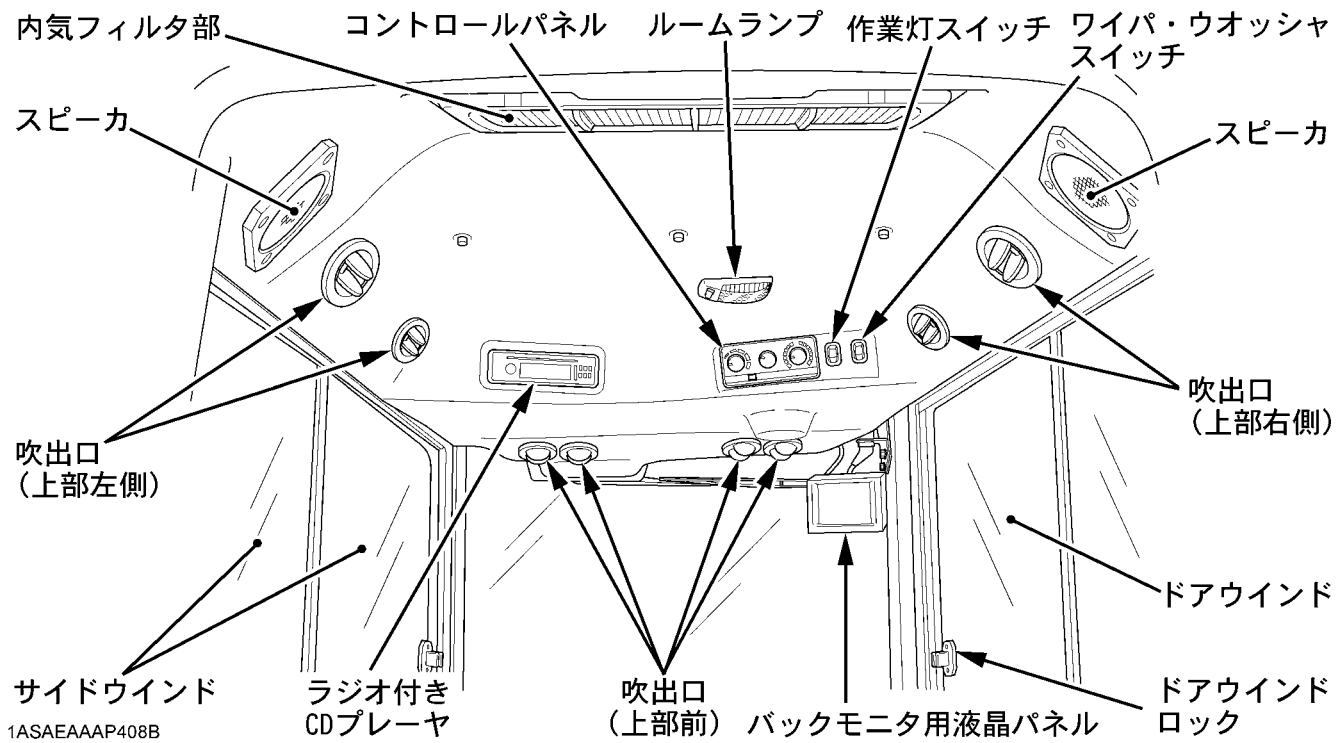


※この状態になると，再生処理はできません。
直ちに作業を中止し，購入先に連絡してください。

キャビン装置の名称とはたらき



1ASAEAAAP424A



1ASAEAAAP408B

各装置の取扱い

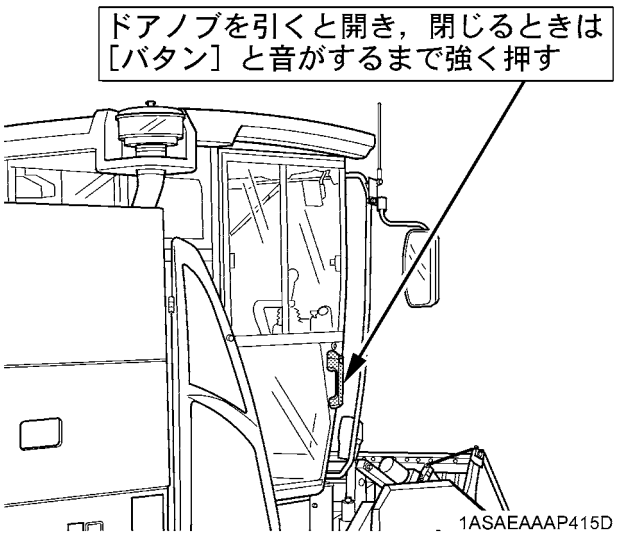
■ドアの開閉，ロックのしかた

警　告

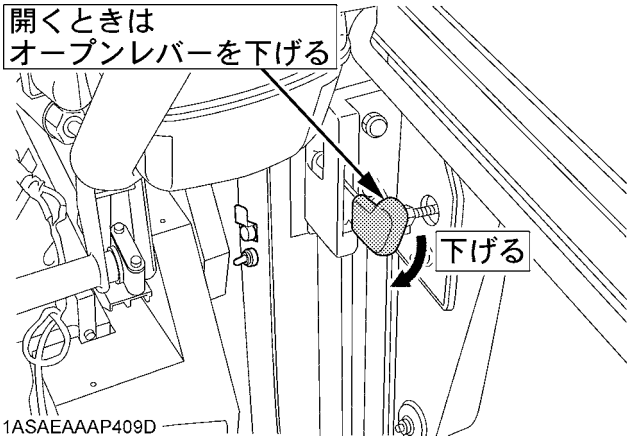
＊ ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。
＊ ドアは確実に閉じてください。不意にドアが開いてケガをするおそれがあります。

◆ ドアの開閉のしかた

● 室外から



● 室内から

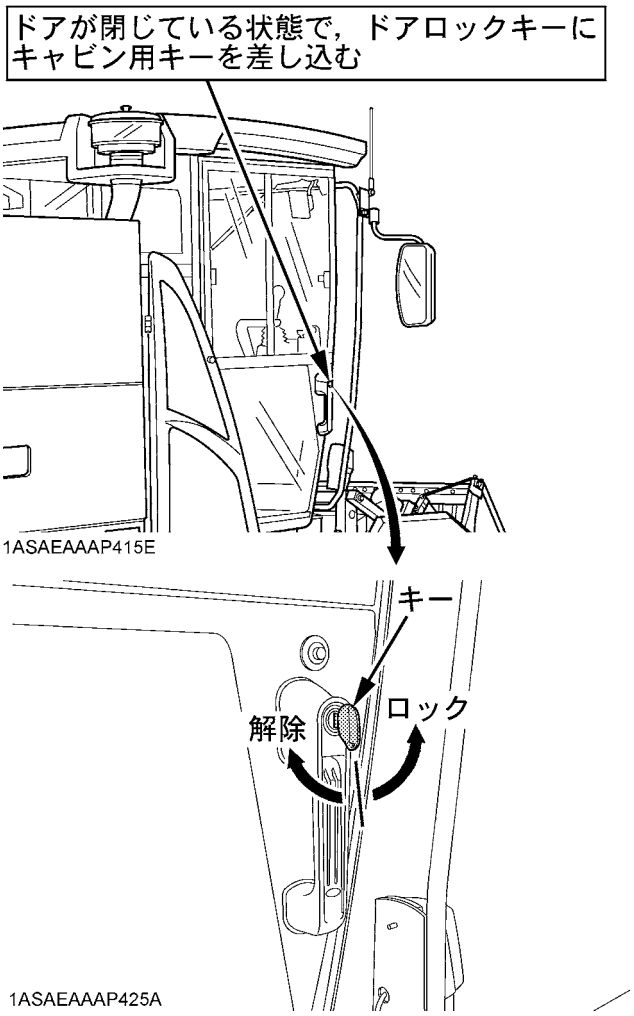


重　要

＊ ドアにぶらさがったり，開閉範囲を越えた無理な操作をしないでください。また，閉じるときに物を挟まないでください。ドアが破損するおそれがあります。

◆ ドアのロック・解除のしかた

● 室外から

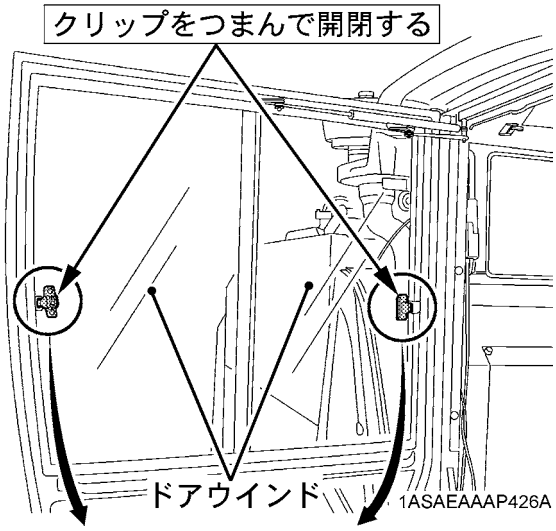


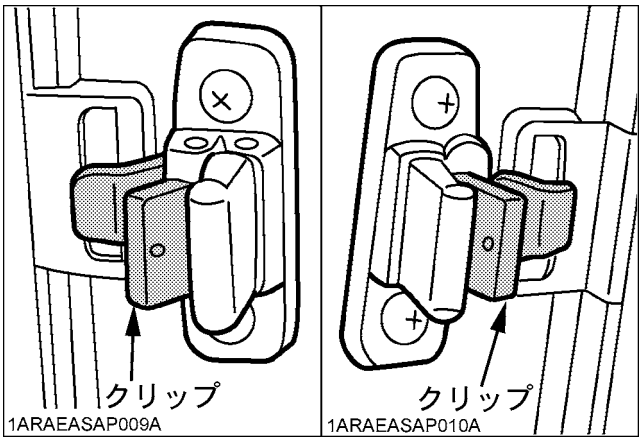
補　足

＊ 長時間コンバインから離れるときは，必ずドアのロックをしてください。

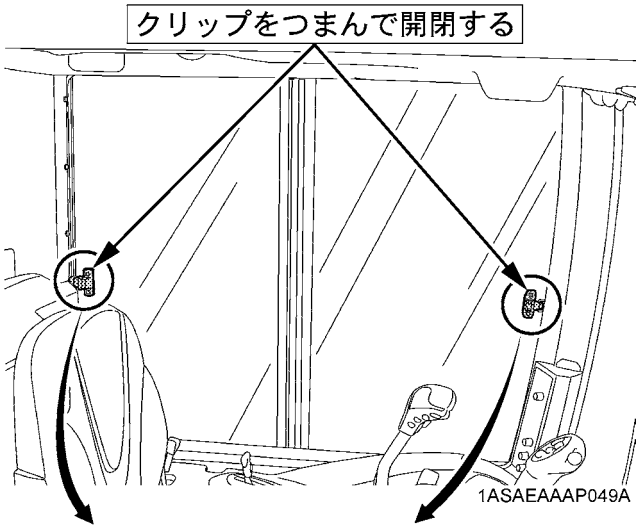
■各ウインドの開閉のしかた

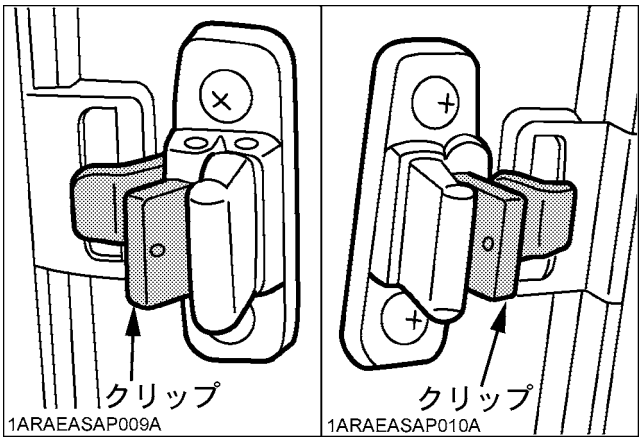
◆ ドアウインド





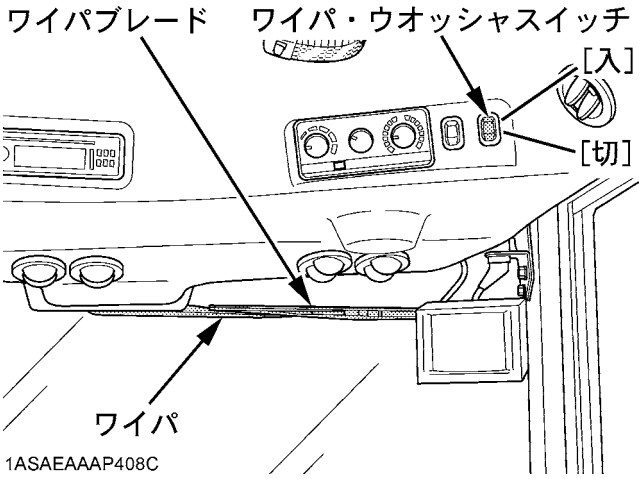
◆ サイドウインド



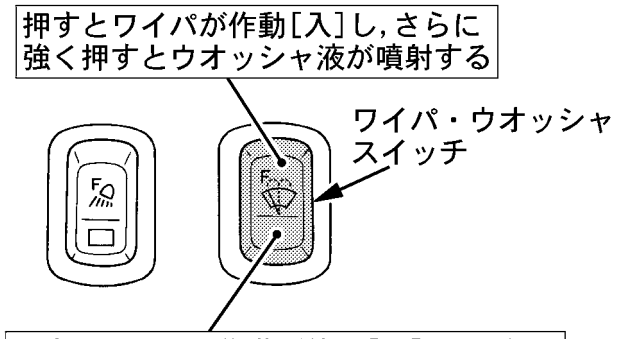


■ワイパの使いかた

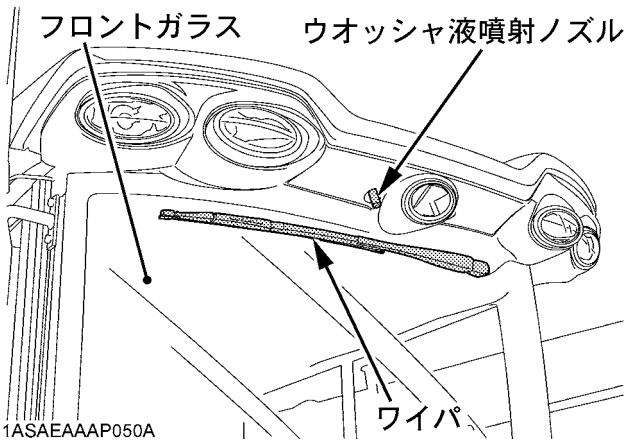
メインスイッチのキーが**【入】**位置のとき，ワイパ・ウオッシャスイッチの上側を押す**【入】**と作動し，下側を押す**【切】**と停止します。また，ワイパ・ウオッシャスイッチの上側又は，下側を強く押すとウオッシャ液噴射ノズルからフロントガラスにウオッシャ液を噴射します。



1ASAEAAAP408C



1ARAEASAP012C



1ASAEAAAP050A

重　要

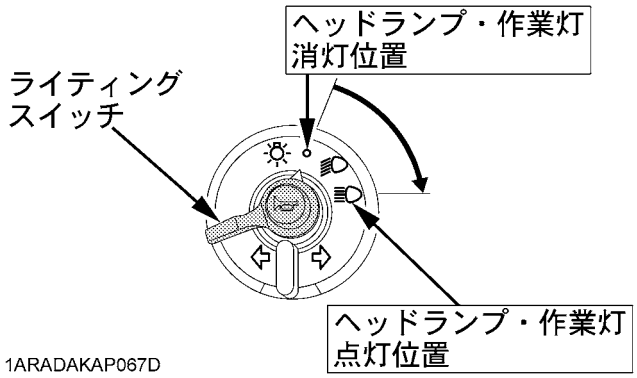
＊ ガラス表面に泥などが付着している場合は，ウオッシャ液を噴射する又は，汚れの程度に応じて濡れタオルなどでふき取ってください。泥などが付着したまま作動させると，ガラスのキズ付やワイパブレード（ゴム部）の損傷の原因になります。
＊ 長期使用しなかったときや寒冷時に動かすときは，ワイパブレード（ゴム部）がガラス面に接着していることがありますので注意してください。
＊ エンジンを停止して長時間使用するとバッテリが上がるおそれがあります。

補　足

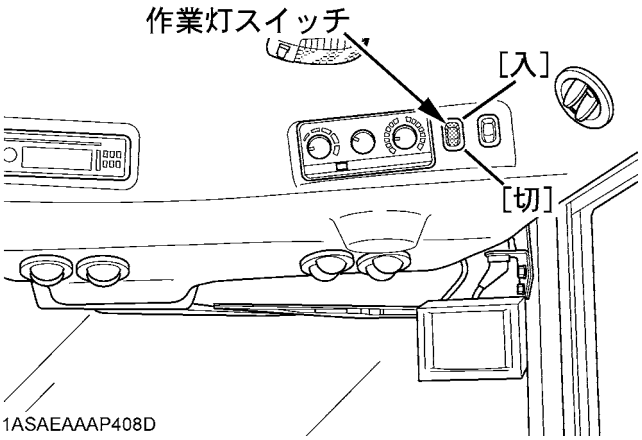
＊ ウオッシャ液はワイパ・ウオッシャスイッチを強く押している間噴射します。

■作業灯スイッチ

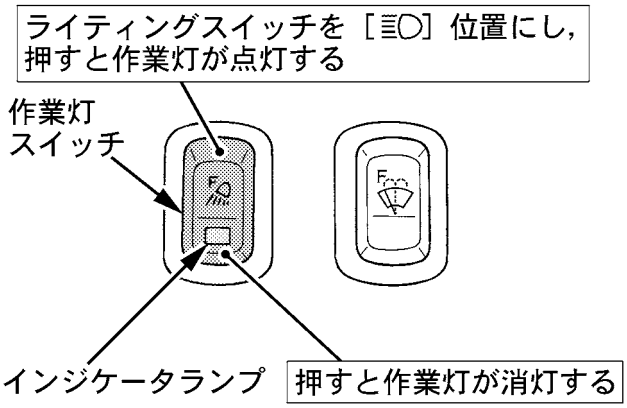
メインスイッチのキーが**【入】**位置のとき，ライティングスイッチを**【≡○】**位置（**ヘッドランプ・作業灯点灯**）にしたあと，作業灯スイッチの上側を押す**【入】**と作業灯が点灯し，下側に押す**【切】**と作業灯が消灯します。



1ARADAKAP067D



1ASAEAAAP408D



1ARAEASAP012D

補　足

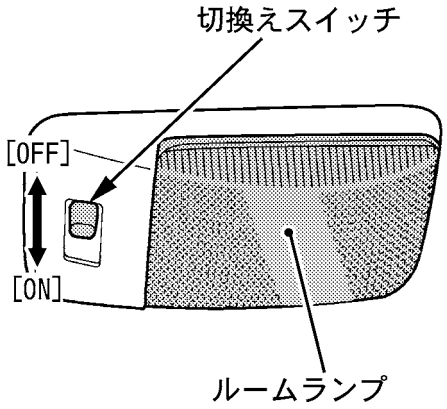
＊ ライティングスイッチを**【≡○】（ヘッドランプ点灯）**位置にすると，作業灯スイッチのバックライトが点灯します。また，作業灯の点灯状態を示すインジケータランプも点灯します。

■ルームランプの使いかた

メインスイッチのキーが**【入】**位置のとき，ルームランプの切換えスイッチを**【ON】（入）**にすると点灯します。

【OFF】（切）… ドアの開閉に関係なく，ランプは点灯しません。

【ON】（入）… ドアの開閉に関係なく，ランプが点灯します。



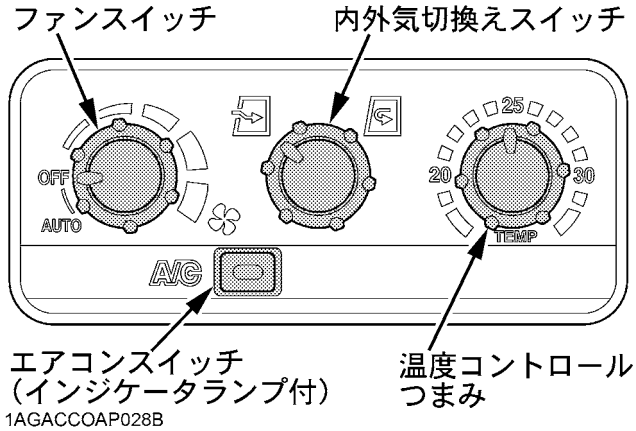
1ARAEASAP014A

重　要

＊ エンジンを停止して長時間点灯するとバッテリが上がるおそれがあります。

エアコンの取扱い

■コントロールパネル



1AGACCOAP028B

◆ エアコンスイッチ

エアコンの電源を**入・切**するスイッチです。

重　要

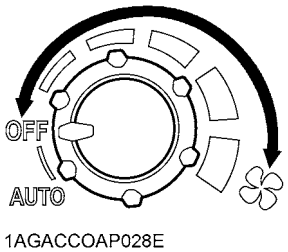
＊ コンバインを１週間以上，長期放置後にエアコンを使うときは，エンジン回転をアイドリングしてA/Cエアコンスイッチを**【入】**にし，１分間運転してください。
エンジン回転が高いままで,A/Cエアコンスイッチを**【入】**にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

補　足

＊ エアコンスイッチを押して**【入】**の運転状態にすると,インジケータランプが点灯します。

◆ ファンスイッチ

風量切換



1AGACCOAP028E

【AUTO】位置：
オートエアコンが作動します。
【風量切換】位置：
風量を５段階に調節できます。
右端は最も風量の多い位置です。

補　足

＊ **【AUTO】**位置で暖房の際，エンジンが冷えているときは冷風が出るのを防ぐため，しばらくの間ファンが作動しないことがあります。

◆ 温度コントロールつまみ

温度を調節するためのつまみです。好みの位置にセットして適宜調節します。
設定温度は１℃刻みで調節できます。

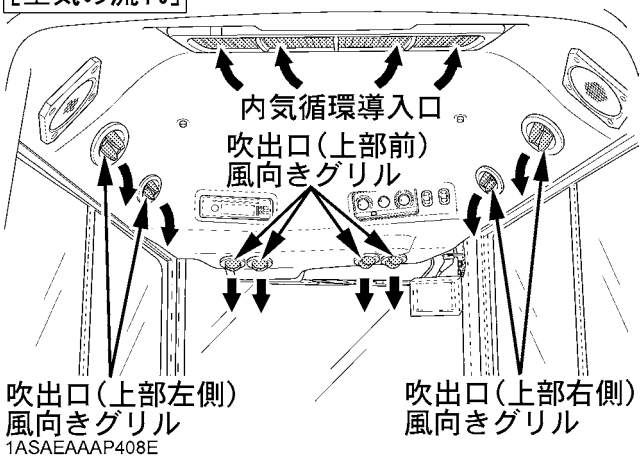
● 吹出口風向きグリルの調整のしかた

吹出口の風向きグリルを動かして風量や風向きの調整を行なってください。

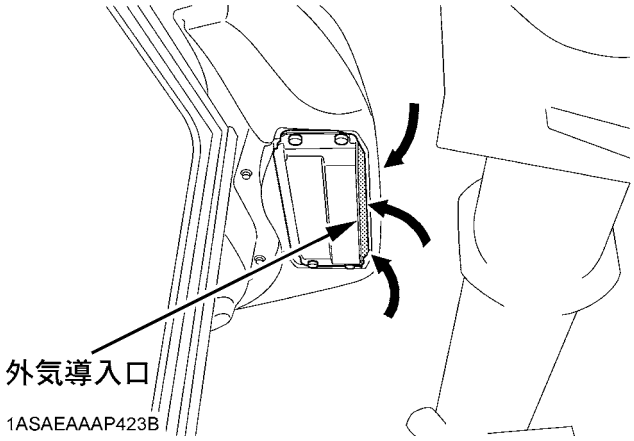
補　足

＊ キャビン内の空気の流れを参照して，吹出口の風量や風力を調節してください。また，外気導入口は，キャビン後部の天井下側にあります。

［空気の流れ］



1ASAEAAAP408E



1ASAEAAAP423B

■内外気切換えスイッチ

キャビン室内の空気の状態を切換えるスイッチです。

外気導入……　切換えると外気を取入れます。ほこりが多い作業やガラスがくもる場合に使用します。

1AGACCOAP028C

内気循環……　切換えると内気のみの循環を行ないます。
早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。

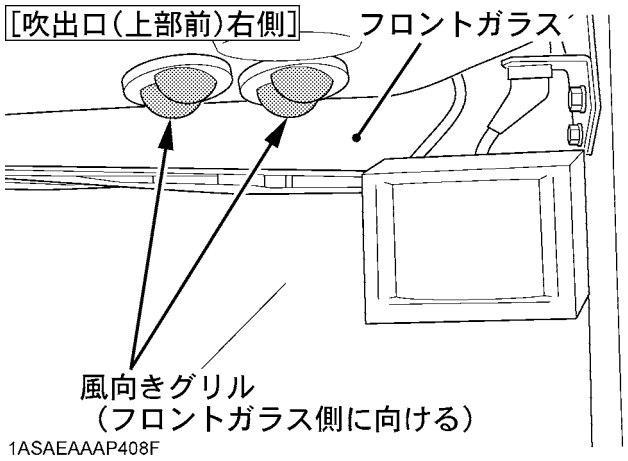
1AGACCOAP028D

重　要

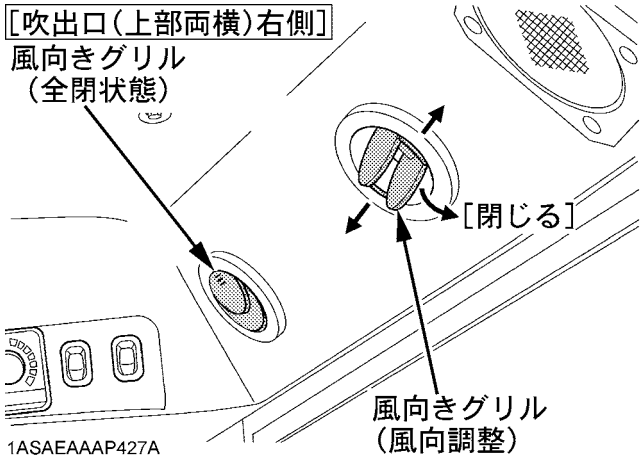
＊ 洗車を行なうとき，外気導入口に水をかけないでください。故障の原因になります。

補　足

＊ キャビン室内の温度を早く下げたい又は，上げたいときは，**［内気循環］**位置にしてください。
＊ **［内気循環］**での長時間暖房は避けてください。ガラスがくもりやすくなります。
＊ 作業中にほこりが多いときは，**［外気導入］**位置にしてキャビン内に新鮮な空気を入れてください。
＊ 吹出口（上部前）又は，吹出口（上部両横）の風量は，吹出口風向きグリルの角度を変更して行なってください。風向きグリルを閉じると開いている風向きグリルの風量が増えます。
＊ キャビン内のガラスがくもっているときは，くもりがなくなるまで待ってください。くもりを早く取りたいとき，例えばフロントガラスがくもっているときは，吹出口（上部前）の風向きグリルをフロントガラスに向けたあと，吹出口（上部両横）の風向きグリルを全て閉じてください。



1ASAEAAAP408F



1ASAEAAAP427A

■エアコン操作のしかた

◆ 暖房・冷房・除湿暖房

1. 内外気切換えスイッチを**【外気導入】**位置にします。早く冷暖房にしたいときは**【内気循環】**位置にします。
2. エアコンスイッチを押し**【入】**にします。
3. ファンスイッチを**【AUTO】**にします。
4. 温度コントロールつまみを調節し，快適な温度にします。

◆ デフロスト

フロントガラスのくもり及び凍結除去するときは，

1. 吹出口（上部前）を開き，フロントガラスに向けます。
2. 必要に応じ吹出口（上部右側），吹出口（上部左側）を閉じます。
3. 内外気切換えスイッチを**【外気導入】**位置にします。
4. ファンスイッチを**右端**，温度コントロールつまみを**右端**にします。

補　足

＊ 湿度が高く窓ガラスがくもりやすいときは，除湿暖房を行なってください。
＊ 健康上，冷房はやや弱い目に効かせてください。また，冷風は身体１箇所に集中して風を当てるのは避けてください。
＊ 連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると，冷気吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転は避けてください。
＊ エンジンの冷却水の水温が高くなるまでは暖房ができません。

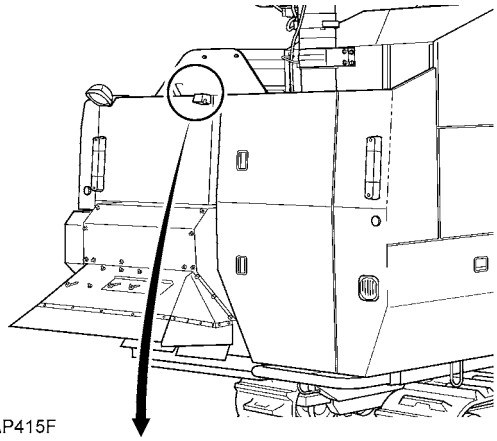
バックモニタの取扱い

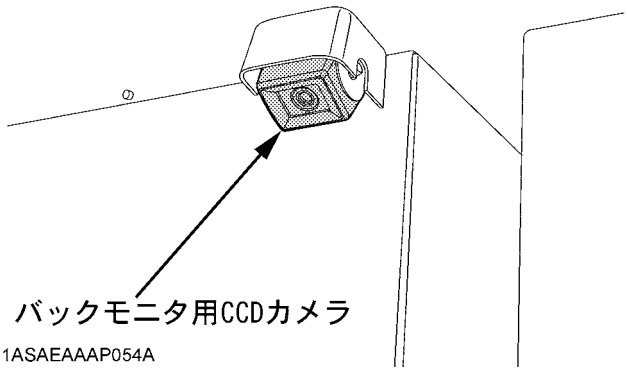
警　告

＊ 後進するときは，液晶パネル画像確認以外にも，必ずバックミラーや目視で後方確認作業を行なってください。CCD カメラの死角になっている人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。
＊ CCD　カメラから液晶パネルに写し出される広角の画像に慣れるまでは，ゆっくりと慎重に運転してください。速度を上げて後進すると判断を誤まり，人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。

注　意

＊ 他の目的で使用したり，他の機械などで使用しないでください。感電やケガをするおそれがあります。


1ASAEAAAP415F

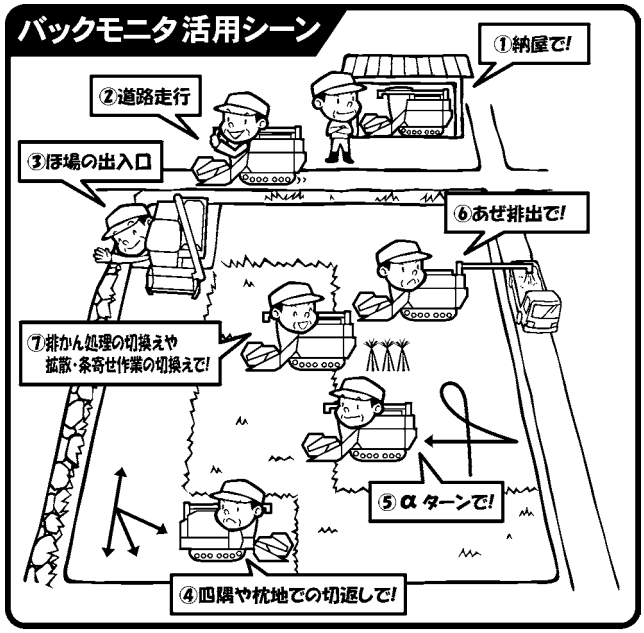


1ASAEAAAP054A

■バックモニタについて

バックモニタは機体後進時，機体後方周辺の安全確認を行なうための補助装置です。
下記作業などを行なう場合の確認作業に活用してください。

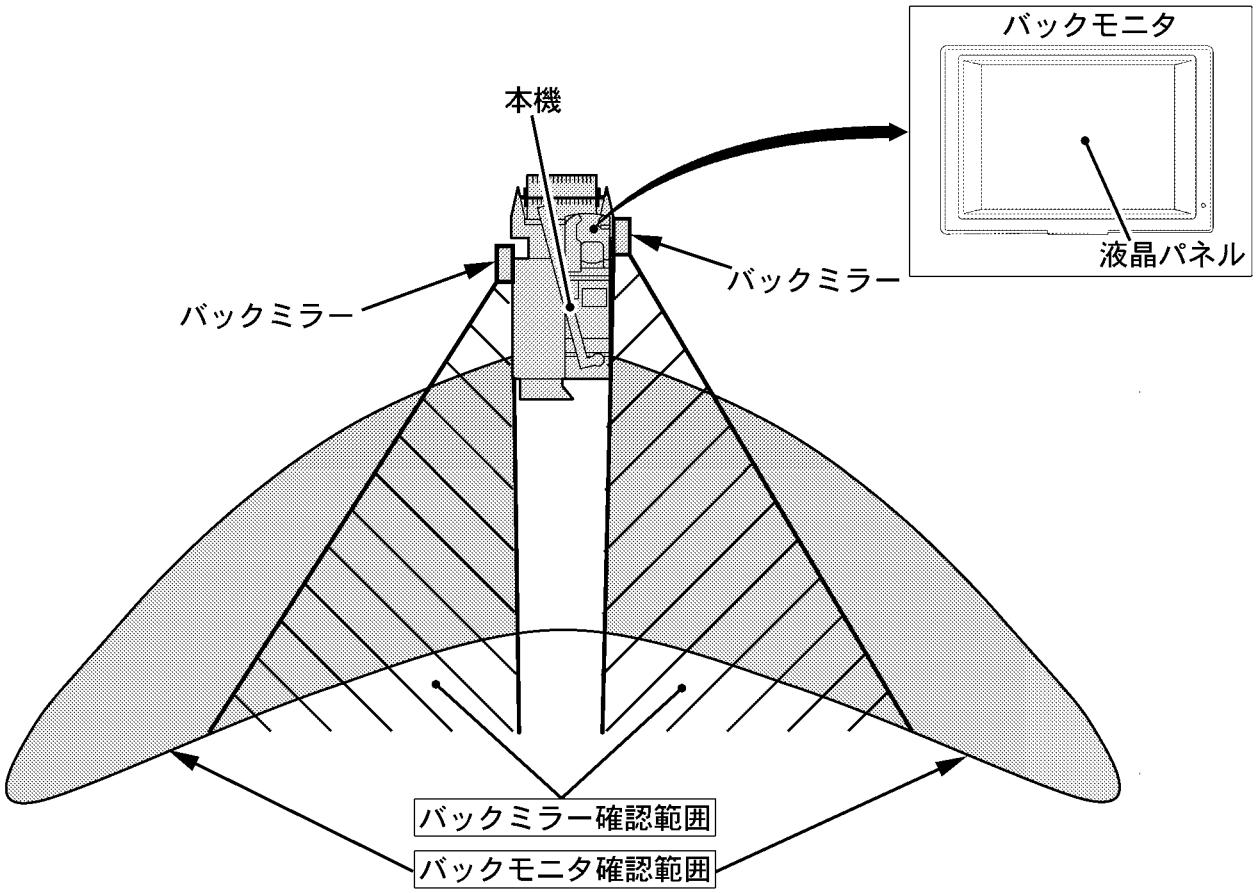
- 移動走行時，収穫作業時，納屋格納時などの後方確認作業。
- ほ場の出入り，枕地での切返し，あぜ際などでの機体の位置確認作業。
- 排わら処理の切換え確認や排かん処理状態の確認作業。



1ASAEAAAP055A

■液晶パネルについて

バックミラー確認範囲に対して液晶パネルに写し出される範囲（バックモニタ確認範囲）は下図の範囲です。



1ASAEAAAP056A

補　足

＊ 上図の範囲は目安です。CCD カメラの角度設定により確認範囲は異なります。

■ CCD カメラの取扱いについて

バックモニタの液晶パネルに写し出される画像での確認範囲の前後方向の修正は，機体後方の脱こく後カバーに取付けているCCDカメラを前後方向に回動して調整を行なってください。

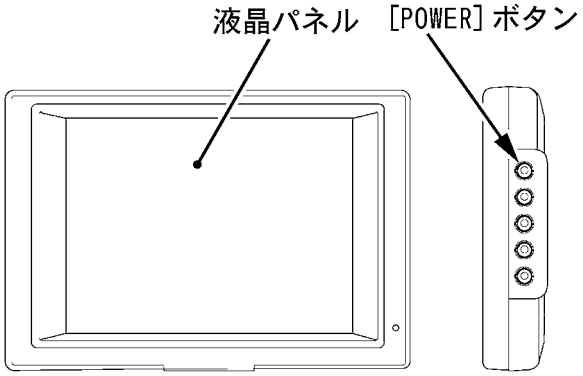
◆ 調整のしかた

1. メインスイッチのキーを**【入】**位置にします。

重　要

＊ エンジンの始動は必要ありませんが，長時間に亘り調整作業を行なうとバッテリ上がりの原因となります。

2. 液晶パネルの**【POWER】ボタン**を押すと，液晶パネルに画像が写し出されます。

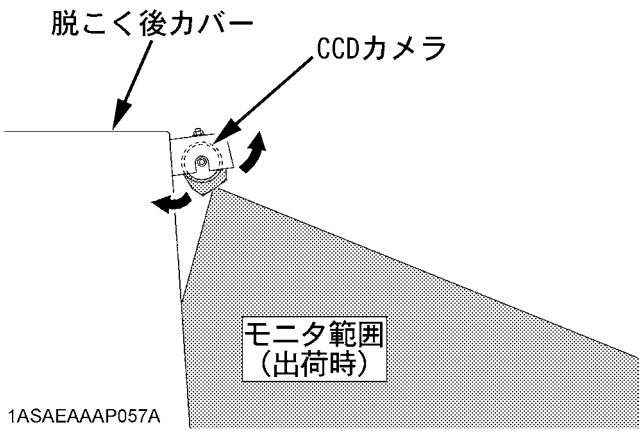


1ARAEASAP305A

補　足

＊ 液晶パネルの電源が入っている状態で，機体のメインスイッチ側で電源を切り，再度メインスイッチのキーを**【入】**位置にすると，液晶パネルに画像が写し出されます。

3. CCD カメラを前後方向に手で回動して調整を行ないます。



1ASAEAAAP057A

4. 液晶パネルの画像を確認し，目標とするモニタ範囲になるまで再調整を行ないます。
5. **【POWER】ボタン**を押して液晶パネルの電源を切ります。

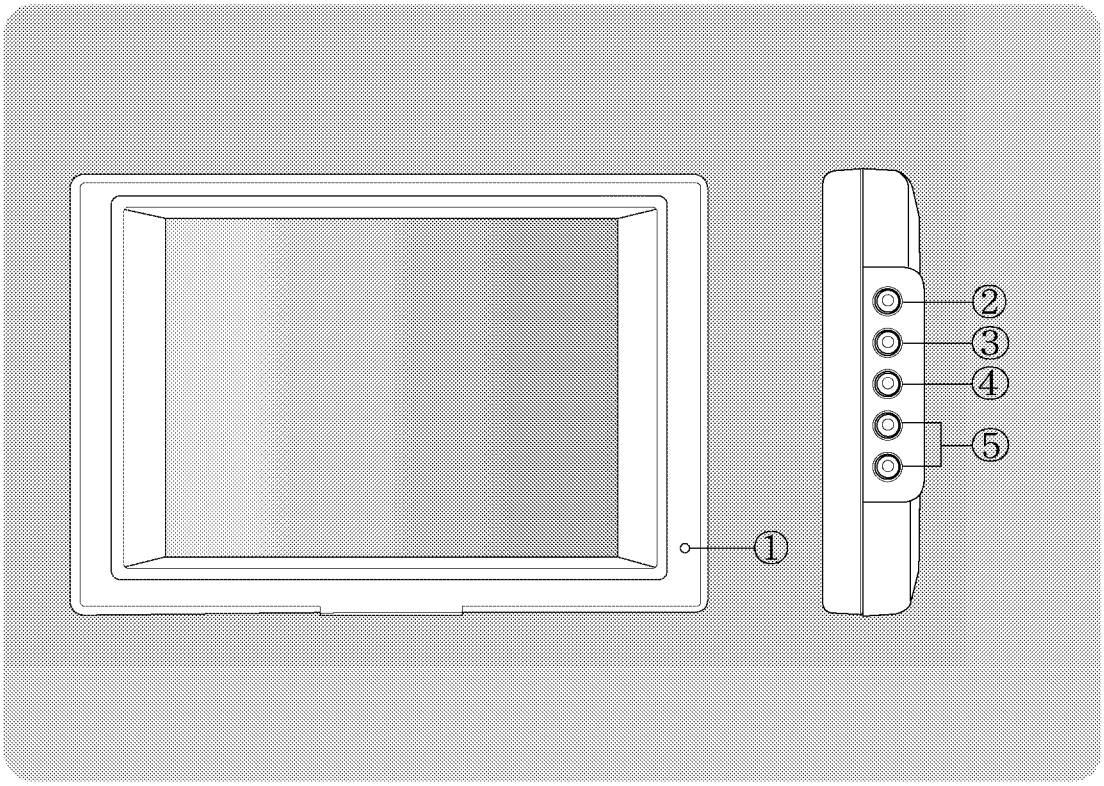
補　足

＊ メインスイッチのキーを**【切】**位置にすると液晶パネルの電源は切れます。

バックモニタの操作

■バックモニタの各部の名称とはたらき

◆モニタ



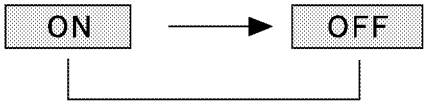
①S/BY LED	電源の入力状態の表示及びスタンバイ状態の表示
② POWER	電源のON/OFFボタン
③ MODE	カメラ(CAM1/CAM2)切り替え、 各種設定メニューの選択ボタン
④ MENU	各種設定メニュー切り替えボタン
⑤ UP/DOWN	調整ボタン

補　足

＊ MODE ボタンは押さないでください。CAM2 に切換わると画像が消えます。もし，間違えて押したときは，再度 MODE ボタンを押して画像を表示してください。

■バックモニタの機能説明

1. POWER(電源)



● 電源のON/OFF

① POWER(電源)ボタンを押す。
「スタンバイ」ランプが消灯し、電源が入る。

② POWER(電源)ボタンをもう一度押す。
「スタンバイ」ランプが点灯して、電源が切れる。

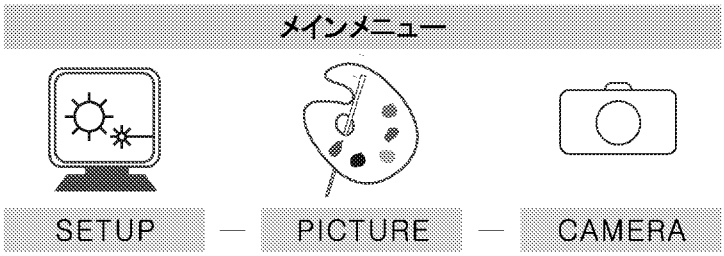
2. MENU : 設定メニュー

補　足

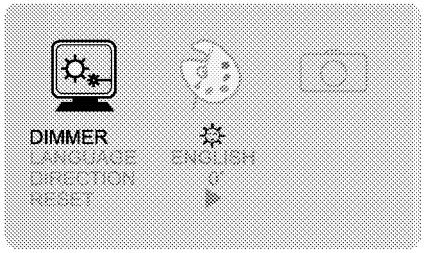
＊ 設定を行なうときは，表示時間が約３秒間と非常に短いため，素早くボタンの操作を行なってください。

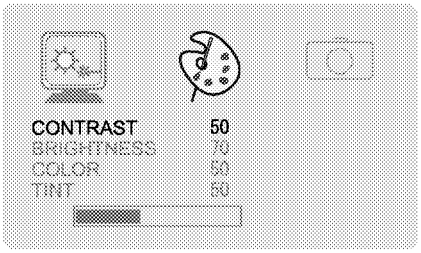
◆各種設定のメインメニューを切り替えます。

- MENUボタンを押して、メインメニューを選択します。
  選択すると赤くなります。



- MODEボタンを押して、サブメニューを選択します。
  サブメニューを切り替えるには、UP/DOWNボタンを押します。





(1) SETUP

● DIMMER (モニター輝度)

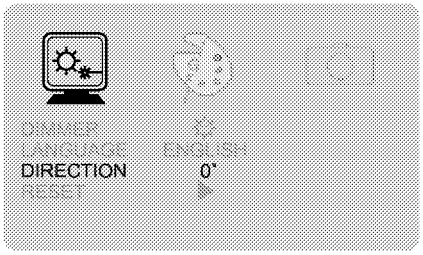
☼ – ☽

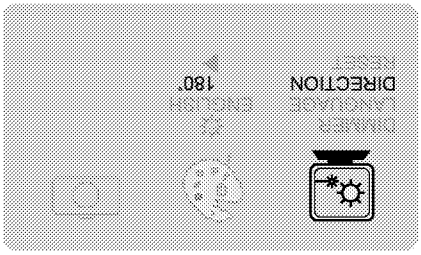
● LANGUAGE (画面表示言語)

ENGLISH – DEUTSCH – ITALIANO – FRANÇAIS – ESPAñON

– 한국어 – 日本語

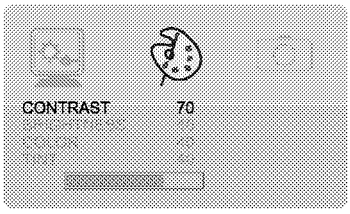
● DIRECTION (画像の向き・上下反転)



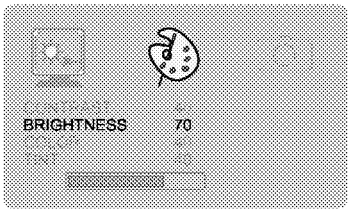


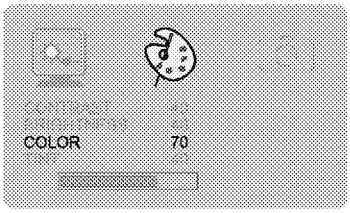
● RESET ▶工場出荷時の設定に戻ります。

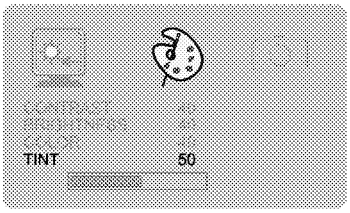
(2) PICTURE (画質の調整)



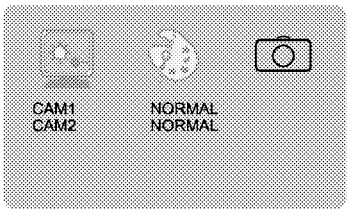
① CONTRAST, BRIGHTNESS, COLOR, TINTを選択するために MODEボタンを使用します。
選択すると赤くなります。
② UP/DOWNボタンを押します。BARと数字が変わり、画面が調整されます。BAR信号は赤色になります。







(3) CAMERA



① MODEボタンを押して、CAMERA1またはCAMERA2を選択します。
選択すると赤くなります。
② UP/DOWNボタンを押します。NORMAL/MIRRORと文字が変わり、画面の左右反転が調整できます。NORMAL/MIRROR信号は赤色になります。

補　足

＊工場出荷時はNORMALモードです。
＊通常の作業を行なうときは、NORMALモードで使用してください。MIRRORモードに設定すると、左右が反転した状態で映像が画面に写し出されるためトラブルの原因となります。

■バックモニタが故障かな？と思ったら

● 故障かな？と思ったら，修理を依頼する前に，もう一度次の点をお調べください。

症　状	原　因	処　置
映像が出ない。	カメラの配線が正しく接続されていますか？	カメラ連動線の配線，カメラ用コネクタの接続を確認してください。
	カメラ（CAM1/CAM2）が CAM2 に設定されている。	MODE ボタンを押して CAM1 に切替える。
電源が入らない。	電源の配線が正しく接続されていますか？	配線を確認してください。
	ヒューズが切れていませんか？	ヒューズ容量を確認し，新しいヒューズと交換してください。 再度切れる場合は，お買い求めの販売店又は最寄の弊社修理相談窓口にご相談ください。
色が薄い。	使用状況が悪い。	車内温度が０℃以下，又は60℃以上になっている場合が考えられます。車内温度を適温（25℃前後）にして確認してください。

※上記対処を行なっても復帰しない場合は，本体の電源を切り，お買い求めの販売店又は，クラリオン（株）にご相談ください。

■バックモニタの取扱い上の注意

1. システムの動作中に，ケーブルの抜き差しは絶対におやめください。故障の原因となります。必ず電源を切って（OFF）から行なってください。
2. モニタ画面上の CCD カメラ映像は，広角レンズを採用しているため，人や障害物の距離が実際の距離と比べて詰まって映ります。ご注意ください。
3. 非常に寒いとき，画面の動きが遅くなったり画面が暗くなったりすることがありますが，故障ではありません。常温に戻れば回復します。
4. 液晶パネルの中には，小さな黒点や輝点が出ることがありますが，液晶特有の現象で，故障ではありません。
5. 液晶パネル部の表面は傷つきやすいので，硬いものでこすったり，たたいたりしないでください。
6. 液晶パネル部に水滴などをつけた状態で放置しないでください。変色，シミの原因となります。また，水分が内部に侵入すると故障の原因となります。水滴などがついてしまった場合は，すぐ脱脂綿や柔らかい布などで拭取ってください。
7. 夏期は車内温度が高くなることがありますので，車内の温度を下げてからお使いください。
8. 本製品は－ 10 ℃～＋ 60 ℃の温度範囲の条件下で使用してください。
9. 本製品を分解したり，改造しないでください。火災及び感電の原因となります。
10. 車に設置時，エンジンを止めている状態で長時間使用する場合は，バッテリが過放電される可能性がありますので，必ずエンジンをかけた状態で使用してください。
11. 水や飲料など，異物が入ると故障の原因となります。

● キャビネットのお手入れ

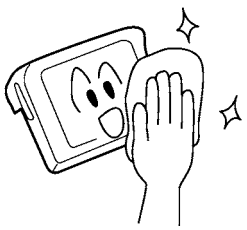
やわらかい乾いた布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは，水で薄めた中性洗剤をやわらかい布につけて軽く拭取り，乾いた布で仕上げてください。

補　足

＊ 自動車用クリーナなどは，変質したり，塗料がはげる原因となりますので使わないでください。また，ゴムやビニール製品を長時間接触させておくと，シミのつくことがあります。

● 液晶表示部のお手入れ

ホコリがつきやすいので，ときどき，やわらかい布で拭いてください。



補　足

＊ ベンジンやシンナなどの溶剤で液晶パネル部を清掃しないでください。

■バックモニタのお問合わせ

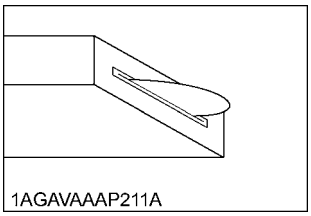
このバックモニタの取扱いに関するお問合わせは，下記メーカ窓口でもご相談いただけます。
なお，故障修理に関しては，お買上げの購入先にご相談ください。

クラリオン（株）
　お客様相談室
TEL　0120-112-140
　（土・日・祝除く / AM9:30 ～ 12：00
　　PM1:00 ～ 5：00）

AM/FMラジオ付きCDプレーヤの取扱い

注 意

＊ 運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。
＊ CD が落下して頭にあたったりするおそれがあるので，下図の状態で放置しないでください。



共通部の操作のしかた

1AGAVAAAP147I

■電源の入／切

1. **【SRC】** ボタンを押すと電源が入り，前回電源を切ったときのソースで始まります。
2. **【SRC】** ボタンを押すたびに，ラジオと CD が交互に切換わります。CD が入っていないときには，**【NO DISC】** と表示されます。
3. **【SRC】** ボタンを約 1 秒間押すとラジオ又は CD への電源が切れます。

補 足

＊ 電源が **【切】** 状態でも，キースイッチが **【ON】** 位置では，時計が表示されます。(時刻の設定は **【時刻合わせ】** の項を参照)

■音量調整

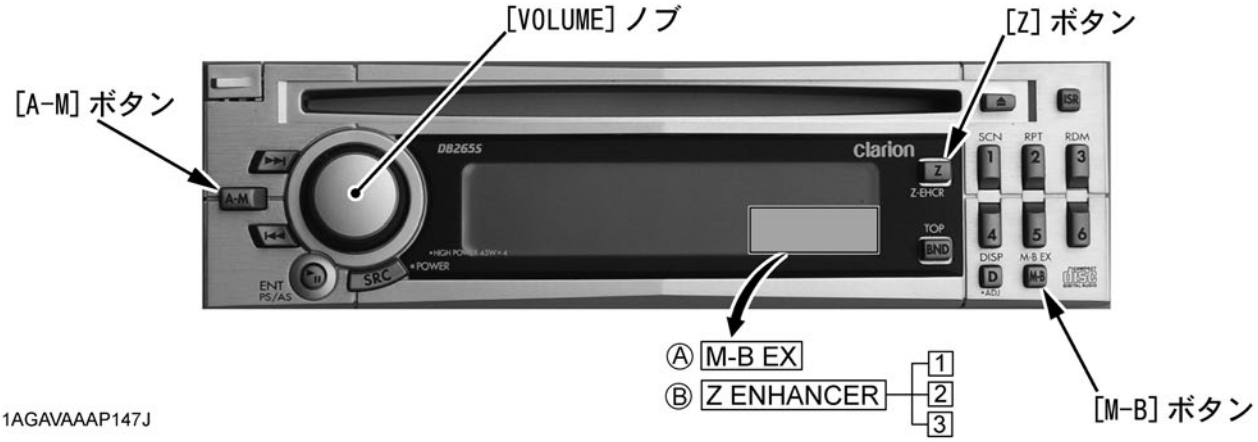
【VOLUME】 ノブを左右に調節します。
右へ回すと大きくなり，左へ回すと小さくなります。

補 足

＊ 調節時はディスプレイに音量値が **【VOLUME 0】** ～ **【VOLUME 33】** の範囲内で表示されます。

■リリースボタン

このボタンを押すと操作パネルが外れます。
操作パネルは衝撃に弱いため，必要以外には取り外さないでください。



Ⓐマグナベース EX　ON 時点
Ⓑ Z エンハンサーインジケータ

■音質調整

◆ 音質自動ワンタッチ設定

[Z] ボタンを押すごとにインジケータ表示が下記のように切換わります。お好みの音質を設定してください。

インジケータ	備　考
Z ENHANCER 1	低音を重視したサウンド
Z ENHANCER 2	高音を重視したサウンド
Z ENHANCER 3	低音と高音を重視したサウンド
消灯（OFF）	初期設定

◆ 音質手動設定

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BASS]** または **[TREB]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回し調節します。
   右へ回すと強調され，左へ回すと減衰されます。（調整範囲は，－ 7 ～＋ 7 です。）
4. **[A-M]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音質は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

■重低音の増強

[M-B] ボタンを押すと，マグナ・ベース EX（MAGNA BASS EX）が ON になり，重低音が増強されます。
[M-B] ボタンを再度押すと，マグナ・ベース EX 機能が解除されます。

■時計表示への切換え

[D] ボタンを押すごとに下記のように表示が切換わります。

ラジオモードの場合

	表示例
周波数表示	FM 1 83.00
時間表示	AM 10:05

CD モードの場合

	表示例
演奏状態表示	TO 1 00:01
時間表示	PM 10:05

補　足

＊ 常に時計を表示させるには，スクリーンセーバー機能を **[SS OFF]** に設定します。
（**[スクリーンセーバーの設定]** の項を参照）
＊ 時計表示のときは，ラジオの選局や CD の選曲などのボタン操作時に，受信周波数やトラック No. などを表示した後，元の時計表示に戻ります。

■時刻合わせ

1. キースイッチを **[ON]** にします。
2. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し，**[SCRN SVR]** を表示させる。
3. サーチボタンを押して，**[CLOCK<E>]** を選択します。
4. プレイ / ポーズボタンを押します。
   調整時点（**[AM 10:16]** など）の時刻を表示して，時刻設定モードになります。
5. サーチボタンを押して，「時」または「分」を選択します。
   点滅している項目が調整できます。
6. **[VOLUME]** ノブを回して，時刻を合わせます。
7. プレイ / ポーズボタンを押すと設定が完了します。

補　足

＊ 時計は 12 時間表示です。
＊ 時刻を合わせる途中で他のボタンを操作すると，時刻調整は解除されます。

■左右スピーカの音量バランス調整

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BAL]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回します。

右へ回すと右側が強調され，左へ回すと左側が強調されます。（調整範囲は，L13 ～ R13 です。）

4. **[A-M]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音量は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

■スクリーンセーバーの設定

1. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し，**[SCRN SVR]** を表示させる。
2. サーチボタンを押して，**[SCRN SVR]** を選択します。
3. **[VOLUME]** ノブを回して，**[SS　ON]** 又は **[SS OFF]** を選択します。

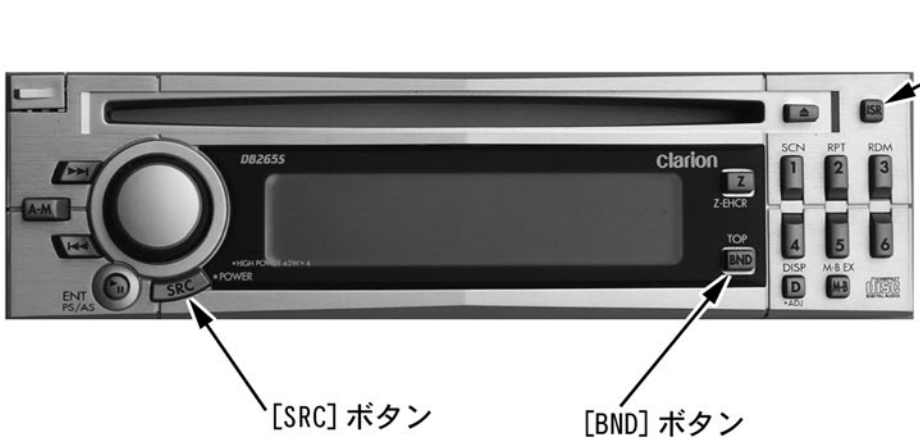
SS ON	スクリーンセーバー機能がONになります。 演奏などの状態表示で30秒間何も操作しないと，スクリーンセーバー表示になります。
SS OFF	スクリーンセーバー機能が OFF になります。

4. **[D]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 初期設定は **[SS ON]** です。ディスプレイに演奏状態を常に表示させておきたい場合は，**[SS OFF]** に設定しておいてください。

ラジオを聴くには



1AGAVAAAP147M

■ラジオの選択

1. **【SRC】** ボタンを押すと受信バンドと受信周波数（**【FM1 83.00】** など）を表示して，ラジオが選択されます。

補　足

＊ **【SRC】** ボタンを押すたびに，ラジオと CD が切換わります。

■受信バンドの選択

1. **【BND】** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイが切換わります。
   お好みのバンドを選択してください。

FM1 → FM2 → AM1 → AM2

■クイック選局（ISR 機能）

ISR 機能とはどのソースからでもすぐに，特定の放送局を呼び出す機能です。
交通情報など，運転中に聴きたい情報などをすばやく選局できます。

1. **【ISR】** ボタンを押すと，ディスプレイに **【ISR 1620】** が表示されます。
2. **【ISR】** ボタン又は **【SRC】** ボタンを押すと，元のソースに戻ります。

補　足

＊ 初期設定では，AM1620kHz の交通情報が登録されています。

◆ 登録のしかた

登録させたい放送局を選局し，**【ISR】** ボタンを約 2 秒間押すと登録されます。

Ⓐ **ST：ステレオ放送受信時に点灯**
Ⓑ **MANU：手動選局モード時点灯**

■プリセット選局
あらかじめ自動又は手動でメモリ登録しておくと，ダイレクトボタン（1 ～ 6）を押すだけで選局できます。（登録のしかたは **[メモリ登録（自動選局）]** 又は **[メモリ登録（手動選局）]** の項を参照）

■メモリ登録（自動選局）
登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ，計 24 局です。
1. **[BND]** ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
2. プレイ / ポーズボタンを約 2 秒間押します。受信電波の強い放送局が自動的にダイレクトボタン（1 ～ 6）に登録されます。

補　足

＊ 電波の弱い場所では 6 局すべて登録されない場合もあります。

■メモリ登録（手動選局）
登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ，計 24 局です。
1. **[BND]** ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
2. サーチボタンを押して登録させたい放送局を選択します。
3. 登録させたいダイレクトボタン（1 ～ 6）を約 2 秒間押すと登録されます。

■メモリ登録の確認
プレイ / ポーズボタンを押すと，登録された放送局を順に受信します。
プレイ / ポーズボタンを再度押すと解除されます。

■自動選局
1. ディスプレイに **[MANU]** が点灯しているときは，**[BND]** ボタンを約1秒間押し消灯させます。（消灯時のみ自動選局できます。）
2. サーチボタンを押します。
3. 放送のあるところで自動的に選局が止まります。他を選局したいときは，再度ボタンを押してください。

■手動選局
1. ディスプレイに **[MANU]** が消灯しているときは，**[BND]** ボタンを約1秒間押し点灯させます。（点灯時のみ手動選局できます。）
2. サーチボタンを押して，放送のあるところに合わせます。

CD を聴くには

■ CD の挿入と再生

CD の挿入口に CD を入れると【T01 00:00】を表示し，自動的に演奏が始まります。
8cm CD のときは，CD 挿入口の中央に入れます。

すでに CD が入っている場合は，【SRC】ボタンを押して CD を選択すると，トラック No.（【T01 00:00】など）を表示し，自動的に CD の演奏が始まります。

補　足

＊ 本機は disc マーク表示のあるコンパクトディスク以外はご使用になれません。
＊ CD-R/RW で記録されたディスクは，使用できない場合があります。
＊ CD は印刷面を上にして入れてください。

1AGAVAAAP1530

■ CD の取出し

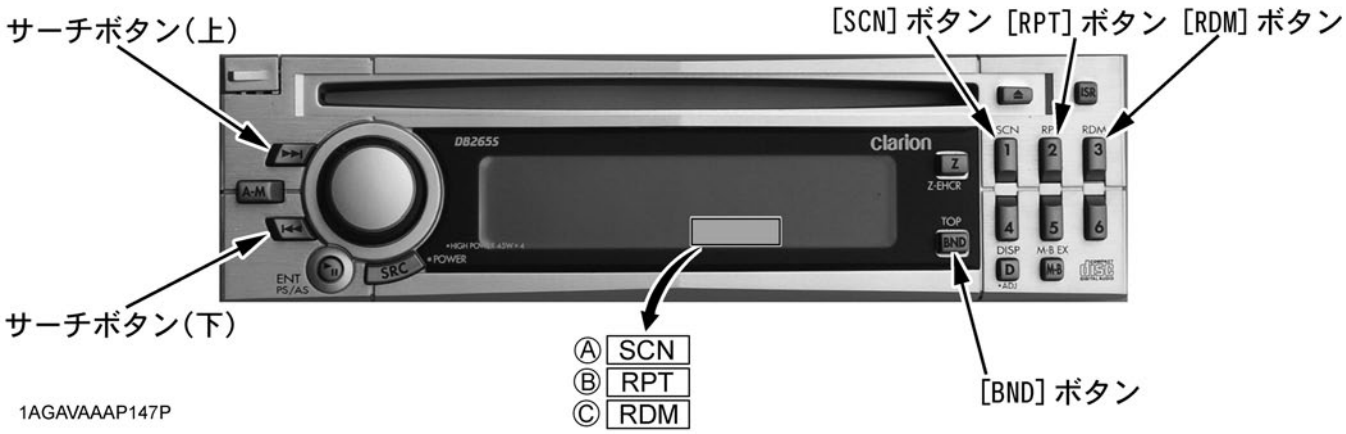
イジェクトボタンを押すと CD が取出されます。

補　足

＊ CD をイジェクトしたままにしておくと，15 秒後に本機内に引き込まれます（オートリロード）。
＊ オートリロード前に無理に CD を押し込むと，CD にキズがつくおそれがあります。
＊ 8cm CD はオートリロードされません。
イジェクトした場合は，8cm CD を取出してください。

■演奏の一時停止

プレイ / ポーズボタンを押すと【PAUSE】が表示され，演奏が一時停止します。
プレイ/ポーズボタンを再度押すと演奏が再開されます。



ⒶSCN：スキャン演奏時に点灯
ⒷRPT：リピート演奏時に点灯
ⒸRDM：ランダム演奏時に点灯

■次の曲／前の曲の選択

次の曲を聴くときは，サーチボタン（上）を押します。また押した回数だけ先の曲が演奏されます。
前の曲を聴くときは，サーチボタン（下）を 2 回押します。サーチボタン（下）を押すと，演奏中の曲を最初から演奏します。
さらに押すと，押した回数だけ前の曲が演奏されます。
曲の頭部分を演奏しているときにサーチボタン（下）を 2 回押すと，2 つ前の曲へ戻ることがあります。

■早送り／早戻し

早送りするときはサーチボタン（上）を押し続けます。
早戻しするときはサーチボタン（下）を押し続けます。

1 秒以上押すと 5 倍速で，3 秒後には 30 倍速で，演奏曲が早送りまたは早戻しされます。

■トップ機能

[BND] ボタンを押すと，最初の曲（トラック No.1）から演奏されます。

■曲を探す（スキャン演奏）

CD に収録されている全曲を 10 秒間ずつ演奏します。
[SCN] ボタンを押すと，ディスプレイの **[SCN]** が点灯して，スキャン演奏します。スキャン演奏は，演奏している曲の次の曲から始まります。

■曲を繰り返し聴く（リピート演奏）

演奏中の 1 曲を繰り返し演奏します。
[RPT] ボタンを押すと，ディスプレイの **[RPT]** が点灯して，リピート演奏します。

■ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏）

CD に収録されている全曲を順不同に演奏します。
[RDM] ボタンを押すと，ディスプレイの **[RDM]** が点灯して，ランダム演奏します。

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤが故障かな？と思われたら

次のような症状は，故障ではないことがあります。修理を依頼される前に，もう一度次のことをお調べください。

現　象	原　因	修　理
電源が入らない。 （音が出ない）	ヒューズが切れている。	ヒューズ容量を確認し，新しいヒューズと交換してください。 再度切れる場合は，お買い求めの販売店又は最寄の弊社修理相談窓口にご相談ください。
CD がすぐ出てしまう。	CD を裏表逆に入れている。	CD の印刷面を上にして入れてください。
音飛びする。 ノイズなどが入る。	CD が汚れている。	CD を柔らかい布で拭いてください。
	CD に大きい傷やソリがある。	CD を無傷なものに交換してください。
電源を入れた直後音質が悪い。	湿気の多いところに駐車すると，内側のレンズに水滴が付くことがあります。	電源を入れた状態にして１時間乾燥させてください。
ボタンを押しても動作しない，又はディスプレイが正確に表示されない。	ノイズなどが原因で，マイコンが誤動作している。	リセットボタンを，細い棒などで約２秒間押してください。 リセットボタンを押したときは，設定したプリセットメモリなどが全て消えますので，もう一度設定し直してください。

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのエラー表示について

本機はシステム保護のため，各種の自己診断機能を備えています。
傷害が発生したときには，各種のエラーが表示されますので，対処方法にしたがって傷害を取除いてください。障害を取除けば，通常の動作に復帰します。

エラー表示	原　因	対処方法
ＥＲ ２	本機の CD デッキ内の CD が引掛かってイジェクトされないとき。	引掛かる要素を取除いてください。CD がイジェクトされない場合は，機器の故障と思われますので，お買い求めの販売店にご相談ください。
ＥＲ ３	本機の CD デッキ内の CD に傷などがあり，演奏できないとき。	傷やソリのない CD と交換してください。

※上記対処を行なっても復帰しない場合は，本体の電源を切り，お買い求めの販売店又は，クラリオン（株）お客様相談室にご相談ください。

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い上の注意

1. discマークのついたCDをご使用ください。
   また，ハート形や八角形など，特殊形状のCDは使用しないでください。
   CD-R/CD-RWで記録されたディスクは，使用できない場合があります。
   CDが曇っているときは，やわらかい布でふいてください。
2. 本機はシステム保護のため，各種の自己診断機能を備えています。ディスプレイにエラーが表示されたときには，**[エラー表示について]**の項を参照して障害を取除いてください。障害を取除けば，通常の動作になります。
3. 本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気に十分ご注意ください。
4. 車内の温度に気をつけてください。
   極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，－ 20 ～ 70 度の範囲で使用してください。
5. 本機操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
6. 本機のお手入れは，乾いたやわらかい布でふいてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また，汚れがひどい場合にはやわらかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽くふき取ってください。
7. CDはディスク面に，傷や指紋をつけないように扱ってください。
   汚れたときは，やわらかい布で，内側から外側へ向かって，よくふいてください。
8. 8cm CDをイジェクトした状態で走行しないでください。走行中の振動により，ディスクが落下するおそれがあります。
9. CDは次のような場所には保管しないでください。
   - 直射日光のあたる場所
   - 湿気やホコリの多い場所
   - 暖房の熱が直接あたる場所

◆ 推奨クリーニングディスク

クラリオン製　CTC-007-210

■AM/FMラジオ付きCDプレーヤのお問合わせ

この AM/FM ラジオ付 CD プレーヤの取扱いに関するお問合わせは，下記メーカ窓口でもご相談いただけます。
なお，故障修理に関しては，お買上げの購入先にご相談ください。

クラリオン（株）
　お客様相談室
TEL　0120-112-140
　（土・日・祝除く / AM9:30 ～ 12：00
　　PM1:00 ～ 5：00）

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，131 ページ以降を参照）

警 告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを始動してからの確認作業以外は，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜き，駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。
＊ バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，外したままでは衣服などを巻込むおそれがあり危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。
＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊ 刈刃の掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

各部への給油と交換

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，必ず指定の**［クボタ純オイル・クボタ純グリース］**を使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部に排かんくずがたまっていないか点検します。

■日常点検項目

＜ここを＞ ➡		＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参照ページ
機体の回りを歩いて				
機体各部		1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. 排かんくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充，増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	－ － 193 155，253 ⚠-25
刈刃， チョッパ切断刃・受刃		・刃の損傷はないか。	・交換する。	224，230
クローラ		・たるみや損傷はないか。	・調整又は，交換する。	243
防じんあみ		・詰まりはないか。	・掃除する。	195
反射器		・汚れ損傷はないか。	・掃除又は，交換する。	242
各カバーを開く又は，取外して				
油水分離器 （セパレータ）		・カップ内に水が溜まっていないか。	・排水する。	196
受あみ，こぎ歯		・極端な摩耗や破損はないか。 （摩耗量の確認）	・組換え又は，交換する。	227，228
フィーダ駆動軸 （フィーダ搬送部）		・わらが巻付いていないか。	・掃除する。	155
エンジン回りを確認して				
エンジンオイル		・油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	・規定量まで補給する。 ……クボタ純オイル D10W-30 DH-2	177
ラジエータ	冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの **FULL 線と LOW 線の間**）あるか。	・清水を規定量まで補給する。	188
	フィン	・詰まりはないか。	・掃除する。	195
オイルクーラフィン				
コンデンサフィン				
プレクリーナ		・コレクタにほこりがたまっていないか。	・掃除する。	191
エアクリーナ		・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除又は，エレメントを交換する。	191
ファン駆動ベルト		・たるみはないか。 ・損傷はないか。	・調整する。 ・交換する。	206
ホース，パイプ		・油もれ，水もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	193
配線コード		・コネクタなどの外れやゆるみ又は，被覆の損傷はないか。	・取付け又は，交換する。	239

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参照ページ
運転席に座りメインスイッチを入れて			
各ランプ	・各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの切れを調べ交換又は，接続をする。 ・バッテリの充電又は交換する。	239，242
液晶ディスプレイ	・表示はされているか。		
燃料計	・作業に必要な燃料はあるか。	・軽油を補給する。	176
ホーン	・スイッチを押すと鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	239，242
バックブザー	・主変速レバーを**【後進】**位置にするとブザーが鳴るか。		
バッテリ	・エンジンは始動するか。	・充電又は，交換する。	235
エンジンを始動して			
エンジン回転計・速度計	・回転計・速度計の作動に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	18
エンジン（マフラ）	・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	—
刈刃，フィンガ軸，各チェーン	・注油後の動きに異常はないか。	・調整又は，交換する。	217，224，225
各レバー	・各レバーの作動に異常はないか。	・調整する。	200 ～ 201
駐車ブレーキ	・機体は停止するか。また，遊び量は適正か。	・調整する。	201

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ 高速での刈取作業は避けてください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

警　告

＊ エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業をするために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊ コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ コンバインに乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。
＊ 始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。
＊ 副変速レバーが［N］（中立）位置では，油圧ロックが作動しないため，坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。

■始動のしかた

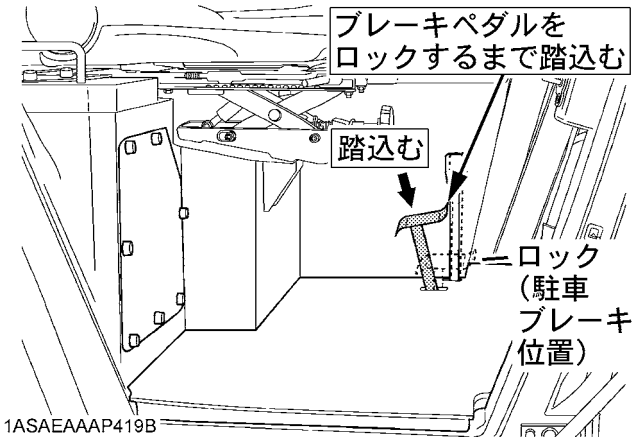
1. ハンドルとグリップをしっかりと握り，補助ステップに確実に足を掛けてすべらないように注意しながら運転席に座ります。

重　要

＊ 運転席へ乗降りするときは，ハンドル以外は握らないでください。特にパワーステアリングレバーを握って乗降りすると，変形したり，破損する原因となります。また，パワーステアリングレバーが変形したり破損すると，正常なコンバインの運転が行なえなくなるおそれがあります。

2. 運転席（シート）の調整（11 ページ参照）を行なって楽な姿勢で運転操作が行なえる状態にします。

3. 駐車ブレーキを掛けます。



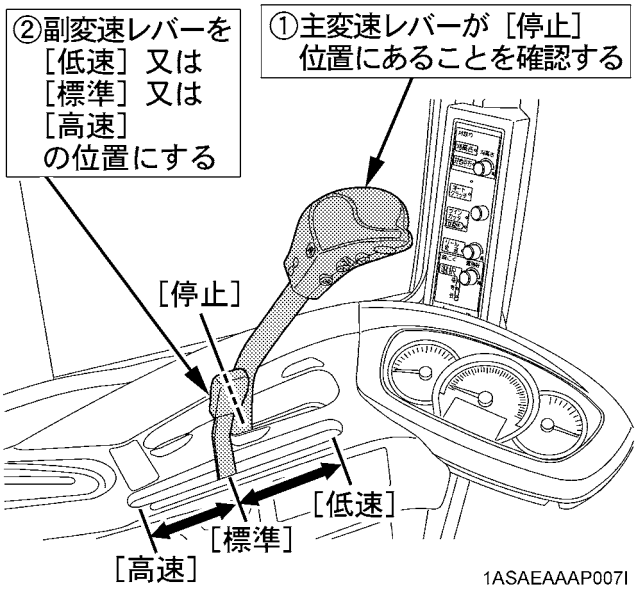
補　足

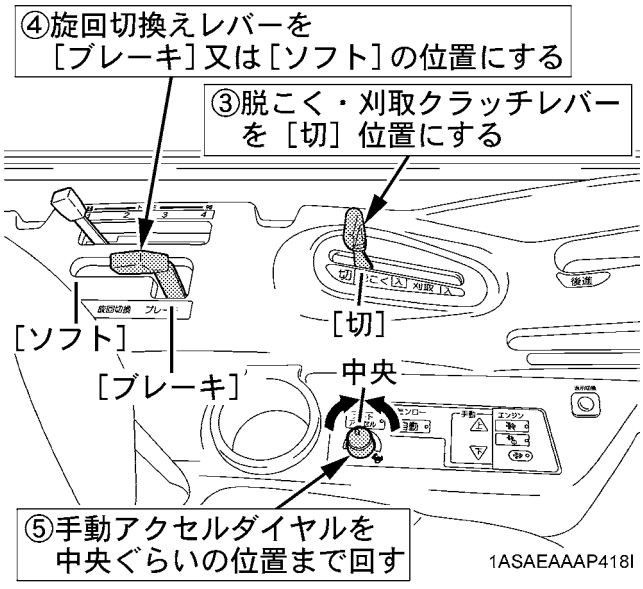
＊ 駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが**［停止］**位置に戻ります。また，ブレーキペダルが**［ロック］**位置の場合は，主変速レバーは動きません。

＊ 駐車ブレーキペダルを踏んでいないと，メインスイッチのキーを回してもエンジンは始動しません。また，液晶ディスプレイに下記の内容を表示します。

● **［駐車ブレーキを踏む］……**
駐車ブレーキペダルを踏む。

4. 各レバー位置の確認をします。





補　足

＊ 各レバーの位置がエンジンの始動条件に合っていないと，メインスイッチのキーを回してもエンジンは始動せず液晶ディスプレイに次の内容を表示しますので始動条件に合うように処置を行なってください。

- **［脱こくクラッチを切る］……**
  脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にする。
- **［主変速中立にする］……**
  主変速レバーを**［停止］（中立）**位置にする。
- **［駐車ブレーキを踏む］……**
  駐車ブレーキペダルを踏込む。
- **［もみクラッチを切る］……**
  もみ排出クラッチを**［切］**にする。

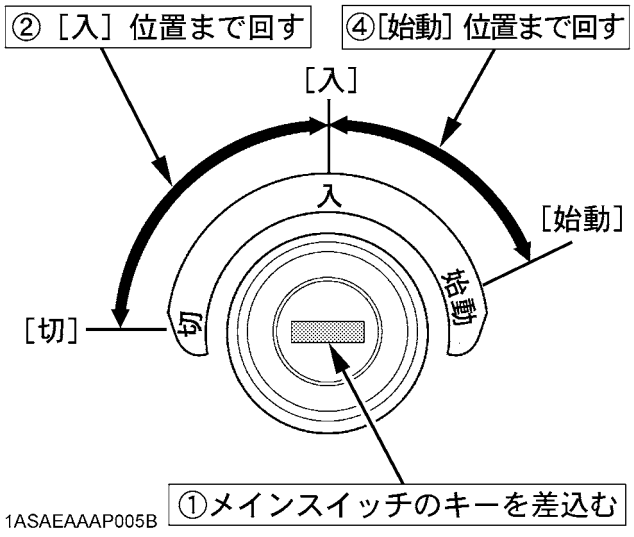
  また，旋回切換えレバーが**［ブレーキ / ソフト］**のいずれかの位置にないと，エンジン始動後，発進するとエンジンが停止し，液晶ディスプレイに**［旋回切換えを確実に］**と表示します。

＊ 旋回切換えレバーが切換えにくいときは，副変速レバーを**［N］（中立）**位置にしてから切換えてください。

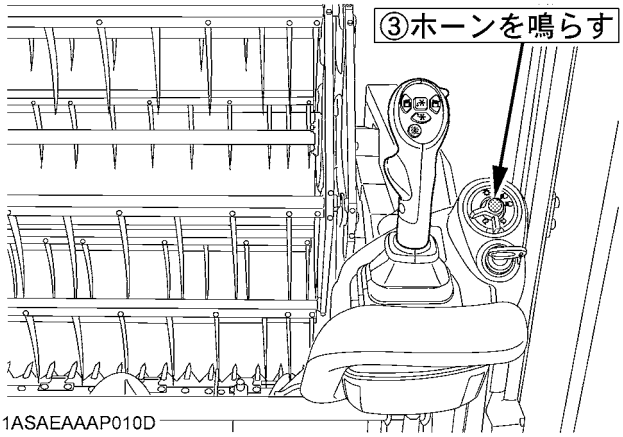
5.　エンジンを始動します。

補　足

＊ エンジンを始動するとき，メインスイッチのキーを**［入］**位置から**［始動］**位置に回しても下記理由により，エンジンはすぐに始動しません。エンジンを始動するときはメインスイッチのキーを**［入］**位置の状態で一定時間待ってからエンジンを始動してください。
  - マイコンがエンジンの始動条件を判定するまで約２秒かかります。
  - 脱こく･刈取クラッチレバーを脱こく**［入］**又は，刈取**［入］**位置でエンジンを停止した場合，次回エンジンを始動するときは，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にしたあと，メインスイッチのキーを**［入］**位置にしてからエンジンの始動条件が整うまでに約３秒かかります。従って，この場合はメインスイッチのキーを**［入］**位置にして約５秒待ってください。



1ASAEAAAP005B



1ASAEAAAP010D

重　要

＊ メインスイッチのキーを**【始動】**位置に回して10秒たっても始動しないときは，いったんメインスイッチのキーを**【切】**位置にして，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。**【始動】**位置で10秒以上回すと故障の原因になります。
＊ エンジン回転中に，メインスイッチのキーを**【始動】**位置に回すと故障の原因になります。

補　足

＊ メインスイッチのキーを**【入】**位置にすると，マルチナビの液晶ディスプレイに**【アワメータ・オイル（）・充電（）】**が表示されますが，エンジンを始動してもオイル又は，充電の図柄の表示が消えないときは，購入先に連絡し，処置してください。
＊ 駐車ブレーキが掛かっている状態でメインスイッチのキーを**【入】**位置にすると**【駐車ブレーキ（P）】**が優先して表示し，駐車ブレーキを解除すると表示は消えます。
＊ ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

■暖機運転について

エンジン始動後，エンジン回転数を約1500rpmに合わせて通常（寒冷時以外）約5～10分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。
＊ 寒冷時は暖機運転を怠るとパワーステアリングレバーが操作できなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　温	暖機運転時間
0℃～-10℃	約10分
-10℃～-15℃	10～15分
-15℃～-20℃	15～20分
-20℃以下	20分以上

■燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

1. 脱こく・刈取クラッチレバー及びメインスイッチのキーを**【切】**位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかた**の**1～4**を確認後，エンジンを始動します。

補　足

＊ メインスイッチのキーを**【入】**位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

■バッテリが上がったときの始動のしかた

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。（235 ページ参照）
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

重　要

＊ 接続するバッテリは，必ず 12V のものを利用してください。故障の原因となります。
＊ バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
＊ 充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。

補　足

＊ ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリの**（＋）端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの**（－）端子**に接続し，コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にします。
2. アクセルダイヤルを**【🐢】**（低回転）位置にします。
3. メインスイッチのキーを**【切】**位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊ エンジン停止中でメインスイッチのキーが**【入】**位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。

移動走行について

このコンバインは，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

警 告

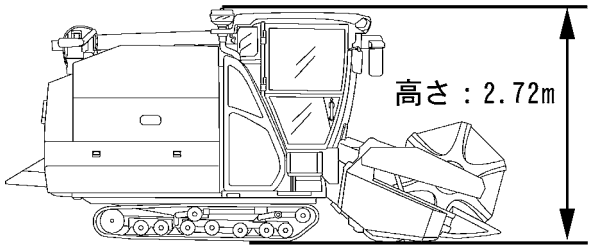
＊ 10 cm以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は，転倒しケガをするおそれがあるので下記事項を守ってください。
- **副変速レバーを[低速]位置にし，エンジン回転を下げて低速で走行してください。**
- **上り方向は前進，下り方向は後進であぜや斜面に対して直角に走行してください。**

＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）の走行途中で急なパワーステアリングレバーの操作や副変速レバー，ポジピタスイッチ，ブレーキペダル，水平操作手動スイッチ，傾斜角手動調節スイッチ，旋回切換えレバー，アンローダリモコンを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下する危険がありますので操作しないでください。
- **走行途中に停止するときは，主変速レバーを操作して停止してください。**

＊ 下記のようなところは，転倒しケガをするおそれがあるので走行しないでください。
- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**
- **左又は，右に 10 度以上傾斜しているところ**

警 告

＊ グレンタンク内に残っているこく粒は全て排出してください。
＊ 安全のためヘルメットを着用してください。
＊ 運転者以外の人は乗せないでください。
＊ 水平操作手動スイッチで機体をいっぱい下げた状態にしてください。また，高さ制限のあるところを走行するときは注意してください。



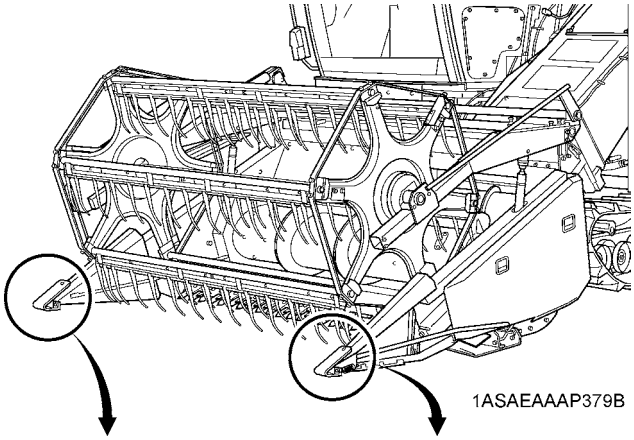
1ASAEAAAP428A

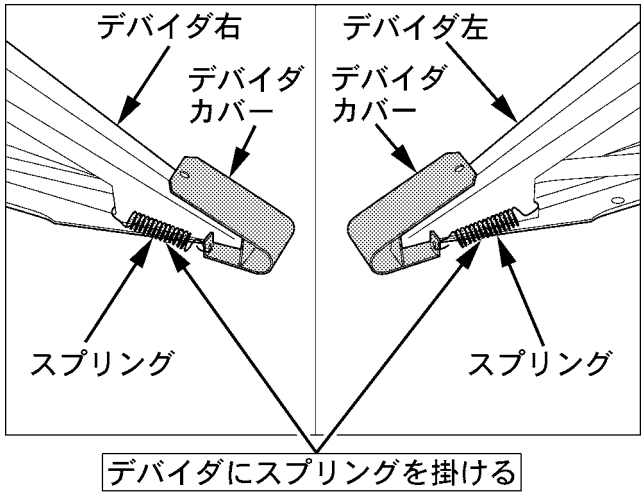
■移動走行前の準備

警　告

＊ 平たんな場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 木や電線に接触して破損したり，周囲の人にケガをさせるおそれがあるのでアンローダを収納状態にしてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

1. グレンタンク内に残っているこく粒は，すべて排出します。(105 ページ参照)
2. 刈取部を下げたあと，エンジンを停止し，左，右のデバイダにスプリングを引掛けて，デバイダカバーを左，右にそれぞれ取付けます。

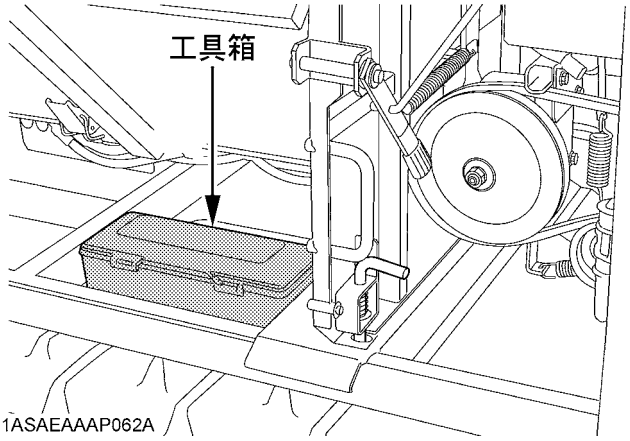




1ASAEAAAP061A

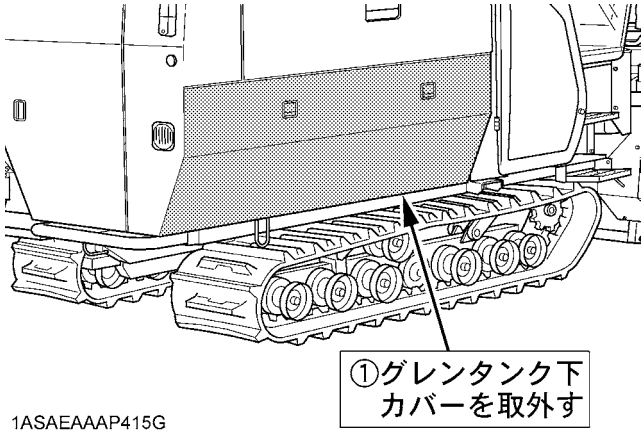
補　足

＊ デバイダカバー及びスプリングは，グレンタンク下カバーを取外して工具箱から取出して取付けてください。

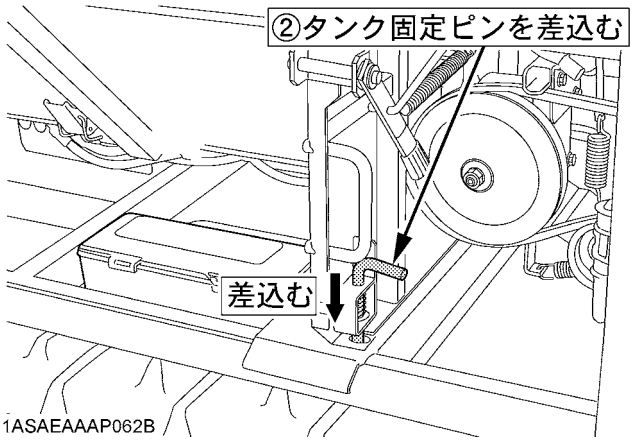


1ASAEAAAP062A

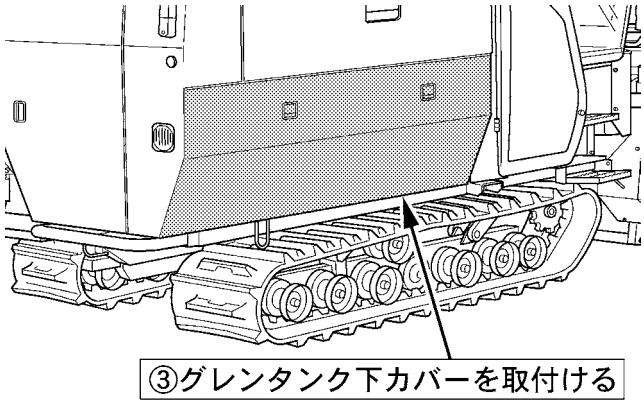
3. グレンタンクが固定されていることを確認し，アンローダを収納します。



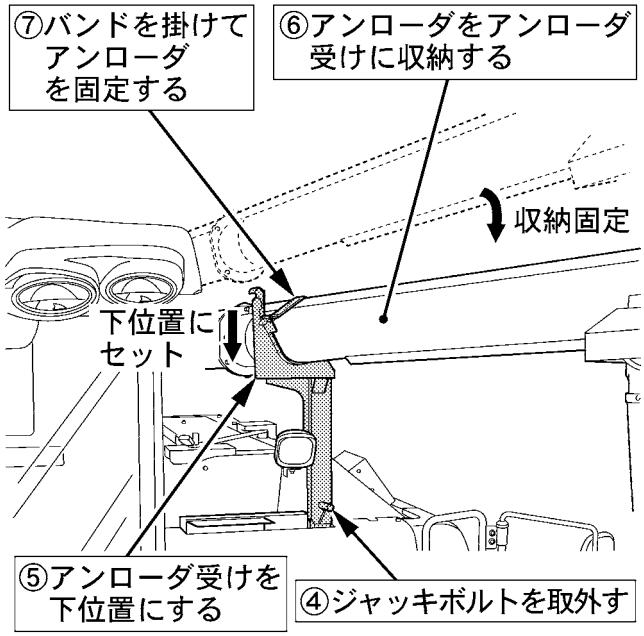
1ASAEAAAP415G



1ASAEAAAP062B



1ASAEAAAP415H



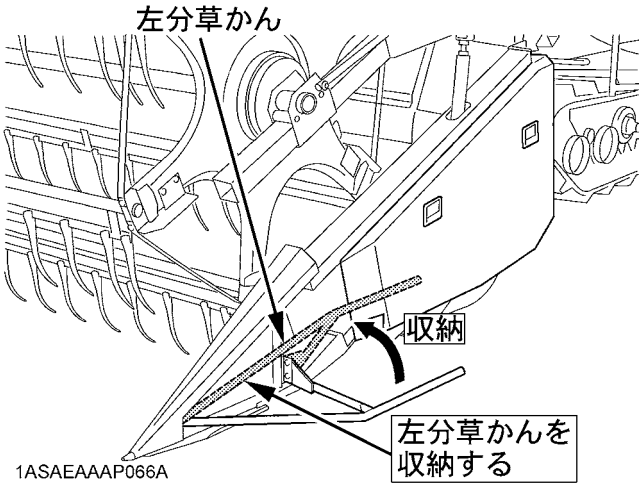
1ASAEAAAP366A

補　足

＊ アンローダ内にこく粒が残っていると，こく粒がこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

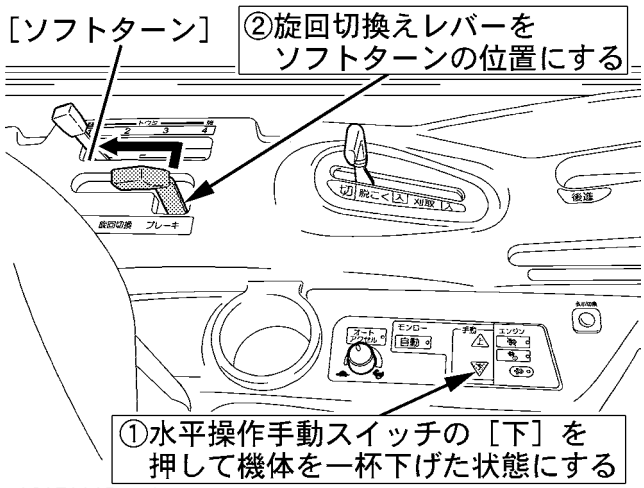
＊ アンローダ受けにバンドを掛けるときは，下側のフックに掛けてください。

4. 左分草かんを収納します。



1ASAEAAAP066A

5. 水平操作手動スイッチで機体をいっぱいまで下げます。
6. 旋回切換えレバーを**［ソフトターン］**の位置にします。



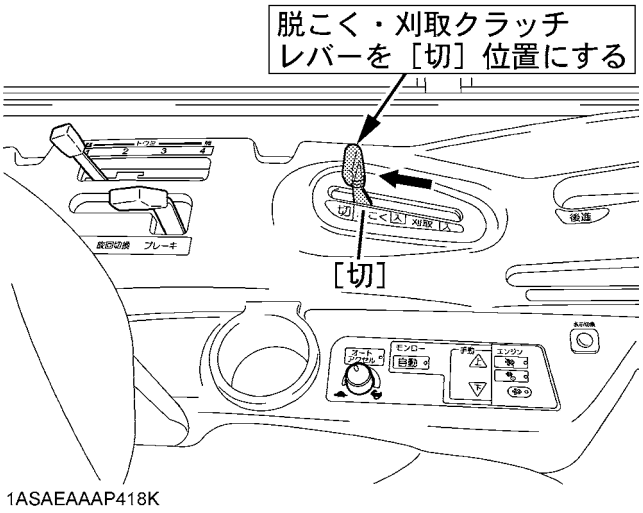
1ASAEAAAP418J

補　足

＊ 旋回切換えレバーが切換えにくいときは，副変速レバーを**［N］（中立）**位置にしてから切換えてください。

＊ **［ブレーキターン］**位置で作業を行なったとき，機体の振動が大きいときは，**［ソフトターン］**位置に切換えてください。

7. 脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にします。



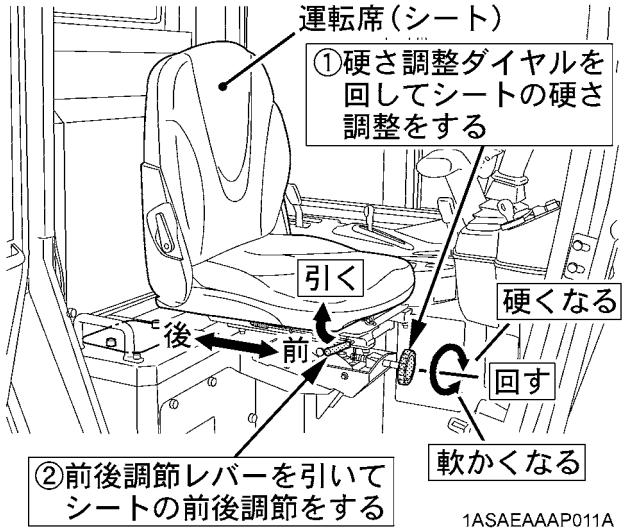
1ASAEAAAP418K

■発進のしかた

警 告

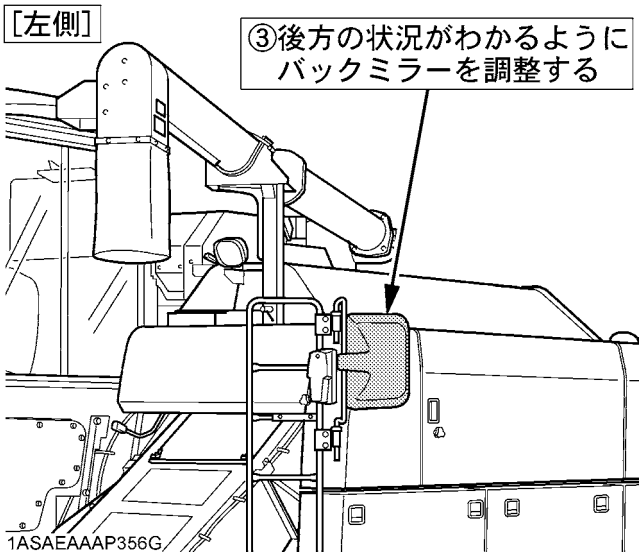
＊ 発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。
＊ 急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。

1. 運転席，バックミラーの調整を行ないます。

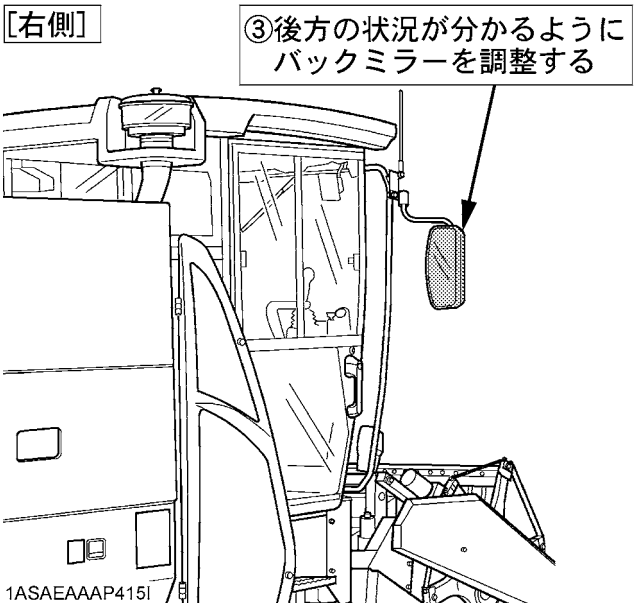


1ASAEAAAP011A

［左側］



［右側］

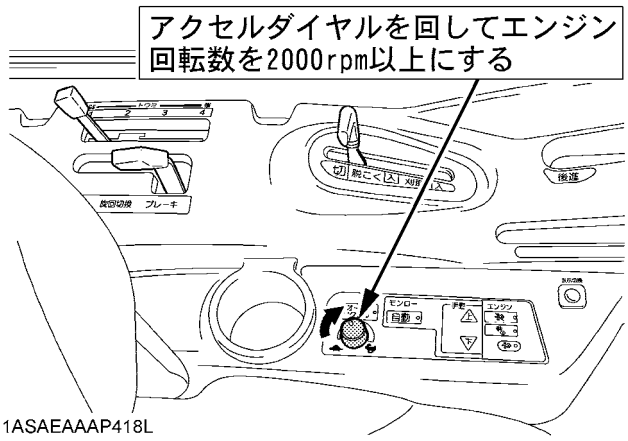


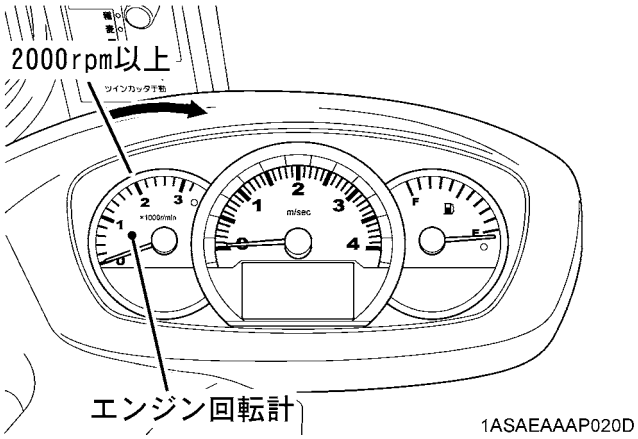
補　足

＊ バックミラーは左，右共可動式です。前方又は，後方に動かしているときは，元に戻して調整を行なってください。

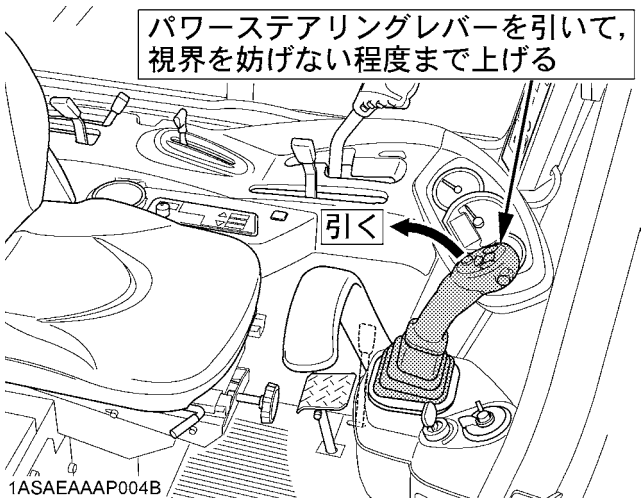
2.　アクセルダイヤルを操作します。

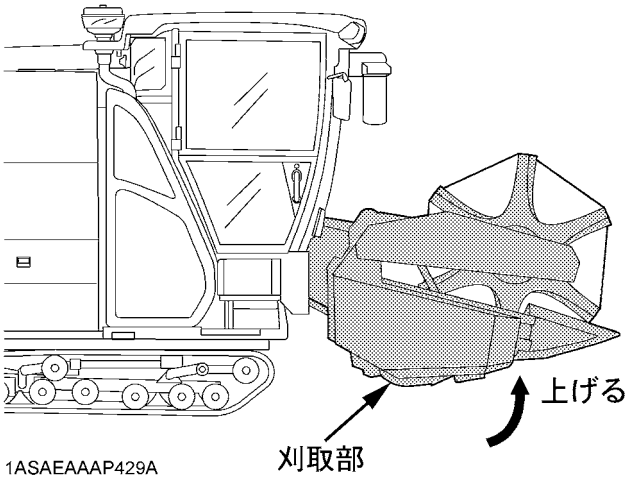
エンジンを始動したあと，アクセルダイヤルを操作します。





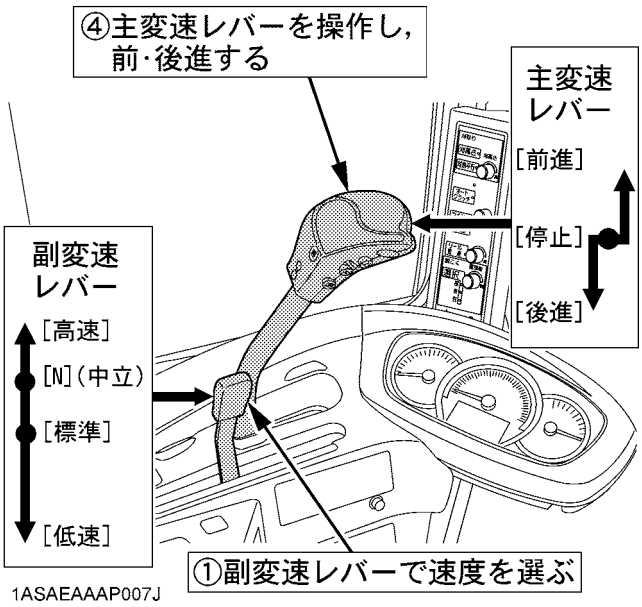
3. 刈取部を上げます。

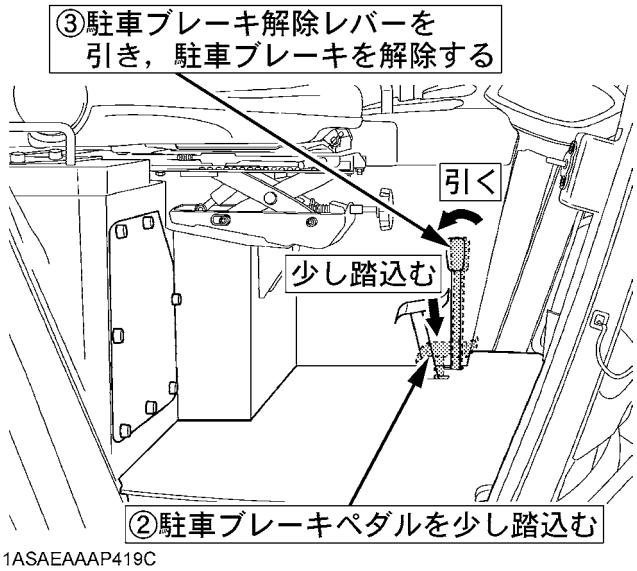




4. 走行速度を選んで発進します。

主変速レバーを**［停止］**位置より前に押すと**前進**し，後に引くと**後進**します。





重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。
＊ 副変速レバーの切換えは平坦な場所で主変速レバーを**【停止】**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

補　足

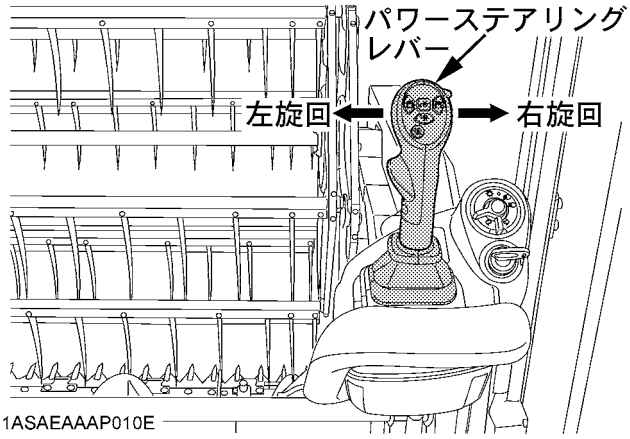
＊ 副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し**【前進】**側に動かして停止に戻してから切換えてください。

■旋回のしかた

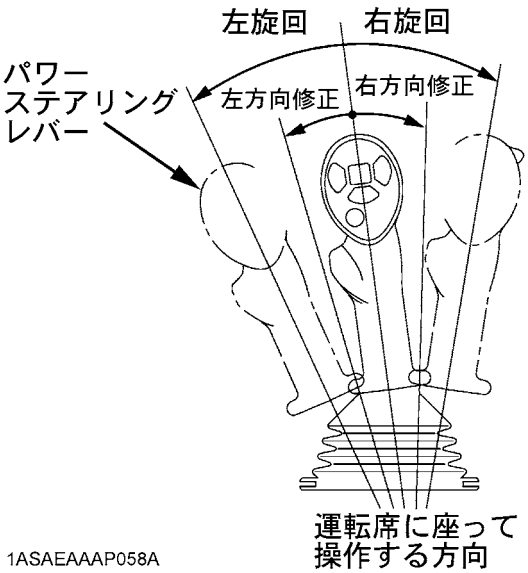
警　告

＊ 高速走行時，パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にパワーステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。



1ASAEAAAP010E



1ASAEAAAP058A

重　要

＊ 砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車・駐車のしかた

警　告

＊ コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ やむをえず坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを**［停止］**位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

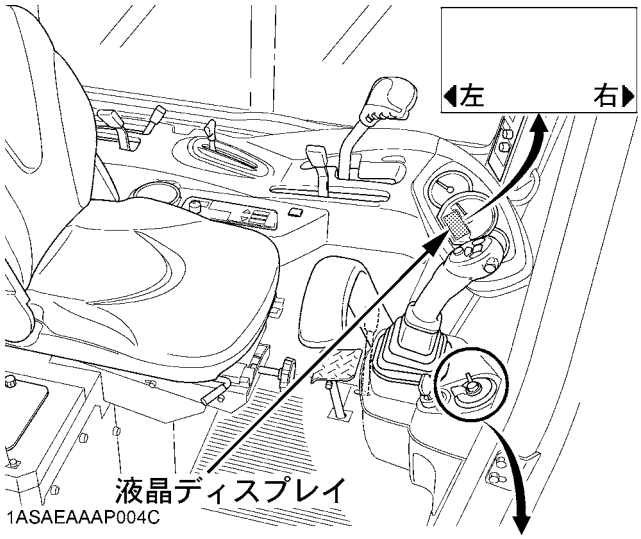
3. アクセルダイヤルを**［🐢］（低回転）**位置にします。
4. 副変速レバーを**［N］（中立）**以外の位置にします。
5. 刈取部を降ろして地面に接地します。
6. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。
7. キャビンのドアをロックします。

■移動走行について

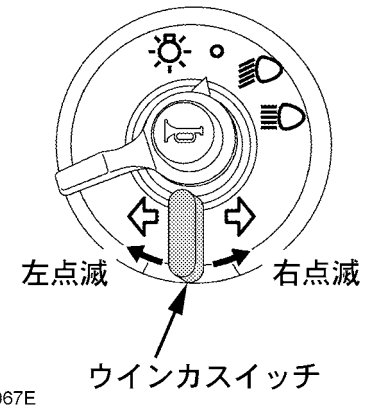
警　告

＊ 夜間など暗いときに移動走行するときは，ヘッドランプを必ず点灯し，作業灯は必ず消灯してください。

移動走行中，進路方向を変えるときは，ウインカ（方向指示器）で進路方向を知らせてください。旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，マルチナビの液晶ディスプレイに**［◀］（左方向）**又は，**［▶］（右方向）**方向を示す矢印が点滅表示します。



1ASAEAAAP004C



1ARADAKAP067E

補　足

＊ 旋回が終わったらウインカスイッチは中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

警　告

＊ 積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキを掛け，トラックの変速レバーを R（後進）又は，１速に入れたあと，さらにタイヤに車止めを行ない，トラックが動かないようにしっかりと固定してください。
＊ あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（65cm 以上），長さ（高さの４倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	65cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が4000kg以上の重量に耐えうる

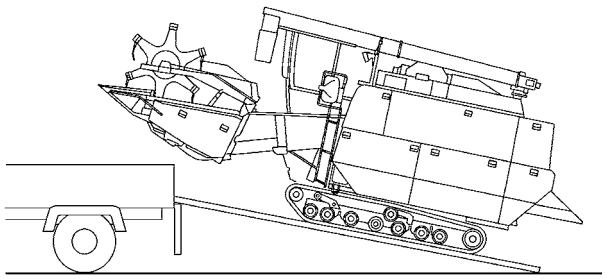
■トラックへ積込み時のコンバインの準備

こく粒をすべて排出し，アンローダ受けを下（収納）位置にしてアンローダを収納後，脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にし，自動車体水平制御（モンロー）を機体いっぱいまで下げ，左分草かんを収納したあと，デバイダカバーを取付け，刈取部又は，フィーダを視界を防げない程度まで上げます。（74 ページ参照）

■コンバインの積込み・積降しのしかた

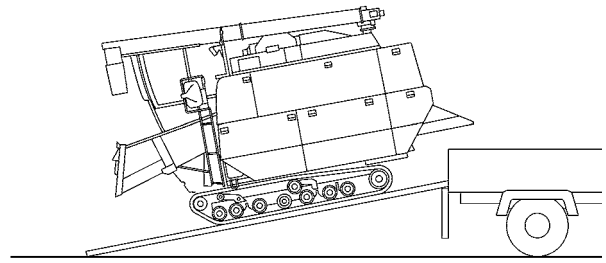
警　告

＊ 積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。ただし，刈取部を取外している場合は後進で積込み，前進で積降しを行なってください。
＊ 平坦地を選び，できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また，助手以外の人をコンバインの周辺に近づけないでください。特にコンバインの前後に人を近づけないでください。



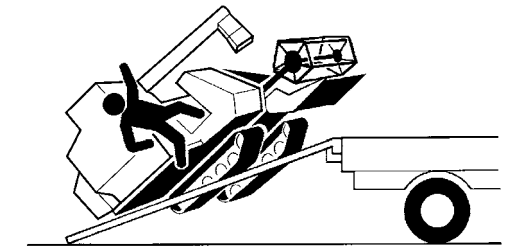
1ASAEAAAP068A

［刈取部未装着］



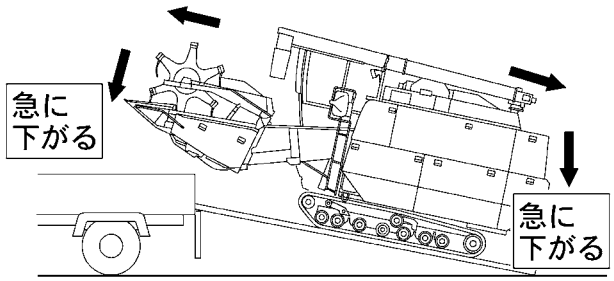
1ASAEAAAP069A

＊ あゆみ板の途中で急なパワーステアリングレバーの操作や副変速レバー，駐車ブレーキペダル，水平操作手動スイッチ，傾斜角手動調節スイッチ，旋回モード切換えレバー，アンローダリモコンを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。



1ASAAAIAP237D

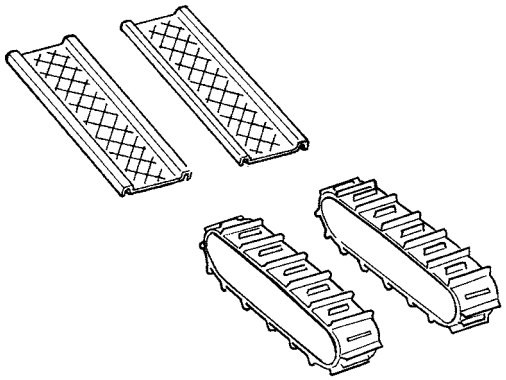
＊ 機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



1ASAEAAAP068B

◆ 操作のしかた

1. 各作業クラッチレバーを**【切】**位置にします。
2. 水平操作レバーで機体を**最下降位置**まで下げます。
3. パワーステアリングレバーで刈取部を**最上昇位置**まで上げます。
4. アクセルダイヤルを操作してエンジン回転数を 2000rpm 以上にし，副変速レバーを**【低速】**位置にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，**低速**で走行します。
5. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。



1ARADBEAP124A

6. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

■トラック上での処置

警　告

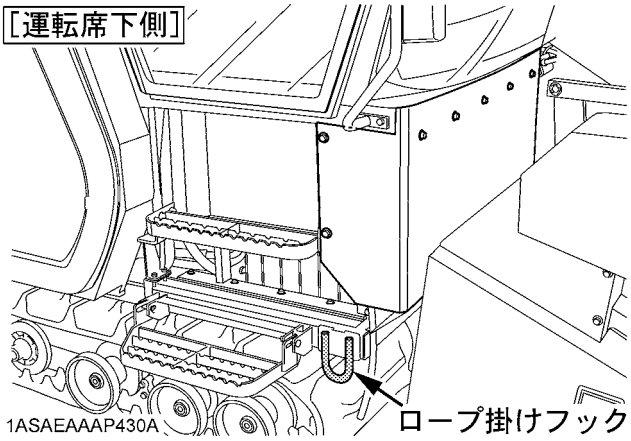
＊ 刈取部を床まで降し［2.1 仕様］，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

補　足

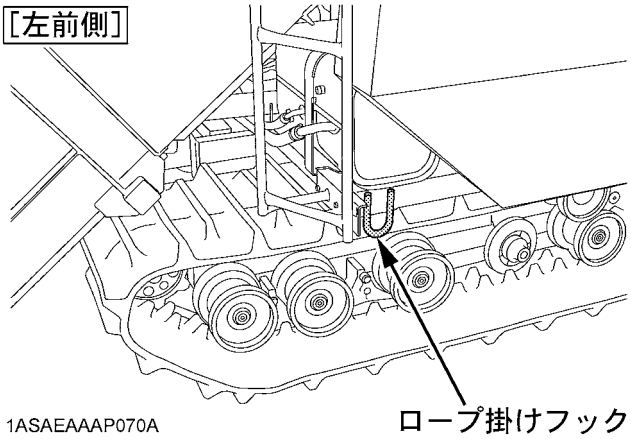
＊ **［道路運送車両法］**の違反となりますので2.6W仕様は刈取部を外して，本機と刈取部は別々に運送してください。

1. コンバインをトラックの荷台に乗せたあと，**［2.1 仕様］**は刈取部を床まで降ろし，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. コンバインにロープを掛けます。ロープを掛けるときは，必ず指定のロープ掛け用のフック 4 箇所に掛けてください。

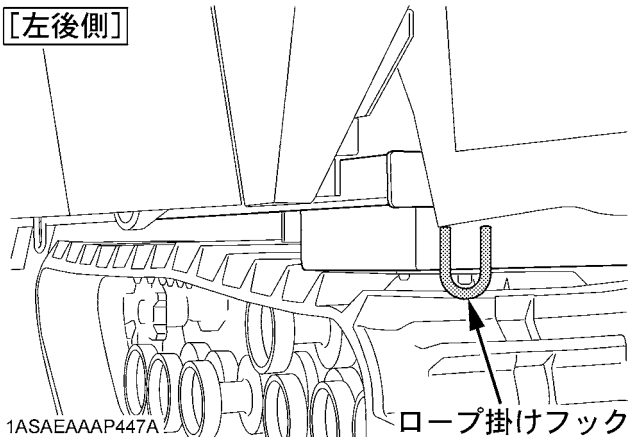
［運転席下側］



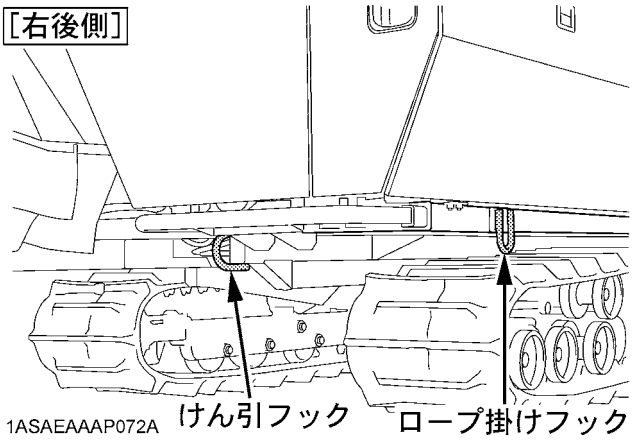
［左前側］

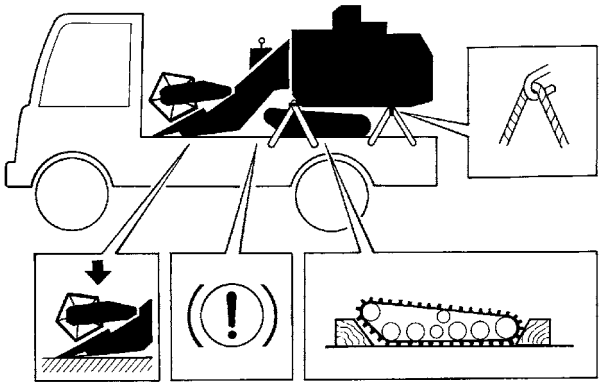


［左後側］



［右後側］





重　要

＊ ロープ掛けフック以外の所には，ロープを掛けないでください。
＊ ロープ掛けフックはけん引作業に使用しないでください。また，けん引作業を行なうときにロープをロープ掛けフックに掛けないでください。

補　足

＊ けん引フックについては，256 ページを参照してください。

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の収穫量を上げるにはコンバインに合わせた，ほ場のうね作り・排水管理や作付け・栽培管理及び，適期収穫についてそれぞれ適した作業を行なってください。

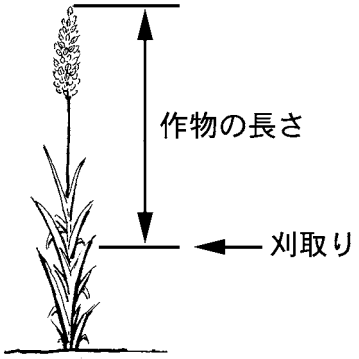
補　足

＊ 作物の品種・収穫時期・栽培管理やほ場の管理のしかたなどは，最寄りの指導機関（JA 農協や普及センターなど）や経験者に相談してください。

■作物の条件

◆作物の長さ［稲・麦］

刈取部にかき込む作物の長さは，40 ～ 130cm です。刈取位置の高さ（刈高さ）を調整しながら刈取作業を行なってください。



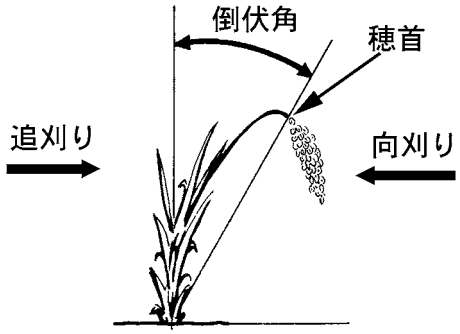
1ARADBEAP129G

◆作物の倒伏

作物の倒れかた（倒伏角）により，刈取り方向に注意してください。

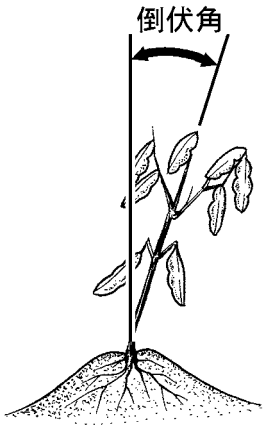
刈取りかた（方向）	倒　伏　角
追刈り	85 度以下
向刈り	70 度以下

麦



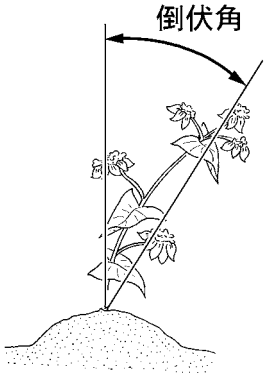
1ARADAFAP351B

大豆



1ASADACAP025A

そば



1ASADACAP287A

◆作物のぬれ

作物は乾いて，手でしごいてぬれていない状態が適期です。

重　要

＊ 湿田の倒伏作物やぬれ作物の刈取作業を行なうとき，受けあみが目詰まりを起こすことがあります。この場合，排じんロス（こく粒の飛散）が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し，受けあみの目詰まりを取除いてください。掃除を行なうときは，必要に応じて受あみを取外してください。(144 ページ参照)

◆作物について

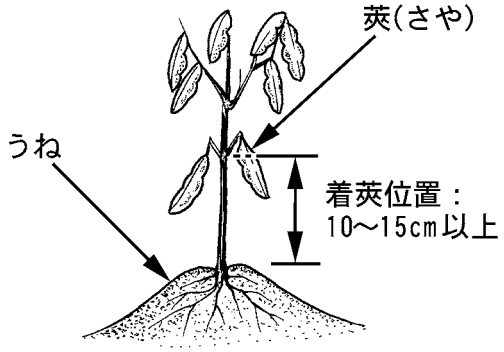
[大豆]

● 栽培管理

コンバインでの刈取りに適した品種を選んで栽培を行なってください。また，刈取作業前には雑草や腐った作物などは，取除いてください。

補　足

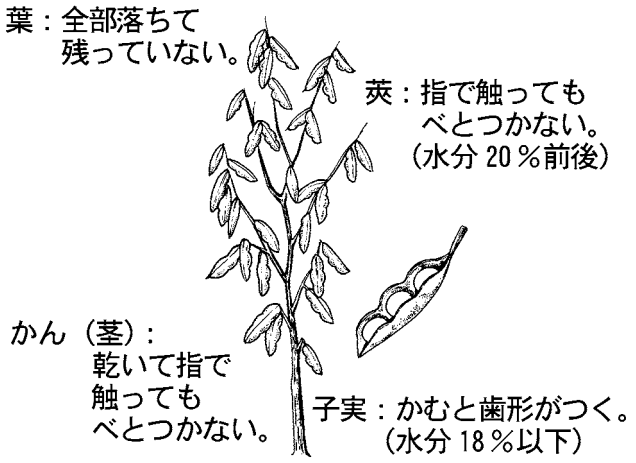
＊ 着莢（ちゃっきょう）位置が，うね上面から 10 ～ 15cm 以上で，倒伏や裂莢（れっきょう）のしにくい品種を選んでください。着莢（ちゃっきょう）位置が低いと刈取れない場合があります。



1ASADACAP025B

● 収穫適期

成熟期から約１～２週間後を目安とし，莢（さや）・かん（茎）を手でさわってもべとつかず，子実を歯でかむと歯形が少し残る状態が収穫の適期です。（このとき，水分は子実で 18％以下・莢で 20％前後・かん（茎）で 50％以下）



1ASADACAP288A

補　足

＊ 成熟期になると，葉が完全に落ちて莢の 80 ～ 90％が変色し，子実も品種特有の色となり，振るとカラカラと音がします。

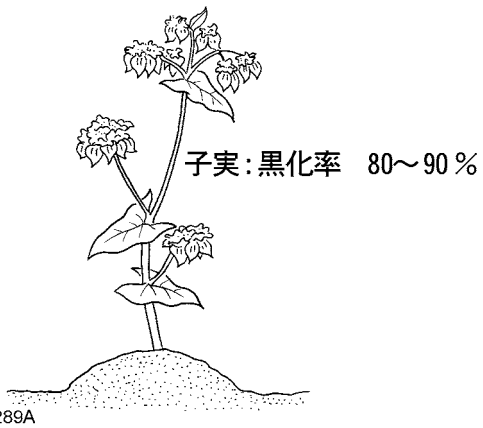
＊ 刈取作業は，子実や莢が乾いて収穫に適した水分になる時間（午前 10 時～夕方）で行なってください。

＊ 収穫時期が，早すぎる（青立大豆）と汚粒が増えたり，莢が割れずに子実が収穫されないまま 3 番出口から放出される 3 番ロスが増えます。また，遅すぎると刈取部での脱粒ロスがふえます。

[そば]

● 収穫適期

慣行よりも２～３週間後を目安とし，子実の 80 ～ 90％が黒化している状態が収穫の適期です。



1ASADACAP289A

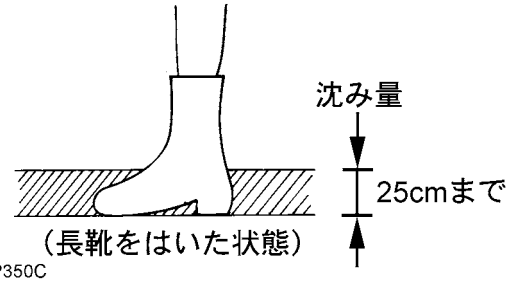
補　足

＊ 収穫時期が，早すぎると収穫量が減ったり，葉やかん（茎）に水分が多いと選別部の目詰まりの原因となり，収穫ロスが増えます。また，遅すぎると風雨で子実が落ちたり，刈取部での脱粒ロスが増えます。

■ほ場の条件

◆ほ場のぬかるみ

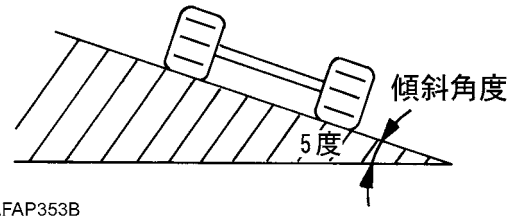
足の沈み量を測って目安にしてください。



1ARADAFAP350C

◆ほ場の傾き

傾斜角度５度以上では，作業できません。



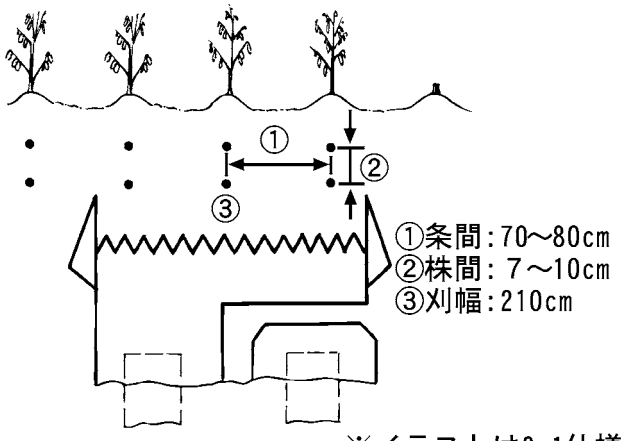
1ARADAFAP353B

◆ほ場について［大豆］

水はけを良くし，コンバインの刈幅に合わせたうね作りを行なってください。また，このときクローラとうね幅・排水溝の幅は合わせてください。

補　足

＊ うねの条間は 70 ～ 80cm にし（３条刈り基本），株間は７～ 10cm にしてください。



1ASADACAP041C

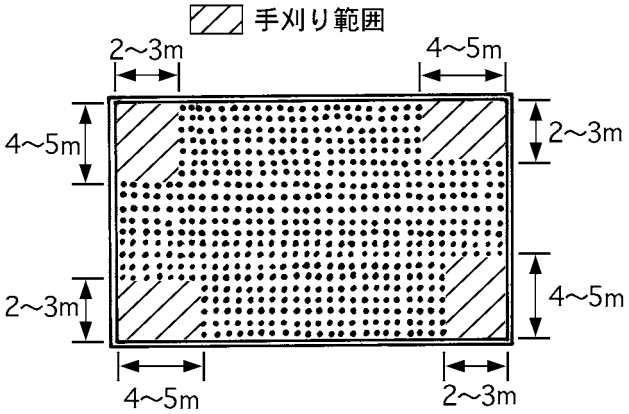
※イラストは2.1仕様

＊ ほ場内に雑草が多いと汚粒が発生したり，刈取作業が行なえない場合がありますので，除草を行なった状態で刈取作業を行なってください。

ほ場の準備

■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四すみで旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲（面積）の手刈（枕刈り）をします。



1ARADAFAP354A

コンバインの準備

警 告

＊ 平たんな場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

■コンバインの準備のしかた

1. 刈取作物に応じた各部の準備

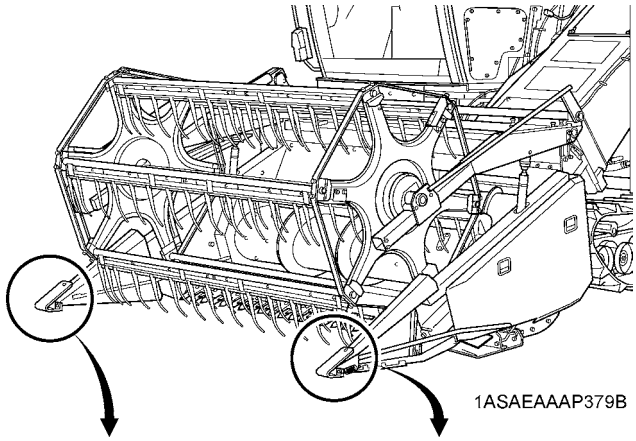
作業前に刈取作物に応じた各部の交換や調節を行なってください。(111 ページ参照)

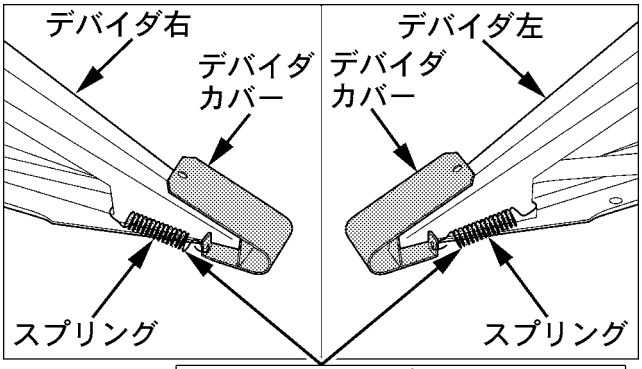
2. 各部への注油

作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。(166 ページ参照)

3. デバイダカバーの取外し

デバイダからスプリングを外して左, 右のデバイダカバーを取外します。



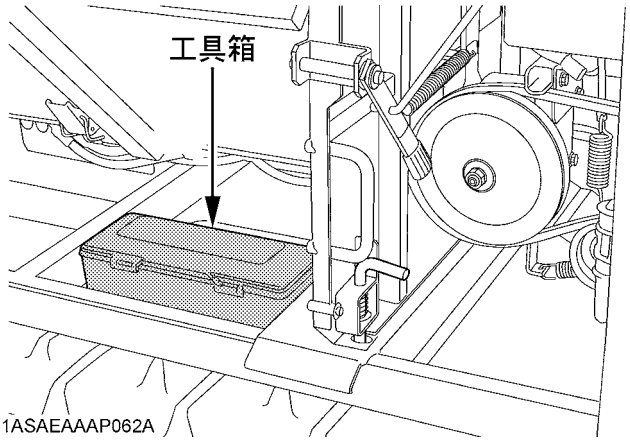


1ASAEAAAP061B

デバイダからスプリングを外して
デバイダカバーを取外す

補　足

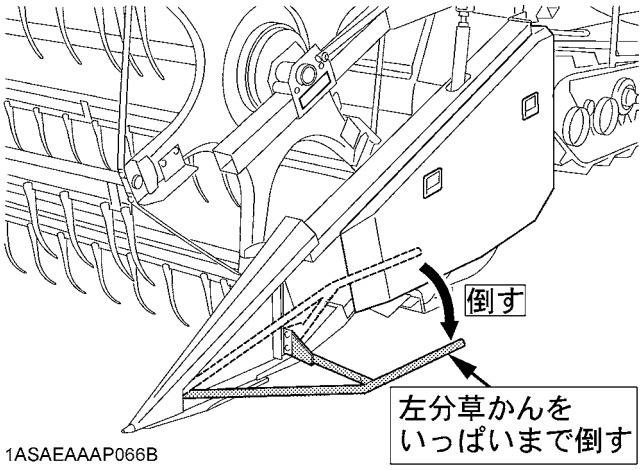
＊ デバイダカバー及びスプリングは，工具箱に保管してください。



1ASAEAAAP062A

4. 左分草かんのセット

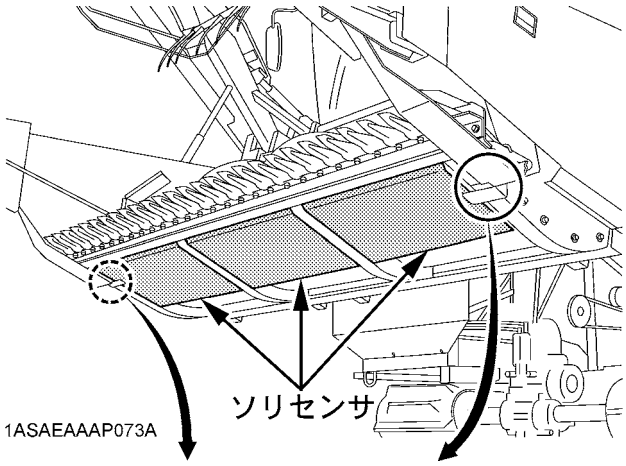
左分草かんを外側いっぱいまで倒します。



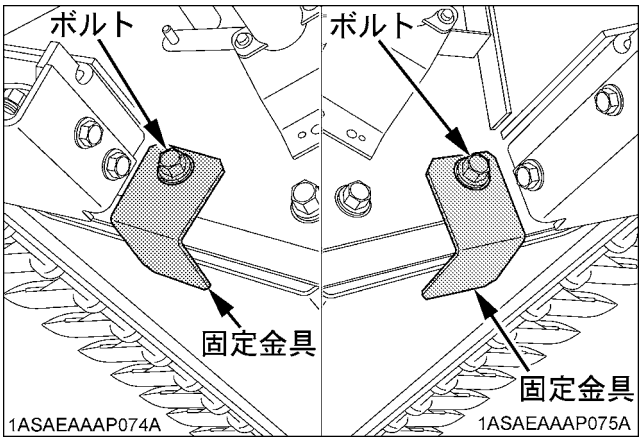
1ASAEAAAP066B

5. ソリセンサ固定金具の取外し

ソリセンサ固定金具を取付けているときは，ボルトを外して固定金具を取外します。(135 ページ参照)



1ASAEAAAP073A



1ASAEAAAP074A 1ASAEAAAP075A

重　要

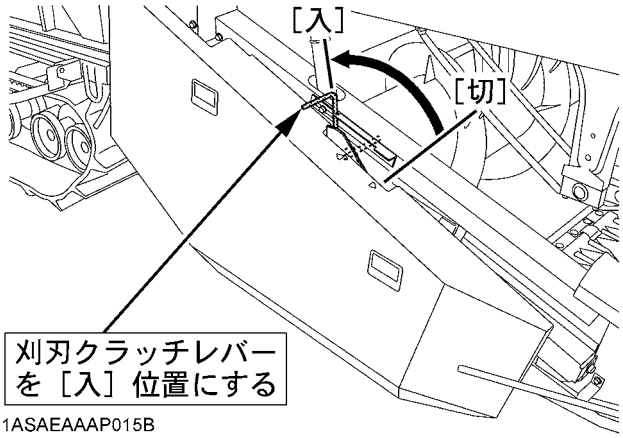
＊ ソリセンサが作業状態のとき，ソリセンサを使用しない場合やソリセンサが接触して破損するおそれのあるところを移動する場合は，手でソリセンサをいっぱいまで上げたあと，ソリセンサ固定金具を取付けてソリセンサを固定して収納状態にしてください。

補　足

＊ ソリセンサ固定金具は付属部品です。また，固定金具とボルトは工具箱に保管してください。

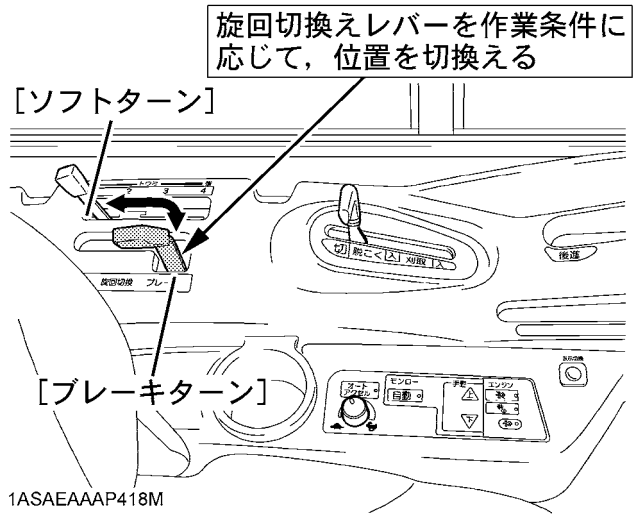
6. 刈刃クラッチレバーのセット

刈刃クラッチレバーを**【入】**位置にします。

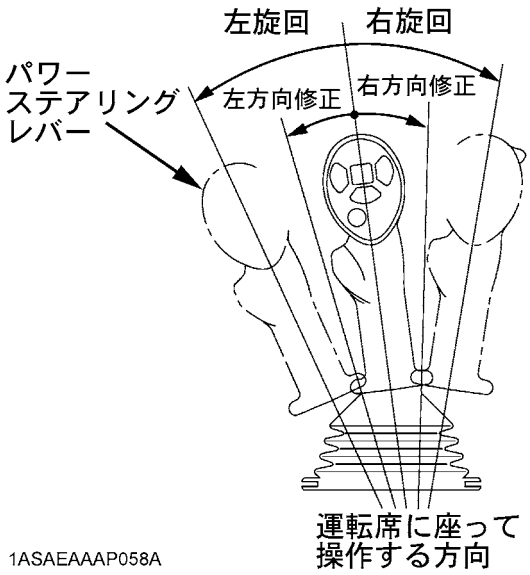


1ASAEAAAP015B

7. 旋回切換えレバーの選択



1ASAEAAAP418M



1ASAEAAAP058A

補　足

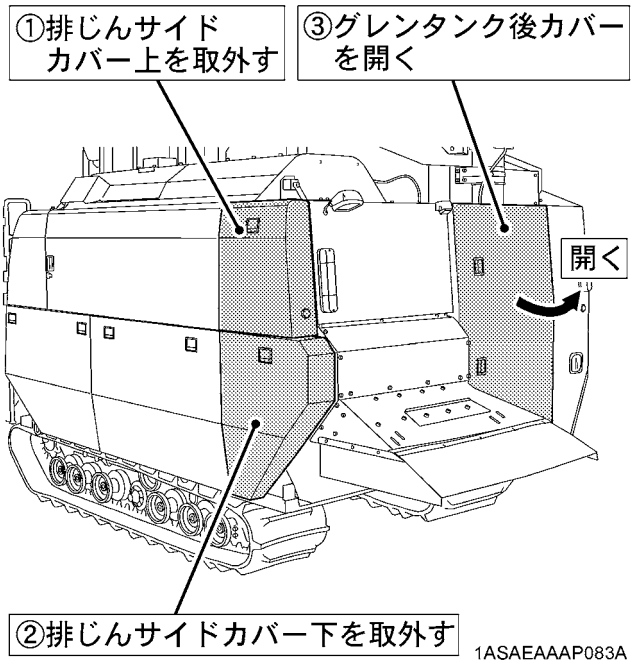
＊**［ブレーキターン］**位置で作業を行なったとき，機体の振動が大きいときは，**［ソフトターン］**位置に切換えてください。

8. 排かん処理の選択

チョッパによる排かん切断作業と非切断作業の切換えを行なってください。

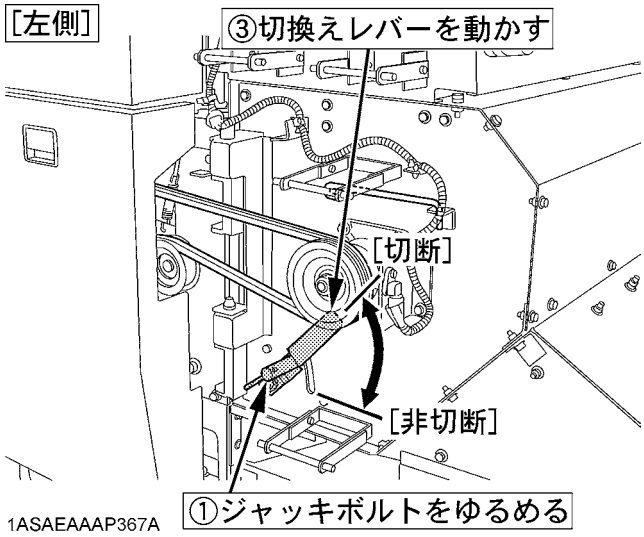
◆切換えかた

1. 排じんサイドカバー上を取外したあと，排じんサイドカバー下を取外します。
2. グレンタンク後カバーを開きます。



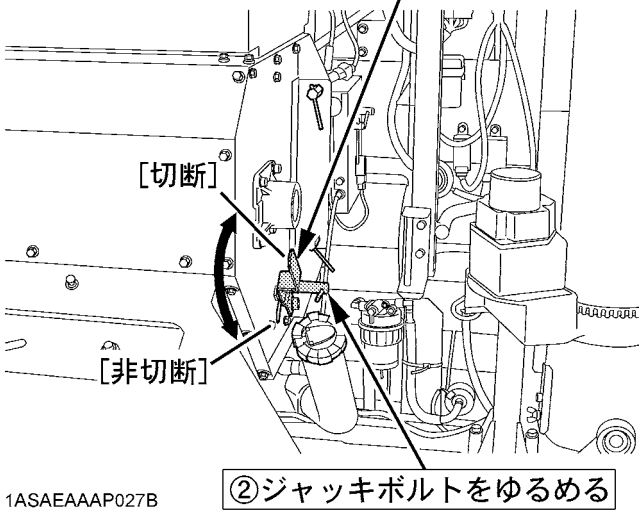
1ASAEAAAP083A

3. 左，右のジャッキボルトをそれぞれゆるめます。
4. 切換えレバーを**［切断］**又は，**［非切断］**位置まで動かします。



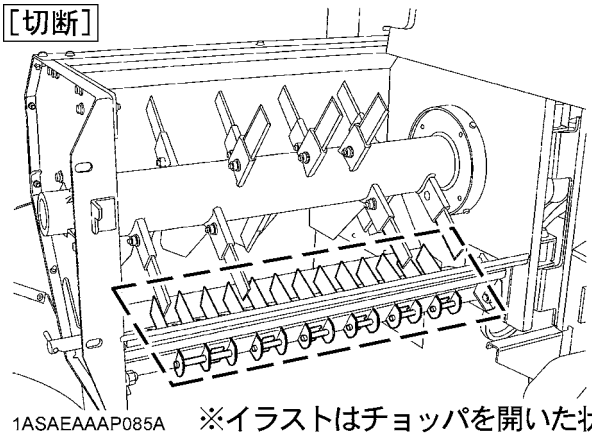
1ASAEAAAP367A

［右側］



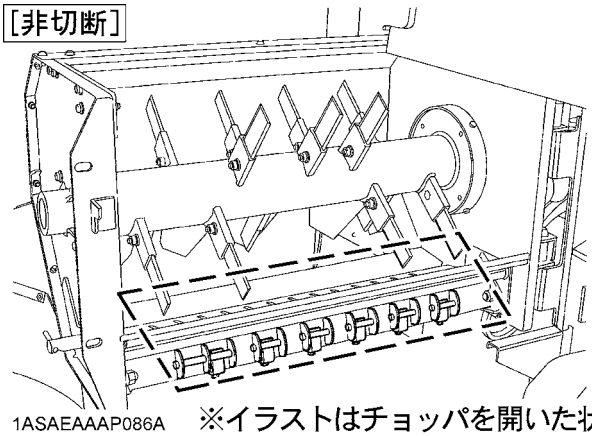
1ASAEAAAP027B

［切断］



1ASAEAAAP085A ※イラストはチョッパを開いた状態

［非切断］



1ASAEAAAP086A ※イラストはチョッパを開いた状態

補　足

＊ 切換えレバーは，切換え用長穴の端部いっぱいまで動かしてください。
＊ 切換えレバーを動かすと受刃側の軸が上下します。

5. ジャッキボルトを左，右共に締付けます。
6. グレンタンク後カバーを閉じます。
7. 排じんサイドカバー下を取付けたあと，排じんサイドカバー上を取付けます。

9. 拡散作業と条寄せ作業の切換え

プレート（羽根）の位置を切換えて拡散作業又は，条寄せ作業を行なってください。

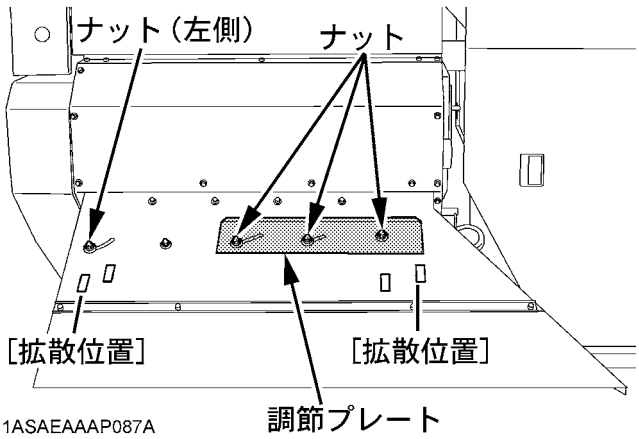
◆切換えかた

1. 左側のプレート（羽根）のナットをゆるめます。
2. 右側３カ所のナットをゆるめます。
3. プレート（羽根）を動かして**【拡散】**又は，**【条寄せ】**位置にします。
4. ナットをそれぞれ締付けます。

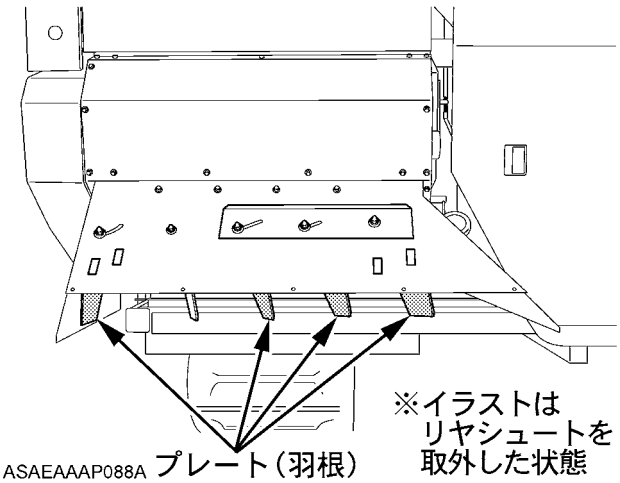
補　足

＊ プレート（羽根）は**【拡散位置】**又は，**【条寄せ位置】**ラベルの矢印位置まで左側のナット部と右側の調節プレートの右端部を移動してください。

◆拡散作業

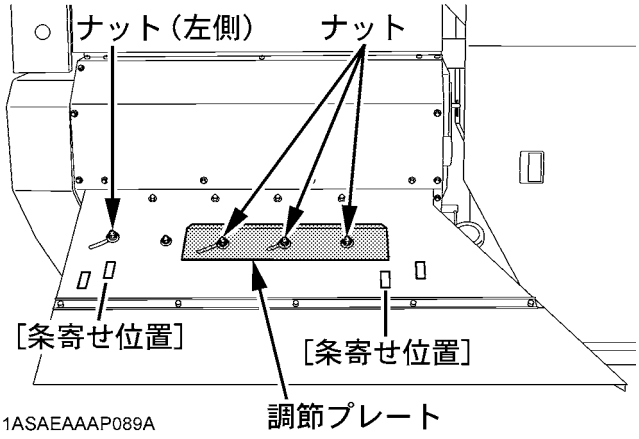


1ASAEAAAP087A

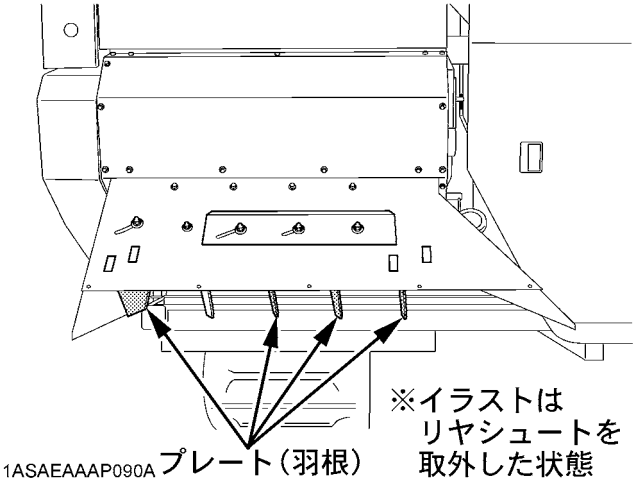


1ASAEAAAP088A

◆条寄せ作業



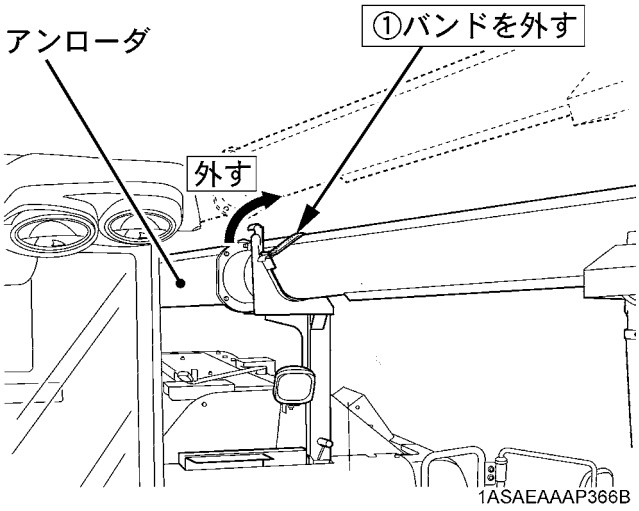
1ASAEAAAP089A



1ASAEAAAP090A

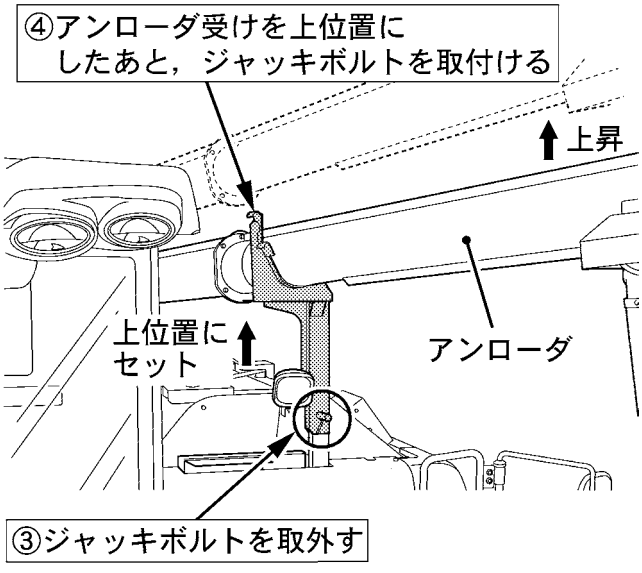
10. アンローダの準備

1. エンジンを始動して，アンローダを作業状態にします。



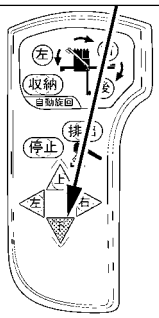
1ASAEAAAP366B

1ARADBNAP044 V



1ASAEAAAP365B

⑤アンローダ手動スイッチの[下]を押してアンローダを収納する



1ARADBNAP044W

2. エンジンを停止します。

刈取作業のしかた

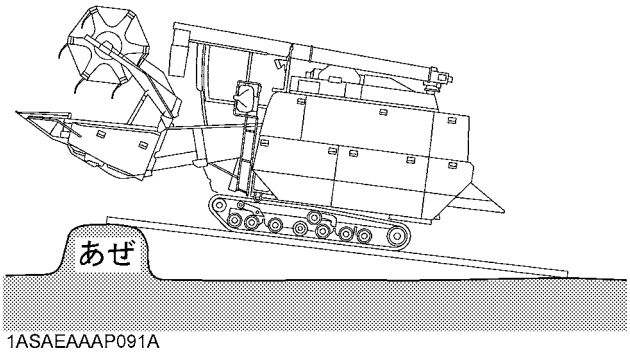
■ほ場の出入りのしかた

警　告

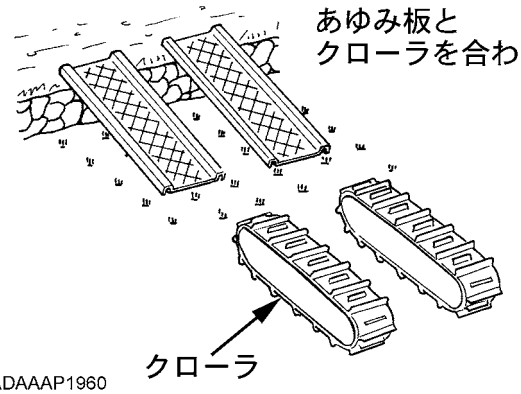
＊ 10 ㎝以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）があるところは，あゆみ板を使ってください。
＊ あゆみ板を使うときや前後左右とも 10 度を超える傾斜地を走行するときは，走行速度を最低速度にしてください。
＊ グレンタンク内に残っているこく粒は全て排出してください。
＊ あゆみ板はじゅうぶんな強度，幅（65cm 以上），長さ（高さの 4 倍以上）のある基準（81 ページ参照）に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。また，あゆみ板はあぜに直角に置いてください。
＊ あゆみ板の上を走行するときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊ あぜ越えやあゆみ板を走行するときは，自動車体水平制御（モンロー）は，機体をいっぱい下げた状態にしてください。
＊ 右又は，左方向の傾きがある傾斜地は走行しないでください。機体が傾き転倒するおそれがあります。
＊ 後進する場合は後方の安全確認，また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
＊ 機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

◆ 10cm 以上の段差があるとき

1. ほ場の四すみを手刈りをします。(87 ページ参照)
2. オートアクセルスイッチを**【切】**にし，自動アクセル制御を解除します。
3. あゆみ板を準備し，アクセルダイヤルを操作してエンジン回転を 2000rpm 以上にします。
4. 副変速レバーを**【低速】**位置にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速で前進します。
5. いったん停車したあと，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっていることを確認してからほ場へ進入します。



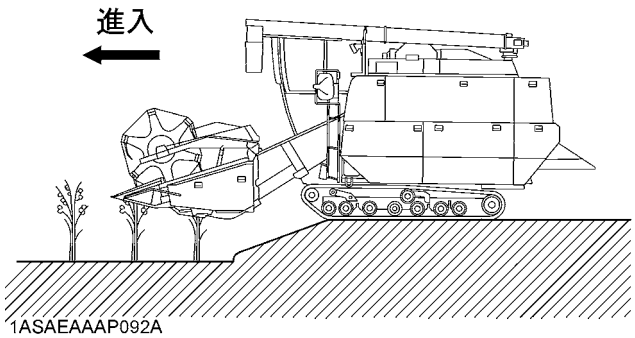
1ASAEAAAP091A



1ASADAAAP1960

◆ 段差が低いとき，進入口があるとき

刈取りが行なえる状態（94 ページ参照）にし，副変速レバーを**【低速】**位置にして，ゆっくりと前進でほ場に進入します。

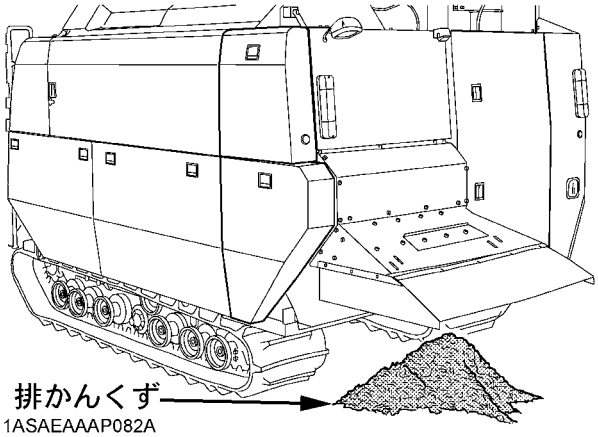


1ASAEAAAP092A

■刈取作業の手順

警 告

＊ コンバインを停止するときは，排かんくずの上に止めないでください。マフラ排気口に排かんくずが触れると，火災のおそれがあります。



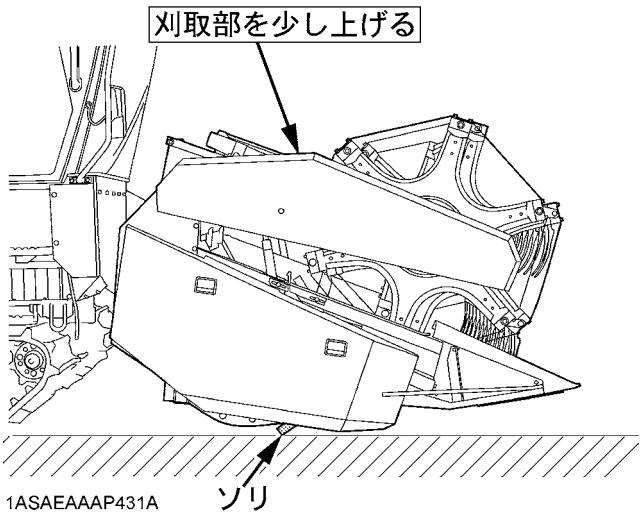
1ASAEAAAP082A

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊ 夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。
＊ 共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なってください。

重 要

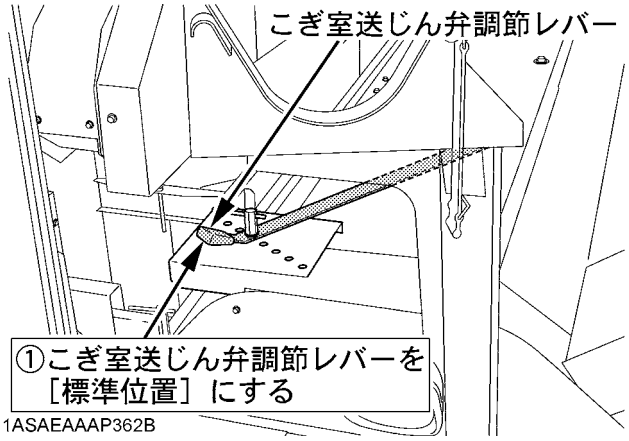
＊ 作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンのオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊ 湿田で作業をする場合，特に一方刈りで何回も後進するときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切わらのない場所を後進するか早めにわらを排出してください。
＊ 副変速レバーを**【高速】**位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

1. ほ場に入るとコンバインの走行をいったん停止し，主変速レバーを**［停止］**位置，副変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。
2. パワーステアリングレバーを操作し，通常はソリ部が軽く地面に接する位置から刈取部を少し上げます。

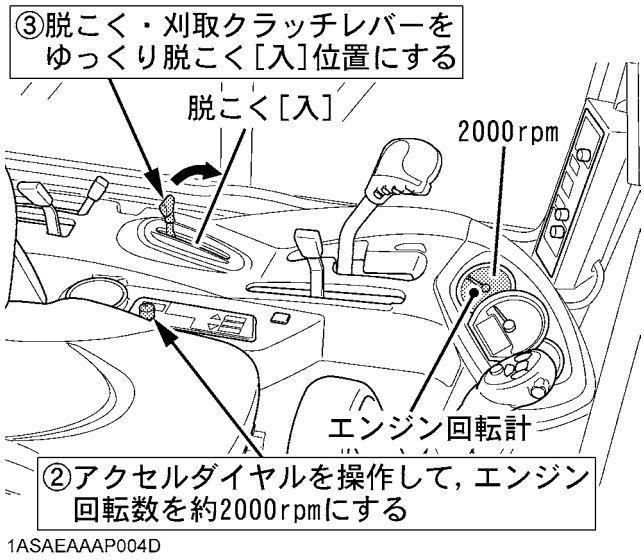


1ASAEAAAP431A

3. 各レバー・スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行ないます。



1ASAEAAAP362B



1ASAEAAAP004D

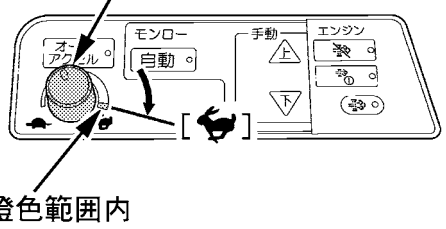
重　要

＊ エンジン回転数が 2200rpm 以上のとき，脱こく・刈取クラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。

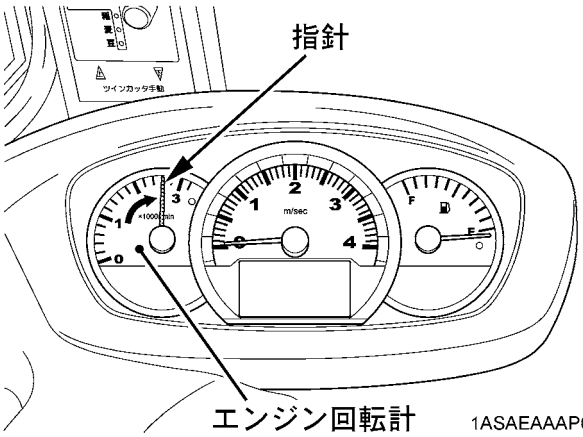
補　足

＊ こぎ室送じん弁開閉調節は，116 ページを参照してください。

④アクセルダイヤルを右側いっぱい（橙色範囲内）まで回してエンジン回転数を上げる



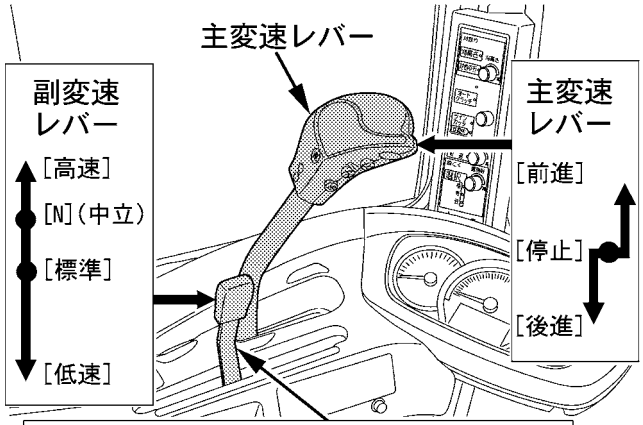
1ASAEAAAP421D



1ASAEAAAP020E

補　足

＊ エンジン回転数は脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく［入］**位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。
＊ アクセルダイヤルを右側いっぱい（ラベルの**橙色範囲内**）まで回したときのエンジン回転数が通常の刈取作業回転数です。
＊ エンジン回転数が低すぎると，警報ブザーが鳴ります。



⑤副変速レバーを作物の条件に合わせて，［標準］又は，［低速］の位置にする

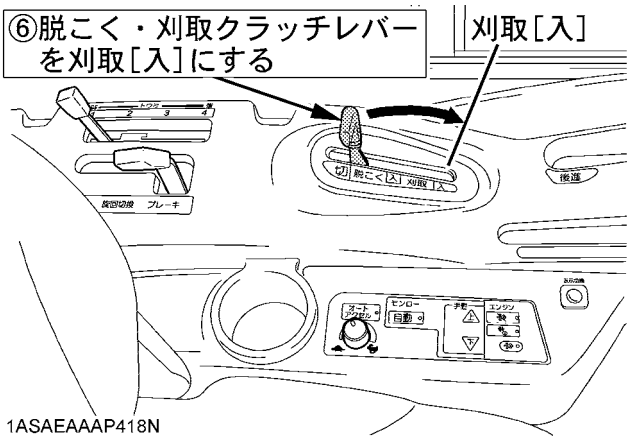
1ASAEAAAP007K

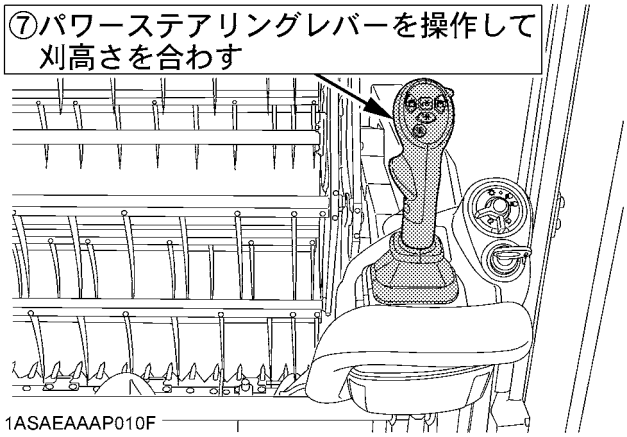
重　要

＊ 副変速レバー**［高速］**位置での刈取作業はトラブルの原因になりますので，使用しないでください。
＊ 副変速レバーの切換えは平坦な場所で主変速レバーを**［停止］**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

補　足

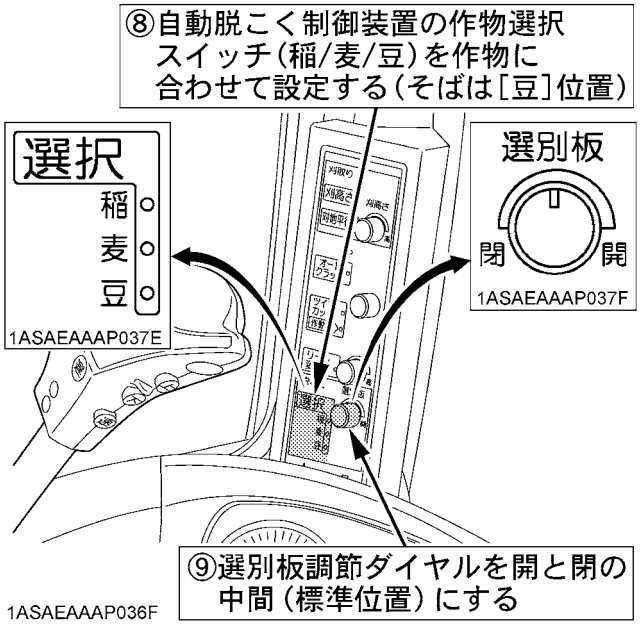
＊ 副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し**［前進］**側に動かして停止に戻してから切換えてください。
＊ 刈始めや第１周目の回り刈りを行なうときは，低速で刈取りを行なってください。

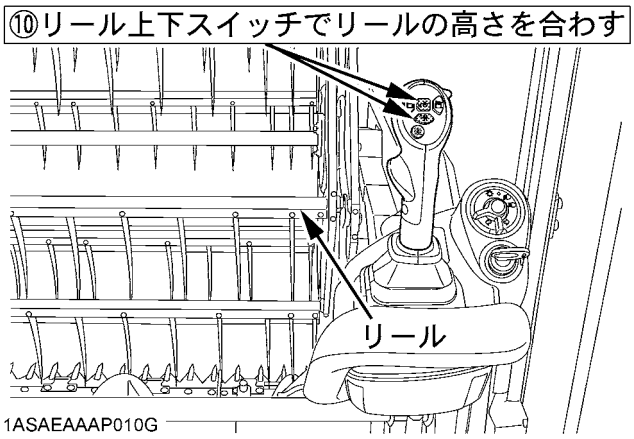




補　足

＊ 刈高さの合わせかたについては 101 ページを参照してください。

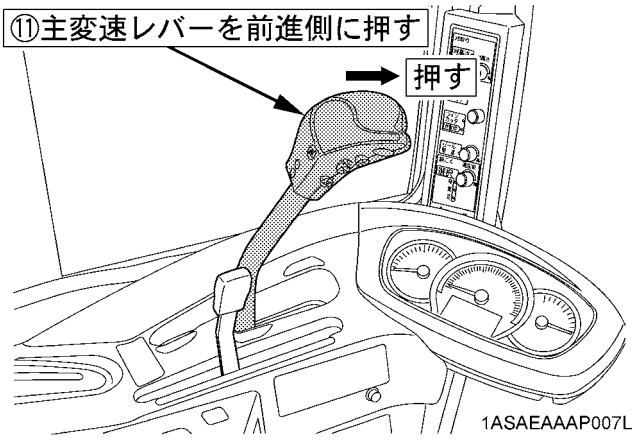




補　足

＊ リール高さの合わせかたについては 102 ページを参照してください。

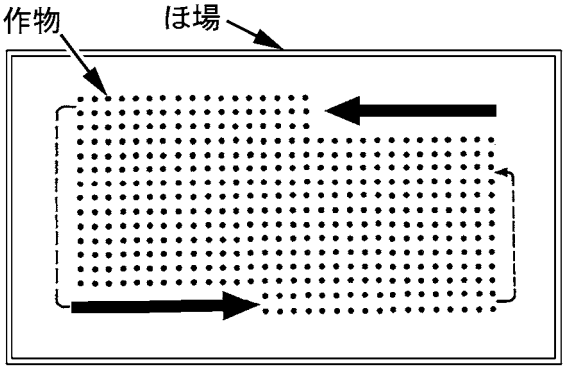
＊ 刈取部（ソリ）が地面に接地している状態で，脱こく・刈取クラッチレバーが**脱こく［入］**又は，**刈取［入］**位置のとき，主変速レバーを**［後進］**位置にすると刈取部が自動的に上昇します。**（バックリフト機能）**



4. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（111 ページ参照）を行なってください。
5. 刈取作業が終わると，脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく［入］**位置にし，脱こくが終わりこく粒が全てグレンタンク内に入ったことを確認して，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

ほ場での作物の刈りかたは，作物やほ場の状態によって異なりますが，基本作業は，左回りで刈取作業を行なってください。



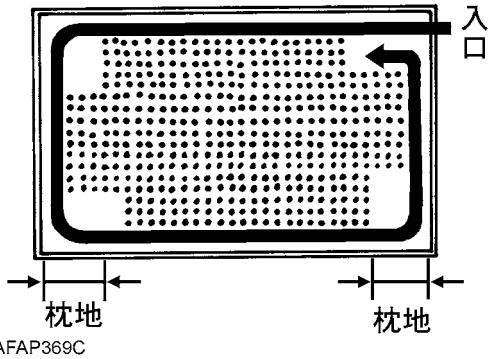
1ARADAFAP357G

補　足

＊ 下記の刈取作業を行なうときは，副変速レバーを**【低速】**位置にしてください。

- ほ場へ進入するとき
- 1 周目の刈取作業を行なうとき
- 広いほ場の刈取作業で，中割り作業を行なうとき
- 小さなほ場やほ場の隅の刈取作業を行なうとき

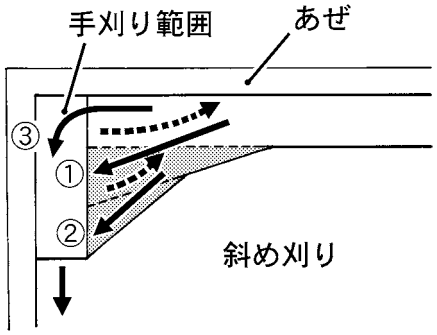
＊ 枕地などあぜぎわを刈取るときは，自動刈高さ制御又は，対地平行自動制御を**自動切り**にして手動で行なってください。



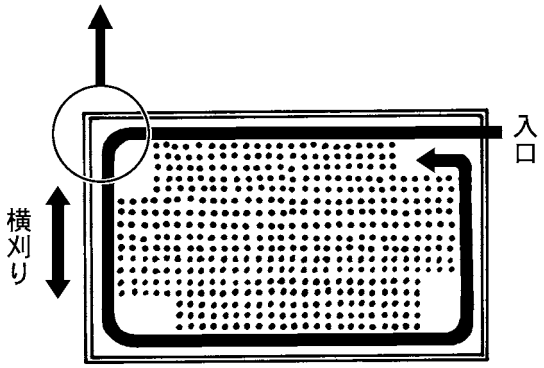
1ARADAFAP369C

＊ 作物の選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常がある場合は，248 ページの**コンバインの不調と処置**を参照して処置してください。

1. 機体を手刈りしたところから進入します。
2. 機体が旋回できる場所を確保するため，ほ場の隅にある作物を斜めに 2 ～ 4 回刈取ります。



1ARADAFAP368B



1ARADAFAP369D

重　要

＊ あぜぎわの刈取作業を行なうとき，コンクリートや石垣など硬いところにデバイダが当たらないように注意してください。

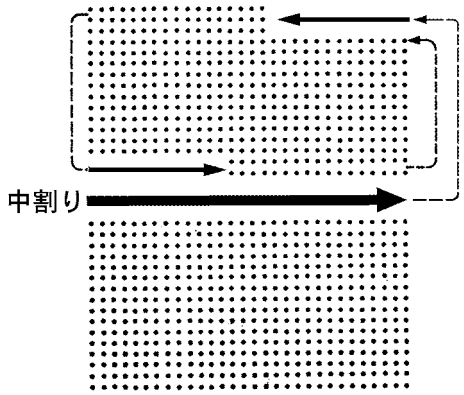
補　足

＊ 小さなほ場やほ場の隅の刈取りは，低速で行なってください。

3. 左回りで刈取作業を行ないます。

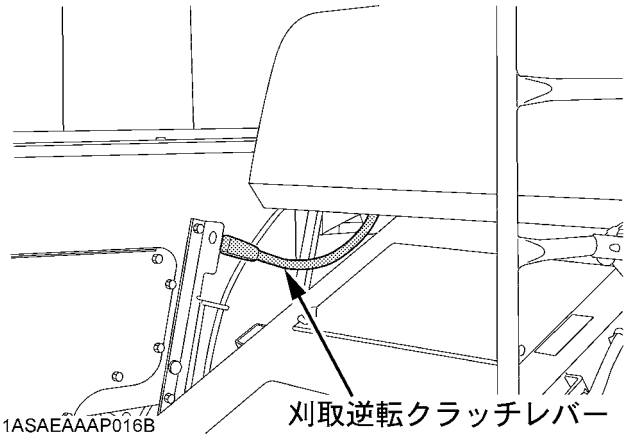
補　足

＊ 広いほ場の刈取作業を行なうときは，下図のようにほ場を分割するため，中割り刈りを行なってください。



1ARADAFAP362A

＊ 刈取部（オーガドラムやフィーダ部）に詰まりが発生し，作物を脱こく部へ搬送できなくなったときは，刈取作業を直ちに中止してください。そのあと，詰まった作物を取除いてください。
＊ 刈取部に作物が詰まったときは，刈取逆転クラッチレバーを使用して詰まった作物を取除いてください。(253 ページ参照)



1ASAEAAAP016B

◆旋回のしかた

刈終わると前進しながら刈取部を**最上昇位置**まで上げます。

重　要

＊ エンジンの回転数は，下げないでください。選別が悪くなったり詰まりの原因になります。

補　足

＊ 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。
＊ エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。
＊ パワーステアリングレバーを斜め方向に操作すると，機体の旋回と同時に刈取部が上下します。

◆ 悪条件下での作業のしかた

水分の高い作物や茎が青い状態の作物をやむを得ず刈取る場合は，刈取速度を通常より落としてください。また，定期的に網枠や棚及びフィーダ内部を点検し，目詰まりや作物が溜まっているときは掃除してください。

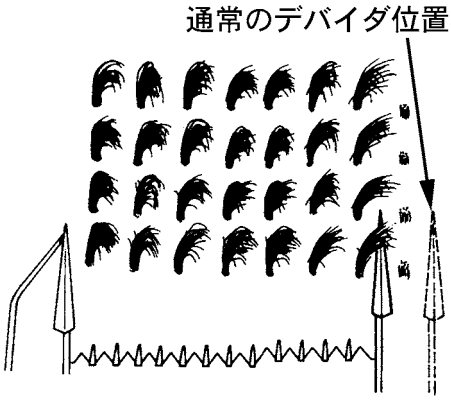
■デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

[稲・麦・そば]

通常は６条刈りで刈取ってください。半倒伏状態や完全倒伏の作物の刈取りは下記のように行なってください。

● 半倒伏状態のとき

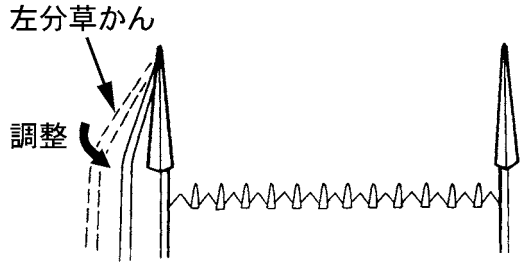
半倒伏の稲・麦を６条刈取ると，刈刃右端近辺で穂切れが発生することがあります。この場合は，右側デバイダを未刈り株に近づけると，発生しにくくなることがあります。但し，７条刈取ることがありますので，刈取速度を通常より遅くして作業してください。



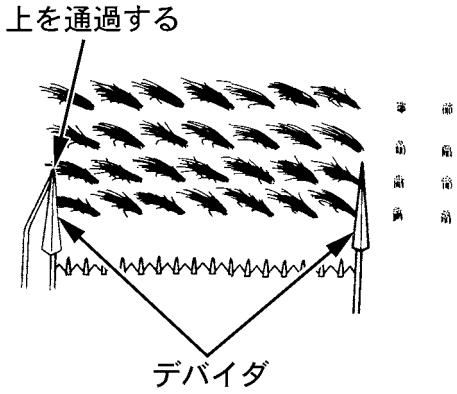
1ASADACAP293A

● **完全倒伏状態**

左分草かんを倒し過ぎないように調整を行なってください。また，作物の上をデバイダが通過するように刈取りを行なってください。



1ASADACAP294A

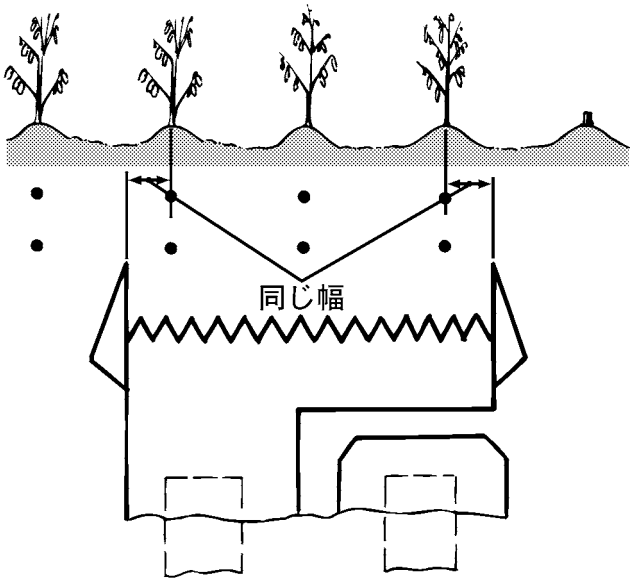


1ASADACAP295A

[稲・麦・そば]

[大豆]

条合わせをするときは，コンバインの速度を落とし，下図のように作物とデバイダを同じ幅に合わせてください。



1ASADACAP041B

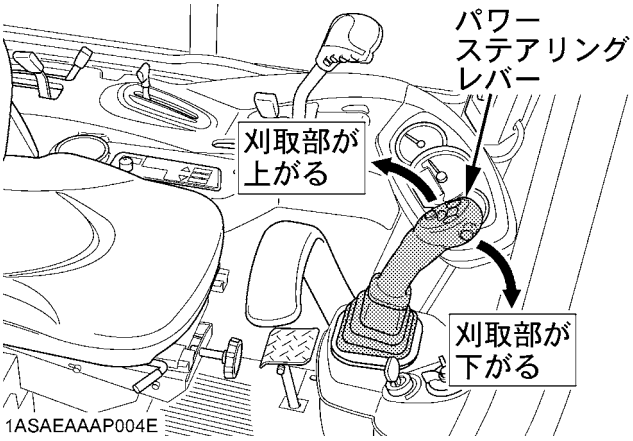
補　足

＊ うねのあるほ場では，自動車体水平制御（モンロー）がはたらいているときでも，機体の傾きが小さくなるように刈取作業を行なってください。

[大豆]

■刈高さの合わせかた

パワーステアリングレバーを操作して作物及び倒伏状態や刈取方向に合わせて，刈高さの調整を行なってください。



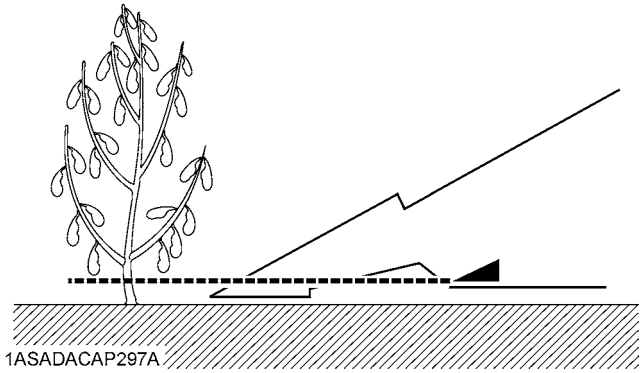
[稲・麦]

刈取部を地面まで降ろし，刈高さ制御がはたらく範囲内で刈取作業を行なってください。

[稲・麦]

[大豆]

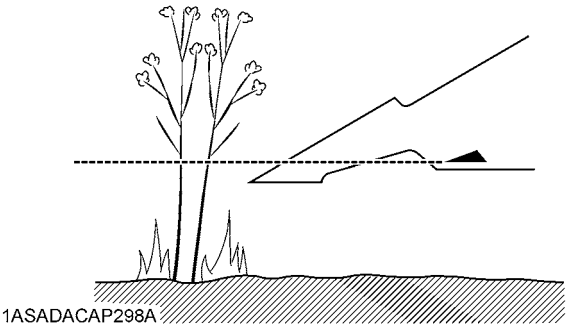
低く垂れ下がった莢を刈残さない刈高さに合わせてください。



[大豆]

[そば]

かんの下の方は結実が遅れているため，できる限り高刈りしてください。



[そば]

補　足

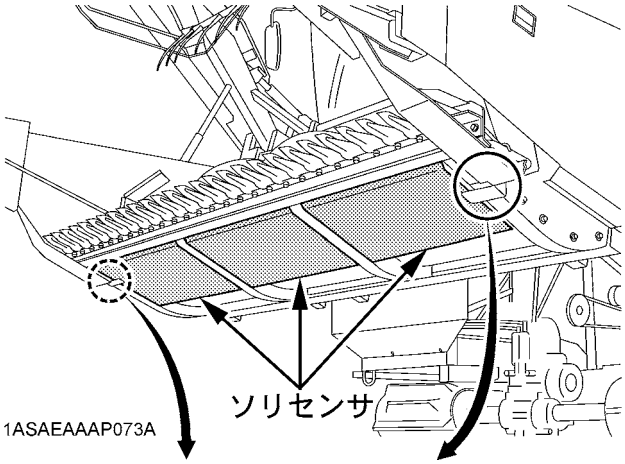
＊ 下記のようなほ場での刈取りを行なうとき，自動刈高さ制御がはたらいていても刈取部とソリセンサの間に泥が入り込んだり，ソリセンサがはたらかずに自動制御がはたらかないときは，対地平行自動スイッチを**[切]**にしてパワーステアリングレバーを操作して刈取作業を行なってください。

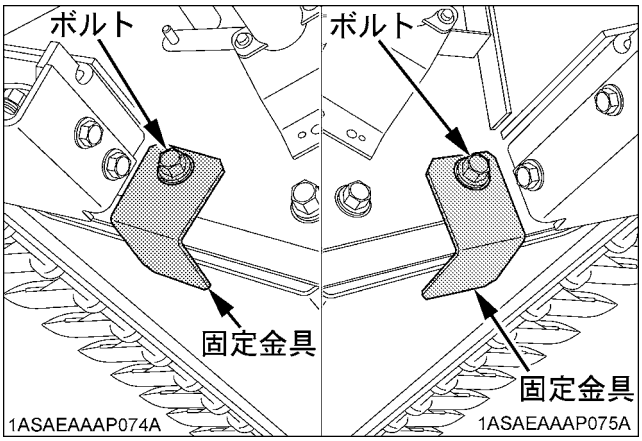
- 起伏の多いほ場（大豆の横刈りなど）
- 湿田で人の足が 5cm 以上沈むほ場
- 枕地での刈取作業

また，湿田で機体後進時に機体が前下がりの状態のとき，ソリセンサの間に泥が入り込む場合は，付属部品のソリセンサ固定金具をボルトで取付けてソリセンサを固定してください。

＊ 刈高さ調節ダイヤルを**最低位置**で刈取作業を行なうと，刈取部から土が混入しやすくなるので特に注意しながら作業を行なってください。

＊ 湿田で刈取部を降ろすときは，刈取部とソリセンサの間に泥が入り込まないようにゆっくりとパワーステアリングレバーを操作してください。

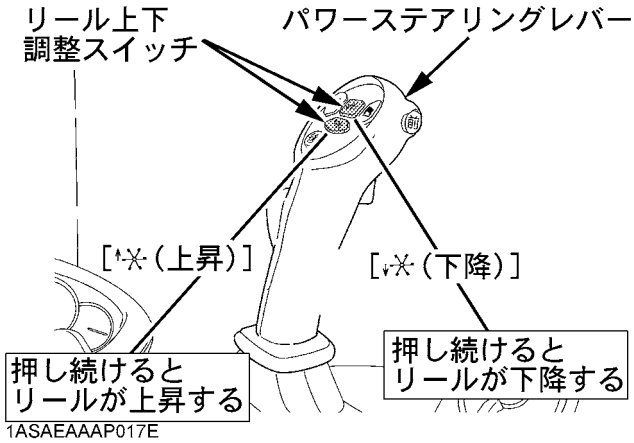




＊ 刈取部とソリセンサに泥が入り込んで自動刈高さ制御が正常にはたらかなくなったときは，作業を停止して刈取部を上げ，枕木などを使用して落下防止を行ない，エンジンを停止して刈取部の下降ロックを行ない，さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをし，泥を取除いてください。
＊ 刈取部に泥が入ったときは，汚粒を防ぐため，作業をすぐに中止して泥を取除いてください。(155 ページ参照)

■リール高さの合わせかた

リール上下調整スイッチを操作して，作物及び倒伏状態や刈取方向に合わせてリールの高さの調整を行なってください。

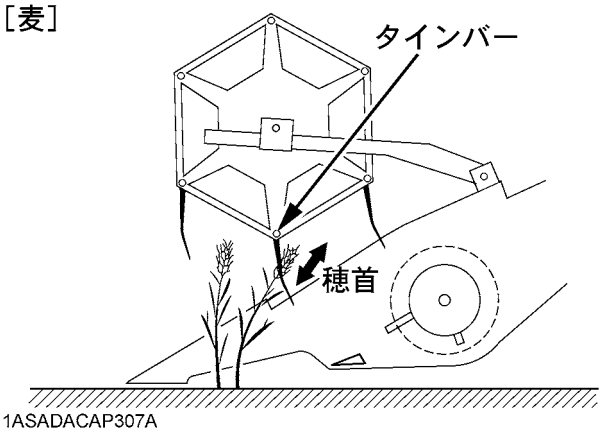


[稲・麦・そば]

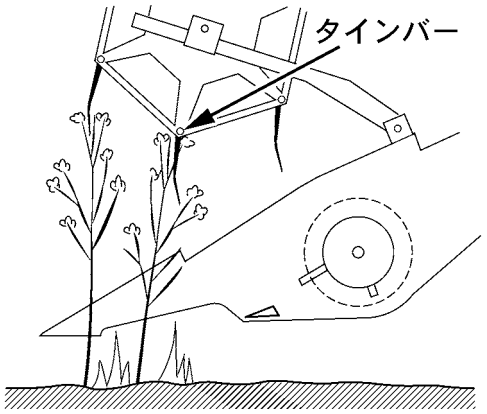
通常はタインバーが穂首のやや下を通る位置に合わせてください。また，刈取方向や作物の倒伏状態に合わせてリールの高さを合わせてください。

作物・刈取方向	リール高さ
立毛時	タインバーが穂首のやや下を通るように，調整してください。
向刈時	タインが作物の穂先を櫛ですくうように，調整してください。
追刈時	いっぱいまで下げてください。
横刈時	
完全倒伏	

［麦］



［そば］



1ASADACAP306A

補　足

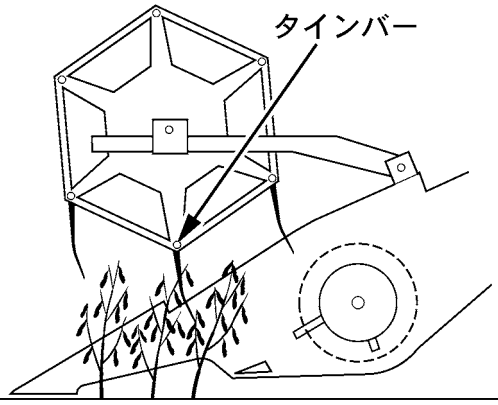
＊ 前方へかんがころげ落ちたり，倒伏している場合はリールをいっぱいまで下げてください。
＊ 刈取部から作物の落下を防止するため，刈終わりにリールを下げてください。

［稲・麦・そば］

［大豆］

タインバーが莢の下の茎かんに当って作物を捕える位置に合わせてください。

［大豆］

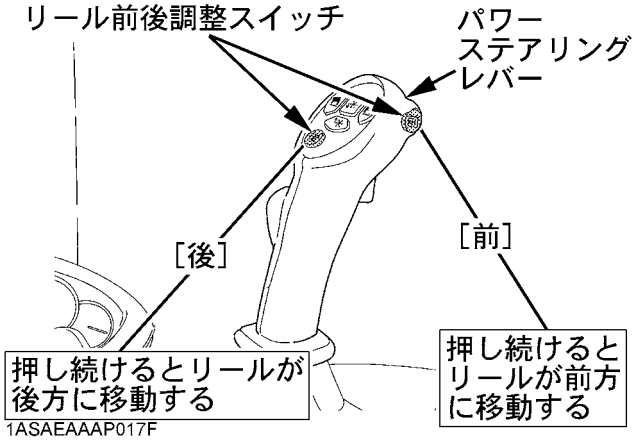


1ASADACAP305A

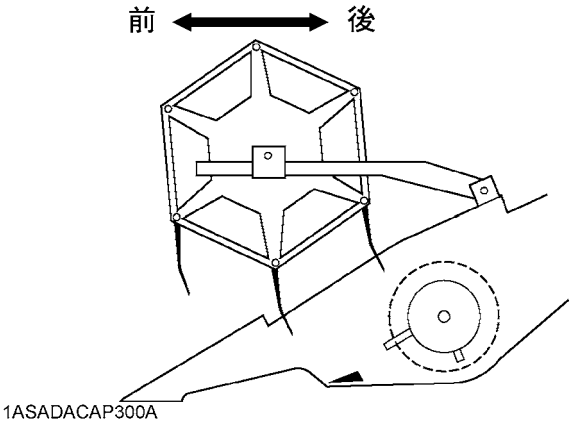
［大豆］

■リール前後の合わせかた

リール前後調整スイッチを操作して，作物及び倒伏状態や刈取方向に合わせてリールの前，後調整を行なってください。調整を行なうときは，リールが回転している（刈取作業中）ときに行なってください。



1ASAEAAAP017F



1ASADACAP300A

補　足

＊ リールは約 10cm 前後します。
＊ エンジン停止中でもメインスイッチのキーが**［入］**位置にしてスイッチを操作するとリールは前後に動きます。

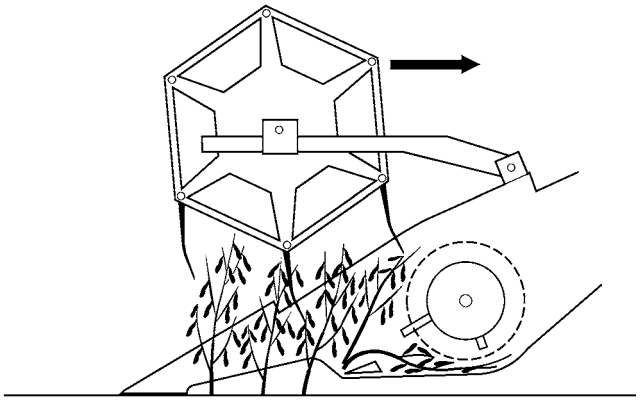
通常はリールをいちばん後方の位置に合わせてください。また，刈取方向や作物の状態に合わせてリールの前，後調整を行なってください。

作物・刈取方向	リール前後位置	
立毛時	いちばん後ろの位置に合わせてください。	※リールを前方に出し過ぎると，かんこぼれやオーガ部で，搬送ムラの原因となります。
追刈時	リールが作物を拾い残さない高さになるまで，前方に出してください。	
向刈時	リールの中心が，刈刃のやや前あたりに調整してください。	
横刈時	リールが作物を拾い残さない高さになるまで，前方に出してください。	
完全倒伏	リールが作物を拾い残さず，土に突っ込まない高さになるまで，前方に出してください。	

● 立毛した作物の場合

いちばん後ろの位置に合わせてください。

立毛した作物の場合

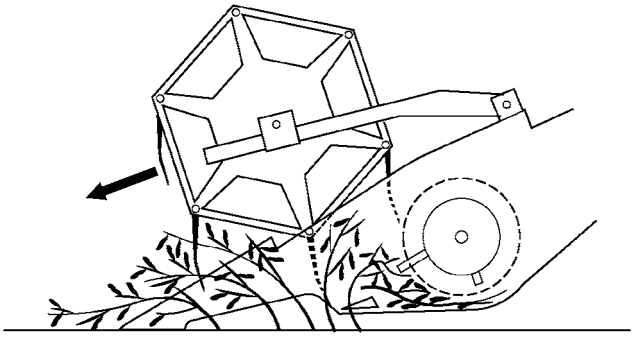


1ASADACAP303A

● 倒伏した作物の場合

作物の引起しを良くするためリールを前方に出します。倒伏状態に合わせて調整を行なってください。

倒伏した作物の場合



1ASADACAP304A

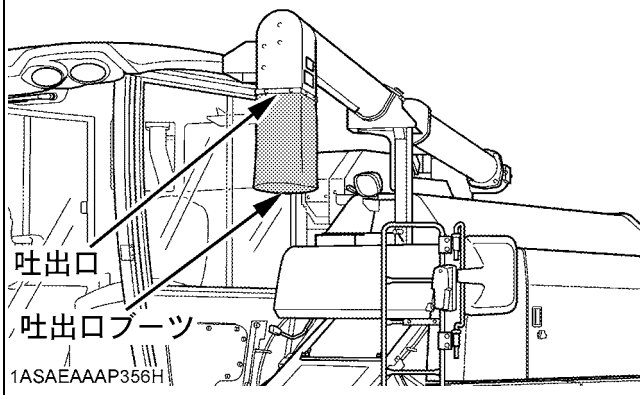
補　足

＊ リールを前に出しすぎると，こく粒の損失が増加します。また，刈取部左右側板近辺で滞留が発生し，オーガも詰まりやすくなります。リールを前に出す場合は滞留が発生しない程度までにしてください。

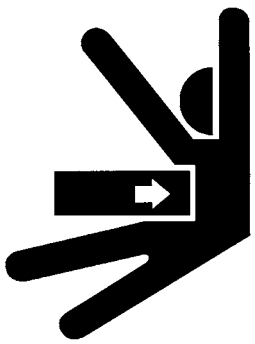
■こく粒の排出のしかた

警　告

＊ コンバインを必ず停止してください。
＊ 吐出口に手は入れないでください。また，吐出口ブーツが破損したときは，直ちに交換してください。

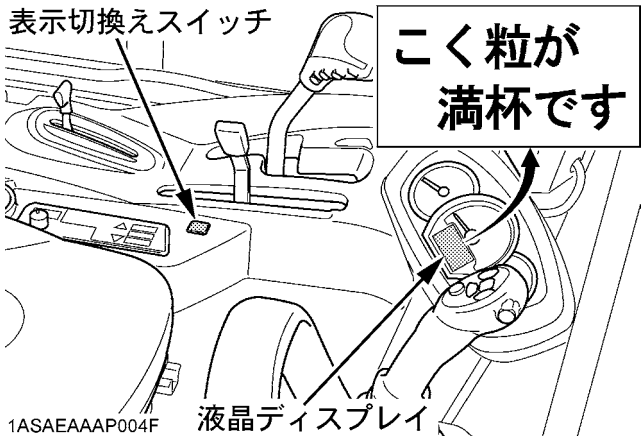


＊ 手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。
＊ もみ排出スイッチを押して，こく粒がアンローダ排出口から排出されるとき，頭部や顔などをアンローダ先端部に近付けないでください。こく粒の重みでアンローダ先端部がわずかに下がります。
＊ アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあります。



＊ 排出時は機体を水平な場所に停車させ，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にしてから排出作業を行なってください。

1. グレンタンク内のこく粒が満杯になると，マルチナビの液晶ディスプレイが**［こく粒が満杯です］**と表示すると同時にブザーが鳴ります。



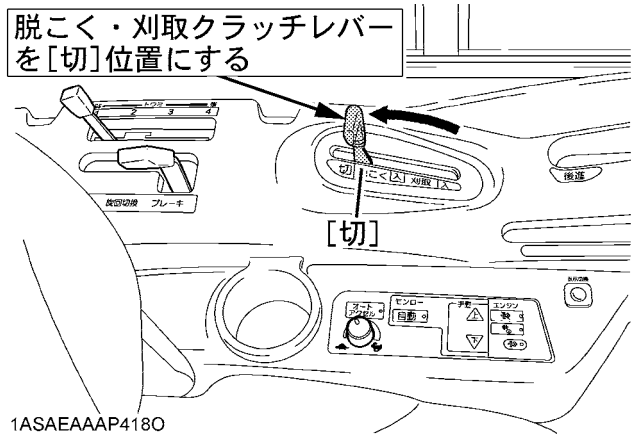
重　要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，こく粒があふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

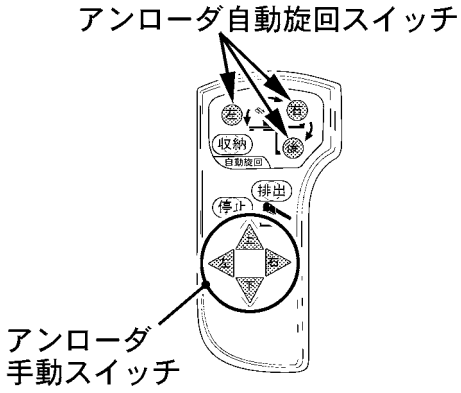
＊ 表示切換えスイッチを押すと，ブザーは停止します。

2. 刈取作業をいったん中止し，30 秒以上待ったあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にして，所定の排出位置に移動します。



3. 主変速レバーを**［停止］**位置にして，駐車ブレーキを掛けます。

4. アンローダ自動旋回スイッチ（左・右・後）又は，アンローダ手動スイッチを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。



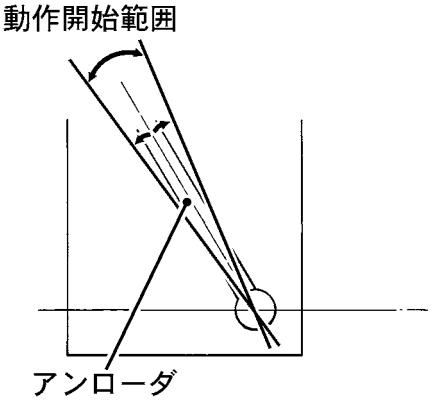
1ARADBNAP044O

重　要

＊ 走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）及び，アンローダホーム位置のズレによる収納不良の原因になります。
＊ 自動スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

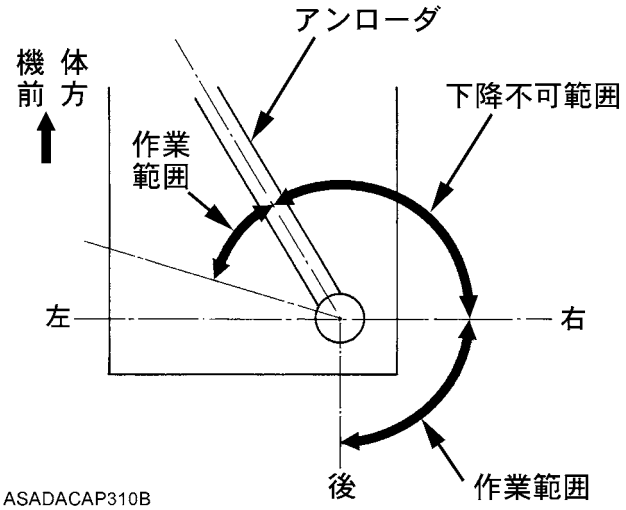
補　足

＊ 自動旋回制御装置作動中に，停止スイッチを押す又は，アンローダ手動スイッチを操作すると，自動旋回制御は停止します。
＊ アンローダ自動旋回スイッチを押したとき，アンローダが動作始動開始範囲外にあるときは，アンローダは自動旋回しません。旋回するときは，アンローダ手動スイッチで手動で操作する又は，アンローダをいったんアンローダ受けに収納したあと，アンローダ自動旋回スイッチを操作してください。



1ARAEASAP571A

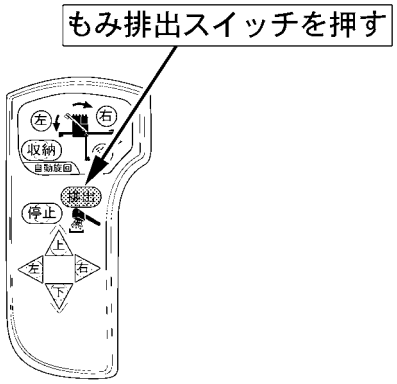
＊ 自動旋回制御装置作動中でもアンローダ手動スイッチの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。
＊ アンローダが最上昇位置のとき，**下降不可範囲**ではアンローダ手動スイッチを操作しても下降しません。また，このときに液晶ディスプレイに**［アンローダを上昇する］**と表示しますので，アンローダを最上昇位置まで上げて旋回してください。
＊ アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき，アンローダ手動スイッチを操作しても**下降不可範囲**内には旋回しません。また，このときに液晶ディスプレイに**［アンローダを上昇する］**と表示します。



1ASADACAP310B

＊ アンローダ手動スイッチとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダ手動スイッチを操作してください。アンローダ手動スイッチの**［左］（赤色）**を押すとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダ手動スイッチの**［右］（青色）**を押すとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。
＊ アンローダが収納されていない状態で走行を開始すると，液晶ディスプレイに**［アンローダを確認する］**と表示すると同時に警報ブザーが鳴ります。

5. もみ排出スイッチを押してこく粒を排出します。このとき，エンジン回転数が低い又は，高いときはアクセルダイヤルで調整を行ないます。

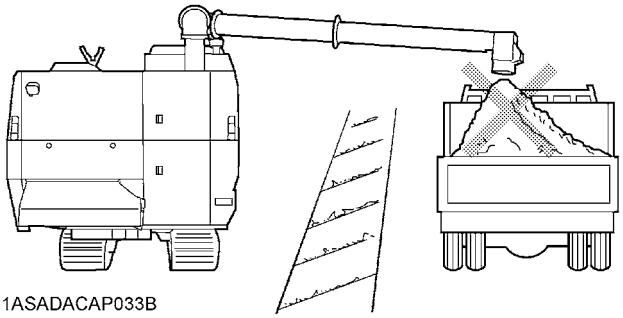


1ARADBNAP044F

重　要

＊ 吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。

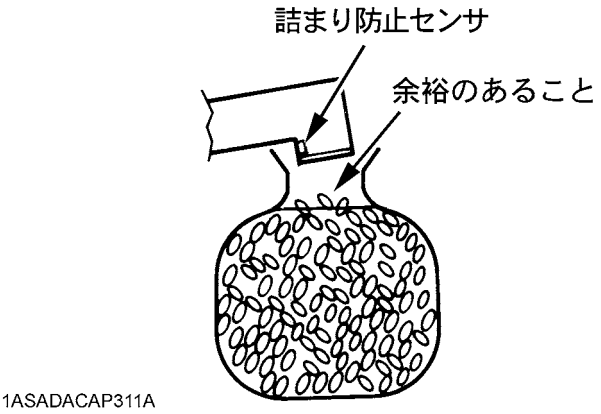
［アンローダ出口注意］　［吐出口をふさがない］



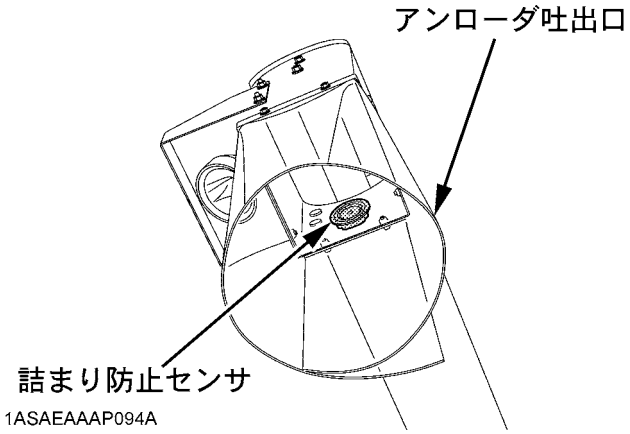
1ASADACAP033B

＊ アンローダには，絶対に物を吊るさないでください。

＊ アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止センサに一定時間こく粒が接触するとセンサがはたらいてこく粒の排出が停止しますが，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，アンローダリモコンの**［停止］**スイッチを押してください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。



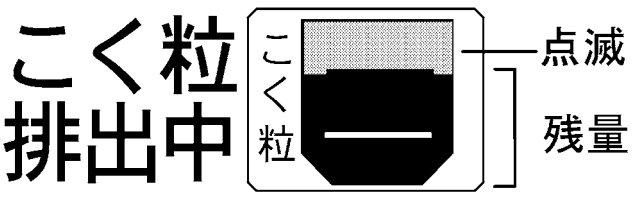
1ASADACAP311A



1ASAEAAAP094A

補　足

＊ こく粒排出中は，液晶ディスプレイにグレンタンク内のこく粒の残量を表示します。こく粒を排出し，こく粒の残量が少なくなると排出されたこく粒量の目盛が点滅に変わります。

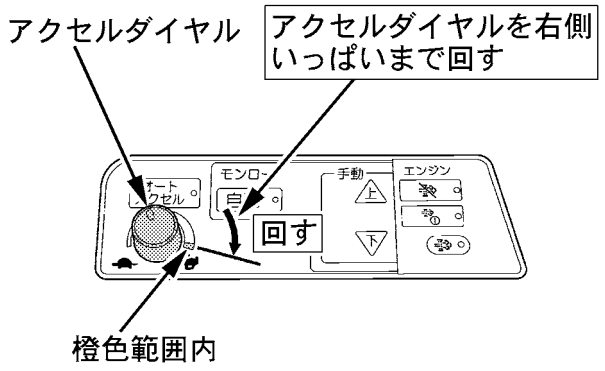


1ASAEAAAP354B

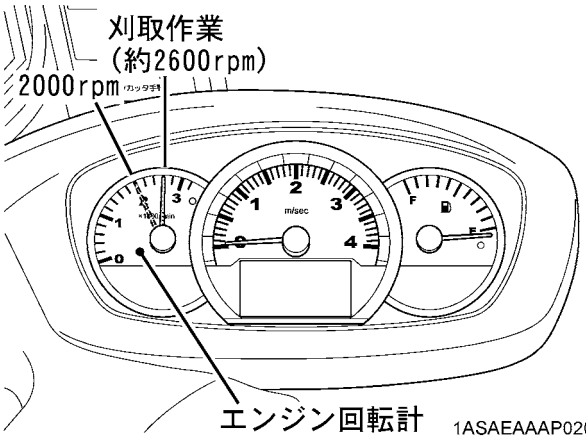
＊ もみ排出クラッチが**［入］**の間は，液晶ディスプレイに**［こく粒排出中］**を表示します。

＊ 自動アクセル制御がはたらいているとき，もみ排出スイッチを押すと，自動アクセル制御が解除されアクセルダイヤルで設定したエンジン回転数となります。

＊ 自動アクセル制御がはたらいているときは，アクセルダイヤルを回してもエンジン回転数は変わりません。いったんオートアクセルスイッチを押して自動アクセル制御を解除したあと，アクセルダイヤルを回して調整を行なってください。
＊ エンジン回転数の調整を行なうときは，下記事項を参考又は，注意してください。
  - 刈取作業時のエンジン回転数でこく粒を排出するときは，アクセルダイヤルを右側いっぱい(橙色範囲)まで回してください。
  - 損傷しやすい作物は，エンジン回転数を約2000rpm程度まで下げてください。
  - 自動脱こく制御（チャフ制御）の作物選択で**【豆】**を選択している場合は，もみ排出スイッチを押すと，エンジン回転数の上限が**約 2000rpm** に制限されます。また，作物選択スイッチで**【豆】**以外を選択した状態で大豆や小豆の排出を行なう場合は，エンジン回転数を**2000rpm**以上に上げないでください。損傷粒の原因となります。



1ASAEAAAP421E

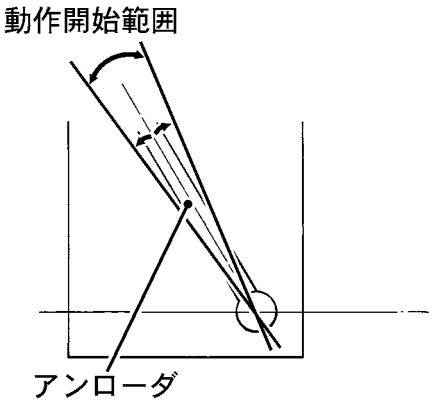


1ASAEAAAP020F

6. こく粒の排出が終わると，**【停止】**スイッチを押し，排出を停止させたあと，収納スイッチ又は，アンローダ手動スイッチを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

補　足

＊ アンローダ手動スイッチでアンローダを操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。
＊ アンローダ内にこく粒が残っていると，こく粒がこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。
＊ 収納スイッチを押したとき，アンローダが動作開始範囲内にあるときは，アンローダは収納しません。収納するときは，アンローダ手動スイッチで手動で操作してください。



1ARAEASAP571A

＊ アンローダ手動スイッチを操作してアンローダを収納するとき，手動スイッチを押し続けるとアンローダ受けの上側でアンローダがいったん停止します。そのあと，アンローダの旋回を行なうときは，いったん手動スイッチから手を離し，再度手動スイッチを操作してください。

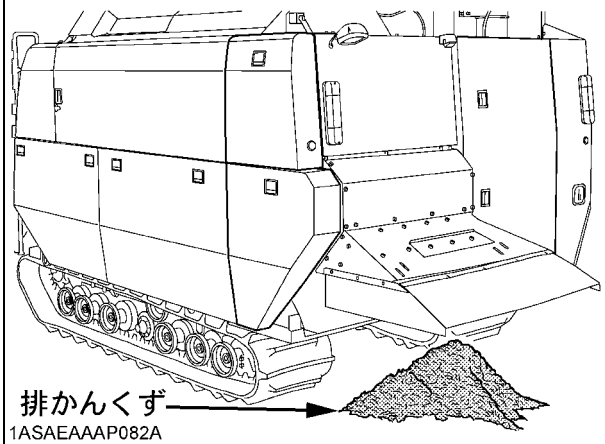
重　要

＊ 吐出口ブーツが破損したときは，必ず交換してください。

■手刈り（枕刈り）作物の投げ込み脱こくのしかた

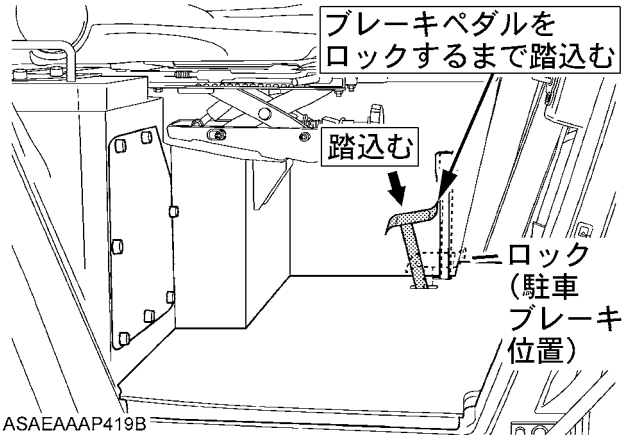
警　告

- **＊ コンバインは平坦な場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。**
- **＊ 刈刃クラッチレバーは必ず［切］位置にしてください。**
- **＊ 刈取オートクラッチのオートクラッチ切換えスイッチを必ず［切］にしてください。**
- **＊ 投げ込み脱こくは２人作業で行なってください。**
- **＊ 投げ込み脱こく中に，リールに巻込まれてケガをするおそれがありますので，下記事項を守ってください。**
  - **● 作業中は，必ず運転席に共同作業者が座り，異常が発生したときにエンジンを停止する準備をしておいてください。**
  - **● 作業時の服装は，そで口をきっちり止めて，手袋，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。**
  - **● 作業者は，刈取部から少し離れた斜めの位置に立ち，作物を少量ずつ投げ込んでください。**
- **＊ 走行を停止した状態で多量の脱こくを行なうと，排かん処理部の下に切断された排かんくずが堆積し，排かん処理部が詰まったり，火災の原因となりますので，機体を移動させる又は，堆積した排かんくずを取除いてください。**



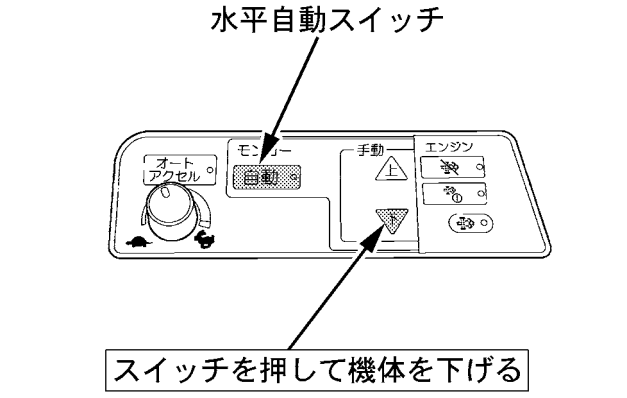
1ASAEAAAP082A

1. 駐車ブレーキを掛けます。

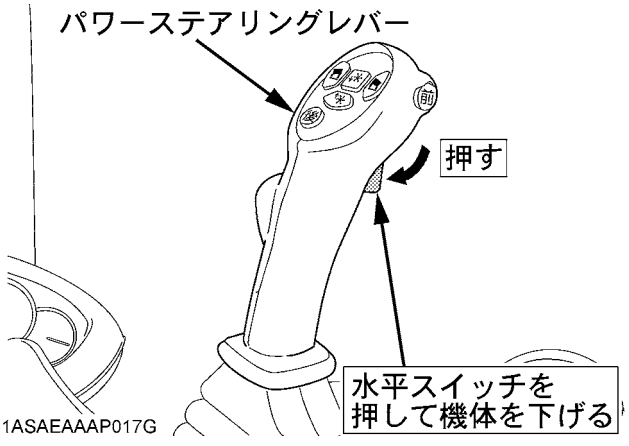


1ASAEAAAP419B

2. 水平自動スイッチを**［切］**にしたあと，水平操作自動スイッチの**［下］**を押す又は，パワーステアリングレバーの水平スイッチを引いて機体を**最下降位置**にします。

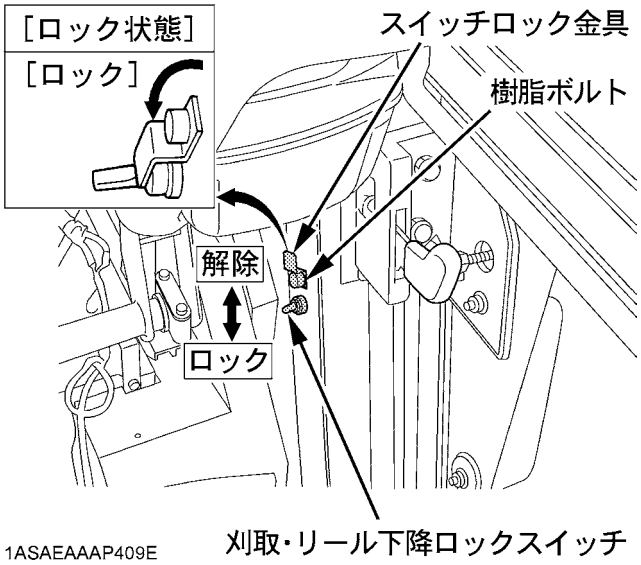


1ASAEAAAP421F



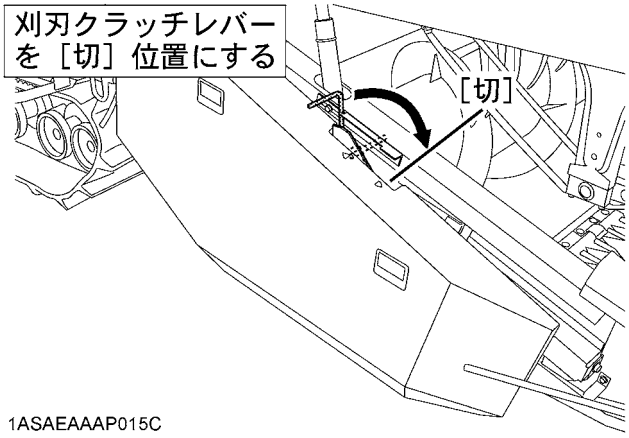
1ASAEAAAP017G

3. 刈取部を少し上げ，リールを**最上昇位置**にしたあと，刈取・リール下降ロックスイッチを**[ロック]**位置にして刈取部及びリールの下降防止を行ないます。



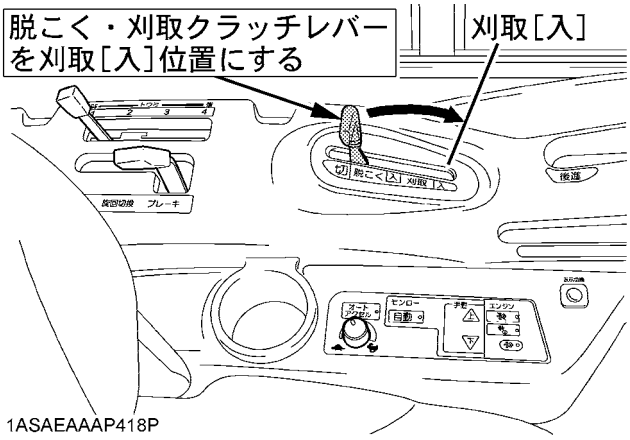
1ASAEAAAP409E

4. 刈刃クラッチレバーを**[切]**位置にします。



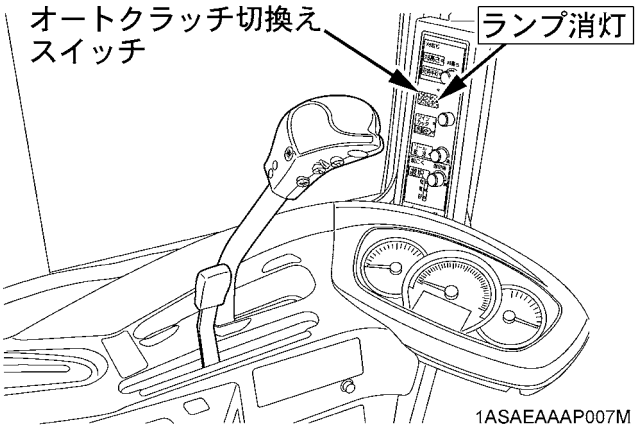
1ASAEAAAP015C

5. 脱こく・刈取クラッチレバーを**刈取［入］**位置にします。



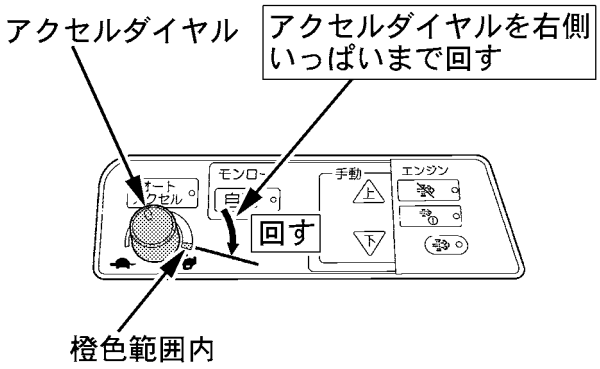
1ASAEAAAP418P

6. オートクラッチ切換えスイッチを押して，刈取オートクラッチを**[切]**にします。



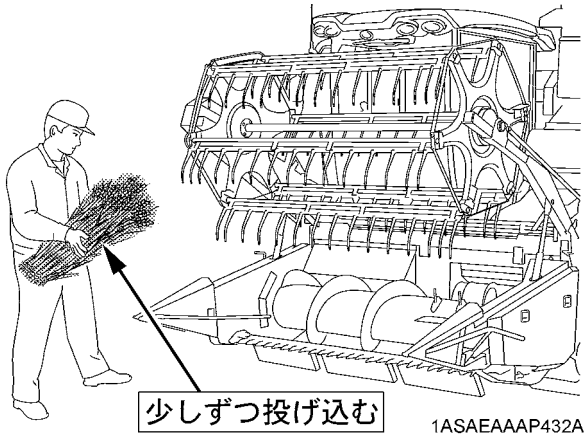
1ASAEAAAP007M

7. アクセルダイヤルを右側いっぱいまで回します。



1ASAEAAAP421E

8. 手刈りした作物を少しずつ投げ込みます。



1ASAEAAAP432A

重　要

＊ 作物は一度に投入する量は５束以下にしてください。多量に投入するとオーガドラム，フィーダ，こぎ胴での詰まりの原因となります。

■作業や作物に合わせた各部の調節・調整・交換のしかた

警　告

＊ 作業中の調整以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから，調節・調整・交換を行なってください。
＊ 衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。
＊ 平たんで安定した場所で行なってください。
＊ コンバインを停止するときは，排かんくずの上に止めないでください。マフラ排気口に排かんくずが触れると，火災のおそれがあります。

補　足

＊ そば・大豆・小豆の刈取りを行なうときは，オプション（別売品）の交換キットが必要です。(259 ページ参照)

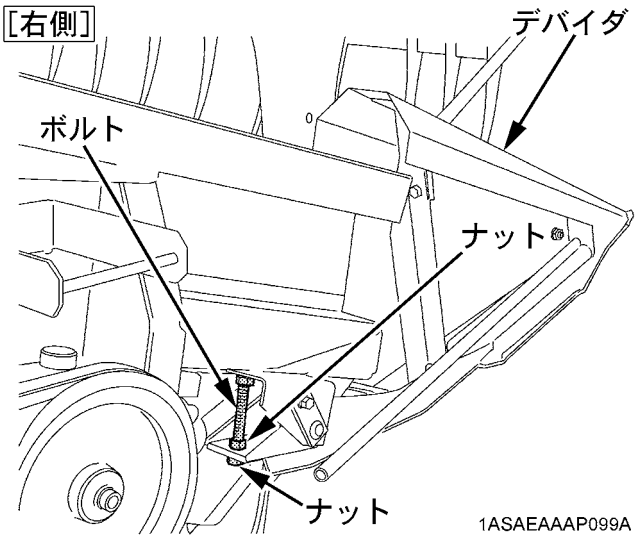
◆ 刈取部

■デバイダの上下調整

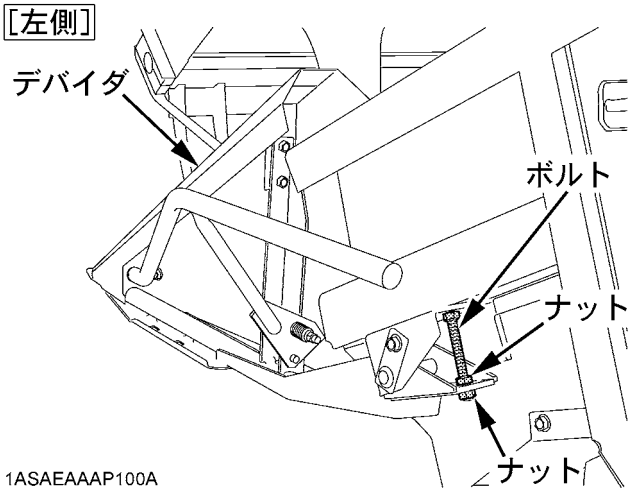
雑草の多いほ場では，刈株よりやや高めにして雑草が引っ掛からないようにしてください。また，倒伏時は，デバイダの先端が，地面に軽く接地する程度に調整を行なってください。

1. 刈取部を降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. 刈取部の左・右のサイドカバーを取外します。
3. デバイダの上下に動く範囲の調整を行ないます。
   (1) ボルトを固定しているナットをゆるめます。
   (2) ボルトを回してデバイダの上下に動く範囲の調整を行ないます。
   (3) ナットを締付けます。
4. 同じ要領でもう片方のデバイダを同じ高さに調整します。
5. 刈取部のサイドカバーを取付けます。

[右側]



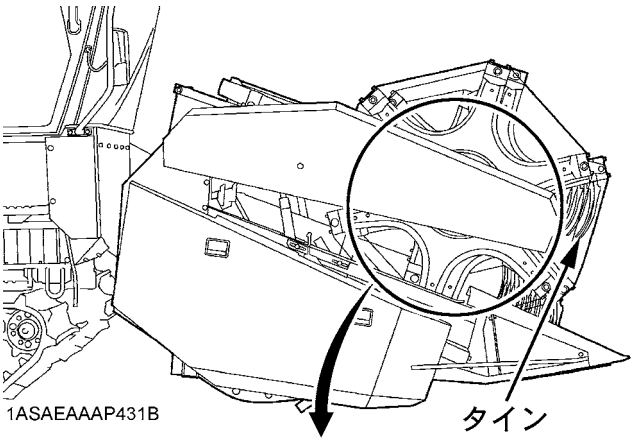
[左側]

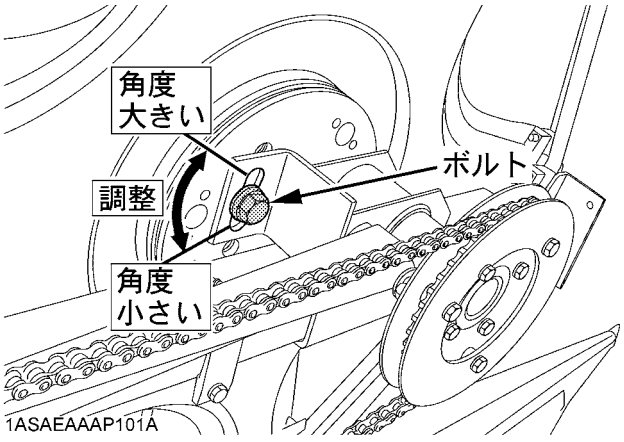


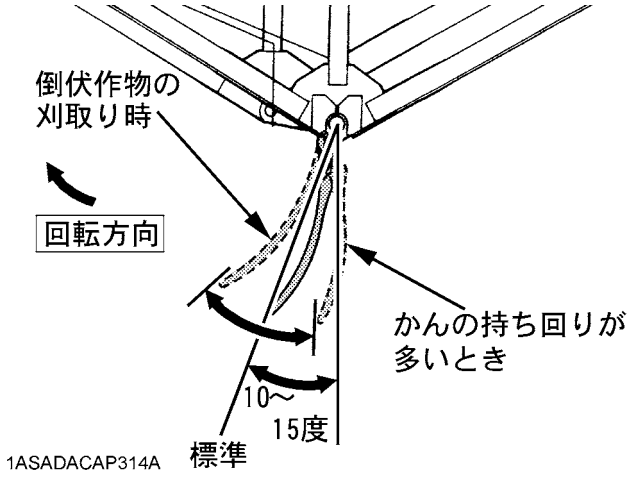
■リールタインの角度調整

倒伏作物の刈取りやかんの持ち回りが多いときは，リールのタイン角度の調整を行なってください。
倒伏作物でリールを前方に出しても引起しが悪いときは，タインの角度を大きく（回転方向に倒す）調整します。また，かんの持ち回りが多いときは，タインの角度を小さく（反回転方向に倒す）調整します。

1. リールを**最下降位置**にしたあと，刈取部を地面に着くまで降ろします。
2. エンジンを停止します。
3. リールサイドカバーを取外します。(133 ページ参照)
4. ボルトをゆるめます。
5. リールタインの角度を確認しながら，リールを適切な位置に動かして調整を行ないます。







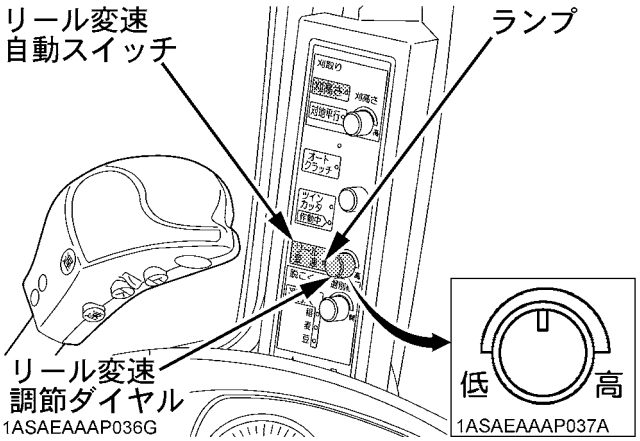
補　足

＊ タインの角度は通常（標準）10 ～ 15 度です。倒伏作物は 20 ～ 25 度の範囲に調整してください。
＊ タイン角度が大きすぎてオーガドラムのラセンに当たるときは，リールを前方へ出してください。
＊ 刈取った作物がリールタインに巻付いて，作物を刈取部にかき込めず，作物をほ場に投出してしまう持ち回り現象が多いときは，再調整を行なってください。

6. ボルトを締付けます。
7. リールサイドカバーを取付けます。

■自動リール回転制御の調整・調節

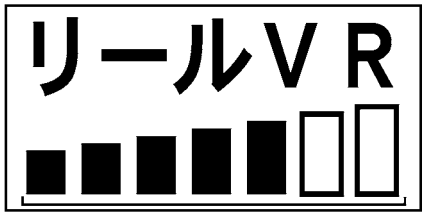
作物や倒伏状態に合わせてリール回転速度の調整を行なってください。リール回転速度は自動制御がはたらいている（リール変速自動スイッチ**[入]**）ときは，刈取速度に応じて増減します。また，自動制御を解除（リール変速自動スイッチ**[切]**）すると，リールの回転速度は固定され一定の回転速度となります。



リール回転速度は刈取速度の 1.5 ～ 1.8 倍（リール変速調節ダイヤルを回したときに表示される**[液晶表示]** 目盛の **3 ～ 5**）に通常は合わせてください。また，作物や倒伏状態に合わせてリールの回転速度の調整を行なってください。

● 自動制御解除（自動スイッチ［切］）時の目安

［液晶表示］



1ASAEAAAP038A

作物・倒伏状態	液晶表示の目盛
標準	4
立毛作物	2 ～ 4
倒伏稲・麦	4 ～ 6
大豆・小豆	3 ～ 5
そば	3 ～ 5

補　足

＊ リールの回転速度が速すぎるとヘッドロスが増え，遅すぎると刈取部で作物が滞留したり，かんこぼれが発生しやすくなります。

＊ 刈取作業中に作物の状態に応じてリール回転速度を一時的に上げる又は，下げるときは，リール回転速度調整スイッチを押してください。（14 ページ参照）

◆ **脱こく部**

■フィーダドラムの上下調節

警　告

＊ 刈取部を上げて点検・調整を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。

倒伏していない状態の作物（立毛作物など）の刈取作業時，フィーダで搬送する作物の量が増えたときは，フィーダドラムの取付け位置を上げてください。

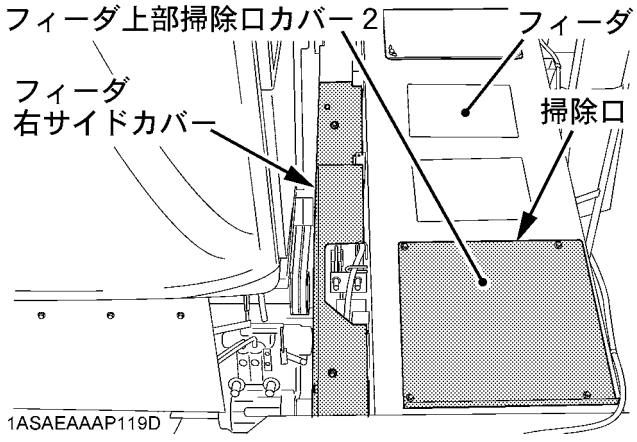
重　要

＊ フィーダで搬送する作物の量が増え過ぎるとフィーダで作物が詰まり，刈取駆動ベルトがスリップしてベルトが破損する原因となります。

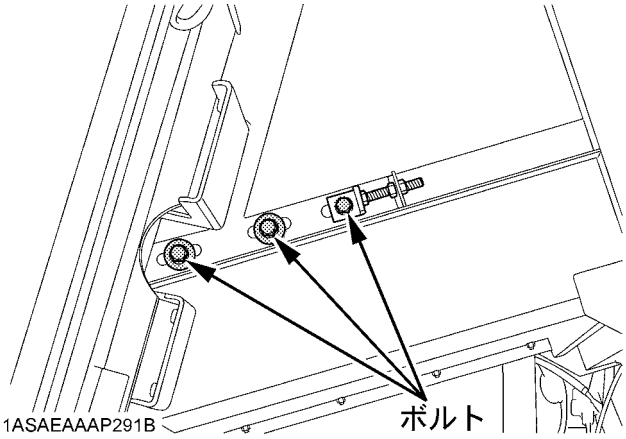
補　足

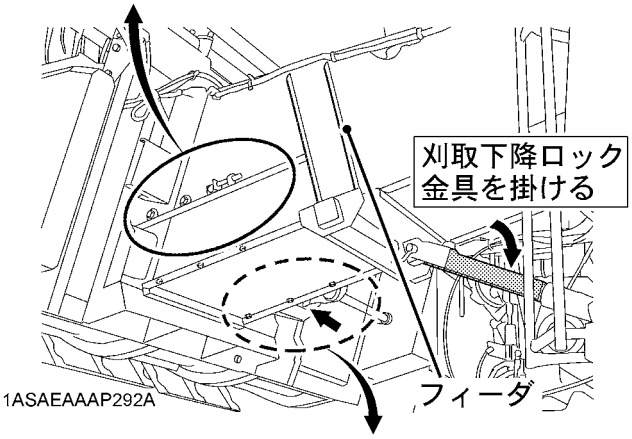
＊ 倒伏作物の刈取作業時，オーガドラムとフィーダドラムの間に作物が滞留するときは，出荷時の状態に戻してください。（フィーダドラムの取付け位置を下げてください）

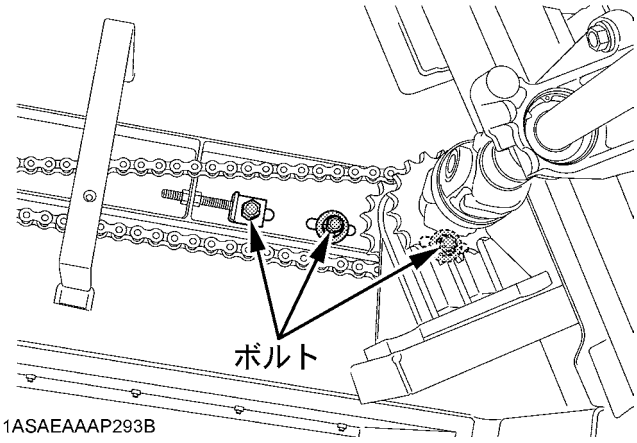
1. フィーダ右サイドカバーを取外したあと，フィーダ上部掃除口カバー２を取外します。(134，135 ページ参照)

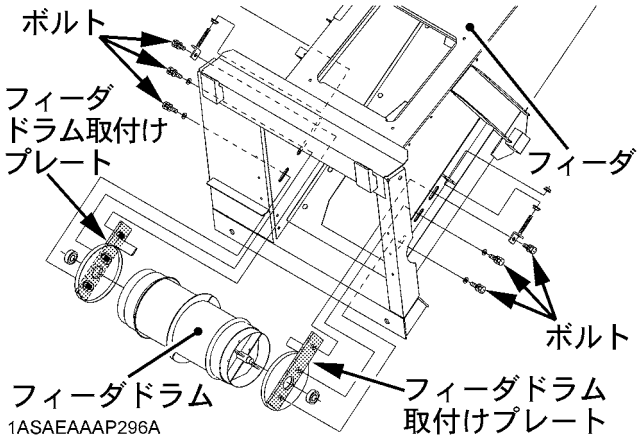


2. エンジンを始動したあと，刈取部を**最上昇**位置にします。
3. 刈取部の下降防止を行なったあと，エンジンを停止します。
4. フィーダドラムをフィーダに固定している左，右の各ボルト３個の内，前側と後側のボルトを取外し，中央のボルトはゆるめた状態にします。

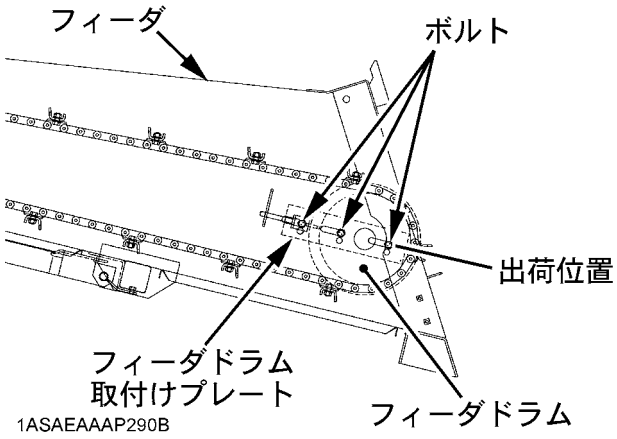








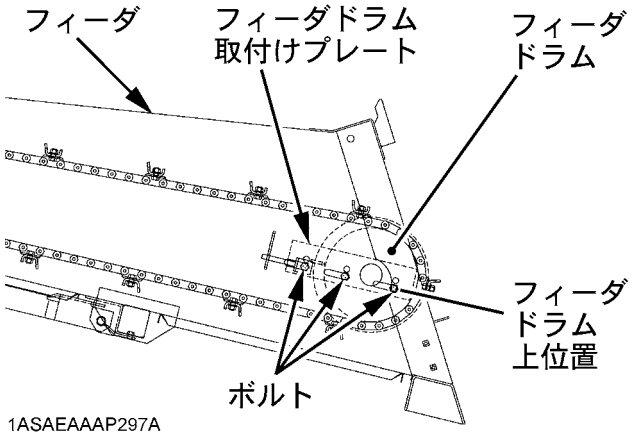
1ASAEAAAP296A



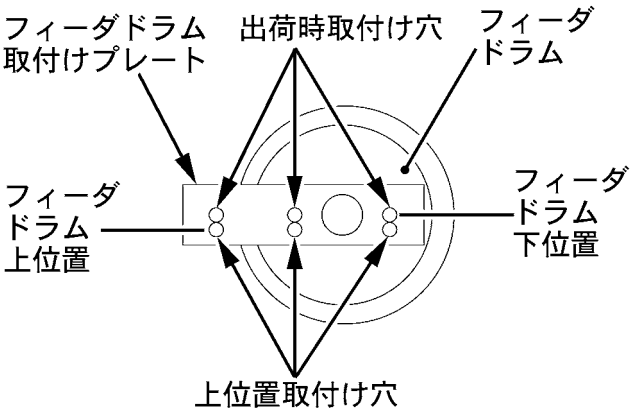
1ASAEAAAP290B

5. 刈取部の下降防止を解除したあと，刈取部を地面に着くまで降ろしてエンジンを停止します。

6. フィーダドラムの取付け位置を上げます。

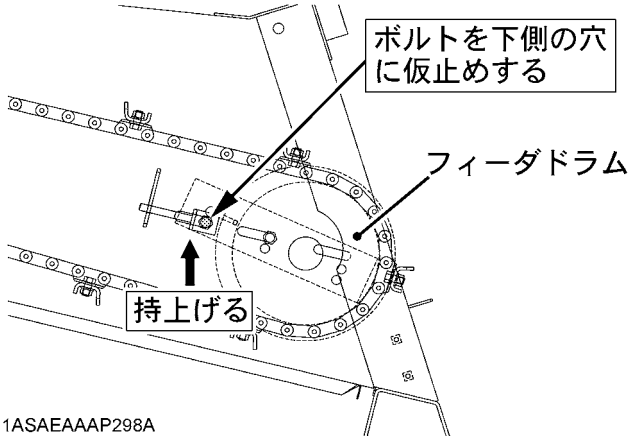


1ASAEAAAP297A



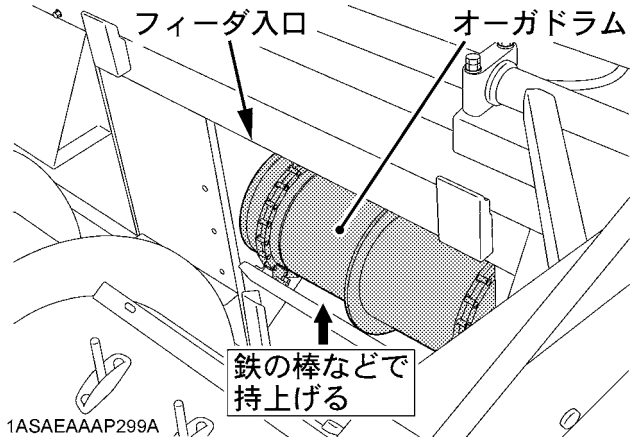
1ASAAAHAP244C

(1) フィーダ上部掃除口からフィーダドラムの後側を持上げた状態で，左，右の各後側のボルトを仮止めします。



1ASAEAAAP298A

(2) 左，右の中央のボルトをそれぞれ取外します。
(3) 刈取部側から鉄の棒などを利用して，フィーダドラムを持上げながら左，右の各前側，中央のボルトをそれぞれ仮止めします。

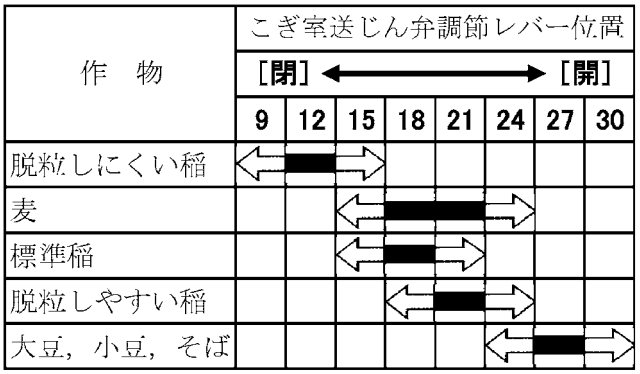


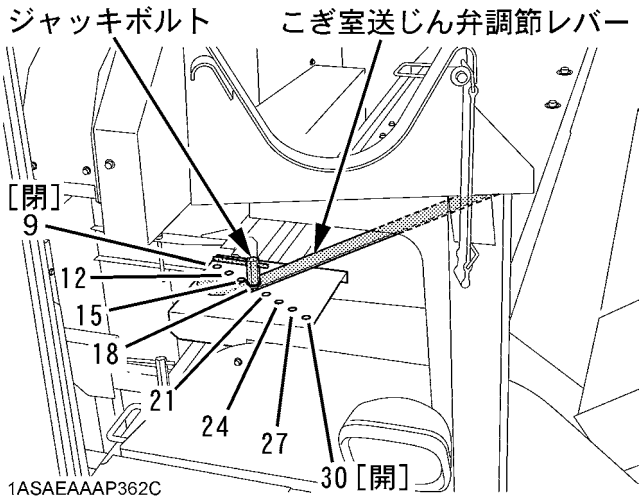
7. エンジンを始動したあと，刈取部を**最上昇**位置にしてエンジンを停止します。
8. 左，右のボルト３個をそれぞれいったん締付けたあと，フィーダ搬送チェーンの張り調整を行ないます。(220 ページ参照)
9. フィーダ上部掃除口カバー２を取付けます。

■こぎ室送じん弁調節レバーの調節

次表を参照してこぎ室送じん弁調節レバーで調節してください。調節を行なうときは，こぎ室送じん弁調節レバーを固定しているジャッキボルトを取外してください。調節後は，ジャッキボルトをこぎ室送じん弁調節レバーに取付けて固定してください。

調節方向	現　象（状　態）
[開] ↑ **[標準]** ↓ **[閉]**	● ゴトゴトと大きな異音がする（こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り ● 脱ぷや損傷（胴割れや欠け）粒が多い ● 選別が悪い 　● 穂切れ粒が多い 　● ササリ粒が多い
	● 排じんロス（こく粒の飛散）が多い ● 未脱粒が多い ● こぎ残しが多い ● 枝梗付着粒が多い





補　足

＊ 作物の選別状態やこぎ残しが出るなど異常がある場合は，248 ページの**コンバインの不調と処置**を参照して処置してください。
＊ 作物に合わせて矢印範囲内で調節してください。黒塗り位置が標準位置です。
＊ 下記のような場合には，標準位置から**【閉】**又は，**【開】**方向に調節してください。
- 水分が多い作物や未脱粒が少ない場合は**【開】**方向へ
- 倒伏作物や負荷の大きい刈取作業は**【開】**方向へ
- **【閉】**方向で刈始めた場合，刈取作業の中盤から後半は**【開】**方向に調節してください。

＊ 調節範囲の 9 ～ 30 は，こぎ室送じん弁調節レバーを動かした後の送じん弁の角度です。(17 ページ参照)

■トウミ調節レバー・トウミ調整プレートの調節・調整

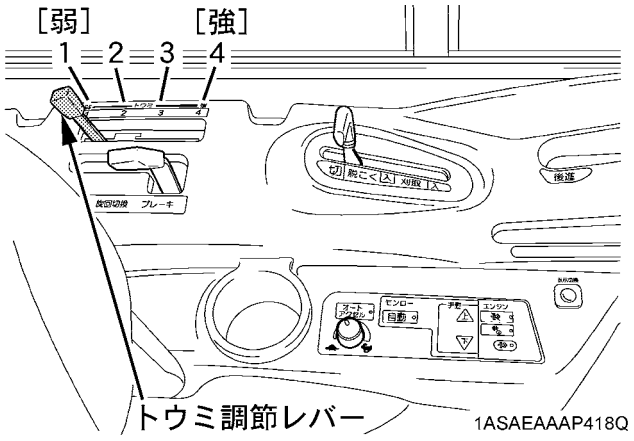
トウミ（風力）の調整を行なうときは，まずトウミ調節レバーで行なってください。また，トウミ調節レバーの調節範囲から更に風力を強くする又は，弱くする場合は，トウミ調整プレートで調整を行なってください。

● トウミ調節レバーの調節

作物の選別や飛散状態に合わせ，下表を参照してトウミ調節レバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態）
【強】 ↕ **【弱】**	● 選別が悪い ● 水分が多い
	● 排じんロス（こく粒の飛散）が多い ● こく粒が小さく軽い

作　物		調節範囲
稲	飛散が多い	1 ～ 2
	標準	2 ～ 3
	ごみが多い	3 ～ 4
	雨上がりや朝露など	3 ～ 4
麦・大豆・小豆		2 ～ 3
そば		2 ～ 3



補　足

＊ 作物の選別状態やこぎ残しが出るなど異常がある場合は，248 ページの**コンバインの不調と処置**を参照して処置してください。

● トウミ調整プレートの調整

作物の選別状態や飛散状態を確認したあと，次表を参照してトウミの風力を調整してください。

補　足

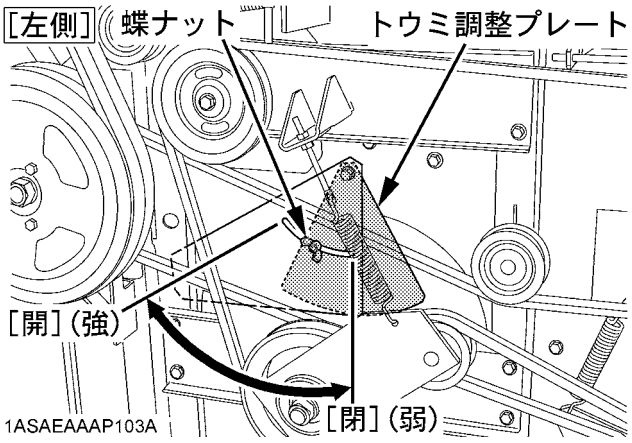
＊ トウミ調整プレートは，トウミの風力を調整する遮へい板です。

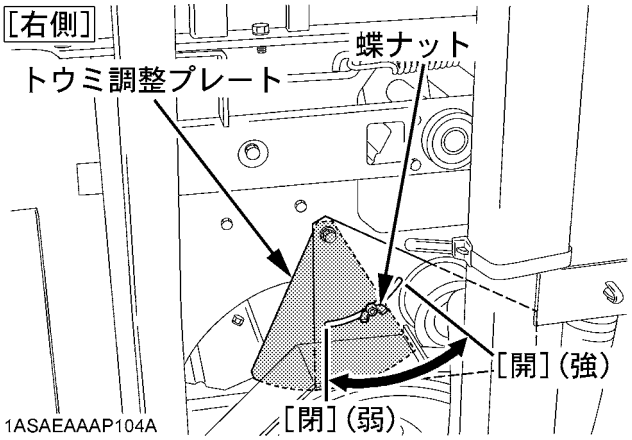
調整方向	現　象（状　態）
[開] ⇕ **[閉]**	● 選別が悪い（選別不良） ● 水分の多い作物の刈取作業 （濡れ作物の刈取作業）
	● 排じんロスが多い （こく粒の飛散が多い）

◆ 調整のしかた

トウミ調整プレートは，脱こく部の左右にあります。左右のトウミ調整プレートは同じ開度に調整してください。

1. 脱こく左サイドカバー 2 を取外します。(139 ページ参照)
2. グレンタンクを開きます。(145 ページ参照)
3. トウミ調整プレートを固定している蝶ナットをゆるめたあと，調整プレートを動かして調整します。





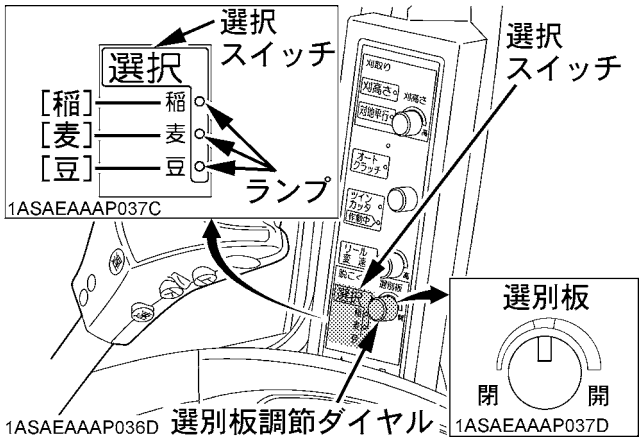
補　足

＊ トウミ調整プレートを **[開]** 方向に動かすと風力は強くなり，**[閉]** 方向に動かすと風力は弱くなります。

4. 蝶ナットを締付けたあと，脱こく左サイドカバー 2 を取付けます。
5. グレンタンクを閉じます。

■自動脱こく制御（チャフ制御）の調節

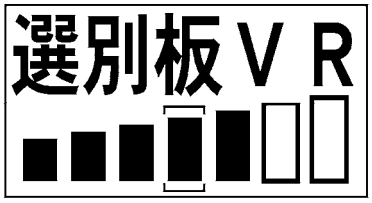
作物に合わせて選択スイッチを押して**［稲］/［麦］/［豆］**の作物の選択をしたあと，下表を参照して選別板調節ダイヤル（選別板のすき間調節）で調節してください。



調節方向	現　象（状　態）
［開］ ⬆ **［標準位置］** ⬇ **［閉］**	・排じんロス（こく粒の飛散）が多い
	・選別が悪い

● 自動制御解除（作物選択スイッチ［手動］）時の目安

［液晶表示］



1ARAEASAP234B

作　物	調節範囲（液晶表示の目盛）
稲・麦	2 ～ 4
大豆・小豆	4 ～ 7
そば	2 ～ 4

補　足

＊ 作物の選別状態やこぎ残しが出るなど異常がある場合は，248 ページの**コンバインの不調と処置**を参照して処置してください。

＊ 選別板のすき間調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。

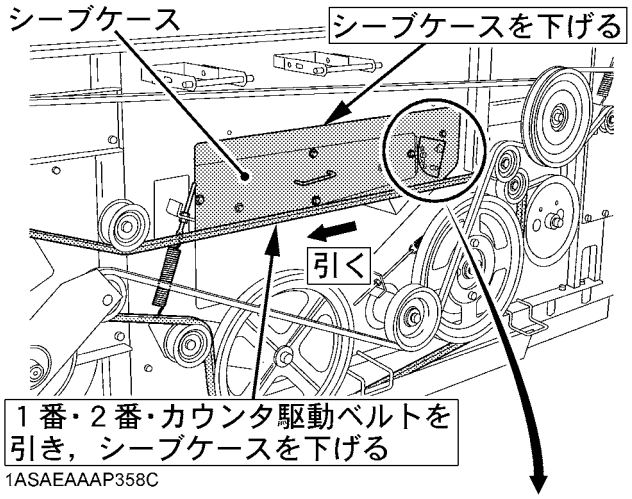
■後チャフ調節レバーの調節

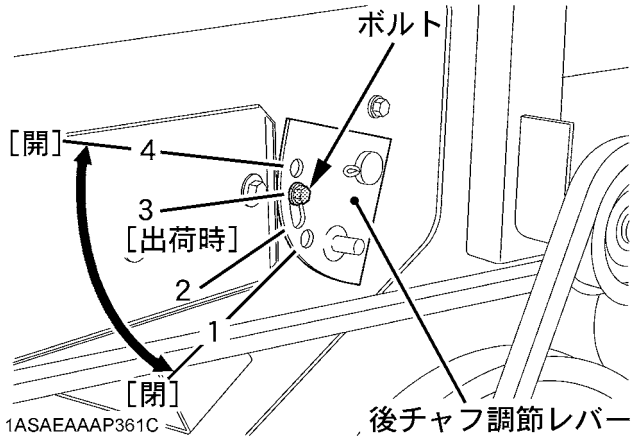
作物の選別や飛散状態に合わせ，下表を参照して後チャフ調節レバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態）
［開］ ⬆ **［標準］** ⬇ **［閉］**	● 排じんロス（こく粒の飛散）が多い ● 脱ぷが多い
	● 選別が悪い ● 小枝梗が多い

作　物	調節範囲
稲・麦	2 ～ 3
大豆・小豆	1 ～ 2
そば	1 ～ 2

1. 脱こく左サイドカバー２，３を取外したあと，１・２番横スクリュ上部左掃除口カバーを取外します。
2. １番・２番・カウンタ駆動ベルトを引き，シーブケースが下がった位置にして，チャフ調節レバーの調節が行ないやすい位置にします。
3. ボルトを取外したあと，後チャフ調節レバーを動かします。
4. 調節を行なったあと，ボルトを取付けます。





補　足

＊ 作物の選別状態やこぎ残しが出るなど異常がある場合は，248 ページの**コンバインの不調と処置**を参照して処置してください。
＊ 選別板のすき間調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。

5. １，２番横スクリュ上部左掃除口カバーを取付けたあと，脱こく左サイドカバー２，３を取付けます。

■シーブケース補助プレートの前後調整，グレンシーブ後の交換

作物の状態や選別状態を確認したあと，次表を参照してシーブケース補助プレートの調整やグレンシーブ後の交換を行なってください。

● シーブケース補助プレートの調整

調整方向	現　象（状　態）
[前] ⇕ **[後]**	● 脱ぷや損傷粒が多い ● 排じんロスが多い
	● 選別が悪い（選別不良）

補　足

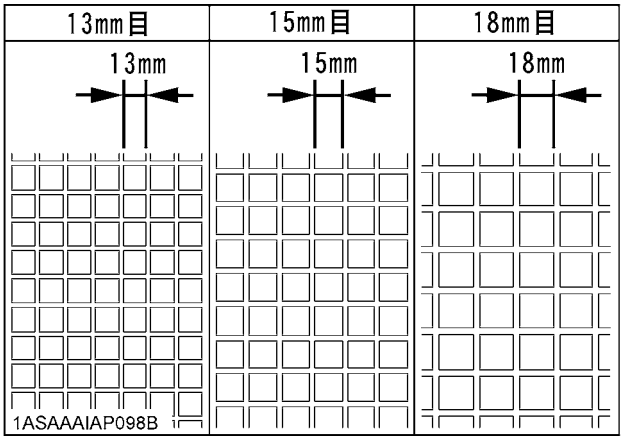
＊ 出荷時は**【後】**側いっぱいまで引いています。

● グレンシーブ後の交換

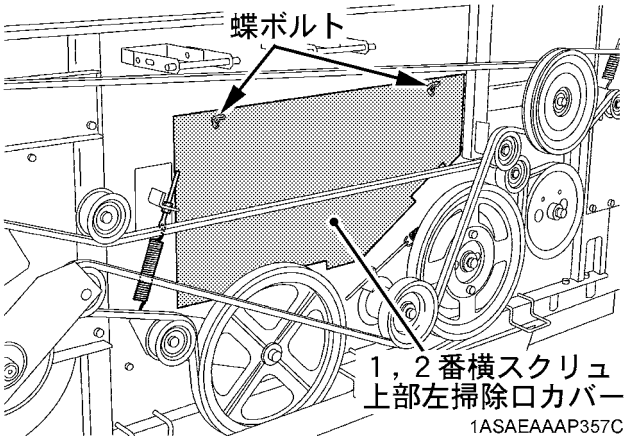
網目	現　象（状　態）
18mm ⇕ **15mm** ⇕ **13mm**	● 脱ぷや損傷粒が多い ● 排じんロスが多い
	● 選別が悪い（選別不良）

補　足

＊ 出荷時は，網目のサイズが 18mm（18mm 目）のグレンシーブ後を取付けています。
＊ 網目のサイズが 13mm（13mm 目）と 15mm（15mm 目）のグレンシーブ後は，付属部品です。

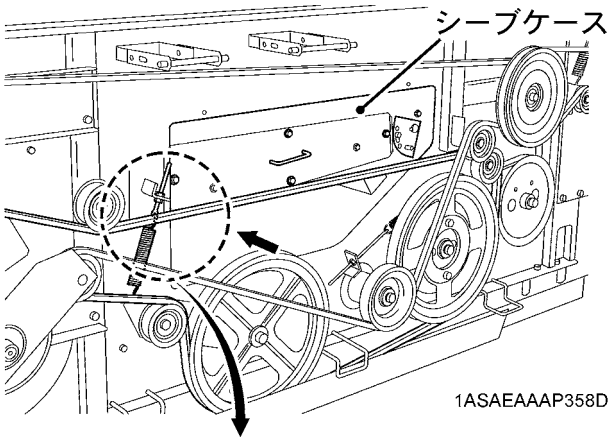


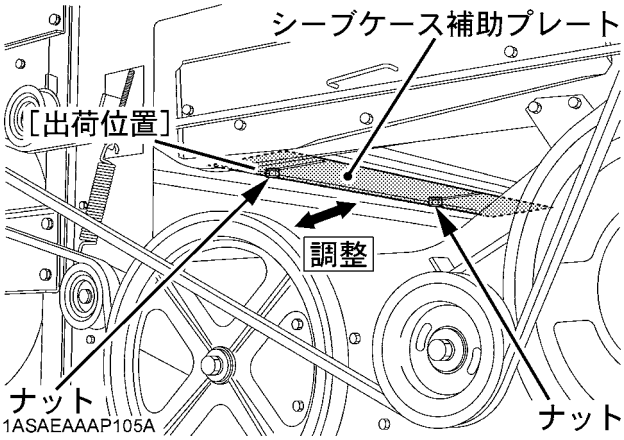
1. 脱こく左サイドカバー２，３を取外します。(139 ページ参照)
2. 蝶ボルトを取外して１，２番横スクリュ上部左掃除口カバーを取外します。

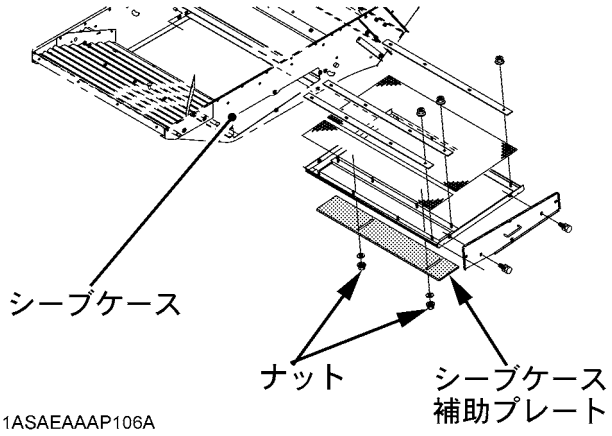


◆ **シーブケース補助プレート 2 の調整のしかた**

(1) ナットをゆるめたあと，シーブケース補助プレートを後方に動かして調整します。



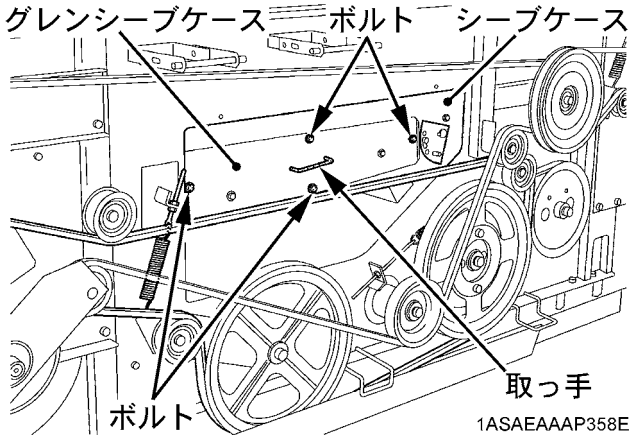


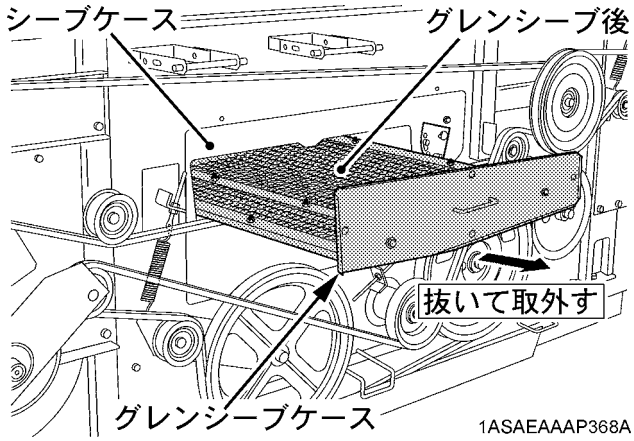


(2) ナットを締付けます。

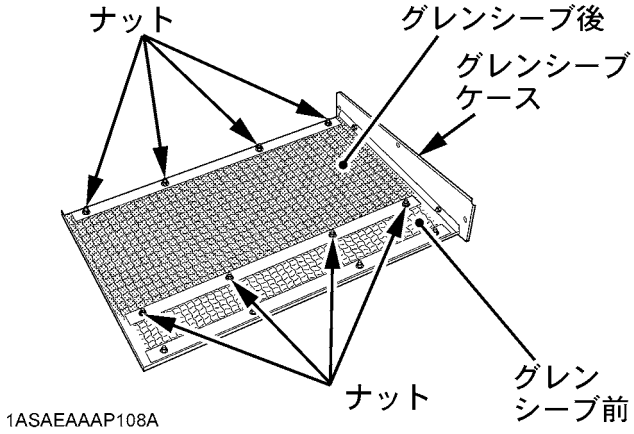
◆ グレンシーブ後の交換のしかた

1. ボルトを取外して，シーブケースに取付けているグレンシーブケースを，シーブケースから抜いて取外します。





2. ナットを取外して，グレンシーブケースからグレンシーブ後を取外します。



3. 作物状態や選別状態に合わせて網目サイズの違うグレンシーブ後を取付けたあと，シーブケースにグレンシーブケースを取付けます。
4. １，２番横スクリュ上部左掃除口カバーを取付けたあと，脱こく左サイドカバー１，２を取付けます。

◆ グレンタンク部

■排出調整板の調整

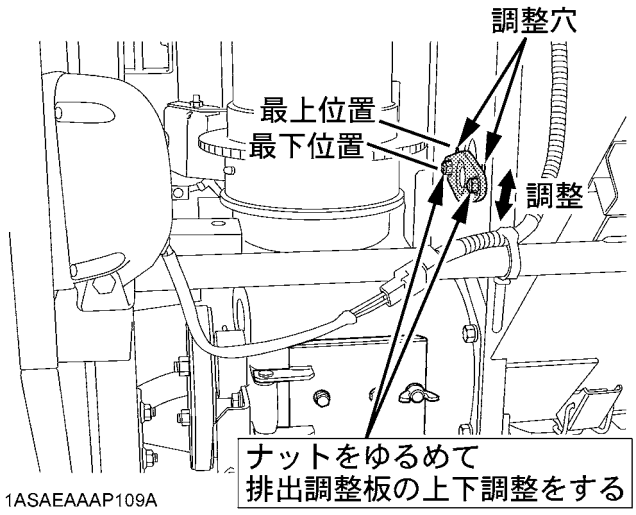
◆ 上下調整

排出調整板を**最上位置**で，水分の多い小麦の刈取りを行なうと，スクリュに詰まりが発生するおそれがあります。その場合は，排出調整板の位置を**最下位置**にしてください。排出調整板が上がった状態で刈取作業を行なうと詰まりの原因になります。

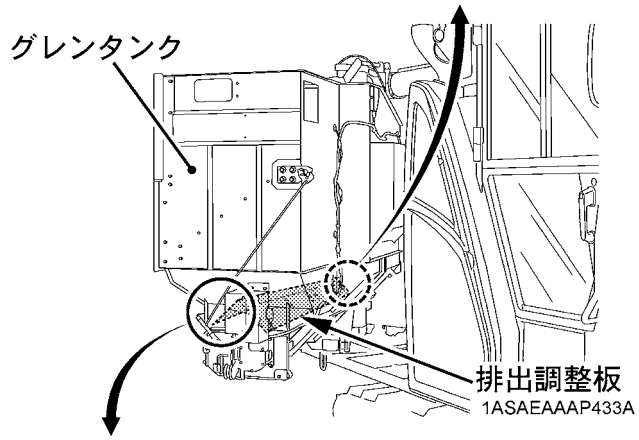
補　足

＊ 出荷時の排出調整板の位置は**最下位置**です。
＊ 水分の多い小麦を刈取るとき，排出調整板の位置を最下位置にしても詰まりが発生する場合は，グレンタンク内の底板に取付けている排出調整板のすき間調整を行なってください。

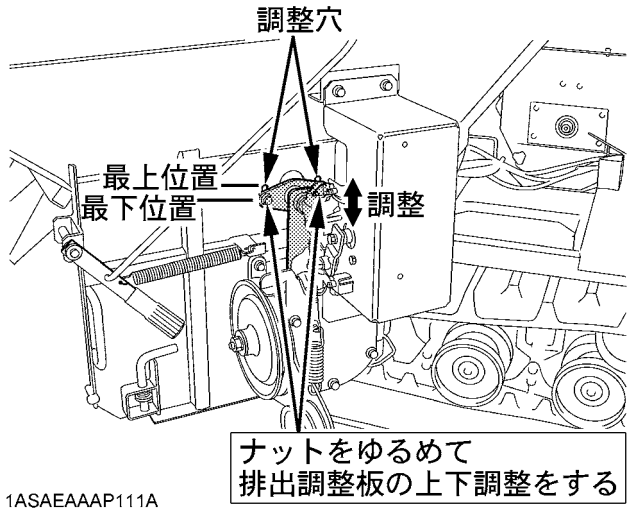
1. グレンタンクを開きます。(145 ページ参照)
2. グレンタンクの前後の両側面にある排出調整板の上下調整を行ないます。
   (1) ナットをゆるめます。
   (2) 排出調整板を最上又は，最下位置にします。
   (3) ナットを締付けます。



1ASAEAAAP109A



1ASAEAAAP433A



1ASAEAAAP111A

3. グレンタンクを閉じます。

◆ 排出調整板のすき間調整

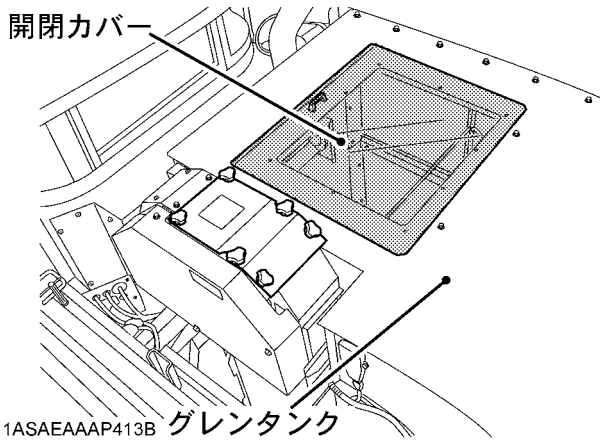
水分の多い小麦を刈取りなどで，底スクリュに詰まりが発生したり，こく粒の流れが悪いときは，下表を参照して調整を行なってください。

調整方向	現　象（状　態）
[広げる] ↑ [すき間] ↓ [狭くする]	● こく粒の流れが悪い
	● 水分の多い小麦の刈取り ● 損傷しやすい品種の刈取り

補　足

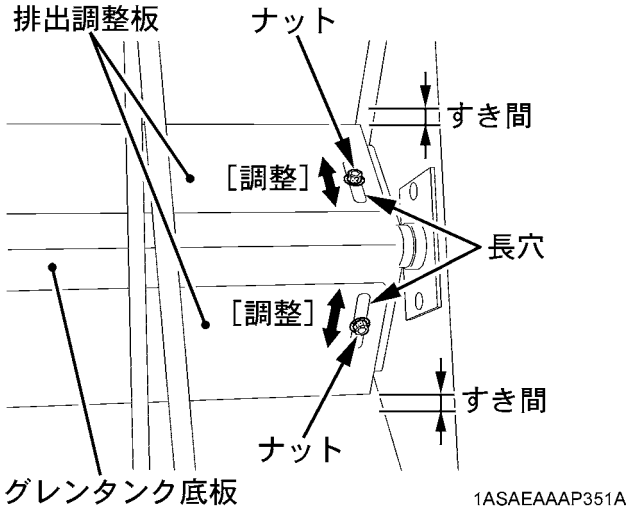
＊ 長穴の中央が標準位置です。

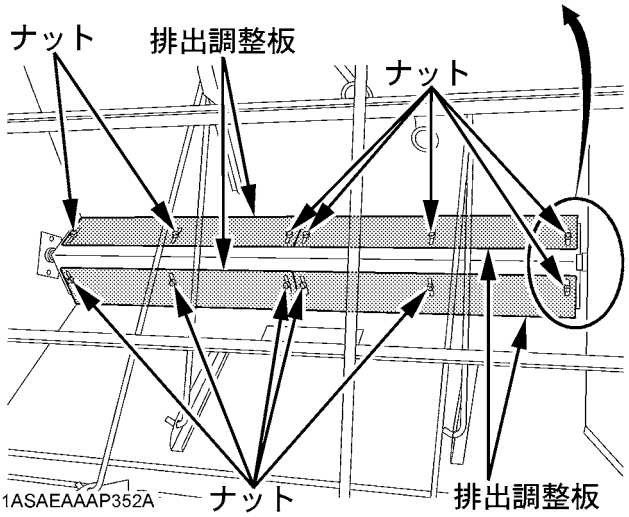
1. こく粒をすべて排出します。
2. 平坦な場所でエンジンを停止します。
3. グレンタンクの掃除口の開閉カバーを開き，グレンタンク内に入ります。



1ASAEAAAP413B

4. グレンタンク底板に取付けている排出調整板のナットをゆるめ，すき間調整を行ないます。





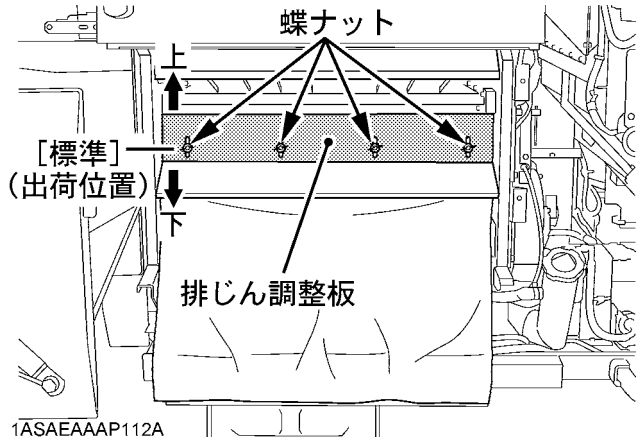
5. ナットを締付けます。

■排じん調整板の調整

下表を参照して排じん調整板を調整してください。

1. チョッパ部を開きます。(147 ページ参照)
2. 蝶ナット 4 個をゆるめます。
3. 排じん調整板を動かして調整します。

調節方向	現　象（状　態）
上 ［標準位置］ 下	● 排じんロスが多い
	● ぬれ作物の刈取り ● 雑草が多い ● 能率を上げる（高速刈取り）



4. 蝶ナットを締付けて，チョッパ部を閉じます。

補　足

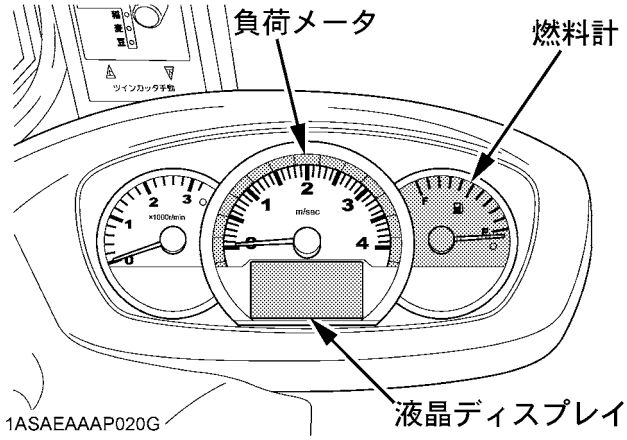
＊ 出荷時は長穴の中央位置（標準位置）です。

■マルチナビによる異常と処置

警 告

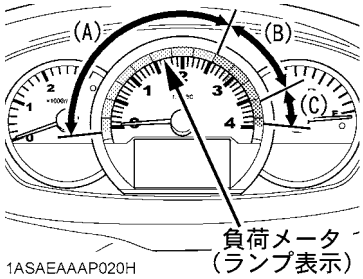
＊ 各部の点検やかん詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 各搬送チェーンなどには注意してください。ケガをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。
＊ エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。

マルチナビの液晶ディスプレイに警報が表示されたときは，下表を参照して処置してください。



警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
燃料警報	燃料を給油して下さい（約 5 秒後消灯）		○ 断続（約 5 秒後停止）	・燃料が少なくなっています。 ・そのまま作業を続けると… **[エンジンが停止します。]**	・燃料を補給します。	176 －
油圧警報	ｴﾝｼﾞﾝ 油圧異常です（処置後消灯）	－	○ 断続（処置後停止）	・エンジンオイルの圧力が不足しています。 ・そのまま作業を続けると… **[エンジンが焼付きを起こし停止します。]**	・エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ・オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ・バンドの増締めをします。 ・購入先へ連絡してください。	177 193 193 －

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
オーバーヒート警報	⬅交互に表示➡ オーバーヒート / ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ にして下さい （処置後消灯） ⬅交互に表示➡ オーバーヒート / 冷却後点検して下さい （処置後消灯） ⬅交互に表示➡ オーバーヒート / ｴﾝｼﾞﾝ 停止して下さい ↕ 冷却後点検して下さい （処置後消灯）		○ 断続（処置後停止）	・エンジンの冷却水温が上昇しています。 ・そのまま作業を続けると.. **[エンジンが焼付きを起こし停止します。]**	・**[アイドリングにして下さい]** を表示すると… アクセルダイヤルを操作して，エンジン回転数を**最低回転**位置にします。 ・**[冷却後点検して下さい]** を表示すると… エンジンを停止し，30 分以上たってから点検と処置をします。 ・**[エンジン停止して下さい]** ⟷ **[冷却後点検して下さい]** を表示すると… エンジンを**直ちに停止**し，30 分以上たってから点検と処置をします。 ・**点検と処置** (1) 冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ…排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増締め (2) ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 (3) 防じんあみ・ラジエータフィンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く ・購入先へ連絡してください。	8 188 188 188 188, 193 206 206 195 —
充電警報	充電系統が異常です （処置後消灯）	—	○ 断続（処置後停止）	・バッテリに充電されていません。 ・そのまま作業を続けると… **[バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。]**	・エンジンを停止後，点検と処置をします。 (1) ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 (2) バッテリ 電圧低下…充電 ・バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	206 206 235 235
DPF 警報	DPF異常	—	○ 断続（処置後停止）	・DPF 内に PM が堆積しています。 ・そのまま作業を続けると… **[再生処理が不可能となり，DPF 及びエンジンが破損します。]**	・駐車再生処理を行なってください。 ・駐車再生処理が開始できないときは，購入先へ連絡してください。	35

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
負荷警報	ランプ表示が (C) 範囲のとき ⬅交互に表示➡ **負荷** / **速度を落として下さい** （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・エンジンや脱こく部に負担が掛かっています。 **負荷** 作業中にエンジン回転数が下がってきたときは，脱こく部に負荷が掛かっています。負荷メータのランプ表示を確認しながら適性範囲で作業してください。  1ASAEAAAP020H (A) 適正範囲（青色） …作業を継続 (B) 減速範囲(オレンジ色) …速度を落とす (C) 即時減速（赤色） …主変速レバーで減速する ※警報ブザーは速度を落として，(B) 減速範囲に戻ると停止します。	・作業速度を落としてください。	8,94
					・作業条件に合った調節や調整を行なってください。	116, 119
				・そのまま作業を続けると… **[エンジンが停止します。]**		—
こく粒満杯警報	**こく粒が満杯です** （処置後消灯）	—	○ 断続 （処置後停止又は，表示切換えスイッチを押すと停止）	・グレンタンク内のこく粒が満杯です。 ・そのまま作業を続けると… **[グレンタンクからこく粒があふれます。又は，１番スクリュが詰まります。]**	・刈取作業を中止し，こく粒を排出します。	105 —
１番警報	**１番詰まり点検する** （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・１番バケットコンベア内が詰まっています。 ・そのまま作業を続けると… **[ベルトの焼付きやベルト切れとなります。]**	・１番バケットコンベア内を掃除します。	155 —
２番警報	**２番詰まり点検する** （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・２番スクリュ内が詰まっています。 ・そのまま作業を続けると… **[ベルトの焼付きやベルト切れとなります。]**	・２番スクリュを掃除します。	155 —
こぎ胴警報	**こぎ胴点検する** （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・こぎ室内が詰まり，こぎ胴の回転数が落ちています。 ・そのまま作業を続けると… **[ベルトの焼付きやベルト切れとなります。]**	・こぎ室内を掃除します。	155 —
チョッパ詰まり警報	**チョッパ点検する** （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・チョッパ部に排かんが詰まっています。	・チョッパ部の排かんを取除きます。	155

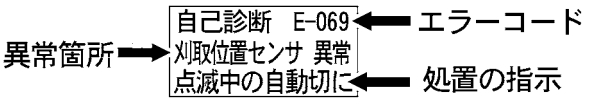
■マルチナビによる故障と処置

故障が発生すると，マルチナビの液晶ディスプレイに異常内容を表示します。故障による異常が発生したときは刈取作業を中止し，購入先に連絡して処置してください。
なお，故障の内容によっては，下表を参照して手動操作で刈取作業を行なうことができますが，作業終了後には必ず購入先に連絡してください。また，下表以外の異常内容が表示された場合は，直ちに購入先に連絡して処置してください。

補　足

＊ 液晶ディスプレイに故障の異常内容が表示されたとき，警報ブザーは鳴りませんので注意してください。
＊ 手動操作で作業を続ける場合は，下表の処置の欄の内容を良く理解し，注意をしながら作業を行なってください。
＊ 液晶ディスプレイに表示される異常内容は，**エラーコード**，**異常箇所**，**処置の指示**を表示します。

［表示例］



＊ 異常内容によっては異常箇所又は，**処置の指示**を表示しない場合があります。
＊ 購入先に連絡する際には，液晶表示のエラーコード及び異常内容を連絡してください。
＊ 故障の内容の表示は，異常内容のみの表示と異常内容と処置内容を交互に表示する場合があります。
＊ 自動方向制御装置はオプション部品です。

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 処置内容 ⟷ 異常内容		異常内容	処置	参照ページ
自己診断 E-064 昇降レバー VR異常	---	パワーステアリングレバーを操作しても刈取部が昇降しません。	ポジピタスイッチで刈取部の昇降操作を行なうことができますが，購入先に連絡して処置してください。	13
自己診断　E-069 刈取位置センサ 異常 点滅中の自動切に	---	刈高さ制御，対地平行制御，刈取オートクラッチ，ポジピタ，バックリフトがはたらきません。また，刈高さ制御の自動スイッチが**【入】**のときは，警報ブザーが鳴ります。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 刈高さ自動，刈取オートクラッチ自動スイッチを**【切】**にしてください。	9， 29， 31
自己診断　E-076 刈高さセンサ右 センサ信号異常	自己診断　E-076 刈高さ自動を切に	刈高さ制御，対地平行制御がはたらきません。また，刈高さ自動スイッチ又は，対地平行自動スイッチがはたらいているときは，警報ブザーが鳴ります。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 刈高さ自動スイッチを**【切】**にしてください。	9， 29
自己診断　E-077 刈高さセンサ左 センサ信号異常	自己診断　E-077 刈高さ自動を切に			

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 異常内容 ⟷ 処置内容		異常内容	処置	参照ページ
自己診断 E-083 モンロ左センサ異常 水平自動を切に	---	水平制御がはたらきません。	水平操作手動スイッチで機体を最下降位置にし，作業を続けてください。 水平自動スイッチを**【切】**にしてください。	26, 27
自己診断 E-084 モンロ右センサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-085 ローリングセンサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-072 リール位置センサ センサ信号異常	---			
自己診断 E-092 アンローダ上限 センサ信号異常	自己診断 E-092 アンローダ 手動操作のみ可	アンローダ自動旋回制御がはたらきません。	アンローダ手動スイッチで作業を続けて行なうことができます。	33, 34
自己診断 E-093 アンローダ位置 センサ信号異常	自己診断 E-093 アンローダ 手動操作のみ可			
自己診断 E-101 刈高さダイヤル センサ信号異常	自己診断 E-101 刈高さ自動を切に	刈高さの調節が行なえません。	作業を続けて行なうことができますが，刈高さに注意してください。	9, 29
自己診断 E-102 リールダイヤル センサ信号異常	自己診断 E-102 車速自動を切に	リール速度の調整が行なえません。	作業を続けて行なうことができますが，リール自動スイッチを**【切】**にしてリール速度に注意してください。	14
自己診断 E-103 選別板ダイヤル センサ信号異常	---	選別板の調節ができません。	作業を続けて行なうことができますが，選別やロスには注意してください。	-
自己診断 E-120 脱こく SW異常	---	脱こくクラッチレバースイッチが故障しています。	作業を続けて行なうことができますが，１番，２番スクリュ，こぎ胴，チョッパに詰まりが発生しても２番の詰まり警報が鳴りませんので注意してください。	-

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 異常内容 ⟷ 処置内容		異常内容	処置	参照ページ
自己診断 E-236 アンローダ モータ作動異常 自己診断 E-237 アンローダ モータ作動異常	---	アンローダブレーキがはたらきません。	周囲の安全を確認の上, 作業を続けてください。	-
自己診断 E-193	---	後退灯が点灯しません。	作業を続けて行なうことができますが, 購入先に連絡して処置してください。	242
自己診断 E-194	---	制動灯が点灯しません。		

各部の開閉と脱着のしかた

警　告

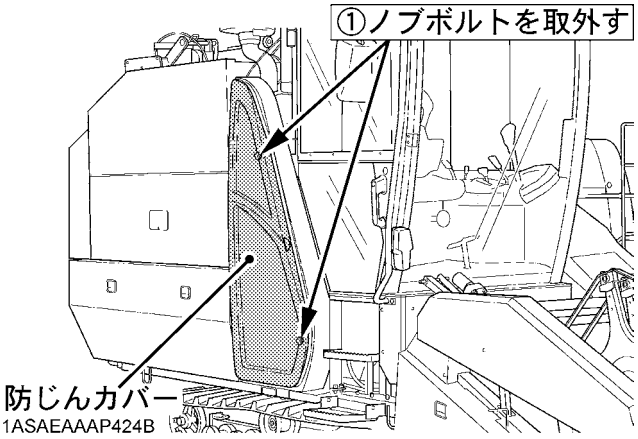
- **＊ 平たんで安全な場所で，機械の移動や各部を動かすとき以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- **＊ 傾斜地では，開閉や脱着を行なわないでください。**
- **＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

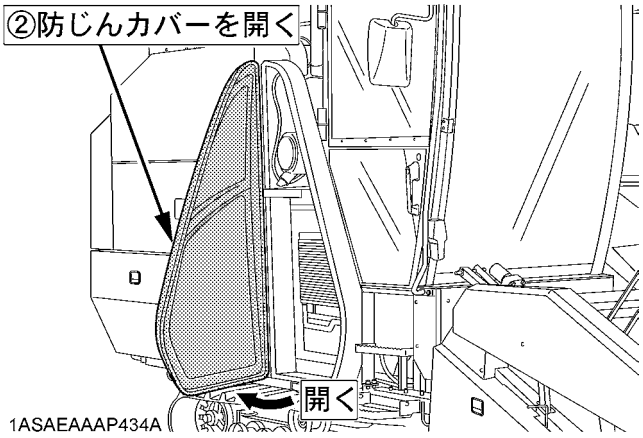
■防じんカバーの開閉と脱着

● 防じんカバーの開閉

◆開きかた

ノブボルトを取外して防じんカバーを開いてください。





重　要

＊ 防じんカバーの網の部分を押すと網が変形します。

◆ 閉じかた

防じんカバーを完全にロックするまで閉じてください。

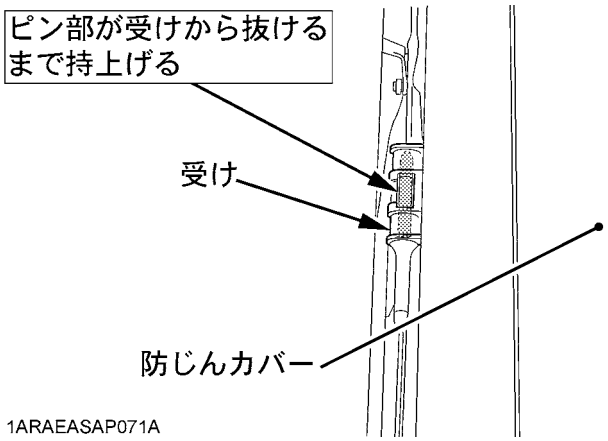
重　要

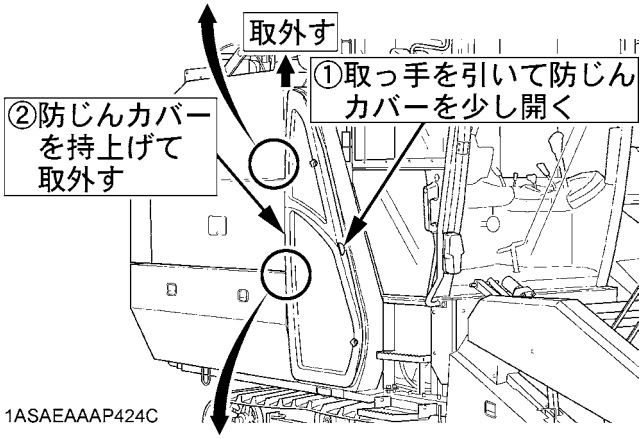
＊ 防じんカバーにノブボルトを取付けていない状態で走行すると，防じんカバーが開いて障害物に接触して破損するおそれがあります。

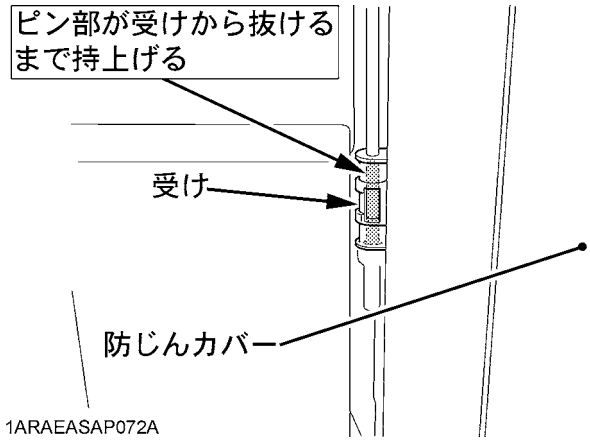
● **防じんカバーの脱着**

◆ **取外しかた**

ノブボルトを取外して防じんカバーを開いた状態で，両手で持上げて取外します。







重　要

＊ 防じんカバーの網の部分を持つと網が変形します。

◆ **取付けかた**

取外したときと同じ位置で，防じんカバーの上下の受けをピン部に差込んで取付けたあと，防じんカバーにノブボルトを取付けます。

■運転席下カバー及びステップゴムカバーの脱着

警　告

＊ 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊ エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

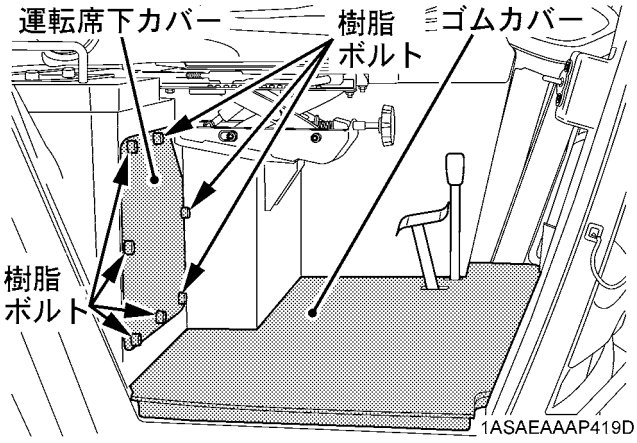
◆ **取外しかた**

● **ステップゴムカバー**

ゴムカバーをめくり上げて取外します。

● **運転席下カバー**

樹脂ボルトを取外し，カバーを外します。



◆ **取付けかた**

取外しかたと逆の手順で取付けます。

■リールサイドカバー・刈取左，右サイドカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

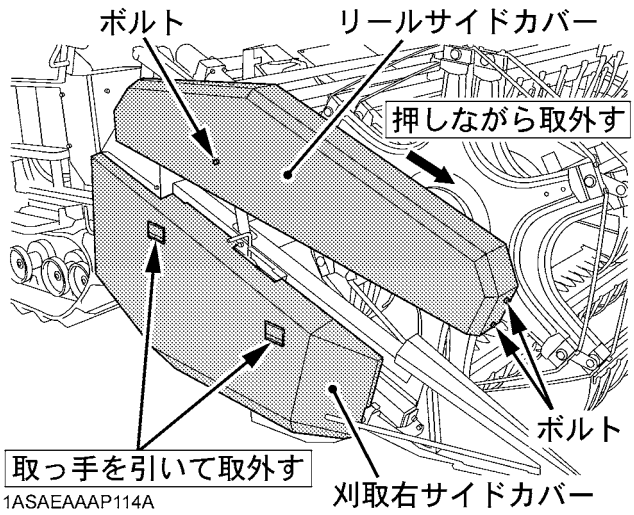
◆ 取外しかた

● リールサイドカバー

ボルトを取外したあと，リールサイドカバーを前方に押しながら取外してください。

● 刈取右サイドカバー

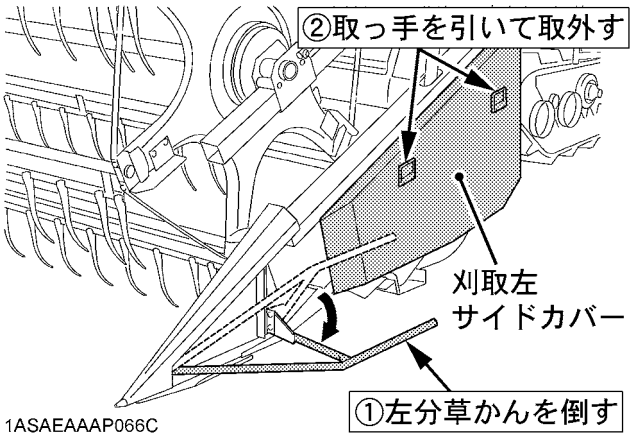
取っ手を引いて刈取右サイドカバーを取外してください。



1ASAEAAAP114A

● 刈取左サイドカバー

左分草かんを下側に倒したあと，取っ手を引いて刈取左サイドカバーを取外してください。



1ASAEAAAP066C

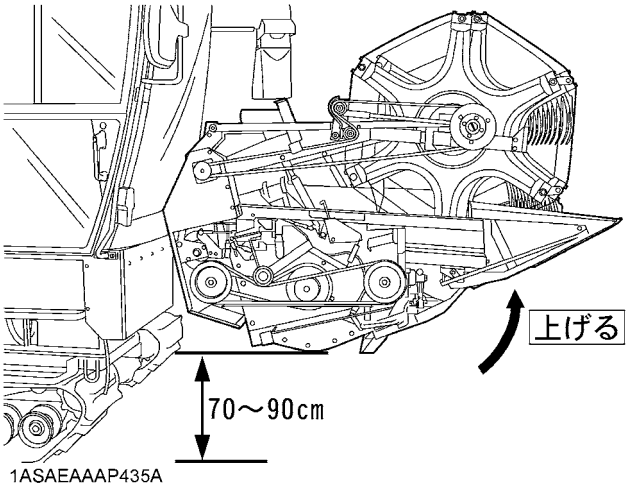
◆ 取付けかた

取外しの逆の手順で取付けます。

■刈取右サイド後部カバーの脱着

◆ 取外しかた

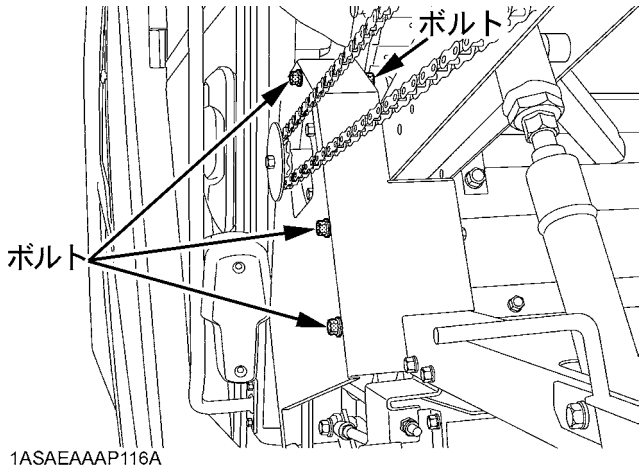
1. 刈取部を地面まで降ろしたあと，エンジンを止めます。
2. リールサイドカバー及び刈取右サイドカバーを取外します。
3. エンジンを始動したあと，パワーステアリングレバーを操作して刈取部を地面から 70 ～ 90cm 程度上昇させます。

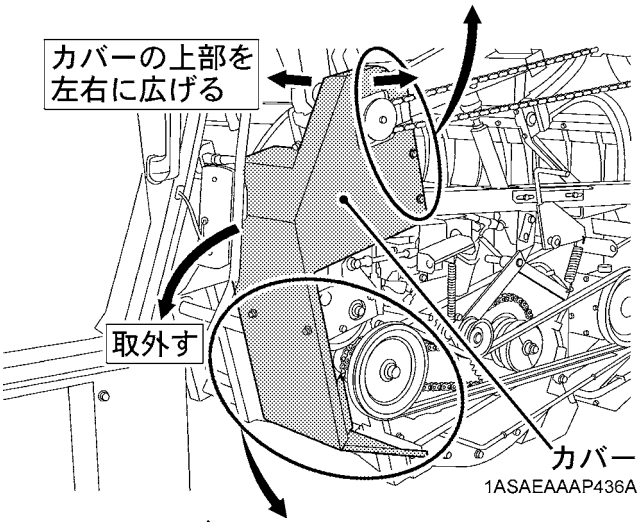


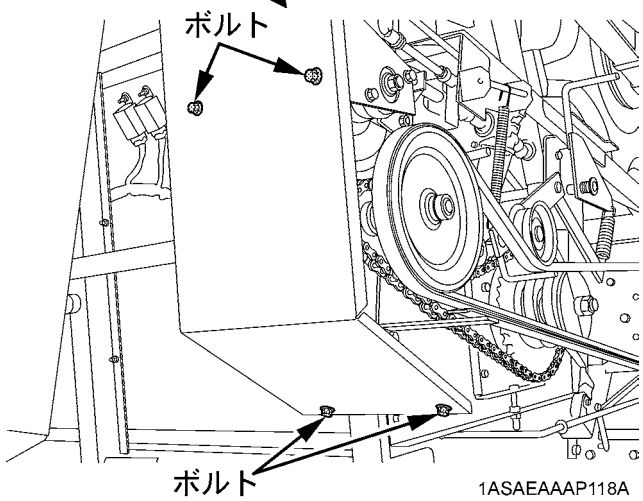
1ASAEAAAP435A

4. エンジンを停止したあと刈取・リール下降ロックスイッチを**【ロック】**位置にします。

5. ボルトを取外して刈取部右後部にあるカバーを取外します。取外すときは，カバー上部を左右に少し開いて手前に引下げながら取外します。







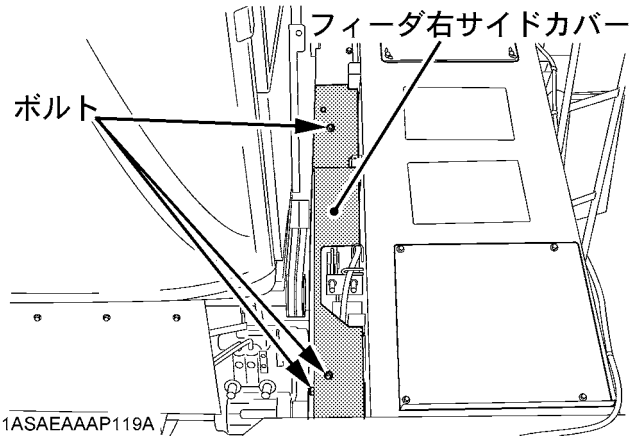
◆ 取付けかた

取外しの逆の手順で取付けます。

■フィーダ右サイドカバーの脱着

◆ 取外しかた

1. 刈取部を地面に着くまで降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. ボルトを取外してフィーダサイド右カバーを取外します。



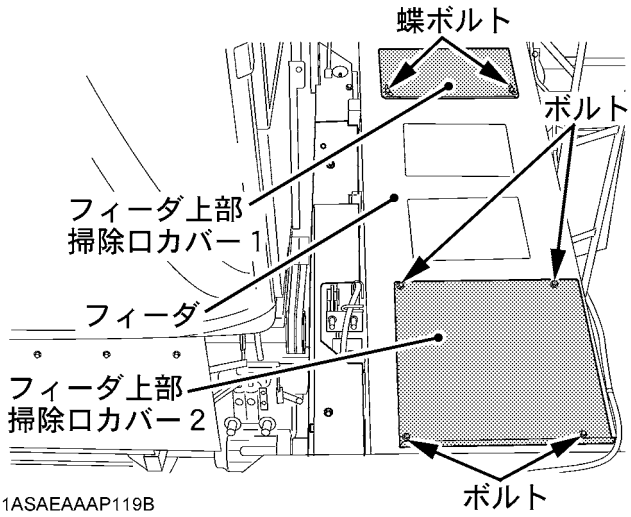
◆取付けかた

取外しかたと逆の手順で取付けます。

■フィーダ上部掃除口カバー 1，2 の脱着

◆ 取外しかた

1. 刈取部を地面に着くまで降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. ボルト又は，蝶ボルトを取外したあと，フィーダ上部掃除口カバー１，２を取外します。



1ASAEAAAP119B

◆取付けかた

取外しかたと逆の手順で取付けます。

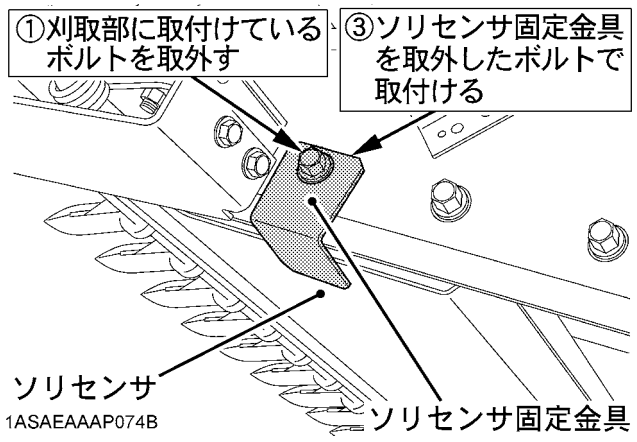
■ソリセンサ固定金具の脱着

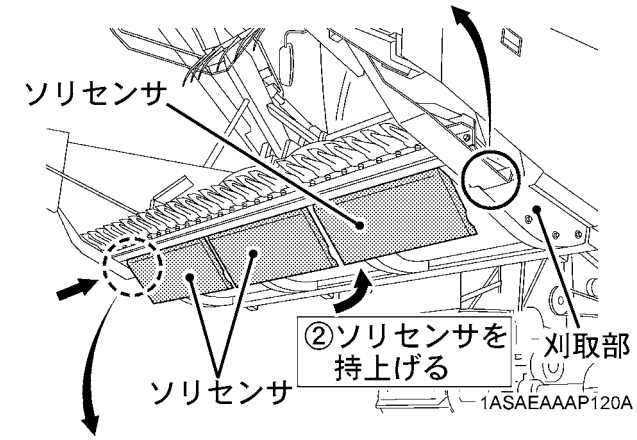
警 告

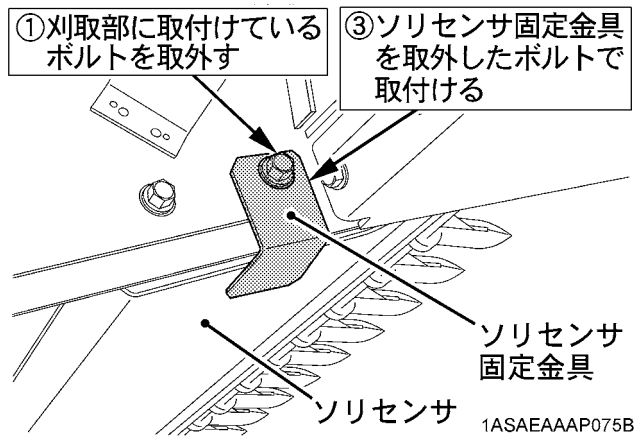
＊ 平たんで安全な場所で，刈取部の昇降操作以外はエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ ソリセンサ固定金具の脱着をするときは，刈取部を上げて，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして刈取部の下降防止を必ず行なってください。
＊ 共同作業を行なうときは，合図を掛け合ってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

ソリセンサを収納固定するときは，刈取部を上げてソリセンサ固定金具を刈取部に取付けてください。

◆ 取付けかた







◆ 取外しかた

取付けかたと逆の手順で取外してください。

補　足

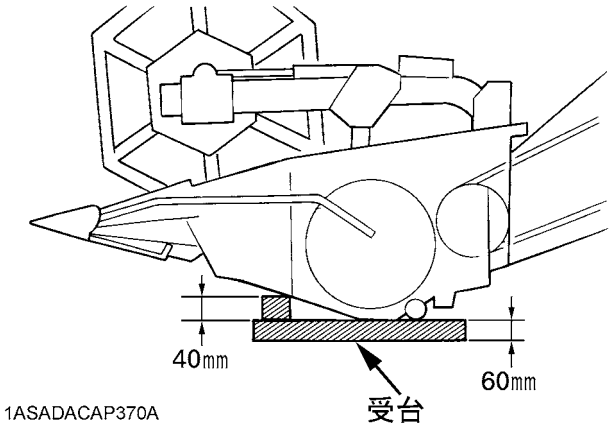
＊ 取外したボルトは元の取付穴に取付けてください。

■刈取部の脱着

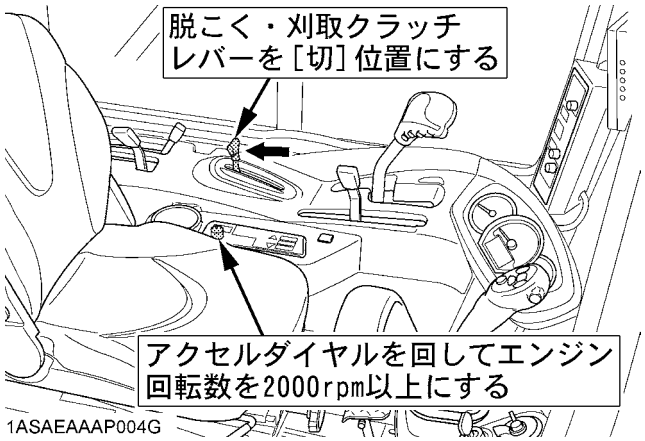
警　告

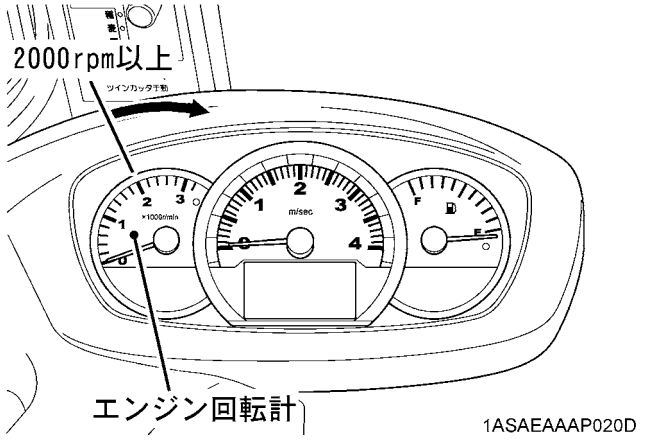
＊ 平たんで安全な場所で，刈取部の昇降操作以外はエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 傾斜地では，刈取部の脱着を行なわないでください。
＊ 刈取部の脱着をするときは，刈取部を上げて，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして刈取部の下降防止を必ず行なってください。
＊ 共同作業を行なうときは，合図を掛け合ってください。
＊ 刈取部を取外して坂道などの傾斜地を走行するときは，速度を落として上り方向は前進，下り方向は後進で行なってください。
＊ 脱着するときの速度は最低速度で行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

1. 刈取部を受台に降ろしたときの位置決めを行ないます。下図のような受台（角材や台車など）を準備して，刈取部をいったん降ろして，安定していることを確認します。(安定する位置になるまで行ないます。)

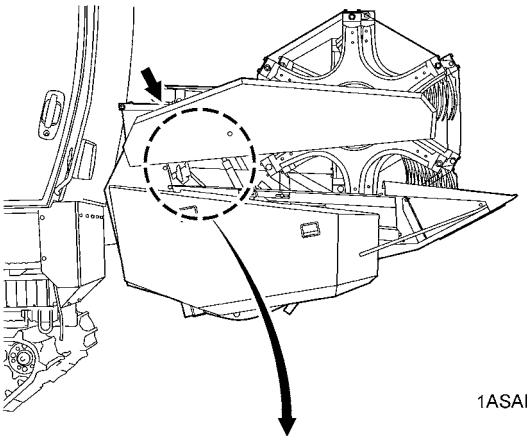


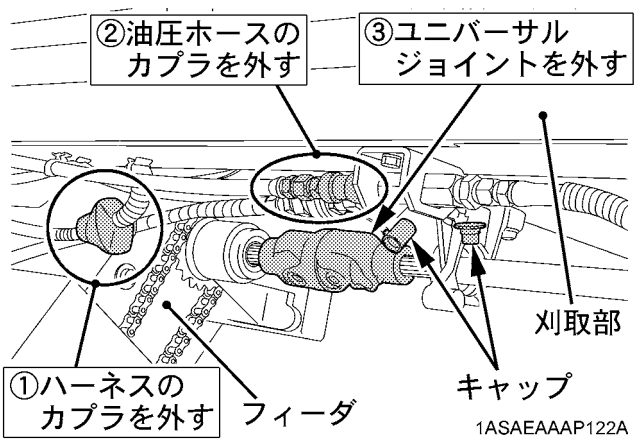
2. アクセルダイヤルを操作し，エンジン回転数を 2000rpm 以上にしたあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にします。

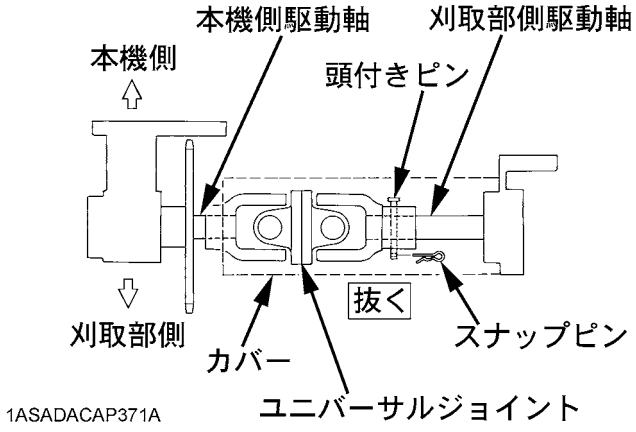




3. 刈取部を最上昇したあと，リールを最下降位置にし，刈取・リール下降ロックスイッチを**【ロック】**位置にします。
4. 刈取下降ロック金具を**【ロック】**位置にします。
5. エンジンを停止したあと，フィーダと刈取部接続部近くにあるハーネスのカプラ及び油圧ホースのカプラを取外します。
6. 油圧ホースの凹側，凸側にキャップを差込んだあと，油圧ホースをフィーダに乗せます。
7. 刈取部駆動用のユニバーサルジョイントを取外します。このとき頭付きピンとスナップピンを取外して，ユニバーサルジョイントを右側へスライドして抜取ります。

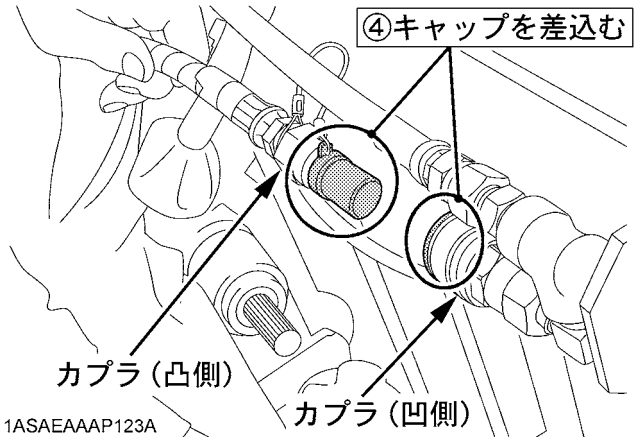


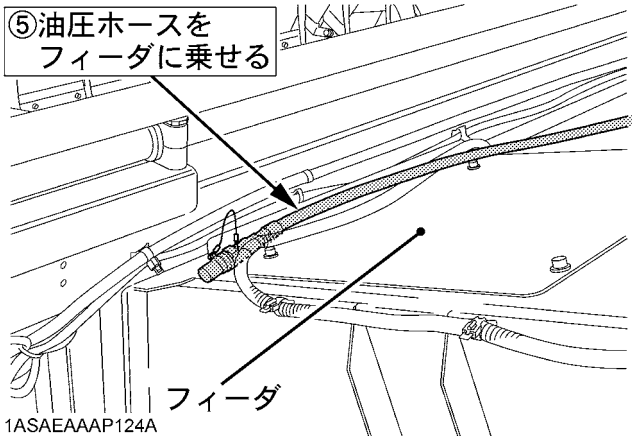




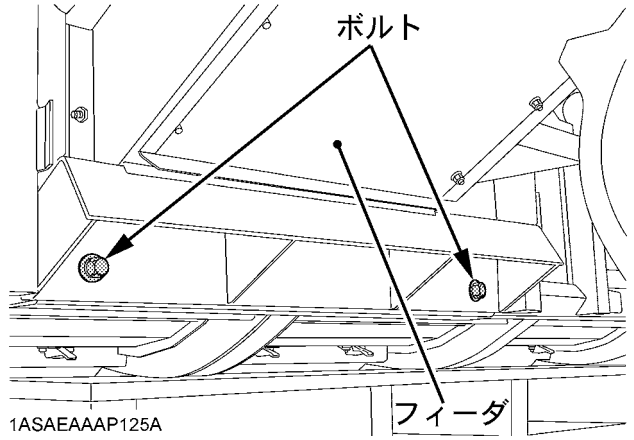
補　足

＊ 取外したユニバーサルジョイント，頭付きピンやスナップピンは大切に保管してください。





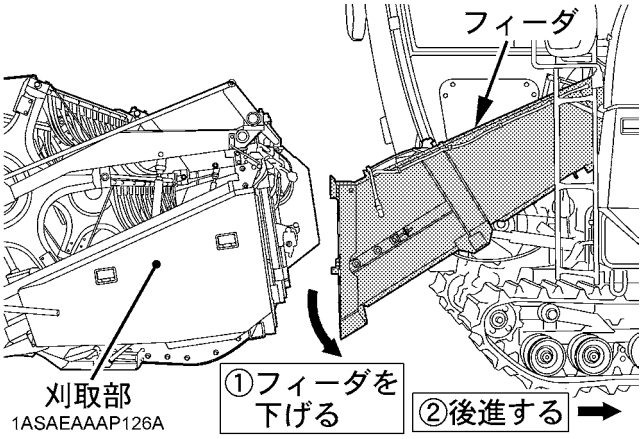
8. フィーダ下側のボルト２本を取外します。



補　足

＊ 取外したボルトや平座金は大切に保管してください。

9. 刈取部の下降ロック金具を昇降シリンダから外して，ロック解除位置に引っ掛けます。
10. エンジンを始動したあと，フィーダを下げて，機体を後退させます。

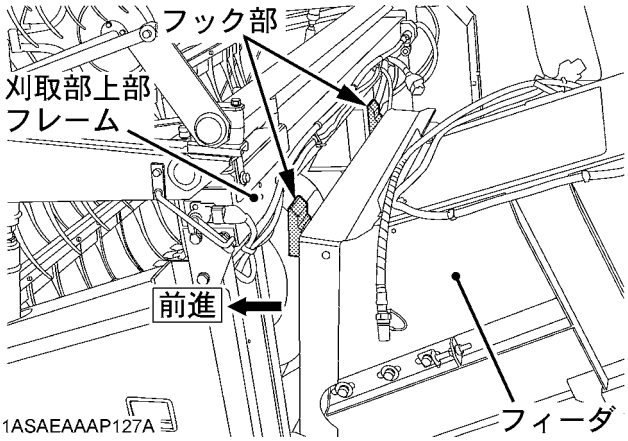


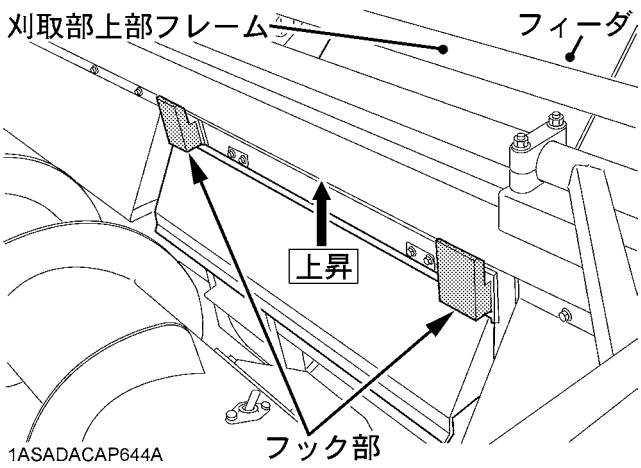
◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

補　足

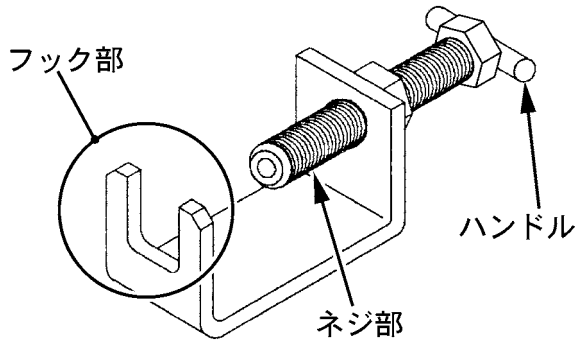
＊ 刈取部にフィーダを取付けるとき，フィーダのフック部を刈取部上部フレームの下側に位置合わせを行なって前進し，刈取部を上昇してください。





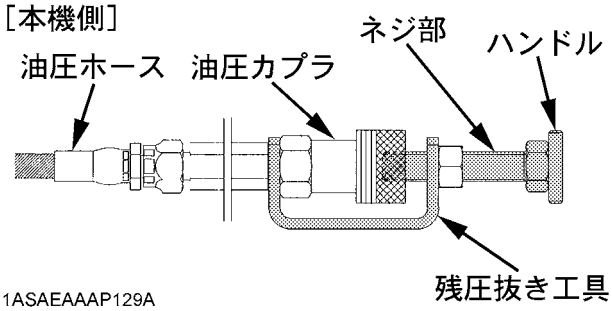
＊ 油圧ホースのカプラの装着が困難なときは，付属部品の残圧抜き工具を使用してください。使用するときは，本機側又は，刈取部側のカプラに下図のようにセットし，ハンドルを締付け方向に回してください。

［残圧抜き工具］



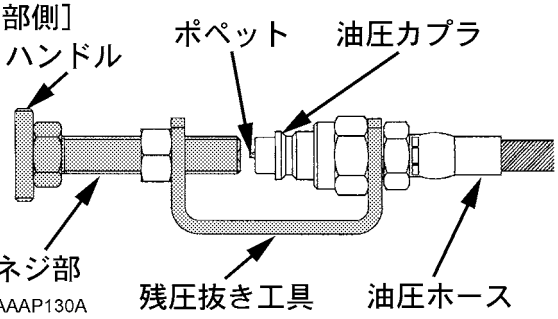
1ASAEAAAP128A

［本機側］



1ASAEAAAP129A

［刈取部側］



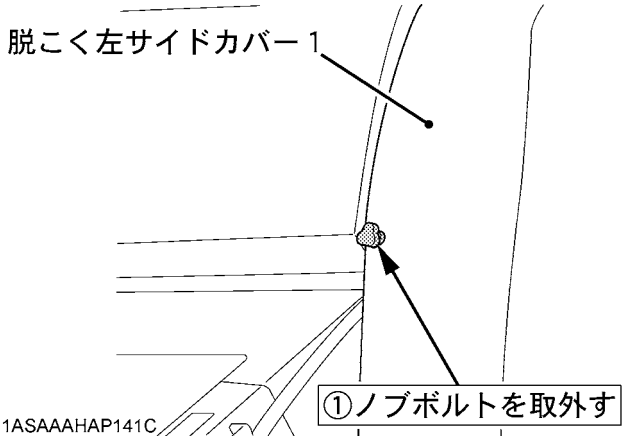
1ASAEAAAP130A

＊ オイルが飛散する可能性があるので，作業時はウエスなどでオイルの飛散を防ぎながら作業を行なってください。
＊ 刈取部側カプラのポペット部を押したままにしておくと，オイルが漏れ続けるので，作業終了時は速やかに圧抜き工具を取外してください。

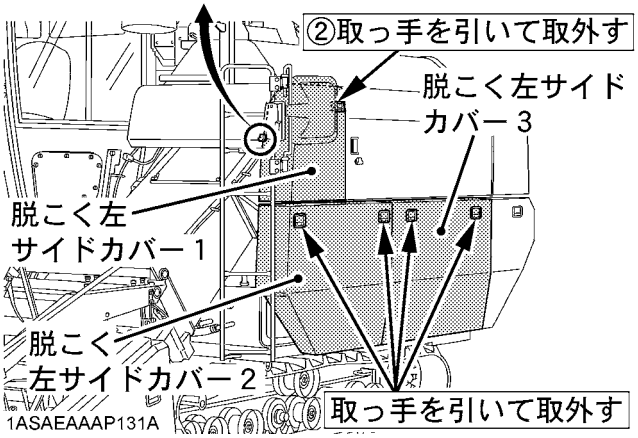
■脱こく左サイドカバー 1，2，3・排じんサイドカバー上，下の脱着

◆ 取外しかた

● 脱こく左サイドカバー 1，2，3

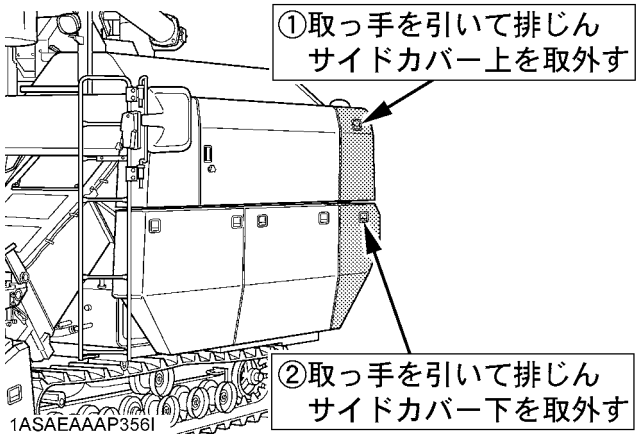


1ASAAAHAP141C



1ASAEAAAP131A

● 排じんサイドカバー上，下



1ASAEAAAP356I

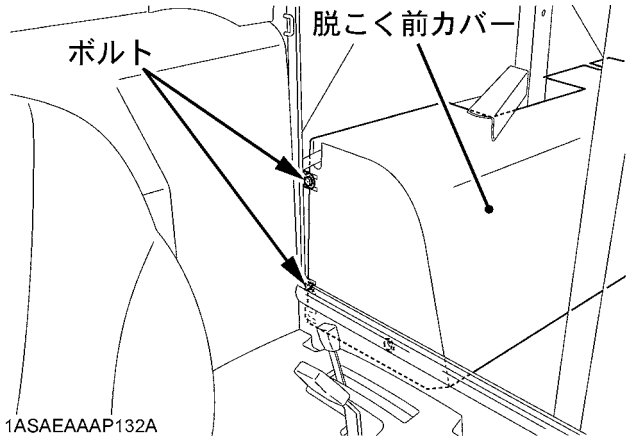
補　足

＊ 排じんサイドカバーが取外せないため，排じんサイドカバーは上から取外してください。

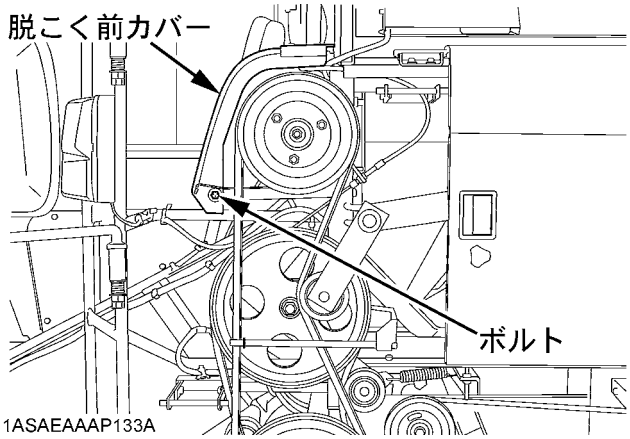
■脱こく前カバーの脱着

◆ 取外しかた

1. 刈取部を地面に着くまで降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. 脱こく前カバーの右側にあるボルト２本を取外します。



3. 脱こく左サイドカバー１を取外します。(139ページ参照)
4. 脱こく前カバーの左側のボルトを取外して，脱こく前カバーを取外します。



◆ 取付けかた

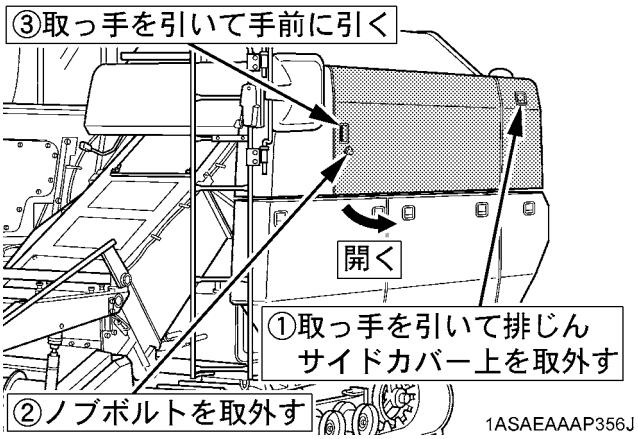
取外しかたと逆の手順で取付けます。

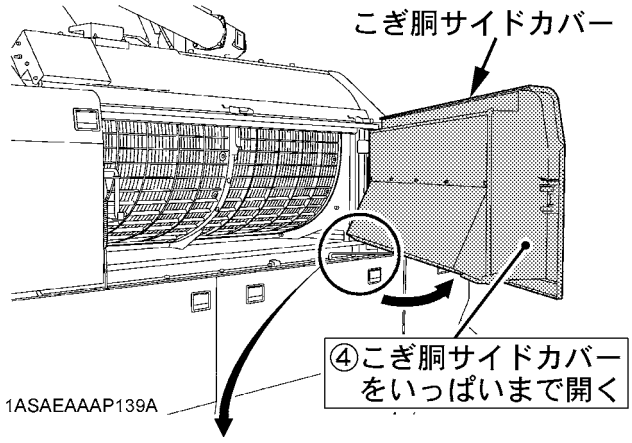
■こぎ胴サイドカバーの開閉

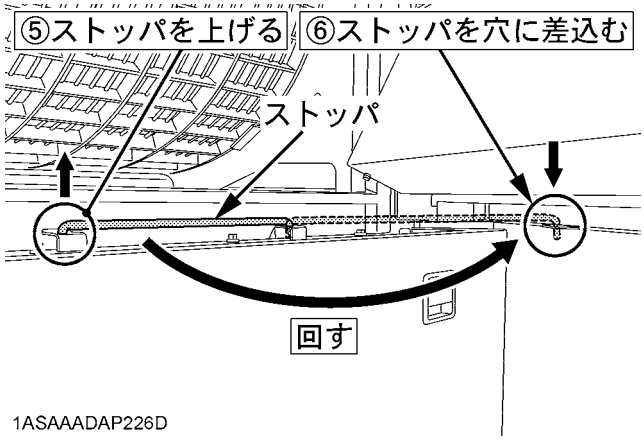
警　告

- **＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- **＊ こぎ胴サイドカバーを開いた状態で走行をしないでください。**
- **＊ 傾斜地では，こぎ胴サイドカバーの開閉をしないでください。**
- **＊ こぎ胴サイドカバーの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **＊ こぎ胴サイドカバーを開いたときは，ストッパを必ず掛けてください。**
- **＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

◆ 開きかた







◆ 閉じかた

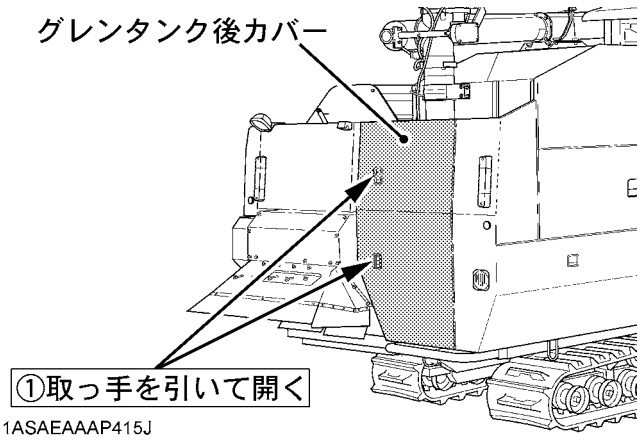
開きかたと逆の手順で閉じます。

■グレンタンク後カバーの開閉

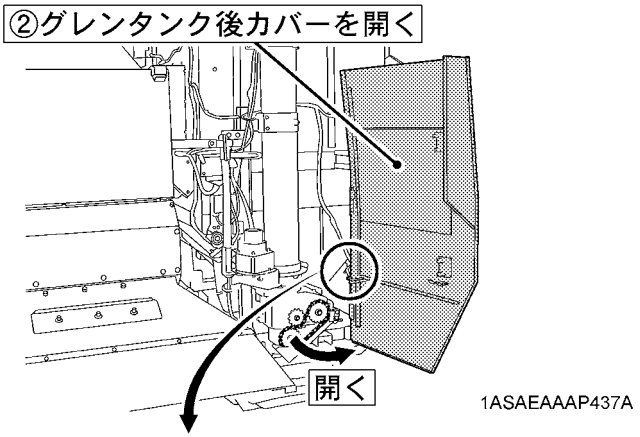
警　告

- **＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- **＊ グレンタンク後カバーを開いた状態で走行をしないでください。**
- **＊ 傾斜地では，グレンタンク後カバーの開閉をしないでください。**
- **＊ グレンタンク後カバーを開いたときは，ストッパを必ず掛けてください。**

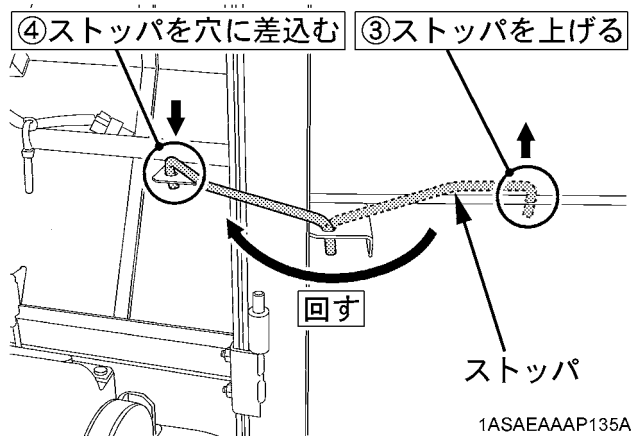
◆ 開きかた



1ASAEAAAP415J



1ASAEAAAP437A



1ASAEAAAP135A

◆ 閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

補　足

＊ グレンタンク後カバーは，少し開いた状態で持上げると取外すことができます。

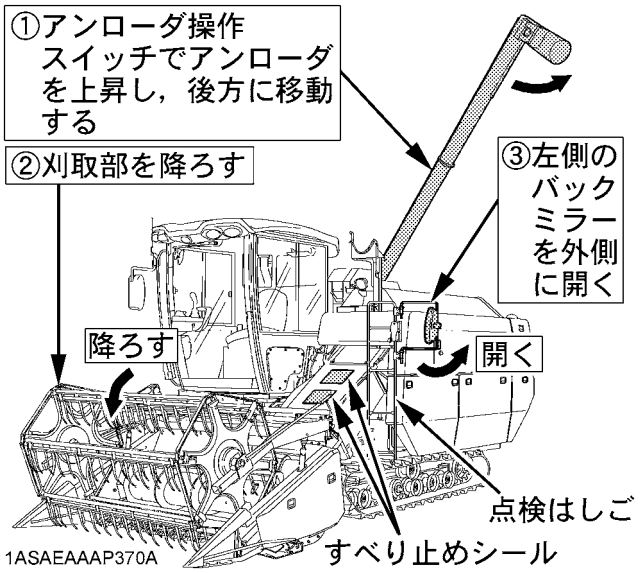
■こぎ胴上部カバーの開閉

警　告

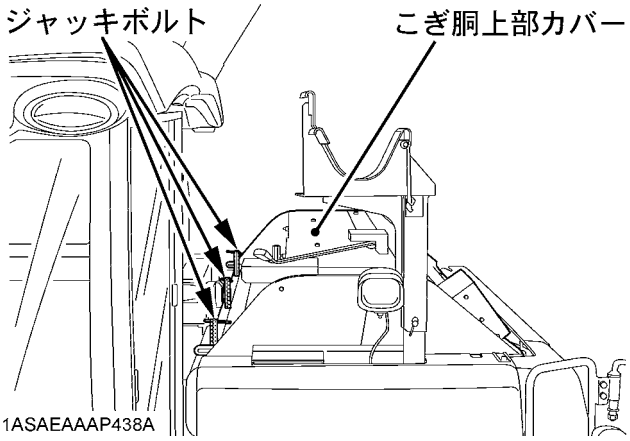
＊ 平たんで安全な場所で，こぎ胴上部カバーの開閉を行なうときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ こぎ胴上部カバーを開いた状態で走行しないでください。
＊ 傾斜地では，こぎ胴上部カバーの開閉は行なわないでください。
＊ こぎ胴上部カバーを開閉するときは，平たんで安全な場所で行なってください。
＊ エンジン停止直後は，こぎ胴上部カバーを開けないでください。惰性でこぎ胴が回転している場合があり，ケガをするおそれがあります。
＊ 手や指をはさまれてケガをするおそれがあるので，こぎ胴上部カバーはゆっくりと開閉してください。
＊ コンバインから転落をするおそれがありますので，点検用はしごやフィーダへの登り降りやこぎ胴上部カバーを持上げるときは，足元がすべらないように足元や作業姿勢にじゅうぶん注意してください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

◆ 開きかた

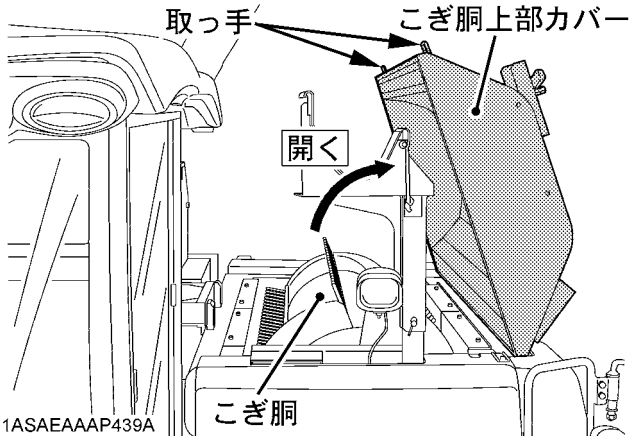
1. アンローダを上昇し，後方に移動したあと，刈取部を地面に着くまで降ろします。
2. エンジンを停止したあと，左側のバックミラーを外側に開いて点検はしごを使ってフィーダのすべり止めシール部に渡り，こぎ胴上部へ上ります。



3. こぎ胴上部カバーを固定しているジャッキボルトを取外します。



4. こぎ胴上部カバーの取っ手を持上げて開きます。



補　足

＊ こぎ胴上部カバーはいっぱいまで上げてください。

◆ 閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

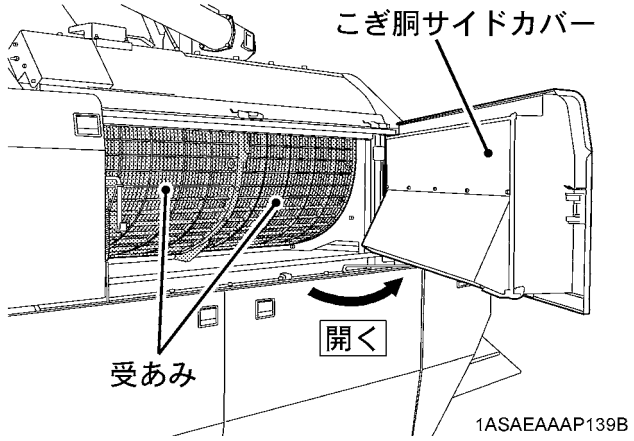
■受けあみの脱着

警　告

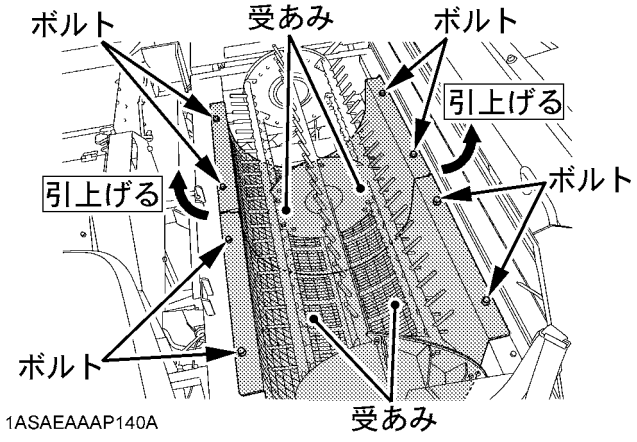
＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 手や指をはさまれてケガをするおそれがあるので，受あみはゆっくりと取外し又は，取付けてください。
＊ コンバインから転落をするおそれがありますので，受あみを取外し又は，取付けるときは，足元がすべらないように足元や作業姿勢にじゅうぶん注意してください。
＊ 脱着作業は，合図を掛け合って２人以上で行なってください。

◆ 取外しかた

1. こぎ胴サイドカバーを開きます。
   (141 ページ参照)



2. こぎ胴上部カバーを開きます。(142 ページ参照)
3. ボルトを取外して受あみを上側に引上げて取外します。

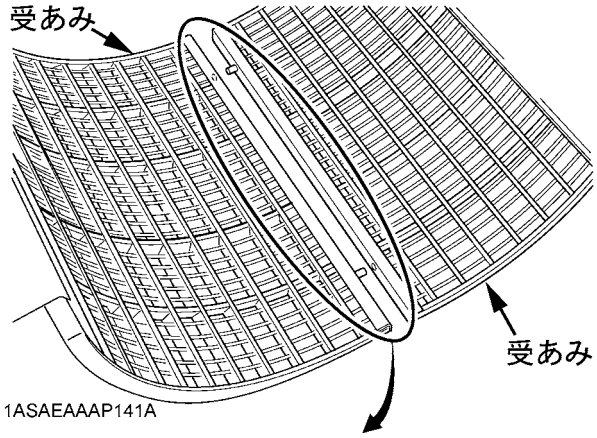


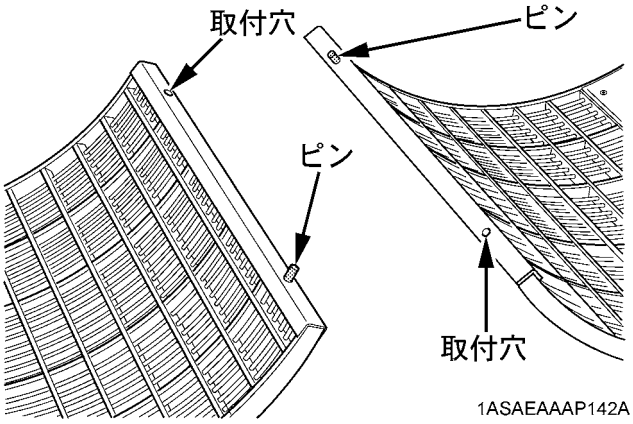
◆ 取付けかた

取外しかたと逆の手順で受けあみを取付けます。

補　足

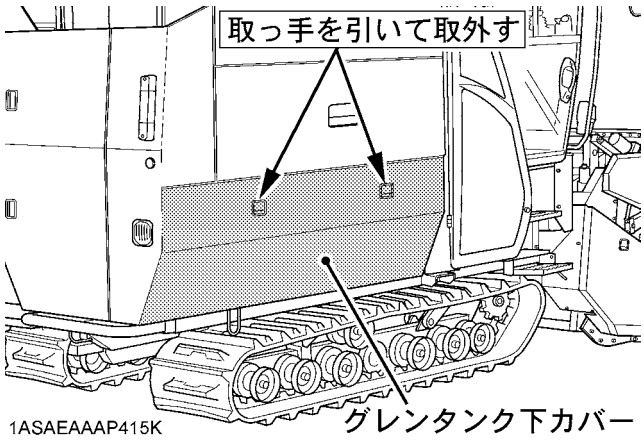
＊ 受あみは前側 2 個と後側 2 個はあみ目のサイズが異なりますので注意してください。
＊ 受あみの下側を組付けるとき，ピンを取付穴に差込んでください。





■グレンタンク下カバーの脱着

◆ 取外しかた



◆ 取付けかた

取外しかたと逆の手順で取付けます。

■グレンタンクの開閉

警 告

- **平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- **グレンタンクを開いた状態で走行しないでください。**
- **傾斜地では，グレンタンクの開閉を行なわないでください。**
- **グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **グレンタンク部を開いたときは，グレンタンク部が閉じないようにストッパを必ず掛けてください。グレンタンク部が閉じると体がはさまれてケガをするおそれがあります。**
- **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

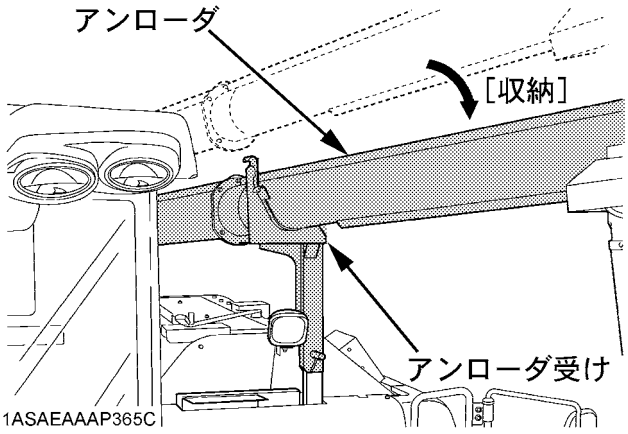
◆開きかた

1. グレンタンク内に残っているこく粒は，すべて排出します。(105 ページ参照)

重 要

＊ グレンタンク内にこく粒が残っている状態でグレンタンクを開くと，グレンタンクが破損するおそれがあるため必ずこく粒は全て排出してください。

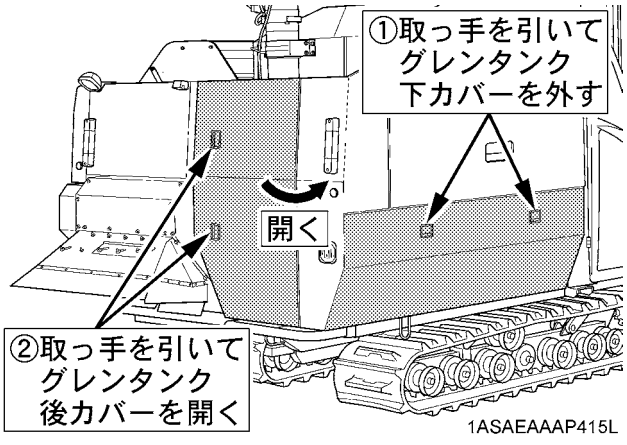
2. 主変速レバーを**【停止】**位置にしたあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にします。
3. アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。



重 要

＊ グレンタンクの開閉を行なうときは，アンローダを必ず収納位置にしてください。

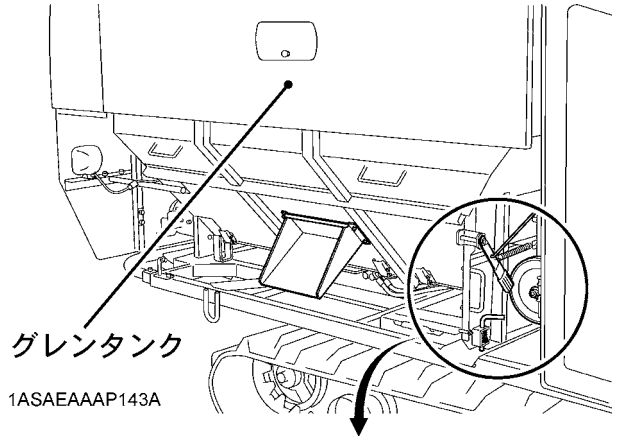
4. グレンタンク下カバーを取外したあと，グレンタンク後カバーを開きます。(145, 141 ページ参照))

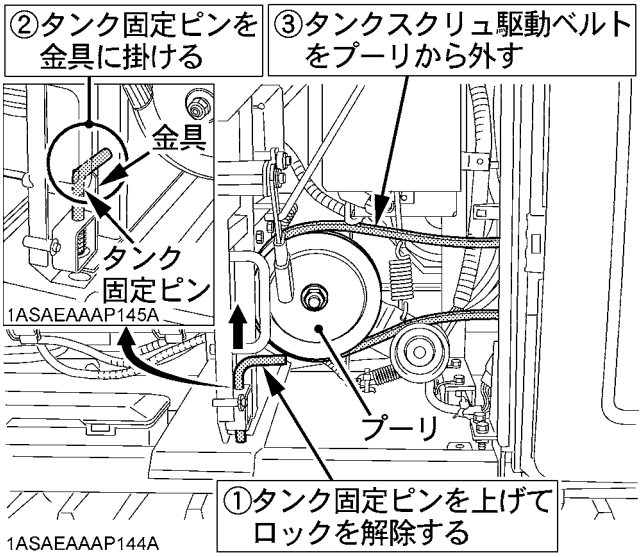


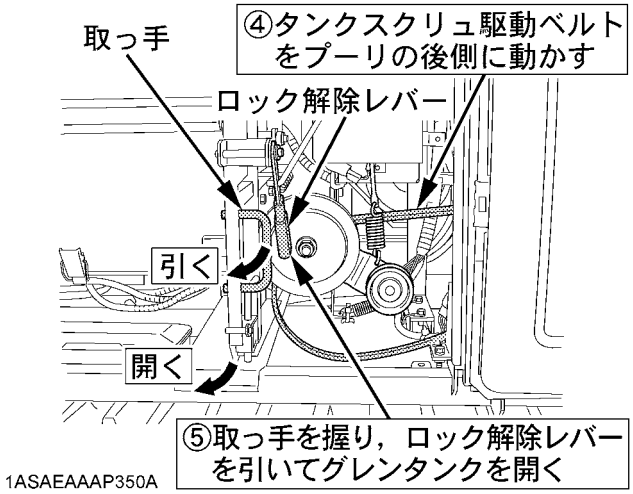
重 要

＊ グレンタンク後カバーを閉じた状態でグレンタンクを開くと，グレンタンク後カバーにグレンタンクが接触して，破損や変形するおそれがあります。

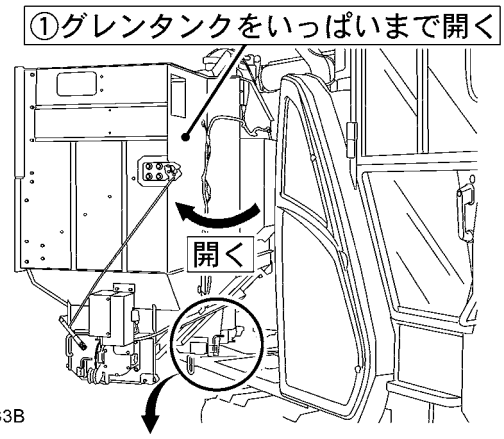
5. グレンタンクを開きます。

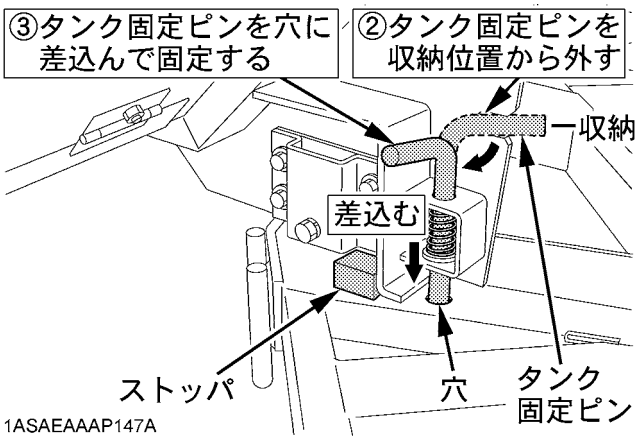






6. グレンタンクを固定します。

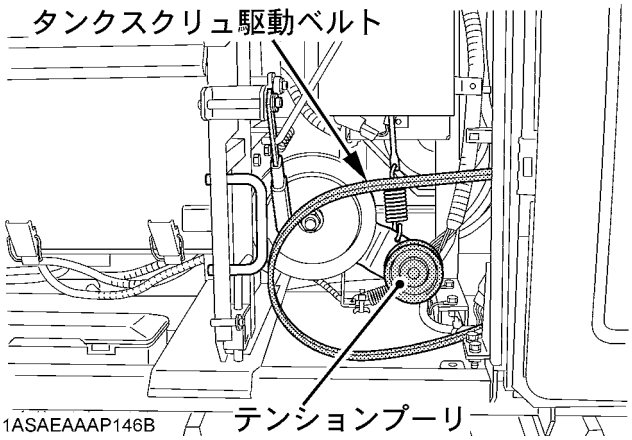




補　足

＊ グレンタンクを開いたとき，ストッパに当たった位置が**全開状態**です。

＊ グレンタンクを開くとき，タンクスクリュ駆動ベルトがテンションプーリに接触しないようにしてください。

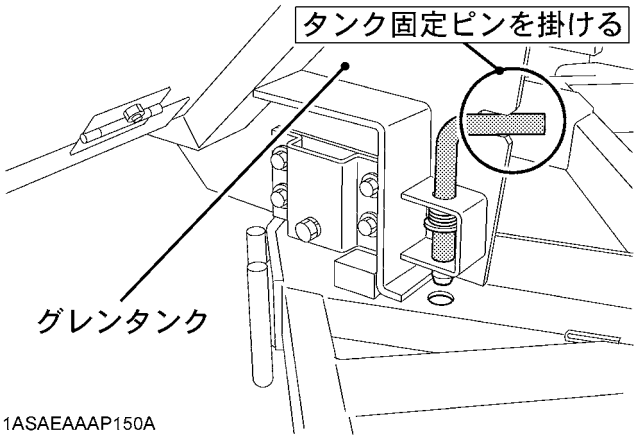


◆ 閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

補　足

＊ スクリュ駆動ベルトは確実に掛けてください。ベルトが掛かっていないと，こく粒を排出しません。
＊ グレンタンクを閉じるとき，タンク固定ピンを上げたあと，グレンタンクの切欠部にタンク固定ピンを掛けて収納してください。



1ASAEAAAP150A

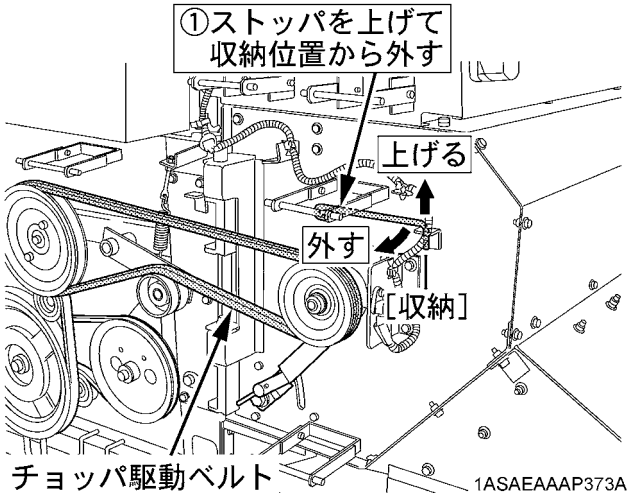
■チョッパ部の開閉

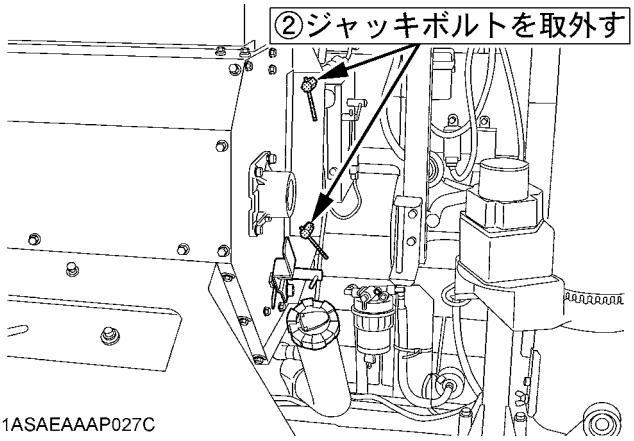
警　告

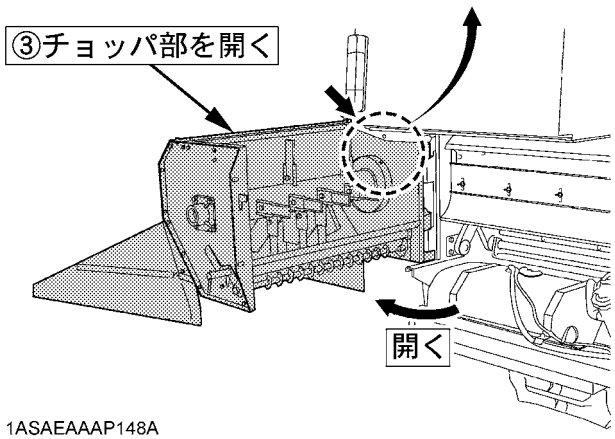
＊ チョッパ部を開いているときは，受刃，切断刃の刃先に注意してください。
＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ チョッパ部を開いた状態で走行をしないでください。
＊ 傾斜地では，チョッパ部の開閉をしないでください。
＊ チョッパ部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ チョッパ部を開いたときは，ストッパを必ず掛けてください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

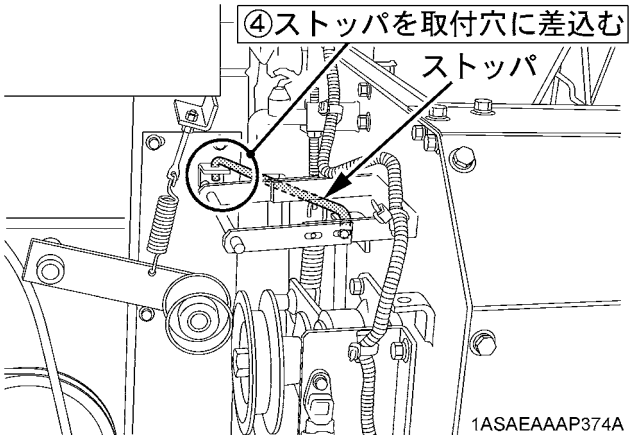
◆開きかた

1. グレンタンク後カバーを開きます。(141 ページ参照)
2. 排じんサイドカバー上，下，脱こく左サイドカバー３を取外します。(139 ページ参照)
3. チョッパ部を開きます。









重　要

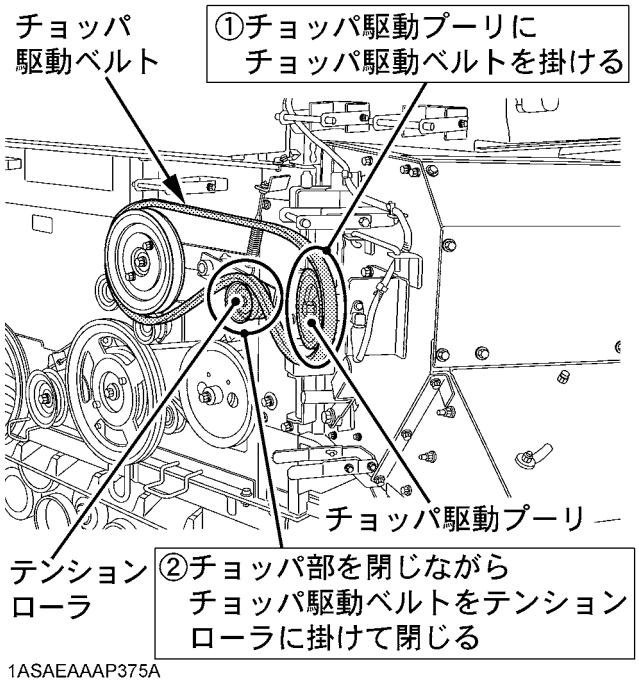
＊ チョッパ部を開きすぎないでください。開きすぎると，破損の原因となります。

◆ 閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

補　足

＊ チョッパを閉じる前に，チョッパ駆動ベルトを駆動プーリに掛け，閉じながらテンションローラに駆動ベルトを掛けて閉じてください。



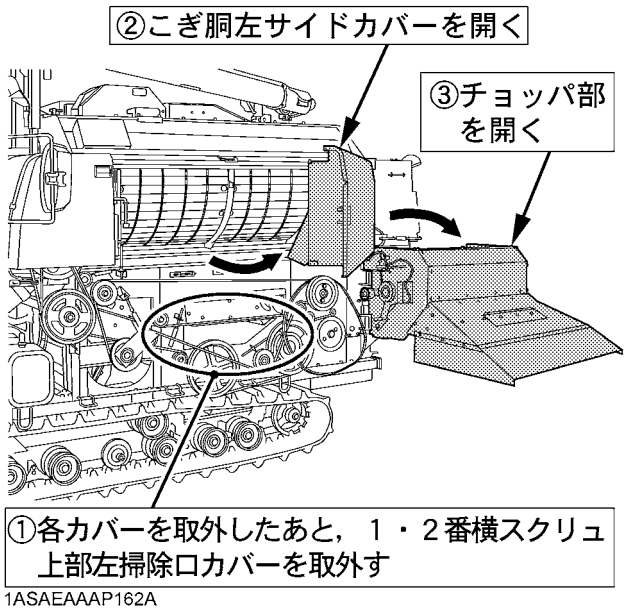
■シーブケースの脱着

警 告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 脱着作業は，合図を掛け合って２人以上で行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

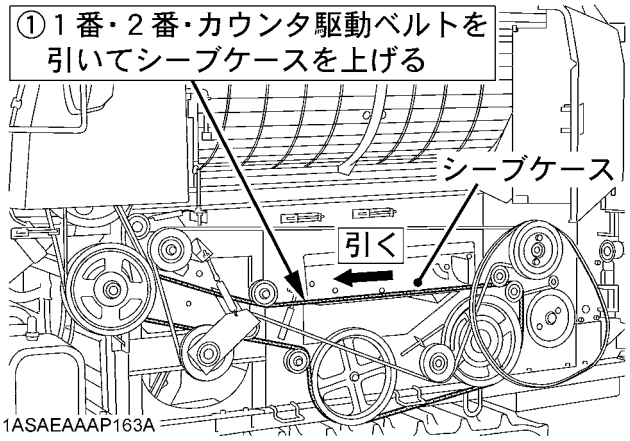
◆ 抜出しかた

1. 刈取部を地面に着くまで降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. 脱こく左サイドカバー１，２，３及び排じんサイドカバー上，下を取外します。(139 ページ参照)
3. 蝶ボルトを取外して，１・２番横スクリュ上部左掃除口カバーを取外します。
4. こぎ胴サイドカバーを開きます。(141 ページ参照)
5. チョッパ部を開きます。(147 ページ参照)

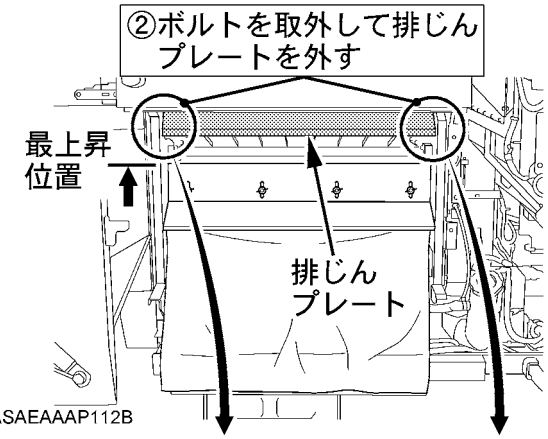


1ASAEAAAP162A

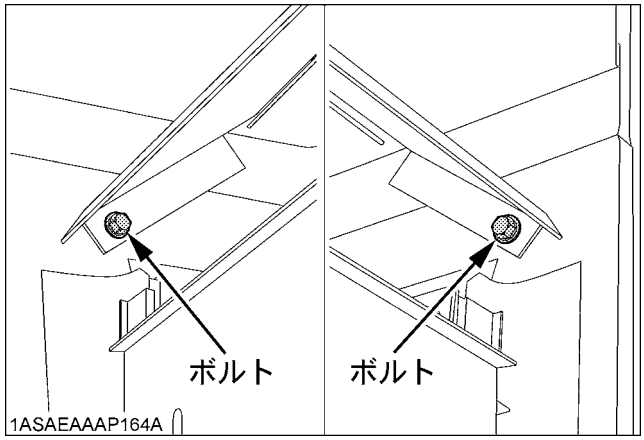
6. シーブケースを引出す準備をします。
   (1) シーブケースを**最上昇位置**にしたあと，ボルトを外して排じんプレートを取外します。



1ASAEAAAP163A

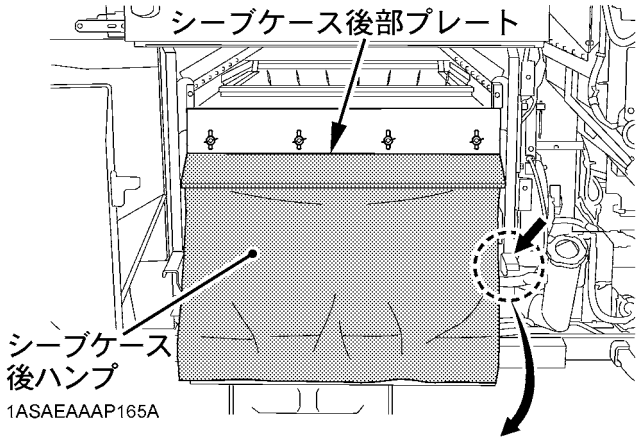


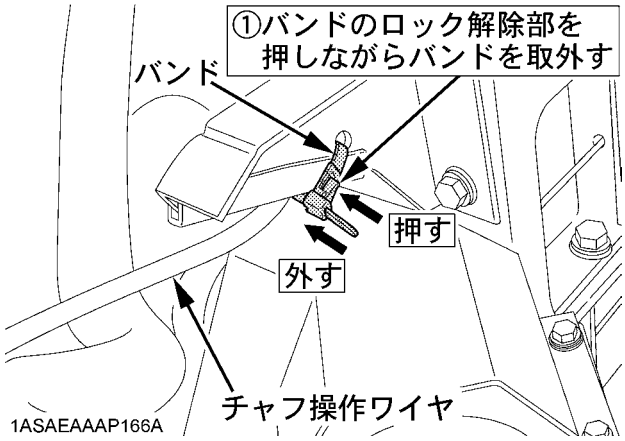
1ASAEAAAP112B

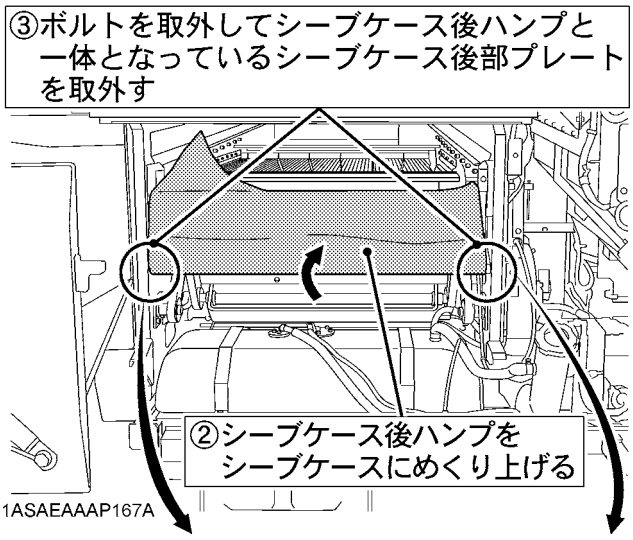


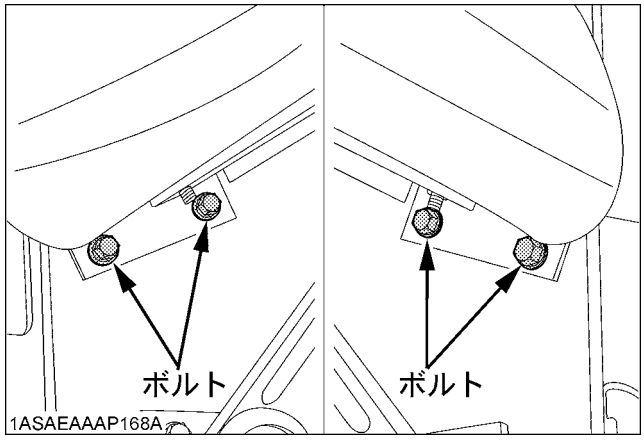
1ASAEAAAP164A

(2) ボルトを外してシーブケース後ハンプと一体となっているシーブケース後部プレートを取外します。

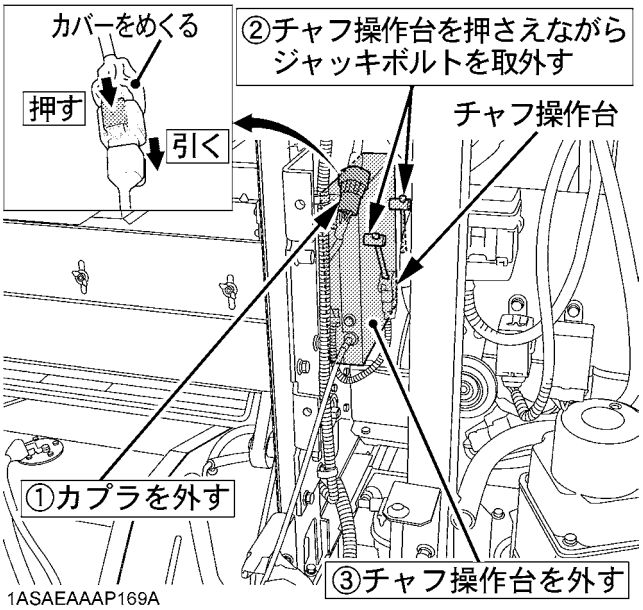




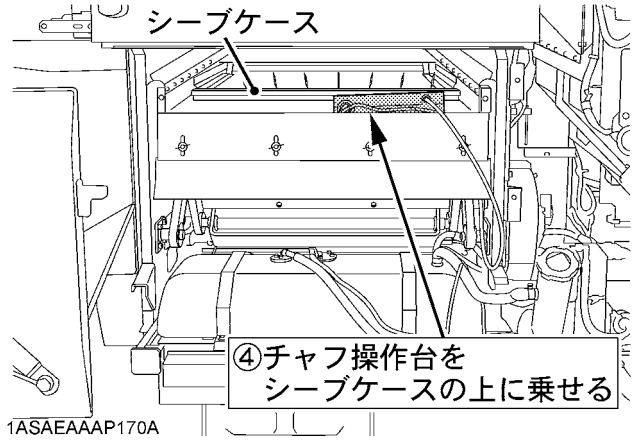




(3) チャフ操作台を取外したあと，シーブケースの上に乗せます。



1ASAEAAAP169A

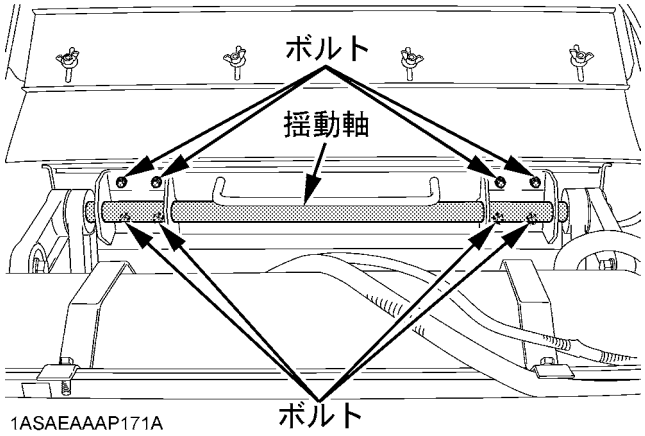


1ASAEAAAP170A

重　要

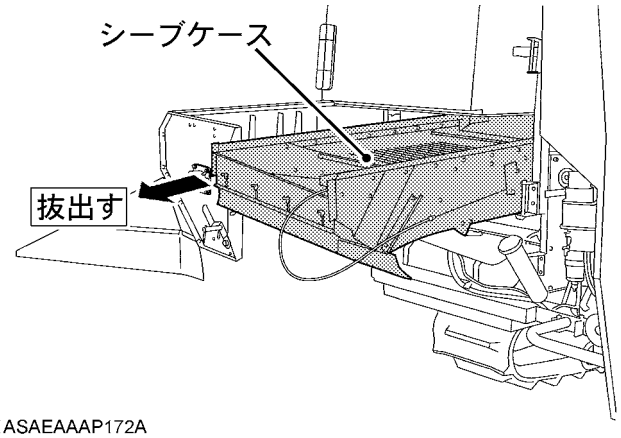
＊ チャフ操作台をシーブケースの上に乗せるとき，チャフ操作台を無理に引っ張らないでください。破損の原因となります。

(4) 揺動軸をシーブケースに固定しているボルトを取外します。



1ASAEAAAP171A

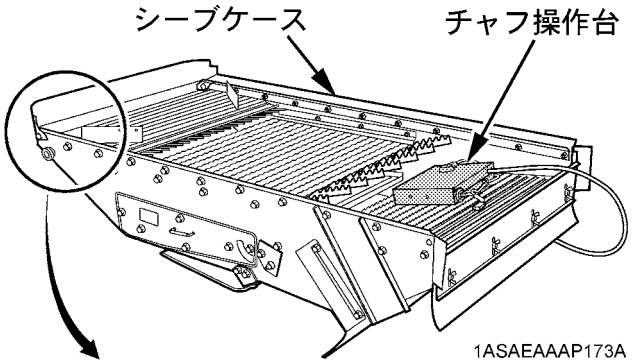
(5) 補助者を含めて３人以上でシーブケースを抜出します。



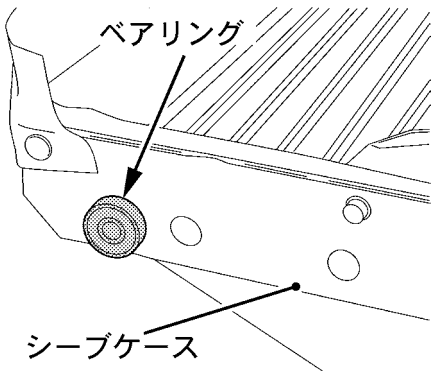
1ASAEAAAP172A

◆ 取付けかた

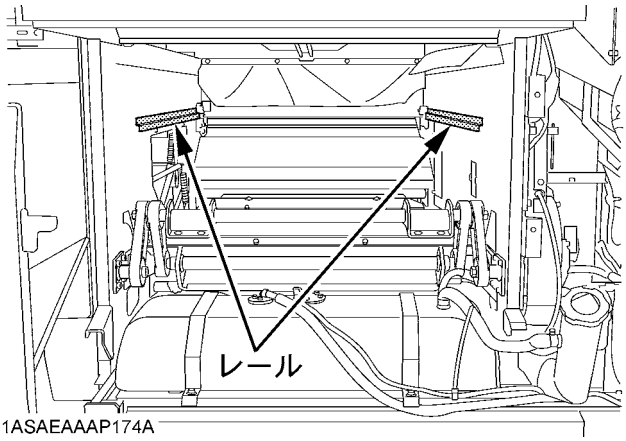
1. シーブケースの上にチャフ操作台を乗せます。
2. シーブケースの両サイドにあるベアリングをレールに乗せ，補助者を含めて３人以上でシーブケースをそう入します。



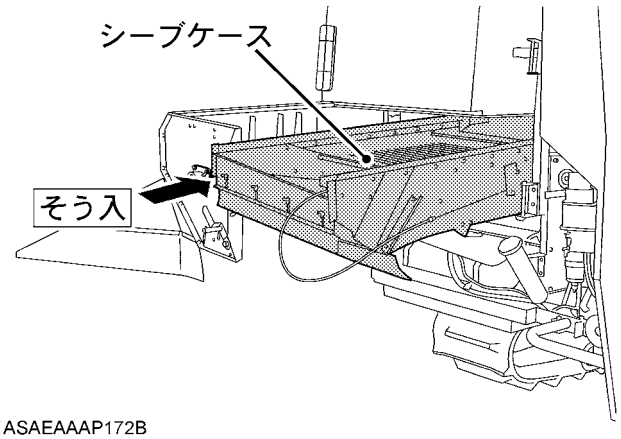
1ASAEAAAP173A



1ASAAAHAP188C



1ASAEAAAP174A



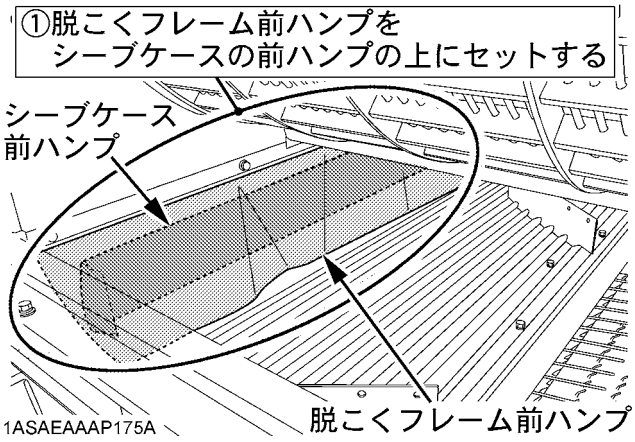
1ASAEAAAP172B

3. チャフ操作台を取外しと逆の手順で取付けます。

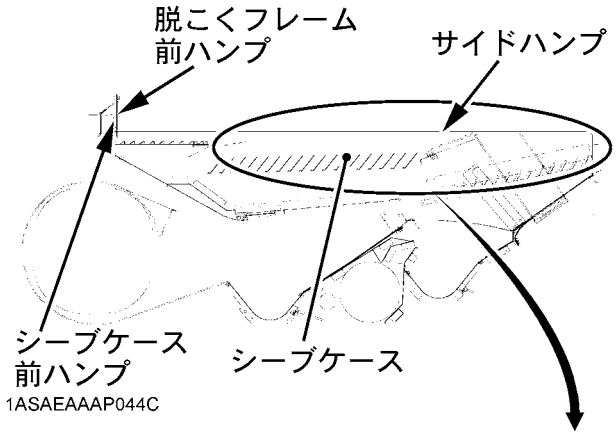
補　足

＊ チャフ操作台をジャッキボルトでしっかり取付けてください。
＊ カプラを確実にはめ込んでください。
＊ チャフ操作ワイヤをバンドで固定してください。

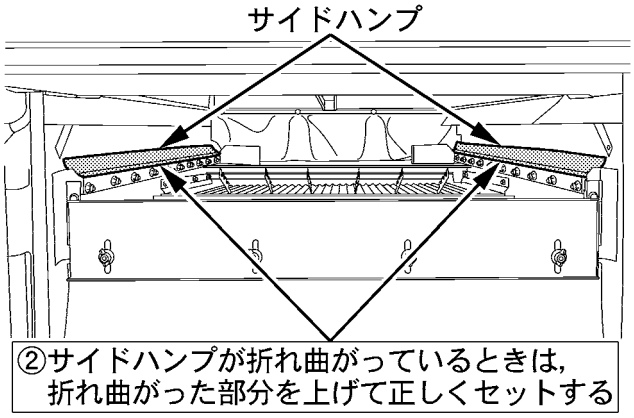
4. 各ハンプをセットします。
   (1) 脱こくフレーム前ハンプを前ハンプの後方に引出して，左右の端部に折れ曲りがないか確認し，正しくセットします。
   (2) サイドハンプの左，右は端部に折れ曲りがないか確認し，正しくセットします。



1ASAEAAAP175A

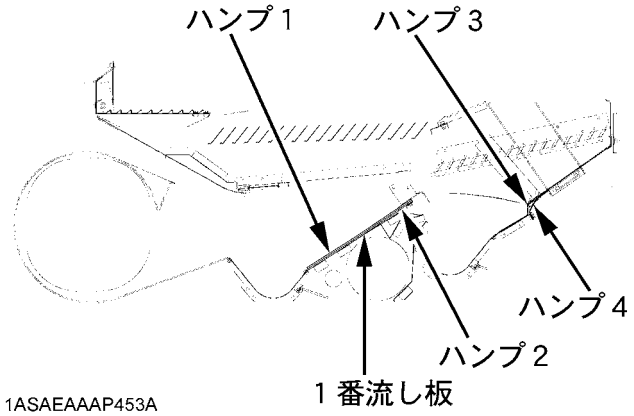


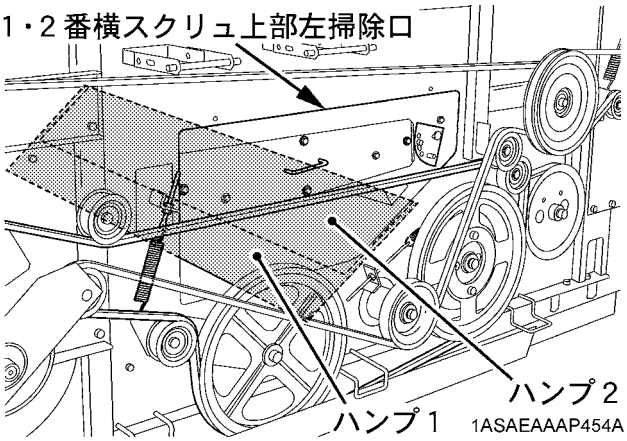
1ASAEAAAP044C

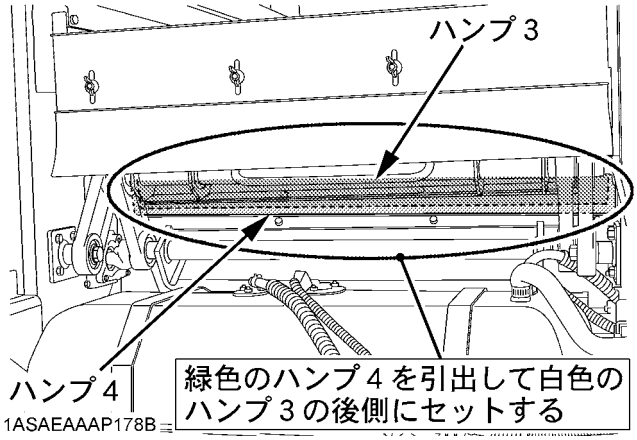


1ASAEAAAP176A

(3) ハンプ 1，2 は 1・2 番横スクリュ上部左掃除口から下図のように，1 番流し板に正しくセットします。
(4) ハンプ3はハンプ4の後方に引出してセットします。

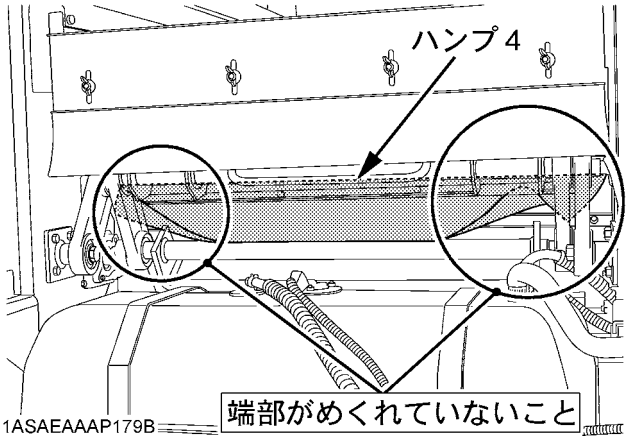




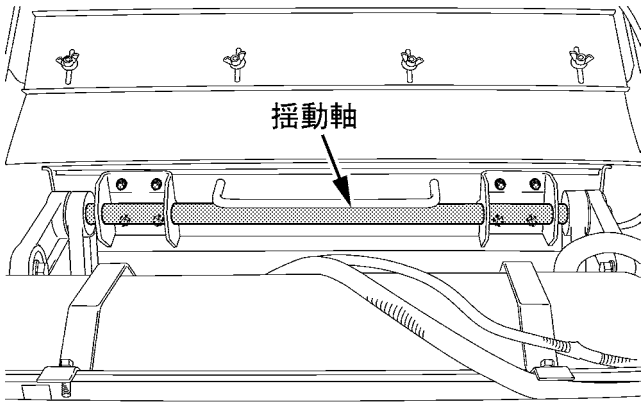


補　足

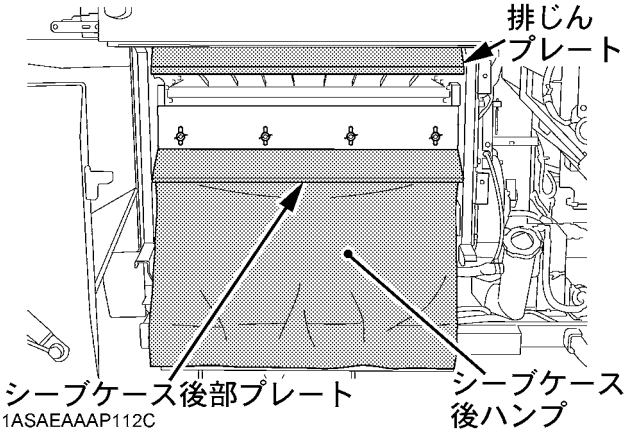
＊ ハンプ 4 はシーブケースの下側に正しくセットしてください。下図のように，ハンプ 4 の端部が垂れ下がっている状態で刈取作業を行なうと，こく粒がすき間から漏れ出してロスの原因となります。



5. 取外しかたと逆の手順で揺動軸にシーブケースの取付部を取付けたあと，排じんプレートと後ハンプと一体となっているシーブケース後部プレートを取付けます。



1ASAEAAAP171B



1ASAEAAAP112C

6. １・２番横スクリュ上部左掃除口カバーを取付けます。
7. チョッパ部を閉じたあと，こぎ胴サイドカバーを閉じます。
8. 排じんサイドカバー下を取付けたあと，排じんサイドカバー上を取付けます。
9. 脱こく左サイドカバー１，２，３を取付けます。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警 告

＊ エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 刈取部やリールを上げた状態で作業するときは，刈取部を上げて，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして刈取部の下降防止を必ず行なってください。
＊ 各搬送チェーンや刃部には注意してください。ケガをするおそれがあります。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊ 空運転するときには必ず各カバーを閉じてください。
＊ フィーダやこぎ胴上部に上がって作業を行なうときは，転倒・転落のおそれがありますので，足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。（クローラなどのゴム製品が劣化します）
＊ 刈刃の掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 取外したり，開いた回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

重　要

＊ 水洗いするときは，電装部品に水を掛けないでください。故障の原因になります。
＊ 取外したボルトやナットは，必ず締付けてください。トラブルの原因となります。

補　足

＊ 掃除したあと，こく粒が掃除口の中に残っていないことを確かめてから各カバーを閉じる又は，各カバーを取付けてください。
＊ 脱こく機の中をよく乾燥させてから掃除を行なってください。脱こく機の中が濡れているとこく粒が脱こく機の中に付着します。
＊ 湿田で作業したあとは，クローラ及び周辺の泥を必ず取除いてください。

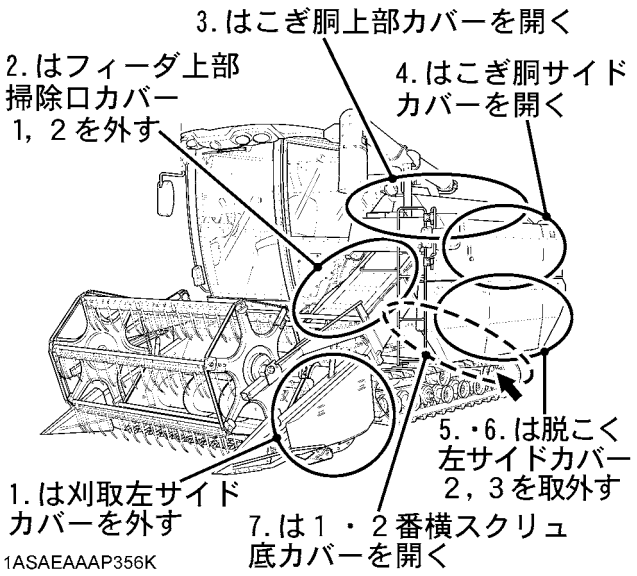
■各部の掃除

品種の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆ 掃除のしかた

刈取り作業が終わり，こく粒の排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，いったん機体各部を収納状態（87 ページ参照）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**[切]** 位置にしてエンジンを止めます。
掃除をするときは，各部の開閉部を開き，掃除口カバーを取外してください。

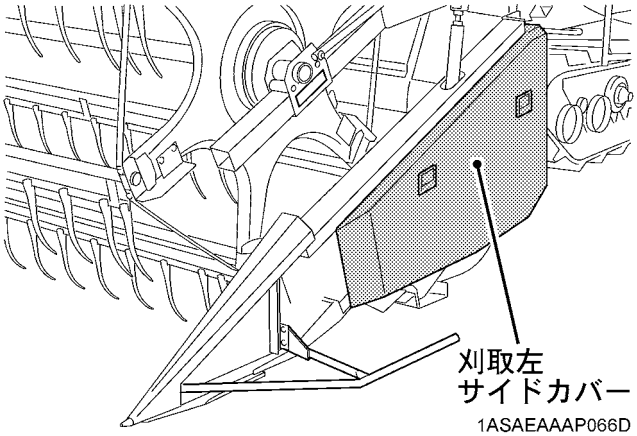
◆ 掃除箇所



1ASAEAAAP356K

1. 刈取左サイドカバー内

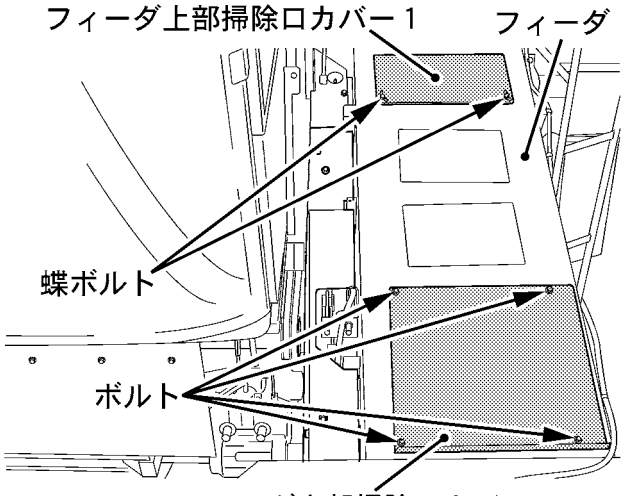
刈取左サイドカバーを取外して掃除してください（133 ページ参照）。掃除後は，刈取左サイドカバーを取付けてください。



1ASAEAAAP066D

2. フィーダ上部掃除口内

蝶ボルトを取外してフィーダ上部掃除口カバー１を取外したあと，ボルトを取外してフィーダ上部掃除口カバー２を取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。



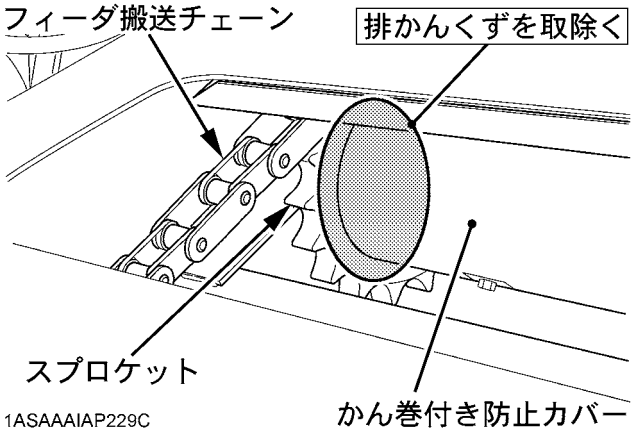
1ASAEAAAP119C

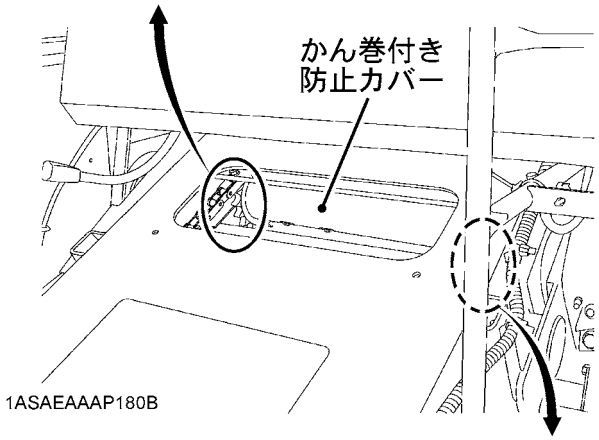
補　足

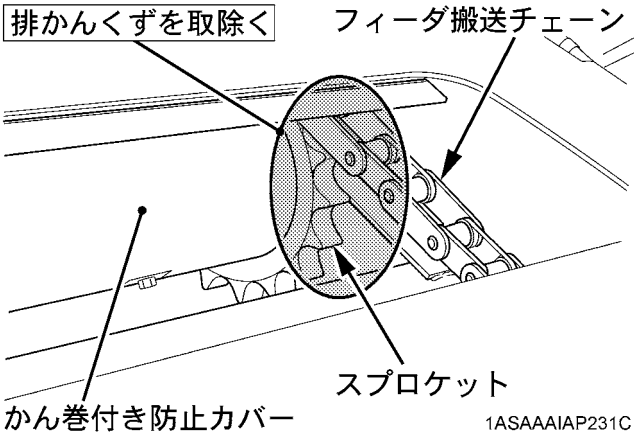
＊ 水分の高い作物や茎が青い状態の作物の刈取りを行なうと，フィーダ内部に作物のくずが溜まりやすいので，刈取作業が終わったあとは，毎日必ずフィーダ内の掃除を行なってください。

重　要

＊ かん巻付き防止カバーとスプロケットの間に排かんくずが巻込んで，フィーダ搬送チェーンが停止するおそれがあるため，刈取り作業が終わったあとは毎日必ず排かんくずを取除いてください。

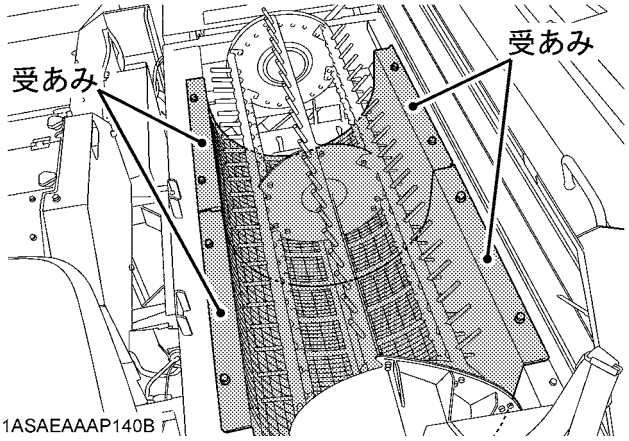






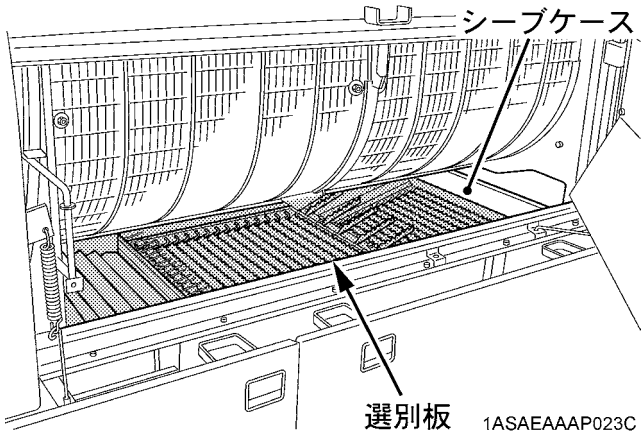
3. こぎ室内

こぎ胴上部カバーを開いたあと，受あみを取外して掃除してください（142，144 ページ参照）。掃除後は，受あみを取付けたあと，こぎ胴上部カバーを閉じてください。



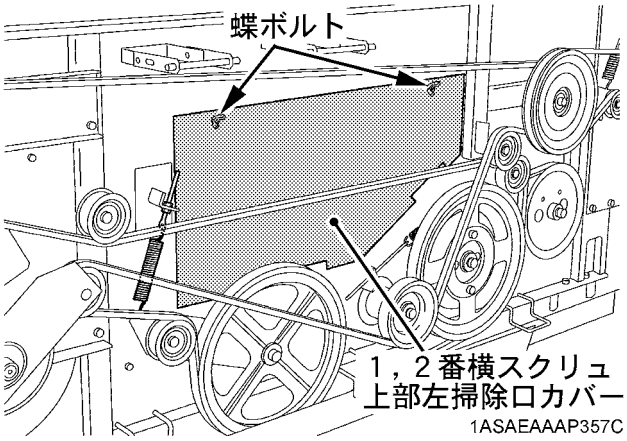
4. こぎ胴サイドカバー内（シーブケース選別板の上）

こぎ胴サイドカバーを開いて掃除してください（141 ページ参照）。掃除後は，こぎ胴サイドカバーを閉じてください。



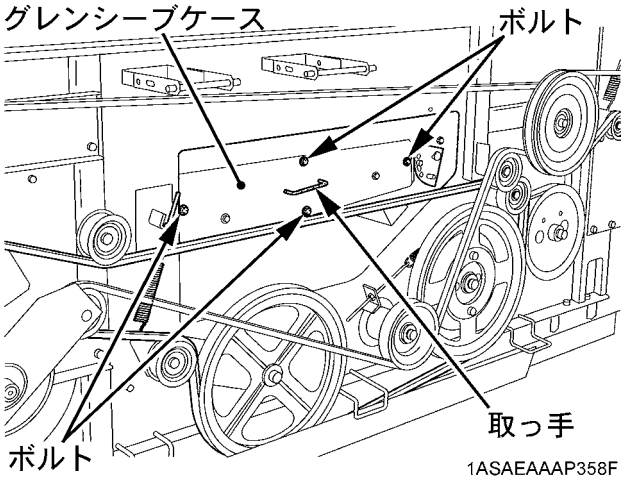
5. 1・2 番横スクリュ上部左掃除口内

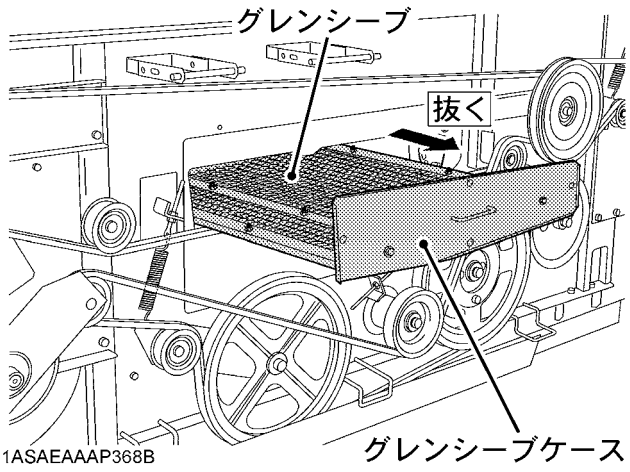
脱こく左サイドカバー2，3 を取外した（139 ページ参照）あと，蝶ボルトを取外し，1・2 番横スクリュ上部左掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けたあと，脱こく左サイドカバー 2，3 を取付けてください。



補　足

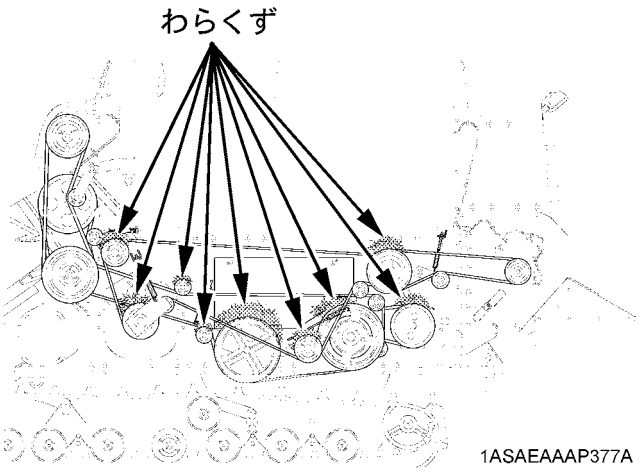
＊ 必要に応じてボルトを外し，取っ手を引いてグレンシーブケースを抜いて掃除を行なってください。





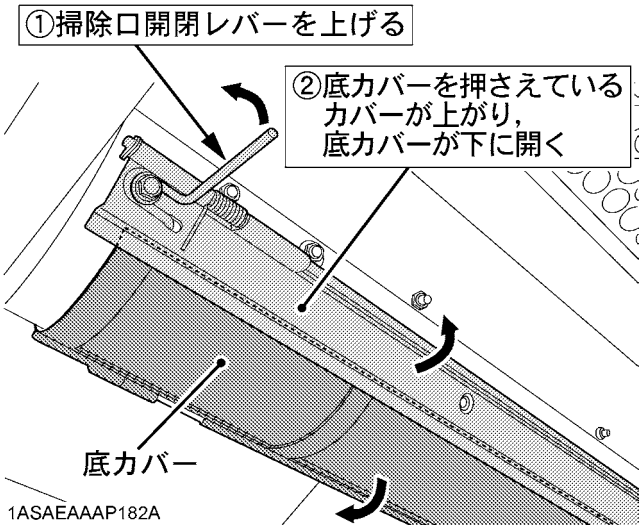
6. 脱こく左サイドカバー内

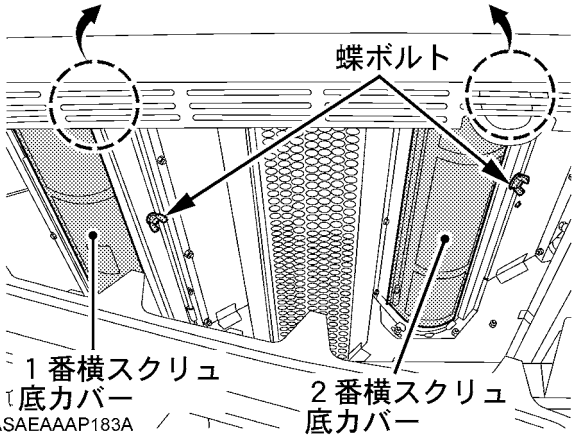
脱こく左サイドカバー１，２，３を取外して掃除してください（139 ページ参照）。掃除後は，脱こく左サイドカバー１，２，３を取付けてください。



7. １・２番横スクリュ下部掃除口

１・２番横スクリュ下部にある掃除口の底カバーの蝶ボルトを外し，掃除口開閉レバーを上げて底カバーを開いて掃除してください。掃除後は，底カバーを蝶ボルトで取付けてください。





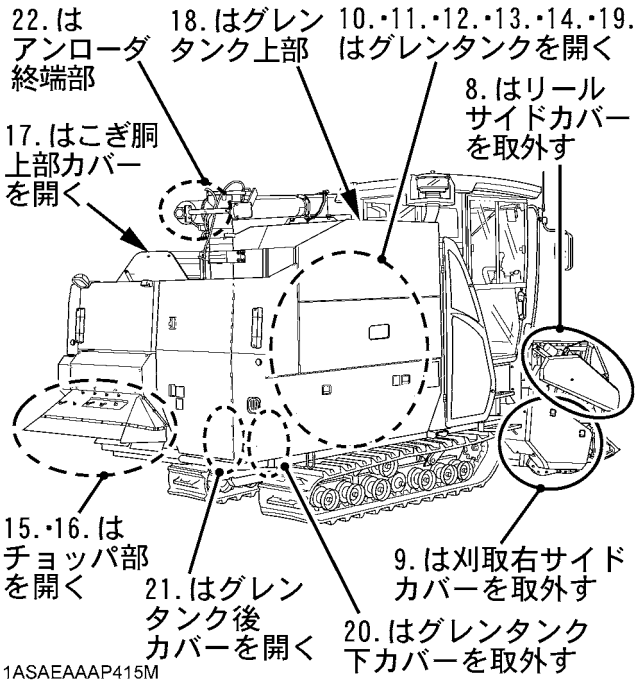
重　要

＊ 底カバーを閉じたあとは，蝶ボルトを必ず取付けてください。走行中に底カバーが開いて破損するおそれがあります。

補　足

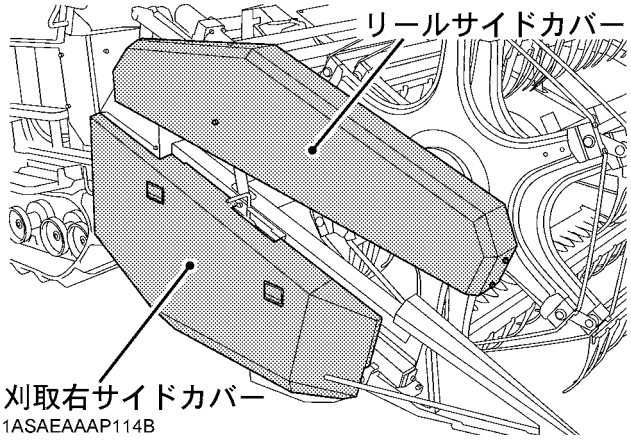
＊ 底カバーを閉じるときは，掃除口開閉レバーを上げた状態で，底カバーを上げて底カバーを固定してから蝶ボルトを締付けてください。

＊ クローラに付着している泥は取除いてください。底カバーに接触し，正常に開かなくなることがあります。



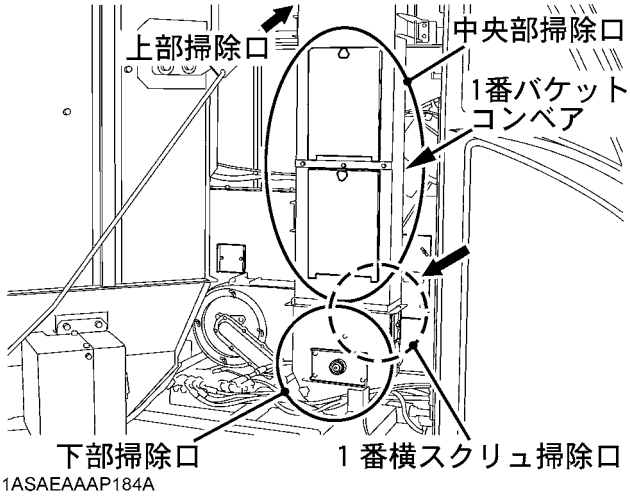
8. リールサイドカバー内
9. 刈取右サイドカバー内

リールサイドカバー，刈取右サイドカバーを取外して掃除してください（133 ページ参照）。掃除後は，リールサイドカバー，刈取右サイドカバーを取付けてください。



10. 1番バケットコンベア・1番横スクリュ掃除口

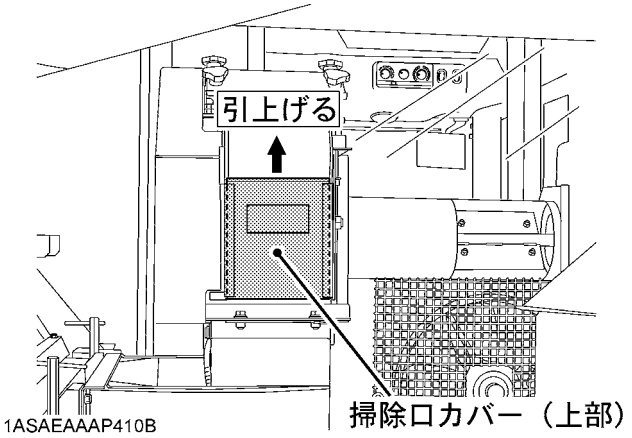
各掃除口カバーや底カバーを取外して掃除してください。掃除後は，各掃除口カバーや底カバーを取付けてください。



1ASAEAAAP184A

● **上部掃除口**

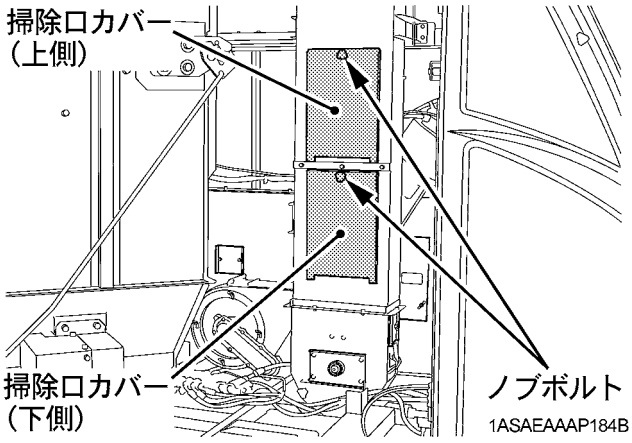
掃除口カバーを上側に引上げて取外してください。



1ASAEAAAP410B

● **中央部掃除口**

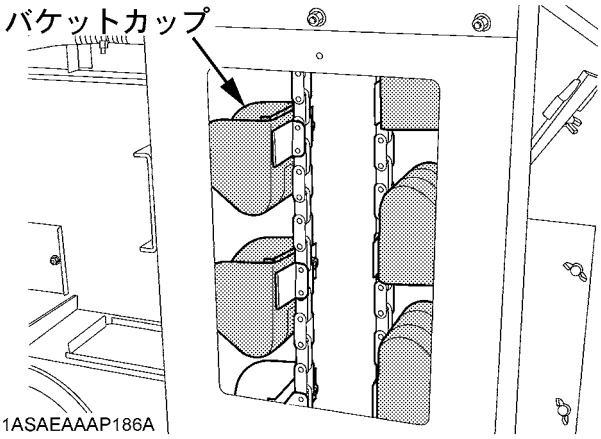
ノブボルトを取外して掃除口カバーを取外してください。



1ASAEAAAP184B

補　足

＊ バケットカップの汚れを布などで拭取ってください。



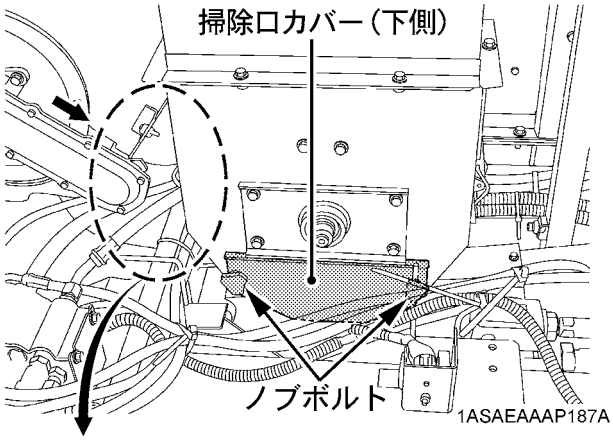
1ASAEAAAP186A

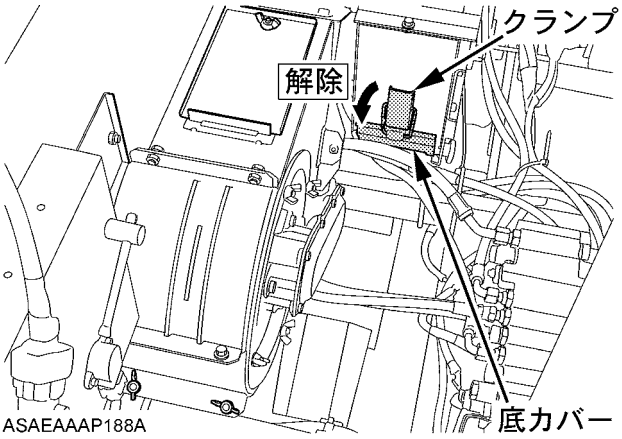
● **下部掃除口**

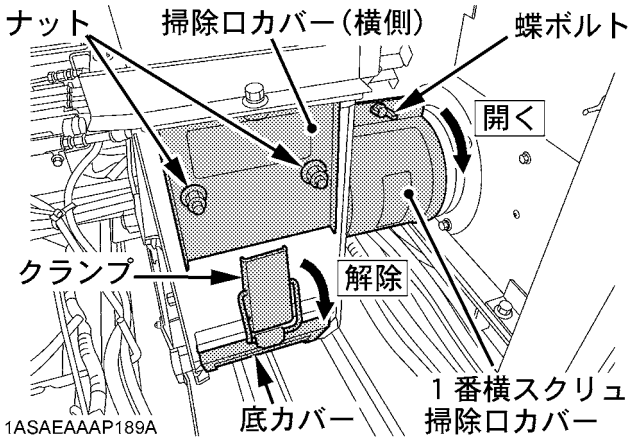
ノブボルト，ナットを取外して掃除口カバー（下側），掃除口カバー（横側）を取外してください。また，クランプ２箇所を解除して底カバーを取外してください。

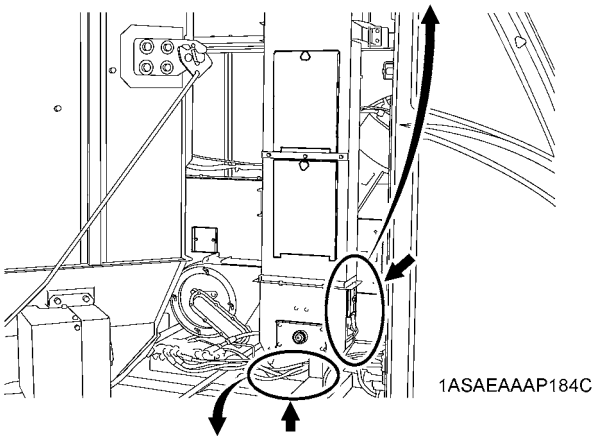
● **１番横スクリュ掃除口**

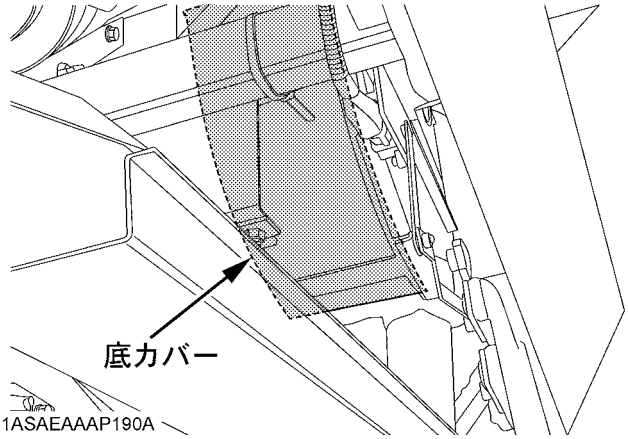
蝶ボルトを取外して掃除口カバーを開いてください。







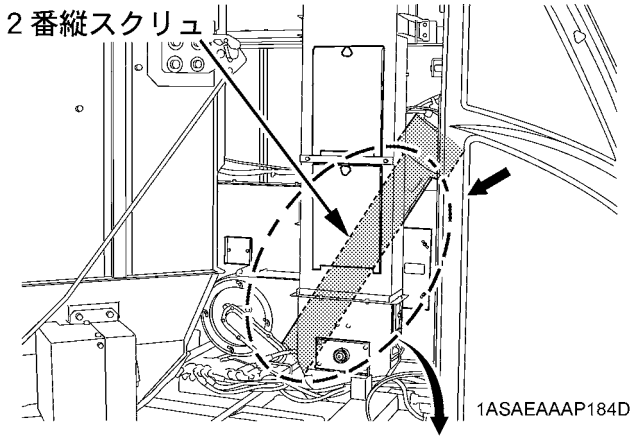


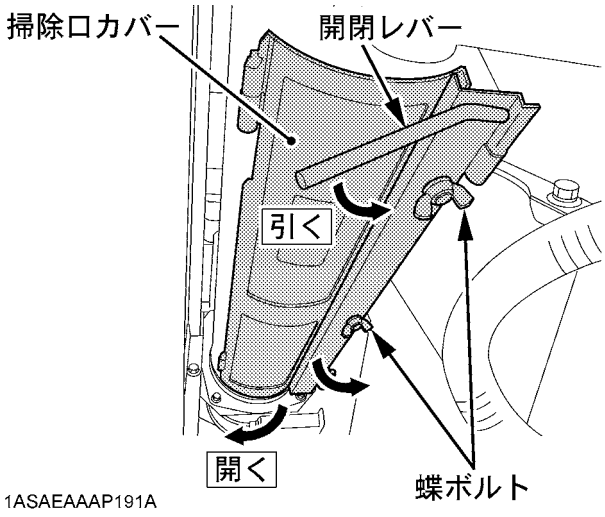


11. 2番縦スクリュケース掃除口

● 2番縦スクリュ掃除口

2番縦スクリュ下側にある掃除口カバーの蝶ボルトを取外し，掃除口開閉レバーを上げて掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを蝶ボルトで取付けてください。





重　要

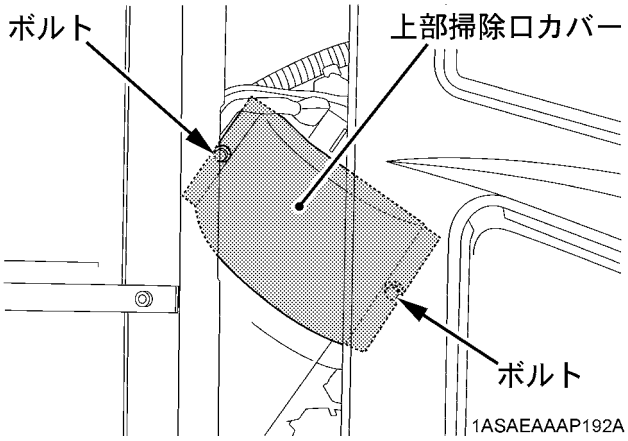
＊ 掃除口カバーを閉じたあとは，蝶ボルトを必ず取付けてください。走行中に掃除口カバーが開いて破損するおそれがあります。

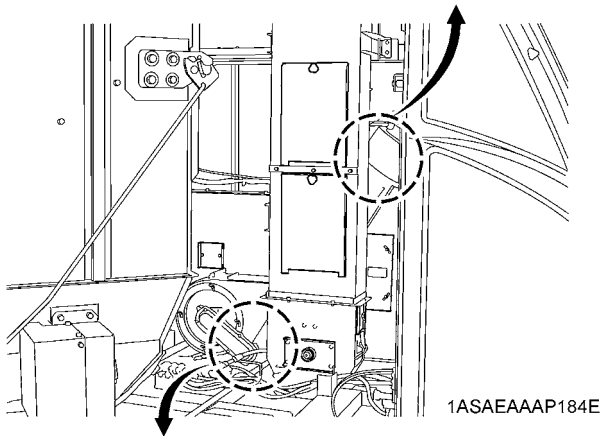
補　足

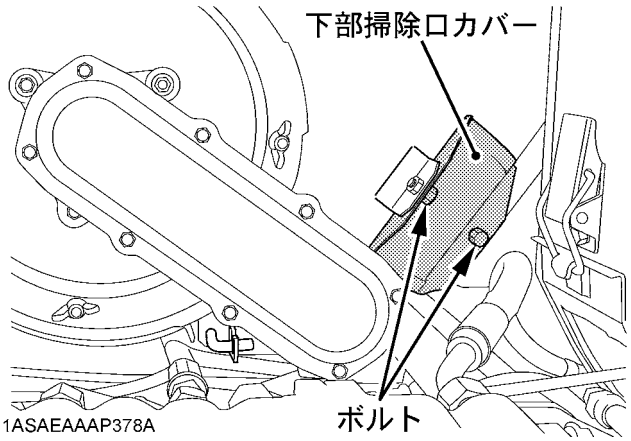
＊ 掃除口カバーを閉じるときは，掃除口開閉レバーを上げた状態で，掃除口カバーを上げて掃除口カバーを固定してから蝶ボルトを締付けてください。

● 2番縦スクリュ上部・下部掃除口

ボルトを取外して，2番縦スクリュの上部及び下部掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。







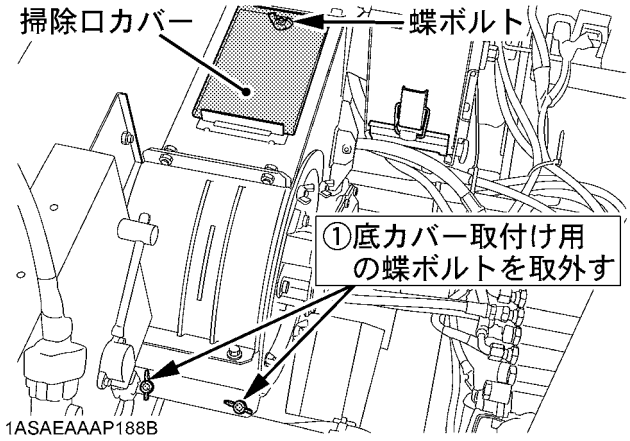
12. 2番処理胴（ツースバー）・底カバー掃除口

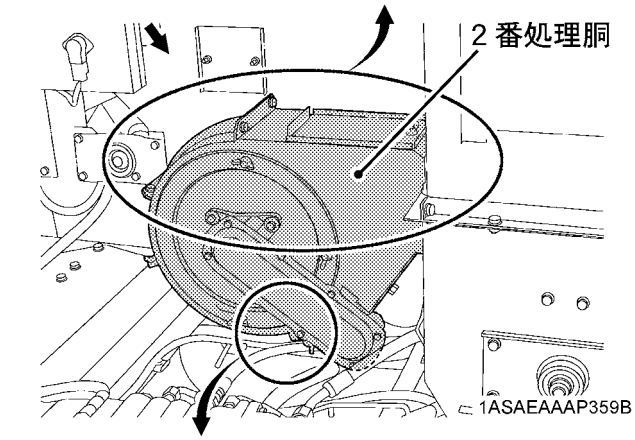
● 2番処理胴上部掃除口

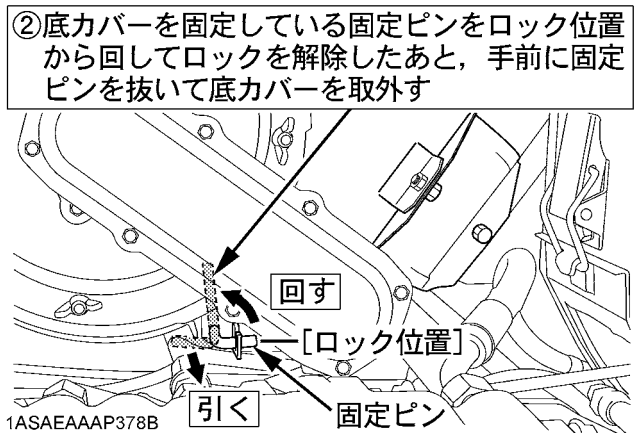
蝶ボルトを取外し，2番処理胴上部の掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。

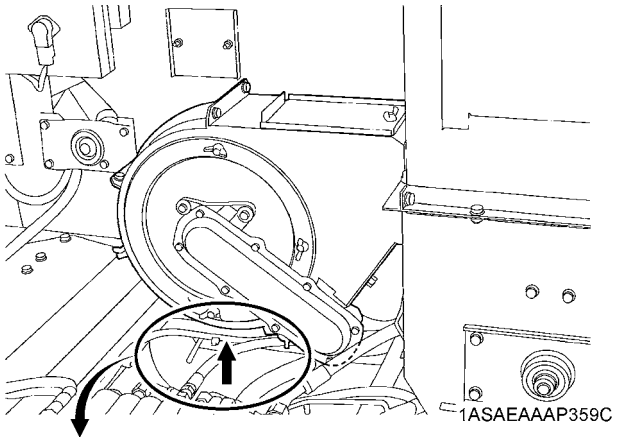
● 2番処理胴下部掃除口

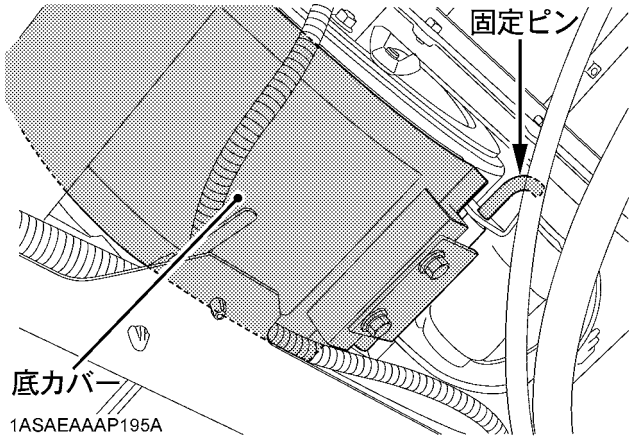
蝶ボルトを取外し，底カバーの固定ピンを引いて底カバーを取外して掃除してください。掃除後は，底カバーを取付けてください。





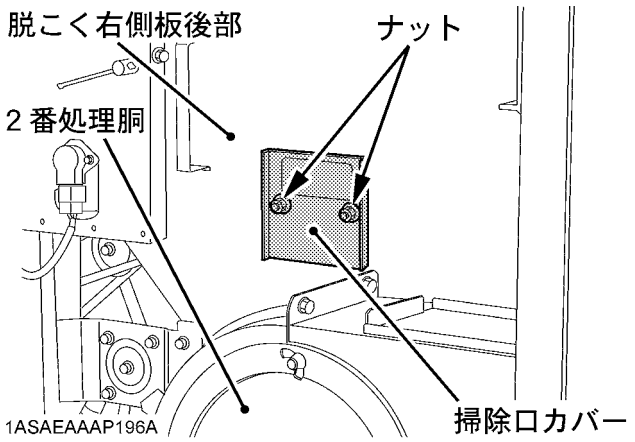


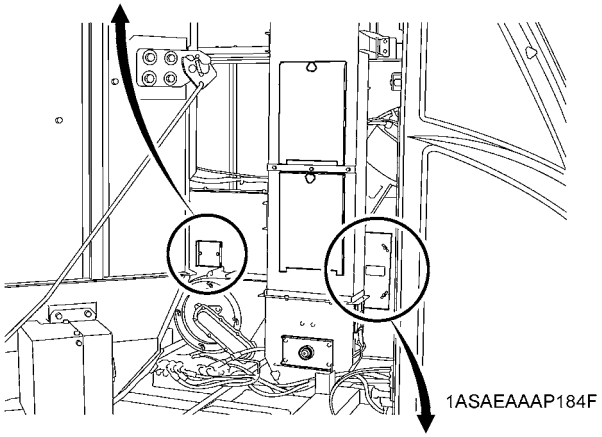


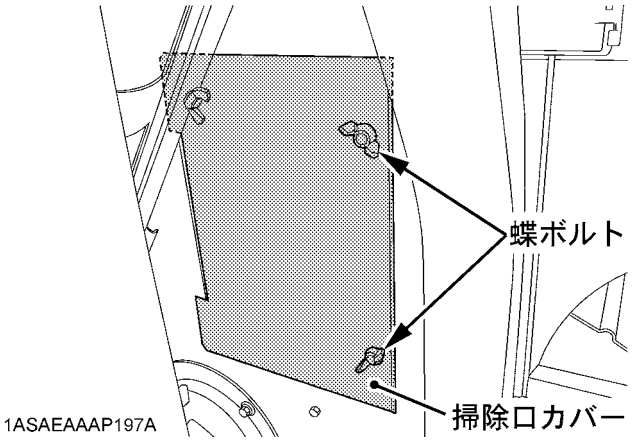


13. 1番横スクリュ上部右・脱こく右側板後部掃除口

蝶ボルト及びナットを取外して，1番横スクリュ上部右掃除口カバー及び2番処理胴上部にある脱こく右側板後部掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。

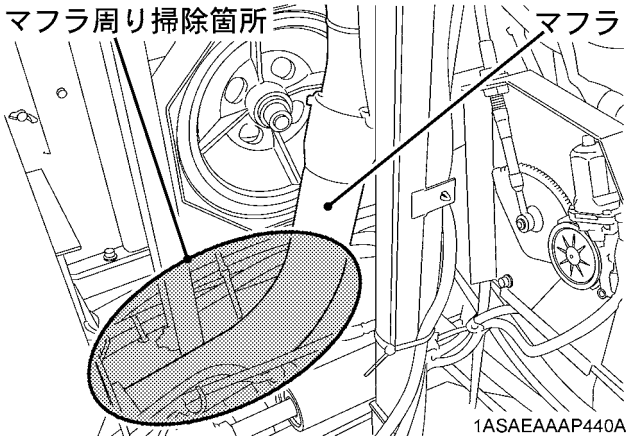






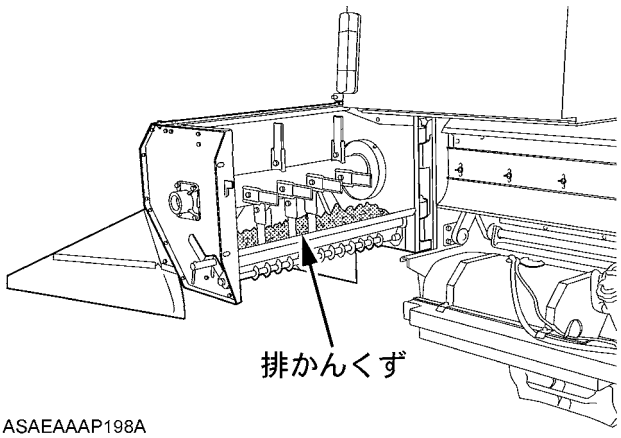
14. マフラ・排気管周り

マフラの排気管周りを確認し，排かんくずなど，ごみの堆積やマフラの排気管に付着しているごみを掃除してください。

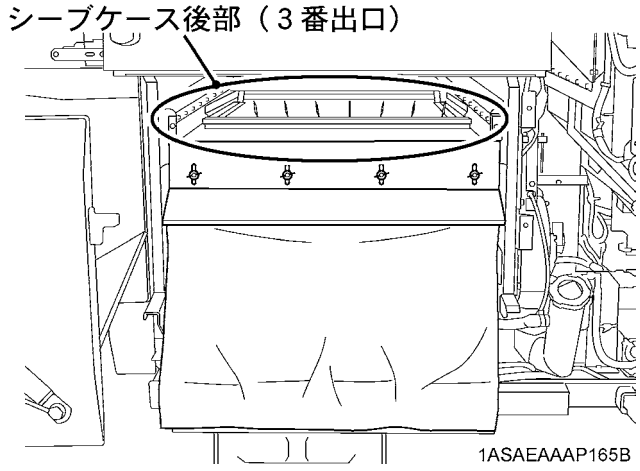


15. チョッパ内

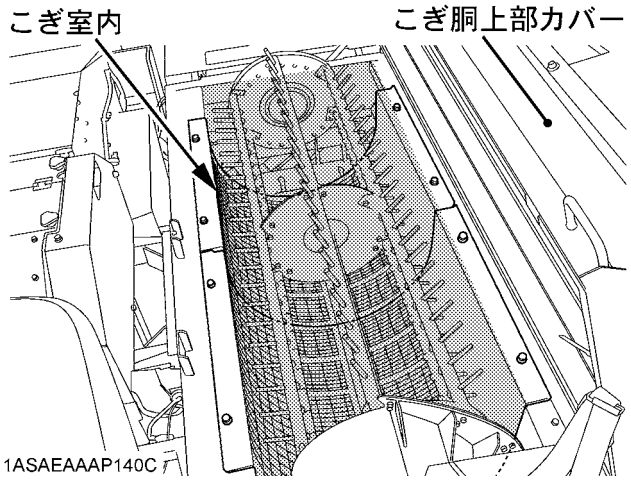
チョッパ部を開いて掃除してください。掃除後は，チョッパ部を閉じてください。(147 ページ参照)



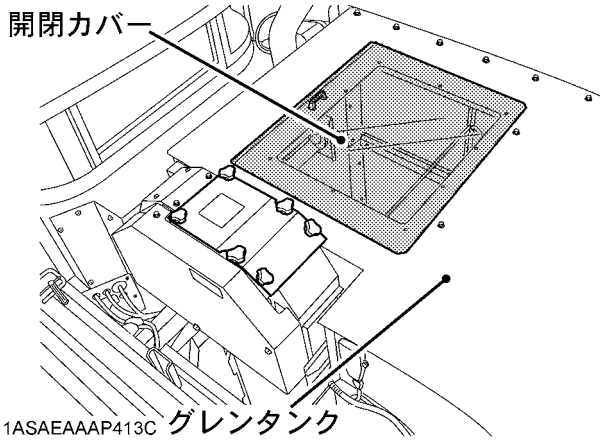
16. シーブケース後部（３番出口）
チョッパ部を開いて掃除してください。掃除後は，チョッパ部を閉じてください。(147 ページ参照)



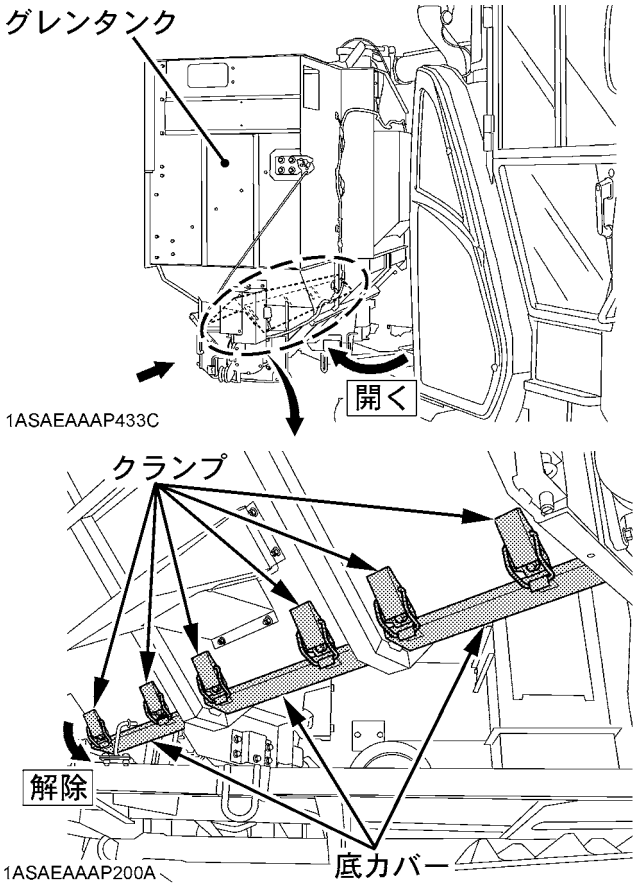
17. こぎ室内
こぎ胴上部カバーを開いて掃除してください。掃除後は，こぎ胴上部カバーを閉じてください。(142 ページ参照)



18. グレンタンク内
掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は，開閉カバーを閉じてください。



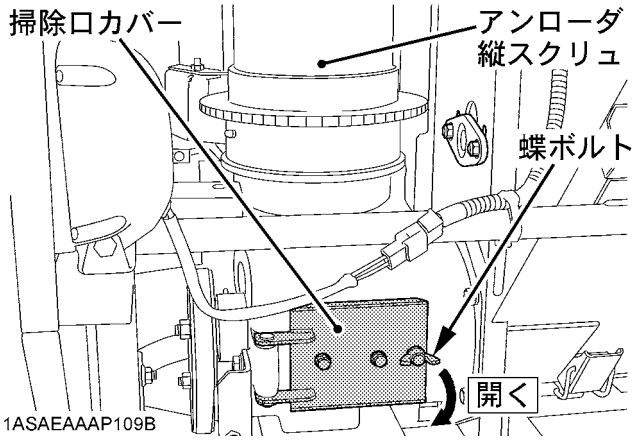
19. グレンタンク下部掃除口内
クランプを解除したあと，底カバーを開いて掃除してください。掃除後は，底カバーを閉じてください。



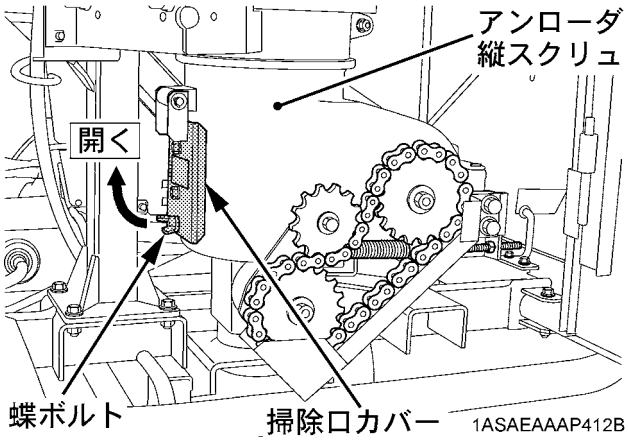
重　要

＊ グレンタンク下部掃除口カバーを開いた状態で，グレンタンクを閉じないでください。掃除口カバーが変形するおそれがあります。

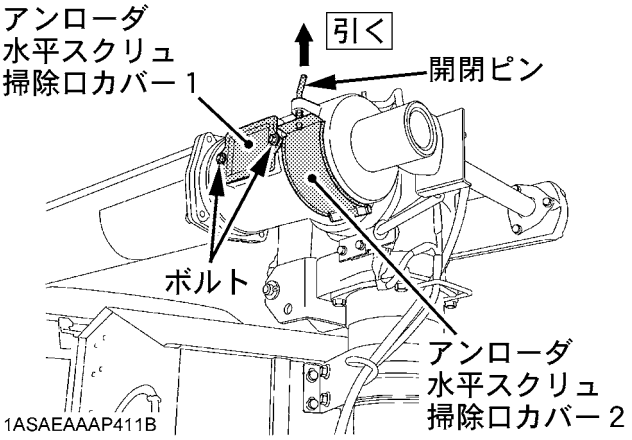
20. グレンタンク底スクリュ掃除口
蝶ボルトを取外して掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを閉じたあと，蝶ボルトを取付けてください。



21. アンローダ縦スクリュ下部掃除口
蝶ボルトを取外して掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを閉じたあと，蝶ボルトを取付けてください。



22. アンローダ水平スクリュ掃除口
アンローダをいっぱいまで上昇させたあと，ボルトを外してアンローダ水平スクリュ掃除口カバー1 を取外し，また開閉ピンを引いてアンローダ水平スクリュ掃除口カバー2 を開いて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け又は，閉じてください。



◆ 掃除後の処置と確認
掃除終了後は，開く又は，取外した掃除口カバーや安全カバーは必ず閉じる又は，取付けてください。

■各部の注油

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

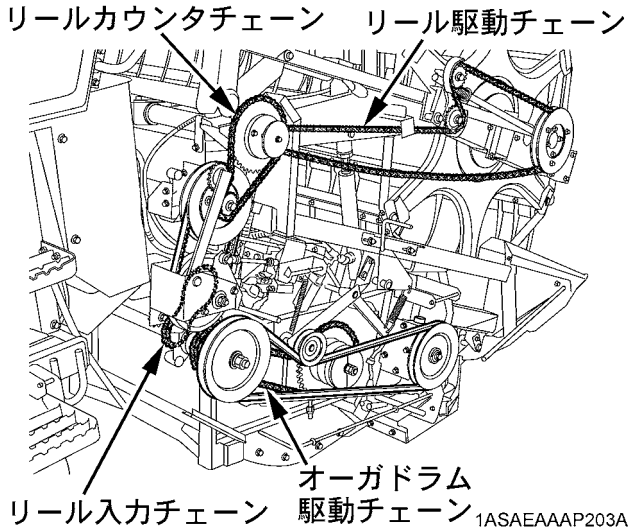
◆ 注油のしかた

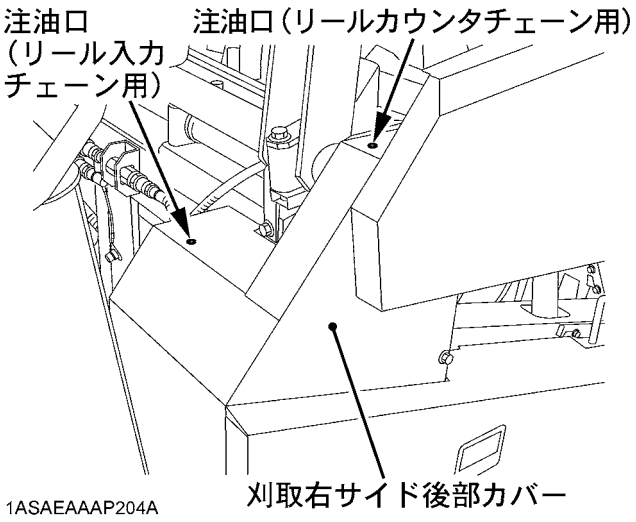
平坦な場所に刈取部を地面に着くまで降ろしたあと，駐車ブレーキを掛けます。

◆ 注油箇所

- **オーガドラム駆動チェーン**
- **リール駆動チェーン**
- **リールカウンタチェーン**
- **リール入力チェーン**

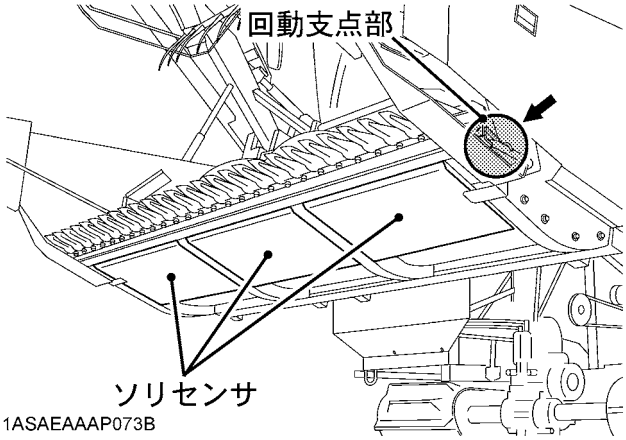
リール駆動チェーン，オーガドラム駆動チェーンの注油を行なうときは，リールサイドカバー，刈取右サイドカバーを取外してください。注油後は，各カバーを取付けてください。（133 ページ参照）また，リールカウンタチェーン，リール入力チェーンの注油を行なうときは，刈取右サイド後部カバーの注油口からオイルを適量注油してください。





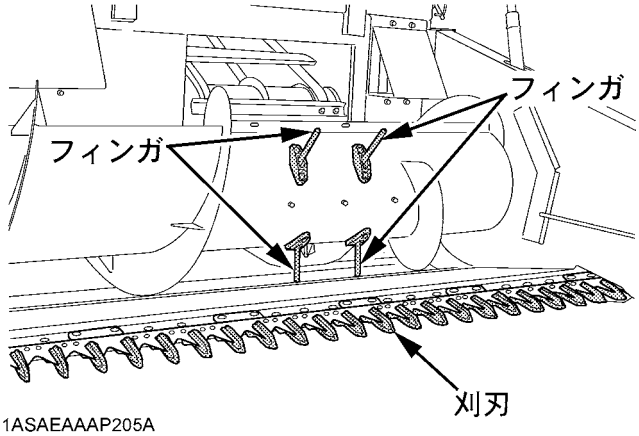
- **ソリセンサ回動支点部**

刈取部を上昇したあと，刈取・リール下降ロックスイッチで刈取部の下降防止を行ない，エンジンを停止して注油してください。



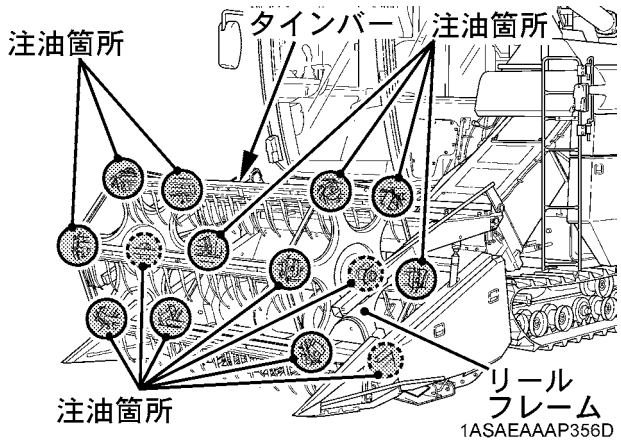
- **刈刃**
- **フィンガ**

リールを上げたあと，刈取・リール下降ロックスイッチでリールの下降防止を行ない，エンジンを停止して各フィンガ，刈刃全体に注油してください。

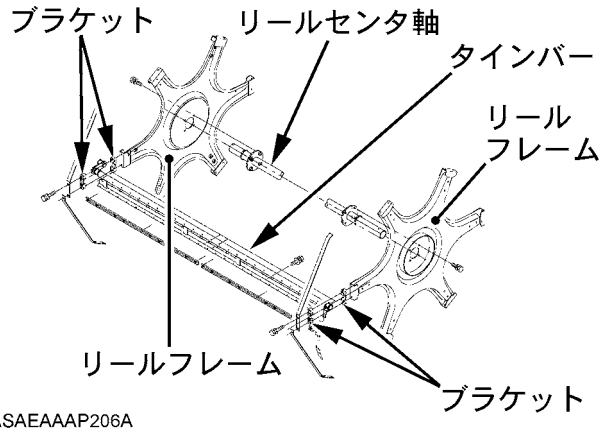


● **リール**

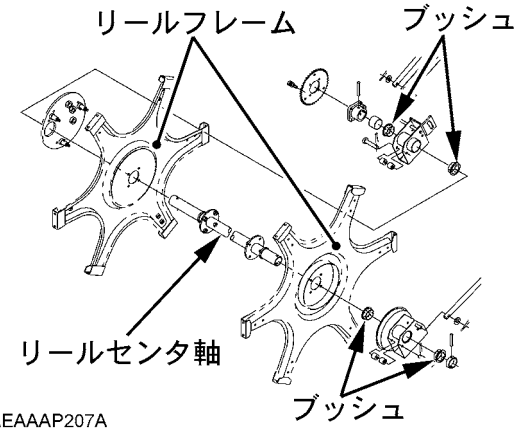
リールサイドフレームとリールセンタ軸及びタインバーの接続部や刈取フレームとリールフレームの接続部にある白い樹脂製のブッシュ又は，ブラケットに注油してください。



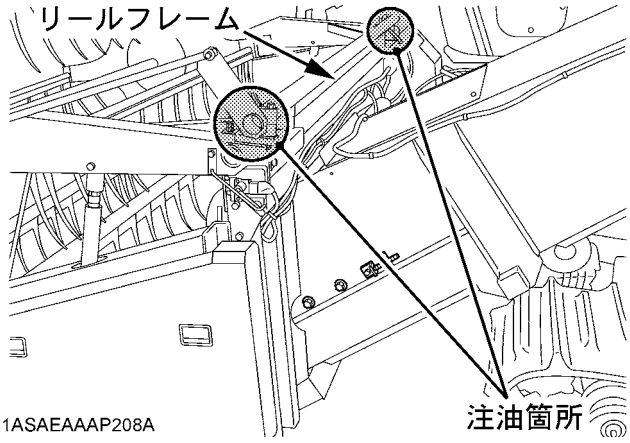
1ASAEAAAP356D



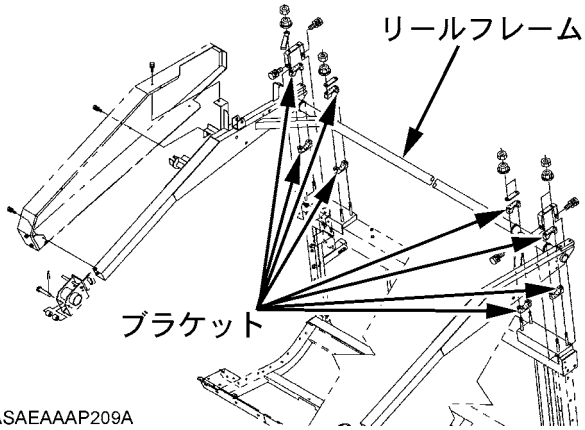
1ASAEAAAP206A



1ASAEAAAP207A



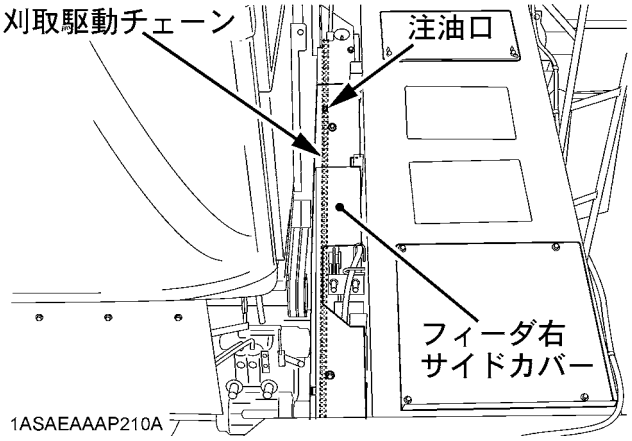
1ASAEAAAP208A



1ASAEAAAP209A

● **刈取駆動チェーン**

フィーダ右サイドカバーの注油口からオイルを適量注油してください。



1ASAEAAAP210A

定期点検

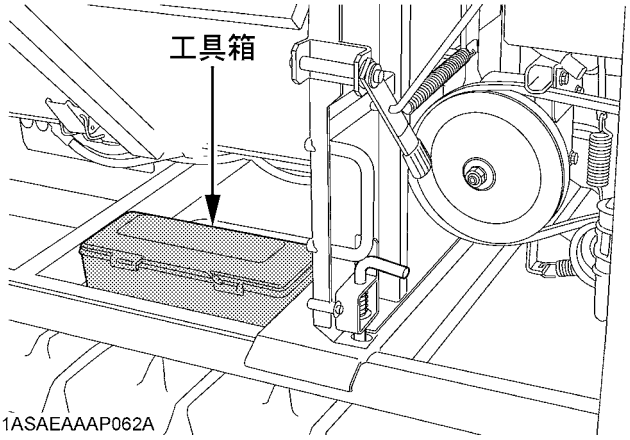
定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮されるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警 告

＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降ろしてください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして刈取部の下降防止を必ず行なってください。
＊ エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 刈刃の掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 機械は平たんで，周りに排かんくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

補 足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 点検･交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早目の点検をお願いします。
＊ 工具箱は下図の位置にあります。



■オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整

1. 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル･フィルタ類は初期 50 時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。チェーンやベルト類は初期 50 時間，クローラは初期 20 又は，50 時間で張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながります。廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤まると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

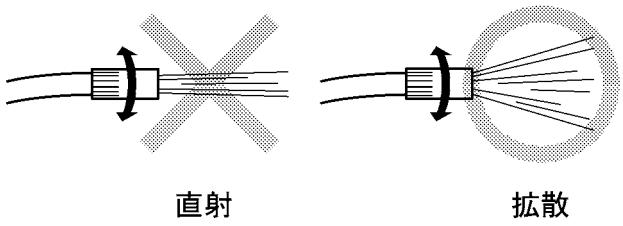
注　意

洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。

重　要

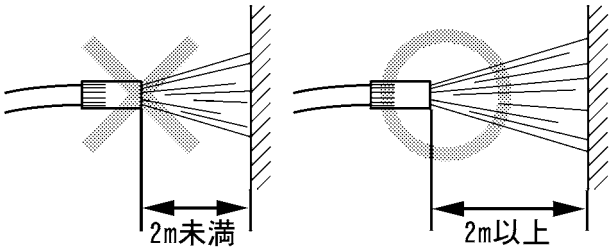
＊ 洗車のしかたが不適切な場合，以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。
［例］
(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内，キャビン室内等への浸入による故障
(3) クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。
- 電気系統（自動制御関係）
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

■定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆エンジン部				
ファン駆動ベルト	交換	500 時間ごと	全型式	206 ☆
逆流ファン切換えワイヤ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
エアクリーナエレメント	掃除	50 時間ごと	全型式	191
	交換	300 時間ごと		
インレットパイプ（エアクリーナ）	締付け	150 時間又は，6 ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	193
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
インレットパイプ（ターボ）	締付け	150 時間又は，6 ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	193
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
燃料フィルタカートリッジ	交換	400 時間ごと	全型式	197
油水分離器（セパレータ）	掃除	100 時間ごと	全型式	196
エンジンオイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 200 時間ごと（エンジンオイルの交換と同時に交換）	全型式	198
燃料ホース	締付け	150 時間又は，6 ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	193 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ	掃除	100 時間ごと	全型式	176
オイルドレーンゴムホース	締付け	150 時間又は，6 ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	193 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース	締付け	200 時間又は，6 ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	193 ☆
	交換	400 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
排水ホース	締付け	200 時間又は，6 ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	193 ☆
	交換	400 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
オイルクーラホース	締付け	200 時間又は，6 ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	193 ☆
	交換	400 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィン	掃除	50 時間ごと	全型式	195
コンデンサフィン	掃除	50 時間ごと	全型式	☆
サプライポンプ	点検	3000 時間ごと	全型式	☆
DPF 差圧センサホース	交換	2 年ごと	全型式	☆
ブーストセンサホース	交換	2 年ごと	全型式	☆
EX マニホルド	点検	1 年ごと	全型式	☆
EX マニホルド取付ボルト	点検	1 年ごと	全型式	☆
DPF 差圧配管	点検	1 年ごと	全型式	☆
EGR システム配管	点検	1 年ごと	全型式	☆
EGR クーラ	洗浄	1500 時間ごと	全型式	☆
インジェクタ，アッシのノズル	洗浄	1500 時間ごと	全型式	☆
ターボチャージャ，アッシ	洗浄	3000 時間ごと	全型式	☆
EGR システム	洗浄	3000 時間ごと	全型式	☆
フィルタ，コンプ（DPF）	洗浄	3000 時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆走行・操作部				
ミッション駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	206 ☆
	交換	500 時間ごと		
駐車ブレーキロッド	調整	50 時間ごと	全型式	201
ブレーキシュー	交換	500 時間又は，２年ごとの早いほうで交換	全型式	☆
HST オイルフィルタカートリッジ	交換	初回又は,交換後:50時間後,それ以降300時間ごと（油圧オイルタンクオイルの交換と同時に交換）	全型式	199 ☆
油圧オイルタンクフィルタ	洗浄	初回又は,交換後:50時間後,それ以降300時間ごと（油圧オイルタンクオイルの交換と同時に洗浄）	全型式	181 ☆
	交換	600 時間ごと		
クローラ	調整	初回又は，交換後：20，及び 50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	243 ☆
	交換	700 時間ごと		
反射器	交換	破損しているとき	全型式	242
油圧ホース	交換	500 時間ごと	全型式	☆
クローラガイド（前・後）	交換	800 時間ごと	全型式	☆
トラッククローラ（転輪）	交換	800 時間ごと	全型式	244 ☆
転輪（クローラガイド），キャリアローラ，後輪	交換	800 時間ごと	全型式	☆
各ブッシュ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
各ベアリング	交換	800 時間ごと	全型式	☆
各シールカラー，各オイルシール	交換	500 時間ごと	全型式	☆
ドライブローラ（スプロケット）	点検	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	245
	入換え	200 時間ごと		
	交換	400 時間ごと		
◆刈取部				
刈刃駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	210 ☆
	交換	500 時間ごと		
リール変速ベルト	点検	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	210 ☆
	交換	500 時間ごと		
フィーダ逆転駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	209 ☆
	交換	300 時間ごと		
刈取駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	211 ☆
	交換	500 時間ごと		
オーガドラム駆動チェーン	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	218 ☆
	交換	750 時間ごと		
リール入力チェーン	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	219
	交換	750 時間ごと		
リールカウンタチェーン	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	219 ☆
	交換	750 時間ごと		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
リール駆動チェーン	点検	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	219 ☆
	交換	750 時間ごと		
刈取駆動チェーン	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	220 ☆
	交換	750 時間ごと		
フィーダ搬送チェーン	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	220 ☆
	交換	1000 時間ごと		
刈刃	調整	100 時間ごと	全型式	224 ☆
	交換	500 時間ごと		
刈刃ロッドエンド	交換	500 時間ごと	全型式	☆
刈刃アーム	交換	500 時間ごと	全型式	☆
かき込みフィンガ軸，フィンガガイド，ブラケット	交換	250 時間ごと	全型式	225
刈取クラッチワイヤ	調整	初回又は,交換後:20 時間後,それ以降 50 時間ごと	全型式	201 ☆
	交換	300 時間ごと		
油圧ホース	交換	500 時間ごと	全型式	☆
◆脱こく部				
脱こく入力駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	208 ☆
	交換	300 時間ごと		
脱こく駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	207 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ胴駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	212 ☆
	交換	500 時間ごと		
１番・２番・カウンタ駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	212 ☆
	交換	500 時間ごと		
トウミ駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	213 ☆
	交換	500 時間ごと		
揺動駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	213 ☆
	交換	500 時間ごと		
１番バケット上部スクリュ駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	214 ☆
	交換	500 時間ごと		
１番バケットコンベア搬送チェーン	調整	初回又は,交換後:20 時間後,それ以降 50 時間ごと	全型式	222 ☆
	交換	750 時間ごと		
２番駆動チェーン	交換	750 時間ごと	全型式	☆
脱こくクラッチワイヤ	調整	初回又は,交換後:20 時間後,それ以降 50 時間ごと	全型式	201 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ歯，こぎ歯バー	組換え	250 時間ごと	全型式	228
	調整	250 時間ごと		
	交換	500 時間ごと		
受あみ（コンケーブ）	組換え	250 時間ごと	全型式	227
	交換	750 時間ごと		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
１番バケットカップ	点検	250 時間ごと	全型式	155 ☆
	交換	500 時間ごと		
１番横スクリュ軸	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
２番縦・横スクリュ軸	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
１番バケットコンベア上部羽根	交換	750 時間ごと	全型式	☆
２番縦スクリュ上部羽根	交換	750 時間ごと	全型式	☆
２番処理羽根・受刃	点検	250 時間ごと	全型式	254
	交換	750 時間ごと		
各プレート	交換	500 時間ごと	全型式	☆
各ライナ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
各ハンプ，スポンジ	交換	300 時間ごと	全型式	☆
各シール，パッキン	交換	300 時間ごと	全型式	☆
各ベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
各ブッシュ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
チャフシーブリップガイド	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
◆グレンタンク部				
タンクスクリュ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	215 ☆
	交換	500 時間ごと		
アンローダ縦スクリュ駆動チェーン	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	223 ☆
	交換	500 時間ごと		
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	全型式	234
各スクリュ軸	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
◆チョッパ部				
チョッパ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	215 ☆
	交換	500 時間ごと		
切断刃，受刃	点検	50 時間ごと	全型式	230
	組換え	100 時間ごと		
	交換	250 時間ごと		
◆キャビン				
コンプレッサ駆動ベルト	点検	作業シーズン前又は，後	全型式	208 ☆
	交換	２年ごと		
冷媒ガス	点検	作業シーズン前又は，後	全型式	234
内気フィルタ・外気フィルタ	掃除	使用時間が 30 時間ごと	全型式	232
◆電装部				
バッテリ	充電	インジケータの色が黒色のとき	全型式	235
	交換	インジケータの色が透明のとき		
ワイヤハーネス・バッテリコード	点検	50 時間ごと	全型式	239 ☆
	交換	破損しているとき		
ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	全型式	239
	交換	破損しているとき		
ランプ（電球）	点検	100 時間ごと	全型式	242
	交換	破損しているとき		
ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	全型式	242 ☆
	交換	破損しているとき		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

■給･注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	処置			
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は，作業後	－	・容量……約 95	ディーゼル軽油	176
オイル	エンジン	補給・交換		・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …200 時間ごと又は，１年ごとの早いほうで交換	・容量……約 12.3 ＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間	クボタ純オイル D10W-30 DH-2	177
	トランスミッションケース	補給・交換	50 時間ごと	・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …300 時間ごと	・容量……約 10 ＊規定量 検油口からオイルがにじむまで	クボタ純オイル スーパー UDT-2	179
	油圧オイルタンク				・容量……約 26.4 ＊規定量 検油口からオイルがにじむまで		181
	ＨＳＴ入力フランジ	補給	300 時間ごと	分解時	・容量……約 0.15		182
	脱こくギヤケース	補給・交換	－	・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …300 時間ごと	・容量……約 2.1 ＊規定量 検油口からオイルがにじむまで		182
	刈刃駆動ケース				＊規定量……約 0.4		180
	刈刃	注油	作業前	－	適量	クボタ純オイル D10W-30 又は，M8OB 又は，M90	166
	フィンガ軸		作業前又は，作業後				
	リールの各ブッシュ部						
	ソリセンサ回動支点部						
	オーガドラム駆動チェーン						
	リール駆動チェーン						
	リールカウンタチェーン						
	リール入力チェーン						
	刈取駆動チェーン						
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水・交換	作業前又は，作業後	２年ごと（冬季停止時は排出又は，不凍液を入れる）	＊規定量 タンク側面の **L（下限）**と **F（上限）**の間 L……0.1 F……1.1	清水	188
	ウォッシャ液	補給		－	・容量……約 1.2	自動車用ウォッシャ液	190

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（項目）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース・協同油脂㈱製耐熱グリース（パワーライト WR NO.1）**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	処置			
グリース	**◆エンジン部**						
	エンジン正逆流ファン部	補給	500時間ごと	－	適　量	協同油脂㈱製耐熱グリース（パワーライトWR NO.1）	183
	◆走行部						
	クローラ張りボルト（左，右）	塗布	作業シーズン終了後	－	適　量	クボタ純グリースNo.2	183
	転輪部	補給					
	後輪部						
	キャリアローラ部						
	スイングアーム支点部						
	ボス支点部						
	ミッション駆動ベルトテンションアーム支点部						
	◆刈取・フィーダ部・脱こく部						
	フィーダ支点部	補給	分解時	－	適　量	クボタ純グリースNo.2	183
	こぎ胴駆動ベルトテンションアーム支点部		200時間ごと				
	◆グレンタンク部						
	アンローダ旋回モータベース部	塗布	作業シーズン終了後	－	適　量	クボタ純グリースNo.2	183
	アンローダ旋回モータのギヤ（10）						
	グレンタンク駆動ケース	補給	分解時				☆
	アンローダケース１・２・３						
	アンローダブラケット部		200時間ごと				183
	旋回モータベース部						
	アンローダ水平スクリュケース･アンローダケース2回動部						
	アンローダ水平スクリュ駆動チェーンケース回動部						

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（項目）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース・協同油脂㈱製耐熱グリース（パワーライトWR NO.1）**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換

警　告

- **＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
- **＊ 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。**
- **＊ 燃料やオイルを補給又は，交換したあと，こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭取ってください。また，燃料もれや油もれがあるときは購入先に連絡してください。**

重　要

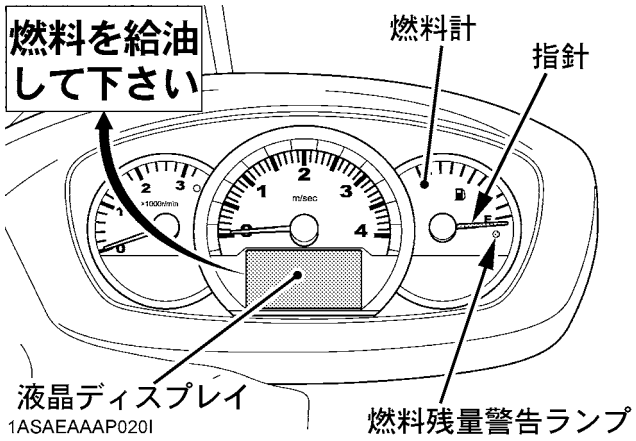
＊ 点検するときは，水平で平坦な場所にコンバインを移動して行なってください。コンバインが傾いていると正しいオイルの量が測定できません。

＊ コンバインの故障の原因となりますので下記事項を守ってください。

- 廃油は使用しないでください。
- オイルを補給するときは，現在使用しているオイルと同じメーカ・同じ品質（粘度など）のオイルを補給してください。また，異なるメーカ・異なる品質（粘度など）のオイルを使用するときは，オイルを全て排出してから新しいオイルと交換してください。
- 燃料やオイルを補給・交換するときは，ゴミや異物の混入を防ぐため，給油口付近を掃除してください。また，給油口からゴミなどの異物を入れないでください。
- オイルを補給するとき，規定量の上限以上にオイルを補給しないでください。
- 使用するオイルは，必ず指定の**クボタ純オイル**を使用してください。**クボタ純オイル**の入手が困難な場合は**推奨オイル**を使用してください。また，**クボタ純オイル**や**推奨オイル**以外のオイルを使用して，コンバインの機能が低下したり事故が起こった場合は，弊社は責任を負いませんので注意してください。

■燃料の補給

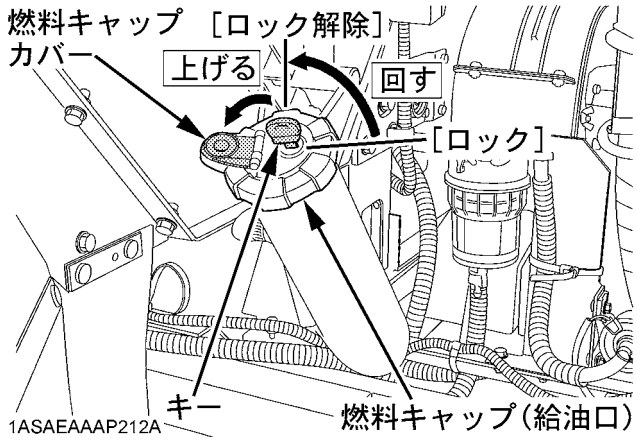
燃料計の指針が**【E】**（空）に近づくと，燃料残量警告ランプが点灯すると同時にマルチナビの液晶ディスプレイに**［燃料を給油して下さい］**と表示し，ブザーが鳴ります（燃料警報）。そのときは給油してください。



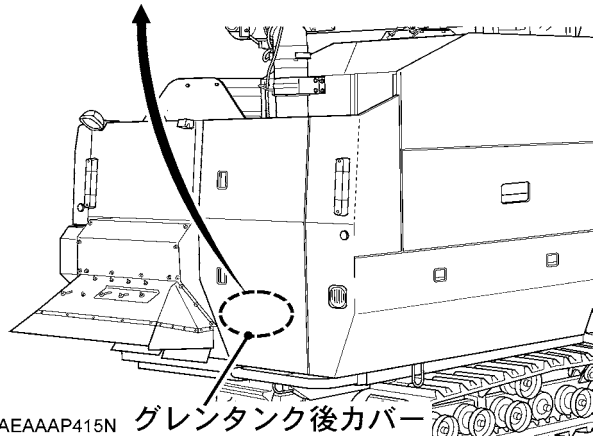
1ASAEAAAP020I

◆ 給油

給油を行なうときは，グレンタンク後カバーを開き，燃料キャップのカバーを上げたあと，キーを左に**［ロック］位置**から 90 度回してロックを解除してから燃料キャップを取外してください。



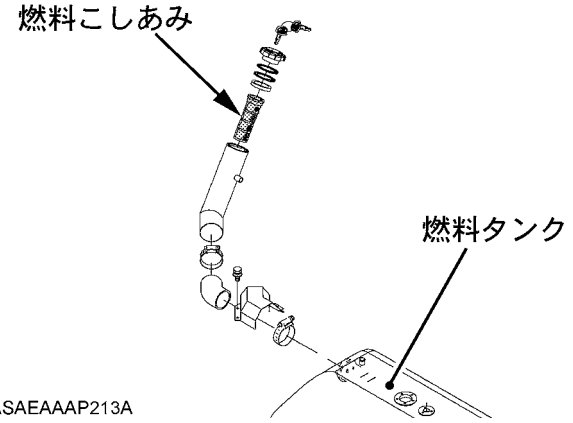
1ASAEAAAP212A



1ASAEAAAP415N

重　要

＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



補　足

＊ 燃料キャップのキーは，ロックが解除された位置では取外すことができません。

◆ 補給

燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。また，メインスイッチのキーを**【入】**位置にすると燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき，ブザーが鳴ります。また，ブザーが鳴ると同時に液晶ディスプレイに**【燃料が満タンです】**と表示します。給油後は燃料キャップを取付けてください。

燃料の種類	燃料タンク容量
ディーゼル軽油	約 95L

補　足

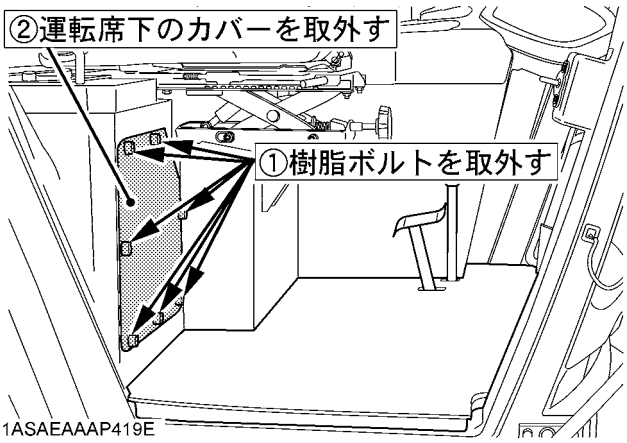
＊ 給油が終わったあとは，必ずキーをロックして抜取ってください。
＊ **満タンお知らせ機能**は，ブザーが 5 回鳴ると停止します。
＊ ブザーが鳴ったあと，あふれさせないように注意してください。
＊ **満タンお知らせ機能**は下記の条件のとき，はたらかない場合があります。
- エンジン停止後約 20 秒間
- 給油中に機体を揺らしたり，急激に給油したとき
- 給油量が少ないとき
- 機体が極端に傾いているとき

■エンジンオイルの点検・補給・交換

警　告

＊ 点検・補給・交換をするときは，エンジンを必ず止めて，エンジンがじゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。ヤケドするおそれがあります。

エンジンのオイル量を点検・補給・交換をするときは，運転席左下のカバーを取外してください。点検・補給・交換後は，運転席左下のカバーを取付けてください。

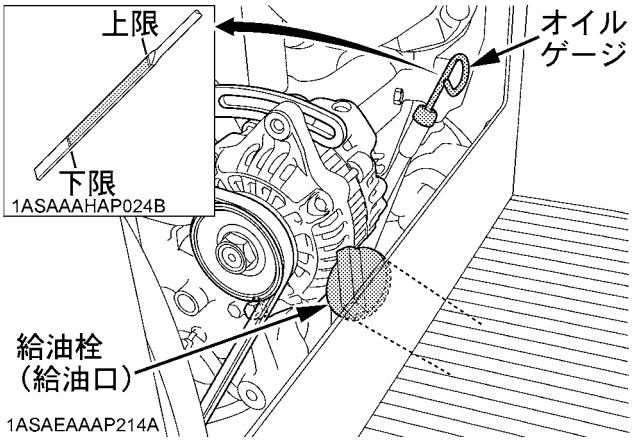


重　要

＊ エンジンオイルをオイルゲージの**上限**以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。

◆ 点検・補給

エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，運転操作部を開いて給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



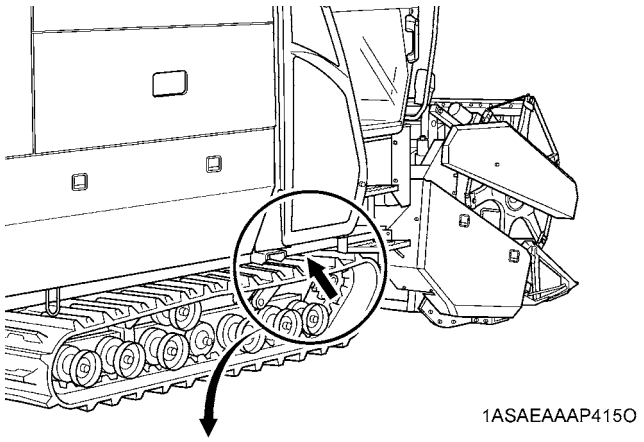
◆ 交換

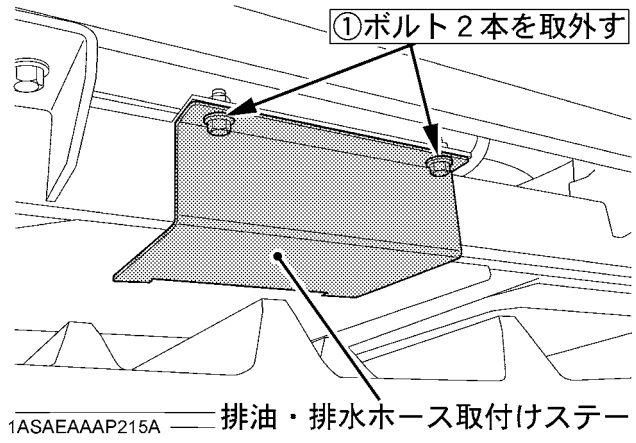
補　足

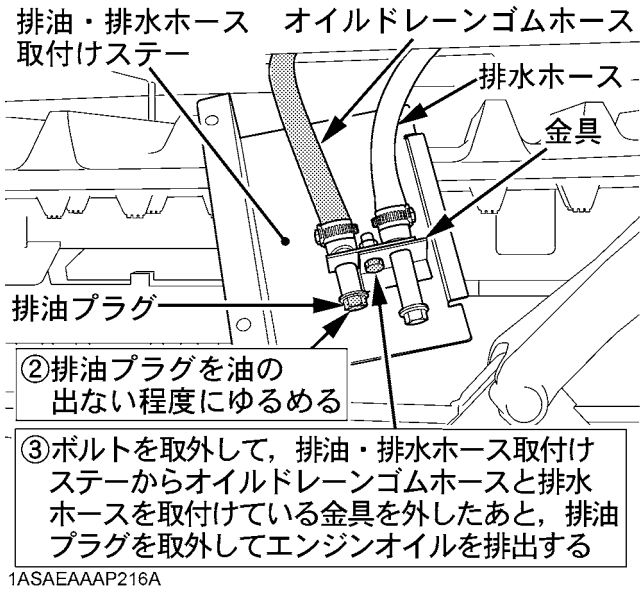
＊ オイルの交換と同時に，エンジンオイルフィルタカートリッジも交換してください。(198ページ参照)

● 排油のしかた

1. ボルトを２本取外したあと，排油・排水ホース取付けステーを機体から取外します。
2. 排油・排水ホース取付けステーを手前に引出したあと，排油プラグを油が出ない程度にゆるめます。
3. オイルドレーンゴムホースと排水ホースを取付けている金具のボルトを取外して，排油・排水ホース取付けステーから金具を外したあと，準備している容器の上で排油プラグを外してオイルを排出します。







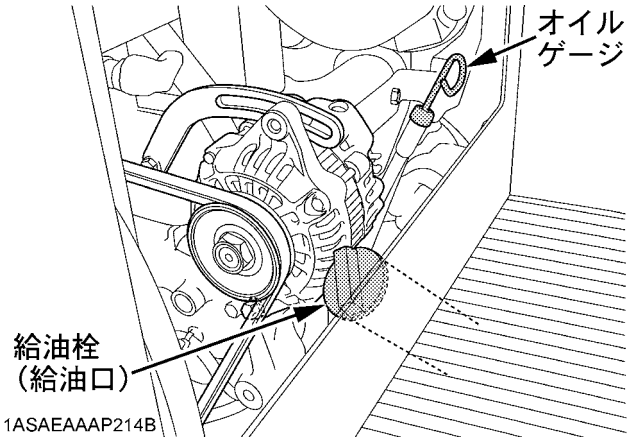
4. 排油プラグを仮止めします。
5. 排油・排水ホース取付けステーに金具を取付けたあと，排油プラグを締付けます。
6. 排油・排水ホース取付ステーを機体に取付けます。

重　要

＊ 排油プラグを締め忘れると油もれが発生したり，排油・排水ホース取付けステーを付け忘れると，ホースがクローラと接触して破損するおそれがあります。

● 給油のしかた

1. 運転席左下のカバーを取外します。
2. 給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けます。



重　要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

オイルの種類	容量
クボタ純オイル （ディーゼルエンジン用）…… D10W-30 DH-2	約 12.3L

3. エンジンを始動し，アイドリング状態で約１分間運転します。
4. エンジンを停止したあと，５分間以上たってからオイル量の点検を行ないます。
5. オイルが不足しているときは，規定量になるまでオイルを追加補給します。
6. 運転席左下のカバーを取付けます。

■トランスミッションケースオイルの点検・補給・交換

警　告

＊ 刈取部を上げて点検・補給・交換を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。

◆ 点検・補給

検油プラグを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆ 交換

補　足

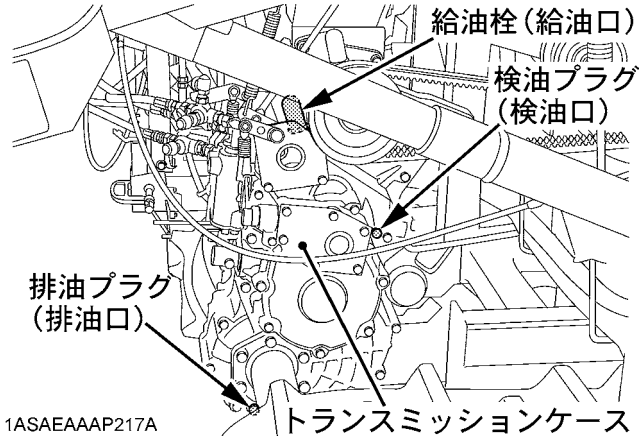
＊ オイルの交換と同時に，HST オイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタカートリッジも交換してください。(199 ページ参照)

● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● **給油のしかた**

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油プラグを締付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 10L

重　要

＊ 給油したあと，エンジンをアイドリング状態で約１分間運転してエンジンを停止し，５分間以上たってから，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

■刈刃駆動ケースオイルの補給・交換

刈取部を地面に着くまで降ろしたあと，刈取右サイドカバーを取外してください。

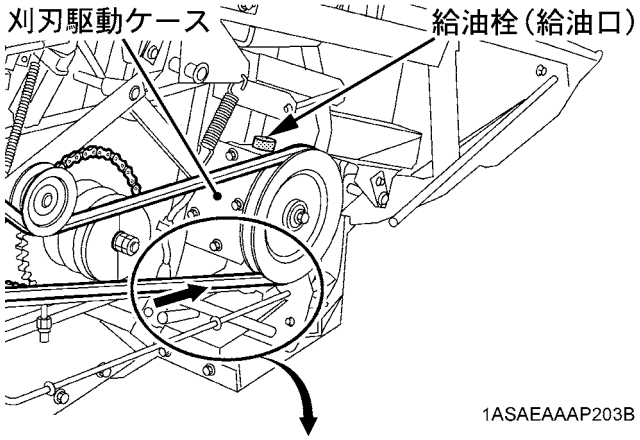
◆ **交換**

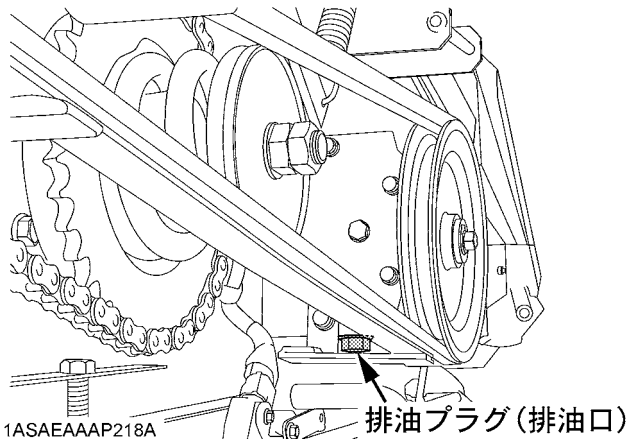
● **排油のしかた**

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● **給油のしかた**

排油プラグを締付けて，オイルを規定量給油したあと，刈取右サイドカバーを取付けてください。





オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 0.4L

■油圧オイルタンクオイルの点検・補給・交換

警　告

＊ 刈取部を上げて点検・補給・交換を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。

刈取部を上げたあと，刈取部の落下防止を行ないエンジンを停止します。

◆ 点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆ 交換

補　足

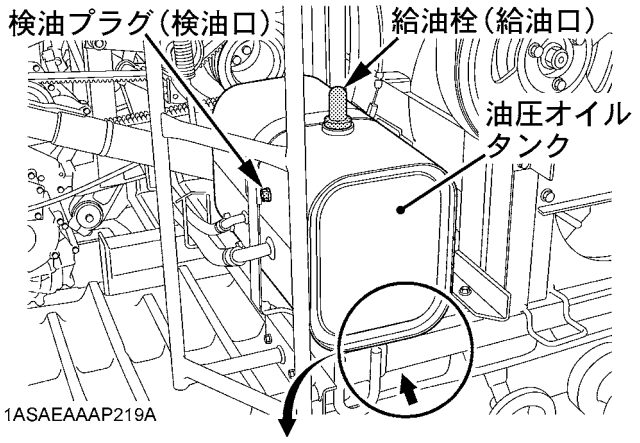
＊ オイルの交換と同時に，HST オイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタカートリッジも交換してください。

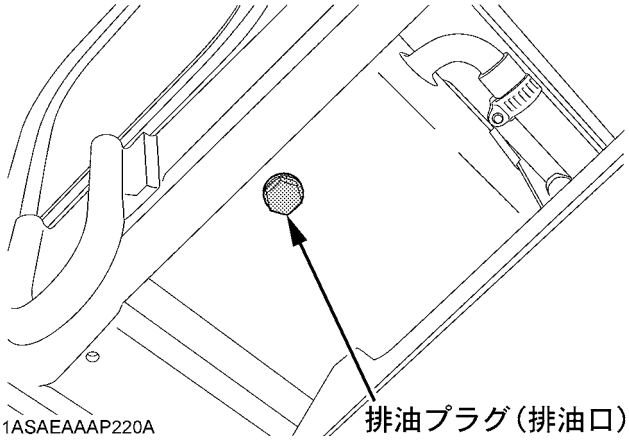
● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。





オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 26.4L

重　要

＊ 給油したあと，エンジンをアイドリング状態で約１分間運転してエンジンを停止し，５分間以上たってから再度点検を行ないオイルが不足しているときは，規定量になるまでオイルを追加補給してください。

補　足

＊ 規定オイル量は工場出荷時の給油量です。オイル交換後の実際に補給するオイル量は，ホース内などに残っているオイルにより少なくなりますので，検油口からオイルがにじみでたときに補給を停止してください。

■ HST 入力フランジオイルの補給・交換

警 告

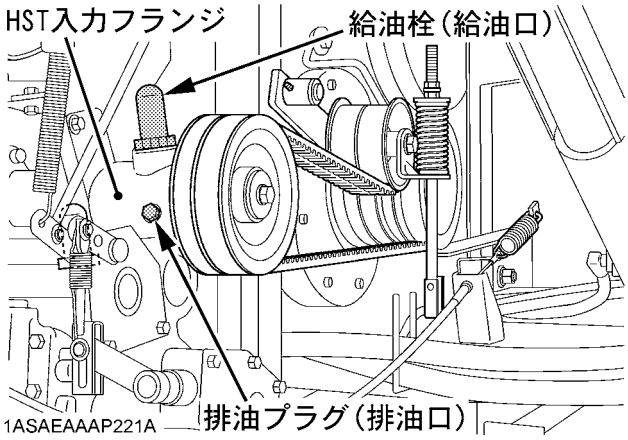
＊ 刈取部を上げて点検・補給・交換を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。

刈取部を上げたあと，刈取部の落下防止を行ないエンジンを停止します。

◆ 交換

● 排油のしかた
給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた
排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。



オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 0.15L

■脱こくギヤケースオイルの点検・補給・交換

警 告

＊ 転倒・転落のおそれがありますので，作業を行なうときは，足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってっください。

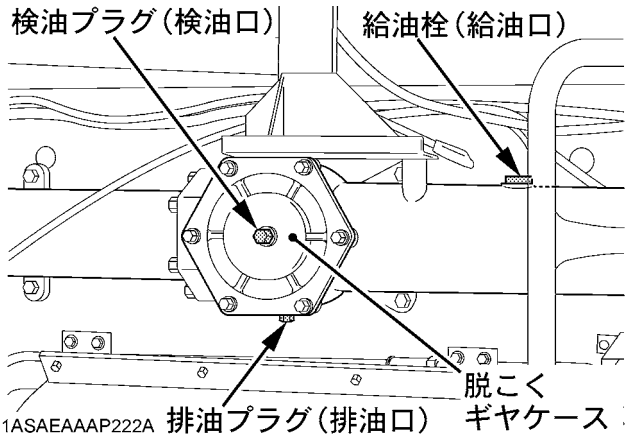
フィーダに上り，脱こく前カバーを取外してください。(140 ページ参照)

◆ 点検・補給
検油プラグを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆ 交換

● 排油のしかた
給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた
排油プラグを締付けて，給油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油プラグを締付けたあと，脱こく前カバーを取付けてください。

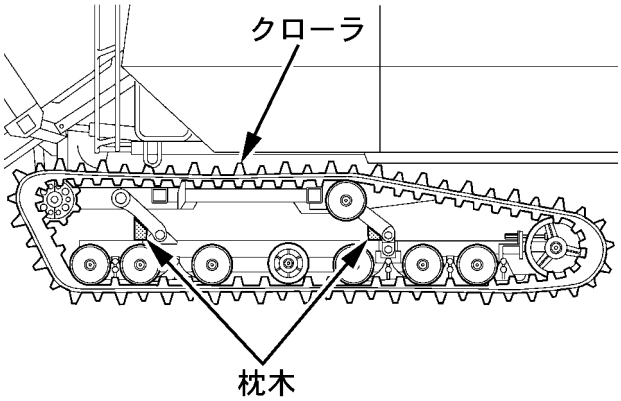


オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 2.1L

■各部のグリースの塗布・補給

警 告

＊ グリースの塗布・補給を行なうときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ クローラ周辺部にグリースを補給するときは，平たんな場所で車体水平制御の手動スイッチを操作して，機体を最上昇位置にしてください。さらに，枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。



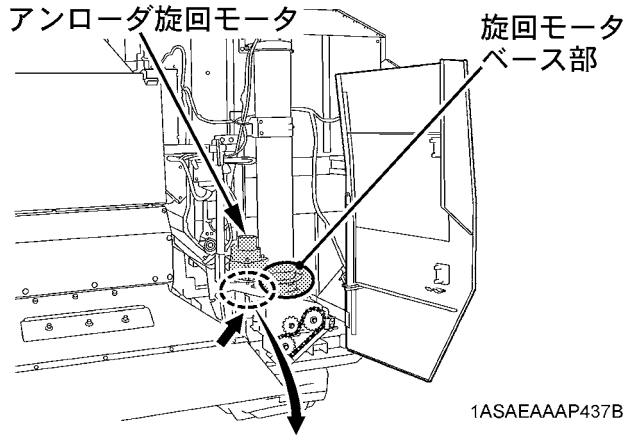
1ASAEAAAP223A

※イラストは左側

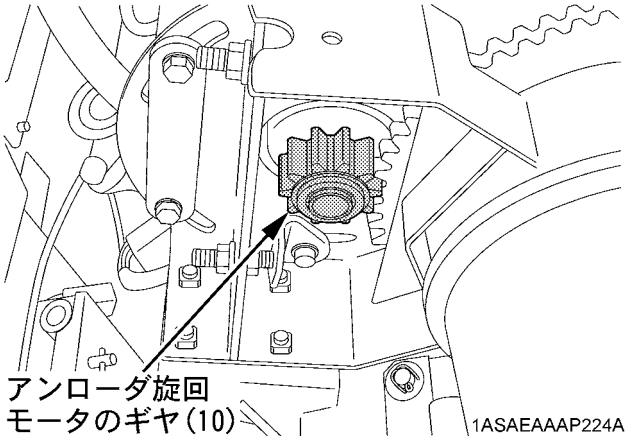
◆ グリース塗布箇所

- **アンローダ旋回モータベース部**
- **アンローダ旋回モータのギヤ（10）**

グレンタンク後カバーを取外してください。
(141 ページ参照)

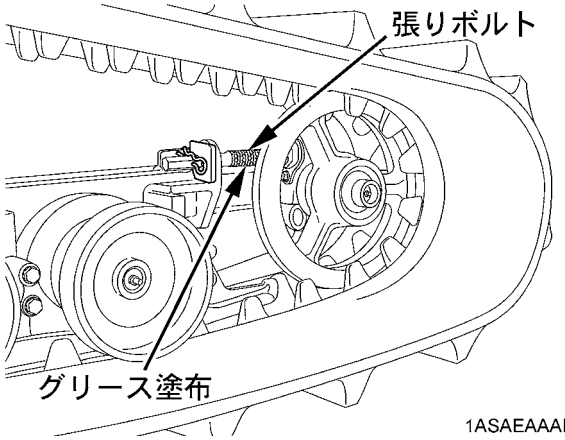


1ASAEAAAP437B

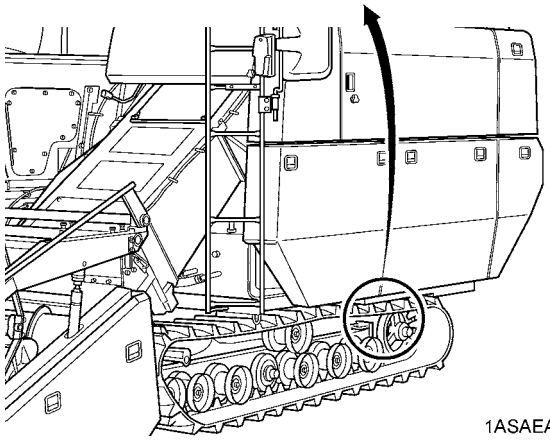


1ASAEAAAP224A

● **クローラ張りボルト（左，右）**



1ASAEAAAP211A



1ASAEAAAP356L

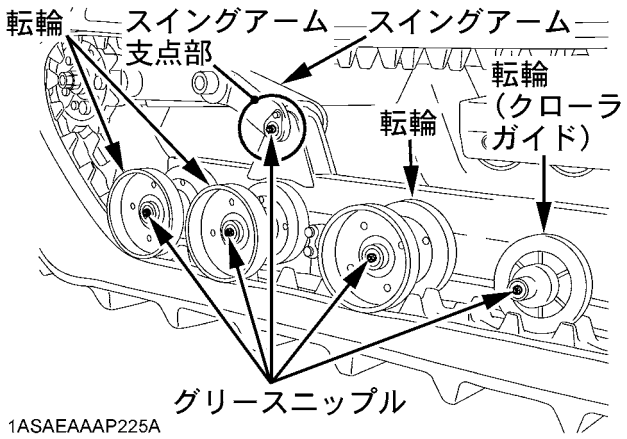
◆ グリースニップルの補給箇所

クボタ純グリース No.2 をグリースニップルから補給してください。補給後は，各カバーを閉じる又は，取付けてください。

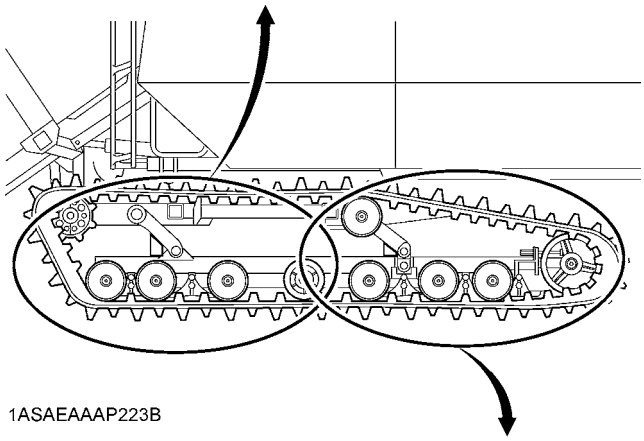
グリースを補給するときは，グリースガンなどグリースを補給する専用工具を使用してください。また，グリースがいっぱいまで補給されると，グリースガンのレバーを押してもそれ以上は入らなくなるため，補給を中止してください。

● **転輪部（左，右各 7 箇所）**
● **後輪部（左，右各 1 箇所）**
● **キャリアローラ部（左，右各 1 箇所）**
● **スイングアーム支点部（左，右各 2 箇所）**
● **ボス支点部（左，右各 2 箇所）**

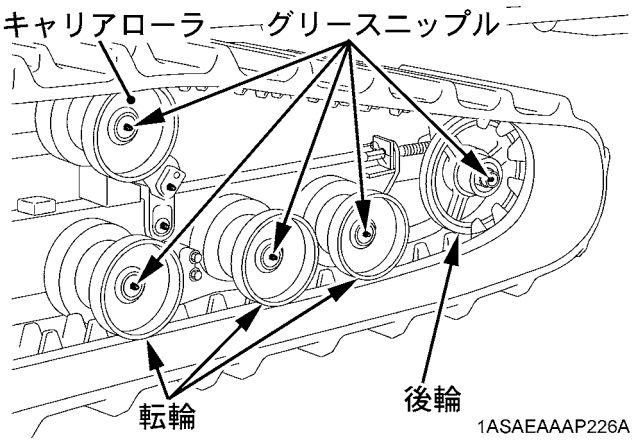
自動車体水平制御の水平自動スイッチを操作してコンバインを上昇したあと，エンジンを停止してください。



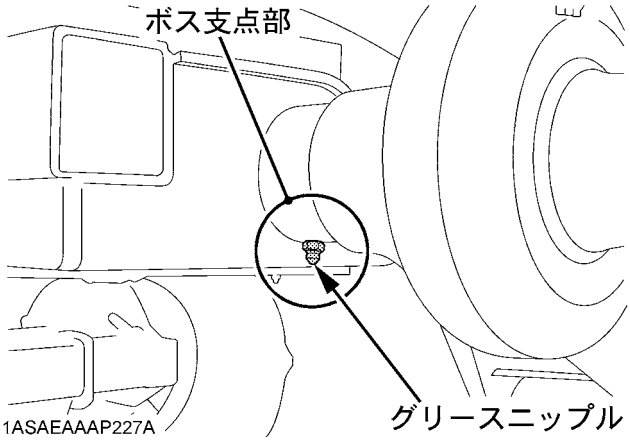
1ASAEAAAP225A

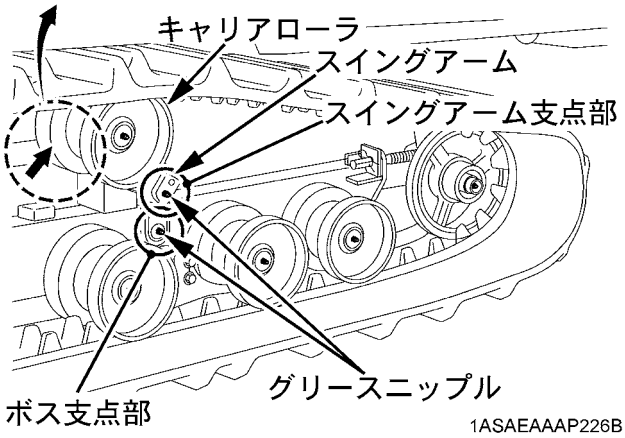


1ASAEAAAP223B



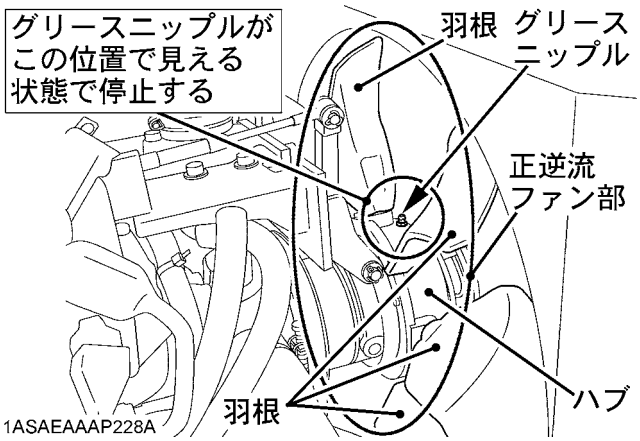
1ASAEAAAP226A



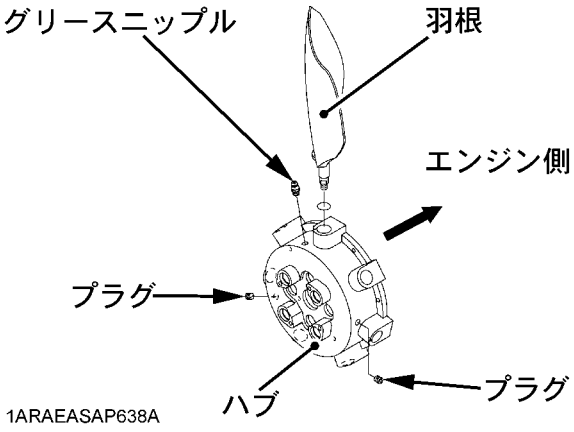


● **エンジン正逆流ファン部**

1. グレンタンクを開きます。
2. エンジンを始動したあと，逆流ファンの羽根を取付けているハブにあるグリースニップルが，下図の位置付近で停止するようにエンジンを停止します。



3. ハブに２箇所あるプラグのどちらかを取外したあと，グリースニップルからグリースを補給します。



重　要

＊ 補給するグリースは，必ず指定の**協同油脂㈱製耐熱グリース（パワーライト WR NO.1）**を使用してください。指定の耐熱グリース以外のグリースを使用すると，エンジン正逆流ファン部が故障するおそれがあります。

補　足

＊ 補給する耐熱グリースの**協同油脂㈱製耐熱グリース（パワーライト WR NO.1）**については購入先に連絡してください。

4. 取外したプラグの取付穴からグリースがはみ出してくると補給を中止したあと，シールテープをプラグに巻いて取外したところにプラグを取付けます。

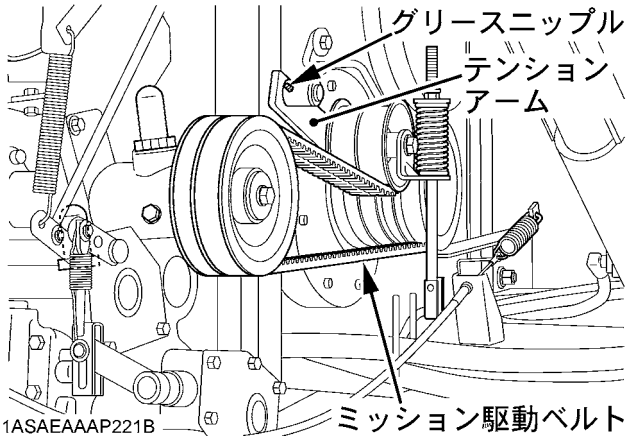
補　足

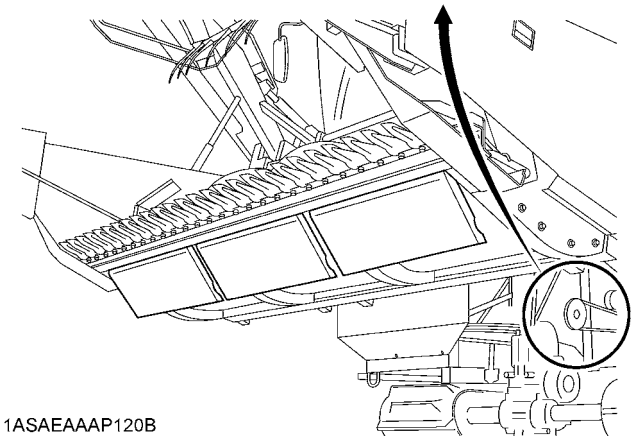
＊ シールテープについては購入先に連絡してください。
＊ グリースを補給したあと，エンジンをしばらく動かすと逆流ファンの周りにグリースがにじみ出ることがありますが異常ではありません。

5. グレンタンクを閉じます。

● ミッション駆動ベルトテンションアーム支点部

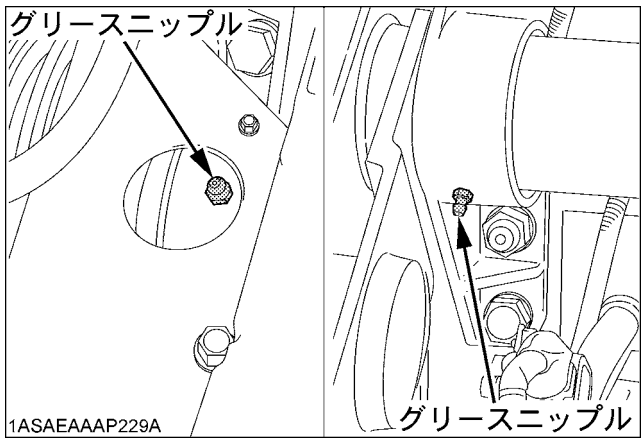
刈取部を上げたあと，刈取部の落下防止を行ないエンジンを停止してください。

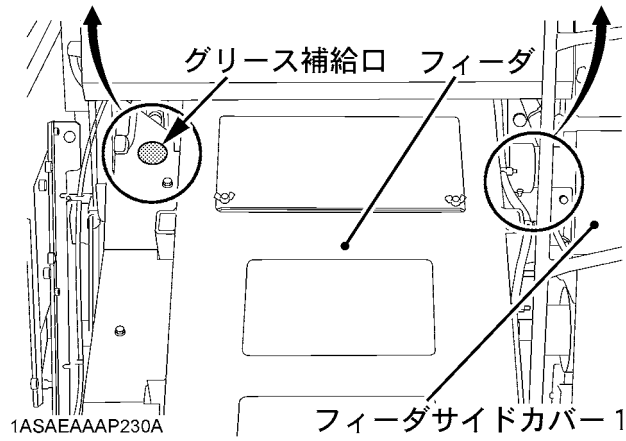




● フィーダ支点部

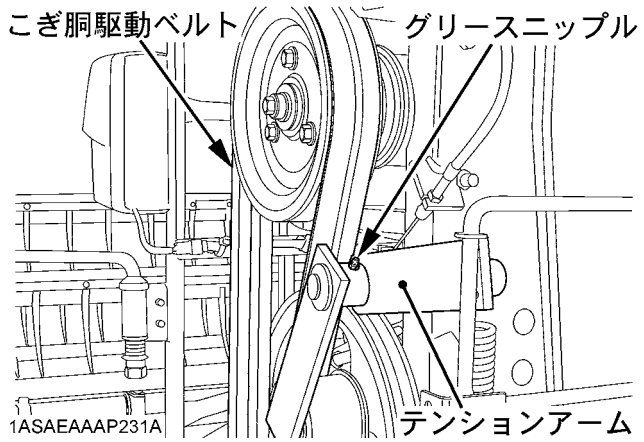
フィーダ支点部の右側はグリース補給口の穴からグリースを補給してください。また，フィーダ支点部の左側はノブボルトを取外して脱こく左サイドカバー 1 を取外して（139 ページ参照）グリースを補給してください。補給後は，脱こく左サイドカバー 1 を取付けてください。





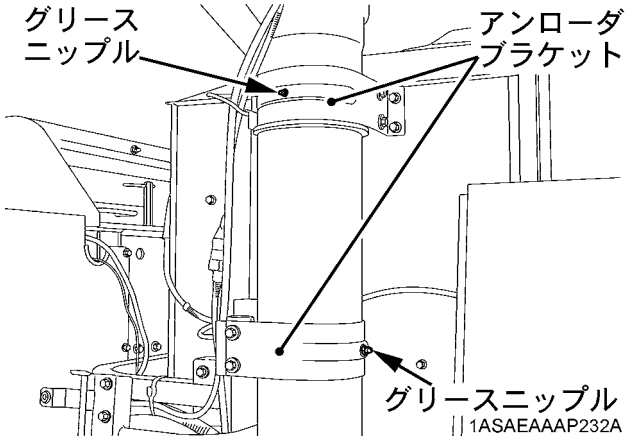
● こぎ胴駆動ベルトテンションアーム支点部

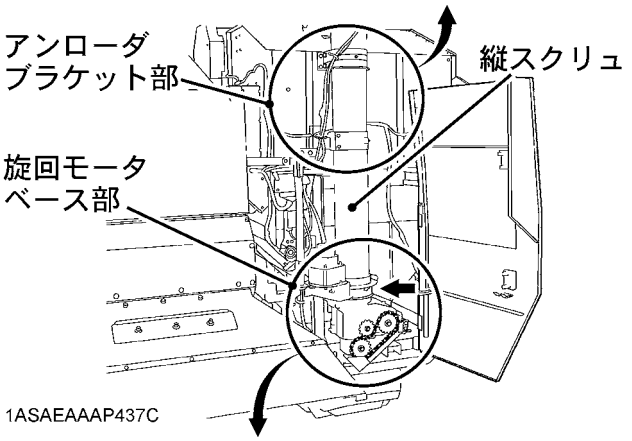
脱こく左サイドカバー 1，2 を取外してください。（139 ページ参照）補給後は，脱こく左サイドカバー 1，2 を取付けてください。

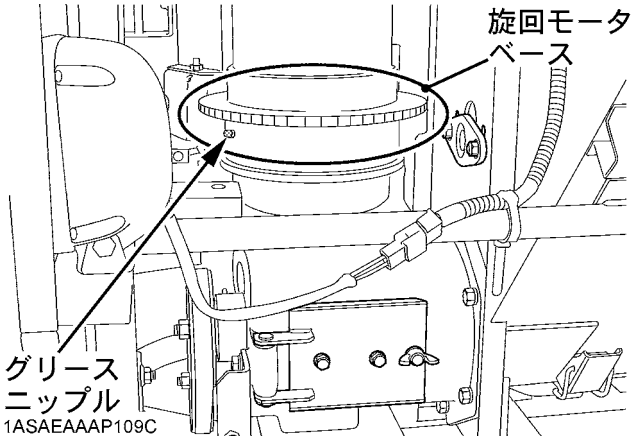


- **アンローダブラケット部**
- **旋回モータベース部**

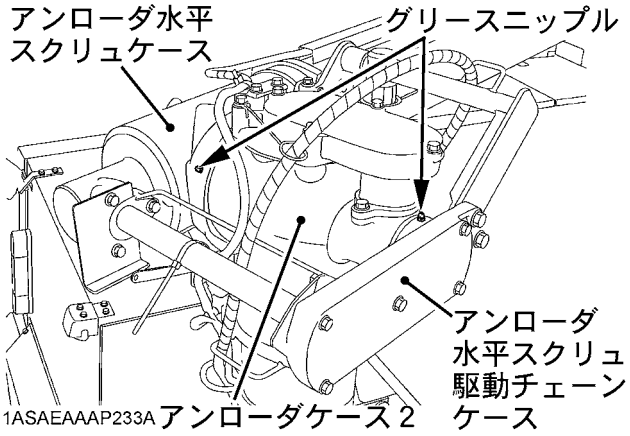
グレンタンク後カバーを開いてください。(141 ページ参照) 補給後は，グレンタンク後カバーを閉じてください。







- **アンローダ水平スクリュケース・アンローダケース 2 回動部**
- **アンローダ水平スクリュ駆動チェーンケース回動部**



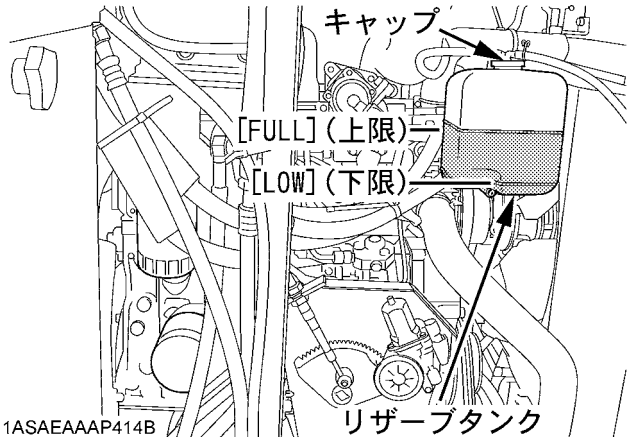
■ラジエータ冷却水の点検･補給･交換

警　告

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。
＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

◆ 点検・補給

1. グレンタンクを開きます。
2. 運転席後側にあるリザーブタンク内の冷却水が **[LOW]**（下限線）と **[FULL]**（上限線）の間にあるか確かめます。
3. リザーブタンク内の冷却水が **[LOW]**（下限線）より少ないときは，リザーブタンクのタンクキャップを取外して清水を補給します。



4. 冷却水補給口のキャップを取付けたあと，運転席後カバーを取付けます。

重　要

＊ オーバーヒート時は，ラジエータ内の冷却水の水量を確認し，水量が不足しているときは，清水を補給してください。
＊ 冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

補　足

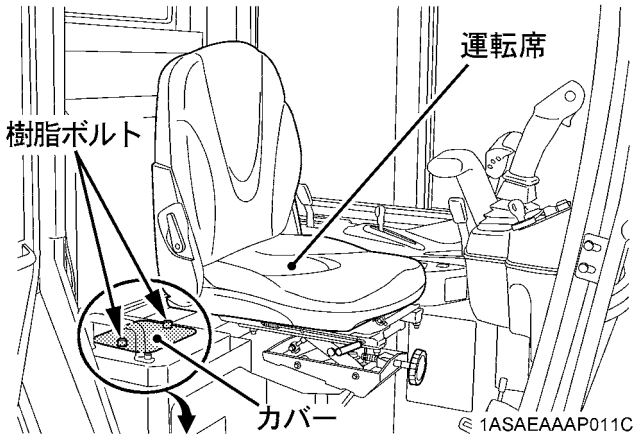
＊ **[FULL]**（上限）の線以上は補給しないでください。

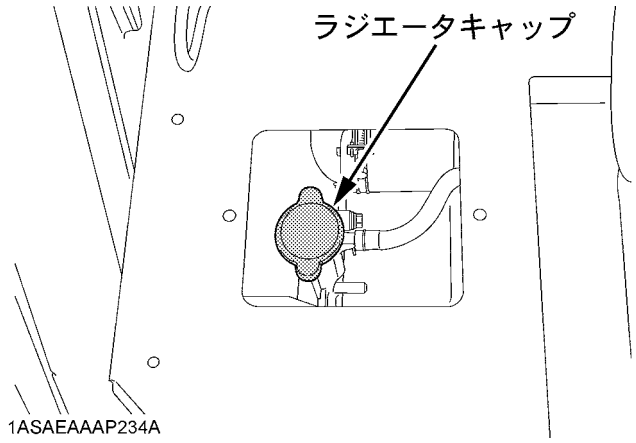
◆ 交換

補　足

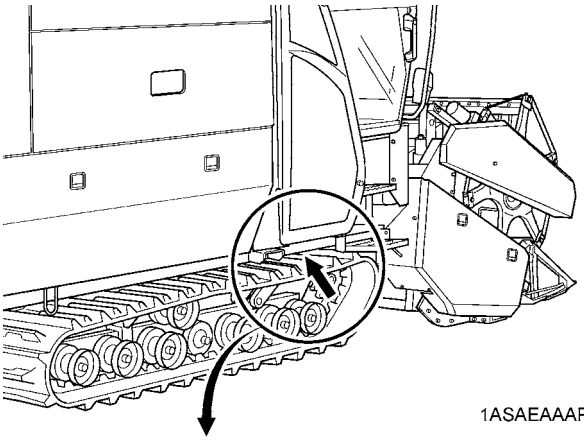
＊ ラジエータ内は冷却水を排水したあと，水道水でごみやさびが出なくなるまで洗浄してください。

1. 樹脂ボルトを取外して運転席右下にあるカバーを取外したあと，ラジエータキャップを取外します。

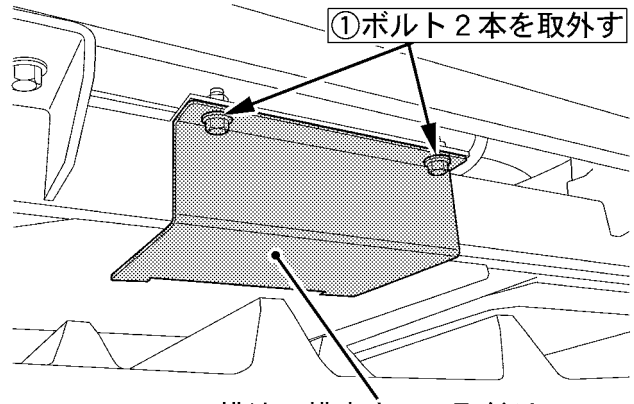




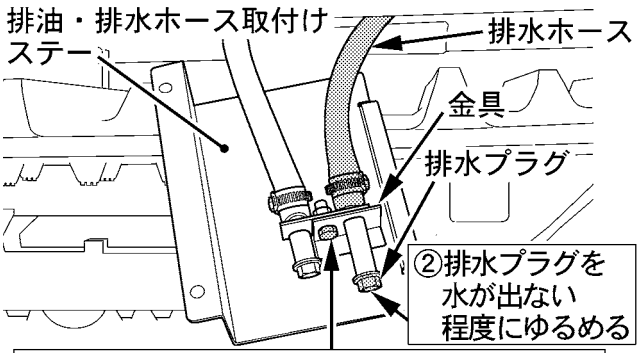
2. ボルトを２本取外したあと，排油・排水ホース取付けステーを機体から取外します。
3. 排油・排水ホース取付けステーを手前に引出したあと，排水プラグを冷却水が出ない程度にゆるめます。
4. オイルドレーンゴムホースと排水ホースを取付けている金具のボルトを取外して排油・排水ホース取付けステーから金具を外したあと，準備している容器の上で排水プラグを外して冷却水を排水します。



1ASAEAAAP415O



1ASAEAAAP215A



1ASAEAAAP216B

5. リザーブタンク内の冷却水はリザーブタンクのキャップを取外したあと，リザーブタンクを上側に抜いて取外し，排水したあとは，リザーブタンクを取付けます。
6. 排水プラグを仮止めします。
7. 排油・排水ホース取付けステーに金具を取付けたあと，排水プラグを締付けます。
8. 排油・排水ホース取付けステーを機体に取付けます。

重　要

＊ 排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり，排油・排水ホース取付けステーを付け忘れると，ホースがクローラと接触して破損するおそれがあります。

9. 目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータとリザーブタンクに入れます。

重　要

＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。
＊ 異なるメーカの不凍液を混用しないでください。エンジンの故障の原因となります。
＊ 排水プラグを締め忘れると水もれが発生し，エンジンが焼付きを起こすおそれがあります。

補　足

＊ 不凍液は，寒冷時に水が凍結してエンジンが破損しないように凍結する温度を下げる効果があります。
＊ 不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● **不凍液混合比率表**

外気温度（℃）		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比率	水（%）	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55

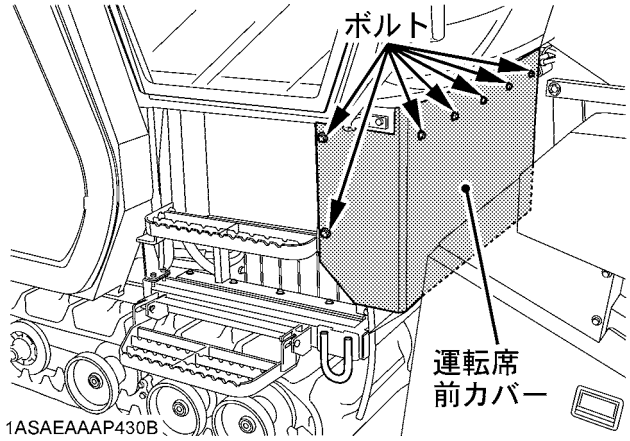
※ 出荷標準：不凍液 50％
※ ラジエータ容量　　：約 9L
　/リザーブタンク容量　：約 1.95L

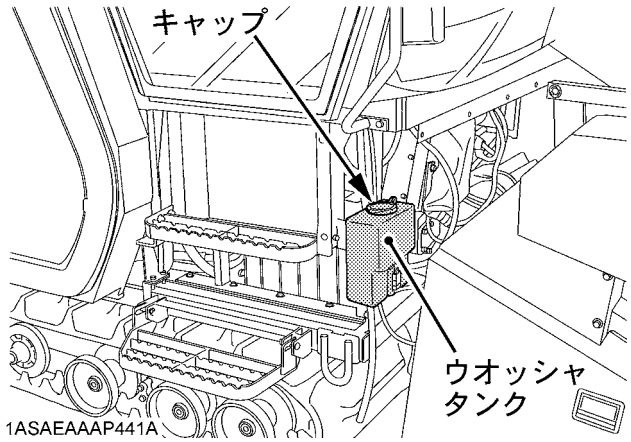
※ 新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，5 分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

10. ラジエータとリザーブタンクのキャップをそれぞれ取付けたあと，運転席右下のカバーを取付けます。
11. グレンタンクを閉じます。

■ウオッシャ液の補給

ボルトを取外して運転席前カバーを取外したあと，ウオッシャタンクのキャップを取外して，自動車用のウオッシャ液を補給してください。補給後は，キャップを取付けたあと，運転席前カバーを取付けてください。

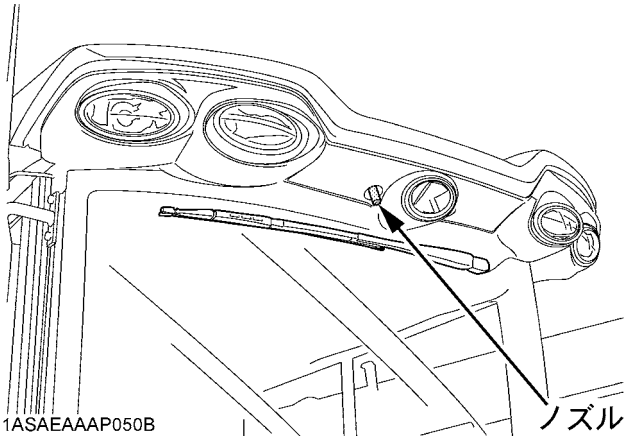




ウオッシャ液の種類	ウオッシャタンク容量
自動車用ウオッシャ液	約 1.2L

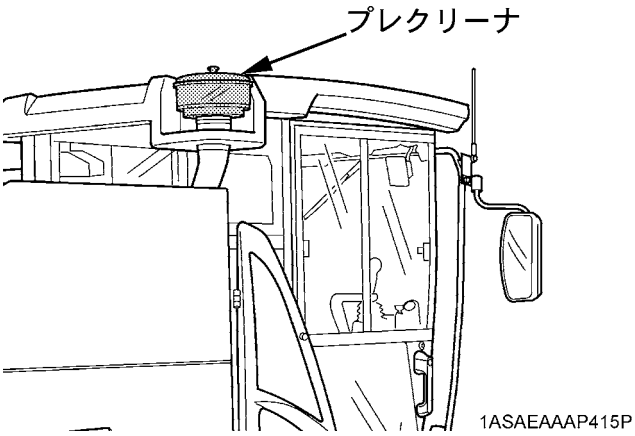
重　要

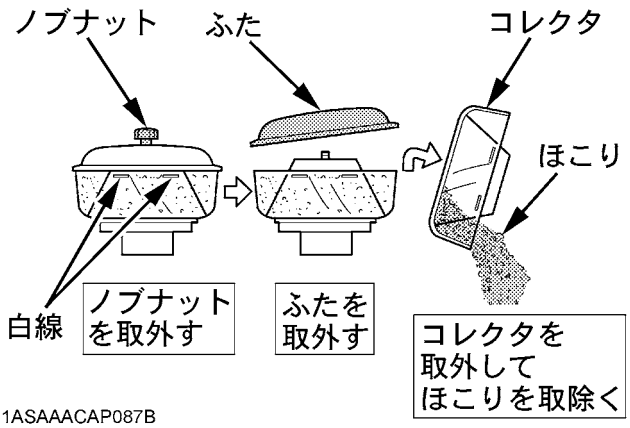
* ウオッシャタンクに清水などウオッシャ液以外の液体を入れないでください。寒冷時に凍結して故障の原因となります。
* ウオッシャ液が入っていない状態で，ワイパ･ウオッシャスイッチを押さないでください。ポンプの故障の原因となります。
* ウオッシャタンク内にごみが混入すると，ノズルが詰まりウオッシャ液が出なくなるおそれがあります。



■プレクリーナの点検・掃除

ほこりの量がプレクリーナのコレクタ側面の白ラインを越えているときは，ノブナットをゆるめて次の要領でほこりを取除いてください。





重　要

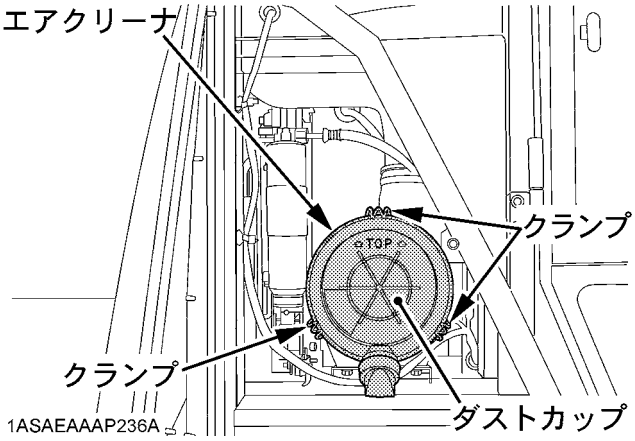
＊ 乾式のフィルタなのでオイルは入れないでください。

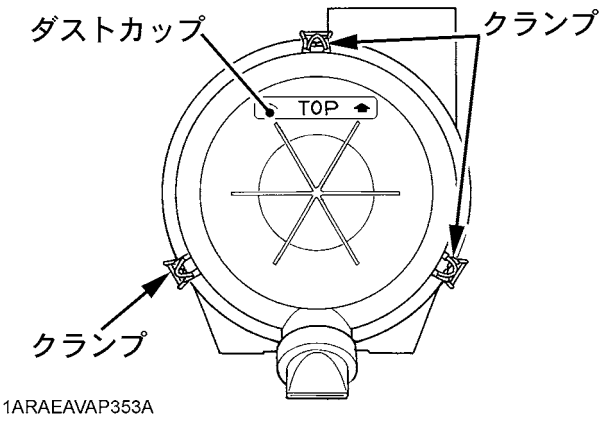
補　足

＊ ほこりが溜まるとエアクリーナの詰まりの原因となります。

■エアクリーナの点検･掃除･交換

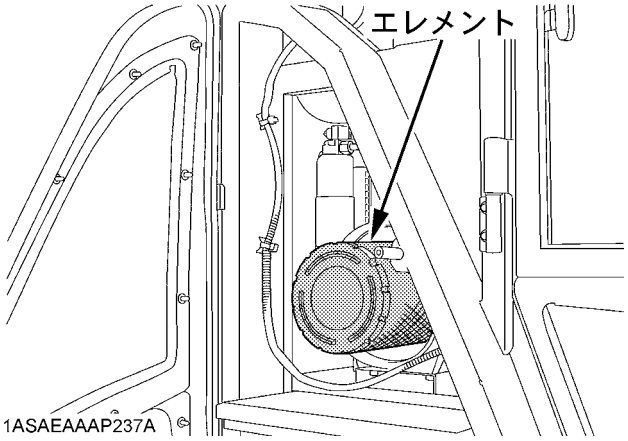
防じんカバーを開く又は，取外したあと，クランプ３箇所を外してダストカップを取外してください。





◆ 点検・掃除・交換

エアクリーナエレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントを掃除するときは，エレメントを引抜いて取外したあとエレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や 300 時間経過しているときは，交換してください。作業終了後は，ダストカップを取付けて，防じんカバーを閉じてください。

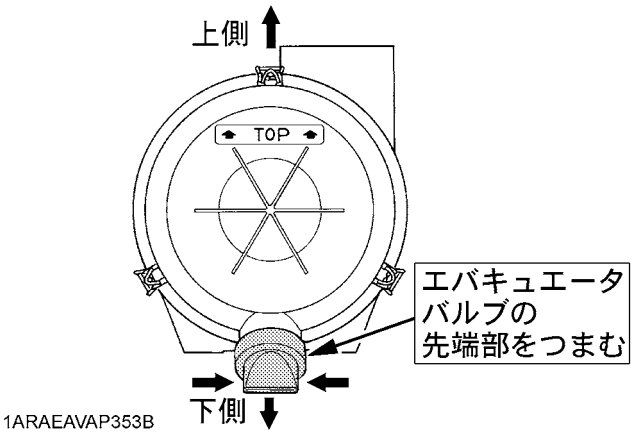


重　要

* 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
* エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
* エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
* エレメントを掃除する場合，エアの圧力は 205kPa (2.1kgf/cm²) をこえないよう注意し，エアーガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。

補　足

* エアクリーナの点検を行なったときは，ダストカップのエバキュエータバルブの先端部をつまんでダストカップ内に溜まったゴミを排出してください。
* ダストカップを取付けるときは **【TOP】** の文字を上側にしてください。



■パイプ･ホース類の点検

警　告

＊ 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。
＊ 使用者は交換作業を行なわないでください。

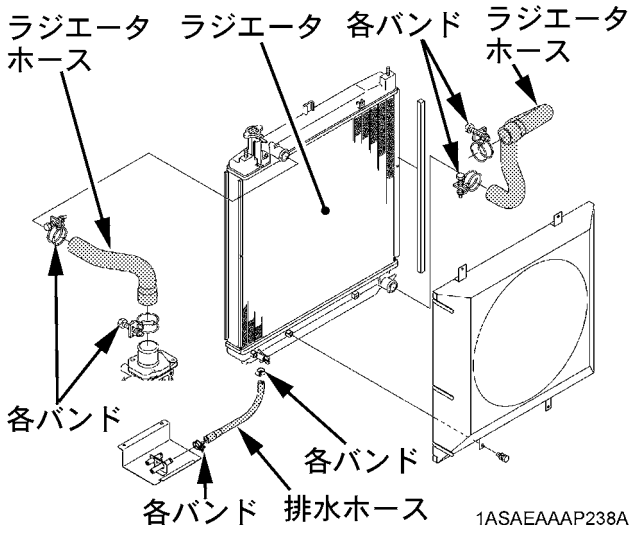
◆ 点検

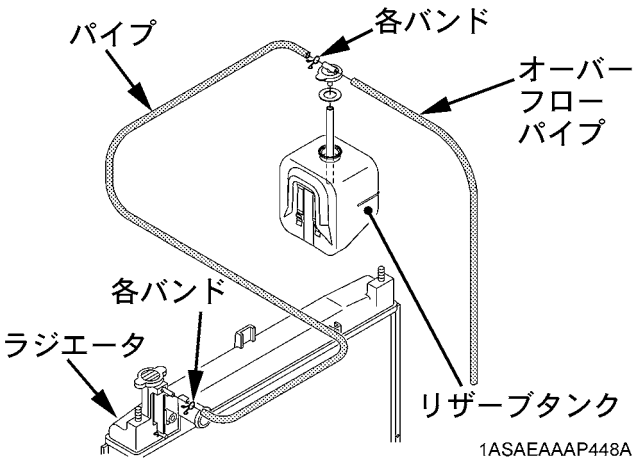
エンジン，エアクリーナ，プレクリーナ，ラジエータ，リザーブタンク，オイルクーラ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときやゆるんでいるときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

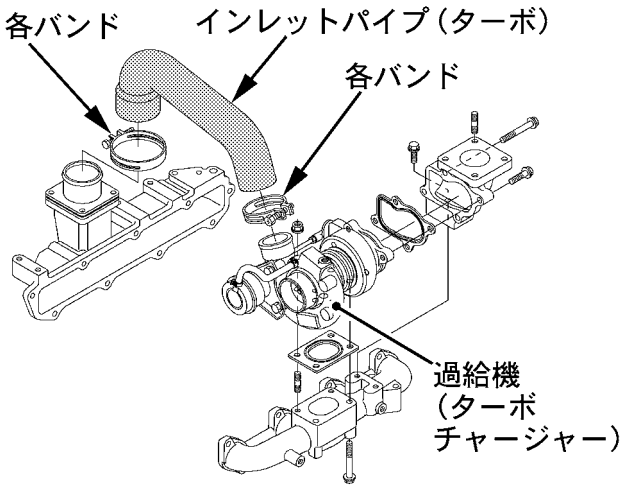
重　要

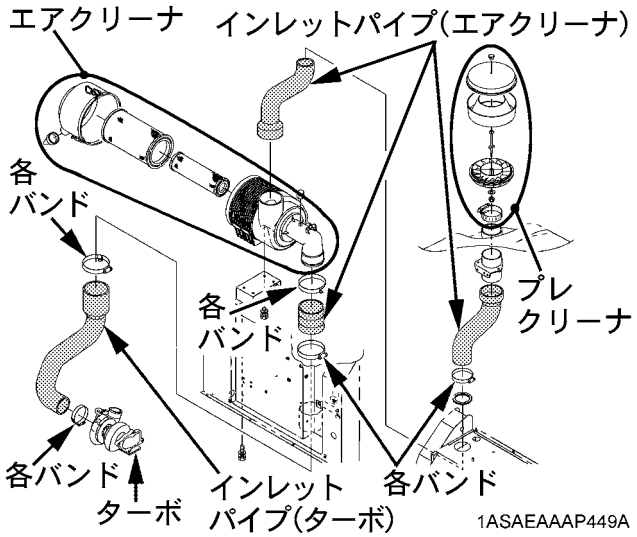
＊ オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付きを起します。
＊ 油もれや水もれをしていなくても，**２年経過しているときや劣化の激しい場合**は購入先に連絡して交換してください。

◆ エンジン関係

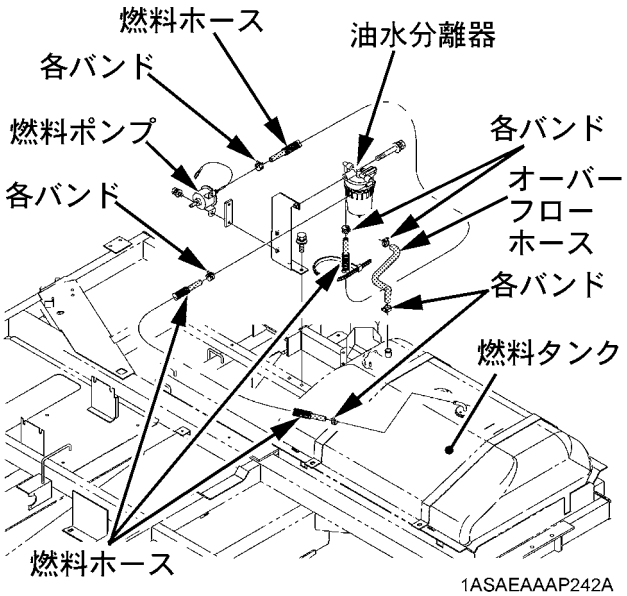


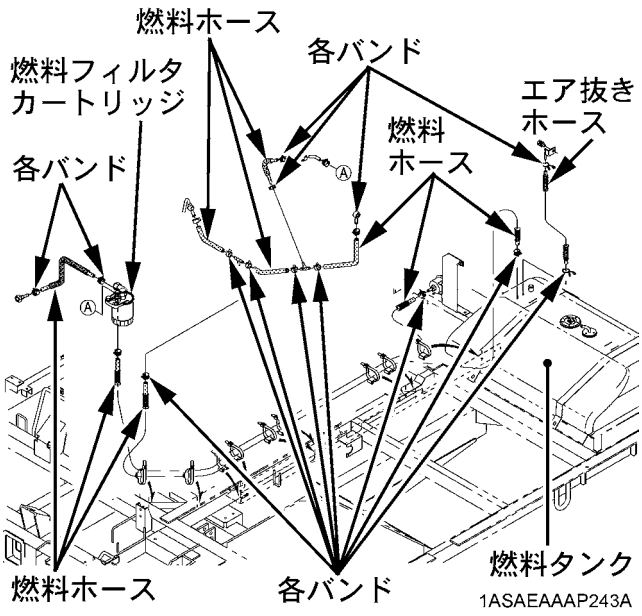




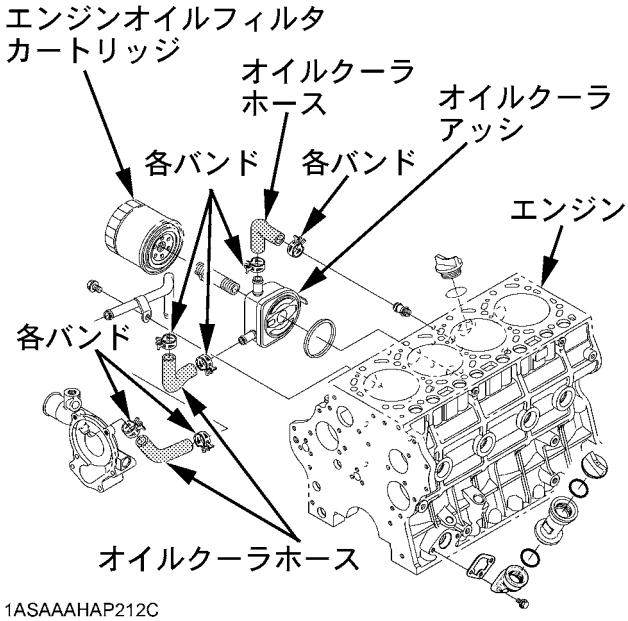


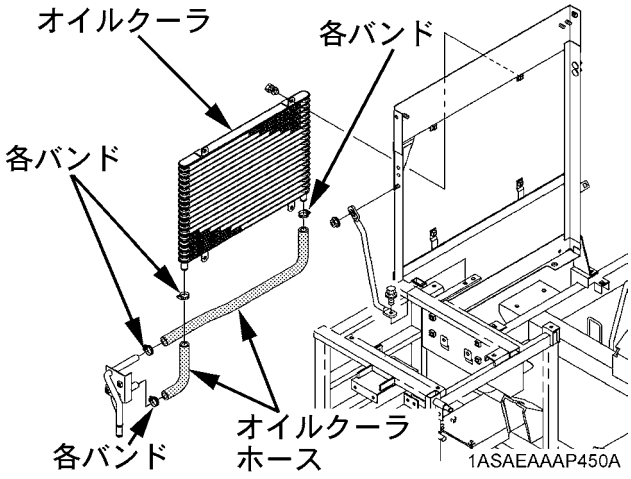
◆ 燃料ホース

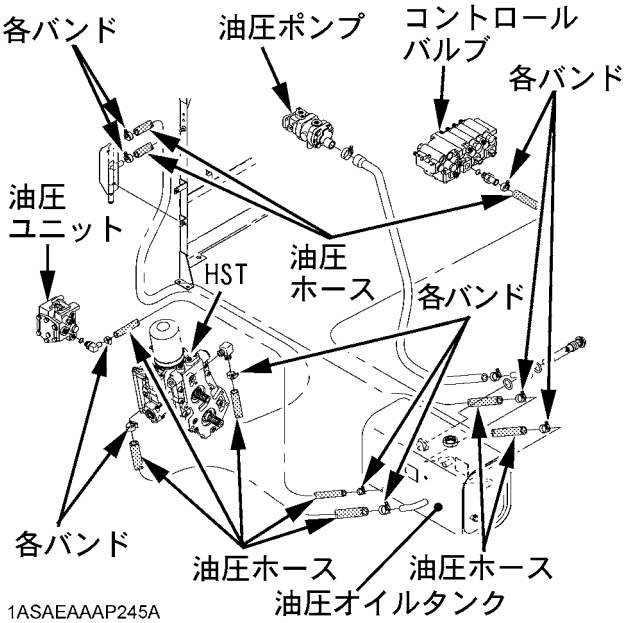


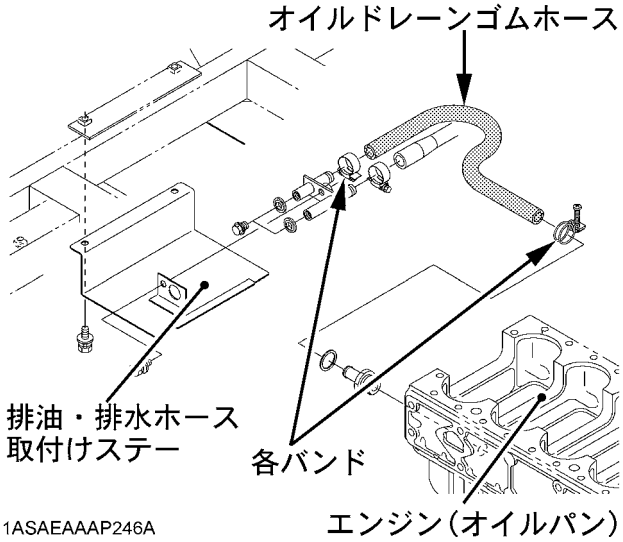


◆ オイル・油圧関係







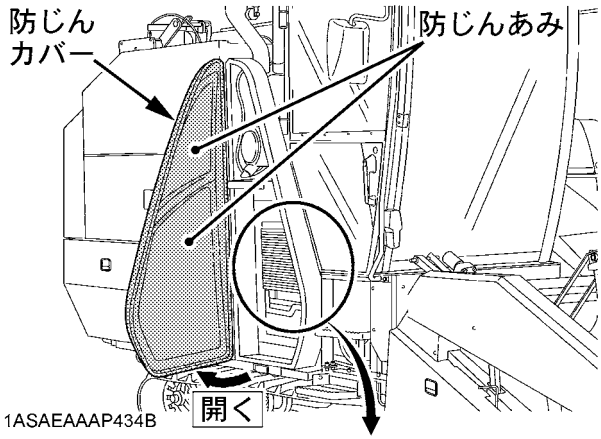


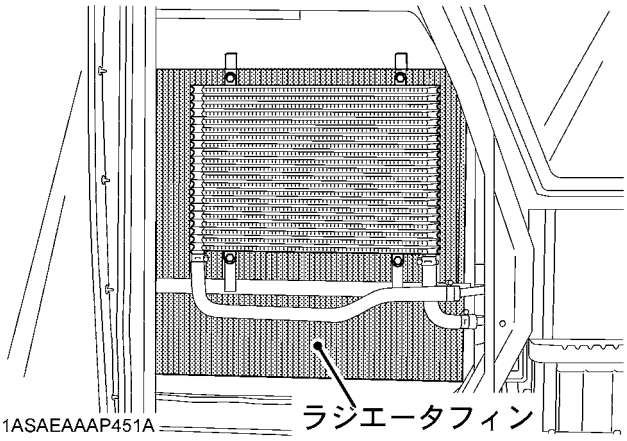
■防じんあみ，各フィンの掃除

防じんあみやフィンの掃除を行なうときは，防じんカバーを開いて（131 ページ参照）ください。掃除後は防じんカバーを閉じてください。

◆ 掃除

圧縮空気を吹付けるなどして，防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィンやエンジン付近に付着したごみを取除いてください。



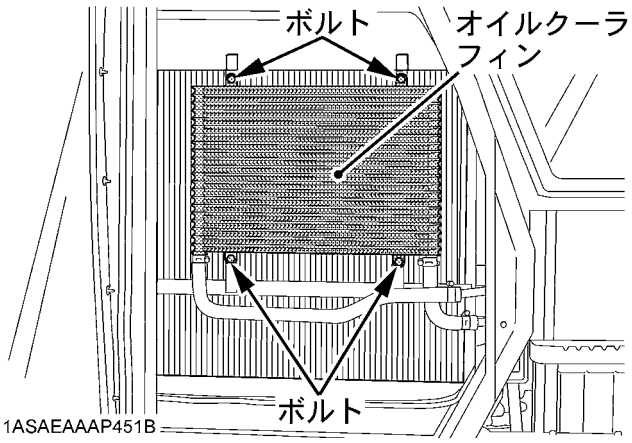


重　要

* 各フィンの掃除を行なうときは，ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用しないでください。特にラジエータフィンを傷めると，エンジンの出力を低下させたり故障の原因になります。
* エンジンの防じんあみ，ラジエータフィンやエンジンの周囲にごみが詰まったまま運転すると，エンジンがオーバーヒートしたり，火災が発生する原因となります。

補　足

＊ 防じんカバーの防じんあみにごみの付着が多いときは，1 日 2 ～ 3 回掃除を行なってください。
＊ ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は，ボルトを取外してオイルクーラを手前に倒してから掃除してください。



■油水分離器（セパレータ）の点検・排水・掃除

警　告

＊ グレンタンクの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

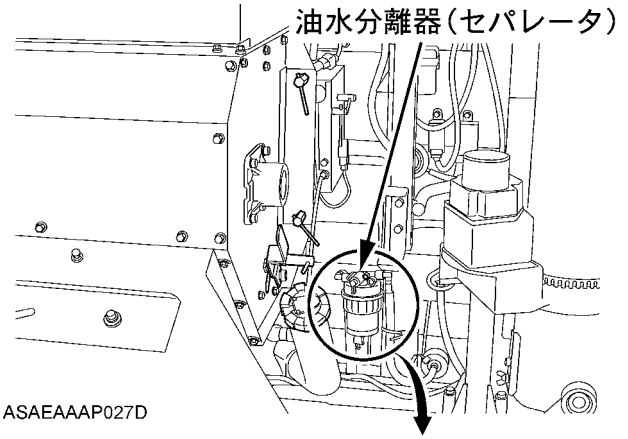
油水分離器の点検･排水を行なうときは，グレンタンク後カバーを開いてください。点検･排水後は，グレンタンク後カバーを閉じてください。

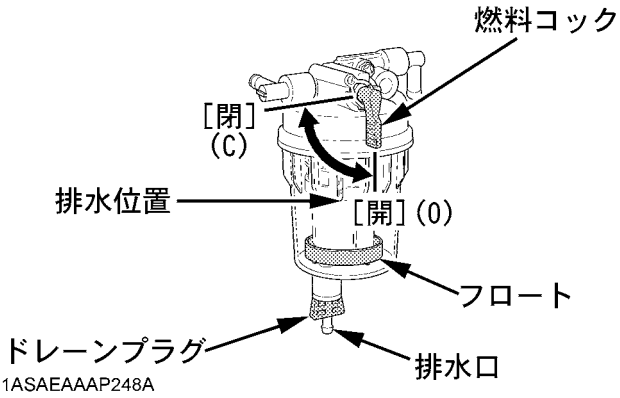
◆ 点検

グレンタンクを開き点検を行なったとき，セパレータのカップに水が貯まり，赤いフロート（浮輪）が排水位置（エレメントカップの上限）まで上昇したときは排水してください。

◆ 排水

1. セパレータの燃料コックを **［閉］(C)** 位置にします。
2. セパレータ下部にあるドレーンプラグをゆるめて水を排出します。
3. ドレーンプラグを締付けたあと，燃料コックを **［開］(O)** 位置にします。



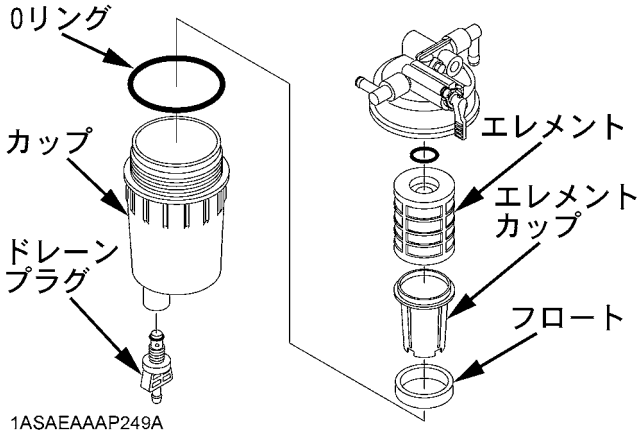


◆ 掃除

1. **◆排水**の手順でカップ内の水を排出します。
2. カップをゆるめて取外します。
3. カップやエレメントなどを軽油で洗浄します。
4. 取外した逆の手順でセパレータを取付けます。
5. ドレーンプラグを締付けたあと，燃料コックを**［開］(O)**位置にします。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意してください。



＊ Oリングは傷付けないようにしてください。また，カップに正しく入れて組付けてください。

補　足

＊ 赤いフロートを捨てないでください。
＊ 排水後は，メインスイッチのキーを**［入］**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

6. グレンタンクを閉じます。

■燃料フィルタカートリッジの交換

警　告

＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

燃料フィルタカートリッジの交換を行なうときは，グレンタンクを開いてください。また，交換は燃料を給油する前に行なってください。交換後はグレンタンクを閉じてください。

重　要

＊ 燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ 交換後は，メインスイッチのキーを**［入］**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

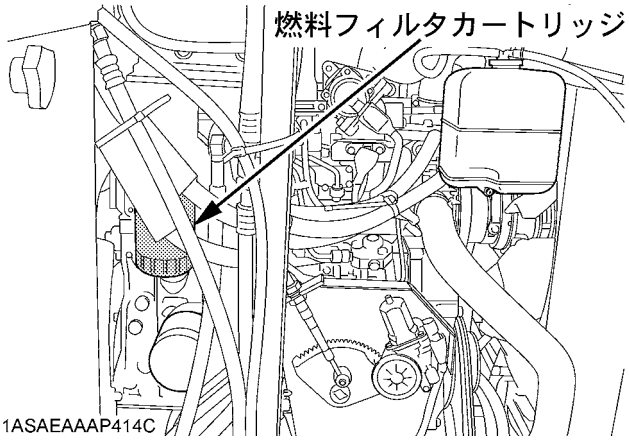
◆ 交換

1. グレンタンクを開きます。
2. セパレータの燃料コックを**【閉】**位置にします。
3. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

4. 新しいカートリッジは 0 リングに燃料を薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。



5. セパレータの燃料コックを**【開】**位置にします。
6. グレンタンクを閉じます。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

警　告

＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

エンジンオイルフィルタカートリッジの交換を行なうときは，グレンタンクを開いてください。交換後は，グレンタンクを閉じてください。

◆ 交換

補　足

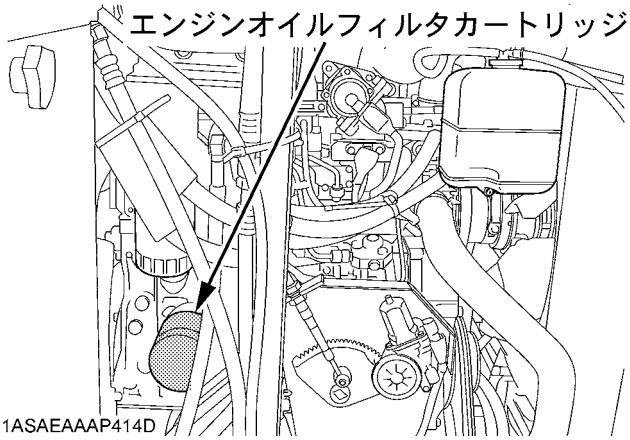
＊ エンジンオイルフィルタカートリッジは，エンジンオイルの交換と同時に交換してください。

1. グレンタンクを開きます。
2. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

3. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
4. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



重　要

＊ 新しいカートリッジは 0 リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

5. グレンタンクを閉じます。

■ HST オイルフィルタカートリッジの交換，油圧オイルタンクフィルタの洗浄・交換

警　告

＊ 刈取部を上げて洗浄・交換を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。

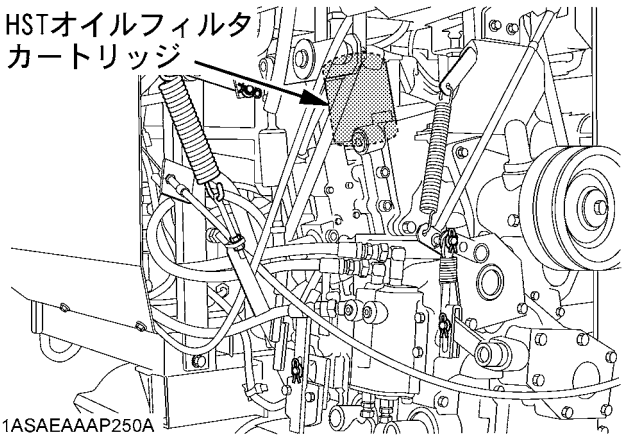
補　足

＊ HST オイルフィルタカートリッジの交換と油圧オイルタンクフィルタの洗浄又は，交換は同時に行なってください。

1. 油圧オイルタンクの給油栓を取外してから，排油プラグを取外してオイルを排出します。(181 ページ参照)
2. 専用工具を使って HST オイルフィルタカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

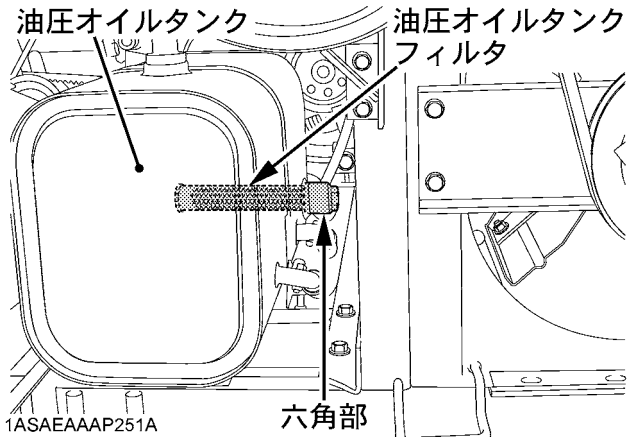


3. 新しい HST オイルフィルタカートリッジを取付けます。

重　要

＊ 新しい HST オイルフィルタカートリッジは O リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ HST オイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，HST の故障の原因となります。

4. 油圧オイルタンクの排油プラグを取付けます。
5. 油圧オイルタンクフィルタの六角部をスパナでゆるめて，フィルタを取外します。
6. 油圧オイルタンクフィルタが汚れているときは，軽油などで洗浄し，破損しているときは交換します。



7. 取外した逆の手順で油圧オイルタンクフィルタを取付けます。
8. 油圧オイルタンクにオイルを規定量給油します。(181 ページ参照)

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

重　要

＊ 給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

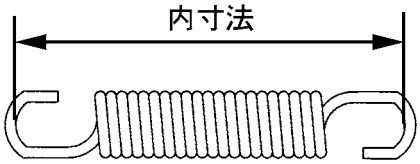
■各部ワイヤ・ロッドの点検・調整

重　要

＊ テンションスプリングの張り調整が終わり，調整ナット又は，ロックナットを締付けるとき，テンションスプリングをねじれた状態で締付けないでください。破損の原因となります。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



1ASADACAP390A

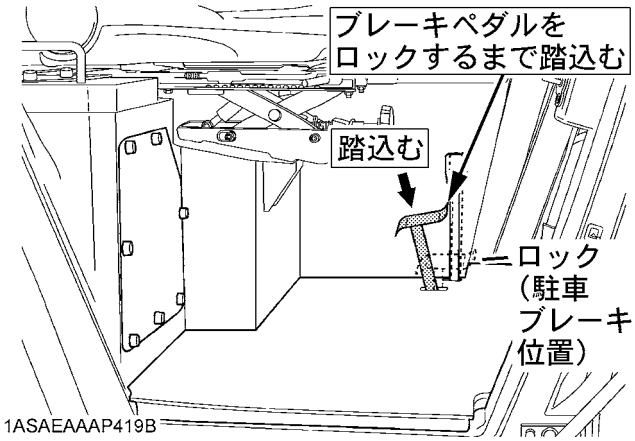
■駐車ブレーキロッドの点検・調整

警 告

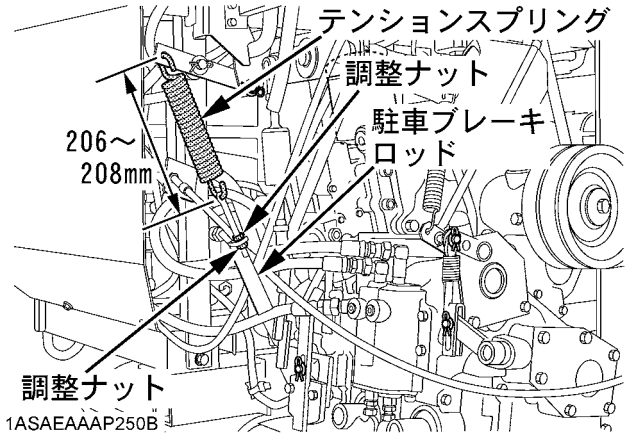
＊ 刈取部を上げて点検・調整を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。

テンションスプリングの長さを 206 ～ 208mm に調整します。

1. 駐車ブレーキを掛けます。



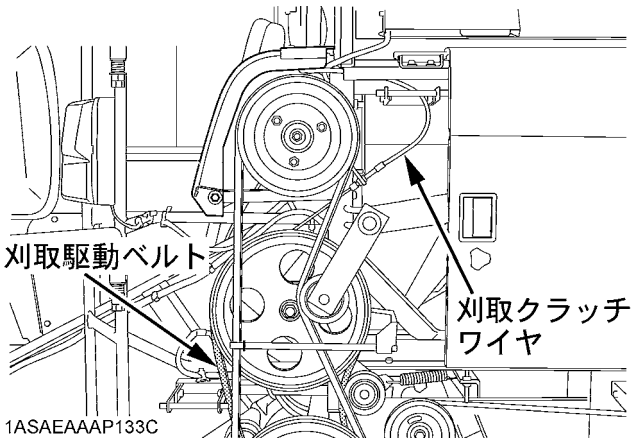
2. 刈取部を上げたあと，刈取部の落下防止を行ないエンジンを停止します。
3. 調整ナット２個をゆるめて，調整します。



4. 調整ナットを締付けます。
5. 刈取部を下げます。
6. 駐車ブレーキを解除します。

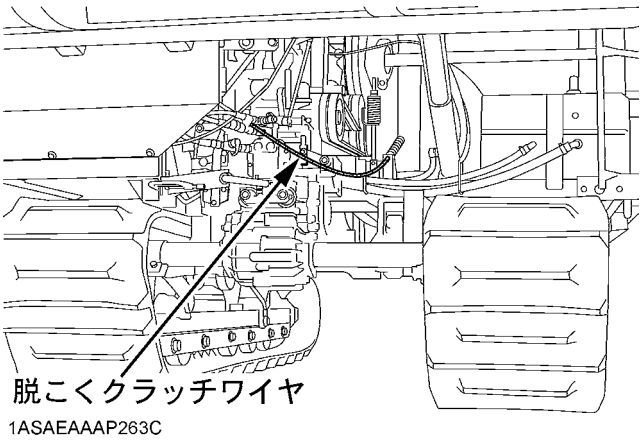
■刈取クラッチワイヤの点検・調整

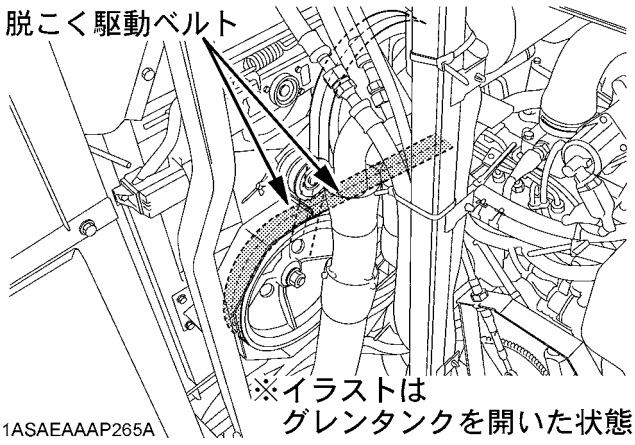
点検を行なうときは，脱こく左サイドカバー1 を取外してください。(139 ページ参照)
調整については，211 ページを参照してください。
(ワイヤとベルトの張り調整は同じです。)



■脱こくクラッチワイヤの点検・調整

点検を行なうときは，刈取部を上げてください。
調整については，207 ページを参照してください。
(ワイヤとベルトの張り調整は同じです。)





■各部ベルトの点検･調整

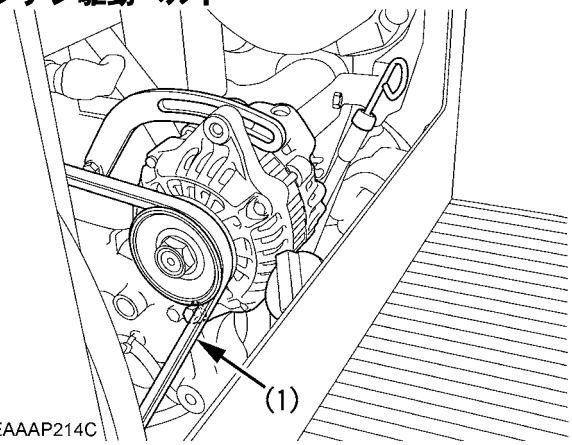
下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検個所	図番	名称	サイズ	本数（本/台）	張り調整		
					※テンションスプリング取付け長さ（mm）		たわみ量（mm）
エンジン・刈取部周辺部	(1)	ファン駆動ベルト	A48（コグ）	1	—		10～12
	(2)	ミッション駆動ベルト	特C60（コグ）	2	A	72～76	—
	(3)	脱こく駆動ベルト	特C60（コグ）	2	B	180～183	—
	(4)	脱こく入力駆動ベルト	特C65	2	C	142～146	—
	(5)	コンプレッサ駆動ベルト	特FM35（コグ）	1	—		3～5
	(6)	フィーダ逆転駆動ベルト	特C45	1	—		
	(7)	刈刃駆動ベルト	特C85	1	D	141～145	—
	(8)	リール変速ベルト	PRF16.7-11-877	1	E	63～67	—
脱こく・チョッパ部	(9)	刈取駆動ベルト	特C55	1	F	123～127	—
	(10)	こぎ胴駆動ベルト	特C83	2	G	173～177	—
	(11)	1・2番・カウンタ駆動ベルト	特C150	1	H	113～117	—
	(12)	トウミ駆動ベルト	特C150	1	I	144～148	—
	(13)	揺動駆動ベルト	特B51	1	J	121～125	—
	(14)	１番バケット上部スクリュ駆動ベルト	特B40	1	K	119～123	—
	(15)	チョッパ駆動ベルト	特C71	1	L	120～124	—
グレンタンク部	(16)	タンクスクリュ駆動ベルト	特B71	1	M	118～122	—

重　要

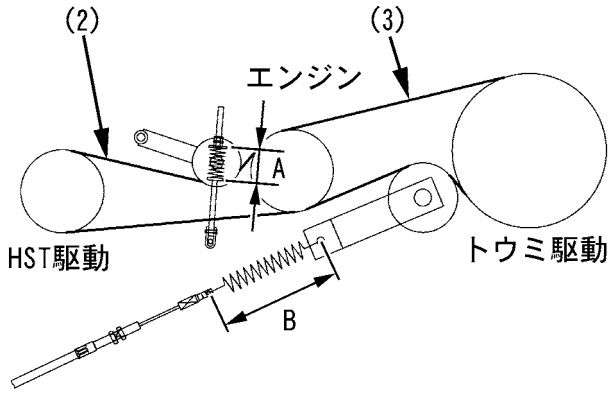
＊ ミッション駆動ベルト，脱こく駆動ベルト，脱こく入力駆動ベルト，こぎ胴駆動ベルトの交換を行なうときは，２本同時に交換してください。単品で交換すると，新しく交換したベルトの寿命が短くなるおそれがあります。

(1) ファン駆動ベルト



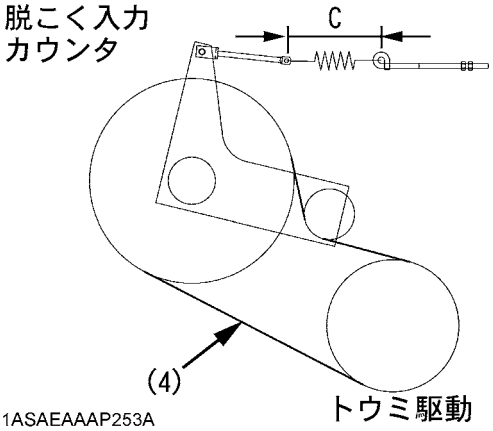
1ASAEAAAP214C

(2) ミッション駆動ベルト・(3) 脱こく駆動ベルト



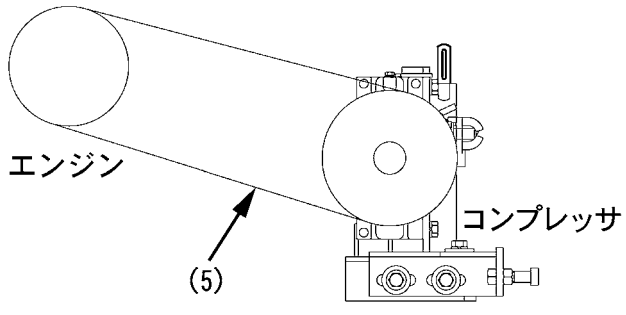
1ASAEAAAP252A

(4) 脱こく入力駆動ベルト



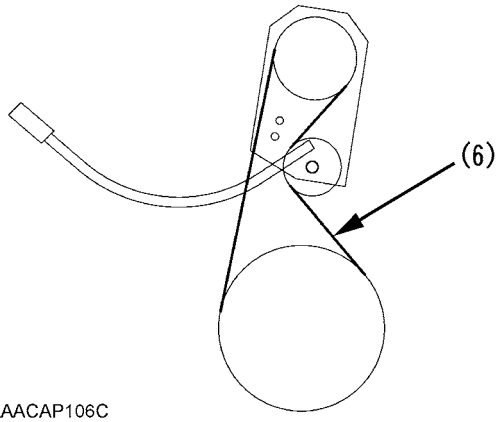
1ASAEAAAP253A

(5) コンプレッサ駆動ベルト



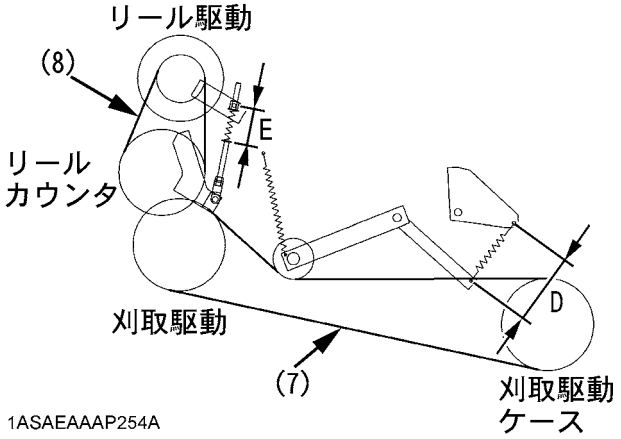
1ARAEASAP351E

(6) フィーダ逆転駆動ベルト



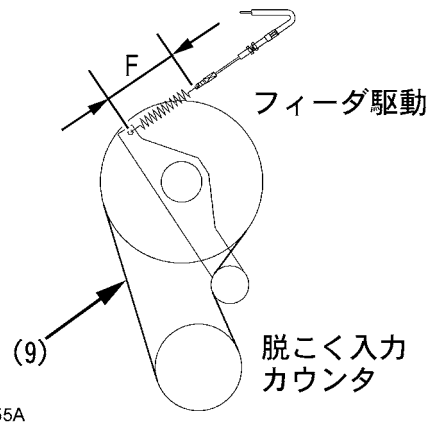
1ASAAACAP106C

(7) 刈刃駆動ベルト・(8) リール変速ベルト



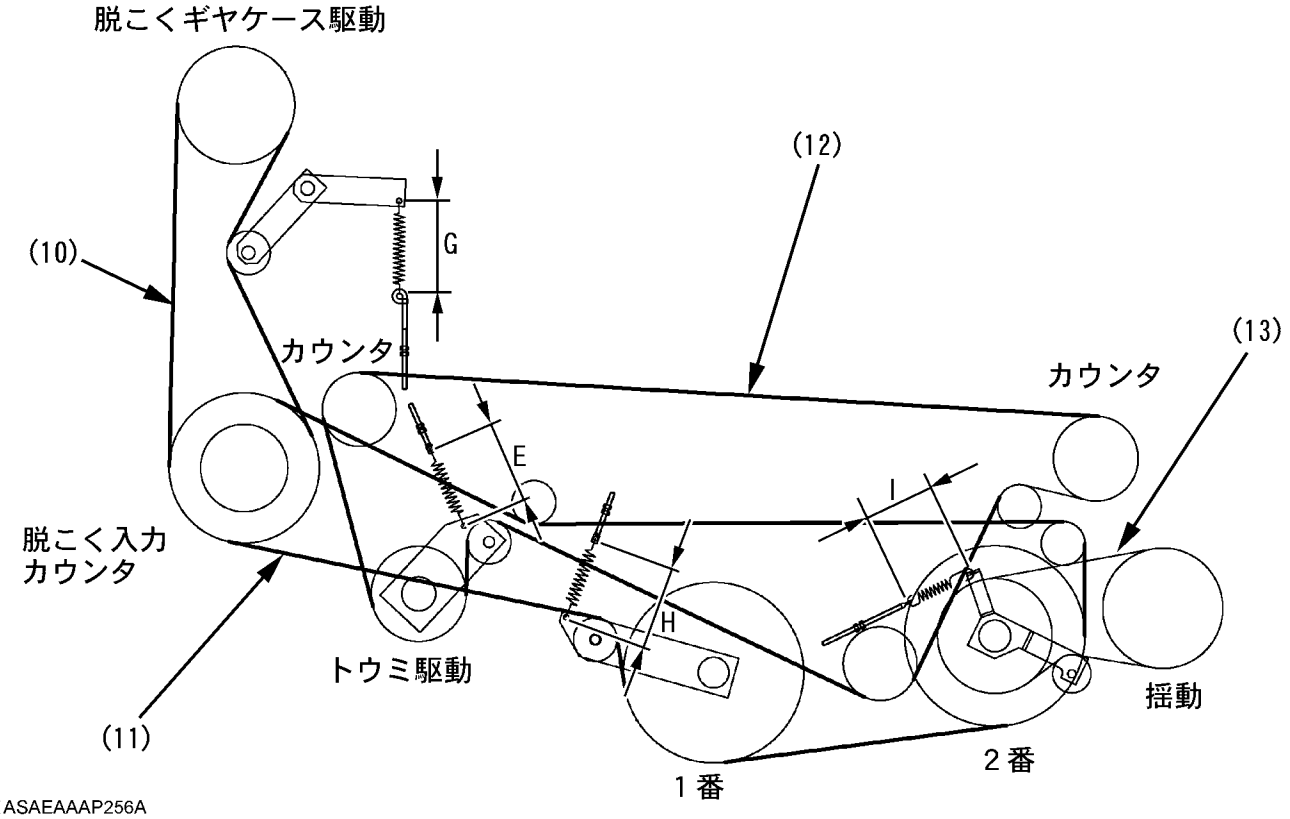
1ASAEAAAP254A

(9) 刈取駆動ベルト



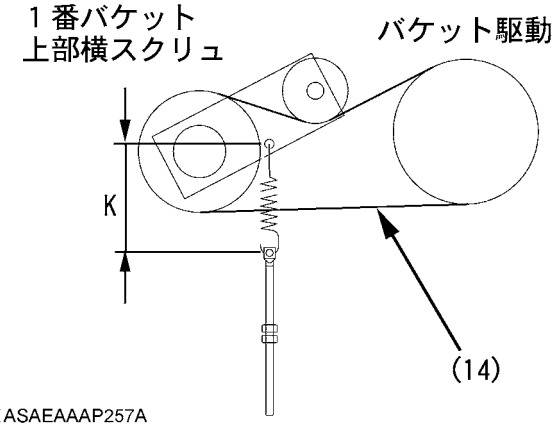
1ASAEAAAP255A

(10) こぎ胴駆動ベルト・(11) 1番・2番・カウンタ駆動ベルト・(12) トウミ駆動ベルト (13) 揺動駆動ベルト



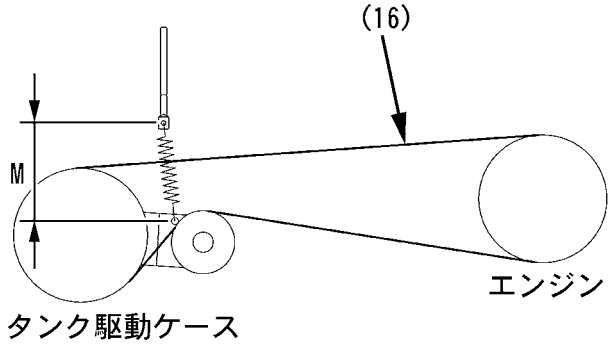
1ASAEAAAP256A

(14) 1番バケット上部スクリュ駆動ベルト



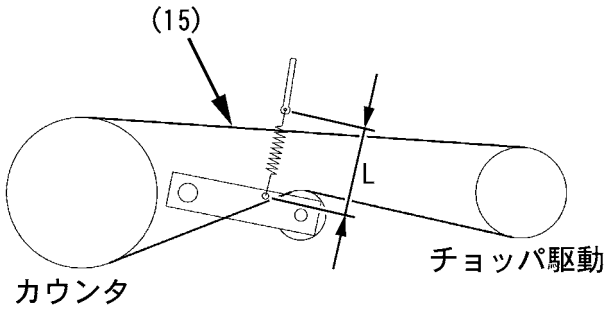
1ASAEAAAP257A

(16) タンクスクリュ駆動ベルト



1ASAEAAAP259A

(15) チョッパ駆動ベルト

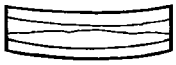
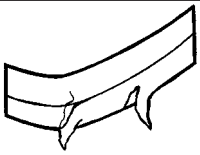
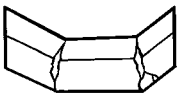


1ASAEAAAP442A

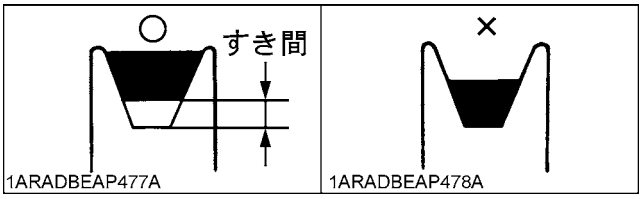
◆ 点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

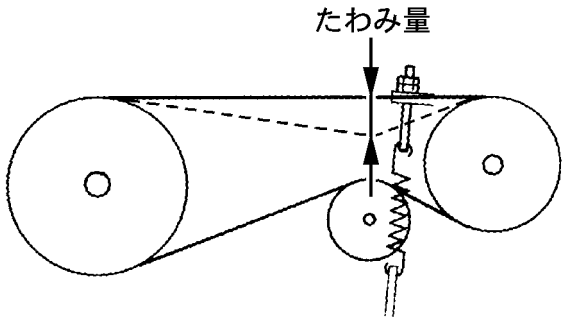
1．ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		
1ARADBEAP474A	1ARADBEAP475A	1ARADBEAP476A

2．ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



3．ベルトの伸び（たわみ量）



上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

重　要

＊ ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

◆ 調整

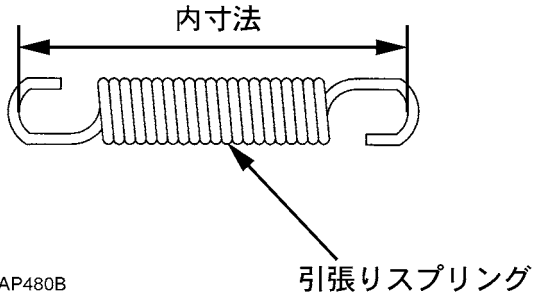
ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は，張り調整を行なってください。

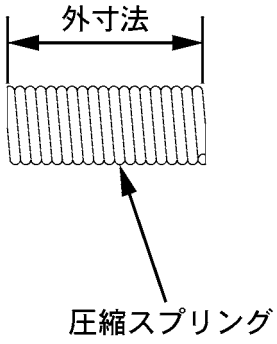
重　要

＊ テンションスプリングの張り調整が終わり，調整ナット又は，ロックナットを締付けるとき，テンションスプリングをねじれた状態で締付けないでください。破損の原因となります。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，引張りスプリングの場合はフックの内寸法，圧縮スプリングの場合は外寸法を測定してください。

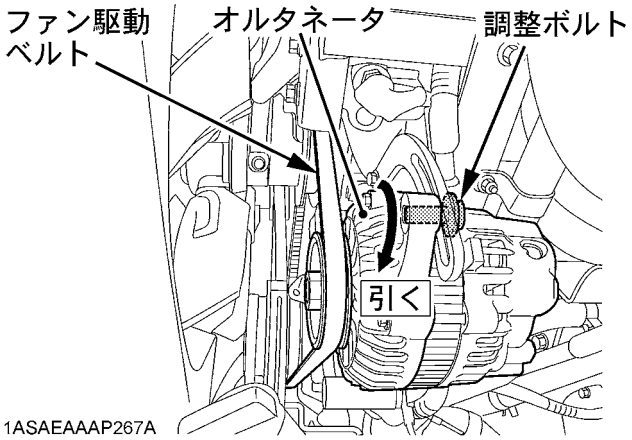


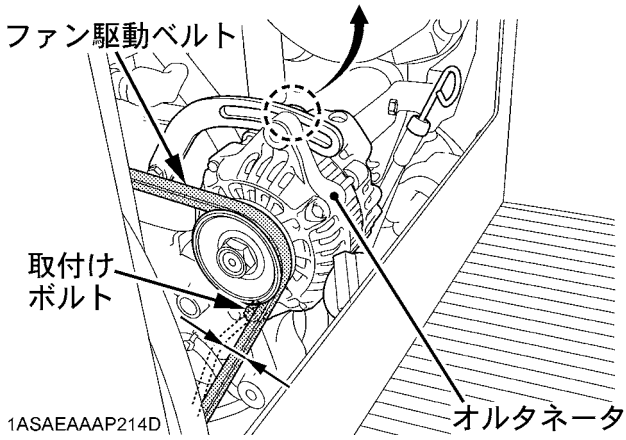


■ファン駆動ベルトの点検・調整

指先でベルトの中央部を押したとき（約 100 ～ 110N {10 ～ 11kgf} の荷重）のたわみ量を 10 ～ 12mm に調整します。

1. 運転席下カバーを取外します。(132 ページ参照)
2. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. オルタネータを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。





5. 運転席下カバーを取付けます。

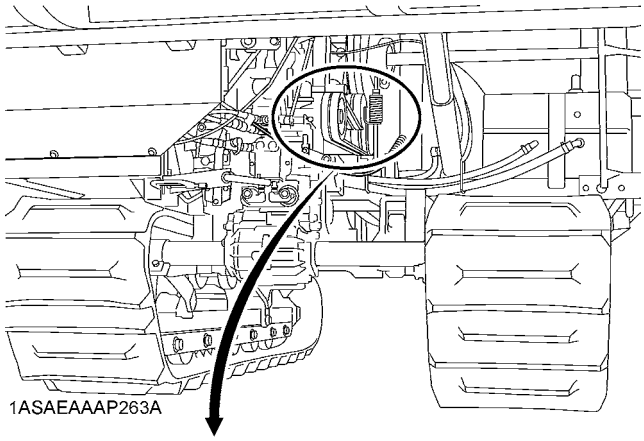
■ミッション駆動ベルトの点検・調整

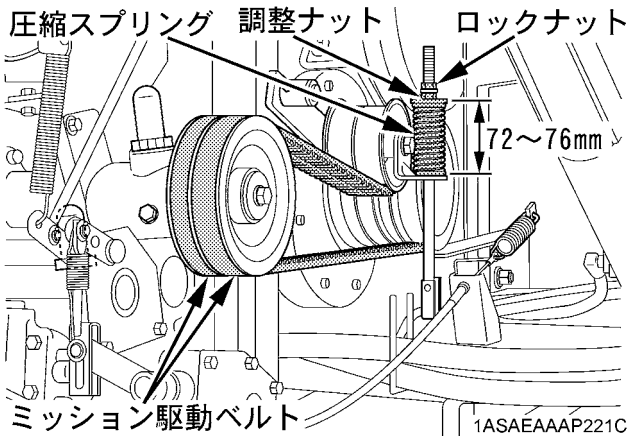
警 告

＊ 刈取部を上げて点検・調整を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。

圧縮スプリングの長さを72～76mmに調整します。

1. 刈取部を最上昇位置まで上げ，刈取下降ロック金具を**［ロック］**位置にして刈取部の下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けます。





重 要

＊ ロックナットを締付けるとき，圧縮スプリングをねじれた状態で締付けないでください。破損の原因となります。

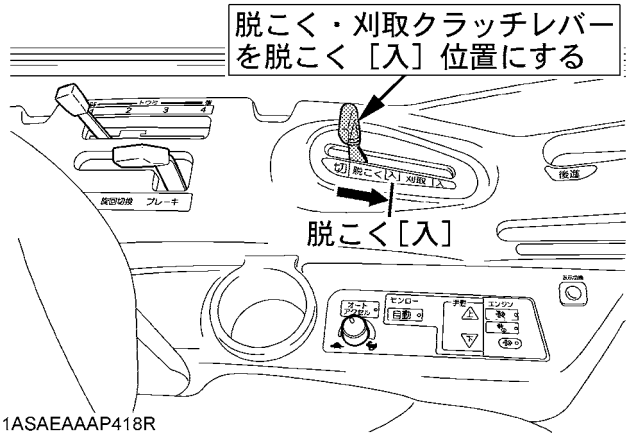
■脱こく駆動ベルトの点検・調整

警　告

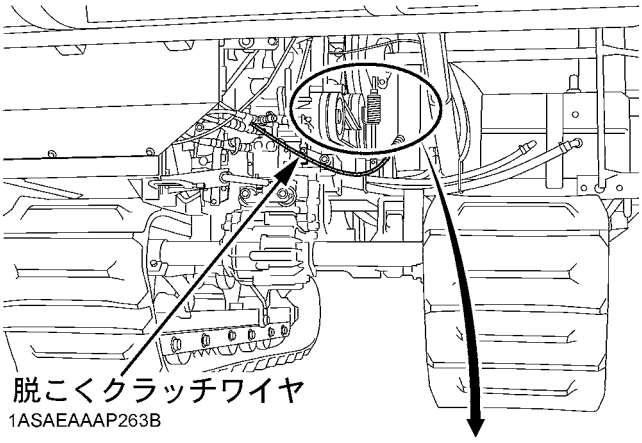
＊ 刈取部を上げて点検・調整を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。

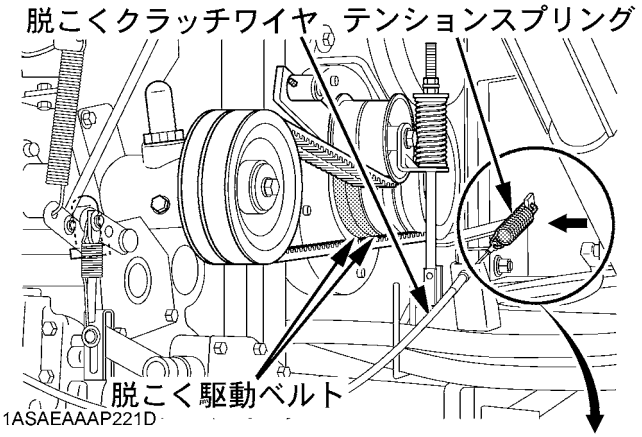
テンションスプリングの長さを180～183㎜に調整します。

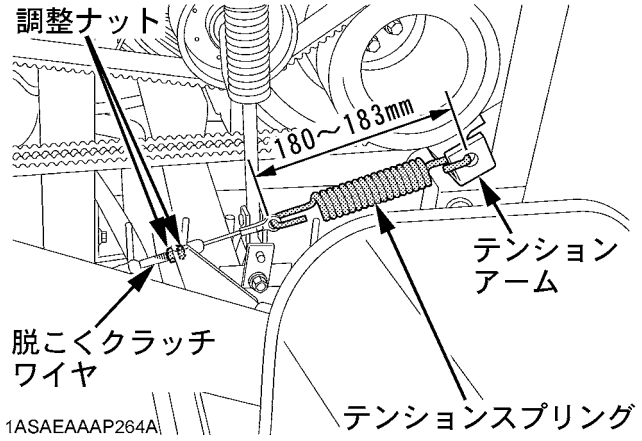
1. メインスイッチのキーを**【入】**位置にしたあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく【入】**位置にしてテンションスプリングを引張った状態にします。

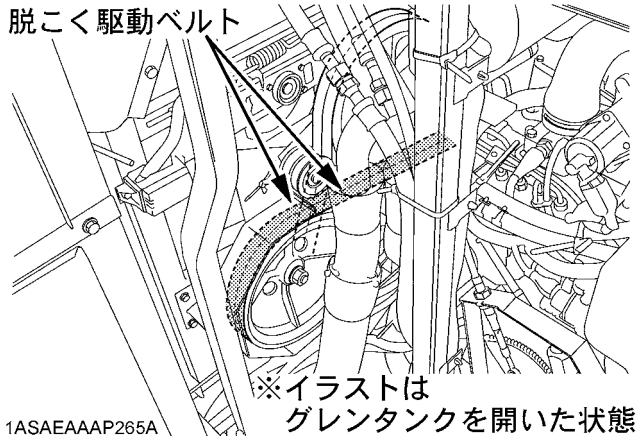


2. 刈取部を最上昇位置まで上げ，刈取下降ロック金具を**【ロック】**位置にして刈取部の下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
3. 脱こくクラッチワイヤと脱こく駆動ベルトのテンションアームを取付けているテンションスプリングの調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けます。
5. 脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にします。





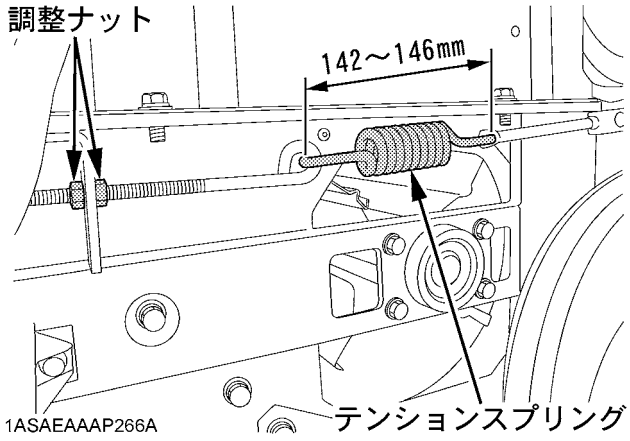


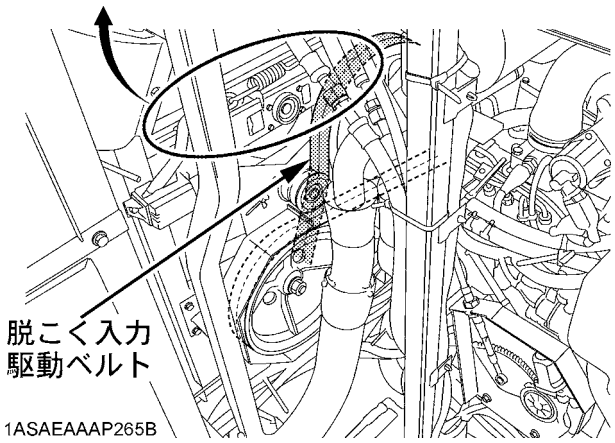


■脱こく入力駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを142～146mmに調整します。

1. グレンタンクを開きます。(145 ページ参照)
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。



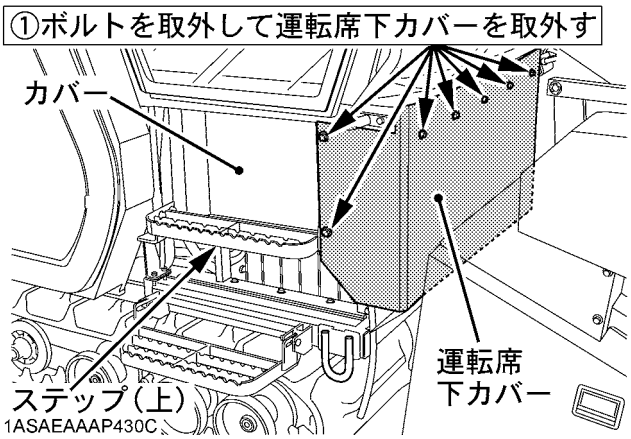


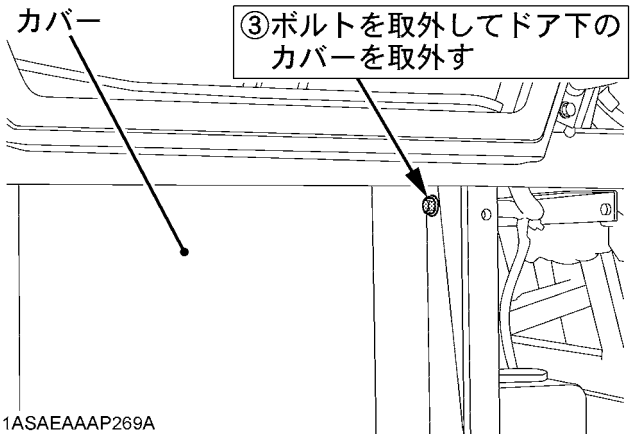
3. 調整ナットを締付けます。
4. グレンタンクを閉じます。

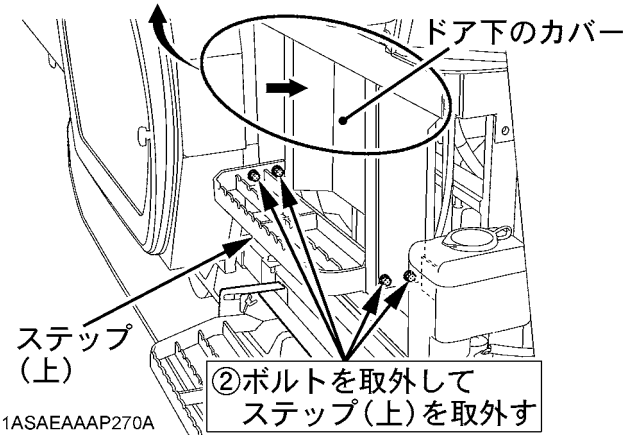
■コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整

指先でベルトの中央部を押したとき（約 16N {1.6kgf} の荷重）のたわみ量を３～５ mm に調整します。

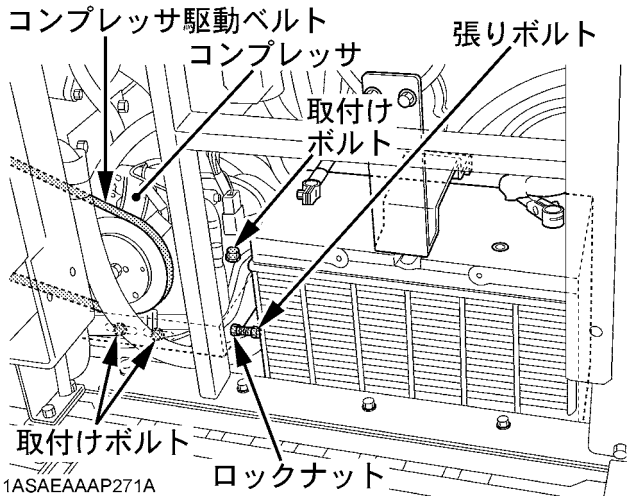
1. 運転席下カバー，ステップ（上），キャビンのドア下のカバーを取り外します。

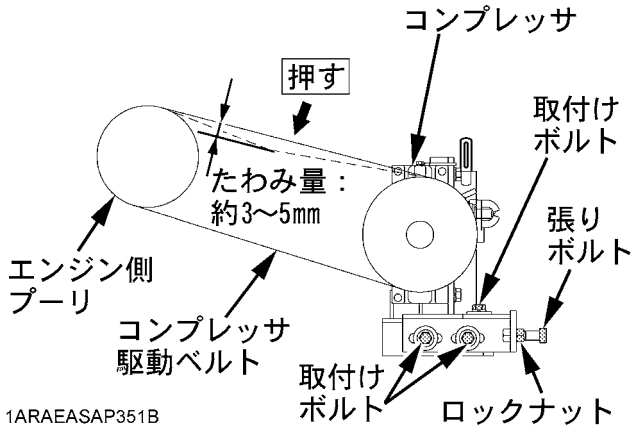






2. コンプレッサの取付けボルトをゆるめます。
3. 張りボルトのロックナットをゆるめたあと，張りボルトで調整します。





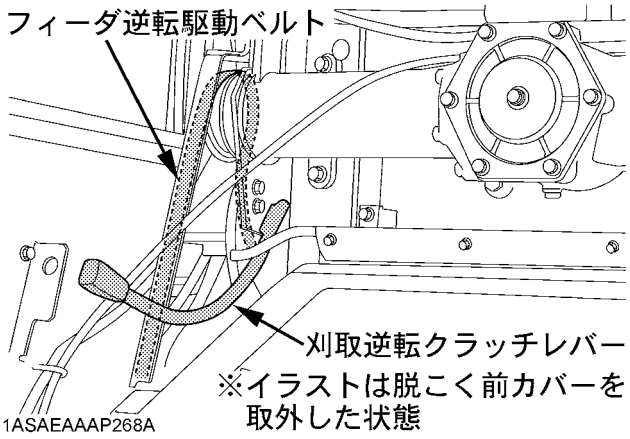
4. 張りボルトのロックナットを締付けたあと，コンプレッサの取付けボルトを締付けます。
5. キャビンのドア下のカバー，ステップ（上），運転席下カバーを取付けます。

■フィーダ逆転駆動ベルトの点検

フィーダ逆転駆動ベルトが伸びたとき又は，使用時間が 300 時間経過したときは，購入先に連絡して交換してください。

補　足

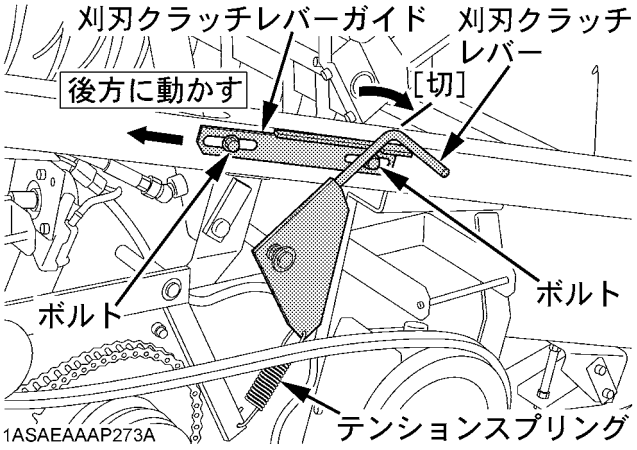
＊ 刈取逆転クラッチレバーを操作したとき（14 ページ参照），刈取部やフィーダ搬送部の動力が逆転しない場合は，フィーダ逆転駆動ベルトの伸びや摩耗状態を確認して購入先に連絡してください。

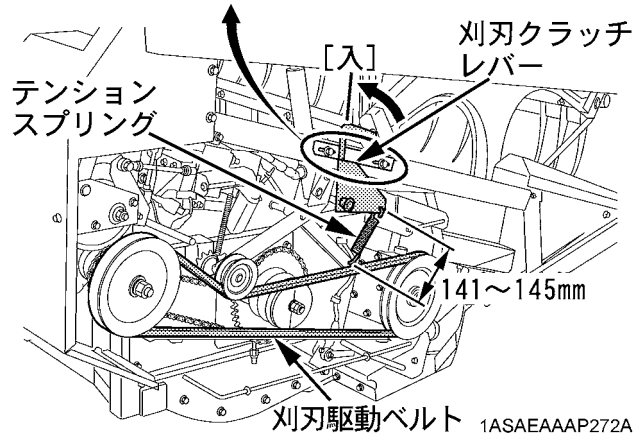


■刈刃駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを141～145mmに調整します。

1. 刈取右サイドカバーを取外します。(133 ページ参照)
2. 刈刃クラッチレバーを**【切】**位置にしたあと，刈刃クラッチレバーガイドのボルトをゆるめます。
3. 刈刃クラッチレバーガイドを後方に動かしたあと，ボルトを締付けます。
4. 刈刃クラッチレバーを**【入】**位置にしたあと，テンションスプリングの長さを測定します。
5. 範囲から外れているときは再度調整を行ないます。



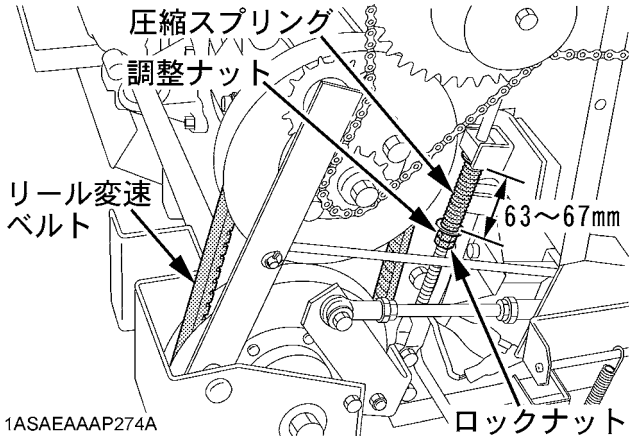


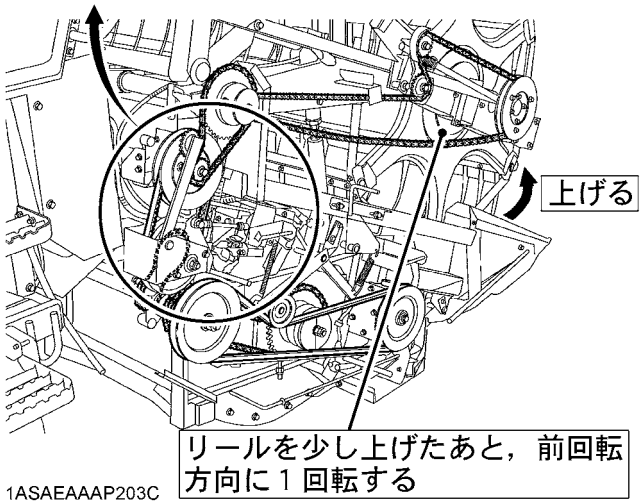
6. 刈取右サイドカバーを取付けます。

■リール変速ベルトの点検・調整

圧縮スプリングの長さを63～67mmに調整します。

1. エンジンを始動し，リールを少し上げたあと，エンジンを停止します。
2. リールサイドカバー，刈取右サイドカバーを取外したあと，刈取右サイド後部カバーを取外します。(133，133 ページ参照)
3. ロックナットと調整ナットをゆるめて調整を行ないます。
4. リールを手で前回転方向に 1 回転回したあと，再度テンションスプリングの長さを測定し，範囲から外れているときは再調整を行ないます。



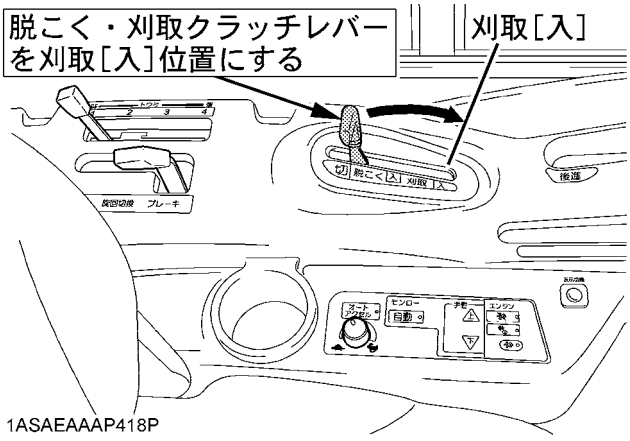


5. ロックナットと調整ナットを締付けたあと，刈取右サイド後部カバー，刈取右サイドカバー，リールサイドカバーを取付けます。

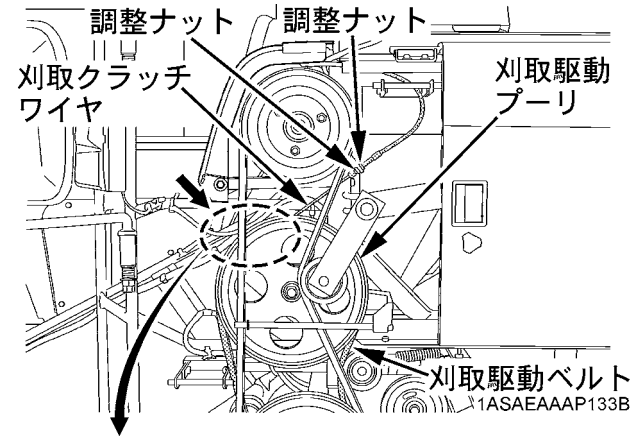
■刈取駆動ベルトの点検・調整

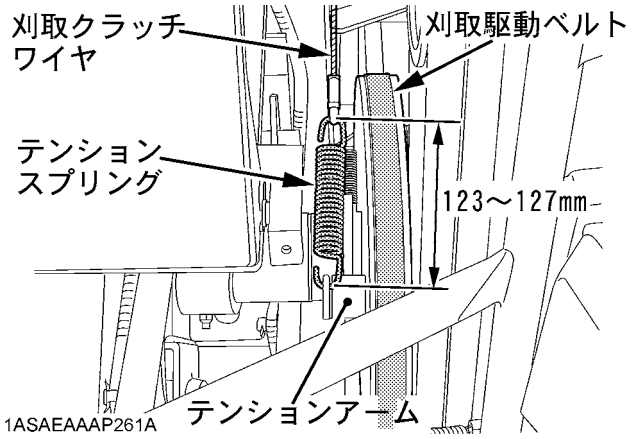
テンションスプリングの長さを123～127㎜に調整します。

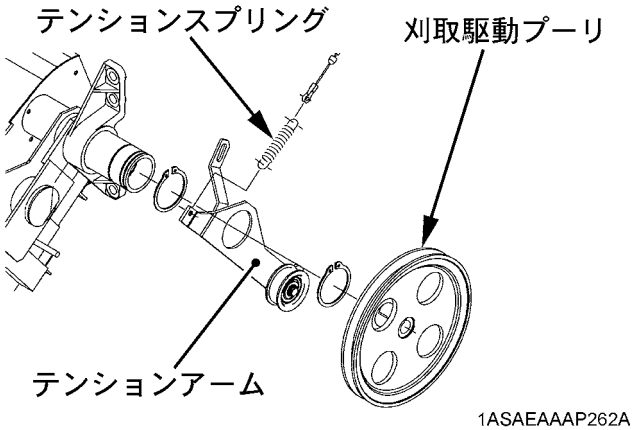
1. メインスイッチのキーを**【入】**位置にしたあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**刈取【入】**位置にしてテンションスプリングを引張った状態にします。



2. メインスイッチのキーを**【切】**位置にします。
3. 脱こく左サイドカバー１，２を取外します。(139 ページ参照)
4. 刈取駆動ベルトのテンションアームと刈取クラッチワイヤを接続しているテンションスプリングの調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。
5. 調整ナットを締付けます。





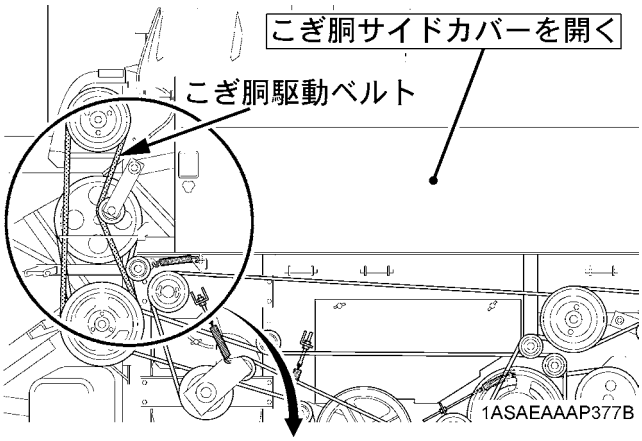


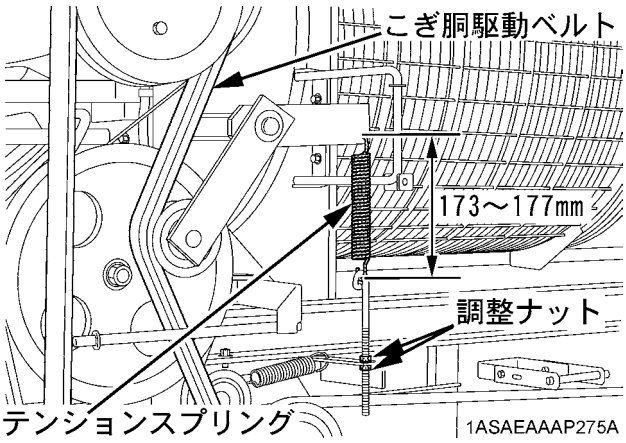
6. 脱こくサイドカバー１，２を取付けます。
7. 脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にします。

■こぎ胴駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを173～177㎜に調整します。

1. 脱こく左サイドカバー1，2　を取外します。(139 ページ参照)
2. こぎ胴サイドカバーを開きます。(141 ページ参照)
3. 調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。



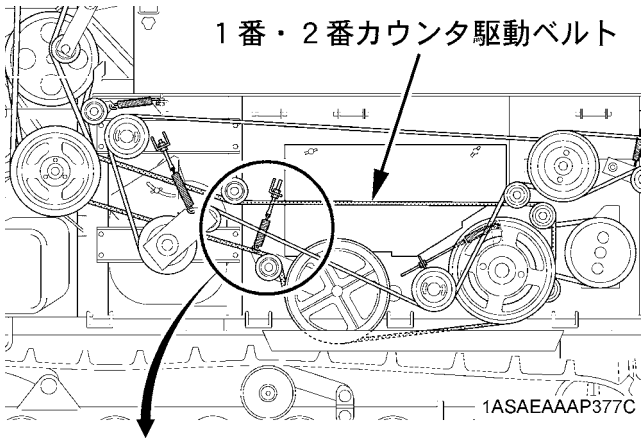


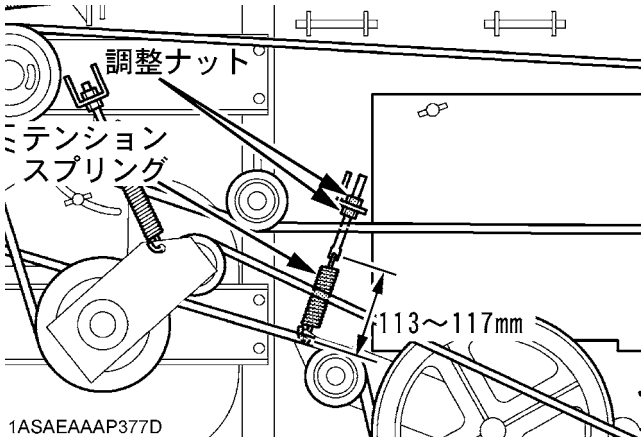
4. 調整ナットを締付けます。
5. こぎ胴サイドカバーを閉じたあと，脱こく左サイドカバー1，2を取付けます。

■1番･2番･カウンタ駆動ベルトの点検･調整

テンションスプリングの長さを113～117㎜に調整します。

1. 脱こく左サイドカバー2，3　を取外します。(139 ページ参照)
2. 調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。



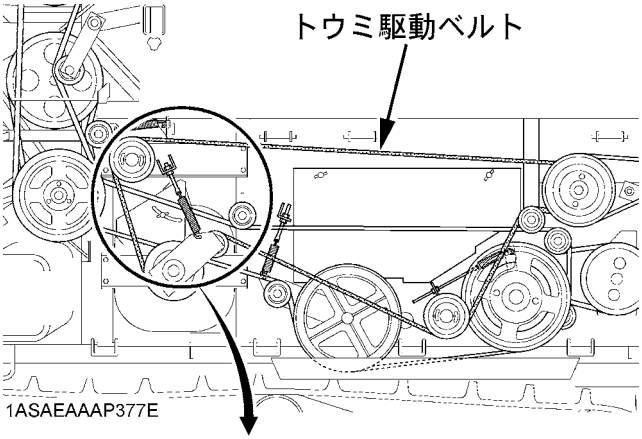


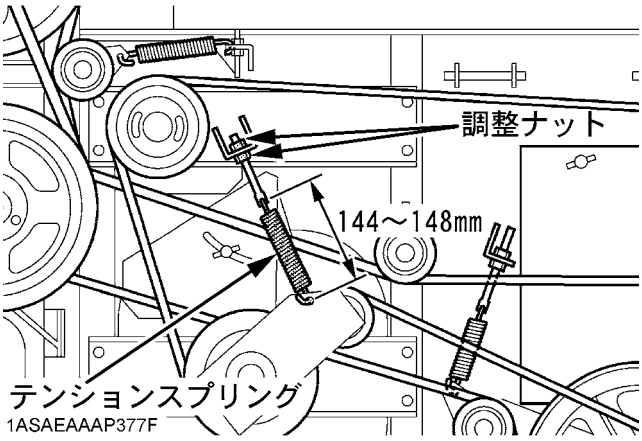
3. 調整ナットを締付けます。
4. 脱こく左サイドカバー2，3を取付けます。

■トウミ駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを144～148mmに調整します。

1. 脱こく左サイドカバー2，3　を取外します。(139ページ参照)
2. 調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。



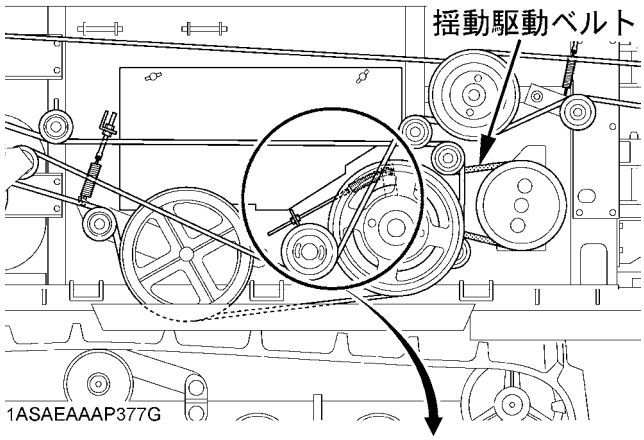


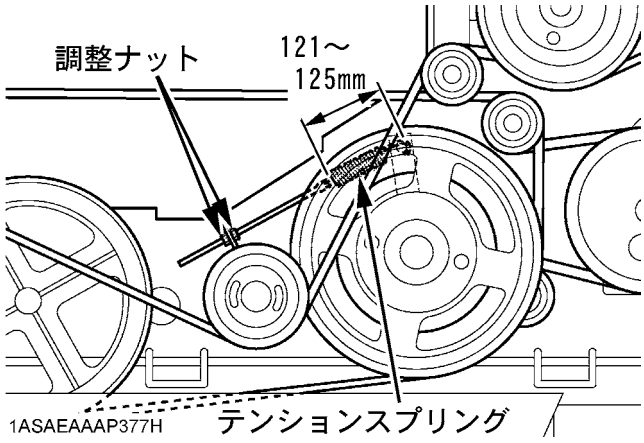
3. 調整ナットを締付けます。
4. 脱こく左サイドカバー2，3を取付けます。

■揺動駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを121～125mmに調整します。

1. 脱こく左サイドカバー3を取外します。(139ページ参照)
2. 調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。





3. 調整ナットを締付けます。
4. 脱こく左サイドカバー3を取付けます。

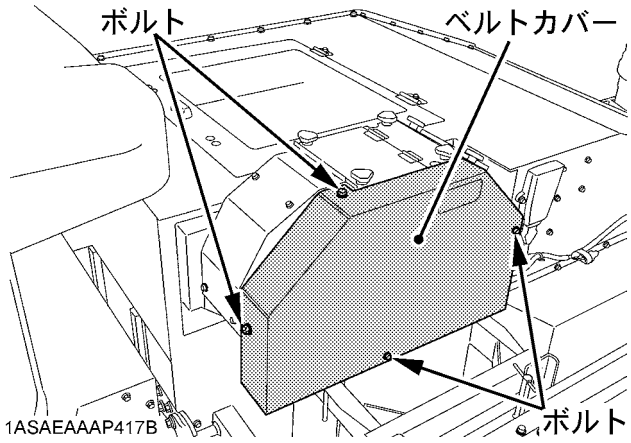
■1番バケット上部スクリュ駆動ベルトの点検・調整

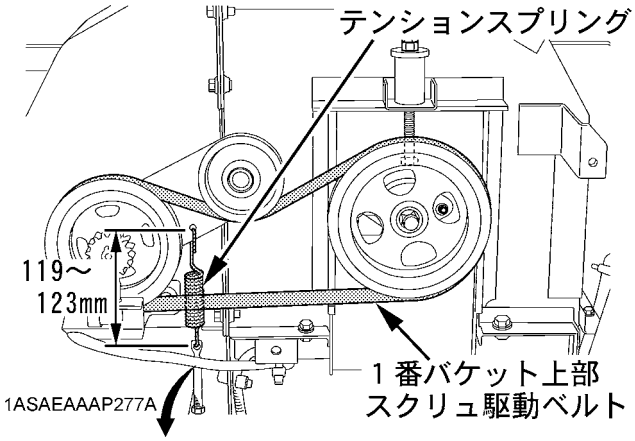
警　告

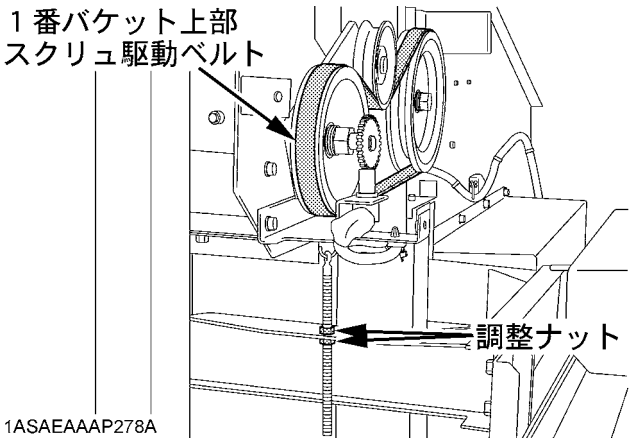
＊ 転倒・転落のおそれがありますので，作業を行なうときは，足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。

テンションスプリングの長さを119～123mmに調整します。

1. ボルトを取外してベルトカバーを外します。
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。
4. ベルトカバーを取付けます。



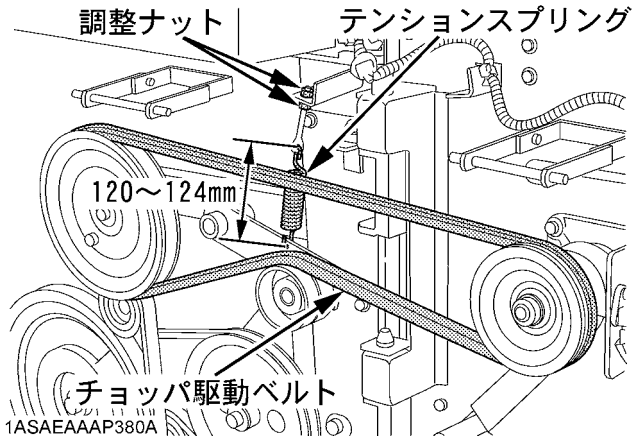




■チョッパ駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを120～124mmに調整します。

1. 排じんサイドカバー上，下，脱こく左サイドカバー３を取外します。(139 ページ参照)
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。

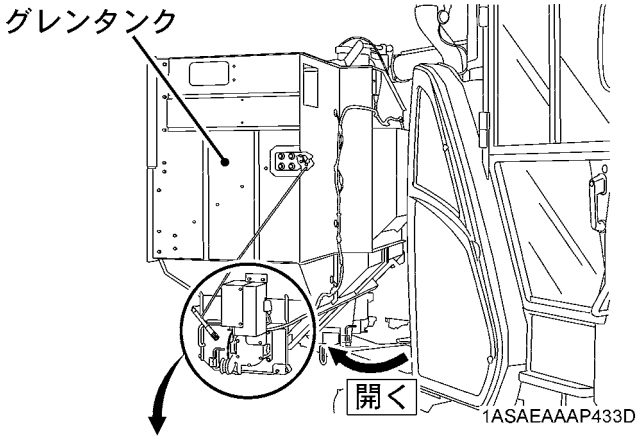


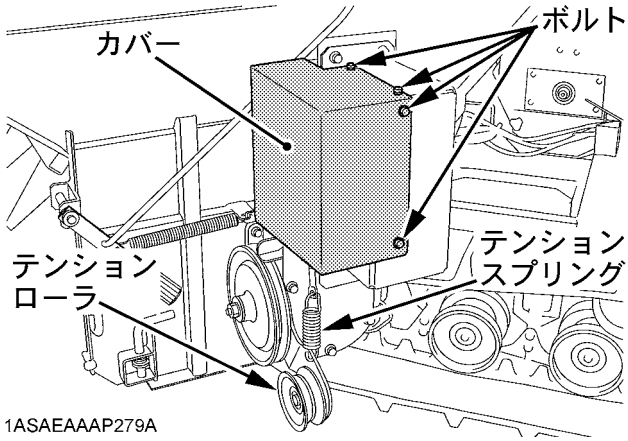
3. 調整ナットを締付けます。
4. 排じんサイドカバー上，下，脱こく左サイドカバー３を取付けます。

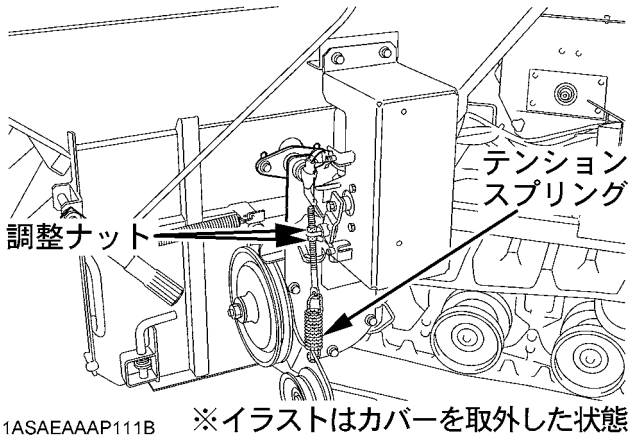
■タンクスクリュ駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを118～122mmに調整します。

1. グレンタンクを開きます。(145 ページ参照)
2. ボルトを取外してタンクスクリュ駆動ベルトのテンションローラ，テンションスプリングの上部にある保護カバーを取外します。

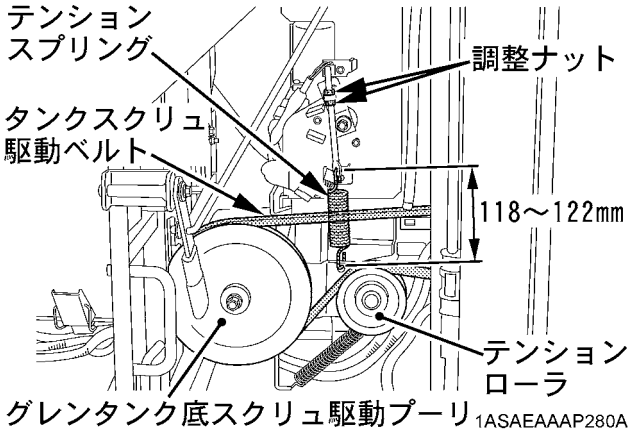






※イラストはカバーを取外した状態

3. グレンタンクを閉じたあと，タンクスクリュ駆動ベルトをグレンタンク底スクリュ駆動プーリに掛けます。
4. メインスイッチのキーを【入】位置にしたあと，もみ排出スイッチを押してテンションスプリングを引張った状態にします。
5. メインスイッチのキーを【切】位置にします。
6. 調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。

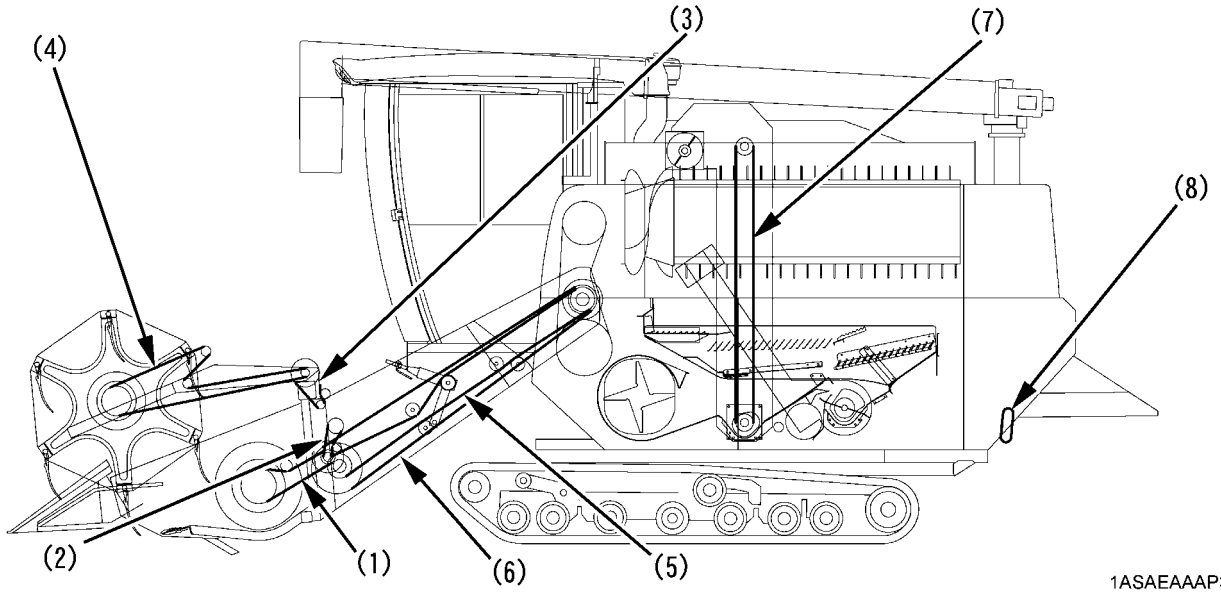


7. 調整ナットを締付けたあと，メインスイッチのキーを【入】位置にして，もみ排出停止スイッチを押して，テンションスプリングをゆるめた状態にします。
8. メインスイッチのキーを【切】位置にしたあと，グレンタンクを開きます。
9. テンションローラ，テンションスプリングの上部に保護カバーを取付けます。
10. グレンタンクを閉じます。

■各部チェーンの点検･調整

下表を参照して，各部チェーンの張り調整を行なってください。

点検箇所	図番	名　　称	張り調整		
			※テンションスプリング取付け長さ（mm）	たわみ量（mm）	すき間（mm）
刈取部	(1)	オーガドラム駆動チェーン	—	12 ～ 18	—
	(2)	リール入力チェーン	—	5 ～ 10	—
	(3)	リールカウンタチェーン	—	5 ～ 10	—
	(4)	リール駆動チェーン	—		
	(5)	刈取駆動チェーン	149 ～ 151	—	—
	(6)	フィーダ搬送チェーン	—	—	0.5 ～ 2
脱こく部	(7)	１番バケットコンベア搬送チェーン	両方からチェーンを押さえたとき，チェーンが接触しない	—	—
グレンタンク部	(8)	アンローダ縦スクリュ駆動チェーン	146 ～ 150	—	—



◆ 点検
各部のチェーンを点検して，異常があればチェーンの交換又は，張り調整を行なってください。チェーンの交換は購入先へ連絡して修理を依頼して行なってください。

重　要

＊ チェーンは必ずクボタ純正のものを使用してください。

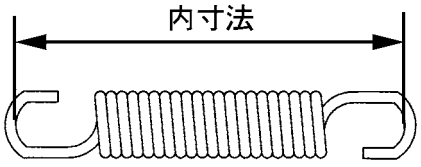
◆ 調整
チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

重　要

＊ テンションスプリングの張り調整が終わり，調整ナット又は，ロックナットを締付けるとき，テンションスプリングをねじれた状態で締付けないでください。破損の原因となります。

補　足

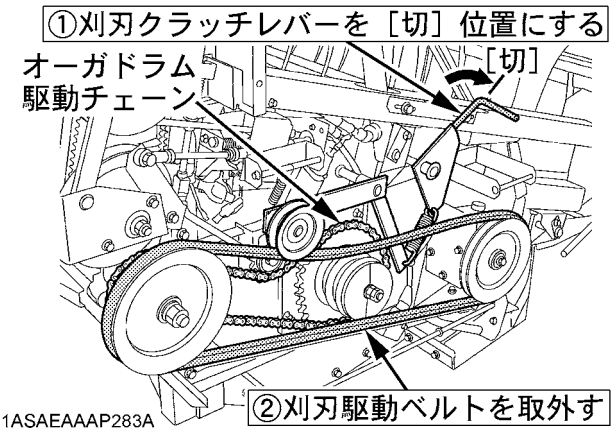
＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



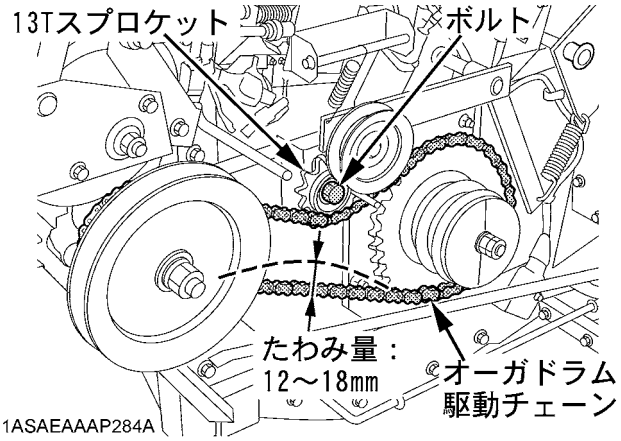
1ASADACAP390A

■オーガドラム駆動チェーンの点検・調整
チェーンを軽く指で押したときのたわみ量を 12 ～ 18mm に調整します。

1. 刈取右サイドカバーを取外します。(133 ページ参照)
2. 刈刃クラッチレバーを**【切】**位置にしたあと，刈刃駆動ベルトを取外します。
3. 13T スプロケットのボルトを軽くゆるめます。
4. 樹脂ハンマなどでボルトの頭をたたいてチェーンのたわみ量の調整を行ないます。



1ASAEAAAP283A



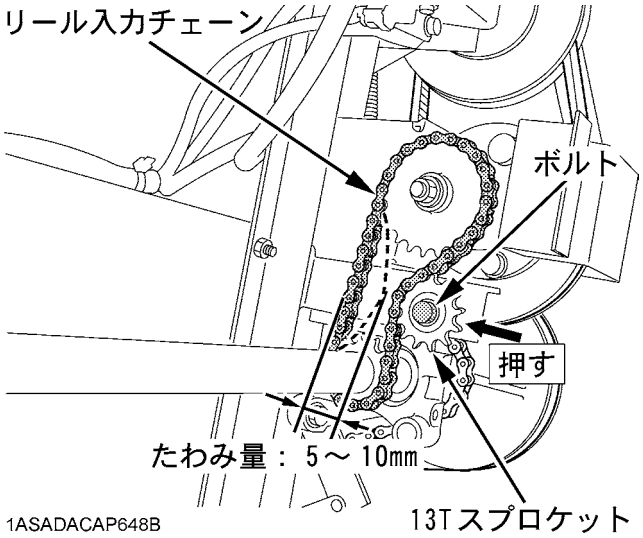
1ASAEAAAP284A

5. ボルトを締付け，13T スプロケットを締付けます。
6. 刈刃駆動ベルトを取付けたあと，刈刃クラッチレバーを**【入】**位置にします。
7. 刈取右サイドカバーを取付けます。

■リール入力チェーンの点検・調整

チェーンを軽く指で押したときのたわみ量を5～10mm に調整します。

1. 刈取右サイドカバー及び刈取右サイド後部カバーを取外します。(133 ページ参照)
2. 13T スプロケットを固定しているボルトをゆるめたあと，13T スプロケットを前方に押しながらボルトを締付けます。

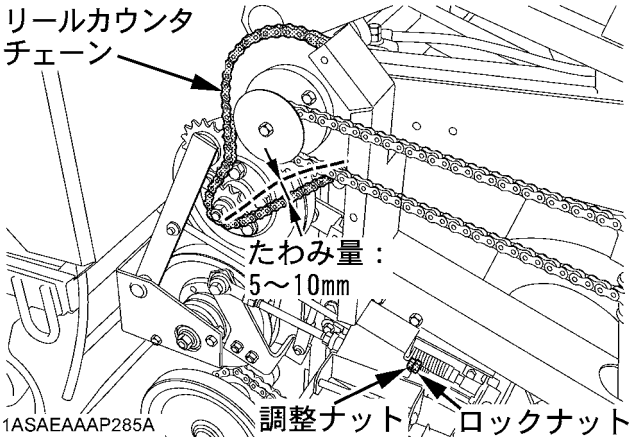


3. 刈取右サイドカバー及び刈取右サイド後部カバーを取付けます。

■リールカウンタチェーンの点検・調整

チェーンを軽く指で押したときのたわみ量を5～10mm に調整します。

1. 刈取右サイドカバー，刈取右サイド後部及びリールサイドカバーを取外します。(133 ページ参照)
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整します。

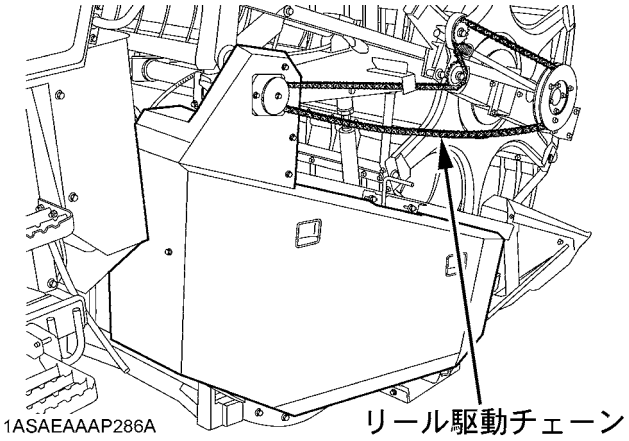


3. ロックナットを締付けます。
4. 刈取右サイドカバー，刈取右サイド後部及びリールサイドカバーを取付けます。

■リール駆動チェーンの点検

リール駆動チェーンの張り調整は自動(自動テンション）で行ないますが，チェーンが伸びたときは，購入先に連絡してください。

1. リールサイドカバーを取外します。(133 ページ参照)
2. チェーンの点検を行ないます。

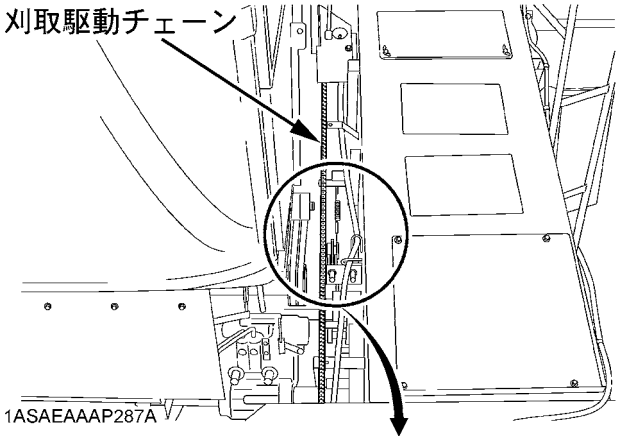


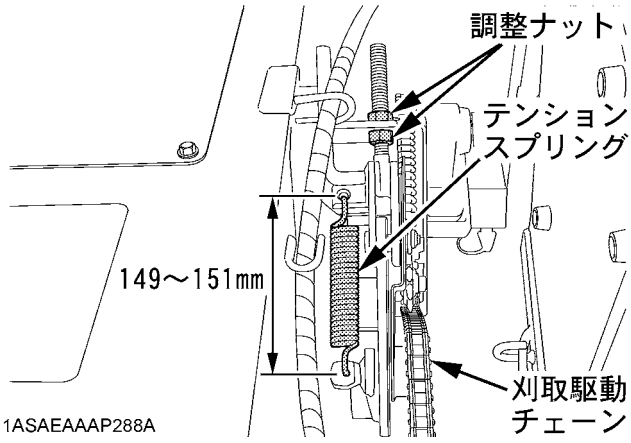
3. リールサイドカバーを取付けます。

■刈取駆動チェーンの点検・調整

テンションスプリングの長さを149～151mmに調整します。

1. フィーダ右サイドカバーを取外します。(134ページ参照)
2. 調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。





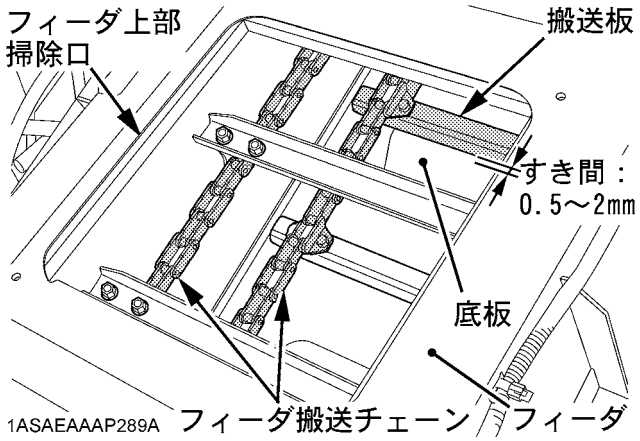
3. 調整ナットを締付けたあと，フィーダ右サイドカバーを取付けます。

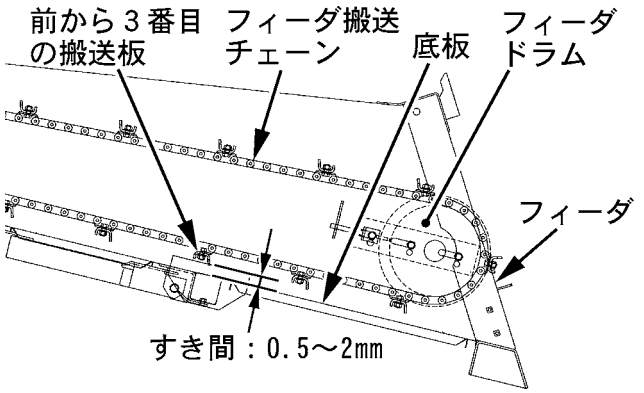
■フィーダ搬送チェーンの点検・調整

警 告

＊ 刈取部を上げて点検・調整を行なうときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。

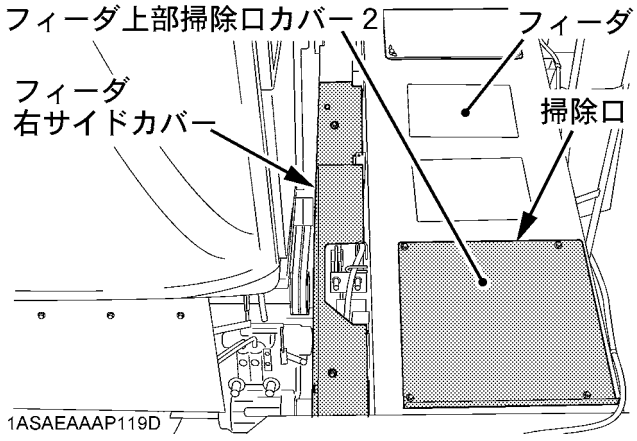
フィーダ搬送チェーンに取付けている前から**3番目**の搬送板とフィーダの底板のすき間を0.5～2mmに調整します。





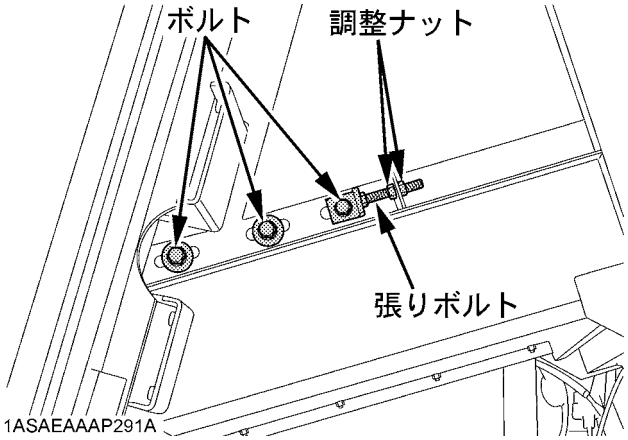
1ASAEAAAP290A

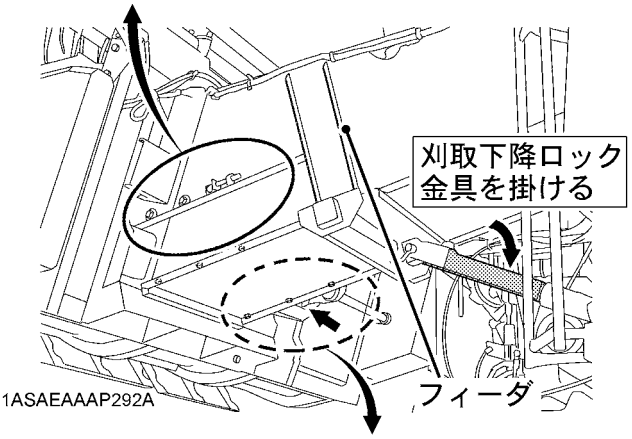
1. フィーダ右サイドカバーを取外したあと，フィーダ上部掃除口カバーを取外します。(134，135 ページ参照)

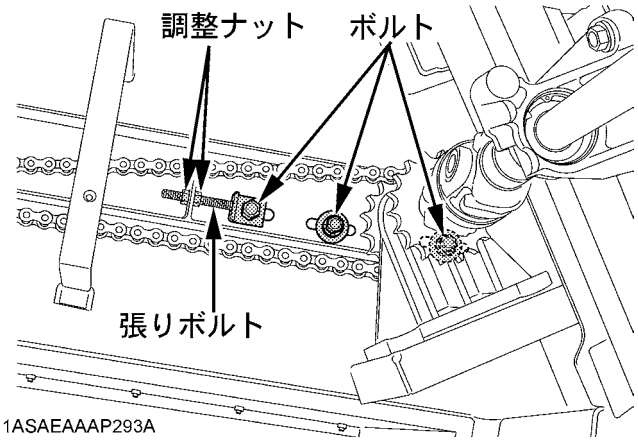


2. フィーダ搬送チェーンの搬送板と底板のすき間を確認し，0.5 ～ 2mm の範囲から外れているときはフィーダ搬送チェーンの張り調整を行ないます。
3. エンジンを始動したあと，刈取部を**最上昇**位置にします。
4. 刈取部の下降防止を行なったあと，エンジンを停止します。

5. フィーダ搬送チェーンの張り調整を行ないます。
   (1) フィーダドラムを固定している左，右のボルト３個をそれぞれゆるめます。
   (2) 左，右の張りボルトを固定している調整ナット２個をそれぞれゆるめたあと，調整ナットで調整を行ないます。







(3) 左，右のボルトを締付けてフィーダドラムを固定します。
(4) 左，右の張りボルトの調整ナットをそれぞれ締付けます。

重　要

＊ 調整を行なうときは，右側のフィーダ搬送チェーンを基準にしてフィーダドラムが傾かないようにしてください。また，左側のフィーダドラムが傾かないように左側のフィーダ搬送チェーンの調整を行なってください。
フィーダドラムが傾くと破損の原因となります。

補　足

＊ 張りボルトを調整すると，フィーダドラムが前，後方向に動き，フィーダ搬送チェーンの張り調整が行なえます。

6. 刈取部の下降防止を解除したあと，刈取部を地面に着くまで降ろしてエンジンを停止します。
7. フィーダ搬送チェーンの搬送板と底板のすき間を確認し，範囲から外れているときは再調整を行ないます。
8. フィーダ上部掃除口カバー２を取付けたあと，フィーダ右サイドカバーを取付けます。

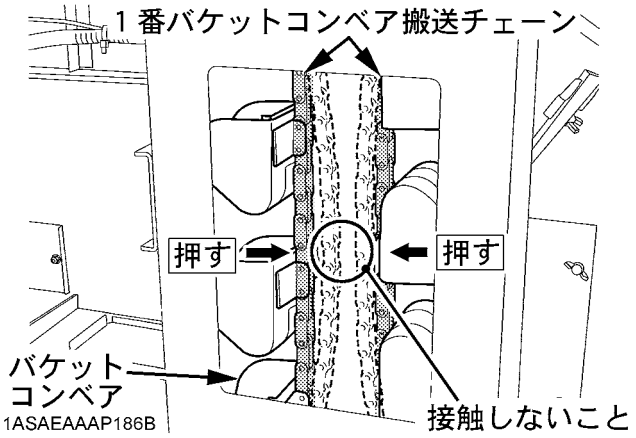
■１番バケットコンベア搬送チェーンの点検・調整

警　告

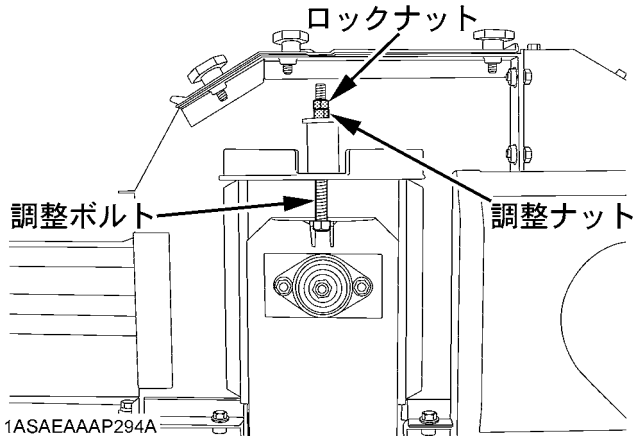
＊ 転倒・転落のおそれがありますので，作業を行なうときは，足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。

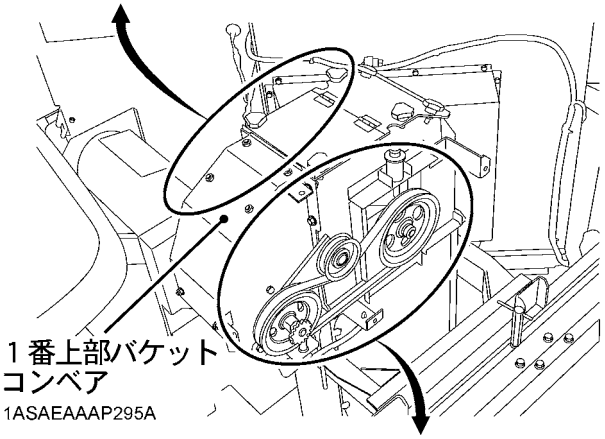
上りと下りの搬送チェーンを同時に内側に押さえたとき，チェーンが接触しない程度に調整します。

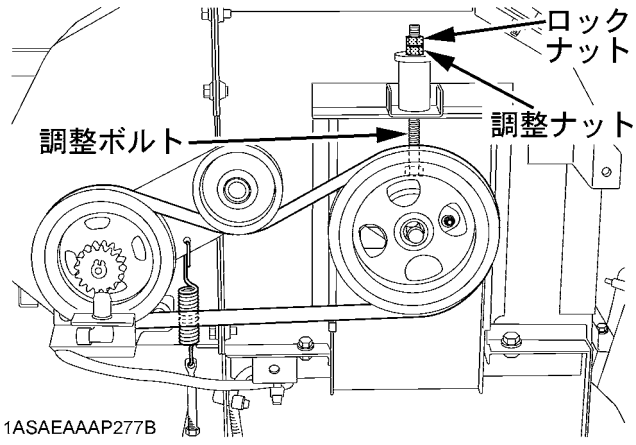
1. グレンタンクを開きます。(145 ページ参照)
2. １番バケットコンベア掃除口カバーを取外します。(155 ページ参照)
3. 搬送チェーンを内側に押さえて接触する場合は調整を行ないます。



(1) １番上部バケットコンベアのベルトカバーを取外します。(214 ページ参照)
(2) １番上部バケットコンベアの左，右にある調整ボルトのロックナットをそれぞれゆるめます。
(3) 調整ナットを締付け方向に回します。
(4) 搬送チェーンを押して，接触しないことを確認したあと，ロックナットをそれぞれ締付けます。





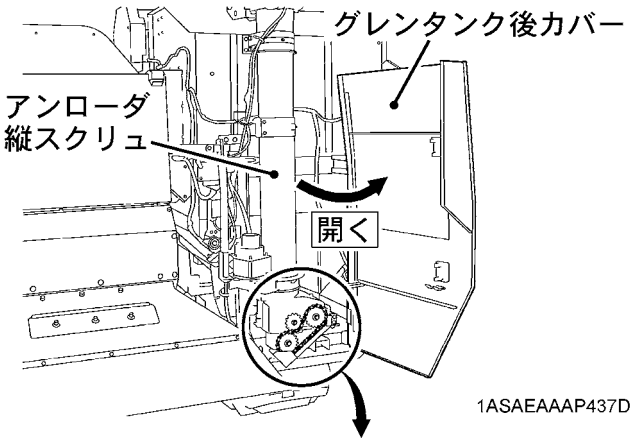


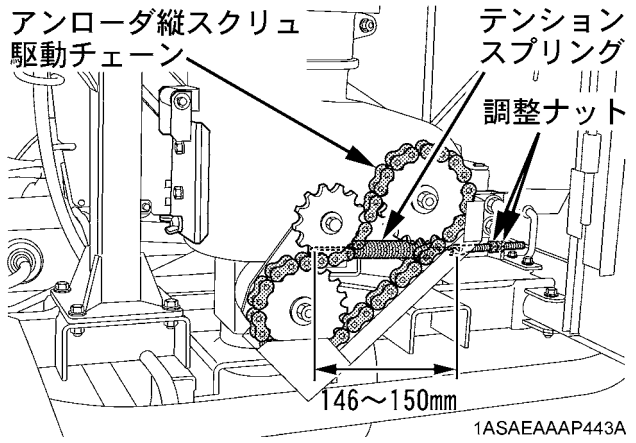
(5) ベルトカバーを取付けます。
(6) １番バケットコンベア掃除口カバーを取付けます。
(7) グレンタンクを閉じます。

■アンローダ縦スクリュ駆動チェーンの点検・調整

テンションスプリングの長さを146～150mmに調整します。

1. グレンタンク後カバーを開きます。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。





1. 調整ナットを締付けます。
2. グレンタンク後カバーを閉じます。

■刈刃の点検

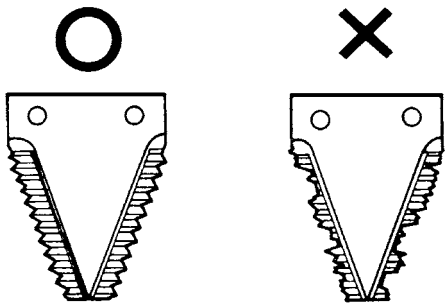
警 告

＊ 平たんな場所で刈取部及びリールを上げて，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。
＊ 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊ 作業時は手袋をしてください。

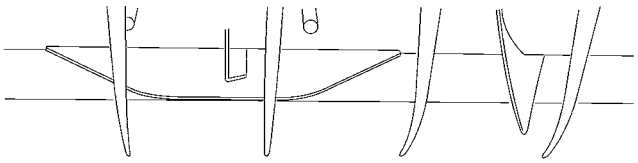
刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

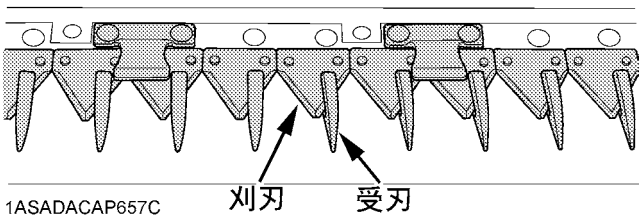
◆ 点検

1. パワーステアリングレバーを操作し，刈取部及びリールを上昇させたあとエンジンを停止し，刈取・リール下降ロックスイッチを**【ロック】**位置にし，刈取下降ロック金具をシリンダに掛けて刈取部の下降防止を行ないます。
2. 刈刃を点検して刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して交換してください。



1ARADBEAP506A





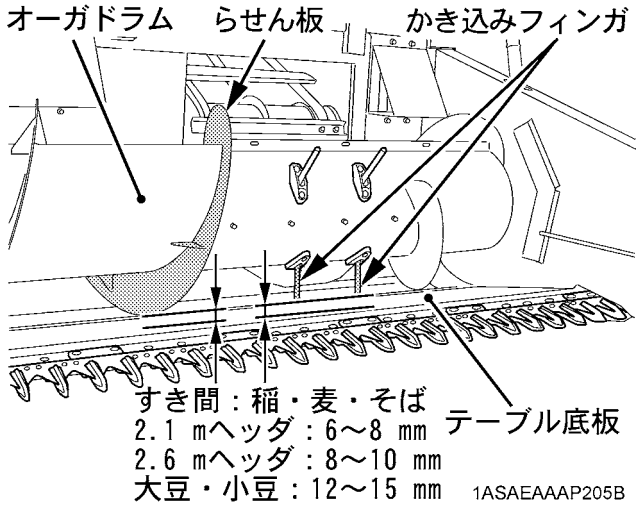
1ASADACAP657C

■オーガドラム・かき込みフィンガ軸・かき込みフィンガガイドの点検・調整・交換

オーガドラムのすき間調整を行なうときは，刈取左，右のサイドカバーを取外してください。(133ページ参照) 調整後は，カバーを取付けてください。

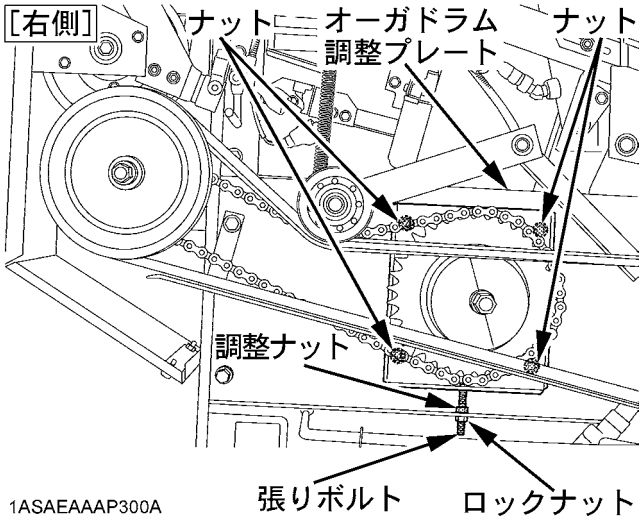
◆ 点検

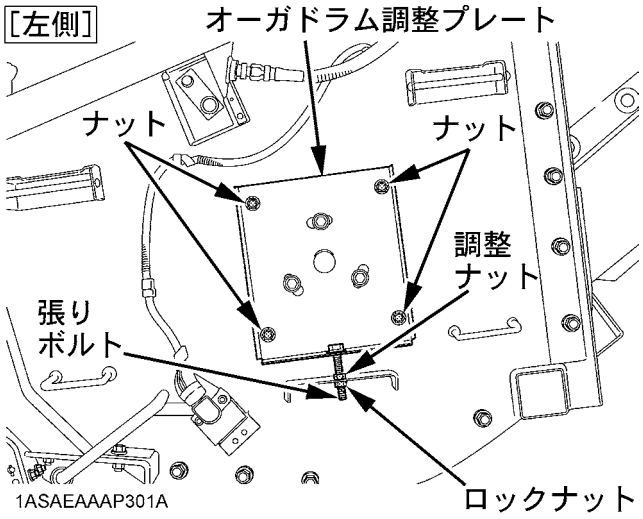
1. 平坦な場所でリールを最上昇位置にし，刈取部を地面に降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. オーガドラムのらせん板，かき込みフィンガ，かき込みフィンガガイドを点検して変形や破損しているときは，購入先に連絡して交換してください。また，オーガドラムのらせん板及びかき込みフィンガとテーブルの底板とのすき間を確認し，らせん板とテーブルの底板のすき間及びかき込みフィンガとテーブルの底板のすき間が**稲・麦・そば**は**2.1m ヘッダ**で6 ～ 8mm，**2.6m ヘッダ**で8 ～ 10mm，**大豆・小豆**は12 ～ 15mmの範囲からそれぞれ外れているときは調整します。



◆ 調整

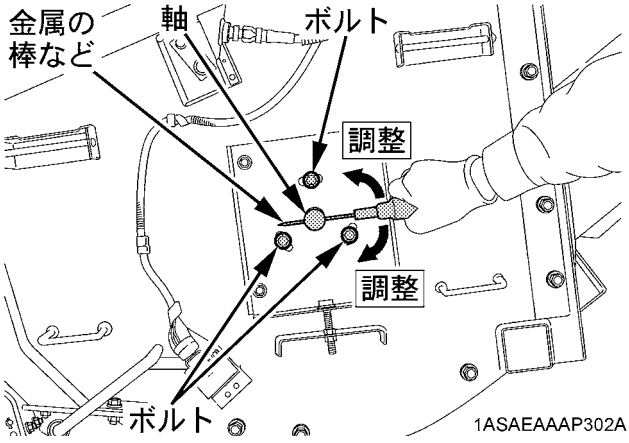
1. オーガドラムのらせん板とテーブル底のすき間調整を行ないます。
   (1) 刈取部左，右にあるオーガドラム調整プレートを固定しているナットをゆるめます。
   (2) 左，右の張りボルトのロックナットをそれぞれゆるめたあと，調整ナットを回してすき間を調整します。





   (3) 左，右の張りボルトのロックナットを締付けたあと，ナットを締付けて左，右のオーガドラム調整プレートを固定します。

2. かき込みフィンガとテーブル底のすき間調整を行ないます。
   (1) 刈取部左側にあるオーガドラム調整プレートを固定しているボルト３本を軽くゆるめます。
   (2) 調整軸の穴にプラスドライバなどを差込んで軸を回してかき込みフィンガ先端とテーブルのすき間を **2.1m ヘッダ**で 6 ～ 8mm, **2.6mヘッダ**で8～10mmに調整します。



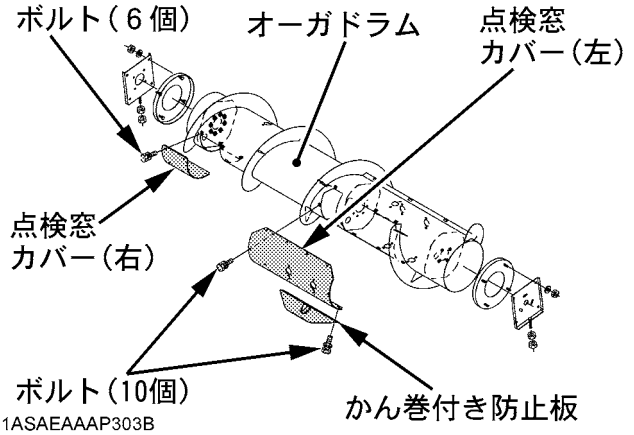
   (3) ボルトを締付けてオーガドラム調整プレートを固定します。

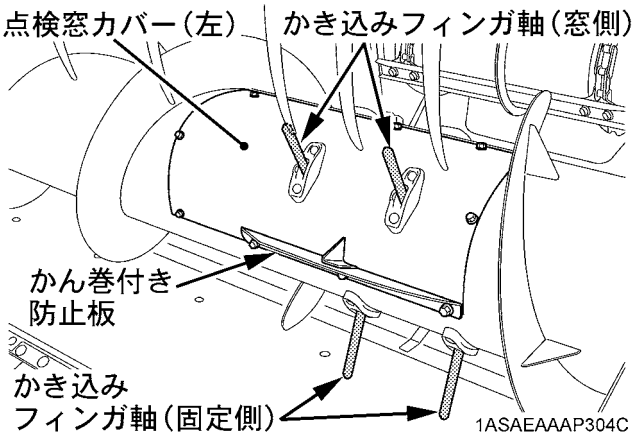
◆ かき込みフィンガ軸・かき込みフィンガガイドの交換

かき込みフィンガ軸, かき込みフィンガガイドの交換を行なうときは，点検窓カバー（左，右）をそれぞれ取外して行なってください。

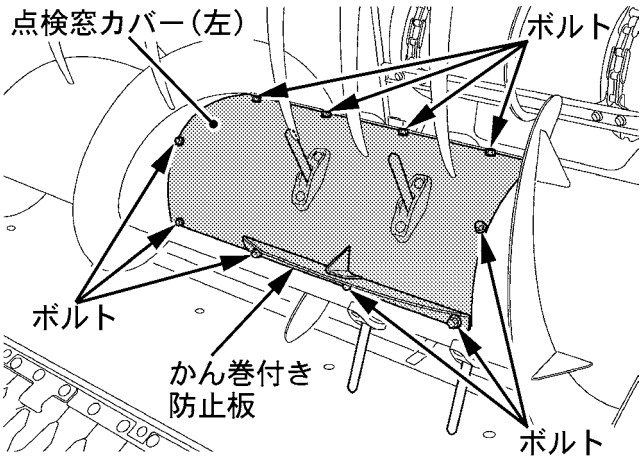
補　足

＊ 点検窓カバー（左）は，かん巻付き防止板も取外してください。
＊ かき込みフィンガ軸（窓側）は，点検窓カバーを取外して交換してください。また，かき込みフィンガ軸（固定側）は，点検窓から交換してください。

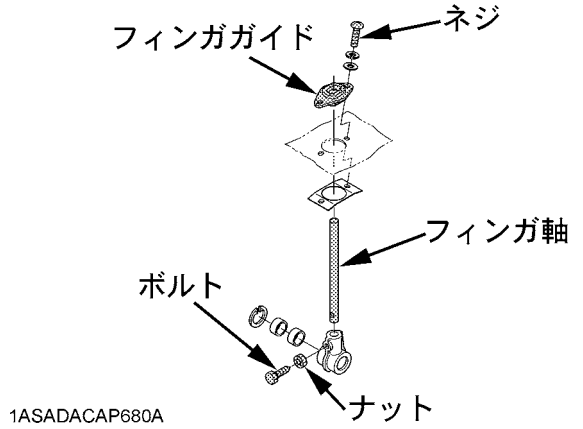




1. ボルトを取外してかき込みフィンガ軸(窓側)を取付けている点検窓カバー（左),（右）をそれぞれ外します。
2. ボルト，ナットをゆるめてかき込みフィンガ軸（窓側，固定側）を交換します。
3. かき込みフィンガガイドは内側にあるナットを固定し，ネジを取外して交換します。



1ASAEAAAP304D ※イラストは点検窓カバー(左)側



1ASADACAP680A

4. 点検窓カバー（左),（右）をそれぞれ取付けます。

■受けあみの組換え・交換

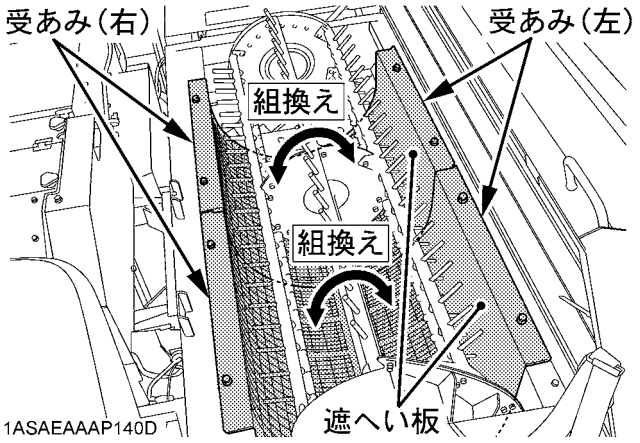
警 告

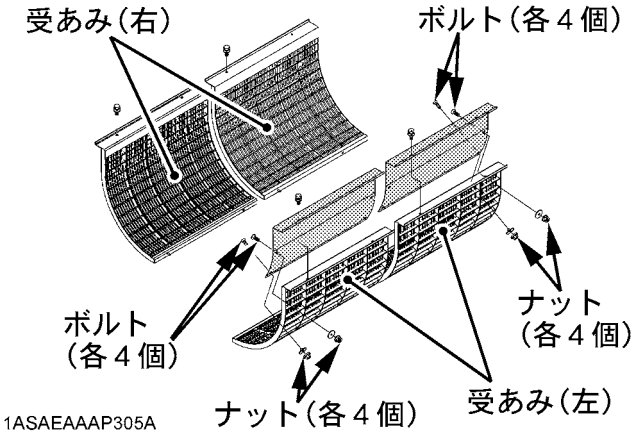
＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ エンジン停止直後は，こぎ胴上部カバーを開けないでください。惰性でこぎ胴が回転している場合があり，ケガをするおそれがあります。
＊ 手や指をはさまれてケガをするおそれがあるので，受あみはゆっくりと取外し又は，取付けてください。
＊ コンバインから転落をするおそれがありますので，受あみを取外し又は，取付けるときは，足元がすべらないように足元や作業姿勢にじゅうぶん注意してください。

脱こく性能の低下を防ぐため，定期的に受けあみの組換えや交換を行なってください。

◆ 組換え

250 時間を目安に定期的に左，右方向の組換えを行なってください。また，組換え作業を行なう前に取外した左側の受あみ前，後に取付けている遮へい板のボルト，ナットを取外して組換えてください。





補　足

＊ 受あみの脱着は 144 ページを参照してください。

＊ 受あみは前側と後側であみ目のサイズが異なるため，前後方向に組換えないでください。受あみを前後方向に組換えた状態で作業を行なうと，選別不良の原因となります。

■こぎ歯の点検，こぎ歯バーの点検・組換え・交換

警　告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

＊ エンジン停止直後は，こぎ胴上部カバーを開けないでください。惰性でこぎ胴が回転している場合があり，ケガをするおそれがあります。

＊ 手や指をはさまれてケガをするおそれがあるので，受あみはゆっくりと取外し又は，取付けてください。

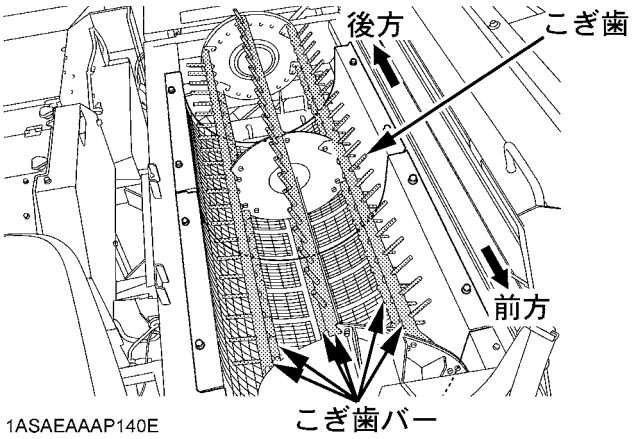
＊ コンバインから転落をするおそれがありますので，受あみを取外し又は，取付けるときは，足元がすべらないように足元や作業姿勢にじゅうぶん注意してください。

こぎ歯の歯先が摩耗や変形してくると，受あみとのすき間が大きくなり，こぎ残しの発生やササリ粒の発生が多くなるなど，脱こく性能が低下する原因となりますので歯先の線径が 5 ㎜ 以下になったときは購入先に連絡してこぎ歯バーの交換を行なってください。

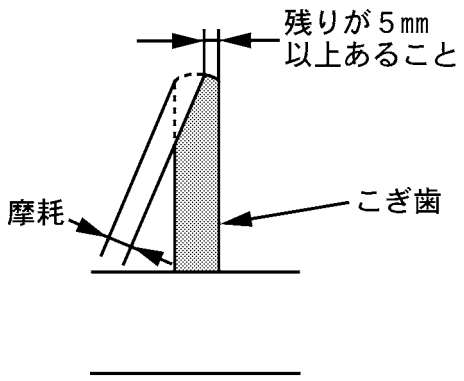
脱こく性能の低下を防ぐため，定期的にこぎ歯バーの前後の組換えやこぎ歯の調整又は，交換を行なってください。また，こぎ歯の組換えや交換を行なうと同時に受けあみの前，後の組換えも行なってください。

◆ 点検

こぎ胴上部カバーを開いたあと，こぎ歯に変形はないかまた，こぎ歯の歯先の摩耗量を測定し，線径が 5 mm 以下のときは交換してください。



1ASAEAAAP140E

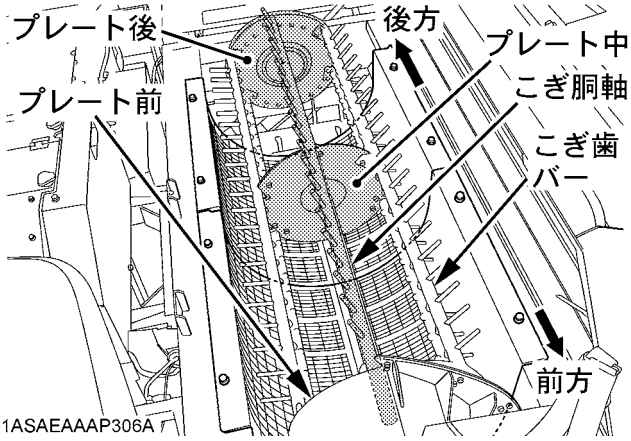


1ASADAIAP079A

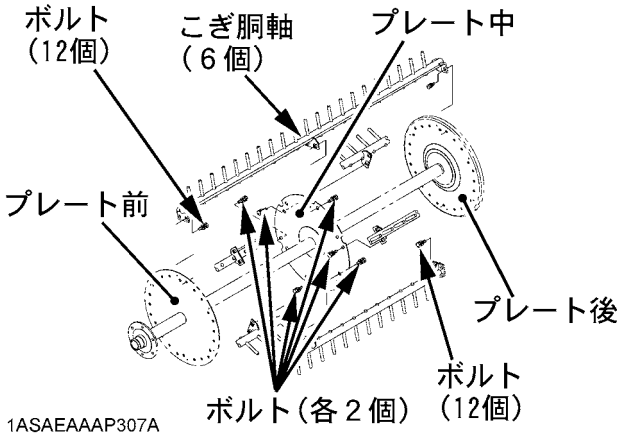
◆ 組換え

こぎ歯の前側は，後側より摩耗する量が多いため，250 時間を目安に定期的に組換えを行なってください。

1. こぎ胴上部カバーを開きます。
   (142 ページ参照)
2. こぎ胴軸プレートの前，中，後にこぎ歯バーを取付けているボルトを取外して，こぎ歯バーを 6 本全て取外します。



1ASAEAAAP306A

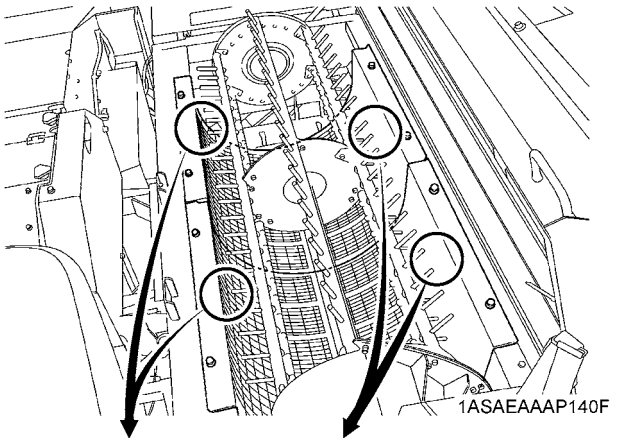


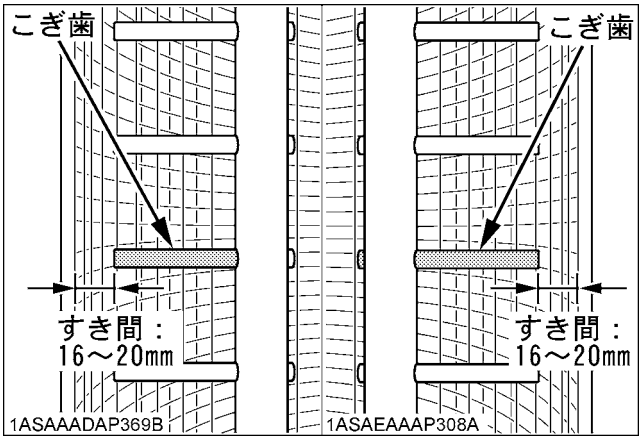
1ASAEAAAP307A

3. こぎ歯バーをそれぞれ前後方向反対に向けたあと，取外した逆の手順で取付けます。

◆ 調整・交換

こぎ歯と受けあみのすき間を測定したとき，すき間が 20mm 以上のときは，こぎ歯の調整又は，交換を行なってください。





補　足

＊ 出荷時のすき間は 16 ～ 20mm です。
＊ すき間の測定は，前後，左右の両端の 4 箇所で行なってください。

1. こぎ胴軸プレートの前，中，後にこぎ歯バーを取付けているボルトをゆるめます。
2. こぎ歯バーを外側（受けあみ側）いっぱいまで引きます。

補　足

＊ こぎ歯バーの両端部とプレート中の取付部が，長穴になっているため，約± 3.5 ㎜の調整が行なえます。

3. ボルトを締付けます。

重　要

＊ ボルトを締め忘れると，脱こく機の故障の原因となります。

4. こぎ胴を回して，他のこぎ歯バーも同じ要領ですき間の調整を行ないます。
5. こぎ胴上部カバーを閉じたあと，こぎ胴上部カバーのジャッキボルトを締付けます。

■チョッパ受刃･切断刃の点検･組換え･交換

警　告

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 手袋を使用し，素手で直接刃先に触れないでください。
＊ チョッパが開いた状態で走行をしないでください。
＊ チョッパの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，チョッパの開閉をしないでください。
＊ チョッパを開いたときは，ストッパを必ず掛けてください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

切断刃や受刃の刃先が摩耗すると，排かんを細かく切断できなくなるため，排かんがチョッパ内に詰まったり，切断軸に巻付いたりします。

排かん処理性能の低下を防ぐため，定期点検を行なって破損している又は，摩耗量が大きい場合は，切断刃や受刃の組換え又は，交換を行なってください。

重　要

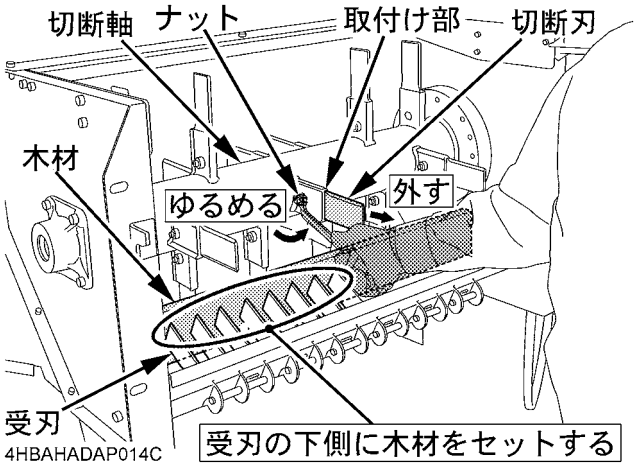
＊ 切断刃，受刃は 100 時間を目安に組換えを行なってください。また，200 時間を目安に交換してください。

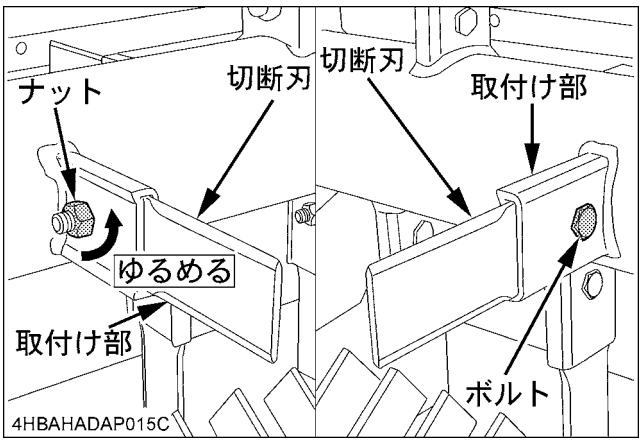
◆ 点検・組換え・交換

平坦な場所に移動してからエンジンを停止したあとチョッパを開きます。(147 ページ参照)

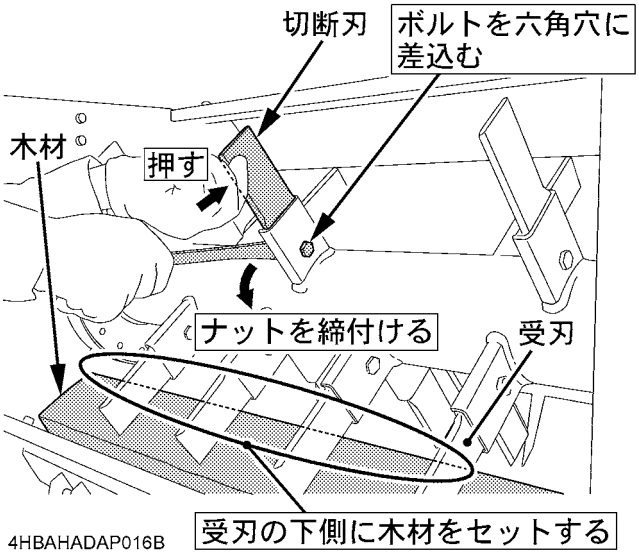
● 切断刃の組換え・交換

1. 切断刃の回転を防ぐため，受刃の下側に木材などをセットします。
2. 切断軸をゆっくりと反時計方向に回して，切断刃を木材の下側に当て，切断軸が回らない状態にします。
3. ナットをゆるめてナットとボルトを取外したあと，切断刃を取付け部から外します。





4. 新しい切断刃又は，切断刃を 180 度反対方向に向きを変えて（組換えて）取付けます。
   (1) 木材を受刃の下側に置いて切断軸をゆっくりと時計方向に回して，切断刃を木材に当て，切断軸が回らない状態にします。
   (2) 取外した逆の手順でボルトとナットで切断刃を取付けます。ナットを締付けるときは切断刃を後方に押しながら規定の締付けトルクで締付けます。



重　要

＊ 規定の締付けトルクは，85 ～ 90N・m（870 ～ 920kgf・cm）です。確実に締付けてください。

5. 他の切断刃も同じ要領で交換します。

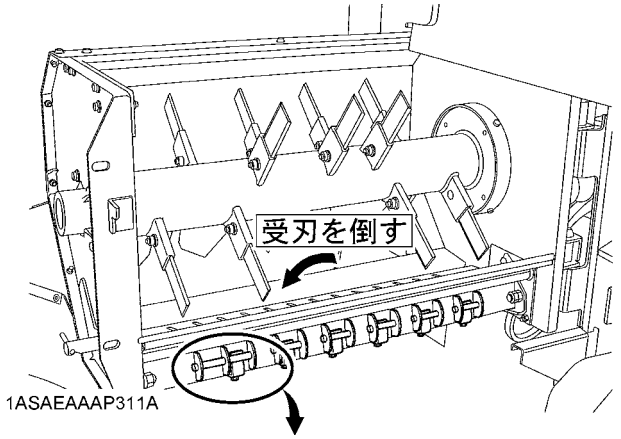
補　足

＊ 受刃を応急的に切断刃として使用できます。
＊ 切断刃の交換を行なうときは，反時計方向に軸を回転させてください。

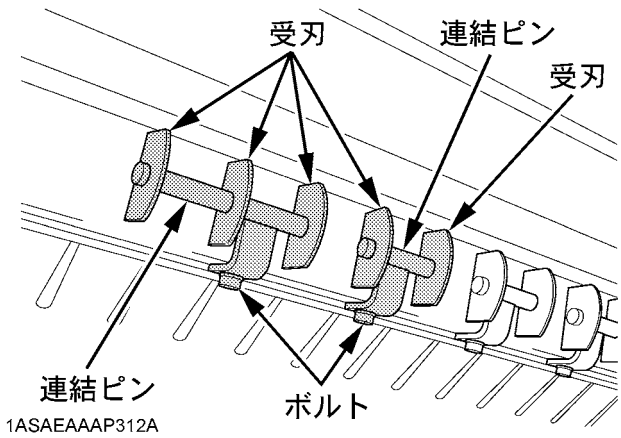
6. チョッパを閉じます。

◆ 受刃の交換

1. 切換えレバーで受刃を下側に倒して非切断状態にします。
2. ボルトを取外したあと，連結ピンを抜いて受刃を外します。



1ASAEAAAP311A



1ASAEAAAP312A

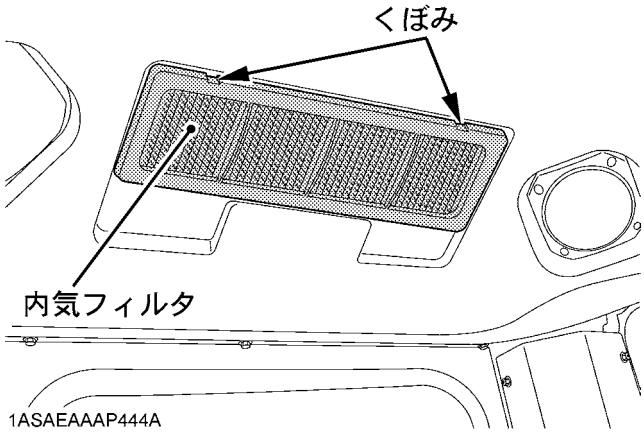
3. 新しい受刃と交換したあと，受刃に連結ピンを差込み，受刃固定金具と共にフレームに取付けてボルトを取付けます。ボルトを締付けるとき，フレームと受刃固定金具の間にすき間ができないように受刃固定金具を押しながら締付けます。
4. 他の受刃も同じ要領で交換します。
5. 切換えレバーで受刃を切断位置にします。
6. チョッパを閉じます。

■キャビン内気，外気フィルタの掃除・交換

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタを損傷させないように掃除してください。

◆ 内気フィルタの掃除・交換

1. 内気フィルタのくぼみを押さえながら，内気フィルタを取外します。

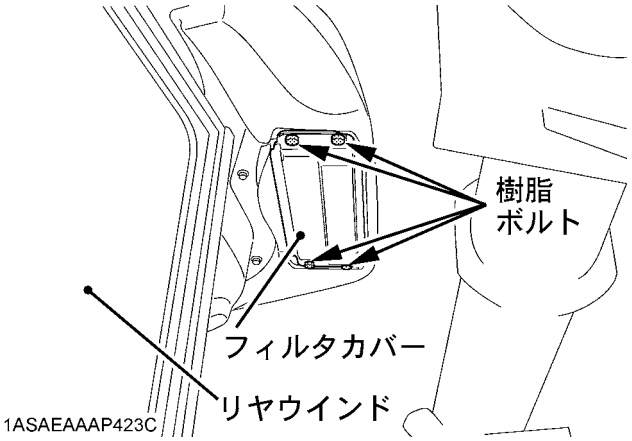


1ASAEAAAP444A

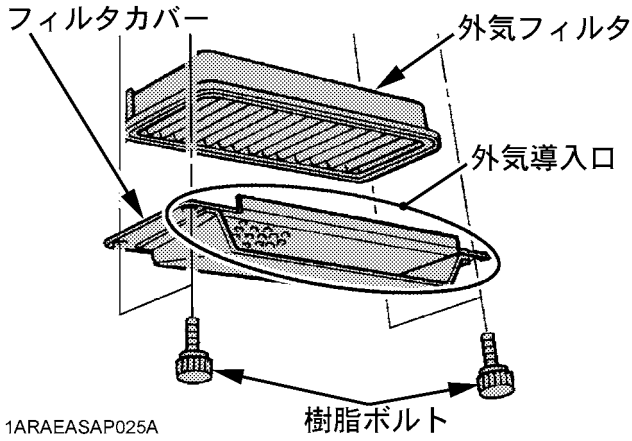
2. 内気フィルタを掃除します。掃除を行なっても汚れの取れないときや，損傷しているときは交換してください。
3. 内気フィルタを取付けます。差込むとワンタッチで取付けできます。

◆ 外気フィルタの掃除・交換

1. 樹脂ボルトを取外して，フィルタカバーと外気フィルタを取外します。
2. 外気フィルタを掃除します。掃除を行なっても汚れの取れないときや，損傷しているときは交換してください。



1ASAEAAAP423C



1ARAEASAP025A

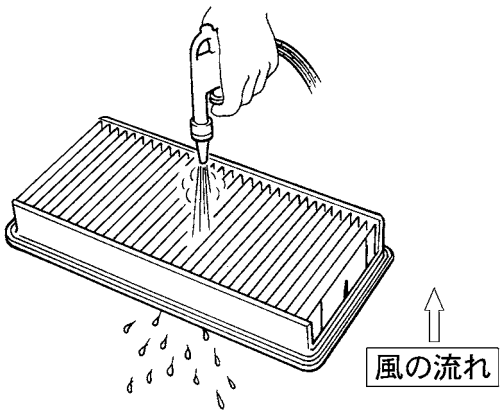
3. 外気フィルタとフィルタカバーを取付けます。

重　要

＊ エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエアコンの故障の原因となりますのでしないでください。
＊ 外気フィルタを取付けるときは，傾きが出ないように確実に取付部に差込んでください。

補　足

＊ 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。



1AGALAFAP314A

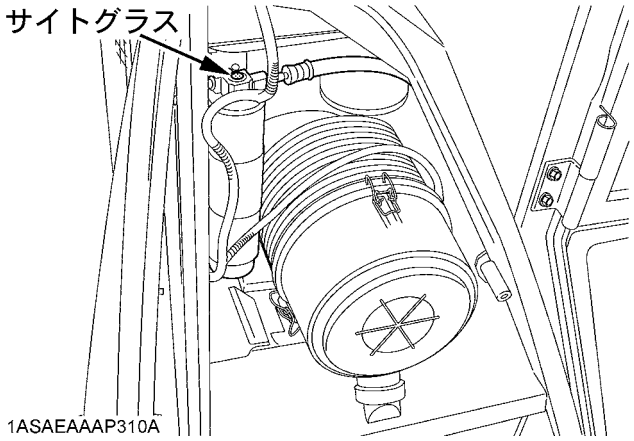
＊ 汚れが著しいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。
＊ フィルタカバーの空気導入口を外側に向けて組付けてください。

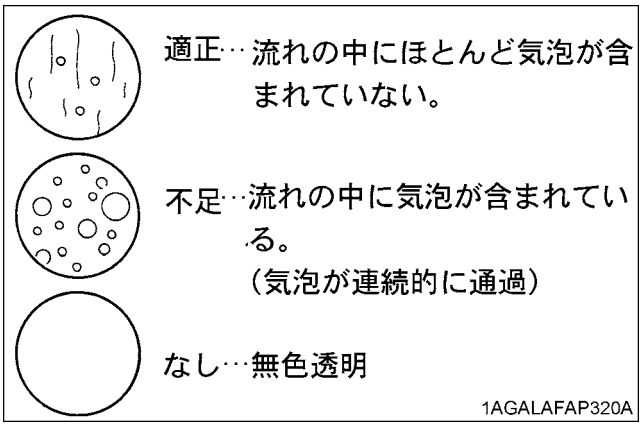
■冷媒（ガス）量の点検

冷媒が不足するとエアコンが冷えなくなります。下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先に連絡して補充してください。

◆ 点検

1. エアコンを下記の条件で運転します。
   - 外気温：30 度以上
   - エンジン回転数：約 1500rpm
   - 内外気切換えスイッチ：**[内気循環]** 位置
   - 温度コントロールつまみ
     ：左端（最強冷位置）
   - ファンスイッチ：右端（風力最強位置）
   - エアコンスイッチ：**[入]**
   - 窓（左，後）を全開，ドア全開
2. 防じんカバーを開きます。
3. サイトグラスにより，冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認します。
4. レシーバに流れている冷媒ガスを，サイトグラスから確認します。





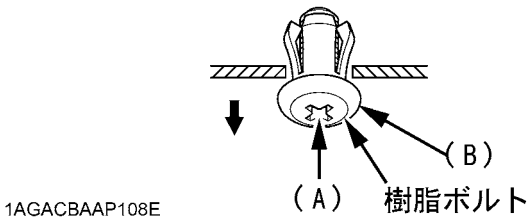
5. エンジンを停止し，ファンスイッチとエアコンスイッチを **[切]** 位置にします。
6. 防じんカバーを閉じます。

■吐出口ブーツの点検・交換

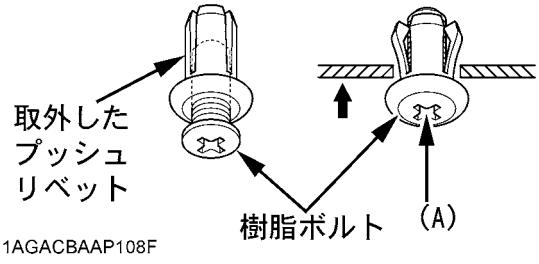
アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

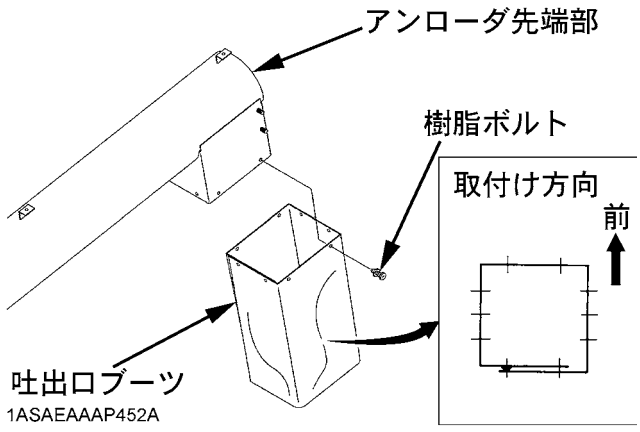
◆ 交換

1. 吐出口ブーツを取付けている樹脂ボルトを外します。樹脂ボルトを取外すときは，プッシュリベットの周辺（B）部を手で押さえて樹脂ボルトの（A）部を（＋）ドライバで左に回して取外します。



2. 破損した吐出口ブーツを取外し，新しい吐出口ブーツを取付けます。新しいブーツを取付けるときは，プッシュリベットをブーツの上からアンローダ先端部の取付穴に差込み，樹脂ボルトの（A）部を押しプッシュリベットを固定します。



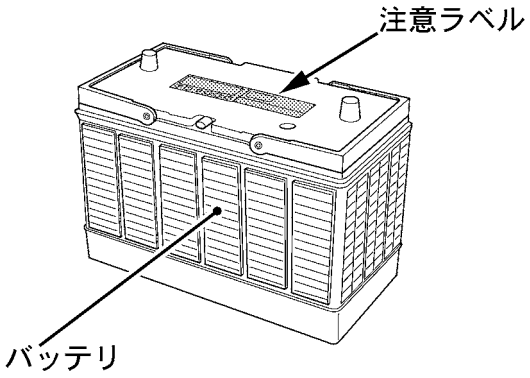


補　足

＊ 吐出口ブーツを取付けるとき，吐出口ブーツの重なりの方向を間違えないでください。

■バッテリの点検･交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください



1ARAEASAP038A

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊ バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。
＊ 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。
＊ この 12V バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ 急速充電は厳禁です。
＊ 開封は厳禁です。（密封タイプ）

警　告

＊ バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

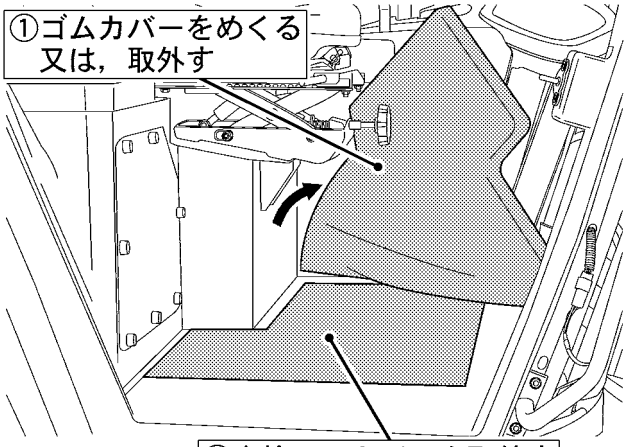
＊ 出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆ 点検

警　告

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき……
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。
＊ バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

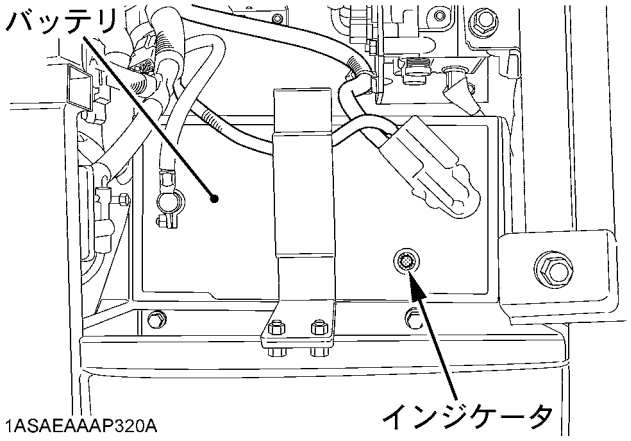
1. ステップのゴムカバーの下にある，点検用のカバーを取外します。(132 ページ参照)



1ASAEAAAP319A

2. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
   (1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



1ASAEAAAP320A

補　足

＊ インジケータは真上から確認してください。

   (2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

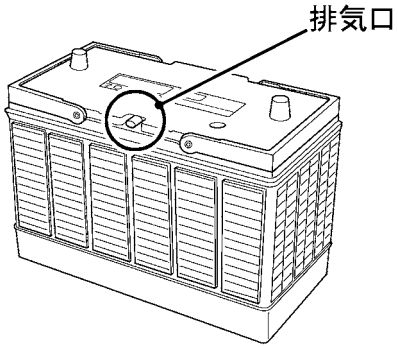
重　要

＊ 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

   (3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARAEASAP038B

   (4) バッテリケーブルの破損や（＋）端子，（－）端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。

3. 点検用のカバーを取付けたあと，ゴムカバーを取付けます。

◆ 補充電・交換

危険

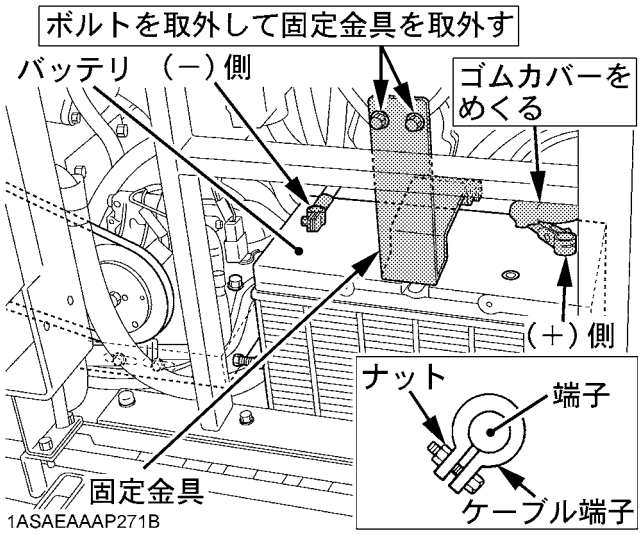
＊ バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
- **取外し…(－)端子側（アース側）から外す。**
- **取付け…(－)端子側（アース側）を最後に接続する。**

警告

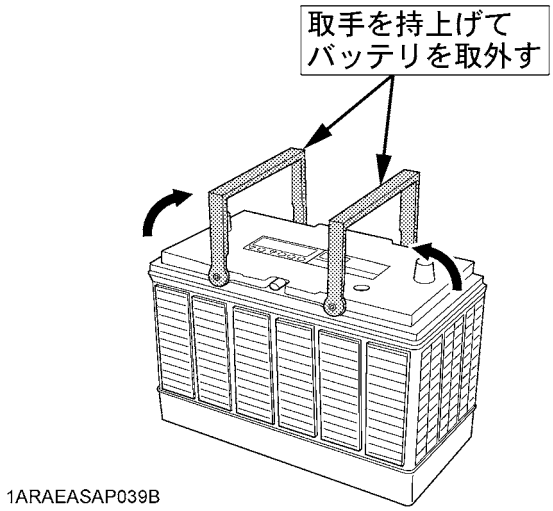
＊ バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊ バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリの取付け方向を間違えないでください。(＋）と（－）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。
- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。

1. バッテリを機体から取外します。
   (1) キャビンのドア下側にあるカバーを取外します。(208 ページ参照)
   (2) 固定金具を取外します。
   (3) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。



(4) バッテリの両端にある取手を持上げてバッテリを取外します。



1ARAEASAP039B

重　要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**105E41R**
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。
＊ 機械にバッテリを搭載した状態で急速充電をしないでください。

補　足

＊ 端子にグリースを塗布してからケーブル端子を取付けてください。

補水が必要なバッテリの場合

（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

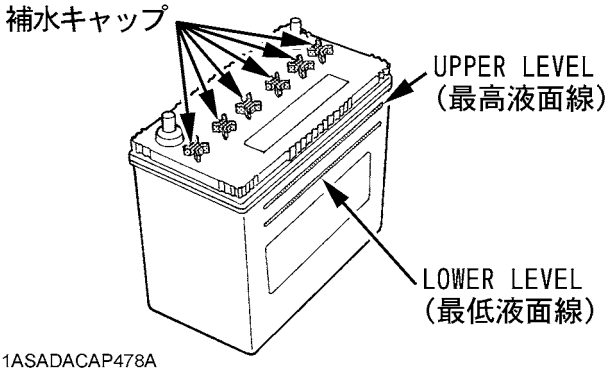
◆ 点検・補水

警　告

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，**[UPPER LEVEL]**（最高液面線）と **[LOWER LEVEL]**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



1ASADACAP478A

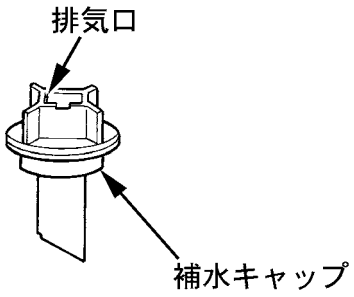
重　要

＊ バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊ バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊ バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ASADACAP479A

◆ 補充電・交換

危　険

＊ 補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
   また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード，各ヒューズの点検・交換

警　告

＊ 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは購入先へ連絡して修理を依頼してください。

◆ 各ヒューズの交換

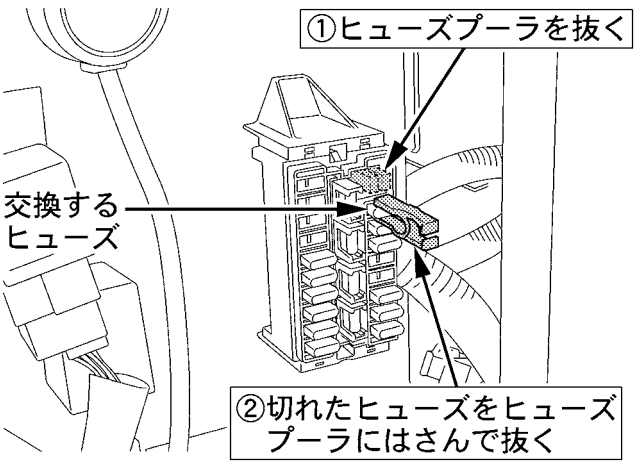
ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重　要

＊ 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，購入先に連絡して修理を依頼してください。

補　足

＊ ヒューズを交換するときは，ヒューズボックスのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。



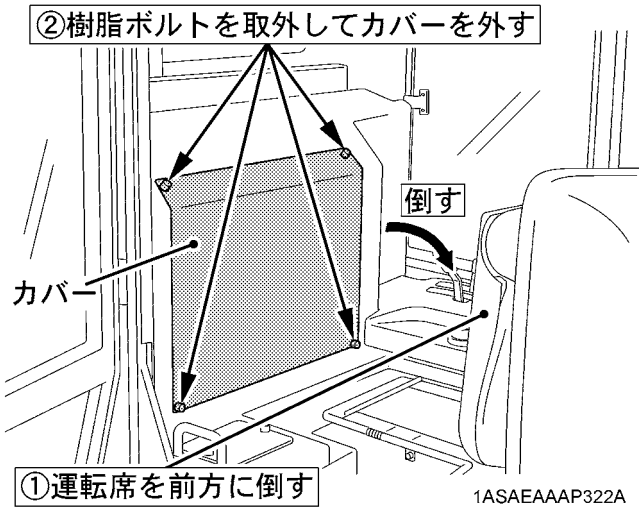
※イラストは運転席後部カバー内のヒューズボックス

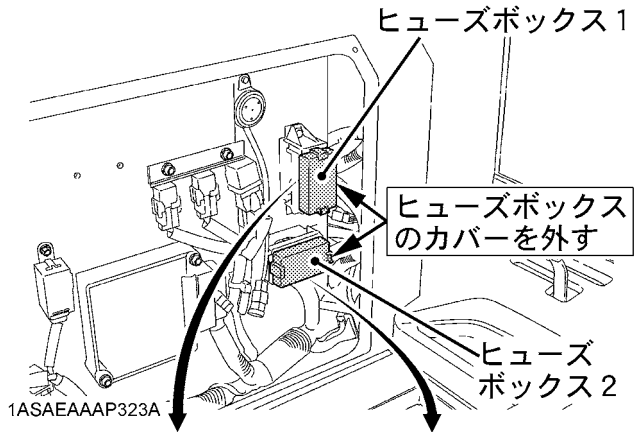
1ASAEAAAP321A

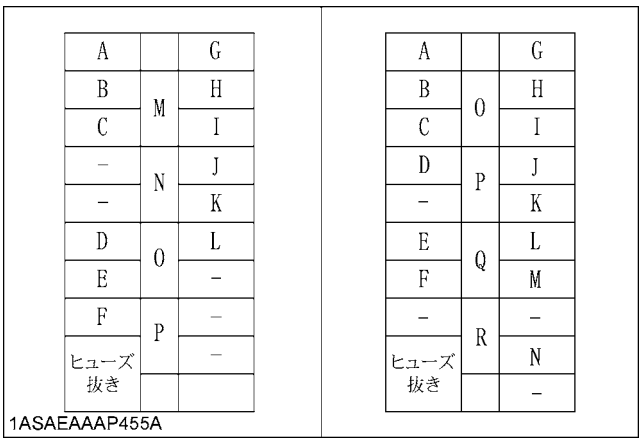
1. ヒューズボックスのカバーを外します。
2. 切れたヒューズを外します。
3. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。
4. ヒューズボックスのカバーを取付けます。

● 運転席後部

運転席を前方に倒したあと，樹脂ボルトを取外して運転席後部のカバーを取外してください。交換後は，運転席後部のカバーを取付けてください。







ヒューズボックス１

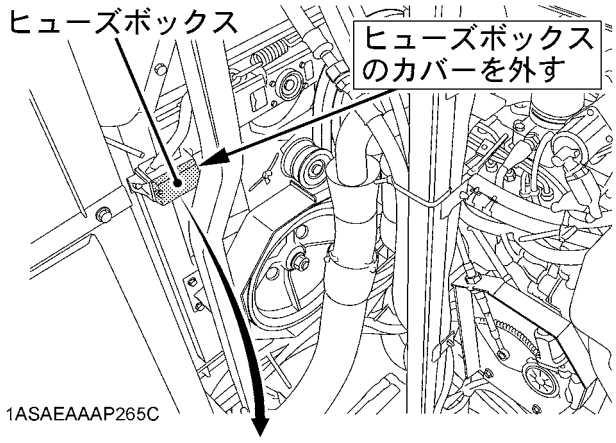
	回　路	容量(A)	対象型式
A	ハイサイドスイッチ	5	全型式
B	ウインカ，ブザー	10	全型式
C	脱こくクラッチモータ	25	全型式
D	キャビン	7.5	全型式
E	ワイパ，ウオッシャ	20	全型式
F	ブロワ	20	全型式
G	マイコン，パネル，メータ	5	全型式
H	センサ	5	全型式
I	エンジン	10	全型式
J	オルタネータ，燃料ポンプ	10	全型式
K	油圧バルブ	15	全型式
L	逆流ファンモータ	20	全型式
M	予備ヒューズ	5	全型式
N	予備ヒューズ	7.5	全型式
O	予備ヒューズ	10	全型式
P	予備ヒューズ	25	全型式

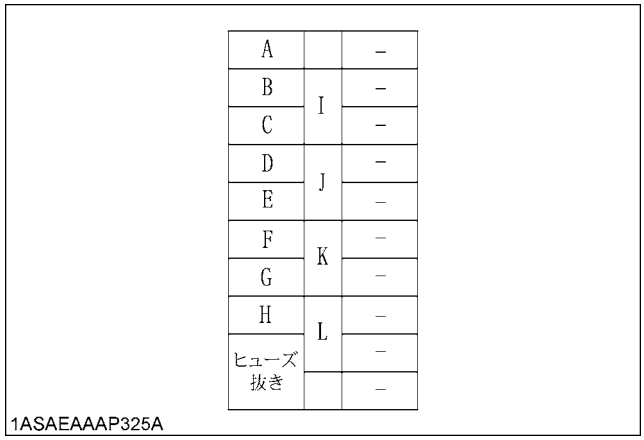
ヒューズボックス２

	回　路	容量(A)	対象型式
A	メインスイッチ（直 B）	30	全型式
B	マイコン，メータ（直 B）	5	全型式
C	ラジオ（直 B）	5	全型式
D	本機作業灯	30	全型式
E	タンク作業灯	30	全型式
F	オプション	25	全型式
G	前照灯	15	全型式
H	ラジオ	15	全型式
I	バックモニタ	10	全型式
J	電源ソケット	15	全型式
K	コンデンサファン	20	全型式
L	スイッチ（エンジン始動）	5	全型式
M	スタータスイッチ	5	全型式
N	エアフロセンサ	5	全型式
O	予備ヒューズ	5	全型式
P	予備ヒューズ	15	全型式
Q	予備ヒューズ	20	全型式
R	予備ヒューズ	30	全型式

● 脱こく後部

グレンタンクを開いてください。交換後は，グレンタンクを閉じてください。



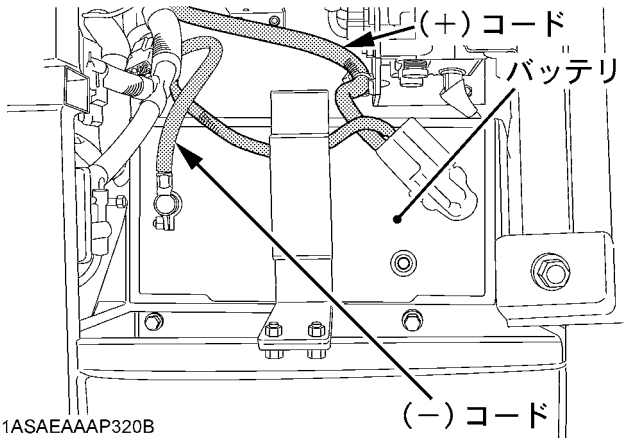


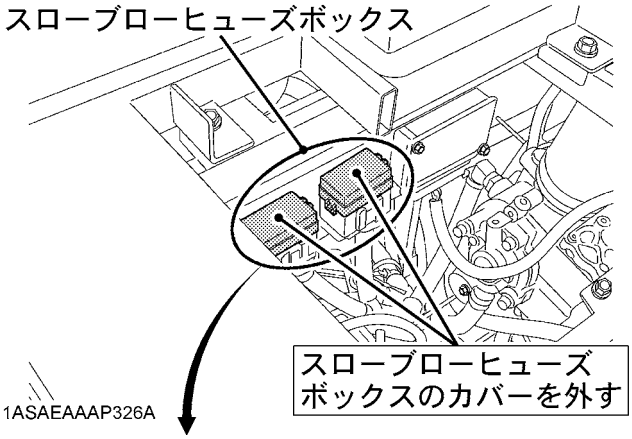
	回　路	容量(A)	対象型式
A	チャフモータ	20	全型式
B	ハイサイドスイッチ	5	全型式
C	モミ排出クラッチモータ	25	全型式
D	リール前後モータ	25	全型式
E	リール変速モータ	20	全型式
F	制動灯・後退灯	10	全型式
G	アンローダモータ	30	全型式
H	ブザー	5	全型式
I	予備ヒューズ	5	全型式
J	予備ヒューズ	10	全型式
K	予備ヒューズ	25	全型式
L	予備ヒューズ	30	全型式

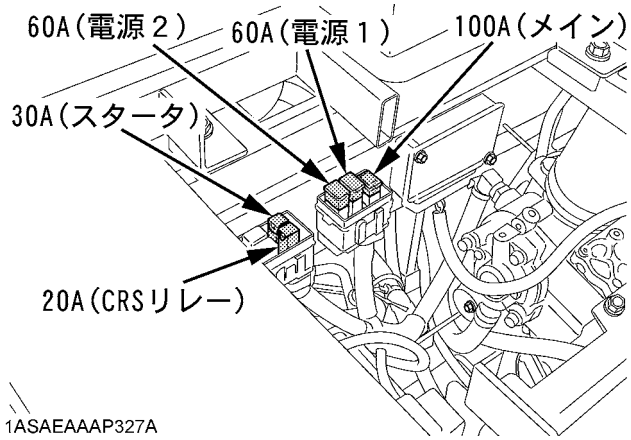
◆ スローブローヒューズ·バッテリ（+）コードヒューズの点検·交換

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。

交換を行なうときは，ステップのゴムカバー下にある点検用カバーを取外してください。(235ページ参照)

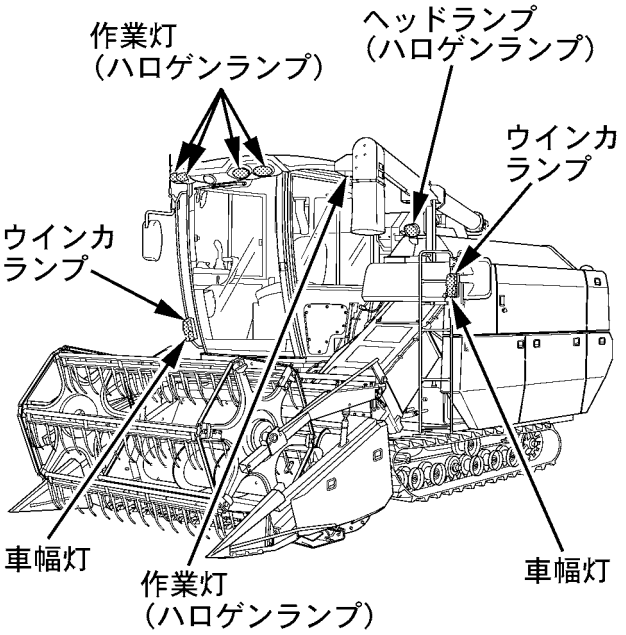




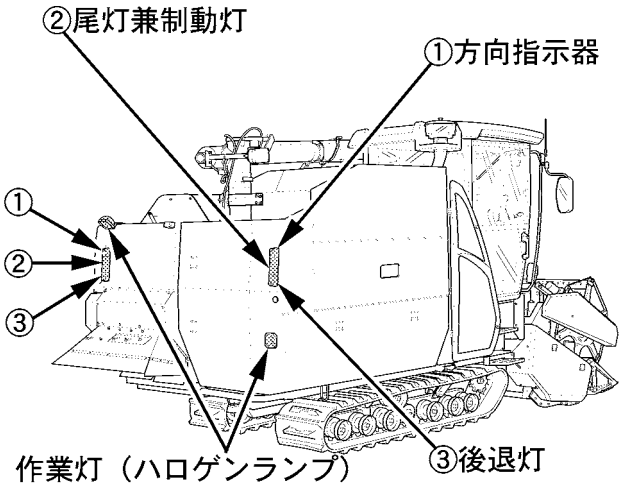


■ランプ（電球）の点検･交換，ホーンスイッチの点検

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。



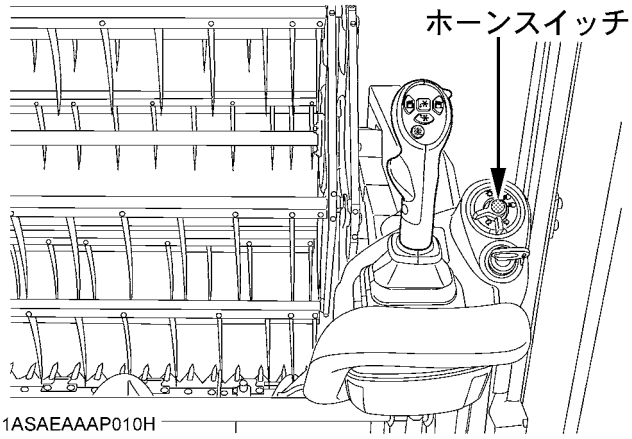
1ASAEAAAP356N



1ASAEAAAP415Q

重　要

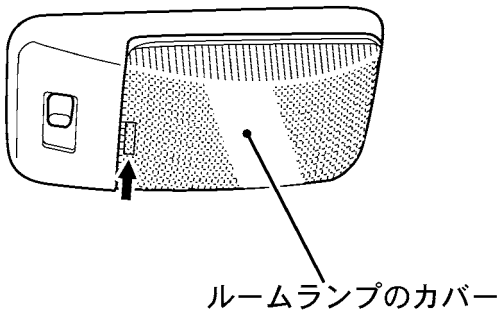
＊ ハロゲンランプ（作業灯，ヘッドランプ）の交換をしたとき，ランプの表面に指紋などの油分が付着したときは，きれいにふきとってください。破損する原因になります。



1ASAEAAAP010H

● ルームランプ

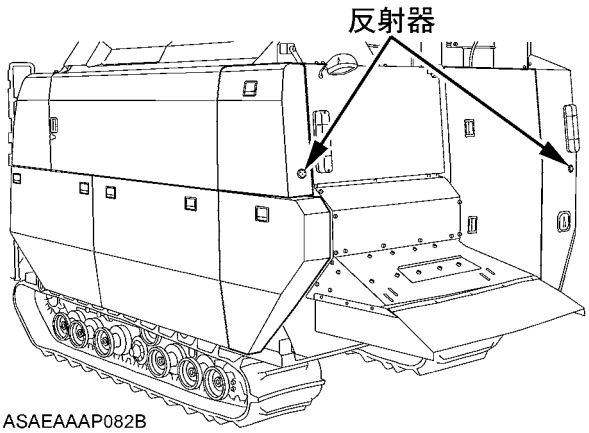
カバーを➡の凹部にマイナスドライバなどの先端部を差込み，下方向に押して取外して，電球を交換してください。



1ARAEASAP014B

■反射器の点検･交換

汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。



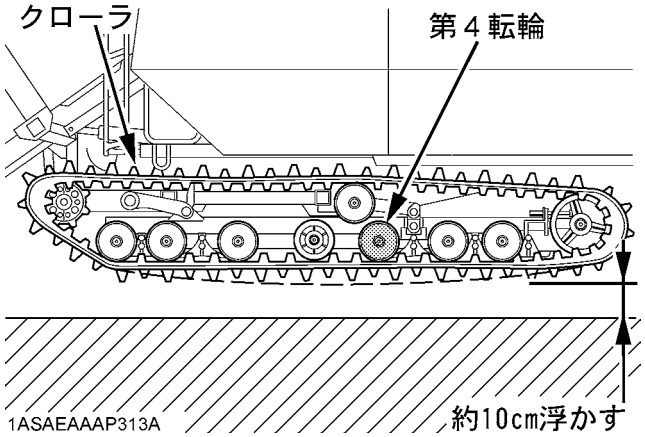
1ASAEAAAP082B

■クローラの点検･調整

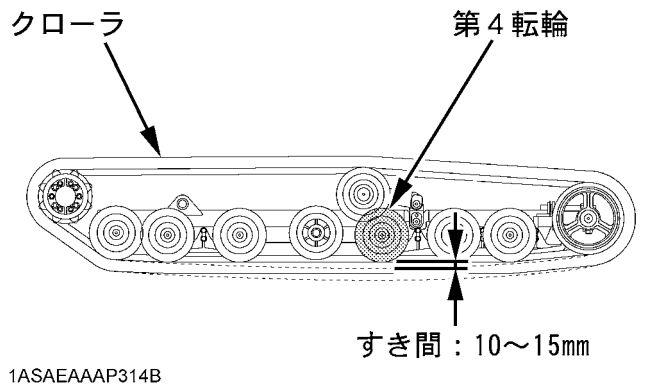
警 告

- **＊ 点検・調整を行なうときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- **＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして，刈取部の下降防止を必ず行なってください。**
- **＊ 機体にセットする木材やブロックなどは，じゅうぶんな強度があるもので，セットするときは機体から外れないように注意しながら行なってください。**

地面からクローラを約 10cm 浮かした状態で，機体を**最下降**位置にし，クローラ下側上面と第４転輪下端のすき間を 10 ～ 15mm に調整してください。また，調整は片側ずつ行なってください。



1ASAEAAAP313A



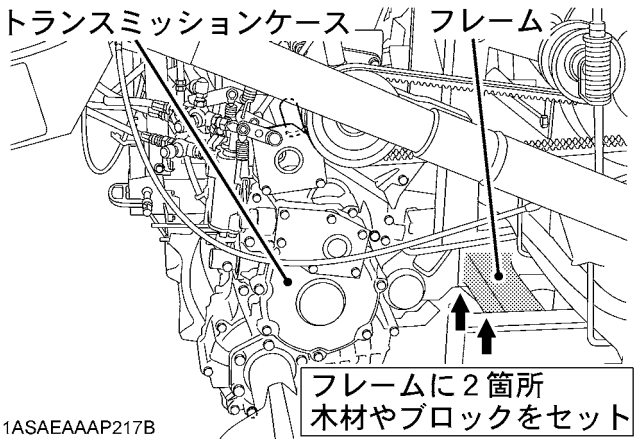
1ASAEAAAP314B

1. コンバインを平たんな場所に移動します。
2. クローラを地面から 10cm 程度浮かせます。

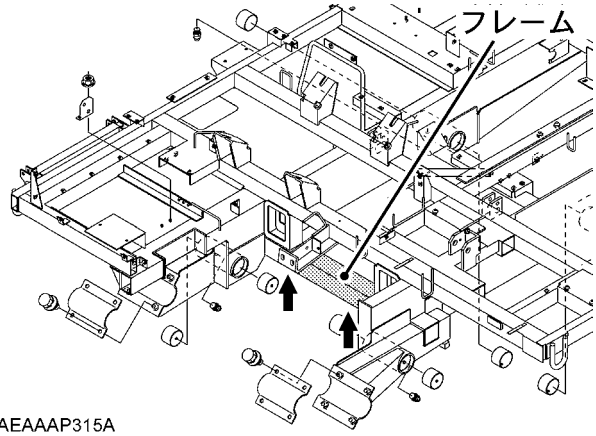
重 要

＊ ミッションケースを絶対にジャッキアップしないでください。破損するおそれがあります。

(1) エンジンを始動したあと，刈取部を**最上昇位置**にします。
(2) 刈取･リール下降ロックスイッチを**［ロック］**位置にします。
(3) 水平操作手動スイッチを操作し，機体を上昇させたあと，エンジンを停止します。
(4) 刈取下降ロック金具を**ロック**状態にして刈取部の下降防止を行ないます。
(5) 前部はトランスミッションケース後方のフレームに木材やブロックをセットします。

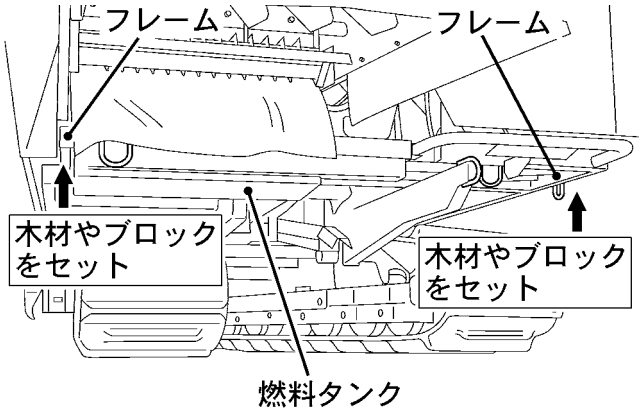


1ASAEAAAP217B



1ASAEAAAP315A

(6) 後部は機体フレームの下図位置に調整を行なう側のフレームに木材やブロックをセットします。



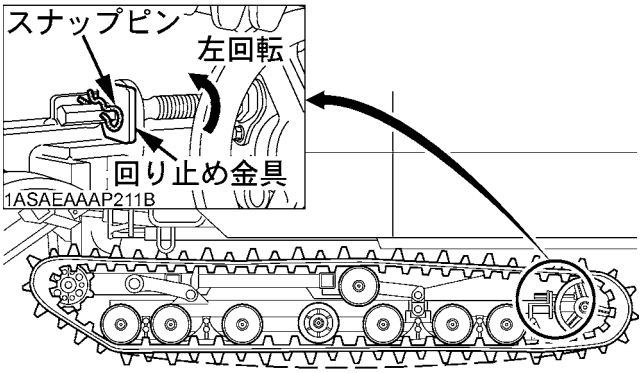
1ASAEAAAP316A

(7) エンジンを始動したあと，水平操作手動スイッチを操作し，機体を**最下降位置**にします。
(8) エンジンを停止します。

重　要

＊ 燃料タンクに木材やブロックなどを当てないでください。破損し燃料漏れを起こすおそれがあります。

3. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。
4. 張りボルトでクローラを張りながら，すき間の調整を行ないます。



1ASAEAAAP313B

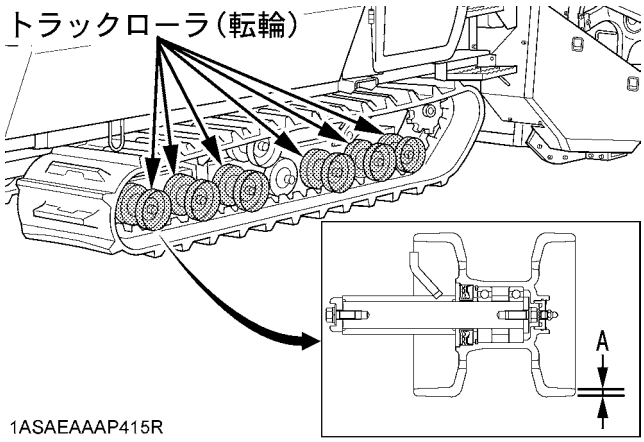
5. 左，右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。
6. ブロックや木材を取外します。
   (1) エンジンを始動したあと，水平操作手動スイッチを操作して機体を上げます。
   (2) エンジンを停止します。
   (3) 木材やブロックを機体から取外します。

重　要

＊ クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
＊ クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期 20，及び 50 時間目に点検してください。
＊ クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため，下記事項を守ってください。
   - 日光や雨による劣化防止のため，屋外に長期保管しないでください。
   - オイルや燃料，農薬，肥料など油脂類の付着による劣化防止のため，クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。

■トラッククローラ（転輪）の点検

トラッククローラの下図 A 寸法が，2 ㎜以下になったとき又は，使用時間が 800 時間経過したときの早いほうで交換してください。



1ASAEAAAP415R

補　足

＊ 交換を行なうときは，購入先に連絡してください。

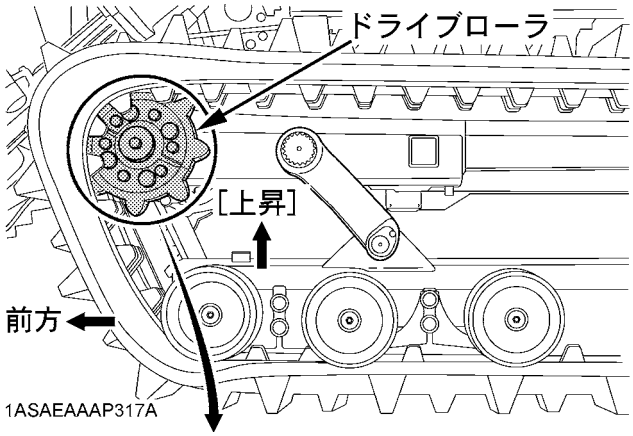
■ドライブローラの点検・左右入換え・交換

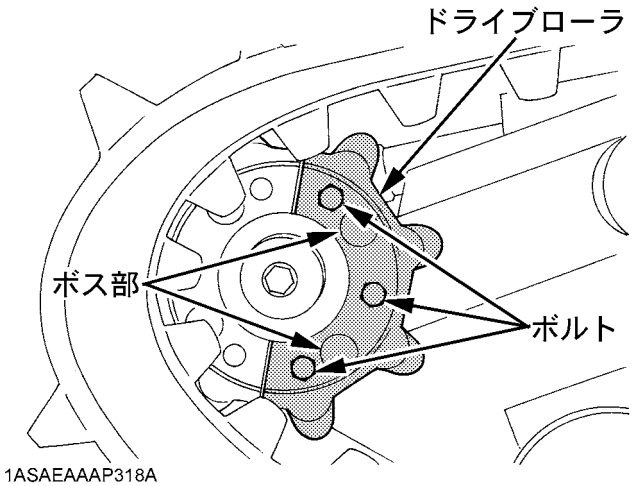
警　告

＊ 点検・交換を行なうときは，平たんな場所でエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

◆ 点検

1. エンジンを始動したあと，自動車体水平制御装置の機体昇降手動スイッチの**【上】**を押して機体を**最上昇**位置にします。
2. 刈取部を上げ，２分割式ドライブローラの位置が下図の位置になるように機体を前進させます。





3. 刈取部を降してエンジンを停止します。
4. ドライブローラを取付けているボルトを確認し，ゆるみや脱落が発生しているときは，購入先に連絡してください。

◆ 左右入換え

1. **◆点検**の手順 **1. ～ 3.** を行ないます。
2. クローラに接触していない側のドライブローラのボルト３本を外して，ドライブローラを外します。
3. 同じ要領で反対側（右側又は，左側）のドライブローラを取外します。
4. ボス部側面に泥など異物が付着しているときは，異物を取除きます。
5. 左右のドライブローラを入換えたあと，ボルト３本でドライブローラをそれぞれ取付けます。

重　要

＊ ボルトにはネジロック（スリーボンド #1324B 又は，1305）を塗布し，締付トルクは 157N・m（1600kgf・cm）のトルクレンチで締付けてください。また，トルクレンチがないときの交換は，購入先又は，整備工場で行なってください。

＊ ドライブローラの左側と右側を同時に交換してください。締付けトルクが不足（締付不足）すると，ボルトやドライブローラの脱落の原因となります。

6. エンジンを再始動し，２分割式ドライブローラのもう一方の入換えを行なうため**◆点検**の手順 **1. ～ 3.** を行ないます。
7. 上記手順の **2. ～ 5.** の要領で左右のドライブローラの入換えを行ないます。

◆ 交換

左右入換えと同じ要領で新しいドライブローラと交換してください。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

警　告

＊ 機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平坦な場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部の排かんくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。
（166 ページ参照）
3. アンローダを収納します。
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのキーを抜取ります。
6. バックミラーを収納し，ドアをロックしたあとキーを抜取ります。
7. 本機カバーを掛けます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平坦な場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草や排かんくずを，完全に取除いてください。

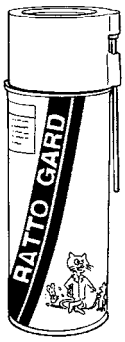
重　要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。
＊ 作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの**［給・注油（水）点検一覧表］**（174 ページ参照）を参照して，各部の給・注油（水）を行なってください。

補　足

＊ 各部にこく粒や排かんくずが残っていると，ネズミに配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。また，ネズミによる被害を避けたいときは，クボタ純正部品**ラットガード**（ネズミよけスプレー塗料）の使用をお勧めします。

クボタ純正品　ラットガード
ネズミよけ
スプレー塗料



1ASADACAP480A

＊使用の際は，スプレー缶に書いてある使用上の説明・注意をよくお読みください。

品　　名	品　　番
クボタラットガード	07908-5619-0

＊ 各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
＊ 塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

● 排水しておくとき

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。(188 ページ参照)
2. ラジエータキャップに**［水なし］**と書いた札を掛けておいてください。

● 不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。
(188 ページ参照)

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも 50% 以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。(ラジエータ容量……約 9L)
＊ 不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。

◆ バッテリ

危　険

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

警　告

＊ バッテリを点検するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。(バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。)
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は 1 カ月，冬は 2 カ月に 1 回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，(－) 側のケーブルを必ず取外してください。

◆ 各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

- デバイダカバーを取付けたあと，分草かんを収納します。
- アクセルダイヤルをいっぱい戻して（**[🚗]** 位置）止めておきます。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは**［切］**位置にします。
- 車体水平制御は，機体いっぱいまで下げます。
- メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管します。
- 本機カバーを掛けます。

コンバインの不調と処置

警　告

＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取・リール下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，さらに刈取下降ロック金具を［ロック］位置にして刈取部の下降防止を必ず行なってください。
＊ エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 機械は平たんで，周りに排かんくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 刈刃やチョッパ部の掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

マルチナビの液晶ディスプレイに警報が表示されたときは表示内容を確認後，マルチナビによる異常と処置（125 ページ参照）又は，マルチナビによる故障と処置（128 ページ参照）の処置内容に従って処置してください。また，作物やほ場の状態，条件により機械の各部の点検・調節・調整・交換及び機械の正しい操作のしかたや点検・掃除を行なってください。

コンバインの不調と処置

◆刈取部

不調・不具合内容	原　因	点検・調整・調節・交換箇所	処置内容		参　照ページ
			処置１	処置２	
刈取部のヘッドロスが多い。	リールの回転速度が速い。	リール変速調節ダイヤル	作業をいったん中止したあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**[脱こく]**位置にする。	リールの回転速度を遅くする。	14
	作物の中にタインが入りすぎている。	リール上下調整スイッチ		リールの高さを高くする。	102
	タインの角度が大きい。	タイン		タインの角度を小さくする。	112
	リールの高さ，前後の位置が刈取条件に合っていない。	リール上下調整スイッチ リール前後調整スイッチ		適正な位置にする。	102, 103
刈取部で作物が滞留する。	リールの高さ，前後の位置が刈取条件に合っていない。	リール上下調整スイッチ リール前後調整スイッチ		適正な位置にする。	102, 103
	リールの回転速度が速い。	リール変速調節ダイヤル		リールの回転速度を遅くする。	14
	オーガドラムと底板のすき間が作物条件に合っていない。	オーガドラム	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	作物条件に合ったすき間にする。	225
株を引抜く。作物を刈取らずに押し倒す。	作業速度が速い。	主･副変速レバー	―	作物やほ場条件に合った作業速度にする。	8,94
	デバイダの位置が低い。(株の根元に突っ込む)	パワーステアリングレバー		デバイダ先端を地面から５～10cmの範囲内に調整する。	101
	刈刃や搬送部に根･株･泥・石などの異物がかみ込んでいる。	刈刃・搬送部	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	異物を取除き，刈刃部や搬送部に異常がないか再点検をする。	155
	刈取駆動ベルトがスリップしている。	刈取駆動ベルト		交換する。	―
		刈取駆動ベルトテンションスプリング		張り調整する。	211
	刈刃の切れが悪い。	刈刃		交換する。	―

コンバインの不調と処置

◆脱こく部

不調・不具合内容	原因	点検・調整・調節・交換箇所	処置内容		参照ページ
			処置１	処置２	
こぎ残しやササリロスがある。	こぎ歯が摩耗している。	こぎ歯	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	組換え又は，交換する。	228
	こぎ胴の回転が低い。	こぎ胴変速プーリ		作物条件に合ったプーリに交換する。	－
	こぎ室送じん弁が開きすぎている。	こぎ室送じん弁調節レバー		**【閉】**方向に調節する。	116
	エンジンの回転が低い。	アクセルダイヤル	－	エンジン回転数を上げる。	8,94
こく粒の飛散が多い。	エンジンの回転が高い。	アクセルダイヤル		エンジン回転数を下げる。	8,94
	トウミの風力が強い。	トウミ調節レバー		**【弱】**方向に調節する。	117
	チャフの開度が小さい。	選別板調節ダイヤル		**【開】**方向に調節する。	119
	こぎ室送じん弁が開きすぎている。	こぎ室送じん弁調節レバー	作業をいったん中止する。	**【閉】**方向に調節する。	116
	チャフケース各部の調節が悪い。	グレンシーブ	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	目合いが作物に合っているか確認する。	－
		チャフシーブ	－	選別板（チャフ）の開度を大きくする。	119
	シーブが目詰まりしている。	グレンシーブ	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	掃除する。	155
		チャフシーブ			
選別が悪い。	エンジンの回転が低い。	アクセルダイヤル	－	エンジン回転数を上げる。	8,94
	トウミの風力が弱い。	トウミ調節レバー		**【強】**方向に調節する。	117
	チャフの開度が大きい。	選別板調節ダイヤル		**【閉】**方向に調節する。	119
	グレンシーブの目合いが合っていない。	グレンシーブ	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	目合いの小さいものに交換する。	－
	トウミの風路に莢くずなどがたまっている。	シーブケース上下部		掃除する。	155
こぎ室内でゴトゴトと音がして作業能率が上がらない。	エンジンの回転が低い。	アクセルダイヤル	－	エンジン回転数を上げる。	8
	作業速度が速い。	主･副変速レバー		作業速度を落とす。	8,94
	作物の送りが均一でない。	リール前後調整スイッチ		リールを後方に移動する。	103
	作物の水分が高い。	作物	作業を中止する。	作物がよく乾いてから刈取作業をする。	84
	こぎ室送じん弁が閉じすぎている。	こぎ室送じん弁調節レバー	作業をいったん中止する。	**【開】**方向に調整する。	116

不調・不具合内容	原因	点検・調整・調節・交換箇所	処置内容		参照ページ
			処置１	処置２	
2 番が詰まる。	エンジンの回転が低い。	アクセルダイヤル	―	エンジン回転数を上げる。	8
	還元量が多い。	シーブケース		選別板調節ダイヤルを【開】方向に調整する。	119
	2番スクリュケースや2番処理胴内に泥や稈くずなどが溜まっている。	2番スクリュケースや2番処理胴内	作業を中止したあと，エンジンを止める。	掃除する。	155
脱ぷ･損傷粒が多い。	供給量が安定していない。	作業速度	―	少し速くする。	8,94
	エンジンの回転が高い。	アクセルダイヤル		エンジン回転数を下げる。	8,94
	還元量が多い。	チャフの開度		選別板調節ダイヤルを【開】方向に調整する。	119
		トウミの風力		トウミ調節レバーを【弱】方向に調整する。	117
		グレンシーブ	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	目合いの大きいものに交換する。	―
	こぎ胴の回転が高い。	こぎ胴変速レバー		作物条件に合った変速位置にする。	―
	こぎ室送じん弁が閉じすぎている。	こぎ室送じん弁調節レバー	作業をいったん中止する。	【開】方向に調整する。	116
	シーブが目詰まりしている。	グレンシーブ	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	掃除する。	155
		チャフシーブ			
	1 番バケットコンベアのチェーンがたるんでいる。	1番バケットコンベアチェーン		張り調整をする。	222
	1 番バケットコンベアの底部に泥が溜まっている。	1番バケットコンベアの底部掃除		掃除する。	155
汚粒がでる。	刈取時期が早い。	作物	作業を中止する。	適期に刈取作業をする。	84
	刈取時期が早い。			作物がよく乾いてから刈取作業をする。	84
	雑草や青立が多い。	ほ場		除草する。	86
	土が入る。	自動刈高さ制御	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	土を取除き刈高さ自動スイッチを【入】にする。	29
	こぎ室送じん弁が閉じすぎている。	こぎ室送じん弁調節レバー	作業をいったん中止する。	【開】方向に調整する。	116

コンバインの不調と処置

不調・不具合内容	原因	点検・調整・調節・交換箇所	処置内容		参照ページ
			処置１	処置２	
莢付粒が多い。	エンジンの回転が低い。	アクセルダイヤル	－	エンジン回転数を上げる。	8,94
	こぎ室送じん弁が開きすぎている。	こぎ室送じん弁調節レバー	作業をいったん中止する。	**【閉】**方向に調整する。	116
	こぎ歯が摩耗している。	こぎ歯	作業をいったん中止したあと，エンジンを止める。	組換え又は，交換する。	228

刈取部に作物が詰まる

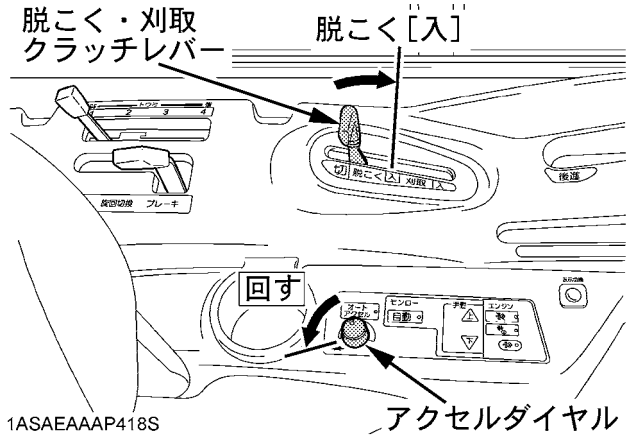
■刈取逆転クラッチレバーの使いかた

警　告

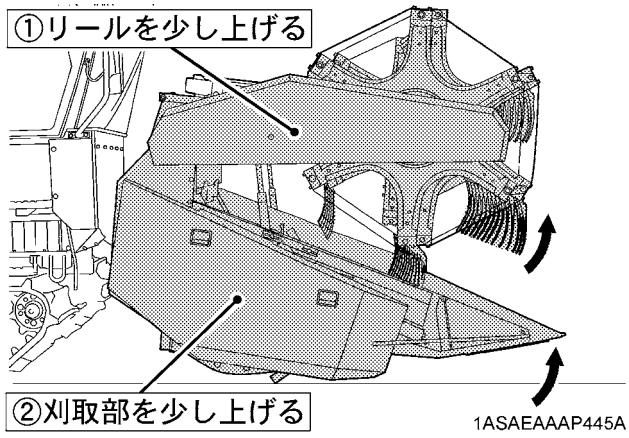
＊ 刈取部を逆転して異物を取除くときは，刈取作業を必ず中止して行なってください。

刈取部に異物が詰まり，大きな音が発生したり，刈取部やフィーダ搬送部が停止したときは，刈取作業をいったん中止して刈取逆転クラッチレバーを使用して詰まった異物を取除いてください。

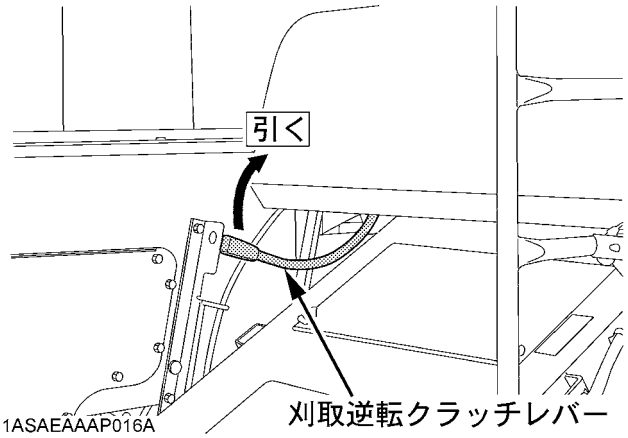
1. 主変速レバーを操作して走行を停止したあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく［入］**位置にします。（刈取部は停止状態で脱こく部は作動状態）
2. アクセルダイヤルを左側いっぱいまで回してエンジンをアイドリング状態にします。



3. リールを少し上げたあと，刈取部を地面から少し上げた状態にします。



4. キャビンのフィーダ側の窓を開き，刈取逆転クラッチレバーを断続的に強く引いて，異物を取除きます。



重　要

＊ 刈取部に異物などが詰まり，刈取部やフィーダ搬送部が停止したときは，直ちに刈取逆転クラッチレバーから手を離してからエンジンを停止してください。また，連続して長時間刈取逆転クラッチレバーを引き続けないでください。各駆動ベルトやチェーン又は，オーガドラムが破損するおそれがあります。

補　足

＊ 刈取クラッチが入っている（刈取部作動状態）と刈取逆転クラッチレバーを引いてもレバーが動かないため，脱こく・刈取クラッチレバーは必ず**脱こく［入］**位置にしてください。
＊ 刈取逆転クラッチレバーを引くと，刈取部やフィーダ搬送部の動力が逆回転します。
＊ 刈取逆転クラッチレバーを引いても作物の詰まり解除ができないときは，エンジンを停止したあと，手で少しずつ作物を取除いてください。

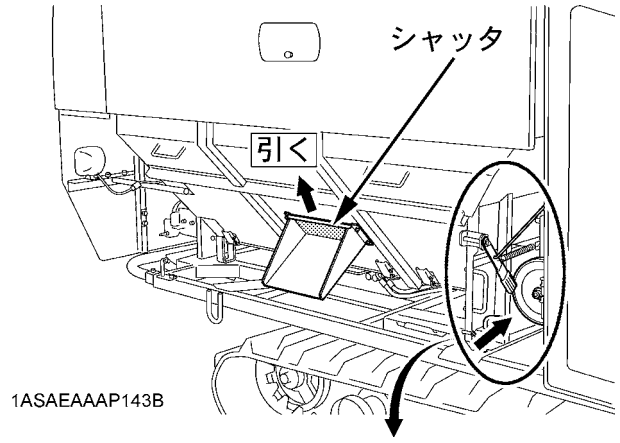
5. 異物を取除いたあと，刈取作業を行ないます。

こく粒が詰まる・大豆の割れやキズが発生する

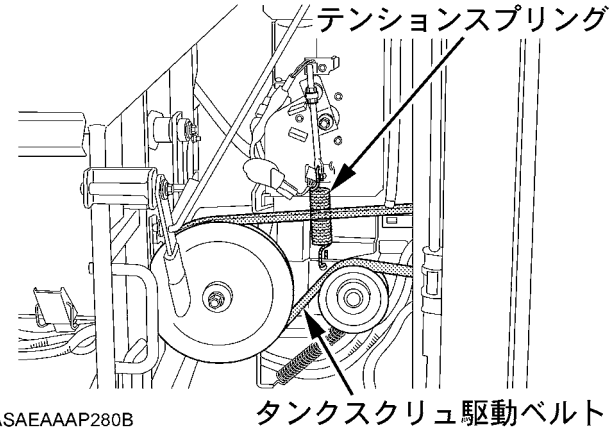
■アンローダからこく粒が排出されないとき

下記事項を点検し，もみ排出スイッチを**［切］**にしたあと，エンジンを必ず止めてから処置してください。

1. 異物がかみ込んでいるときは，アンローダの各掃除口を点検（155 ページ参照）し，異物があれば取除いてください。
2. タンクスクリュ駆動ベルトがスリップしているときは，シャッタを引いてこく粒を排出したあと，グレンタンクを開き（145 ページ参照），タンクスクリュ駆動ベルトのテンションスプリングの調整（215 ページ参照）をします。調整を行なってもスリップが止まらないときは，ベルト交換を行なってください。



1ASAEAAAP143B



1ASAEAAAP280B

■大豆の割れやキズの発生や詰まりが多い

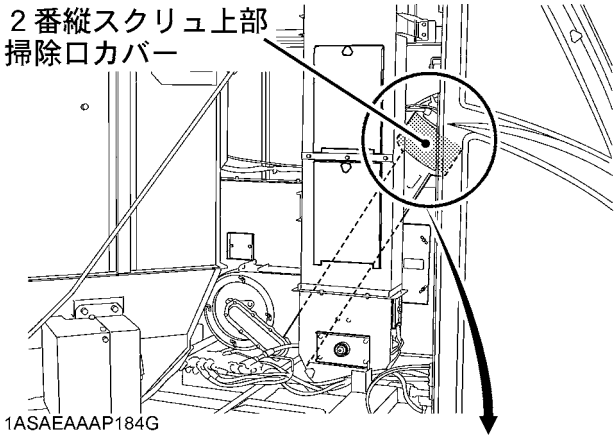
大豆の割れやキズや詰まりの発生が多いときは，２番スクリュの上部排出羽根，処理胴の処理刃のすき間調整を行なってください。

◆ 上部排出羽根のすき間調整

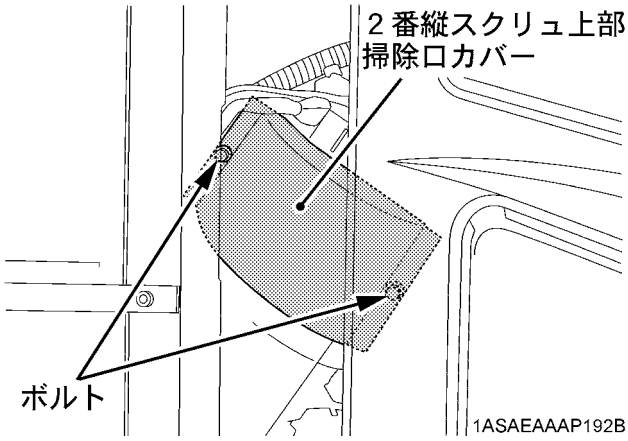
補　足

＊ 大豆の刈取作業を行なう前に，すき間を大きくする方向に調整しますが，大豆の割れやキズが発生する場合は，さらにすき間を大きくしてください。

1. グレンタンクを開きます。(145 ページ参照)
2. ボルトを取外して，２番縦スクリュ上部掃除口カバーを外します。

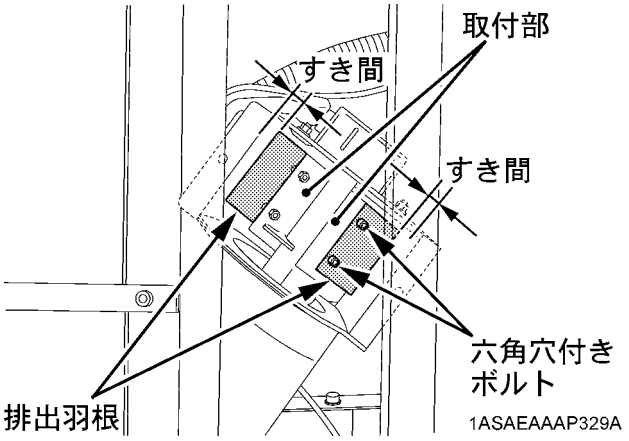


1ASAEAAAP184G



1ASAEAAAP192B

3. 排出羽根と２番縦スクリュ上部カバーのすき間を調整します。
   (1) ２番縦スクリュ上部の取付部に取付けている排出羽根２枚の六角穴付きボルトを，六角レンチでゆるめます。
   (2) 排出羽根を２枚共それぞれ中央側に動かして，すき間を調整します。



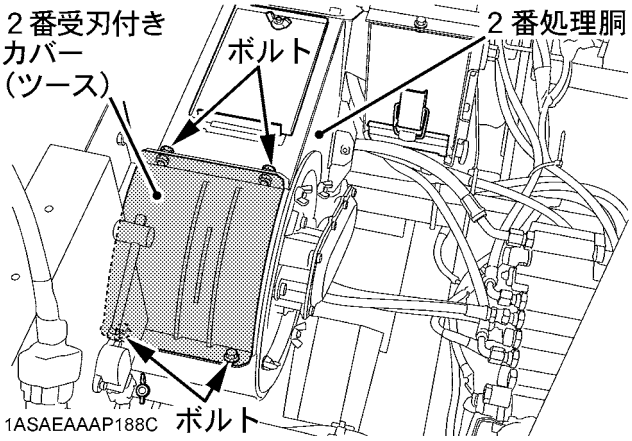
補　足

＊ 排出羽根のすき間は２枚共均等にしてください。

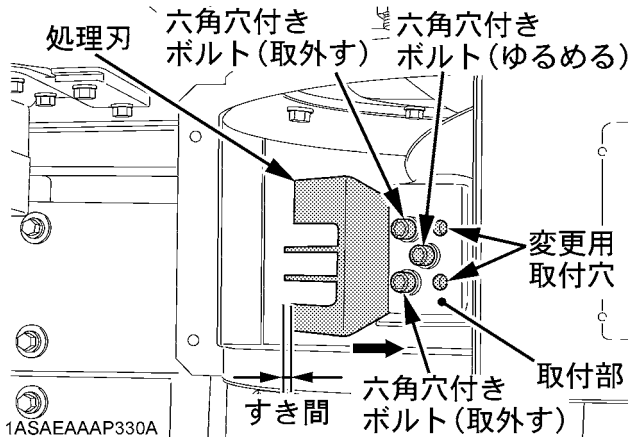
4. 六角穴付きボルトを締付けたあと，掃除口カバーを取付けてグレンタンクを閉じます。

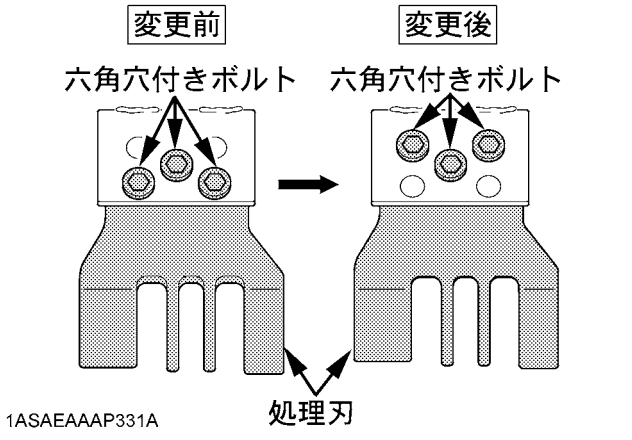
◆ 処理刃のすき間調整

1. グレンタンクを開きます。(145 ページ参照)
2. ボルトを取外して，２番処理胴の２番受刃付きカバー（ツース）を取外します。

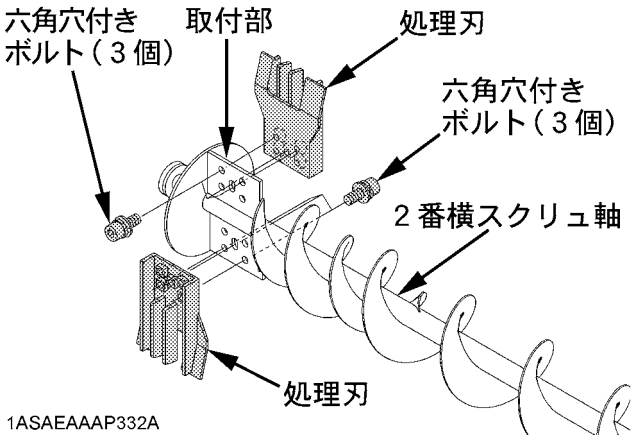


3. 処理刃の取付け位置を変更して，処理刃と処理胴のすき間を広げます。
   (1) ２番横スクリュの取付部に取付けている処理刃の六角穴付きボルトを，六角レンチで両端は取外し，中央はゆるめます。
   (2) 処理刃を中央側に少し動かして，変更用の取付穴に六角穴付きボルトを取付けて締付けます。





(3) 同じ要領でもう一方の処理刃の取付け位置を変更します。



1ASAEAAAP332A

補　足

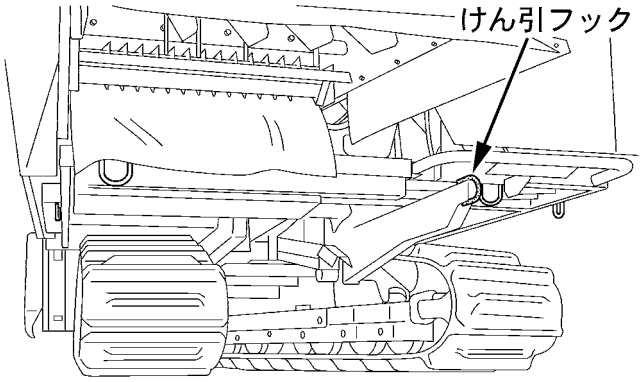
＊ もう一方の処理刃の変更を行なうときは，１番・２番・カウンタ駆動ベルトを手で引いて，処理刃の位置を変更してください。(212 ページ参照)

4. ２番受刃付きカバー（ツース）を取付けたあと，グレンタンクを閉じます。

その他

■けん引フックについて

湿田などでコンバインが自力で動けず，けん引作業を必要とする場合は，コンバインの後方のけん引フックを使用してください。このときにけん引フック以外のフックは，けん引作業には使用しないでください。



1ASAEAAAP316C

重　要

＊ このコンバインを使って，他のコンバインのけん引作業はしないでください。故障の原因になります。

＊ けん引フック以外のフックをけん引作業で使用すると，破損するおそれがあります。

付表

主要諸元

農機型式名			クボタWRH1000	
商品名			WRH1000C	
区分			2.1	2.6W
機体寸法	全長(mm)		5980	
	全幅(mm)		2440	2860
	全高(mm)		2720	
機体質量(kg)			4620	4670
エンジン	名称		V3800-CR-TE4-C1	
	形式		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼルターボ〔直噴〕	
	総排気量(L{cc})		3.769 {3769}	
	出力／回転速度(kW {PS} /rpm)		74.3 {101} /2600	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	タンク容量(L)		95	
	始動方式		セルモータ	
	バッテリ(V・Ah)		12・80〔105E41R〕	
走行部	クローラ	中心距離(mm)	1300	
		幅×接地長(mm)	500×2060	
		平均接地圧(kPa {kgf/cm²})	22.0 {0.224}	22.2 {0.227}
	最低地上高(mm)		230～340	
	変速方式		油圧モータ式〔ＨＳＴ〕	
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各3段〕	
	走行速度(m/s)	前進	〔副変速〕　低速：0～1.20　標準：0～2.00　走行：0～2.68	
		後進		
	旋回方式		ブレーキ・ソフトターン〔レバー切換え式〕	
刈取部	引起し方式		リール引起し	
	リール	径(mm)×バーの数(本)	1000×6	
		変速方式	ベルト無段変速	
		上下調節方式	油圧式	
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		2080	2600
	刃幅(mm)		1980	2499
	刈高さ〔昇降〕範囲(mm)		-60～970〔刈刃先端〕	
脱こく部	脱こく方式		軸流式〔バータイプ〕	
	ロータ	こぎ歯の種類	バーツース	
		径×幅(mm)	620×1860	
		回転数(rpm)	729〔稲・麦〕，259〔大豆〕	
	２番還元方式		スクリュ	
	１番昇降方式		バケットコンベア	
	揺動板	幅×長さ(mm)	840×1700	
	選別方式		揺動・風選〔トリプルファン〕	

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

付表

農機型式名			クボタWRH1000	
商品名			WRH1000C	
区分			2.1	2.6W
こく粒処理部	タンク容量(L)		2000	
	アンローダ	排出方式	スクリュ式	
		旋回範囲（度）・旋回方式	260･電動モータ	
		昇降範囲（度）・昇降方式	0〔水平〕～45･油圧式	
		排出高さ〔作業時〕(mm)	4700	
		排出長さ〔作業時〕(mm)	3800	
わら処理部	工場出荷仕様		チョッパ	
諸装置	自動化装置	自動刈高さ制御	○	
		刈取対地平行自動刈高さ制御	○	
		自動リール回転制御	○	
		刈取りオートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止機能〕	○	
		自動車体水平制御	○	
		自動脱こく制御	○（チャフ制御のみ）	
		アンローダ自動旋回制御	○	
		エンジン正逆流ファン制御	○	
	ディーゼル微粒子除去装置（DPF）		○	
	刈取りバックリフト〔後進時刈取部上昇機能〕		○	
	ポジピタ〔刈取部ワンタッチ昇降機能〕		○	
	リール上下・前後スイッチ		○	
	パワークラッチ〔脱こく・刈取・こく粒排出〕		○	
	キャビン		○	
	バックモニタ		○	
	警報装置		燃料・油圧・オーバーヒート・充電・負荷・こぎ胴・1番詰まり・2番詰まり・こく粒満杯・チョッパ	
作業能率（計算値）（分/10a）			8～38[麦，※大豆] 10～38[稲]	7～31[麦，※大豆] 8～31[稲]
適応作物			[稲・麦] ※[大豆・そば・小豆]	

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※別売品（オプション）の大豆・そば共通キット・小豆キットを装着した場合です。

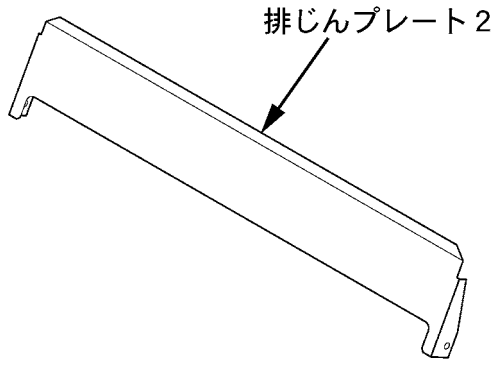
付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊保証書	1
＊メンテナンスブック	1
＊取扱説明確認カード	1
＊取扱説明書	1
＊取扱説明書収納ビニール袋	1
＊ DPF 装置取扱いのポイントシート	1
＊クイックシート１	1
＊クイックシート２	1
＊スローブローヒューズ（60A）	1
＊本機カバー	1
＊グレンシーブ（13mm 目）（120 ページ参照）	1
＊グレンシーブ（15mm 目）（120 ページ参照）	1
＊排じんプレート２	1
＊油圧ホース圧抜金具（136 ページ参照）	1 セット
＊ソリセンサ固定金具（135 ページ参照）	2
＊ソリセンサ固定金具取付けボルト（135 ページ参照）	2

補　足

＊ 排じんプレート２は，シーブケース上に作物が滞留したとき，滞留する作物量によりロスが発生する場合に使用してください。トウミの風抜けが改善されてロスを少なくします。また，排じんプレート２を交換するときは，**[■シーブケースの脱着]** の **[◆抜出しかた]** の手順 6. を参照（149 ページ参照）して排じんプレートを取外して，排じんプレート２を取付けてください。



1ASAEAAAP383A

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

■大豆・そば用キット

大豆・そばの刈取作業時に使用します。

品　番	品　　名
5T090-86010	WRH1000 共通キット

※納豆用大豆など極小粒の大豆を刈取るときは，小豆用キットを併用してください。

■小豆用キット

小豆の刈取作業時に使用します。

品　番	品　　名
5T090-86020	WRH1000 小豆キット

※小豆キットを使用するときは，大豆・そば用キットが必要です。

■金時キット

金時豆の刈取作業時に使用します。

品　番	品　　名
5T090-83020	WRH1000 金時キット

※金時キットを使用するときは，大豆・そば用キットが必要です。

■アームレスト（ひじ置き）

刈取作業時の腕の疲労を軽減します。ドアへの取付後は必要に応じて使用してください。

品　番	品　　名
5T090-91102	アームレスト，アッシ（ヒジオキ）

◆ 刈取部

■ 2.1m リール用ツインカッタ

稲の刈取作業時に使用します。ツインカッタで刈株の高さを約 100mm まで刈取ります。

品　番	品　　名
5T090-86050	WRH1000 2.1 ツインカッタ

■ 2.6m リール用ツインカッタ
稲の刈取作業時に使用します。ツインカッタで刈株の高さを約 100mm まで刈取ります。

品　番	品　　名
5T090-86060	WRH1000 2.6 ツインカッタ

■リール回転数高速キット
リールの回転数が速くなります。刈残しが多いときや作物を押倒すときなどに使用します。

品　番	品　　名
5T090-9170-0	スプロケット，キット (リールコウソク)

■クリーンファン
刈取部及びフィーダ部で発生するゴミやほこりを吸入するファンです。

品　番	品　　名
5T090-9130-2	ファン，キット（クリーンファン）

◆ こく粒処理部

■無線アンローダリモコン
アンローダの昇降，旋回やもみの排出の操作が無線で行なえます。

品　番	品　　名
5T090-9150-2	リモコン，アッシ (ムセンアンローダ)

■延長アンローダ

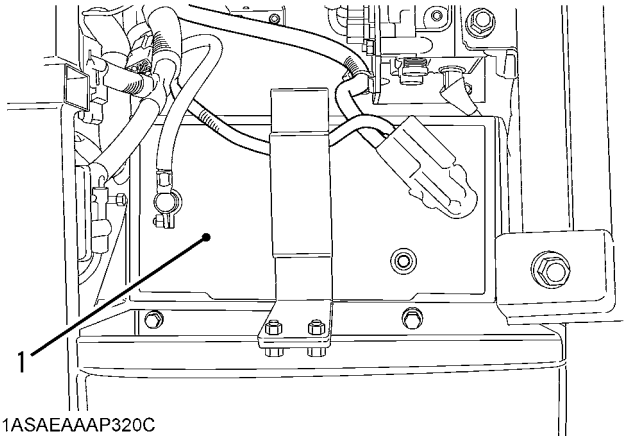
品　番	品　　名
5T090-9190-0	オーガ，キット（エンチョウ）

■排じんカバー
非切断作業に使用します。

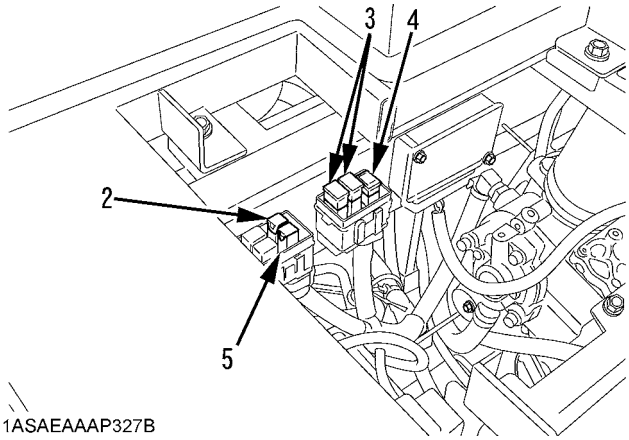
品　番	品　　名
5T090-83010	WRH1000 排じんカバーキット

消耗部品（純正品を使いましょう）

◆ バッテリ・スローブローヒューズ



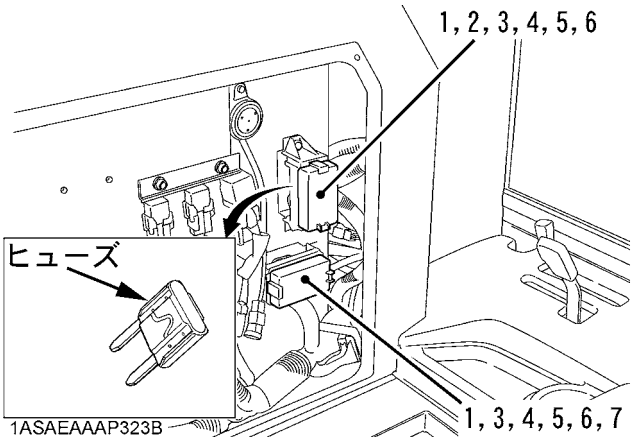
1ASAEAAAP320C

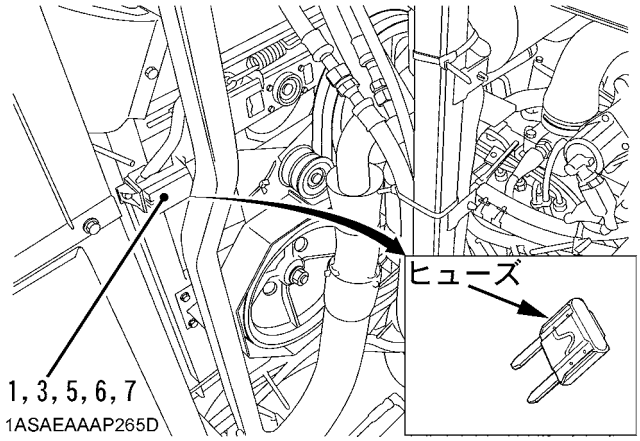


1ASAEAAAP327B

図番	品名	品番	対象型式
1	バッテリ	07908-25090	全型式
2	スローブローヒューズ (30A)	3C581-7716-0	
3	スローブローヒューズ (60A)	T1156-3050-0	
4	スローブローヒューズ (100A)	5H801-4186-0	
5	スローブローヒューズ (20A)	5H801-4185-0	

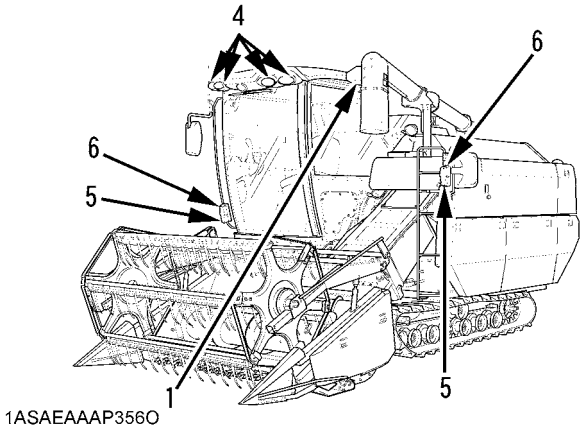
◆ ヒューズ

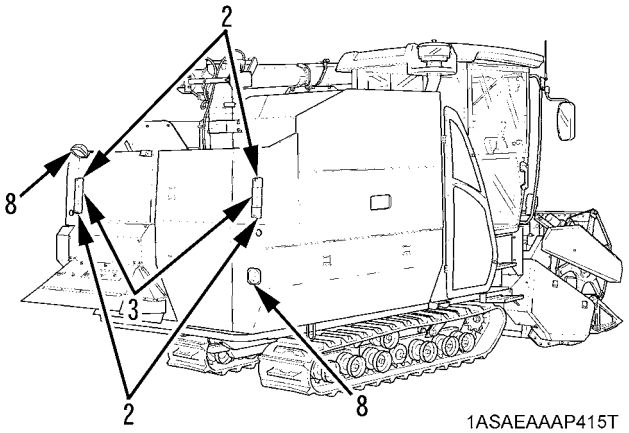


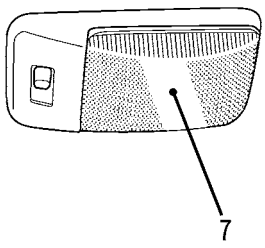


図番	品名	品番	対象型式
1	ヒューズ 5A	T1065-3043-0	全型式
2	ヒューズ 7.5A	T1065-3048-0	
3	10A オートヒューズ	5H050-4162-0	
4	15A オートヒューズ	5H050-4163-0	
5	20A オートヒューズ	5H050-4164-0	
6	25A オートヒューズ	5H050-4165-0	
7	30A オートヒューズ	5H050-4166-0	

◆ ランプ（電球）

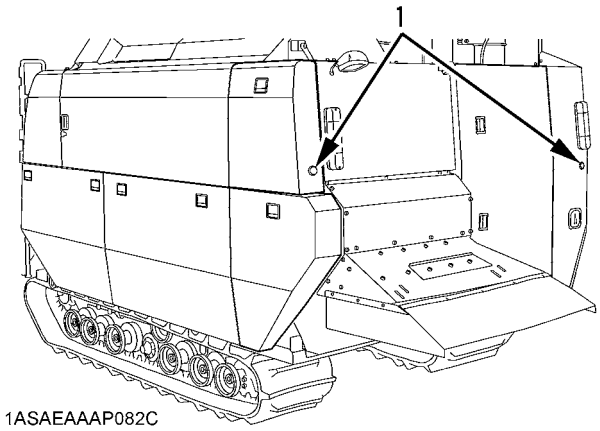






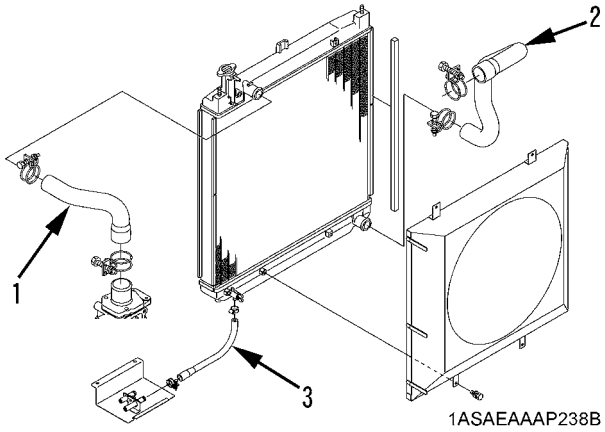
図番	品名	品番	対象型式
1	バルブ (ヘッドライト 55W)	K3611-5515-0	全型式
2	バルブ (12V21W)	T2255-9912-0	
3	バルブ (12V21/5W)	5K110-6562-0	
4	バルブ (12V35W, ハロゲン)	5H802-3893-0	
5	バルブ (12V5W)	T1370-9914-0	
6	バルブ (12V21W)	T1370-9911-0	
7	バルブ (12V5W)	3C581-5422-0	
8	バルブ (12V55W)	3G710-7590-0	

◆ 反射器



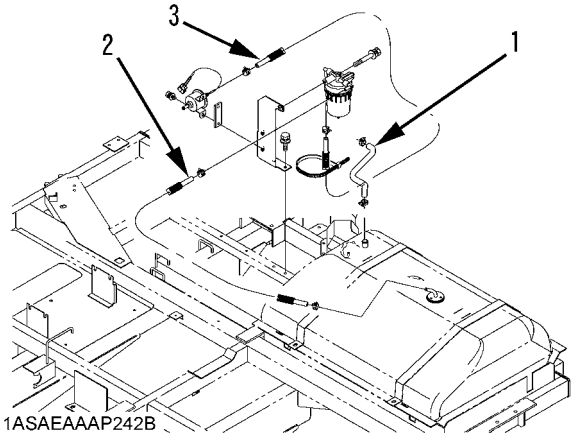
図番	品名	品番	対象型式
1	リフレクタ	5H570-4195-0	全型式

◆ ラジエータホース

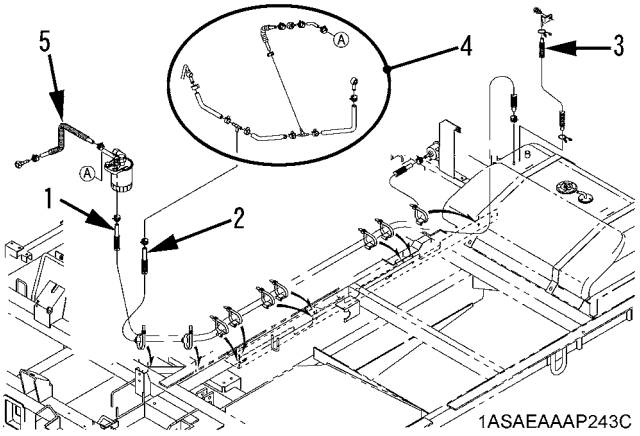


図番	品名	品番	対象型式
1	ホース（1，ウォータ）	5T090-2555-0	全型式
2	ホース（2，ウォータ）	5T090-2556-0	
3	ホース（ハイスイ）	5T090-2554-0	

◆ 燃料ホース

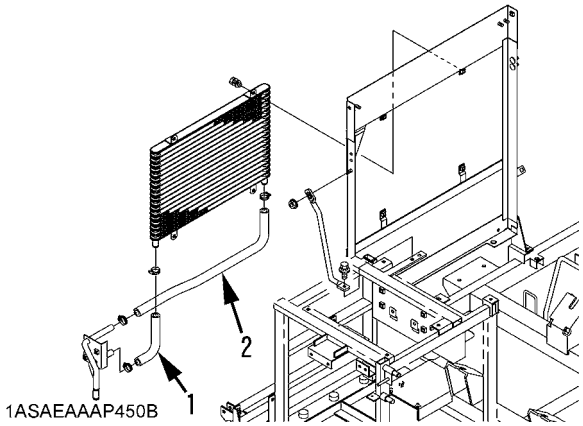


図番	品名	品番	対象型式
1	ホース （2，フューエルタンク）	5T090-2678-0	全型式
2	フューエルチューブ，1	5T090-2581-0	
3	フューエルチューブ，4	5T090-2584-0	



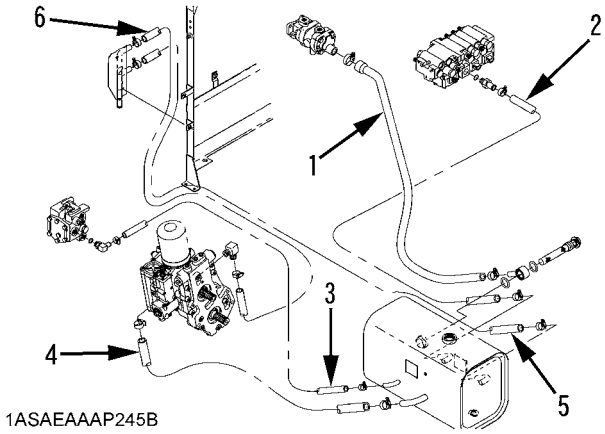
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チューブ，アッシ （2，フューエル）	5T090-2572-2	全型式
2	フューエルチューブ，3	5T090-2583-0	
3	チューブ，アッシ （1，フューエル）	5H821-2697-2	
4	チューブ，アッシ （7，フューエル）	5H911-2698-0	
5	チューブ，アッシ （8，フューエル）	5H801-2699-0	

◆ オイルクーラホース



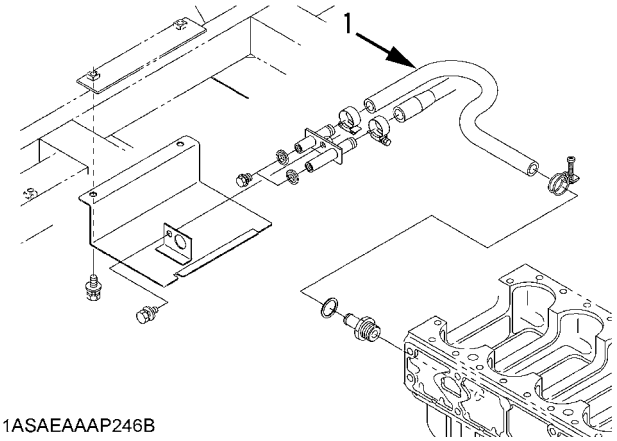
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (オイルクーラ，1)	5H801-2766-2	全型式
2	ホース (オイルクーラ，2)	5H801-2771-2	

◆ 油圧ホース



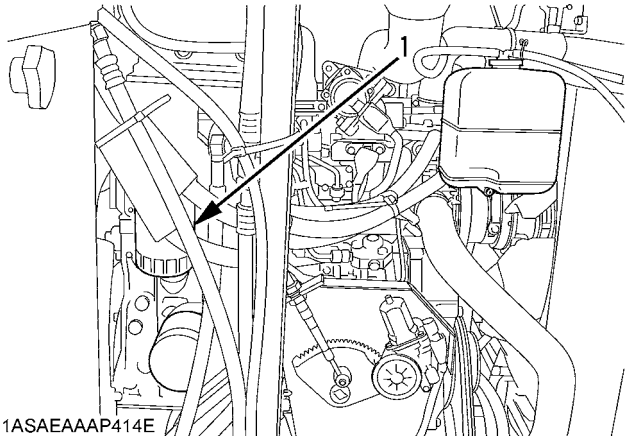
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ホース (ギヤポンプ，スイコミ)	5T090-2771-0	全型式
2	ホース (1，ドレン)	5T070-2775-0	
3	ホース (2，ドレン)	5T090-2778-0	
4	ホース (HST，スイコミ)	5T070-2781-0	
5	ホース (1，HST ドレン)	5T090-2785-0	
6	ホース (2，HST ドレン)	5T130-2788-0	

◆ オイルドレーンホース



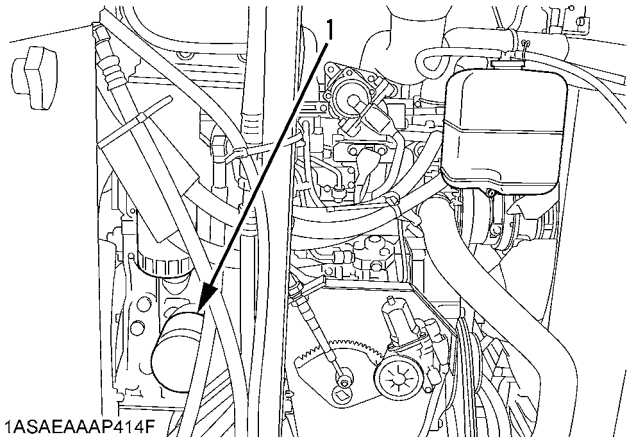
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ホース (オイルドレーン)	5T072-2123-0	全型式

◆ 燃料フィルタカートリッジ



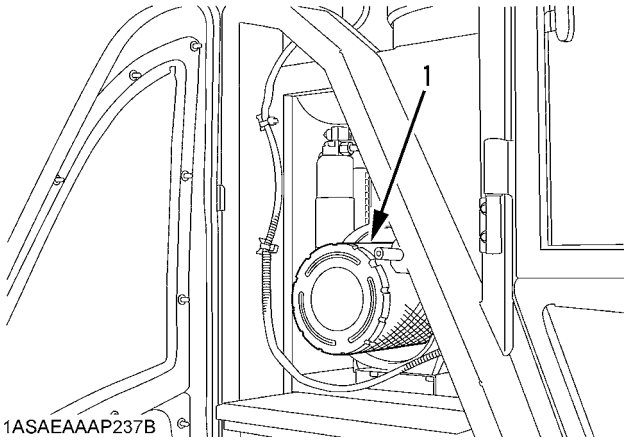
図番	品名	品番	対象型式
1	フューエルフィルタ エレメント	16631-4356-0	全型式

◆ エンジンオイルフィルタカートリッジ



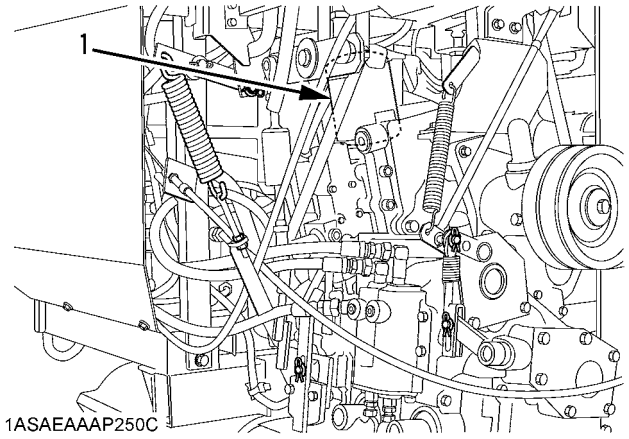
図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ (オイル，カートリッジ)	1C020-3243-0	全型式

◆ エアクリーナ



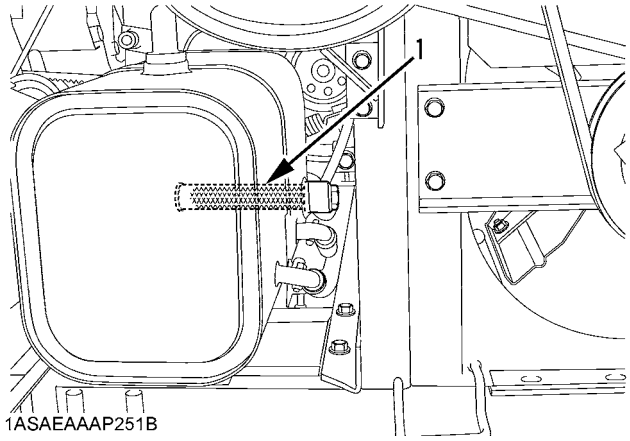
図番	品名	品番	対象型式
1	エアクリーナエレメントアッシ	59700-2611-0	全型式

◆ HST オイルフィルタカートリッジ



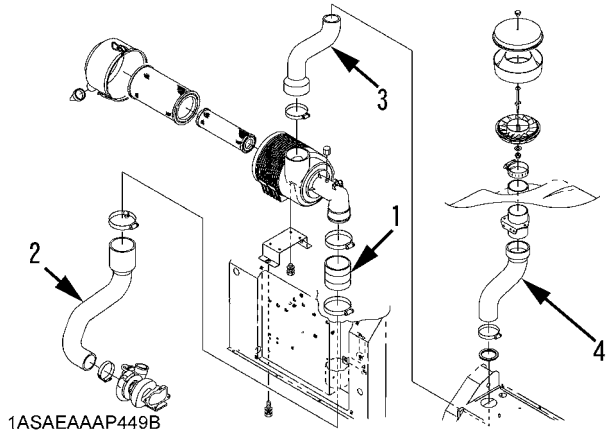
図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ (HST)	TA240-5990-0	全型式

◆ 油圧オイルタンクフィルタ



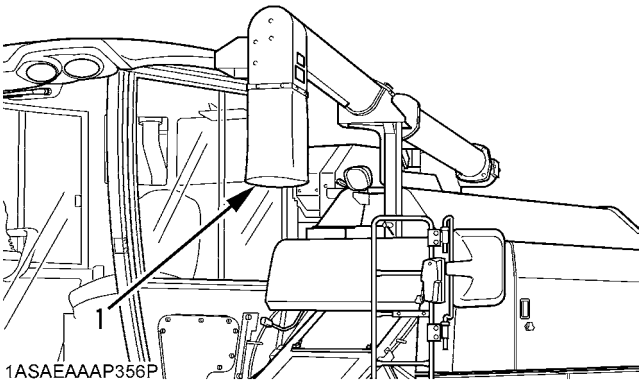
図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ	52600-2738-0	全型式

◆ インレットパイプ



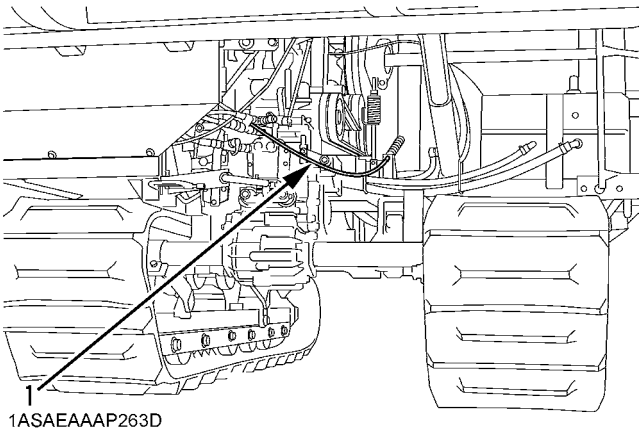
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (1，インレット)	5T130-2668-0	全型式
2	ホース(2，インレット)	5T090-2631-0	
3	ホース(3，インレット)	5T130-2623-0	
4	ホース(4，インレット)	5T130-2624-0	

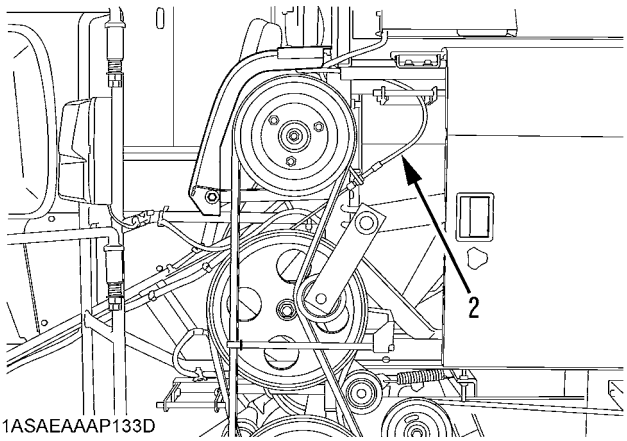
◆ 吐出口ブーツ



図番	品名	品番	対象型式
1	ブーツ（アンローダ）	5T090-7946-0	全型式

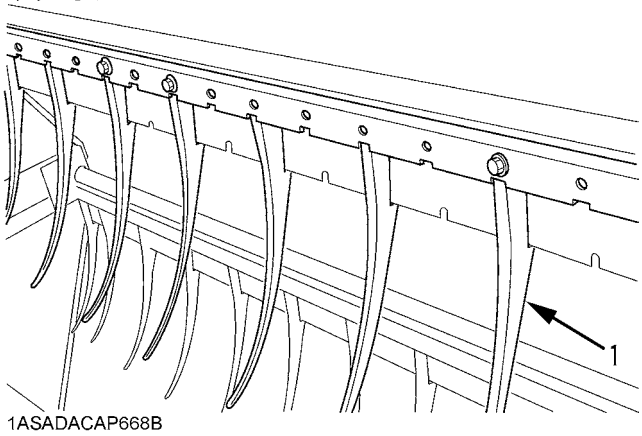
◆ 各ワイヤ





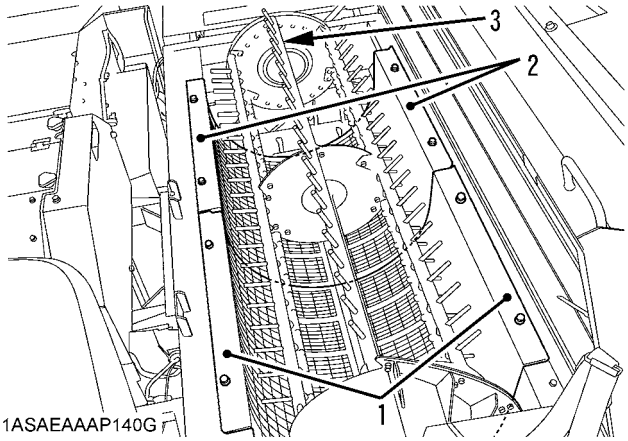
図番	品名	品番	対象型式
1	ケーブル (ダッコククラッチ)	5T090-3156-0	全型式
2	ケーブル (カリトリクラッチ)	5T090-3254-0	

◆タイン



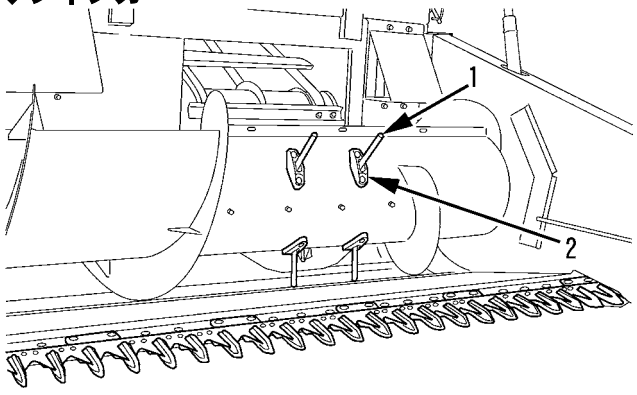
図番	品　名	品　番	対象型式
1	タイン	51601-5681-0	全型式

◆ 受あみ（コンケーブ）
◆ こぎ歯



図番	品　名	品　番	対象型式
1	コンケーブ（43 × 10）	5T091-6451-0	全型式
2	コンケーブ（43 × 12）	5T057-8666-0	
3	バー（コキハ）	5T091-6322-0	

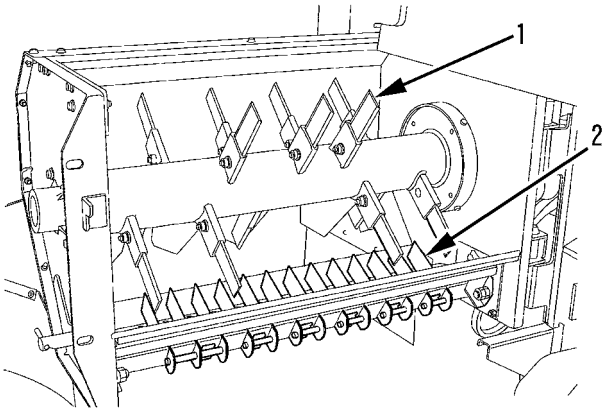
◆フィンガ



1ASAEAAAP205C

図番	品　名	品　番	対象型式
1	シャフト（フィンガ）	5T040-4945-0	全型式
2	ガイド（フィンガ）	5T051-5245-0	

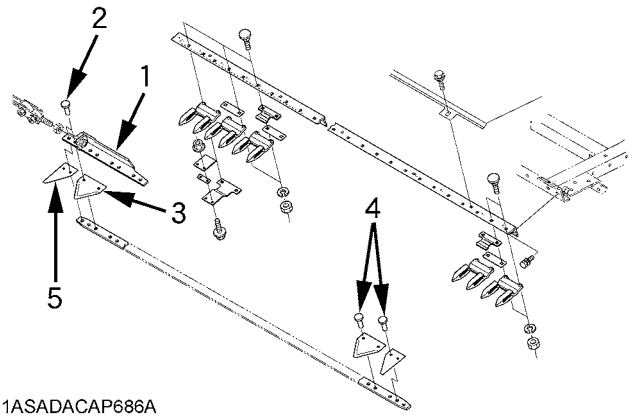
◆ チョッパ切断刃・受刃



1ASAEAAAP085B

図番	品　名	品　番	対象型式
1	セツダンバ	5T090-8432-0	全型式
2	ウケバ	5T090-8434-0	

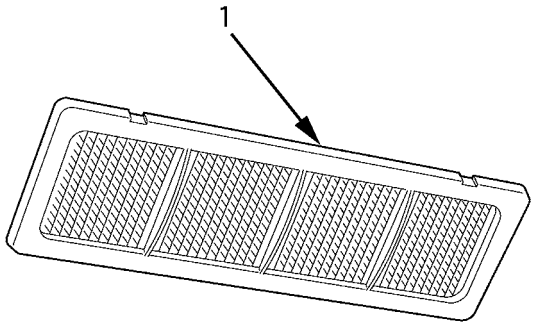
◆刈刃



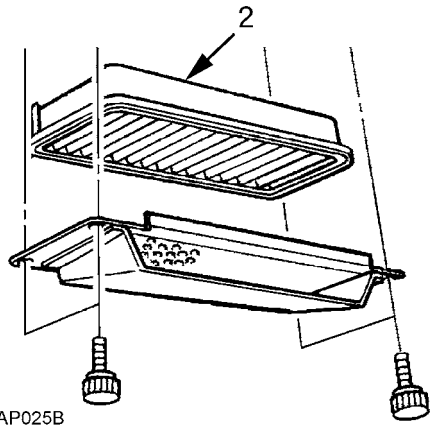
1ASADACAP686A

図番	品　名	品　番	対象型式
1	ナイフヘッド	5T030-5136-0	全型式
2	リベット，1	51601-5134-0	
3	カリバ（1）	5T030-5133-0	
4	リベット，2	51601-5135-0	
5	プレート（2）	5T030-5137-0	2.1 仕様
	プレート	5T030-5135-0	2.6 仕様

◆ エアコンフィルタ



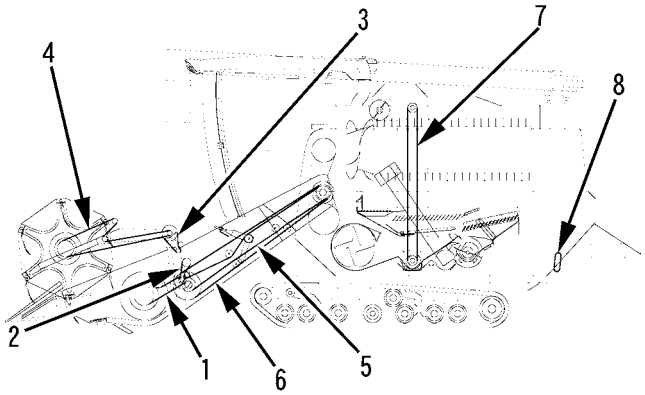
1ASAEAAAP446A



1ARAEASAP025B

図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ（ナイキ）	T1855-7206-0	全型式
2	フィルタ（ペーパー）	T1855-7160-0	

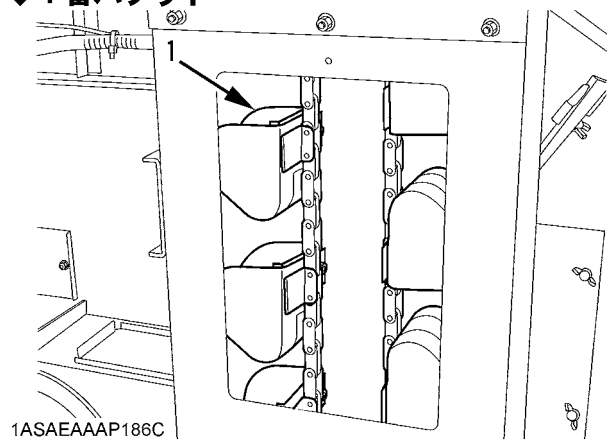
◆各チェーン



1ASAEAAAP381B

図番	品　名	品　番	対象型式
1	チェーン（オーガクドウ）	5T030-5232-0	全型式
2	チェーン （リールニュウリョク）	5T030-5231-0	
3	チェーン （リールカウンタ）	5T030-5338-0	
4	チェーン（リールクドウ）	5T030-5461-0	
5	チェーン，アッシ （50 × 210）	5T091-4640-0	
6	チェーン，アッシ （フィーダ，94L）	5T090-4650-0	
7	チェーン，アッシ （コンベア）	5T090-6750-0	
8	チェーン，アッシ （クドウ，T）	5T030-5734-2	

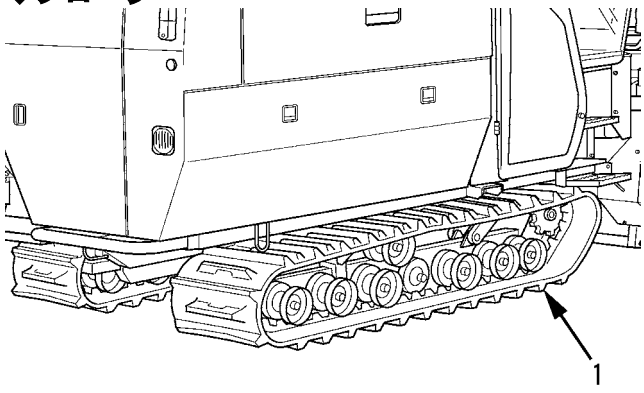
◆１番バケット



1ASAEAAAP186C

図番	品　名	品　番	対象型式
1	バケット	5T091-6783-0	全型式

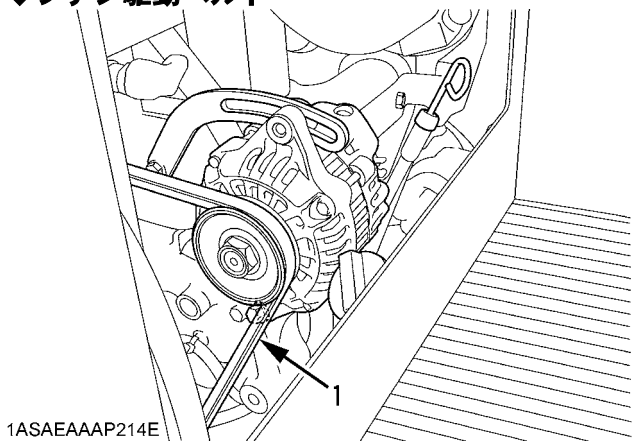
◆クローラ



1ASAEAAAP415S

図番	品　名	品　番	対象型式
1	クローラ（500，61）	5T020-2312-0	全型式

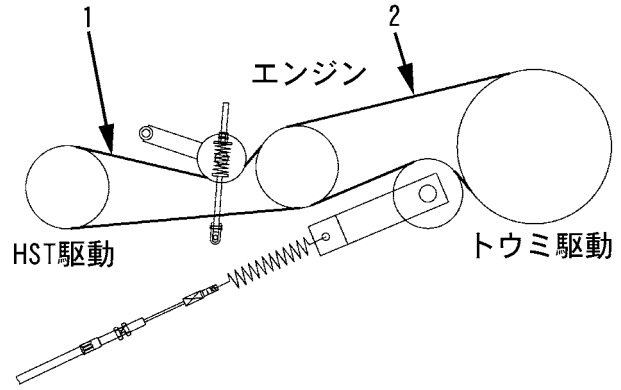
◆ファン駆動ベルト



1ASAEAAAP214E

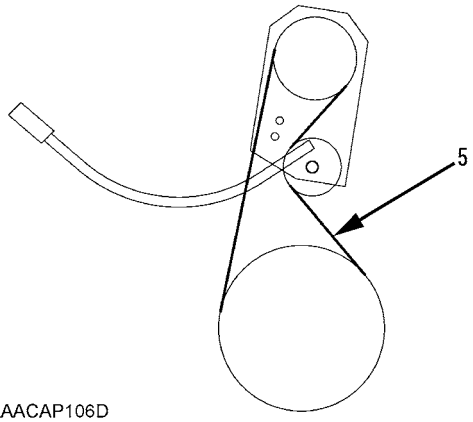
図番	品　名	品　番	対象型式
1	V ベルト	1G517-9701-0	全型式

1. ミッション駆動ベルト・2. 脱こく駆動ベルト



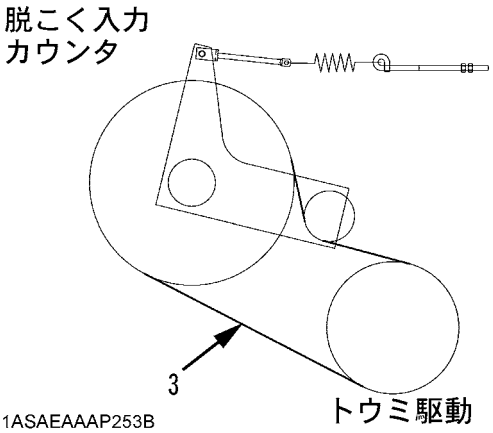
1ASAEAAAP252B

5. フィーダ逆転駆動ベルト



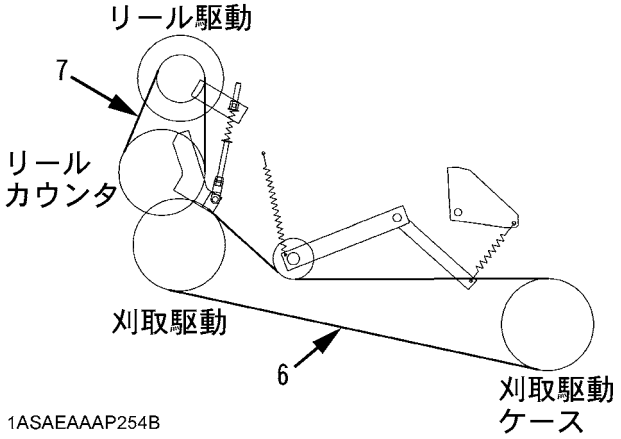
1ASAAACAP106D

3. 脱こく入力駆動ベルト



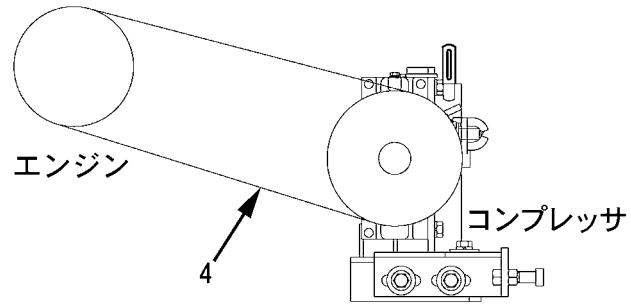
1ASAEAAAP253B

6. 刈刃駆動ベルト・7. リール変速ベルト



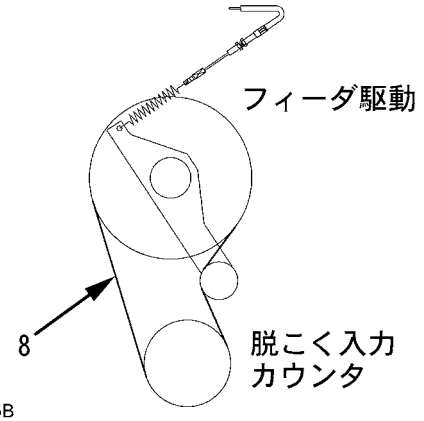
1ASAEAAAP254B

4. コンプレッサ駆動ベルト



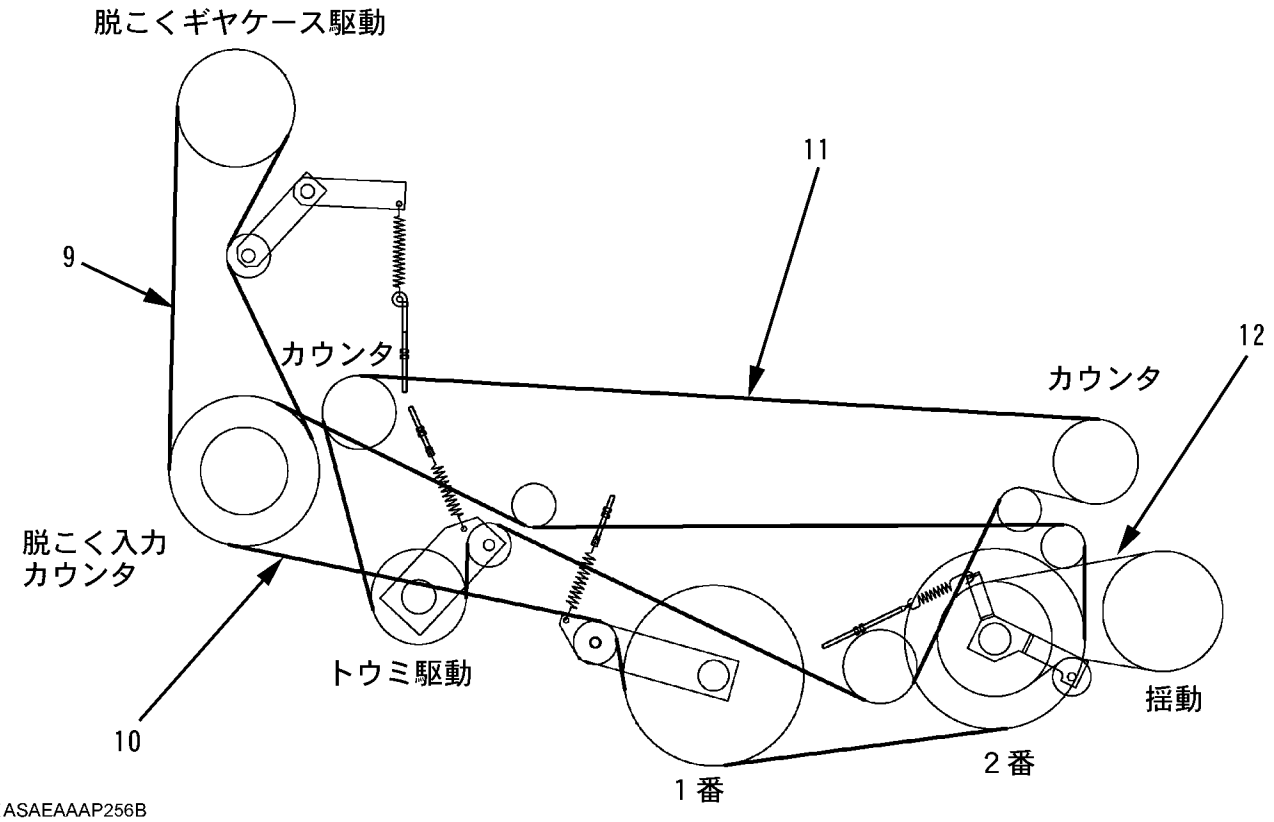
1ARAEASAP351F

8. 刈取駆動ベルト



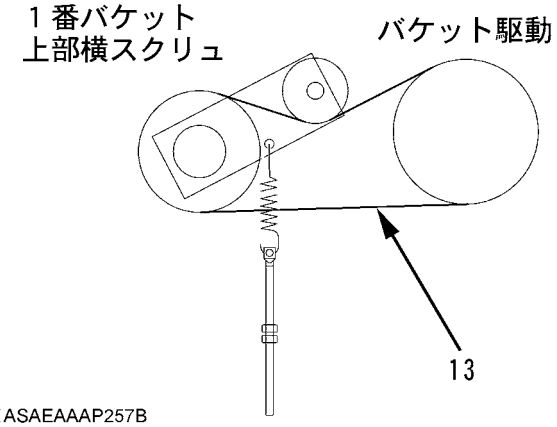
1ASAEAAAP255B

9. こぎ胴駆動ベルト・10. 1番・2番・カウンタ駆動ベルト・11. トウミ駆動ベルト 12. 揺動駆動ベルト



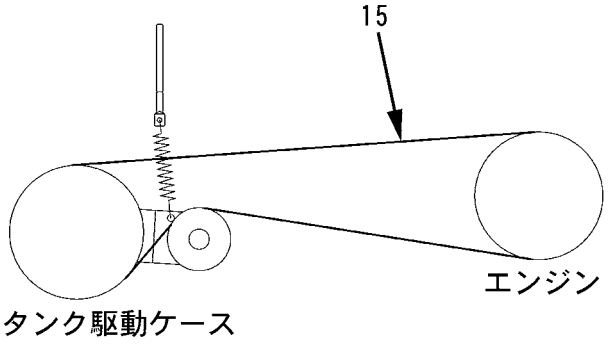
1ASAEAAAP256B

13. 1番バケット上部スクリュ駆動ベルト



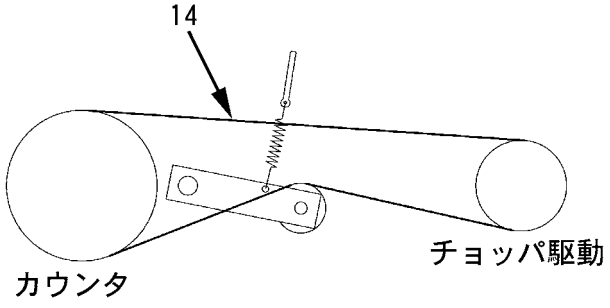
1ASAEAAAP257B

15. タンクスクリュ駆動ベルト



1ASAEAAAP259B

14. チョッパ駆動ベルト



1ASAEAAAP442B

付表

図番	品　　名	品　　名	品　　番	対 象 型 式
◆エンジン・刈取部周辺				
1	ミッション駆動ベルト	Ｖベルト（コグ C60）	5H602-1146-0	全型式
2	脱こく駆動ベルト	Ｖベルト（コグ C60）	5H602-1146-0	
3	脱こく入力駆動ベルト	Ｖベルト（C65，カウンタ）	5T091-6658-0	
4	コンプレッサ駆動ベルト	Ｖベルト（FM35）	5H777-2161-0	
5	フィーダ逆転駆動ベルト	Ｖベルト（C45，ギャクテン）	5T090-5646-0	
6	刈刃駆動ベルト	Ｖベルト（カリバクドウ）	5T030-5233-0	
7	リール変速ベルト	ベルト（ヘンソク）	5T030-5339-0	
◆脱こく・チョッパ部				
8	刈取駆動ベルト	Ｖベルト（C55，カリトリ）	5T091-6466-0	全型式
9	こぎ胴駆動ベルト	Ｖベルト（C83，コキドウ）	5T091-6585-2	
10	１番・２番・カウンタ駆動ベルト	Ｖベルト（C150）	5T091-6635-0	
11	トウミ駆動ベルト	Ｖベルト（C150）	5T091-6635-0	
12	揺動駆動ベルト	Ｖベルト（B51，ヨウドウ）	5T091-6457-0	
13	１番バケット上部スクリュ駆動ベルト	Ｖベルト（B40，バケット）	5T091-6772-0	
14	チョッパ駆動ベルト	Ｖベルト（C71，チョッパ）	5T090-8442-0	
◆グレンタンク部				
15	タンクスクリュ駆動ベルト	Ｖベルト（トク，B71，G）	5T090-8117-0	全型式

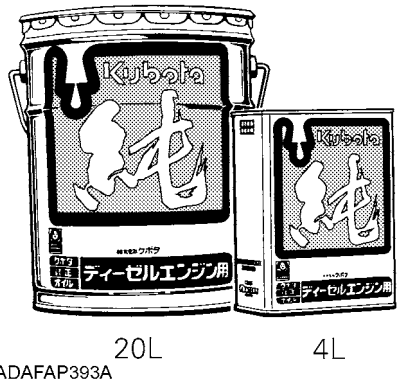
クボタ純オイル

■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

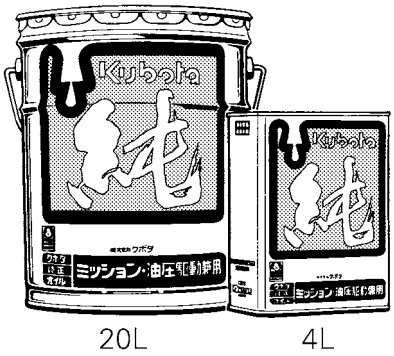
お買求めは，購入先へご用命ください。

● **D10W-30 DH-2**
（DPF 搭載ディーゼルエンジン用）



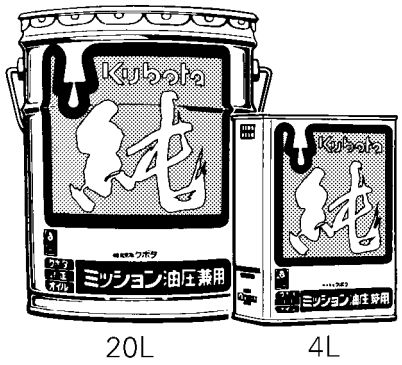
1ARADAFAP393A

● **スーパー UDT-2**
（油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）



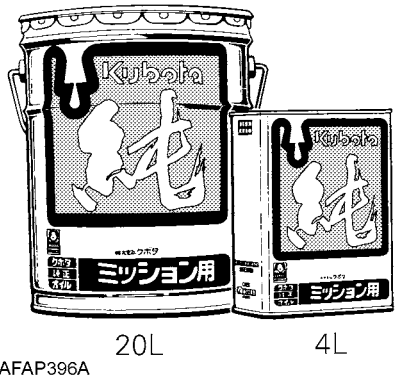
1ARADAFAP394A

● **M80B（ミッション油圧兼用）**



1ARADAFAP395A

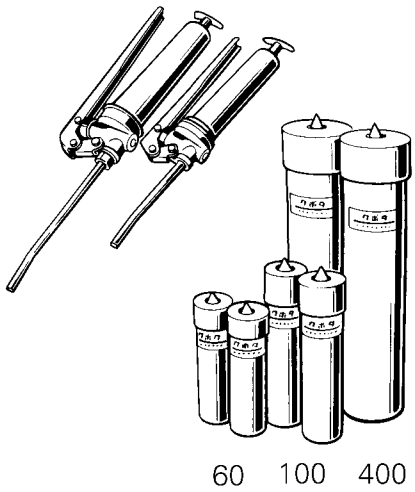
● **M90（一般ミッション・各ギヤ用）**



1ARADAFAP396A

■クボタ純グリース

● **No.2**



1ARADAFAP397A

索引

英数字

1 番・2 番・カウンタ駆動ベルトの点検・調整 212
1 番バケットコンベア搬送チェーンの点検・調整 222
1 番バケット上部スクリュ駆動ベルトの点検・調整 214
2.1m リール用ツインカッタ 259
2.6m リール用ツインカッタ 260
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤが故障かな？と思われたら 63
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのエラー表示について 63
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのお問合わせ . 64
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い上の注意 64
CCD カメラの取扱いについて 49
CD の取出し 61
CD の挿入と再生 61
DC 電源ソケット 24
DPF 再生処理方法について 37
DPF スイッチパネル 36
HST オイルフィルタカートリッジの交換，油圧オイルタンクフィルタの洗浄・交換 199
HST 入力フランジオイルの補給・交換 182

あ

アームレスト（ひじ置き） 259
アクセルダイヤル 8
小豆用キット 259
アンローダからこく粒が排出されないとき .. 254
アンローダ自動旋回制御装置 33
アンローダ操作スイッチ .....
アンローダ縦スクリュ駆動チェーンの点検・調整 223

い

移動走行について 80
移動走行前の準備 74

う

ウォッシャ液の補給 190
受けあみの組換え・交換 227
受けあみの脱着 144
後チャフ調節レバー 16
後チャフ調節レバーの調節 119
運転席（シート） 11
運転席下カバー及びステップゴムカバーの脱着 132

え

エアクリーナの点検・掃除・交換 191
エアコン操作のしかた 46
液晶パネルについて 48
演奏の一時停止 61
エンジンオイルの点検・補給・交換 177
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 198
延長アンローダ 260

お

オーガドラム駆動チェーンの点検・調整 218
オーガドラム・かき込みフィンガ軸・かき込みフィンガガイドの点検・調整・交換 225
オイルはクボタ純オイルをお使いください。 271
オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整 168
音質調整 56
音量調整 55

か

各ウインドの開閉のしかた 41
各部チェーンの点検･調整 217
各部のグリースの塗布･補給 183
各部の掃除 155
各部の注油 166
各部ベルトの点検・調整 202
各部ワイヤ･ロッドの点検･調整 200
刈高さの合わせかた 101
刈取オートクラッチ 31
刈取逆転クラッチレバー 14
刈取逆転クラッチレバーの使いかた 253
刈取駆動チェーンの点検･調整 220
刈取駆動ベルトの点検・調整 211
刈取クラッチワイヤの点検･調整 201
刈取下降ロック金具 12
刈取作業の手順 94
刈取部の脱着 136
刈取右サイド後部カバーの脱着 133
刈取・リール下降ロックスイッチ 12
刈刃駆動ケースオイルの補給･交換 180
刈刃駆動ベルトの点検･調整 210
刈刃クラッチレバー 14
刈刃の点検 224

き

キャビン内気，外気フィルタの掃除・交換 .. 232
給・注油（水）点検一覧表 174
曲を繰り返し聴く（リピート演奏）..... 62
曲を探す（スキャン演奏）..... 62
金時キット 259

く

クイック選局（ISR 機能）..... 59
クボタ純グリース 271
クリーンファン 260
グレンタンク後カバーの開閉 141
グレンタンク下カバーの脱着 145
グレンタンクの開閉 145
クローラの点検・調整 243

け

けん引フックについて 256

こ

こぎ室送じん弁調節レバー 17
こぎ室送じん弁調節レバーの調節 116
こぎ胴駆動ベルトの点検・調整 212
こぎ胴サイドカバーの開閉 141
こぎ胴上部カバーの開閉 142
こぎ歯の点検，こぎ歯バーの点検・組換え・交換 228
こく粒の排出のしかた 105
コントロールパネル 44
コンバインの準備のしかた 87
コンバインの積込み・積降しのしかた 81
コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ 22
コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整 208

さ

作業灯スイッチ 43
作業や作物に合わせた各部の調節・調整・交換のしかた 111
作物の条件 84
左右スピーカの音量バランス調整 58

し

シーブケースの脱着 149
シーブケース補助プレートの前後調整，グレンシーブ後の交換 120
始動のしかた 69
時刻合わせ 57
自動アクセル制御装置 25
自動車体水平制御装置（モンロー）..... 26
自動選局 60
自動脱こく制御（チャフ制御）装置 31
自動脱こく制御（チャフ制御）の調節 119
自動リール回転制御装置 28
自動リール回転制御の調整・調節 113
手動選局 60
重低音の増強 56
受信バンドの選択 59
主変速レバー，副変速レバー 8
使用者が行なってはいけない修理 169

す

水平操作手動スイッチ 27
スクリーンセーバーの設定 58

せ

洗車時の注意 169
旋回のしかた 79
旋回切換えレバー 10

そ

ソリセンサ固定金具の脱着 135

た

大豆の割れやキズの発生や詰まりが多い 254
大豆・そば用キット 259
対地平行自動刈高さ制御装置（ロイヤルモンロー）・自動刈高さ制御装置 29
脱こくギヤケースオイルの点検・補給・交換 182
脱こくクラッチワイヤの点検・調整 201
脱こく駆動ベルトの点検・調整 207
脱こく入力駆動ベルトの点検・調整 208
脱こく左サイドカバー 1，2，3・排じんサイドカバー上，下の脱着 139
脱こく前カバーの脱着 140
脱こく・刈取クラッチレバー 13
暖機運転について 71
タンクスクリュ駆動ベルトの点検・調整 215

ち

駐車ブレーキロッドの点検・調整 201
長期格納時 246
チョッパ受刃・切断刃の点検・組換え・交換 230
チョッパ駆動ベルトの点検・調整 215
チョッパ部の開閉 147

つ

次の曲／前の曲の選択 62

て

定期点検一覧表 170
停止のしかた 72
停車・駐車のしかた 80
手刈り（枕刈り）作物の投げ込み脱こくのしかた 109
デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた 99
デバイダの上・下調整 111
電気の各配線コード，各ヒューズの点検・交換 239
電源の入／切 55

と

ドアの開閉，ロックのしかた 40
トウミ駆動ベルトの点検・調整 213
トウミ調節レバー 15
トウミ調節レバー・トウミ調整プレートの調節・調整 117
時計表示への切換え 57
吐出口ブーツの点検・交換 234
トップ機能 62
ドライブローラの点検・左右入換え・交換 .. 245
トラックとあゆみ板の準備 81
トラックへ積込み時のコンバインの準備 81
トラックローラ（転輪）の点検 244
トラック上での処置 83
トランスミッションケースオイルの点検・補給・交換 179
ドリンクホルダ 11

な

内外気切換えスイッチ 45
ならし運転について 68

に

日常点検項目 66

ね

燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換 176
燃料切れ後の再始動のしかた 71
燃料の補給 176
燃料フィルタカートリッジの交換 197

は

廃棄物の処理について 169
排出調整板の調整 122
排じんカバー 260
排じん調整板の調整 124
パイプ・ホース類の点検・交換 193
発進のしかた 76
バックモニタが故障かな？と思ったら 53
バックモニタについて 47
バックモニタのお問合わせ 54
バックモニタの各部の名称とはたらき 50
バックモニタの機能説明 51
バックモニタの取扱い上の注意 54
バッテリが上がったときの始動のしかた 72
バッテリの点検・交換 235
早送り／早戻し 62
パワーステアリングレバー 9
反射器の点検・交換 242

ふ

ファインビューメータ 18
ファン駆動ベルトの点検・調整 206
フィーダ逆転駆動ベルトの点検 209
フィーダ上部掃除口カバー 1，2 の脱着 135
フィーダドラムの上下調節 114
フィーダ搬送チェーンの点検・調整 220
フィーダ右サイドカバーの脱着 134
プリセット選局 60
ブレーキペダル（駐車ブレーキ） 9
プレクリーナの点検・掃除 191

ほ

防じんあみ，各フィンの掃除 195
防じんカバーの開閉と脱着 131
ポジピタスイッチ 13
ほ場の刈りかたと旋回のしかた 98
ほ場の準備 87
ほ場の条件 86
ほ場の出入りのしかた 93

ま

毎日の作業後 246
マルチナビによる異常と処置 125
マルチナビによる故障と処置 128

み

ミッション駆動ベルトの点検・調整 206

む

無線アンローダリモコン 260
無線ユニット 22

め

メインスイッチ 8
メモリ登録（手動選局） 60
メモリ登録（自動選局） 60
メモリ登録の確認 60

も

もみ排出スイッチ 17

ゆ

油圧オイルタンクオイルの点検・補給・交換 181
油水分離器（セパレータ）の点検・排水・掃除 196

よ

揺動駆動ベルトの点検・調整 213

ら

ラジエータ冷却水の点検・補給・交換 188
ラジオの選択 59
ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏） 62
ランプ（電球）の点検・交換，
ホーンスイッチの点検 242

り

リール回転数高速キット 260
リールカウンタチェーンの点検・調整 219
リール駆動チェーンの点検 219
リールサイドカバー・刈取左，右サイドカバーの脱着 133
リール上下調整スイッチ・リール前後調整スイッチ・リール回転速度調整スイッチ 14
リール前後の合わせかた 103
リールタインの角度調整 112
リール高さの合わせかた 102
リール入力チェーンの点検・調整 219
リール変速ベルトの点検・調整 210
リリースボタン 55

る

ルームランプの使いかた 43

れ

冷媒（ガス）量の点検 234

わ

ワイパの使いかた 42

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，該当する項目に記入されると便利です

<table>
<tr><td colspan="2">購入先名

担当

電話番号（　　）　　－</td><td>型式名

区分

車台番号（製造番号）

エンジン型式

エンジン番号</td></tr>
<tr><td>ご購入日</td><td>キーナンバー</td><td rowspan="2">その他装着型式

機械番号</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

秋田事務所：電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事務所：電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182-1
東京事務所：電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5-2-36
新潟事務所：電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上1-14-15
金沢事務所：電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956-1
名古屋事務所：電(0586)24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町1-1
大阪事務所：電(06)6470-5850	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜1-1-1
岡山事務所：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市東区宍甘275
米子事務所：電(0859)39-3181	〒689-3547	鳥取県米子市流通町430-12
福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘1-7-3
熊本事務所：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本市南区富合町廻江846-1
株式会社北海道クボタ本社：電(011)661-2491	〒063-0061	北海道札幌市西区西町北16-1-1
株式会社四国クボタ本社：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタ

国内農機カスタマーセンター：電(072)241-1375　〒590-0823　大阪府堺市堺区石津北町64

WRH1000C
AT. F. 2-2. 0. K

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　5T130-8511-1